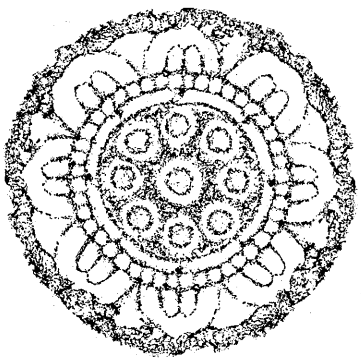
太宰府市の文化財　第52集

大宰府条坊跡　XVI

-「鉾ノ浦」周辺の調査-



条204次茶色土出土　撞座

２００１

太宰府市教育委員会

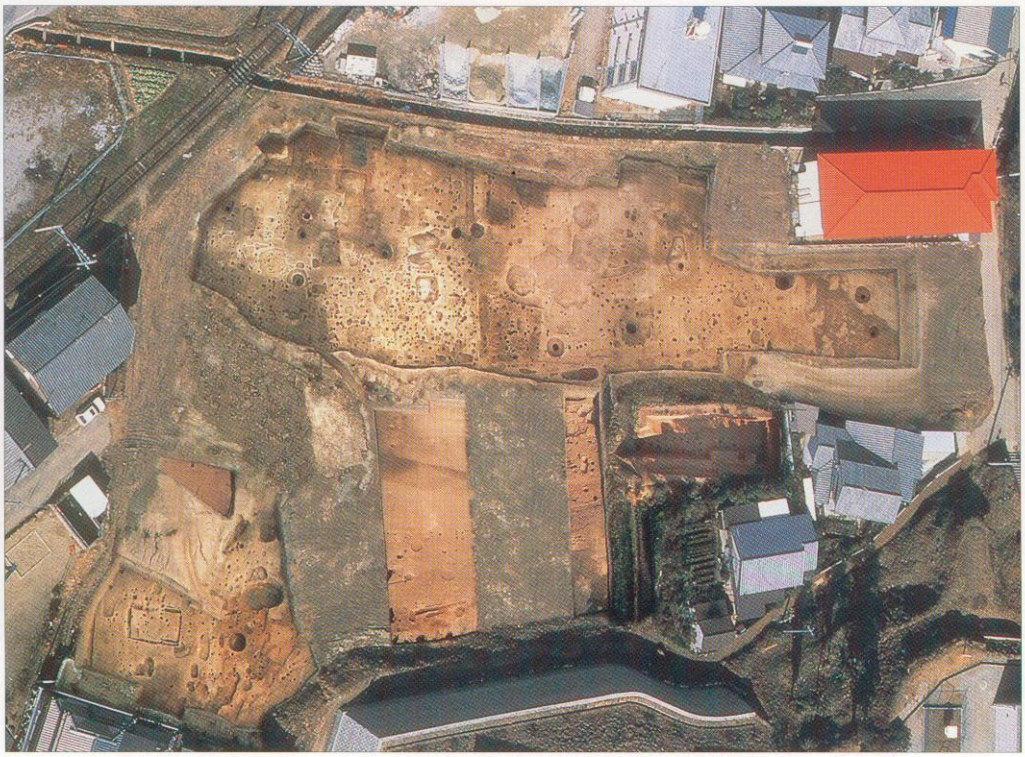
太宰府市の文化財　第52集

大宰府条坊跡　XVI

-「鉾ノ浦」周辺の調査-

２００１

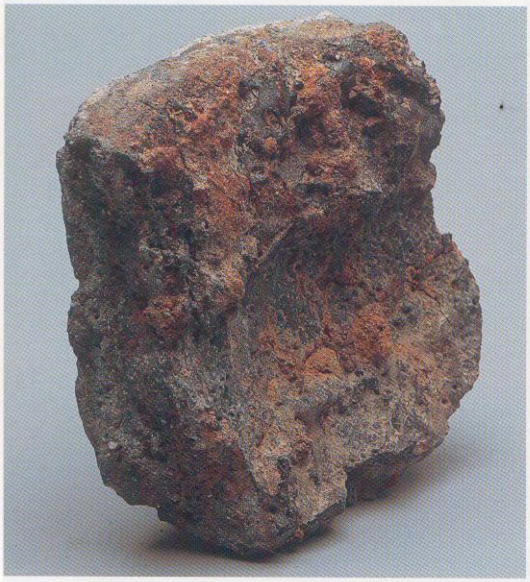
太宰府市教育委員会



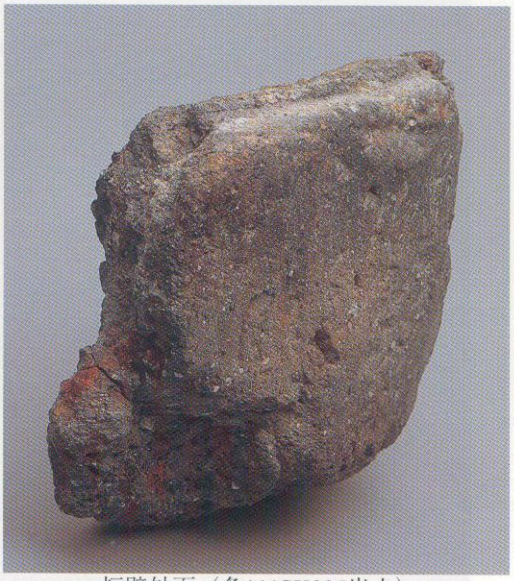
大宰府条坊跡第47・111・197・204・208・213次調査全景合成写真（上が北）



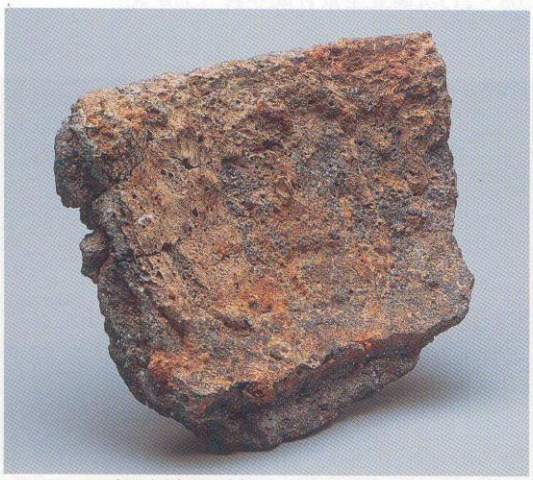
報告調査地遠景（南西から、白枠箇所が報告調査地）



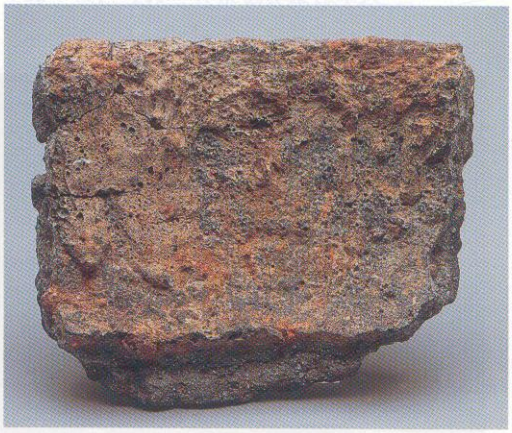
炉壁内面（条111SB001茶色土出土）



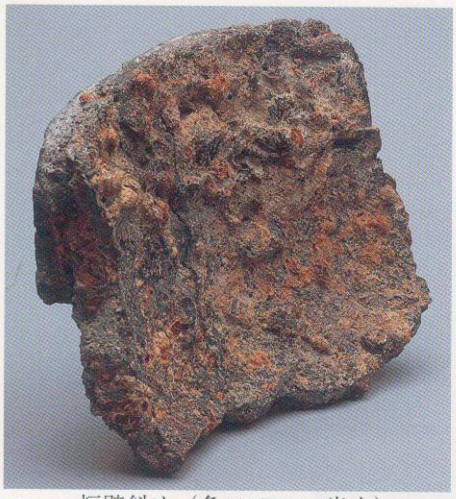
炉壁外面（条111SK005出土）



炉壁斜め（条111SK005出土）



炉壁内面（条111SK005出土）



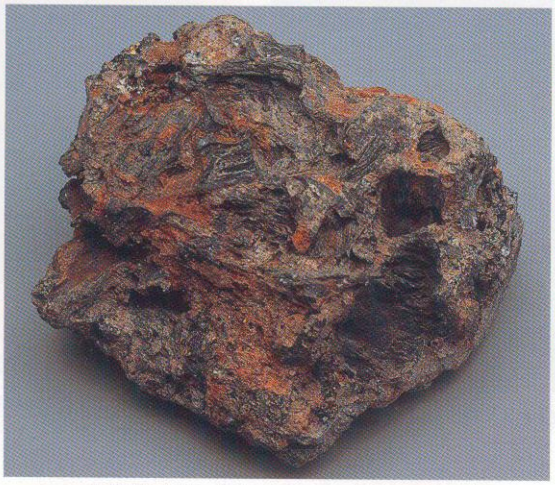
炉壁斜め（条111SK015出土）



炉壁詳細（条111SK015出土）



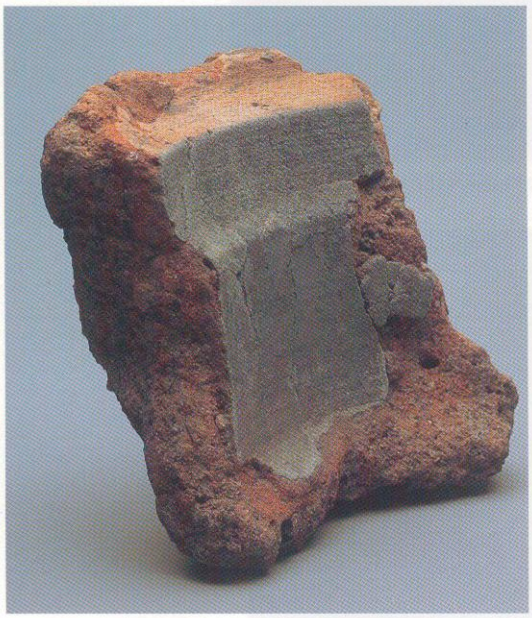
炉壁内面（条111SK015出土）



黒鉛化木炭（条111SE010黄色土出土）



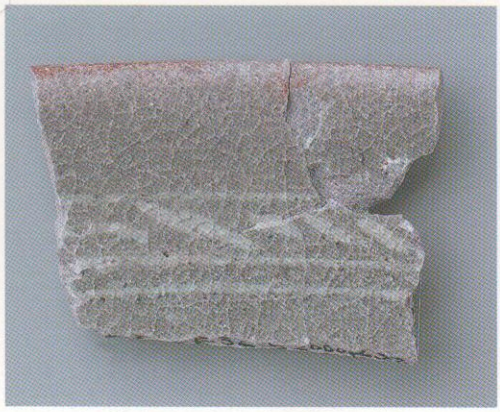
鐘座鋳型（条204茶色土出土）



鍋鋳型（条204SX085出土）



文様鋳型（条204茶灰土出土）



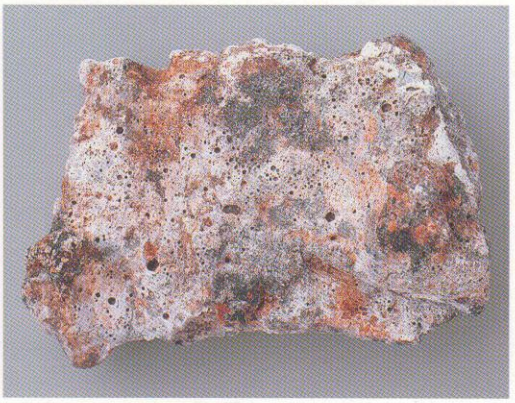
高麗青磁内面（条208SK005出土）



高麗青磁外面（条208SK005出土）



白滓（条208SD013出土）



白滓（条208茶褐色土出土）

序

本書は、平成3年度から平成12年度までに太宰府市が発掘調査を行った大宰府条坊跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。大宰府条坊跡の北東部に位置する字「鉾ノ浦」地区では、昭和59（1984）年に発掘調査を行った際、梵鐘を鋳造していた鎌倉～室町時代の大規模な鋳物生産工房が見つかり全国的に話題となりました。今回の報告は、その鋳物生産工房南に隣接する地域を継続的に調査してきた成果となります。本書が学術研究はもとより、文化財理解への一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、文化財に対して御理解いただきました地権者の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方に心からお礼申しあげます。

平成13年3月
太宰府市教育委員会
教育長　　關　敏治

例言

1.本書は、太宰府市教育委員会が行なった平成3年度から平成12年度までに実施した大宰府条坊跡第111・197・ 204・208・213次調査の発掘調査報告書である。

2.本書に掲載した発掘調査の原因、調査期間等の調査に関わる経緯については、各調査の報告部分に記載している。

3.本書に掲載した調査年度は、平成3年度から平成12年度にかけて実施してきたものであるため、調査組織ならびに調査参加者は第II章にまとめた。なお整理作業は各調査終了後随時行ってきたが、主として平成12年度に実施した。

4.遺構の実測は調査担当者のほか、深江暁子が行った。

5.遺物の実測は、調査担当者ならびに森田レイ子、酒井三保子、森部順子、平島義孝、深江暁子が行った。

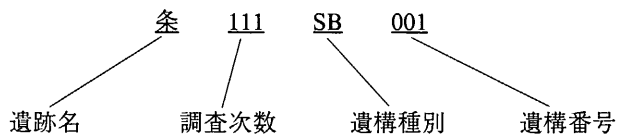
6.遺構の写真撮影は調査担当者が行ない、空中写真は(有)空中写真企画が行なった。調査地の全景の写真合成は（株）写測エンジニアリングが行った。遺物の写真撮影は、調査担当者ならびにフォトハウスおか（代表　岡紀久夫）が行った。

7.図の浄書は調査担当者ならびに酒井三保子、平島義孝、深江暁子が行った。

8.遺構実測図および遺構配置図は全て国土調査法第II座標系を基準としている。したがって図中に記載される方位は特に注記のないかぎり座標北（G.N）を指している。

9.出土した金属製品の保存処置は、下川可容子が担当し、安芸朋江が補助した。

10.本書に掲載される遺構番号は、以下の要領で理解される。



11.出土遺物および図面、写真等の記録は太宰府市教育委員会が保管している。

12.本書の執筆は、目次及び項目末尾に記し、編集は髙橋学が行った。

目次

I. はじめに

(1) 調査地の位置と環境 …… (高橋学) 1

(2) 報告にあたって …… (高橋学、中島恒次郎) 4

II. 調査組織 …… (高橋学) 10

III. 調査報告

(1) 条坊跡 第111次調査 …… (中島恒次郎) 15

1) 調査に至る経過 2) 層位 3) 遺構 4) 遺物 5) 小結

(2) 条坊跡 第197次調査 …… (高橋学) 55

1) 調査に至る経過 2) 層位 3) 遺構 4) 遺物 5) 小結

(3) 条坊跡 第204次調査 …… (宮崎亮一) 73

1) 調査に至る経過 2) 層位 3) 遺構 4) 遺物 5) 小結

(4) 条坊跡 第208次調査 …… (中島恒次郎) 118

1) 調査に至る経過 2) 層位 3) 遺構 4) 遺物 5) 小結

(5) 条坊跡 第213次調査 …… (宮崎亮一) 124

1) 調査に至る経過 2) 層位 3) 遺構 4) 遺物 5) 小結

IV. 出土金属製品の保存処理 …… (下川可容子) 126

V. 調査の成果と課題 …… (高橋学) 128

付表

写真図版

I.はじめに

(1) 調査地の位置と環境

太宰府市は、北から東にかけては三郡山系、南から西を背振山系に囲まれる狭い平野を中心に所在する。東に宝満山、北に四王寺山、南に天拝山があり、南から西北へ開けている。市を縦貫する御笠川は宝満山に源を発して南流し、市街地では西流しながら、途中、鷺田川、大佐野川と合流して博多湾へ注いでいる。地形は、前述の山系から派生した低丘陵、それにともなう谷地形、河川活動により形成された低位な段丘面、沖積面からなり、特に中心地域の標高40～50m程度の平坦面は古来より人間の活動が展開してきた地域である。



Fig.1　報告調査地の周辺調査（S=1/15000）

太宰府市域では、旧石器時代から近現代まで遺跡が数多く確認されているが、遺跡の数が特に増加するのは、この地に大宰府が置かれて以後のことである。大宰府とは、古代九州の九国三島を統括する内政機能に加えて、外交・軍事などの特殊な機能をもち、政庁を中心に周囲に官衙が展開する大規模な役所のことである。大宰府は7世紀末にこの地におかれたが、当時、朝鮮半島と緊張関係にあった社会情勢を反映してか、大宰府を囲むように水城、大野城、基肄城などの城が先行して築造されて防衛ラインを形成している。大宰府の設置にともない太宰府市内の各地で、整地事業が行われて、都市計画に従った計画区割りをもつ大宰府条坊と呼称する都市が造られたことが解っている。だが、奈良時代から平安時代にかけて隆盛を誇った大宰府も律令体制の崩壊、鎌倉幕府を中心とする武家社会の台頭に伴って次第に変容していく。大宰府の中心的機能を果たしていた大宰府政庁は遺物の出土量の傾向から、12世紀の前半、もしくは若干前に廃絶している可能性が高い。大宰府条坊域でも、区割りの溝などはこの時期に埋没してしまうことから、古代的な都市区割りを持つ、いわゆる「古代都市」はこの時点で終焉を迎えることとなる。これ以後の大宰府の都市は観世音寺地区、観世音寺前面地区、御所の内地区、南条坊地区、五条地区、鉾ノ浦地区、五条北地区などの小地域ごとに盛衰していく。その中で、今回の報告に密接に関係する五条地区と鉾ノ浦地区の遺跡を概観してみたい。

五条地区は、大宰府史跡第33次（史○次と略す）、史33次補、大宰府条坊跡第37次（以下、大宰府条坊跡は条と略す）、条138次、条156次、条157次、条158次、条163次などの多数の調査が行われている。これらの調査成果によると、掘立柱建物、井戸、土器の大量廃棄土坑、溝などが検出されており、特に史33次、史33次補、条138次、条157次で確認された堀は、幅5.8m、深さ1.2mを測る大規模なもので、南北70m以上、東西30m以上の矩形状に復元される。この堀に区画された空間がどのような性格だったのが非常に興味があるところである。五条地区の遺構群の時期は13世紀後半～14世紀前半に集中している。

番号	調査遺跡名	調査次数	掲載文献
1	大宰府条坊跡	105	未報告
2	大宰府条坊跡	159	未報告
3	大宰府条坊跡	78	未報告
4	大宰府条坊跡	11	太宰府市教育委員会 1983『大宰府条坊跡II』
5	大宰府条坊跡	137	未報告
6	大宰府条坊跡	167	未報告
7	大宰府条坊跡	156	未報告
8	大宰府条坊跡	158	未報告
9	大宰府条坊跡	163	未報告
10	大宰府条坊跡	37	未報告
11	大宰府条坊跡	138	太宰府市教育委員会　1994『大宰府条坊跡VI』
12	大宰府条坊跡	157	未報告
13	大宰府条坊跡	116	未報告
14	大宰府史跡跡	33補	九州歴史資料館 1979『大宰府史跡　-昭和53年度発掘調査外報-』
15	大宰府史跡跡	33	九州歴史資料館 1975『大宰府史跡　-昭和49年度発掘調査外報-』
16	大宰府条坊跡	41	未報告
17	大宰府条坊跡	132	未報告
18	大宰府条坊跡	131	未報告
19	五条遺跡	2	未報告
20	五条遺跡	1	太宰府市教育委員会 1994『高雄地区遺跡群』
21	大宰府条坊跡	47	未報告
22	大宰府条坊跡	111	本書掲載
23	大宰府条坊跡	197	本書掲載
24	大宰府条坊跡	204	本書掲載
25	大宰府条坊跡	208	本書掲載
26	大宰府条坊跡	213	本書掲載

Tab.1　周辺地区の調査箇所一覧表（番号はFig.1に対応）

前述の五条地区から東に200mの所に丘陵があり、その丘陵の北裾を中心とし展開する中世の遺跡群を、鉾ノ浦地区としている。現在までの調査から考えられる鉾ノ浦地区の中心は、条47次で見つかった大規模な梵鐘鋳造施設である。ここからは、梵鐘の他にも仏具を中心とした鋳型が多数でており、区画により分けられ

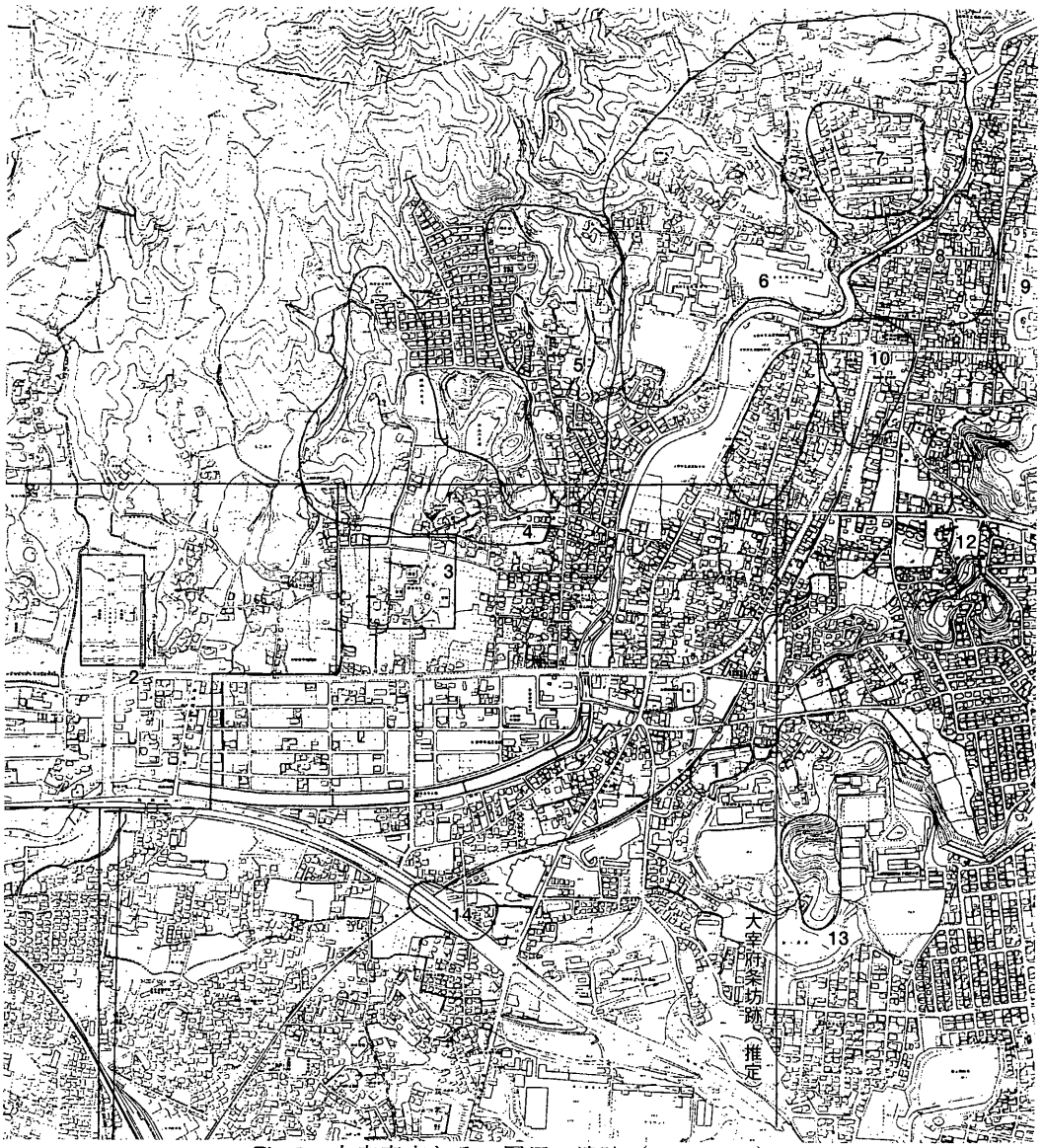


Fig.2　太宰府市とその周辺の遺跡（S=1/25000）

Fig.2の遺跡一覧

1.鉾ノ浦遺跡（今回報告）　2.大宰府政庁跡　3.観世音寺　4.観世音寺子院群
5.横岳遺跡（横岳崇福寺跡）　6.原遺跡（原山無量寺跡）　7.浦ノ城跡　8.連歌屋遺跡
9.太宰府天満宮境内地遺跡　10.大町遺跡　11.新町遺跡　12.馬場遺跡　13.五条遺跡
14.御笠川南条坊跡

た工房施設が確認されている。今回報告する遺跡は、その条47次調査と丘陵に挟まれた地域にあたる条111、197、204、208、213次の各調査地点である。

また、この丘陵の南西側斜面では条131、132次調査が行われており、特に北側の条132次からは焼土塊、スラグなどがまとまって検出されている。丘陵の東側では五条遺跡1、2次として調査が行われている。五条遺跡第1次調査では、時期不明の大型の掘立柱建物が1棟検出されている。五条遺跡第2次調査では、中世の堀切、13世紀代の木棺墓、14～15世紀の石組み墓が検出されている。ここでも時期は下がる可能性はあるものの、削平され斜面の下へ投棄した土とその土を覆う客土から仏具（錫杖の頭部・環）の鋳型が多く出土している。条47次から北へ150mの所で、条137次調査が行われている。ここでは鉾ノ浦遺跡より時期が若干古いものの13世紀代の遺構から大量の焼土塊、鉱滓が出土し、鍋の鋳型、炉壁なども見つかっている。

このように、周辺は生産関連遺物の出土する遺跡が多く、鉾ノ浦遺跡と同じく鋳造遺跡に密接に関係しており、鉾ノ浦地区の範囲、遺構の時期差をなど総合的に考察していく必要があると考えられる。

参考文献

狭川真一 1995 「大宰府の変容」『中世都市研究2』新人物往来社

山村信榮 1997 「中世太宰府の展開」『中世都市研究4』新人物往来社

2.報告にあたって

報告にあたり2点のことを念頭に置いて整理を進めた。1つは報告の簡便化である。もう1つは報告する情報量の拡大である。一見相反するようなテーマだが、今までの成果を元にして、報告に際しては可能な限り合理化を進めていき、それにより「空き」が生じた部分には、今までに報告できなかった情報を提示していくのが今後の課題である。今回の調査地点のそれぞれからは、大量の鋳型、炉壁、鉱滓といった鋳造に関する遺物が大量に出土した。そこで、従前は分析の対象としていなかった鉱滓類を、今回はそれぞれを分類して定性・定量分析を行いそれに基づく遺跡内の空間利用形態の復元を目指した。少しでも遺跡の理解のための資料になれば幸いである。簡便化については、下記のa)、情報量の拡大の試みについては、同じくb）を参照していただきたい。

a）土器・陶磁器の整理

大宰府という調査地域上の特色で、多くの調査地から土器・陶磁器類が大量に出土するため、それらを報告する際にはなんらかの方法が必要なことは以前から検討されてきた。これについては「I.はじめに　3.報告にあたって」『大宰府条坊跡XII』で述べられているように、記号化を

進めることが基本と考えている。

今回の報告では、陶磁器に関しては、『大宰府条坊跡XV』-陶磁器分類編-に従い整理している。また、それ以外に使用した分類の根拠になる文献は以下の通りである。

（髙橋学）

森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究　NO.2』

小田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究　NO.2』

小野正敏 1982「14～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究　NO.2』

西谷正 1983「九州・沖縄出土の朝鮮産陶磁器に関する予察」『九州文化史研究紀要第28号』

荻野繁春 1986「近畿地方における中世の須恵器」『東洋陶磁　第14号』

間壁忠彦 1977「備前」『世界陶磁全集3 日本中世』

b）鉱滓分析

1.定性分析

鉱滓の分類

同一地域を47次調査を含めて5区域に分けて調査を行ったことから、遺跡内での空間利用状況を説明する際に、客観的な理解につなげる方策を立案しておく必要がある。そこでこの鉱滓を分類し、定性および定量化を図ることで空間利用状況を検討してみたい。

まず分類項目については、「客観化」を図る必要がある。この分類項目如何によって、後処理としての定量化への信憑性へと繋がるだけに、十分検討を行っておく必要がある。「客観化」された分類を作成する上での負要因を記述する。

・個人差の解消

今回の分析者は三人おり、この三人相互の力量差を如何に解消するかが最大の問題であった。換言すると如何に「客観」的分類に近づけるのか。三人それぞれが納得する分類項目にするのかが課題となる。この点では一人による分類項目設定よりは、「客観化」された分類項目設定になる。また「客観化」を考えた場合、一人による定性分析ではないだけに、より「客観化」へ近づくことにもなる。しかし今回の分析で、担当現場内で独立した分析を実施しており、三人が全ての資料を検証したわけではないため「客観化」できているのかは不安が残る。

・個人内力量の解消

個人単体に起因する負要因で、忍耐度と向上心を指す。「妥協点」をどこに設定するのかによって、日々の作業の中に差が生じてくることになる。この日々の差の大小によって、個人相互間の分析成果を持ち寄った時、さらに拡大するのか、史的解釈には影響無い程度であるのかの大きな分岐点になる。

以上を踏まえた上で分類の視点として、以下の点から分類項目を設定した。

1.炉壁の有無

a.付着物の種別

2.鋳込みへの作業過程

3.作業道具にあたるとともに、製品を想定させ得る遺物

上記4点を視野に入れ、下記の各属性を抽出し、その統合として分類項目を設定する。

多くの鉱滓に特徴的なのが、1番目に上げた炉壁の有無であった。したがって炉壁付き滓、と未付着滓を弁別する。ついで、鋳込み作業手順を考慮に入れ、そこで生じる生成物を弁別対象とした。

1：鉱滓のみ

-a：鉄分を多く含む滓（記号：○）

-b：銅が付着する滓（記号：◇）

-c：白色滓（記号：□）

-d：黒鉛化木炭付着滓（記号：△）

-e：浮遊滓（記号：♡）

-f：その他の滓（記号：☆）

2：炉壁+鉱滓

-a：鉄分を多く含む滓（記号：●）

-b：銅が付着する滓（記号：◆）

-c：白色滓（記号：■）

-d：黒鉛化木炭付着滓（記号：▲）

-e：浮遊滓（記号：♥）

-f：その他の滓（記号：★）

3：黒鉛化木炭（記号：♠）

4：炉壁

-a：還元状態炉壁（記号：▽）

-b：酸化状態炉壁（焼土も含む）（記号：▼）

5：鋳型（記号：◎）

6：石（記号：＋）

7：湯玉（記号：♤）

8：鉄片（記号：－）

9：羽口、木炭（記号：♣）

1および2については、今回の分析対象となる資料の大半を占め、特に1・2-fについては、付着物が特定できないもの、-aから-eのどの項目にも該当しないものという性格上、必然的に多く抽出されることになる。また-eについても、分類属性の性格上2-eは矛盾を生じることになる。しかし、想定として軽量の滓と炉壁が付着したものがあった場合どうするのかということに備えるということから、分類項目として設定した。3・7・8については、原料溶解および鋳込みさらには鍛造作業時に生じる生成物としての性格を有する。ついで6については、添加物としての性格を有するのではないかという想定から抽出することにした。現実的には、何に使用したものかは想定の域をでない。また遺跡の立地する基盤層に含まれるものもあり、厳密に弁別できていているのかは心許ない。しかし、基盤層に含まれない石も若干出土しており、必要不必要の線をどこで引くのかは困難であった。したがって、無意味な石も含まれていると判断されるが、全ての石を抽出し定性化することにした。しかし分析にあたって、各自の意志疎通が十分でなかったためか、統一できず廃棄されたものもあり、バイアスのかかった値として見ていただきたい。5・9については、作業上の道具にあたる。

上記各項目の設定にあたっては、前処理として全体把握を概略的にでも実施しておく必要がある。この前処理によって、各調査間の差が想定でき、その想定に沿った分類項目設定が可能となる。今回設定した分類項目の中で、1～4については、埋没時と選別時も同じであるという作業仮説上に立脚している。したがって発掘調査後の諸過程において分離したものについては視野に含めていないことになり、どこまで事実に近いものであるのか疑念が生じることになる。しかしあえて設定した理由として、設定前の処理で111次調査地では4-bが多量に投棄された遺構があり、炉壁の再利用目的が図られているのではないかと考え、その炉壁再利用過程復原のために炉壁付き滓と未付着滓の分布を追究しておく必要があると考えたことによる。

2.定量分析

これまで記述してきた視点から定性分析を実施した。さらにこの定性分析と同時に定量化も行っている。ここで実施した定量方法は、蓋然性確認の意味から重量法と破片数量法の二者を選択した。ただし定量化へは、種々の問題があり、今回選択した方法に内在する問題点、さらに相互間に存在する問題点を整理し、このようなバイアスのかかった値であることを理解された上での定量値として見ていただきたい。

なお定量化にあたって、定性時に分類した個々の分類単体ごとに空間分布状況を提示すべきであるが、紙数に限りがあることから、分類単体の性格によって統合を図り、統合された内容ごとの合計数値によって空間分布を提示する。統合内容については、以下のとおり。分類単体個別の数値は、Tab.11、12、16、17、21、22を参照いただきたい。

①（記号：♠）鉱滓：炉材を想定させ得るものの集合で、具体的には1-a～c・f・e、2-a～

c・f・e、7、8が該当する。

②（記号：♣）黒鉛化木炭：①同様に炉材を想定させ得るものの集合。具体的には1-d、2-d、3が該当する。

③（記号：♥）鋳型：鋳込みのための道具にあたり、製品を特定するのに有効な遺物にあたる。具体的には、5が該当する。

④（記号：◆）炉壁：①同様に炉材を想定させ得るものであるが、定性限界から単なる焼土も含んでいる可能性があるため、①とは区別した。

	重量	破片数
記号なし	0g	0点
♥	1g以上100g未満	1点以上10点未満
♥	100g以上1000g（1kg）未満	10点以上100点未満
♥	1000g（1kg）以上	100点以上

Fig.3　定量記号　凡例

上記内容によって性格を統合し、さらに記号の大・中・小・無しの4区分によって空間分布を表記した。4区分の内訳については、定量化する各調査区での成果を相互比較し、適当と考えられる区分のための基準値を設定した（Fig.3）。したがって、区分のための基準値自体に歴史的意味はない。

では、以下に定量化に用いた分析方法に内在する問題点、さらには二者の分析方法相互間に存在する問題点を記述する。

破片数量法の問題点

・埋没時の破片≒選別時の破片

埋没時の破片が等しく選別時の破片であるという作業仮説に立脚している。しかし現実的には、遺物洗浄時には封入されることのない微小遺物が、選別時に存在していることを考えると、遺物封入後に遺物相互の擦れによって生じたと想定でき、このような状況下で生成された微小破片も一点として加算された数値であることを踏まえて置く必要がある。

重量法の問題点

・大形破片に付着する微小付着物

付着物の種別によって分類され、分類単体の重量全てを計測する重量法にとって、大形破片に付着する微小付着物の重量は現実的ではないことになる。遺物という性格上、微小付着物を分離することはできず、全ての重量をこの微小付着物の重量とせざるを得なかった。特に銅付着滓にこの傾向がある。

重量法と破片数量法相互の問題点

大形の破片に、微少な金属片が付着していた場合、破片数では1点として加算されるが、重量では過大な数値として表示されることになる。

両方法適用の有効性

食器の定量化についても同様の問題を有しており、どの方法が有効なのかは、やはり現場での取り上げ手法から全てが始まっていることを考えると、今回の定量化にどれほどの信憑性が見込めるのか不安は隠せない。しかし、複数の手法を用いての定量化を実施し、いずれの手法でも同様の結果を導き出すことが可能であるならば、その数値の持つ確からしさの蓋然性は高くなってゆくものと考えられる。では重量法と破片数量法の両者を用いたことによる効力には何が見込めるであろうか。

両者の数値傾向に同様の傾向が見られた場合。

重量法=破片数量法

両方法に同一傾向がうかがえた場合、定量化の方法として数値への信憑性が高くなるものと考えられる。これは想定される分類属性と実際の遺物が極めて近似した傾向にあったということを物語っており、問題点で列記した状態もなく、好条件の資料群であったといえる。

両者の数値に食い違いが見られた場合。

重量法＞破片数量法

この場合、大形の破片が出土していることが数値比較によって読み取ることができる。換言するならば、廃棄物ないしは貯蔵物として出土している場合、細片化はされず大形のまま廃棄されていることを物語っており、再利用の際の材料として一時貯蔵されていたのか、単に廃棄されていたのかの別は、出土状況からは判断し難い面もあるが、使用直後に未処理のまま埋没してしまった可能性がうかがえる。

重量法＜破片数量法

前者と異なり、小破片での出土であることが読み取れる。多くの場合焼土ないしは鉱滓の付着しない炉壁が出土した遺構にこの傾向が見られ、前者同様、廃棄か貯蔵かの区別はなかなか判断しづらいものの、使用後の再利用のために細片化が図られた可能性が想定できる。

以上の諸点を作業前提として、各報告における分析結果を見ていただきたい。

（中島恒次郎）

II.調査組織

今回報告する調査は、複数年次にまたがっているため、各調査を実施した際の調査組織は年度ごとに記載する。調査担当者については、ゴチック体で表している。

整理報告については、各調査終了後に随時進めてきたが、報告書作成などを主たる整理事業を進めた平成12年度の組織を記載している。（高橋学）

大宰府条坊跡　第111次調査（平成3／1991年度）

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	富田　譲
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷　豊
調査	主任技師	山本信夫
		狭川真一
		城戸康利
		緒方俊輔
	技　師	山村信榮
		中島恒次郎
		塩地潤一
	技師（嘱託）	田中克子（3年10月1日～）

大宰府条坊跡　第197次調査（平成9／1997年度）

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人

	主　　事	今村江利子
調査	技術主査	狭川真一（9年10月1日～）
	主任技師	狭川真一（～9年9月30日）
		城戸康利
		山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正
	技　　師	**髙橋　学**
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子
		森田レイ子

大宰府条坊跡　第204次調査（平成10／1998年度）

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
	主　　事	今村江利子
	嘱　　託	鈴木弘江
調査	技術主査	**狭川真一**
	主任技師	城戸康利
		山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正
	技　　師	髙橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子
		森田レイ子

大宰府条坊跡　第208次調査（平成11／1999年度）

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥（～6月30日）
		白石純一（7月1日～）
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
		今村江利子（～6月30日）
		野寄美希（7月1日～）
	嘱　託	鈴木弘江
調査	技術主査	城戸康利
	主任技師	山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正
	技　師	髙橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子
		森田レイ子

大宰府条坊跡　第213次調査（平成12／2000年度）

総括	教育長	長野治己（～12月24日）
		關　敏治（12月25日～）
庶務	教育部長	白石純一
	文化財課長	津田秀司（～3月31日）
		木村和美（4月1日～）
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫（～10月23日）
		神原　稔（11月1日～）
	主任主事	藤井泰人
		野寄美希
	嘱　託	鈴木弘江
調査	技術主査	城戸康利

	主任技師	山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正
		髙橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子
		森田レイ子
		佐藤道文

整理報告体制（平成12／2000年度）

総括	教育長	長野治己（～12月24日）
		關　敏治（12月25日～）
庶務	教育部長	白石純一
	文化財課長	津田秀司（～3月31日）
		木村和美（4月1日～）
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫（～10月23日）
		神原　稔（11月1日～）
	主任主事	藤井泰人
		野寄美希
	嘱　託	鈴木弘江
調査	技術主査	城戸康利
	主任技師	**山村信榮**
		中島恒次郎（整理担当）
		井上信正
		髙橋　学（整理担当）
		宮崎亮一（整理担当）
	技師（嘱託）	**下川可容子**（整理担当）
		森田レイ子
		佐藤道文

（発掘調査参加者）

梅津登美子、和田ハマ子、陶山よしゑ、斉藤徳美、和田京子、木村末子、木村静子、主税松子、福島保子、永川満香、田中幸子、田中平助、萩尾泰祐、三上智久、藤原重登、田部澄博、陶山小春、太田ヤス子、太田敬子、古川トミ子、古川民子、古川ヨシ子、宮原ハナエ、境美佐子、高鍋キミヨ、山本洋子、柴田ツキエ、太田八重子、中溝洋子、渡辺ひとみ、花園美千子、中島ウメノ、中島タキノ、中島タカ子、白水いせの、松島順子、牛島イワヨ、白水スエ子、高原改良子、徳永モモエ、萩尾万壽子、南美智子、田中勝江、城戸邦典、神田サダ子、大迫フミ子、鍵山恵子、徳永由美子、増野芳枝、内野絹子、手嶌久子、森由美子、藤榮、藤宏栄、上原洋美、田中幸子、中村勝子、安永可奈子、渡部敬子、土井澄子、原康之、松本茂吉、吉田勇一、伊藤広美、大屋健造、河北安子、菊武保、黒岩政広、岩崎すまえ、佐々木靖廣、佐藤茂子、服部妙子、長淳子、饗庭朋子、安河内正子、真名子守、宮崎晴充、眞武裕、山下澤子、吉田正子、渡辺律子、斉藤サヨ子、松田茂實、松田千代子、栗山ヒロ子、小林妙子、草場美江子、村山一重、浦郷サダ子、竹下善政、青木貞子、市川友義、小島國春、井上冨士子、安武ハルコ、副島栄子、篠原一枝、田中聖、田嶋憲和、長直信、下八重雅明、平島義孝、深江暁子

（整理作業参加者）

原野正子、吉田勝子、久保喜代香、菊武淑子、中村房子、林美知子、伊藤孝子、占部民子、横山美津子、田崎道子、安芸朋江、酒井三保子、森部順子、平島義孝、深江暁子

発掘調査および整理報告にあたって、次の方々からご教授、資料提供を賜った。記して心より感謝申し上げます。

（順不同、敬称略）

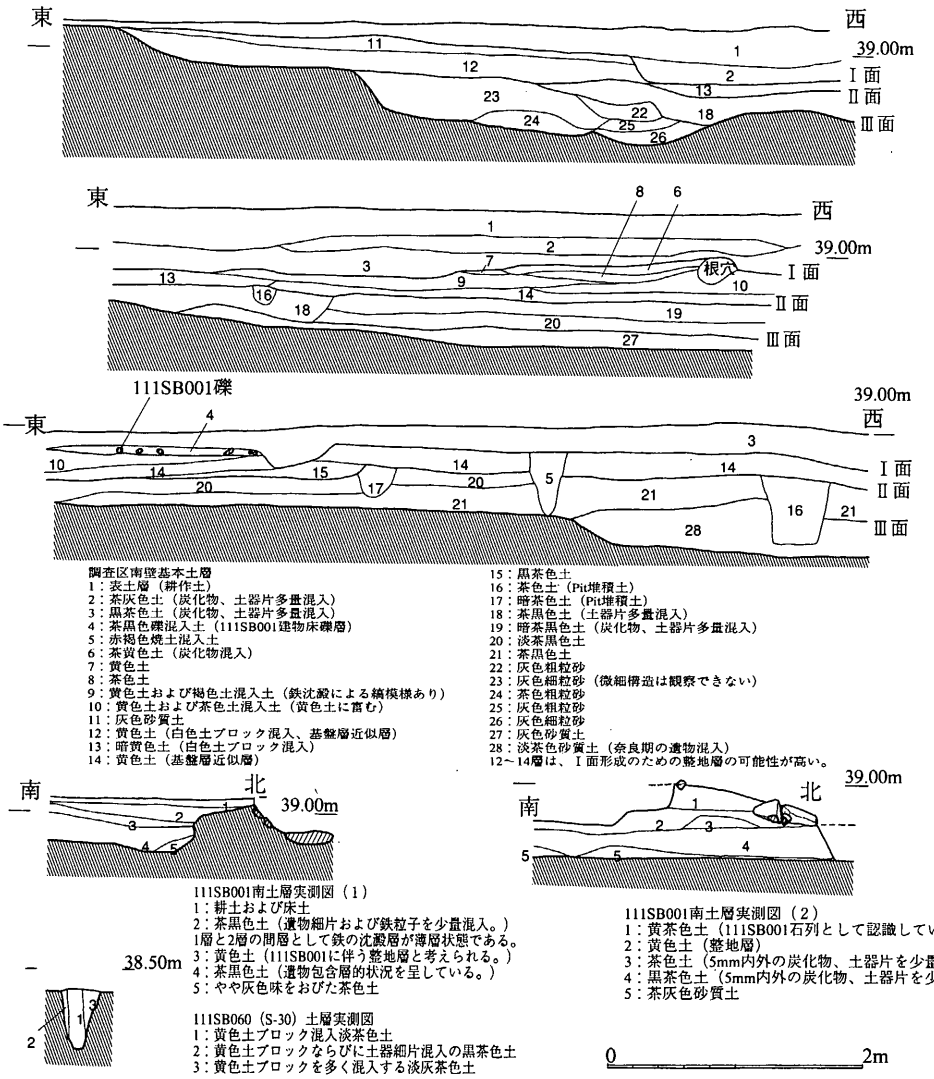
中山光夫（たたら研究会）、狭川真一（元興寺文化財研究所）、小田富士雄（福岡大学教授）、馬田弘稔（福岡県教育委員会）、横田賢次郎（九州歴史資料館）、久保智康（京都国立博物館）、五十川伸矢（京都大学埋蔵文化財センター）

III. 調査報告

(1) 大宰府条坊跡　第111次調査

1）調査に至る経過

太宰府市五条４丁目2787-10・11において、平成２年に共同住宅建設にともなう埋蔵文化財取り扱いの有無に関する問い合わせがなされた。当該地は、昭和58年度、59年度に調査がなされ中世における大規模な鋳物工房跡が検出された大宰府条坊跡第47次調査地の南に隣接する地域にあたる。先の47次調査では、調査区南側へ遺構が展開するなど、当該地の遺構残存度合いは極めて高く、かつ歴史学上重要な遺跡の規模を考える上で調査は避けられないと考えられ、



調査区南壁基本土層
1：表土層（耕作土）
2：茶灰色土（炭化物、土器片多量混入）
3：黒茶色土（炭化物、土器片多量混入）
4：茶黒色礫混入土（111SB001建物床礫層）
5：赤褐色焼土混入土
6：茶黄色土（炭化物混入）
7：黄色土
8：茶色土
9：黄色土および褐色土混入土（鉄沈殿による縞模様あり）
10：黄色土および茶色土混入土（黄色土に富む）
11：灰色砂質土
12：黄色土（白色土ブロック混入、基盤層近似層）
13：暗黄色土（白色土ブロック混入）
14：黄色土（基盤層近似層）
15：黒茶色土
16：茶色土（Pit堆積土）
17：暗茶色土（Pit堆積土）
18：茶黒色土（土器片多量混入）
19：暗茶黒色土（炭化物、土器片多量混入）
20：淡茶黒色土
21：茶黒色土
22：灰色粗粒砂
23：灰色細粒砂（微細構造は観察できない）
24：茶色粗粒砂
25：灰色粗粒砂
26：灰色細粒砂
27：灰色砂質土
28：淡茶色砂質土（奈良期の遺物混入）
12～14層は、Ⅰ面形成のための整地層の可能性が高い。

111SB001南土層実測図（1）
1：耕土および床土
2：茶黒色土（遺物細片および鉄粒子を少量混入。）
1層と2層の間層として鉄の沈殿層が薄層状態である。
3：黄色土（111SB001に伴う整地層と考えられる。）
4：茶黒色土（遺物包含層的状況を呈している。）
5：やや灰色味をおびた茶色土

111SB060（S-30）土層実測図
1：黄色土ブロック混入淡茶色土
2：黄色土ブロックならびに土器細片混入の黒茶色土
3：黄色土ブロックを多く混入する淡灰茶色土

111SB001南土層実測図（2）
1：黄茶色土（111SB001石列として認識していた礫を包含
2：黄色土（整地層）
3：茶色土（5mm内外の炭化物、土器片を少量混入。）
4：黒茶色土（5mm内外の炭化物、土器片を少量混入。）
5：茶灰色砂質土

Fig.4　大宰府条坊跡第111次調査　土層実測図（S=1/60）

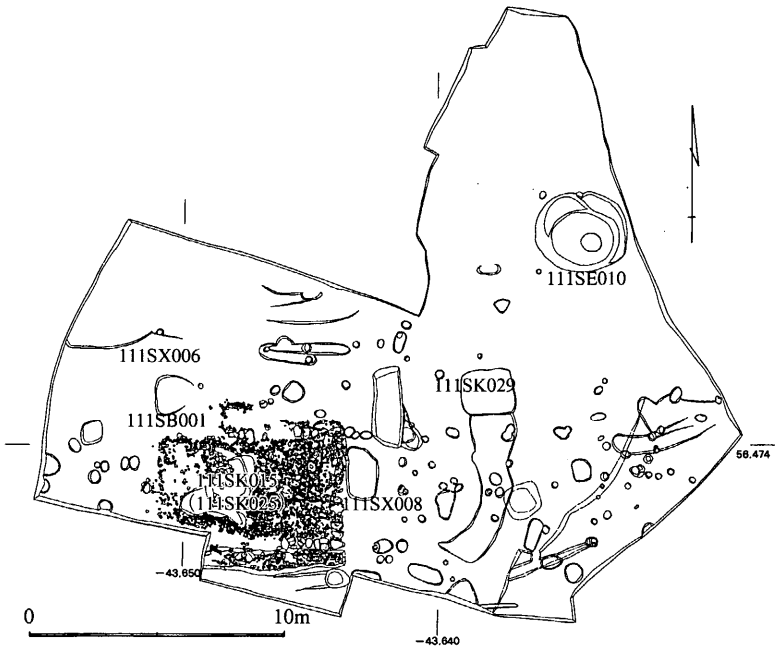


Fig.5　大宰府条坊跡第111次調査　遺構配置図（I・II面）（S=1/300）

調査必要との回答を行った。その後平成２年11月に地権者であった安武光彦氏より専用住宅建設に伴う埋蔵文化財取り扱いの有無について問い合わせがなされた。取り扱いについては、先の所見と同様に調査必要との回答を行い、平成３年度に発掘調査実施について合意を見た。調査期間は、平成３年５月27日から同年９月10日に実施し、開発対象面積は658㎡、調査実施面積は350㎡をそれぞれ測る。調査は、中島恒次郎が担当した。

２）層位

表層部分は、耕作地として活用されていることから、層厚約0.3mの耕土がのり、この耕土下に炭化物および土器破片を多量に包含した茶灰色土、黒茶色土が堆積している。この層を除去すると、遺構I面と理解した生活面が茶色を基調とした土層を基盤層として形成されていた。この茶色を基調とした遺構I面形成土層は黄色土から茶色の色幅を有し、部分的に鉄沈殿箇所が観察できる。この遺構I面基盤層を除去すると、炭化物および土器破片を多量に包含する黒茶色土を基盤層とする遺構II面が検出できた。この遺構II面形成の基盤層は、調査区南東部において欠失し、地盤である花崗岩へと移行してゆく。遺構II面形成の基盤層を除去すると、灰色砂質土を遺構形成面とする遺構III面が検出できた。

遺構III面の基盤層である灰色砂質土には奈良期の遺物が包含されるが、この灰色砂質土下の地盤である花崗岩には遺構を検出できなかった。

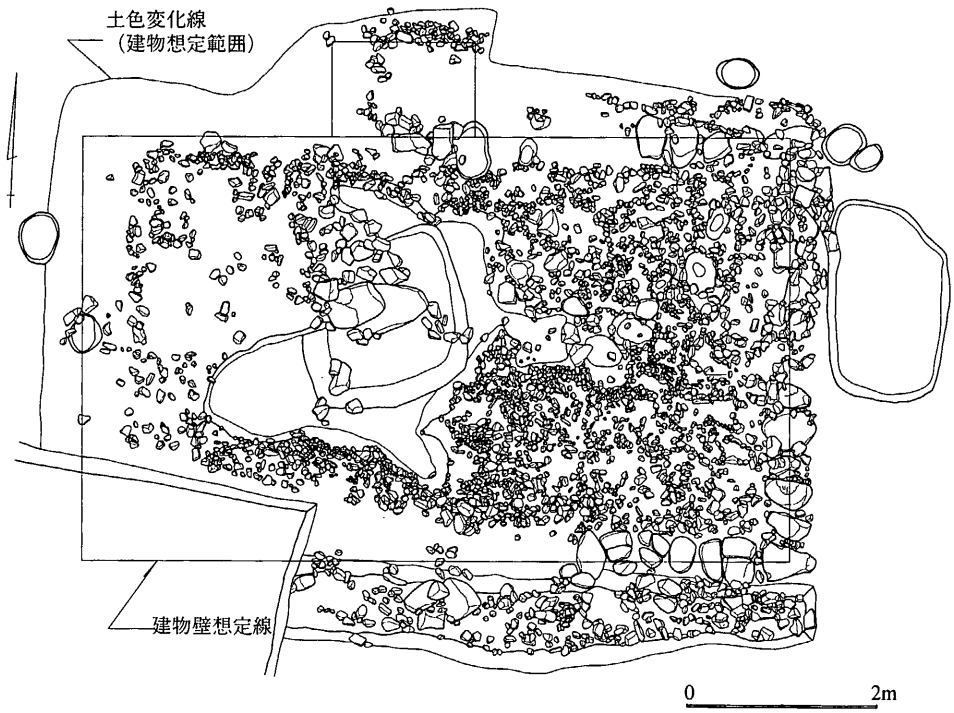


Fig.6　111SB001遺構実測図（S=1/80）

3）遺構

遺構I面

a.配石建物

111SB001（Fig.6、Pla.2～7）

長軸長0.55m前後、短軸長0.25m前後を測る亜円礫から円礫を周囲に巡らし、その内部に小礫（亜円礫から円礫）を多量に敷き詰めた遺構で、梁行と考えられる方向は約7.45m、桁行と考えられる方向は約4.45mを測る。ただし梁行と考えられる方向については、遺構東端の線は敷石の状況から規模確定できるものの、西端については礫が欠失しており遺構規模を確定する根拠に欠けている。遺構周辺の土色の変色範囲を表示しておいたが、この土色の変色範囲内で、かつ周囲に巡らした礫欠失箇所と考えられる小穴が一基検出できた箇所があり、この部分までを111SB001の範囲として考えた。また遺構南部には張り出しと考えられる状況で、内部に敷き詰められた小礫が、111SB001の南辺に平行に検出でき、推測の域を出ないが張り出し部分が存在していたと考えられる。おそらくは、遺跡の性格、北部に存在する111SB060の開放方向、条坊跡47次調査にて検出された鋳造遺構など、遺跡の本体が今次調査地の北側に展開していることを考え合わせると、この張り出し箇所は、111SB001の出入口である可能性が高い。また遺構内部の小礫を除去すると、下位より111SK015が検出され、遺構検出状況からみて、111SB001に

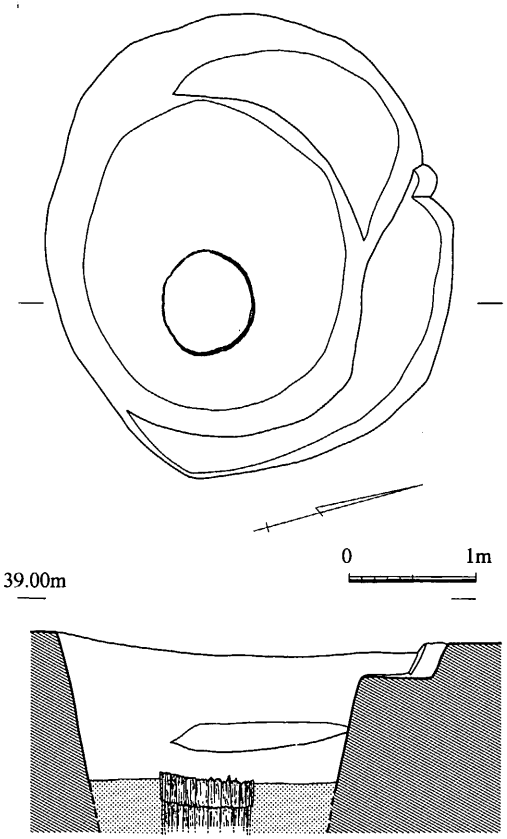


Fig.7　111SE010遺構実測図（S=1/60）

付帯する遺構とは考えられない。

なお具体的に、この遺構の構造については、柱座など建物として確定する痕跡を明確に検出し得ていないことから判然としないが、遺構規模からみて、周囲に配置された人頭大の礫を礎石とした建物である可能性が、現状では高いと考えられる。遺構東端の配石中心を通る線から、遺構建造方向を算出するとN-2° 8′ 38″ -Wを測る。

b.井戸

111SE010（Fig.7、Pla.8）

調査区北部に検出した遺構で、遺構掘り方形状は二段に掘られており、上段規模では長軸長3.62m、短軸長3.02mを測り、下段規模では長軸長2.66m、短軸長2.53mをそれぞれ測る。全体形状としては略円形を呈している。検出した深さは、1.33mを測り、さらに深くなる。井戸枠には桶が使用され、検出し得た桶で二段構成によって構築されている。後述する111SE127のようにさらに下位へ桶が埋置されている可能性もある。枠は井戸掘り方形状からみてやや東部に偏在している。井戸枠内部には上位より茶色土→黒茶色土→黄茶色土→青灰色砂が堆積しており、裏込め土は上位より黄色土→茶黄土を使って井戸を構築している。

c.土坑

111SK015（Fig.8）

111SB001内部に検出した土坑で、一辺1.76mを測る略方形を呈している。残存する深さは、0.24mを測り、111SB001内部に敷き詰められた小礫を除去した後に、111SK015を検出した。遺構上位には、111SK015の堆積土沈降に伴う窪みに堆積した赤褐色土が堆積しており、この赤褐色土を覆うように111SB001の内部に敷き詰められた小礫が確認できている。この111SK015上面に堆積している赤褐色土を除去すると、焼土、炉壁、

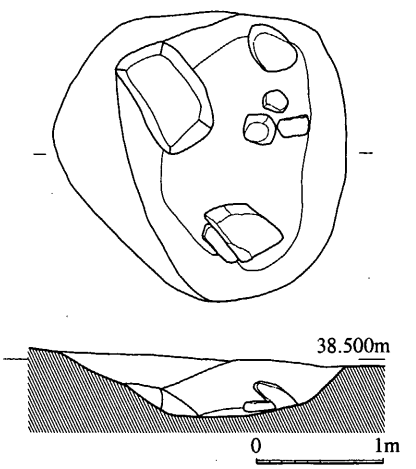


Fig.8　111SK015遺構実測図（S=1/60）

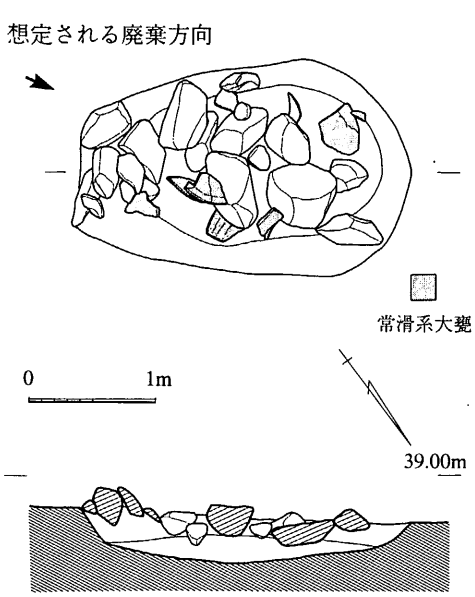


Fig.9　111SX034遺構実測図（S=1/60）

炭化物を多量に包含する赤褐色土が観察でき、この堆積層から111SK015として遺物を取り上げた。小礫の残存状況からみて、111SB001に直接的に関連する遺構ではなく、111SB001の建築以前の廃棄土坑であると考えられる。

111SK029

111SE127上位に検出した土坑で、下位より茶白色粘土→茶色土→黒茶色土が堆積していた。遺物は散在的に出土しており、後述する井戸111SE127埋没後の窪みに堆積した自然堆積土と考えられる。規模は1.80mを測る略方形を呈している。

d.その他の遺構

111SX034（Fig.9）

配石建物跡である111SB001の北東部に位置し、不規則な状況で0.2m～0.1m程度の亜円礫から円礫および陶器大甕が出土している。これら大甕および礫の堆積状況は、遺構南東部より投げ込まれたような状況が観察でき、廃棄のために使用された土坑であると考えられる。規模は長軸長1.30m、短軸長0.86m、残存する深さは0.24mをそれぞれ測る。

遺構II面

a.その他の遺構

111SX082・086・087

調査区北部に散在する窪み状の遺構で、人為性の看取できるものではなく、地形の窪みである可能性が高い。111SX082は、堆積土が二層に区分でき、上位より黄色土→黒色土が堆積していた。

遺構III面

a.掘立柱建物

111SB060（Fig.11、Pla.10～14）

溝が四周を巡り、この溝の中に多数の小穴が穿たれた遺構で、四周の内、北面する辺の中央部分は溝が欠失している。御笠川南条坊跡第２次調査にて１棟（福岡県教委、1978）、大宰府条坊跡88次調査にて２棟（未報告）において近似した遺構が検出されており、想定として土塀を壁構造とする建物であると考えられる。この遺構の南西部には土坑（111SK020）が形成され、土層観察からは、その機能を特定することはできなかった。この土坑内の堆積土と隣接す

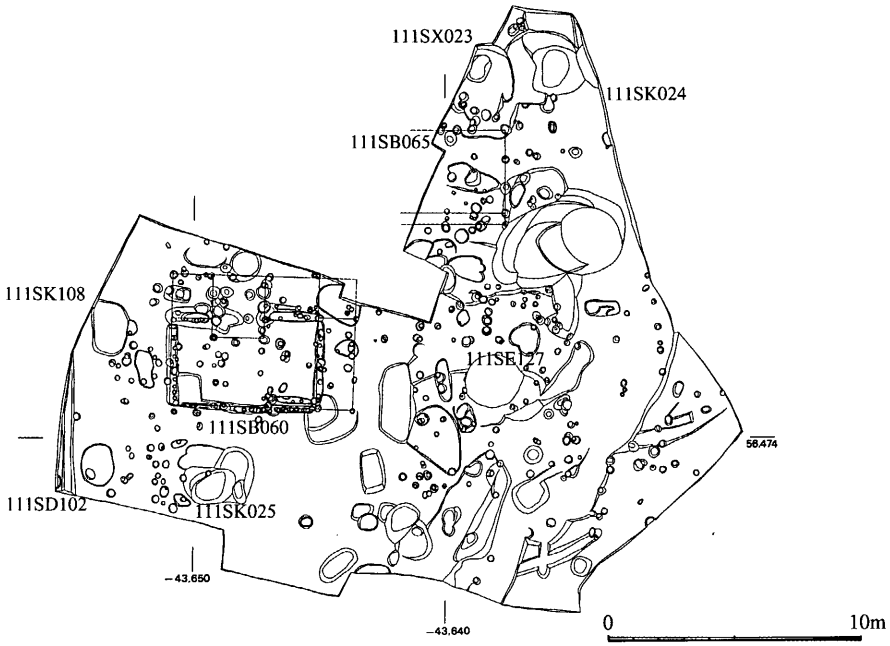


Fig.10　大宰府条坊跡第111次調査　遺構配置図（III面）（S=1/300）

る南辺および西辺溝内の堆積土に差がなかったことから、土坑は開放した状況で使用されたか、建物廃絶時に壁の撤去と同時に土坑内堆積土が除去された後、再度人為的に埋められた可能性がある。北面の中央部分は溝が欠失しており、この部分にのみ１間×２間の柱痕跡が検出できている。欠失する状況および柱穴の状況から、条坊跡47次調査地に存在する鋳物工房を向くことになり、この建物の入口部分と考えられる。建物北辺の溝（111SX042）より多量の土師器坏a・小皿aが一括廃棄された状況で出土している。この土師器を除去した段階で下位より小穴を検出していることから、建物廃絶後の廃棄行為と考えられる。

建物規模は、桁行3.38m、梁行5.67mを測る。建物建造方向は、N-0° 54′ 21″ -Eを測る。建物内部に構築されていたと考えられる土坑111SK020は、一辺約1.4mのほぼ正方形を呈し、深さ0.25mを測る。建物四周を巡る溝幅はいずれも0.4m程度を測り、深さ0.3m～0.5mを測る。溝下部には、0.15m～0.3mを測る小穴が多数検出できた。

111SB065（Fig.12）

調査区南部に、遺構東部のみ検出したもので、調査時には認識していなかった遺構にあたる。桁行のみ規模が明らかなもので、梁行については調査区外へのびていることから判然としない。桁行３間、梁行２間以上、柱間は桁行が1.10m～1.16mを測り、梁行が1.27m～1.31mを測る。やや桁行の柱間の方が短い。また南側には建物本体から0.32m離れて庇が取り付くものと考えら

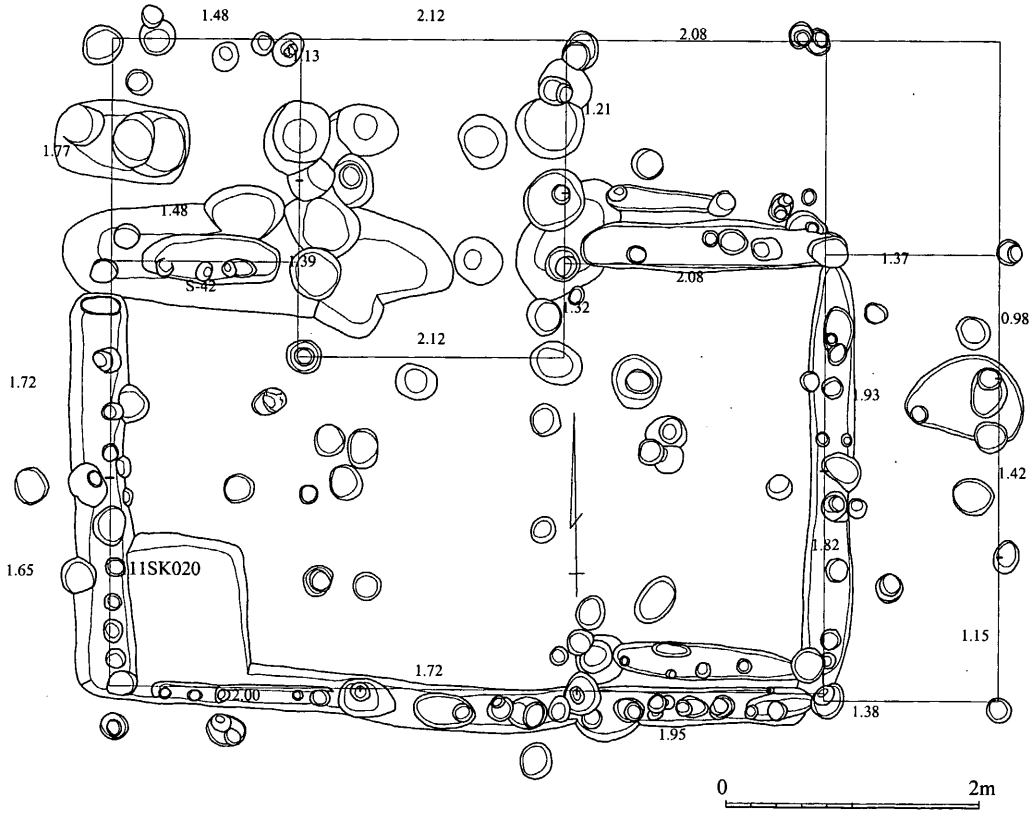


Fig.11　111SB060遺構実測図（S=1/60）

れ、柱痕跡を確認している。建物建造方向は、N-1° 38′ 12″ -Wを測る。

b.井戸

111SE127（Fig.13、Pla.15・16）

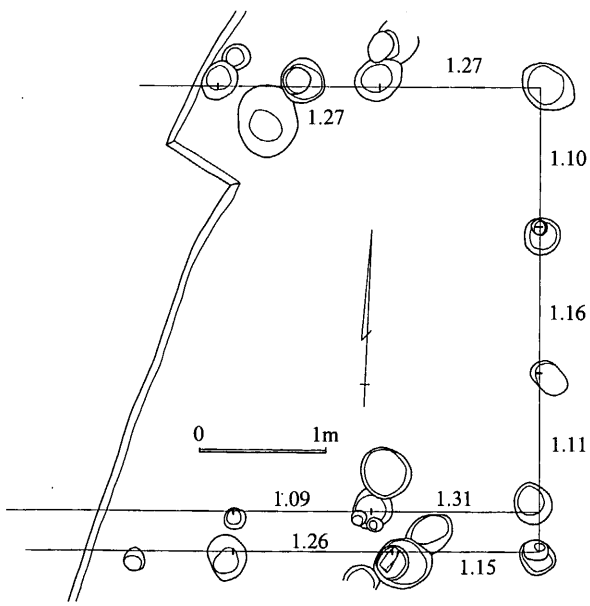


Fig.12　111SB065遺構実測図（S=1/60）

調査区東部に検出した遺構で、径0.9m前後を測る略円形の桶を井戸枠として利用したもので、井戸掘り方に対してやや東に偏在した位置に枠を据えている。井戸掘り方全体の規模としては径2.16mを測る略円形を呈し、残存する深さは2.5mを測るが、調査限界からそれ以上の深さの調査を実施し得ていない。なお検出し得た桶としては少なくとも4段を数え、各々の桶を重ね上位の桶と下位の桶の

接合部分には青灰色粘土を充填している。井戸枠内部には上位より、黄茶色土→灰色砂が堆積しており、裏込め土としては黄色土を用いて構築していた。なお井戸枠内埋土中央には直立した状況で竹管が検出できた。

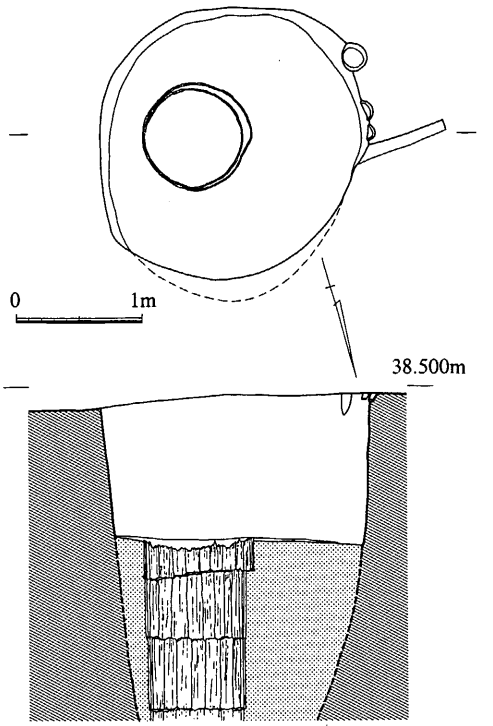


Fig.13　111SE127遺構実測図（S=1/60）

c.溝

111SD102

調査区西端に検出し、既述してきた建物の建造方向にほぼ一致するように形成された溝。検出長4m強を測り、溝幅0.38m、残存する深さ0.17mを測る。N-0° 51′ 9″ -Wを測り、周辺に展開する各建物の建造方向に概ね一致している。溝内には黄色土の単一土層によって構成されている。

d.その他の遺構

111SX024

調査区南端部分に検出した不整形の土坑で、遺構西部を上位の遺構によって欠失していることから、全形については判然としない。残存する深さは、0.56mを測る。遺構内部には黄茶色土が堆積し、堆積土の中からは散在的に遺物が出土している。

4）遺物

当該調査区から出土した遺物は、遺物一覧に記載している（Tab.9-1～9-9）。ここでは、既存分類のないものおよび特筆すべきと判断される資料について記載してゆく。

遺構I面

a.建物出土遺物

111SB001出土遺物（Fig.14）

瓦質土器

こね鉢×摺鉢（1）　口縁部のみの破片で、摺り目の有無については観察できなかった。口縁端部をややつまみ上げる形状を取り、内面は刷毛による調整で仕上げている。色調は、内外面ともに黄灰白色を呈している。

火鉢（2）　脚部の破片で、全体形状については判然としない。円弧を描く形状を呈しており、端部は丁寧に面取りによって仕上げられている。

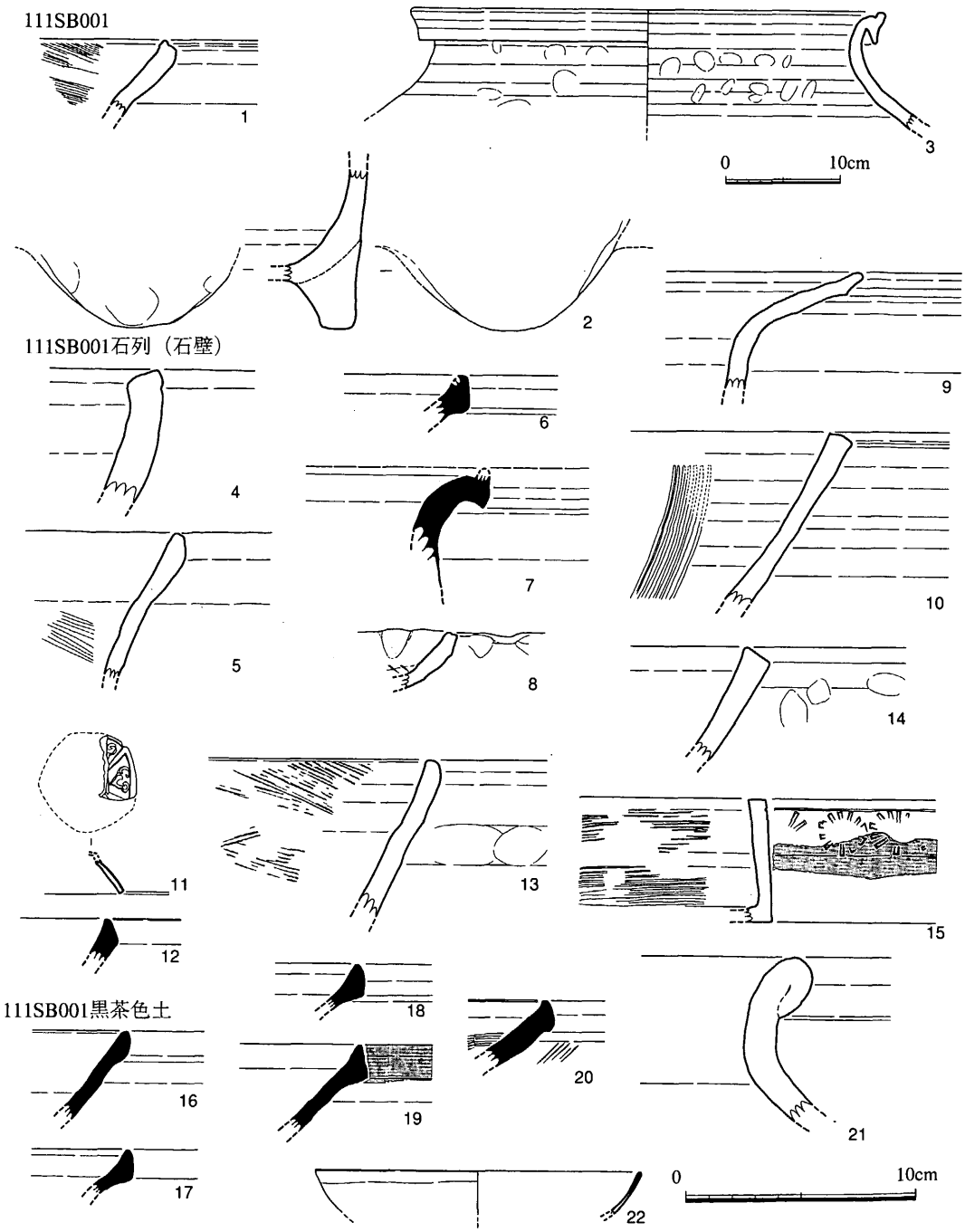


Fig.14　111SB001出土遺物実測図（１）（S=1/3・1/6）

陶器

大甕（３）　口縁部から頸部にかけての破片で、N字状口縁を呈している。内外面に指頭圧痕をとどめているが全体に丁寧にナデ仕上げを行っている。常滑産の可能性もあるが、限定で

きるかどうかは判断できない。推定口径42.0cmを測る。

111SB001石列（石壁）出土遺物（Fig.14）

建物遺構が存在または廃絶した際に、遺構を形成している石に混じる状況で出土したもので、いわば遺構周辺に散在していたゴミの可能性が高い。したがって、遺構との共時性については不安定な遺物であるが、遺構との関係でいえば、遺構廃絶以前に存在している遺物の可能性が高いものにあたる。4～10：石列出土。11～15：石壁出土。

土師質土器

火鉢（4）　やや内湾気味の形状をとるものの口縁部のみの破片であるため、全形については判然としない。器面摩耗のため調整痕跡については、観察できない。

こね鉢（5）　摺目が観察できなかったが、遺物の残存状況からこね鉢と判断した。外面に

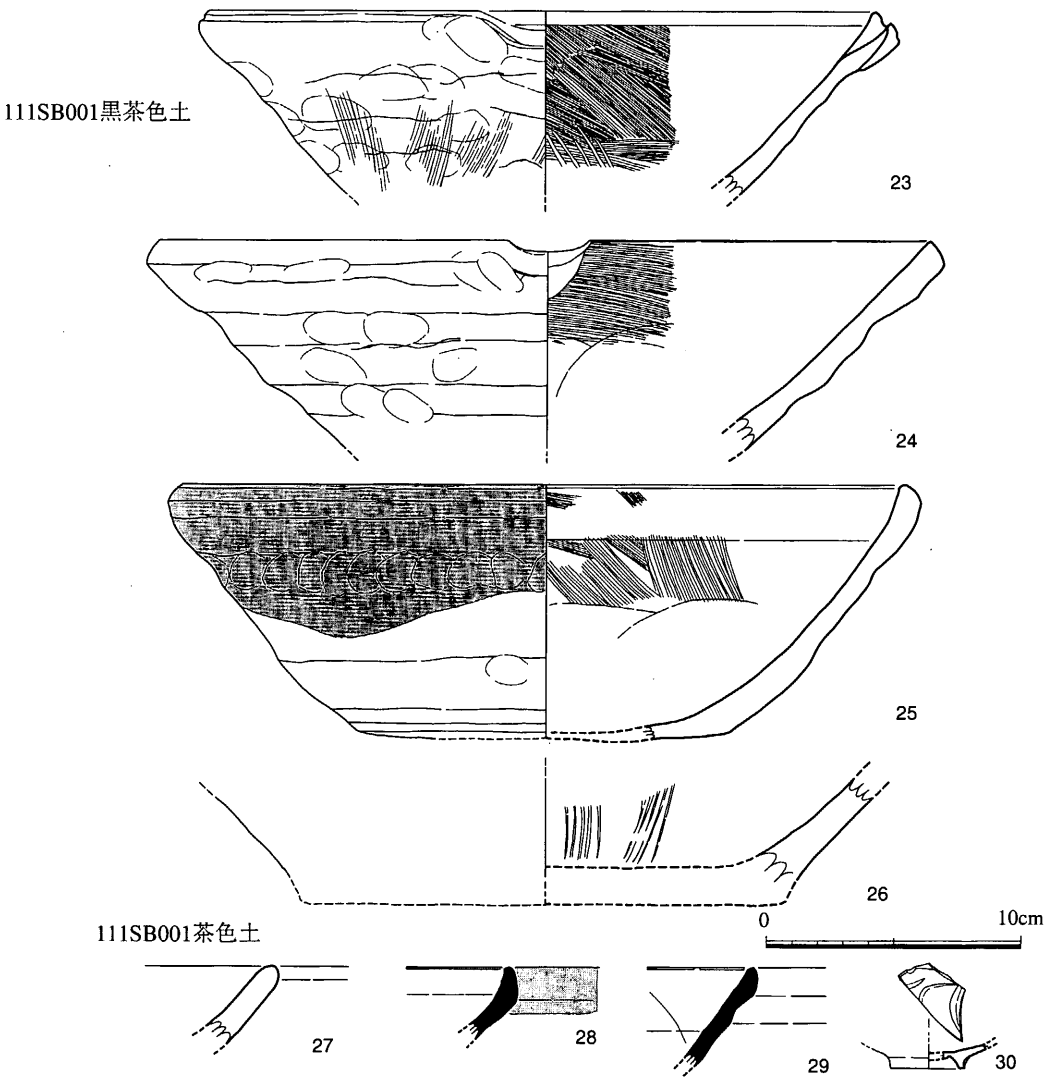


Fig.15　111SB001出土遺物実測図（2）（S=1/3）

ついては、器面摩耗のため調整痕跡が観察できないが、内面には刷毛による調整がなされている。

須恵質土器

こね鉢（6） 口縁端部のみの破片で、全体形状については不明。さらに口縁端部内面についても欠損している。口縁端部外面がやや張り出す形状を示し、荻野分類のVI群に相当するものと考えられる。

甕（7） 口縁部のみの破片で、下位へやや直線的に下がる形状を呈していることから甕と判断した。残存部分のみには回転ナデによる仕上げしか観察できなかった。還元度合いは不良。

陶器

おろし皿（8） 注口が残る製品で、見込み部分にヘラによるものと見られるおろし目が観察できる。観察箇所内外面には淡緑黄色の釉が掛けられている。素地特徴は、白色微粒子および気泡が極少量含まれる。全体の特徴からみて瀬戸産と考えられる。

甕（9） 大甕口縁部の破片で、口縁端部をやや外方に立ち上げる形状をとる。口縁部内外面には黒灰色の自然釉が掛かっており、胎土には2mm以下の砂粒が極少量含まれている。特徴からして常滑産と考えられる。

摺鉢（10） 口縁部から体部下位にかけての破片で、口縁端部はまだ拡張性のない形状をとり、内面には7条を一単位とする摺目が入れられている。色調は外面茶褐色、内面淡茶褐色を呈し、やや瓦質気味に焼かれているが全体に還元良好である。特徴からして備前産の摺鉢と考えられる。

青白磁

合子（11） 口縁部から体部にかけての破片で、外面にのみ淡緑青色のガラス質釉が掛けられている。ヘラによるとみられる陽刻文様が外面に描かれている。素地特徴は白色の緻密な素地である。(Pla.19)

須恵質土器

こね鉢（12） 口縁端部のみの破片だが、須恵質であり東播系の製品の可能性が高いため、こね鉢とした。器面摩耗が著しいものの、口縁部内面に不定方向のナデが観察できる。

瓦質土器

こね鉢（13・14） 13は口縁部から体部上位までの破片資料で、内面は刷毛痕跡が観察でき、外面は指頭圧痕が観察できる。14は、口縁部の破片で、内面は器面摩耗のため調整痕跡は観察できないが、外面には指頭圧痕が観察できる。13の口縁端部はやや丸味を有しているが、14は面取りによりやや外傾する平坦面を形成している。いずれも使用痕跡は観察できていない。

火鉢（15） 底部より鋭角に、かつ直線的に立ち上がる体部形態を有するもので、口縁部外

面にはスタンプによる菊花文を押印している。内面は横方向の刷毛による調整がなされている。

111SB001黒茶色土および茶色土は遺構を構成する石を除去した後、整地に伴うと考えられる土層から出土した遺物であり、上位と下位の二層に分層できた。上位が黒茶色土、下位が茶色土である。

111SB001黒茶色土出土遺物（Fig.14・15・16）

須恵質土器

こね鉢（16～19）　いずれも口縁部の破片で、須恵質であること、調整痕跡が回転ナデのみによってなされていること、口縁部形状などから東播系製品であると考えられる。16は口縁部上方への立ち上がりが顕著ではなく荻野V群に想定できるのに対し、他の3点については上方への立ち上がり、ならびに口縁部内面の窪むようなナデ痕跡から荻野VI群に該当するものと考えられる。

こね鉢×摺鉢（20）　口縁部の破片資料で、内外面に刷毛による調整を行っている。焼成・還元ともに良好で、1mm内外の白色粒子を極少量混入している。

陶器

甕×壷（21）　口縁部のみの破片であることから、器種特定には至ってない。口縁部を外面に折り曲げることによって玉縁状の形状を作り出すもので、内外面ともに茶褐色を呈している。形状および色調からして備前系の製品と考えられる。

摺鉢（26）　体部下位の破片資料で、内面に5条を一単位とする摺目が付けられている。底部付近には使用によるものと考えられる痕跡が観察でき、底部付近の断面状況から底部との接合状況が観察できる（Pla.19）。

白磁

皿（22）　口縁部のみの破片で、全体形状が不明確なため、未分類資料と判断した。内外面ともに青味がかった白濁釉をかけ、口縁部外面に釉だれが観察でき、貫入は観察できない。素地は不純物を含まない白色を呈している。推定口径14.45cmを測る。

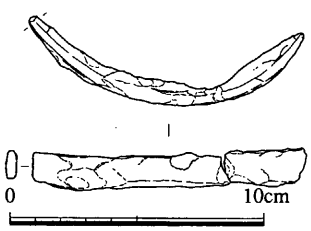


Fig.16　111SB001黒茶色土出土遺物実測図（S=1/3）

瓦質土器

摺鉢（23）　口縁端部をやや上方へつまみ出す形状をとり、1カ所に注ぎ口を作り出すものである。内面は刷毛による器面調整後、単位は不明確ながら条線をつけ、外面は粘土紐痕跡をつぶすように指頭圧痕跡が顕著に残り、体部下位に縦方向の刷毛痕跡が観察できる。内面における使用痕跡は顕著ではない。

こね鉢（24・25）　口縁端部外面はやや丸味を有するもので、内面は刷毛、外面は粘土紐痕跡をつぶす指頭圧痕跡が顕著である。いずれも体部内面下位には使用痕跡が観察できる。25の底部外面の処理は不明。

金属製品（Fig.16）

五徳　推定径の1/4程度が残存しているもので、脚部分は確認できていない。断面形状がやや錆によって膨れているものの、長方形を呈しており、五徳と推定した。

111SB001茶色土出土遺物（Fig.15）

土師質土器

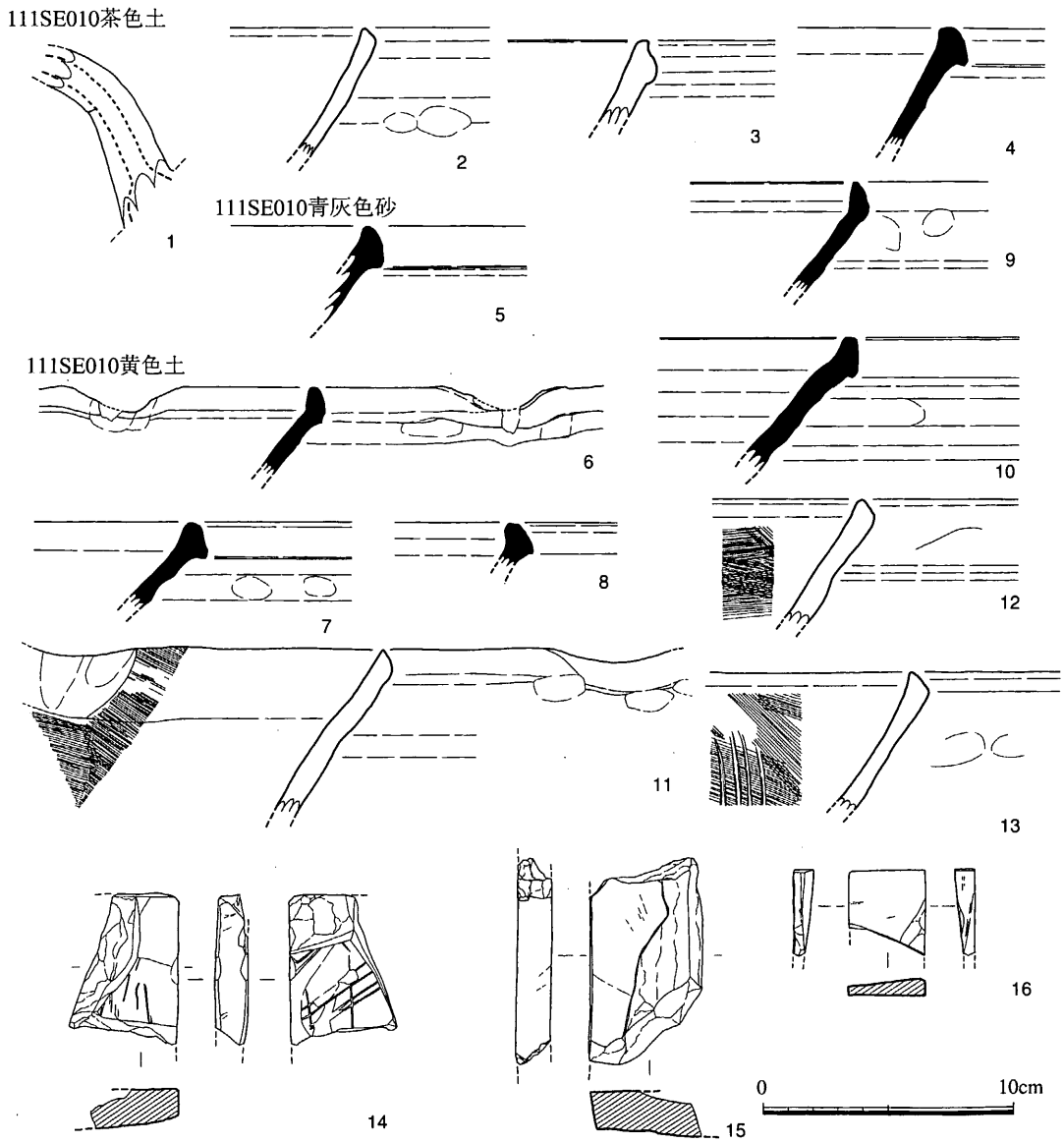


Fig.17　111SE010出土遺物実測図（S=1/3）

鍋（27）　口縁端部の破片のため、形状判断ができないが、やや下位において内方へ屈曲するものと考えられる。器面摩耗のため調整痕跡は不明。色調は内外面ともに暗茶色を呈する。

須恵質土器

こね鉢（28・29）　いずれも口縁部の破片で、28は口縁部上方への拡張が顕著であるのに対し、29はあまり拡張性がみられない。このことから28は荻野VI群、29は荻野V群と考えられる。

青白磁

小皿×小椀（30）　底部の破片のため器種判断がし難い。見込みおよび高台外面までを淡青白色のガラス質釉が掛けられ、細かい気泡が多く含まれている。素地には黒色微粒子が極少量入るものの全体に白色の精選された素地特徴を有している。見込み部分にはヘラによる文様が描かれている。推定高台径は、3.0cmを測る。

b.井戸出土遺物

111SE010茶色土出土遺物（Fig.17）

白磁

水注（1）　注ぎ口のみの破片で、注ぎ口中位部分に折り曲げに際して生じたとみられる亀裂が観察できる。外面には灰白色の釉が掛けられ、素地は白色微粒子を多く含む淡灰白色を呈している。

瓦質土器

こね鉢（2・3）　2は口縁部外面をやや内傾させる形状をとり、外面には指頭圧痕が顕著に観察できる。3は口縁端部を上方へつまみ上げる形状をとり、器面調整については摩耗のため判然としない。

須恵質土器

こね鉢（4）　口縁部のみの破片であるが、口縁部は上下に拡張している。焼成・還元ともに良好であり、胎土には白色微粒子を少量混入している。口縁部形状から荻野VII群に該当するものと考えられる。

111SE010青灰色砂出土遺物（Fig.17）

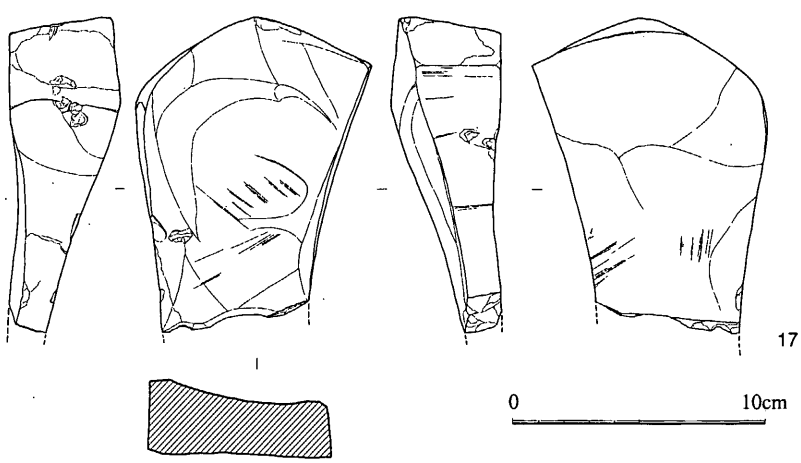


Fig.18　111SE010黄色土出土遺物実測図（S=1/3）

須恵質土器

こね鉢（5）　口縁部内面を剥離するもので、口縁端部内面から外面にかけて残存する。口縁部の上下の拡張性は顕著ではなく、口縁部外面が淡灰色に変色している他は全体に黄茶色を呈している。焼成・還元ともに不良。

111SE010黄色土出土遺物（Fig.17・18）

須恵質土器

こね鉢（6～10）　いずれも口縁部の破片であるが、上方にのみ拡張する6・8・9と下方にのみ拡張する7・10の二者がある。6は注ぎ口をつくり出している。なお6は、井戸枠内堆積土である111SE010黒茶色土と接合関係にある。

瓦質土器

こね鉢（11・12）　内面を刷毛で器面調整するもので、11には注ぎ口部分にあたる。いずれも回転ナデによる成形痕跡が観察できるが、12の口縁部外面には右上方へナデ上げる痕跡が観察できた。

摺鉢（13）　つくりは先述した11および12と変わりないが、体部内面下位に摺り目となる条線が入れられている。体部外面には指頭圧痕が顕著である。

石製品

砥石（14～17）　14～16は泥岩系の石を用い、17は砂岩製である。14は粘板岩製で、3面に使用痕跡が観察できる。15も粘板岩製で剥離が著しいが2面に使用痕跡が認められる。16は、泥岩製で、灰褐色を呈しており、3面に使用痕跡が観察できる。17は、細粒砂岩製で、4面に使用痕跡が観察でき、側面には敲打痕跡が残存している。

c.土坑出土遺物

111SK005（Fig.19）

瓦質土器

こね鉢（1・2）　内面に刷毛を多用し、外面は粘土紐をつぶすように指頭圧痕跡が顕著に残り、その後刷毛にて簡単に調整するものである。1は口縁部形状に丸味がうかがえるが、2はやや外傾した平坦面を形成している。1の体部内面下位には使用による調整痕跡摩耗が観察できる。

土製品

炉（3）　炉床の土製品と考えられ、白色砂粒を多く含む胎土特徴を有しており、外面には炉使用時のタガの締め付けによる帯状の剥離箇所が横方向および縦方向に観察できる。また横方向のタガについては、不整合箇所が観察でき、この箇所で締め付けが行われていた可能性がある。内面には鉱滓が下方へ流れるように付着しており、内面上位に鉱滓の付着は顕著である。

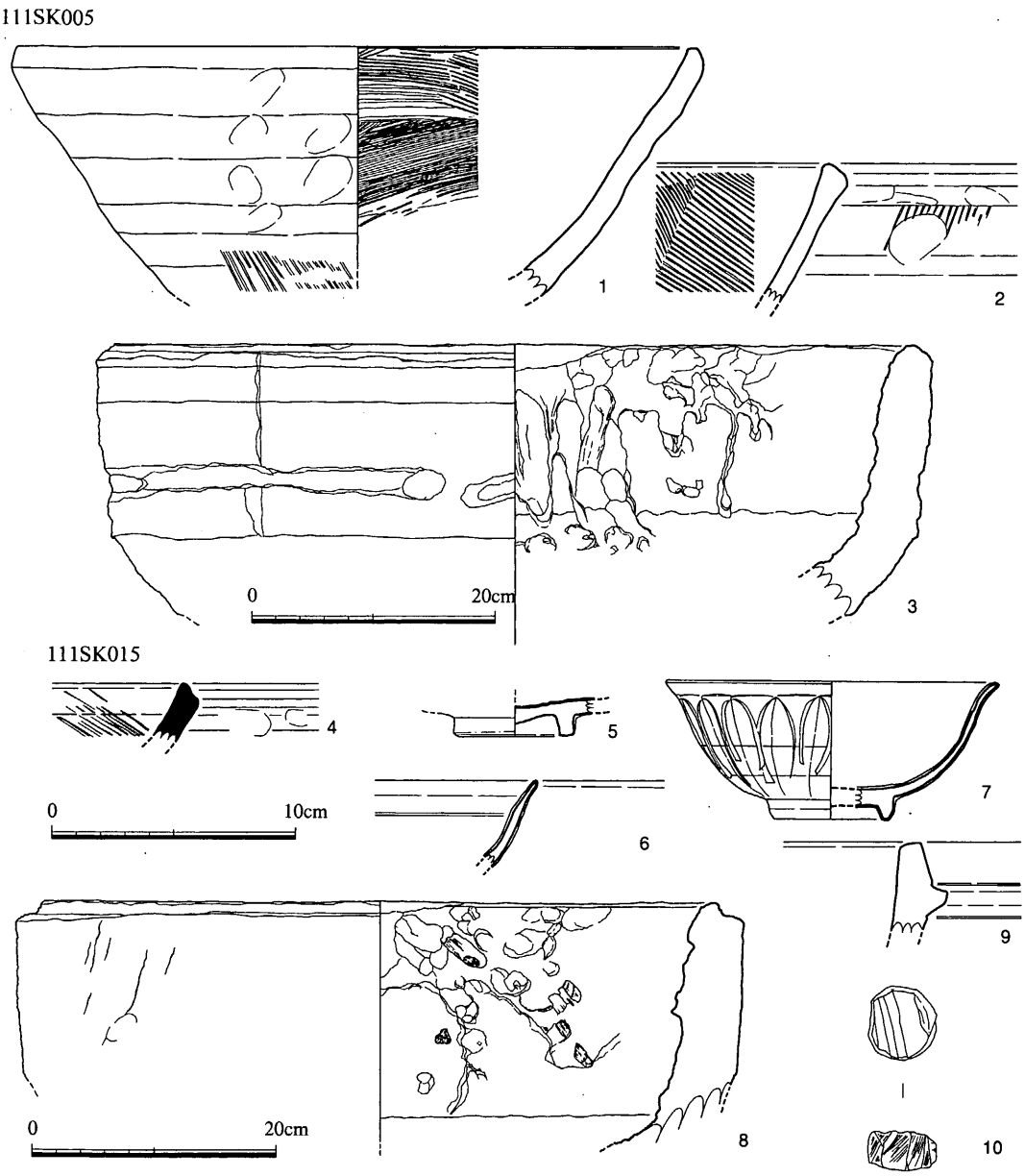


Fig.19　土坑（I面）出土遺物実測図（１）（S=1/3・1/6）

製品の上位には中甑への接合箇所と考えられる段が形成されている（巻頭図版2）。

111SK015（Fig.19）

須恵質土器

こね鉢×摺鉢（４）　内面に刷毛痕跡をとどめるもので、口縁端部を上方へつまみ上げている。口縁部外面には指頭圧痕が観察できる。

白磁

椀（５）　青味がかった灰白色を呈する濁った釉調で、細かい気泡が僅かに観察できる。素

地は灰白色のきめ細かいもので、見込み部分に判然としないが陽刻による文様が描かれている。(Pla.20)

青磁

椀（6・7）　6は口縁部のみの破片であるが、黄緑色のやや濁りのある釉で、内外面ともに大きめの貫入が入る。口縁部内面には一条の圏線が描かれている。素地には茶色微粒子および気泡を若干含み、以上の特徴から龍泉窯系青磁椀IV類と考えられる。7は、体部外面に鏑蓮弁を描き出すが、高台外端を斜めに削りだし、黄緑色の濁った釉を厚めに掛け、白色微粒子を多量に含む淡灰白色の素地特徴を有している。高台の特徴から龍泉窯系青磁椀IVエ類と考えられる。なお、7は見込み部分の残存率が悪いものの何らかの文様が描かれている痕跡が観察できる。(Pla.20)

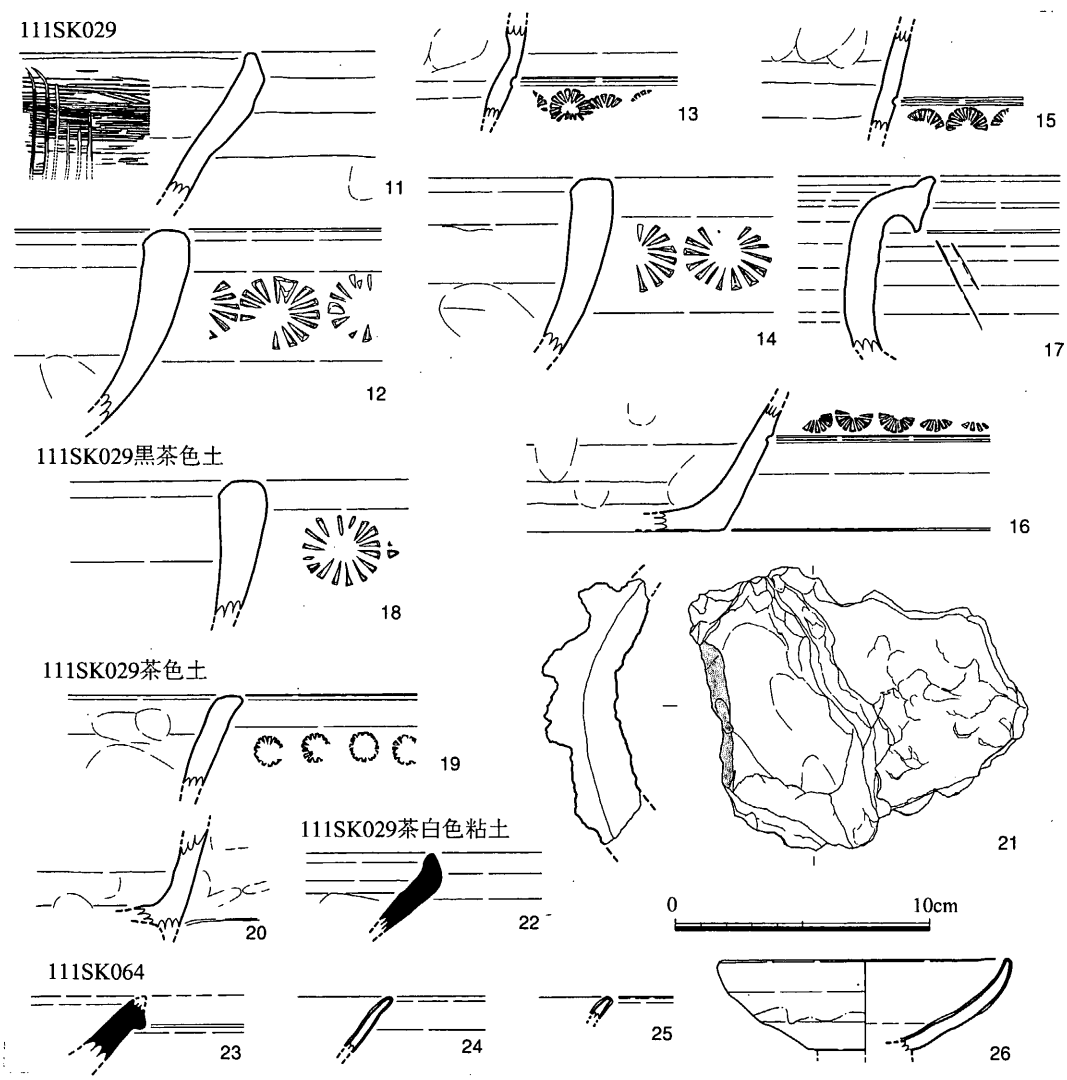


Fig.20　土坑（I面）出土遺物実測図（2）(S=1/3)

土製品

炉（８）　炉床の土製品と考えられ、111SK005出土のものと同様に白色砂粒を多く含む胎土である。外面には縦方向のしわが形成され、そのしわを消す目的で指頭圧痕が観察できる。内面には鉱滓および黒鉛化木炭が付着している。製品の上位には中甑への接合箇所と考えられる段が形成されている（Pla.20）。

瓦玉（10）　直径約3.0cmを測り、周囲に擦痕が観察できる。

石製品

石鍋（９）　口縁部のみの破片で、口縁部外面に鍔を巡らせるものである。傾きから森田分類B群に該当するものと考えられる（森田、1983）。鍔より下位に煤が付着している。

111SK029出土遺物（Fig.20）

瓦質土器

摺鉢（11）　口縁端部を上方へ立ち上げた形状を呈し、内面を刷毛にて器面調整し、６条を一単位とする摺り目を入れている。外面は指頭圧痕らしき凹凸が観察できるが、器面摩耗のため判然としない。

土師質土器

火鉢（12・14）　燻し不足のため土師質土器として認識した可能性も残されている。口縁端部に平坦部を有し、口縁部外面にスタンプによる菊文が押印されている。

瓦質土器

火鉢（13・15・16）　13と15は体部中位の破片と推測でき、内面には外面のスタンプによる菊文を押印する際の指頭圧痕跡が観察できる。16は体部下位から底部外縁にかけての破片で、外面にはやはりスタンプによる菊文が押印されている。

陶器

甕（17）　口縁部から頸部上位の破片でN字状口縁を呈している。頸部外面には直線による二条の刻線が描かれている。口縁部内面から外面全体に灰黒色の自然釉が掛かっている。常滑系の製品と考えられる。

111SK029黒茶色土出土遺物（Fig.20）

瓦質土器

火鉢（18）　口縁部の破片で、口縁端部をやや平坦に仕上げたものである。口縁部外面にはスタンプによる菊文が押印されている。

111SK029茶色土出土遺物（Fig.20）

土師質土器

香炉（19）　やや小形の製品であることから香炉と推定した。内外面ともに丁寧な回転ナデ

によって仕上げられており、口縁部外面にはスタンプによる菊文が押印されている。

瓦質土器

火鉢（20）　脚を貼付するものと考えられる。

土製品

鞴羽口（21）　炉へ挿入した部分と考えられ、内面に器面調整のための指頭圧痕跡が残っている。先端部分には高温のためか還元された箇所があり、外面には鉱滓が厚く付着している。(Pla.21)

111SK029茶白色粘土出土遺物（Fig.20）

須恵質土器

こね鉢×摺鉢（22）　口縁端部を上方へ跳ね上げるもので、口縁端部外面が黒灰色に変色している。内面には右下がりの不定方向のナデ痕跡が観察できる。焼成および還元不良。

111SK064出土遺物（Fig.20）

須恵質土器

こね鉢×摺鉢（23）　口縁部外面を下方に拡張するもので、灰色の色調を有している。わずかの破片であることから甕の口縁部である可能性も残されている。

青磁

椀（24・25）　口縁部のみの破片で、全形については判然としない。24は内外に暗茶緑色釉が掛けられ小さな貫入が生じている。素地には極少量の気泡が認められ、淡赤褐色を呈するきめ細かな特徴を有している。25は黄緑色の釉で大きめの貫入が生じている。素地は精選されており淡黄白色を呈している。いずれも龍泉窯系青磁IV類の範疇に入るものと考えられる。

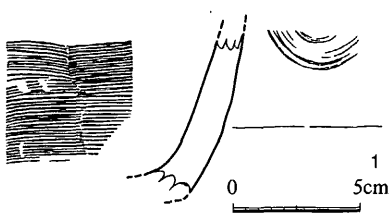


Fig.21　111SD059（I面）
出土遺物実測図（S=1/3）

陶器

椀（26）　天目椀と考えられ、赤茶色のガラス質釉を掛けている。素地には白色微粒子を多く含み、黒灰色のきめ細かい素地特徴を有している。推定口径11.4cmを測る。

d.溝出土遺物

111SD059出土遺物（Fig.21）

土師質土器

火鉢（1）　体部下位の破片資料で、全形については判然としない。内面は横方向の刷毛にて仕上げられており、外面にはスタンプと考えられる文様が押印されている。

e.その他の遺構出土遺物

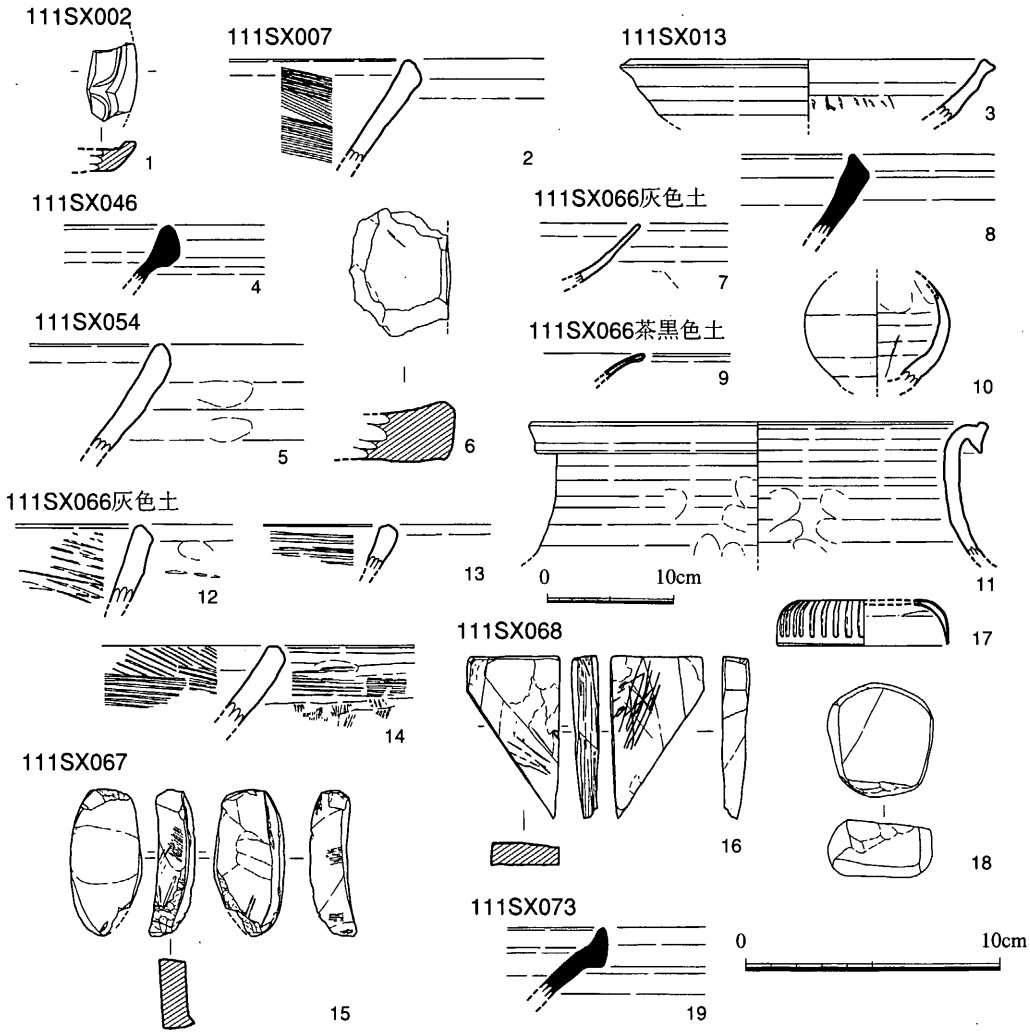


Fig.22　その他の遺構（I面）出土遺物実測図（S=1/3・1/6）

111SX002出土遺物（Fig.22）

土製品

鋳型（1）　小破片のため、鋳造品の器種については判断できない。鋳込み面の一部に精製された真土が残存している。

111SX007出土遺物（Fig.22）

瓦質土器

こね鉢×摺鉢（2）　口縁部のみの破片であるため器種限定には至っていない。内面は刷毛による器面調整がなされ、外面については器面摩耗のため不明確。

111SX013出土遺物（Fig.22）

陶器

おろし皿（3）　口縁部から体部下位の破片で、口縁端部は外傾する平坦部を形成し、体部

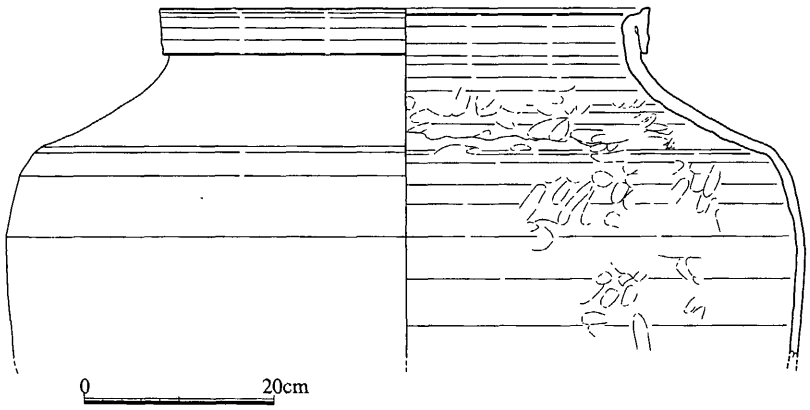


Fig.23　111SX034出土大甕実測図（S=1/8）

下位からヘラによるおろし目が観察できる。内外面に灰黄色の釉が掛けられている。

111SX034出土遺物（Fig.23）

陶器

甕　体部上位から口縁部にかけての破片で、土坑内に破砕されて廃棄されていたものである。内外面ともに暗灰色を呈しており、胎土に砂粒が目立つ。口縁部を「N」字状に形づくり、頸部へ押しつける形状を有している。

111SX046出土遺物（Fig.22）

須恵質土器

こね鉢（4）　口縁端部の破片であることから器種を限定するには無理があるが、還元良好な須恵質であり、内外面回転ナデによる調整がなされていることから東播系製品と考え、こね鉢とした。口縁部外面のみ下方に拡張する傾向があり、荻野VI群に該当するものと考えられる。

111SX054出土遺物（Fig.22）

瓦質土器

こね鉢（5）　口縁端部を丸味をもって仕上げるもので、内外面ともに回転ナデにより調整し、口縁部外面には指頭圧痕が認められる。

石製品

砥石（6）　中粒砂岩製で、1面に使用痕跡が観察できた。

111SX066茶黒色土出土遺物（Fig.22）

須恵質土器

鉢（8）　口縁部の破片で、口縁部の拡張性が顕著でない。口縁部外面が一部灰黒色に変色するほかは、内外面ともに灰褐色を呈しており、還元度合いがやや良好である。

白磁

皿×椀（9）　口縁部の小破片であることから器種限定には至っていない。灰色気味の白色を呈し、濁った釉で貫入や気泡は認められない。極少量の黒色微粒子を含む暗白色の素地特徴を有している。

土師質土器

小壷（10）　手持ち成形によった製品と考えられ、内外面に不規則な凹凸が観察できる。調整痕跡については明確に判断できる痕跡は残存していない。焼成不良である。

陶器

甕（11）　大形の甕で、N字状口縁を呈するもので、頸部内外面に指頭圧痕が観察できる。

111SX066灰色土出土遺物（Fig.22）

青磁

皿（7）　暗灰褐色のガラス質釉を内外面に掛け、黒色微粒子をやや多めに含む灰白色の素地特徴を有している。やや外方に開く体部形状を呈し、口縁端部の釉が使用によるものなのか摩耗している。

瓦質土器

鉢（12～14）　内面に刷毛を多用するもので、12と13については外面に指頭圧痕が観察でき、14は外面に横方向の刷毛および下位は縦方向の刷毛によって仕上げられている。

111SX067出土遺物（Fig.22）

石製品

用途不明製品（15）　滑石製で、丁寧に成形されており、部分的に黒色に変色していることから石鍋の再加工品の可能性がある。使用痕跡が狭い面にのみ残存していることから、手持ちによる器面調整に使用する工具の可能性がある。

111SX068出土遺物（Fig.22）

石製品

砥石（16）　泥岩製で、3面に使用痕跡が観察できる。部分的に明淡赤色に変色した箇所があり、焼けた可能性がある。

白磁

合子（17）　蓋で、外面および天井部内面に青味のある白灰色～淡青緑色のガラス質釉が掛けられており、外面の貫入は口縁部から天井部へ移行するにつれて拡大する傾向にある。天井部内面の貫入は細かい。素地特徴としては黒色微粒子を少量含む白褐色を呈している。

土製品

瓦玉（18）　直径約4.5cm内外を測るもので、部分的に滑らかに使用されている。

111SX073出土遺物（Fig.22）

須恵質土器

こね鉢（19）　口縁部外面を下方に拡張するもので、口縁部外面のみ黒褐色に変色しており他の部位は褐灰色を呈している。内面には不定方向のナデ痕跡が観察できる。荻野VI群に該当する東播系製品と考えられる。

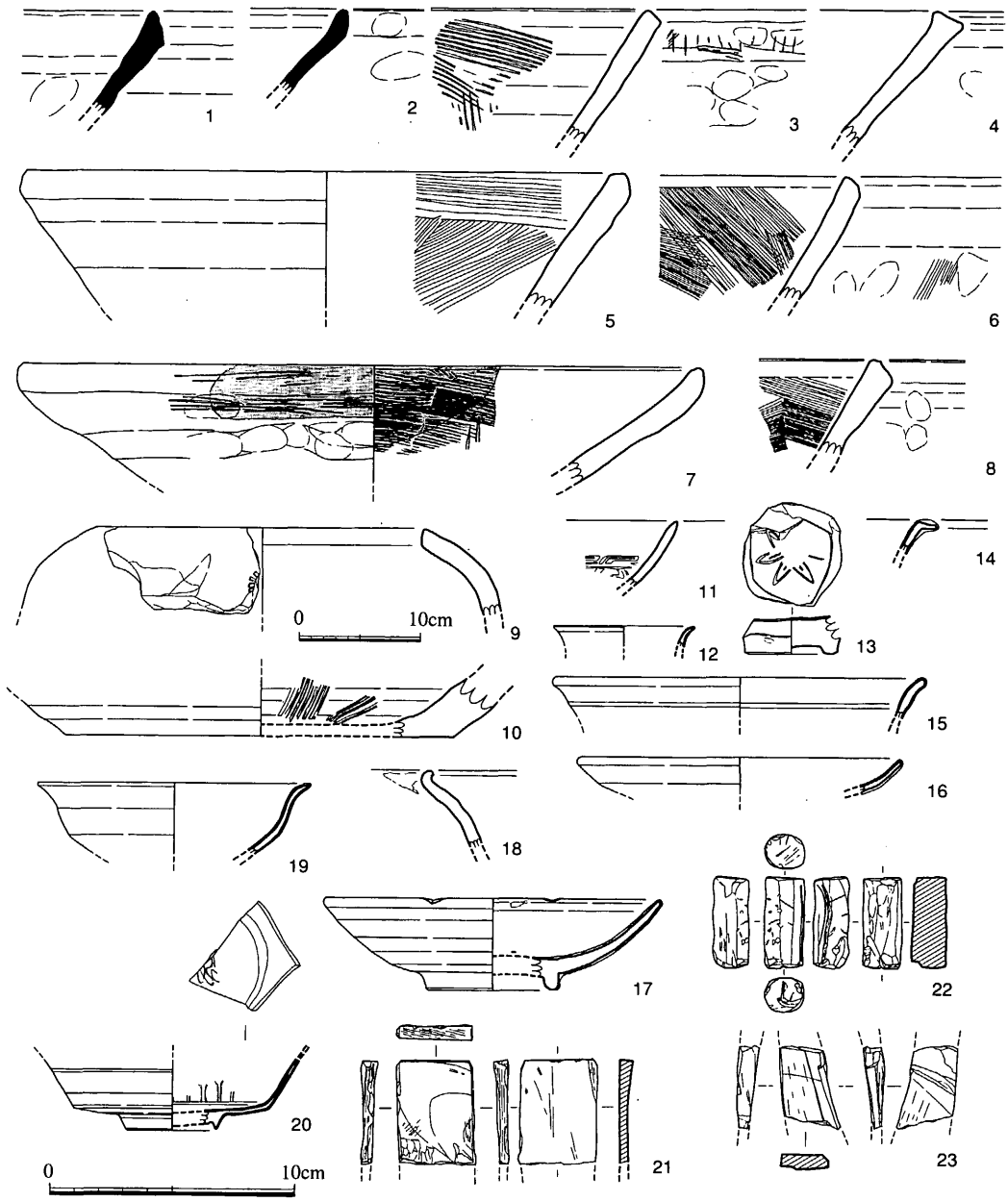


Fig.24　111茶褐色土出土遺物実測図（S=1/3・1/6）

e.土層出土遺物

111茶褐色土出土遺物（Fig.24）

I面遺構検出時の遺物で、表層にある耕作土の遺物も混入しており、堆積時期特定には困難な土層にあたる。

須恵質土器

鉢（1・2）　口縁端部を上方へ拡張するもので、1は内面に、2は外面に指頭圧痕跡が観察で

きる。

瓦質土器

摺鉢（3・7）　いずれも内面を刷毛によって調整するもので、体部内面下位に摺り目が残存している。3は口縁端部外面を外傾するように平坦面を形成しているが、7は丸みをもって仕上げている。

こね鉢×摺鉢（4～6・8）　内面を刷毛によって仕上げているもので、外面には指頭圧痕が顕著に残存している。

土師質土器

火鉢（9）　丸みのある体部形状をとり、円形の透かし穴が穿たれている。また口縁部外面にはスタンプによる菊文が施文されている。

陶器

摺鉢（10）　底部の破片で、7条を一単位とする摺り目が内面に付けられている。内外面ともに褐色系の色調を呈しており、備前系製品と考えられる。

白磁

椀（11）　内外面ともに黄白色のガラス質釉で、細かい貫入が内外面ともに生じている。素地は黒色微粒子および気泡を少量混入する白色を呈するもので、体部内面に型押しと考えられる雷文が残っている。

水注×瓶（12）　口縁部の小破片のため、全形については判然としない。茶色味を帯びた白色釉で、細かい貫入が生じている。素地は灰色味を帯びた白色を呈している。

青磁

椀（13・17）　13は高台の破片で、見込み部分にスタンプによる華文が認められる。畳付けから底部外面にかけては露体で、それ以外の箇所は明淡緑色を呈する釉が掛けられている。龍泉窯系青磁椀I類の範疇に入るものと考えられる。17は器高の浅い椀で、茶色味を帯びた濃緑色釉で気泡がわずかに入り、大小の貫入が内外面に生じている。口縁端部外面にヘラ切り込みによる輪花が入れられている。

坏（14）　口縁端部のみの破片で器種特定には不安が残る。口縁端部を外方へ折り曲げており、内外面に青緑色の釉が厚めに掛けられている。素地は灰白色を呈し、黒色微粒子を少量含む。

壺（15・18）　15は器種特定には不安が残るが、体部外面に屈曲部分が観察できるため壺とした。内外面に茶色味を帯びた淡緑色を呈する釉が掛けられている。内面には一

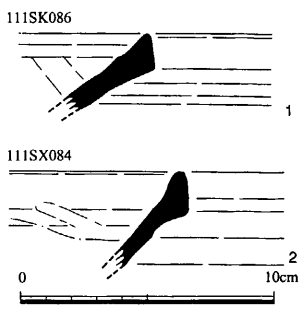


Fig.25　遺構（II面）
出土遺物実測図（S=1/3）

条の沈線が巡る。18は口縁部内面に釉むらによる露体部分があるが、内外面全面に暗青緑色の濁りのある釉を掛けており、貫入が多く生じている。素地は細かい気泡が多く入る灰色を呈している。

皿（16）　口縁部の破片で、やや茶色味を帯びた淡緑色釉で気泡を多く含んでいる。体部中位ほどで屈曲している。

青白磁

小椀（19）　口縁部が外反する形態を有するもので、内外面ともに濁った青白色釉を掛け、釉には気泡が多く含まれている。

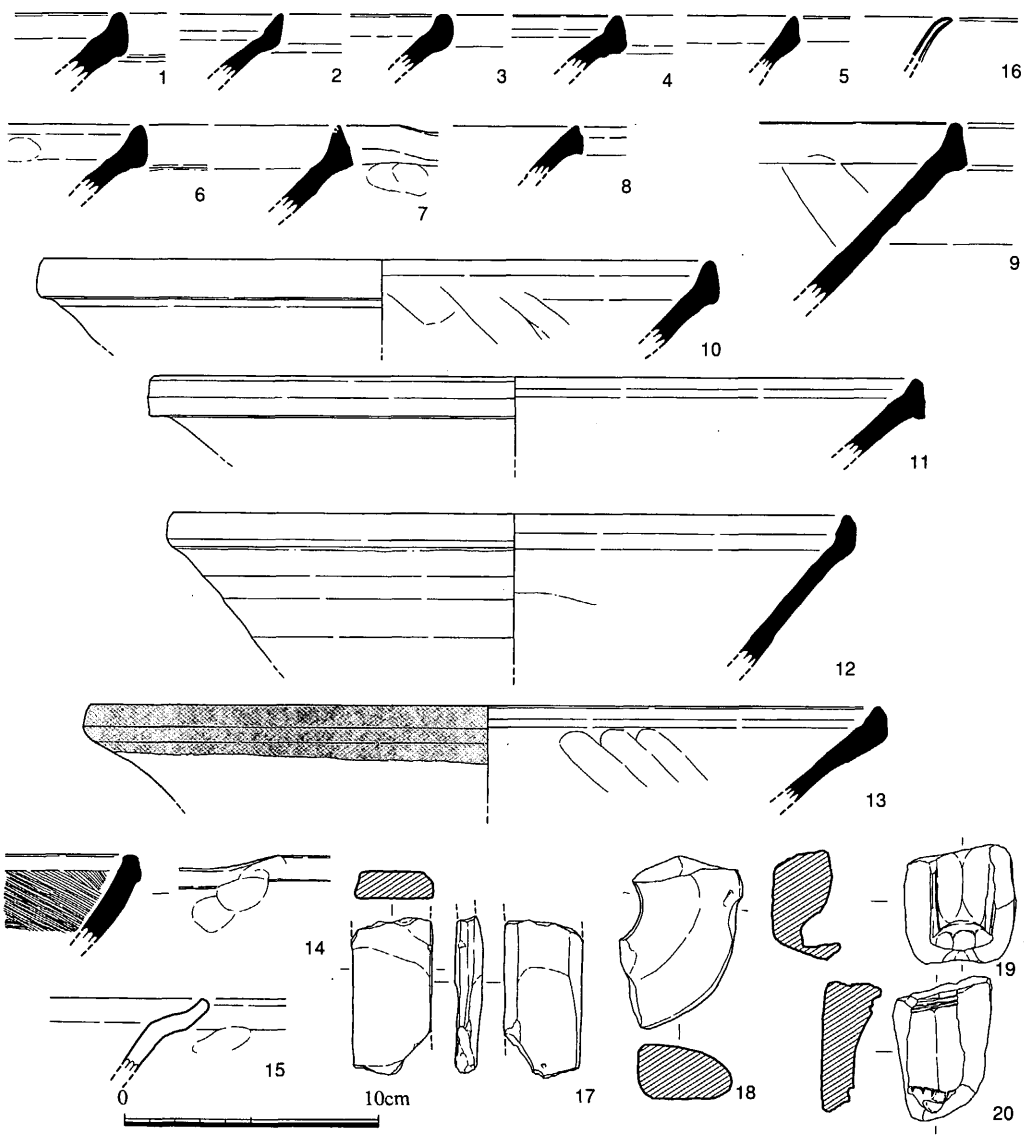


Fig.26　111黒茶色土出土遺物実測図（S=1/3）

坏（20）　底部から体部への移行が鋭角に屈曲しているもので、薄い器壁を有している。内面には型押しと考えられる区画文および、見込みには文様らしき痕跡がわずかに観察できる。底部外面以外は全面に施釉されており、釉は青白色の色調を有し、細かい気泡が多く混入している。

石製品

砥石（21・23）　いずれも泥岩製で、21は全面、23は4面に擦り痕跡が観察できる。

用途不明製品（22）　褐色系の色調を有する滑石製で、円筒状の形状を作り出している。加工痕跡と考えられる削り痕跡以外には観察できず、用途に関しては判然としない。

遺構II面

a.土坑出土遺物

111SK086出土遺物（Fig.25）

須恵質土器

こね鉢（1）　口縁部の破片で、外面の上下への拡張性はあまり顕著ではない。口縁端部外面が黒灰色に変色しているものの、全体に淡茶黄色を呈し、還元不良であることがわかる。摺鉢の可能性も残されている。

b.その他の遺構出土遺物

111SX084出土遺物（Fig.25）

須恵質土器

こね鉢（2）　口縁端部外面を下方に拡張する製品で、内面に右下がりの方向への不定方向のナデ痕跡が観察できる。口縁端部外面のみ黒褐色に変色している。この製品も変色箇所以外は褐色系の色調を有しており、還元不良であることがわかる。

c.土層出土遺物

黒茶色土出土遺物（Fig.26）

II面遺構を検出する際に取り上げた土層で、I面を構成する整地層の可能性も高い。

須恵質土器

鉢（1～14）　5以外は全て口縁端部外面を下方ないしは上方へ拡張したもので、9・10・13は内面を不定方向のナデによって仕上げられている。また12については体部内面下方に使用痕跡が観察できる。7は不完全ながら注ぎ口がわずかに残存している。14は内面を刷毛によって調整しており、口縁端部に平坦面を形成するなど他の製品とは異質な資料にあたる。

青磁

椀×皿（16）　口縁部の破片で、器種特定には至っていない。内外面ともに暗青緑色を呈す

るやや濁りのある釉で、大きめの貫入が多く生じている。素地は黒色微粒子および気泡が少量入るものである。

石製品

砥石（17）　黄白色の細粒砂岩を利用した砥石で、3面に使用痕跡が観察できる。

土製品

用途不明製品（18）　環状の土製品で、2mm以下の白色微粒子を多く含むなど、後述する鋳型と同様な胎土組成を有している。器面が磨耗しているため製作痕跡および使用痕跡は観察できなかった。

鋳型（19・20）　19は獣脚部分の鋳型と考えられ、下位に空気抜きと考えられる穴が穿たれている。鋳型面への精選された真土は観察できず、全体に白色微粒子を多く含む均質な胎土で構成されている。20は製品については特定できないが、棒状の製品の鋳型ではないかと考えられる。胎土については19と同様の胎土特徴を有している。(Pla.23)

遺構III面

a.建物出土遺物

111SB060出土遺物（Fig.27）

111SB060出土遺物の中で、南側壁溝（S-42）の中に一括廃棄された状況で土師器杯aが99点、小皿aが49点出土している。数点を除き均一な法量をとり、同一型式として認定してよいものと考えられる（Tab.2)。そのような中で、図示した（1・2）については胎土特徴に際が見られたため記載することにした。

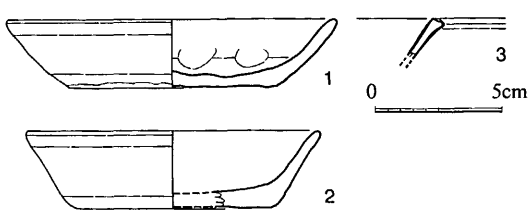


Fig.27　111SB060（S-42）出土遺物実測図（S=1/3）

土師器

杯a（1・2）　多くの製品が白黄色系の色調を有するのに対し、この2点は褐色系の色調を有している。胎土に砂粒を多く混入しているためか、表面上粗く、粗製品的な印象を受ける。製作属性においては、他のものと差はなく、製作技法は同一工人領域に属し、原料土採集地および精製技法、ならびに焼成技法において異なる製作集団によって製作されたものと考えられる。両者ともS-42出土。(Pla.22)

	形式	計測点数	口径【平均値】
111SB060	坏a	99	11.806
	小皿a	49	8.014
111SX036	坏a	12	11.758
	小皿a	10	7.98

Tab.2　111SB060（S-42）・111SX036出土土師器法量表

青磁

杯（3）　龍泉窯系青磁杯III類に該当すると考えられ、内外面には青緑色のガラス質釉が掛けられ、大きめの貫入が入る。口縁部付近には細かい気泡を入

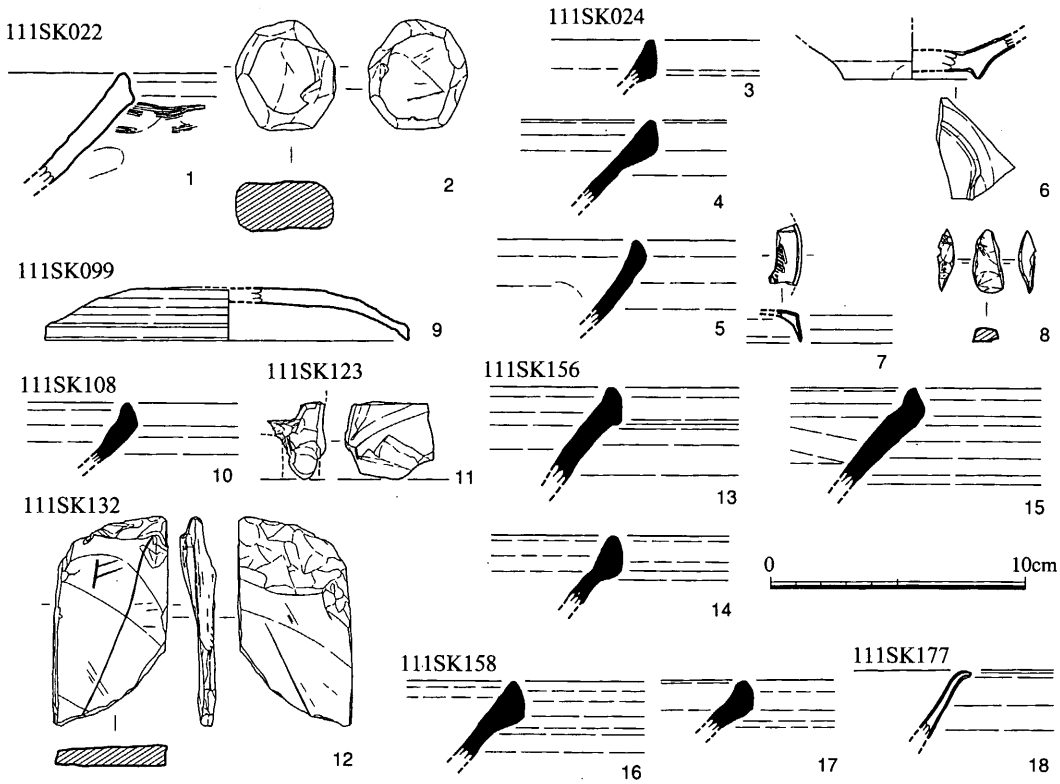


Fig.28　土坑（III面）出土遺物実測図　（S=1/3）

っている。素地には黒色微粒子が極少量混入するほかは灰白色を呈している。

b.土坑出土遺物

111SK022出土遺物（Fig.28）

瓦質土器

鉢（1）　口縁部を上下に拡張しない形状のもので、内面は器面剥離のため不明。外面は指頭圧痕および横方向の刷毛によって仕上げられている。

土製品

瓦玉（2）　凹面の布痕跡が観察でき、周辺を打ち掻くことによって成形したもの。

111SK024（Fig.28）

須恵質土器

こね鉢（3～5）　口縁部の破片で3・4は口縁部外面を下方に拡張し、5は上方へ拡張する傾向がある。いずれも口縁端部外面を黒灰色に変色させ、全体に灰色系の色調を有するなど還元良好な製品といえる。3・4は荻野VI群に、5は荻野V×VI群に該当するものと考えられる。

青磁

椀（6）　高台部分の破片で、淡青灰色のやや濁った釉を掛け、外面には白褐色の不純物が

混入している。高台畳付け部分には目跡と考えられる痕跡が観察でき、素地は白色微粒子を極少量含む灰色を呈している。諸特徴から高麗青磁IV類に該当するものと考えられる。

陶器

合子（7） 蓋の小破片で、天井部外面に浮文を施文する。外面にのみ暗灰白色を呈する濁った釉を掛けている。素地は黒色微粒子を極少量混入する白褐色～灰白色を呈する。

石製品

用途不明製品（8） 小破片のため用途ならびに全形について判断し難い。一部に鉄錆が付着している。全体に削りによる調整を受けており、これ自体が製品なのか、削り滓なのかは判然としない。

111SK099出土遺物（Fig.28）

土師器

蓋（9） 口縁端部を断面三角形につくり出す蓋3に該当し、天井部外面を回転ヘラ削りによって仕上げ、口縁端部は3工程によって丁寧に形づくっている。調整痕跡の残存度合いが悪く、焼成はやや不良である。推定口径14.5cmを測る。

111SK108出土遺物（Fig.28）

須恵質土器

鉢（10） 口縁端部を上方へ僅かに拡張するもので、白灰色の色調を有し、還元不良である。

111SK123（Fig.28）

青白磁

香炉（11） 脚部のみの破片であり、全形が判然としない。ここでは香炉として報告するが、他の器種である可能性も残されている。濃青色～淡青色を呈する釉が掛かり、気泡を多量に含んでいる。釉の透明度は高い。素地は、黒色微粒子を多量に含む茶色味を帯びた白色を呈している。

111SK132出土遺物（Fig.28）

石製品

砥石（12） 泥岩製で、3面に使用痕跡が観察できる。

111SK156出土遺物（Fig.28）

須恵質土器

こね鉢（13～15） いずれも口縁部の破片で、口縁端部外面を暗灰黒色に変色させている。13・15は口縁端部を上方へ僅かに拡張し、14は下方に拡張する傾向がある。13・15は荻野V×VI群、14は荻野VI群に該当するものと考えられる。

111SK158出土遺物（Fig.28）

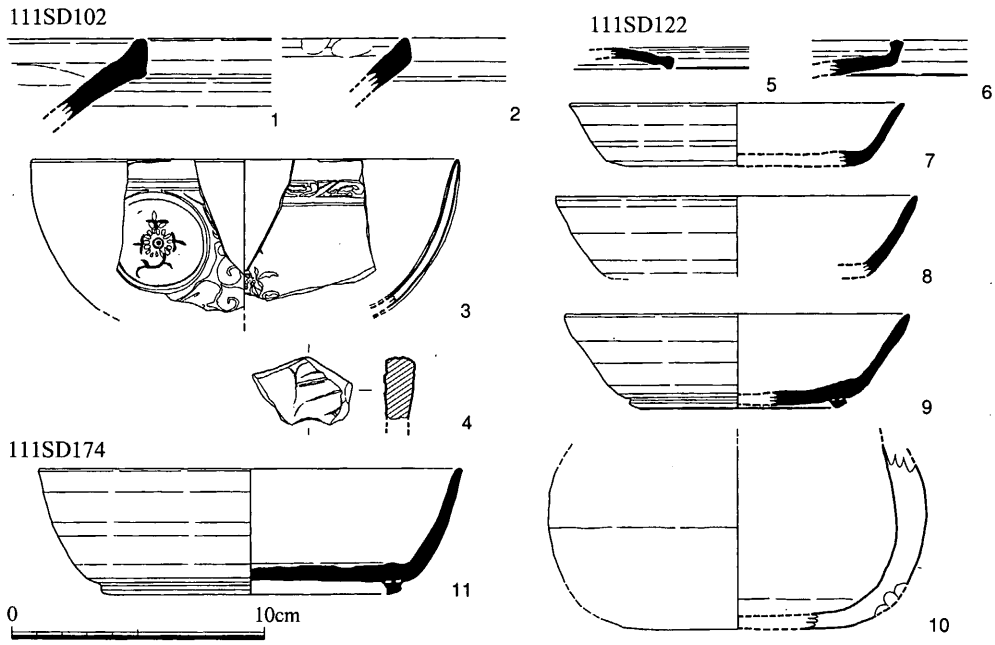


Fig.29　溝（III面）出土遺物実測図（S=1/3）

須恵質土器

こね鉢（16・17）　口縁部のみの破片であるが、いずれも口縁端部外面を下方に拡張する製品である。口縁端部外面は両者とも黒灰色に変色させている。荻野VI群に該当するものと考えられる。

111SK177出土遺物（Fig.28）

白磁

椀（18）　口縁端部を外方に屈曲させるもので、青味を帯びた白色の釉で、気泡が顕著に観察できる。素地特徴としては、黒色微粒子ならびに気泡が極少量観察でき、全体に灰色味を帯びた白色を呈している。形状から白磁椀V-4類×VIII-1類の可能性がある。

c.溝出土遺物

111SD102出土遺物（Fig.29）

須恵質土器

こね鉢（1・2）　口縁部の破片で、口縁部外面の上下への拡張性は顕著ではない。焼成・還元ともに良好で、1は荻野VI群に、2は荻野V群に該当するものと考えられる。

象嵌青磁

椀（3）　推定口径17.2cmを測り、内外面に象嵌を施すものである。外面には白色土と黒色土の両者を用いた華文を描き、内面には残存する箇所のみでは、白色土を用いて口縁部内面に

帯状の文様帯を描き、体部下位には華文を描いている。釉調は暗青緑色を呈し、やや厚めに施釉され外面に大きめの貫入が入っている。諸特徴から、西谷氏設定のIII期に属する製品と考えられる（西谷、1983）。

土製品

鋳型（４）　小破片であることから、製品としての仕上がりが何であるのかは推測し難い。白色微粒子を多く含む胎土で、鋳型面とに差異は見られず均一な真土を使用している。

111SD122出土遺物（Fig.29）

須恵器

蓋（５）　口縁端部を断面三角形に作り出す蓋3で、口縁端部を三工程によって丁寧に成形するものである。焼成はやや不良だが、還元は良好。

高坏（６）　口縁端部の破片で、蓋の可能性も残されているが、口縁端部に平坦面を有することから高坏口縁部と判断した。器面摩耗のため、調整痕跡は観察できなかった。

杯（７～９）　体部上位から口縁部の破片である８については、底部と体部境界の形状はわからないが、７および９については、やや丸味を有しつつ体部へ移行する形状をとっている。７は高台を貼付しないものと推察され、底部外面はヘラ切りによって処理されている。９は内端を接地する高台を貼付する坏cで、底部外面はヘラ切り後不定方向のナデによって調整されている。いずれも還元良好。

土師器

壷（10）　体部のみの破片で、丸い形状を呈するものと考えられる。内面にやや粗い回転ナデ痕跡が観察できる以外は、器面摩耗のため不明である。

111SD174出土遺物（Fig.29）

須恵器

坏（11）　底部からやや丸味をもって体部へ移行するもので、体部の立ち上がりは、上方へきつく立ち上がる。底部外面はヘラ切りによって処理され、内端を接地する高台を貼付する坏cに該当する。推定口径16.9cm、器高5.0cm、推定高台径12.0cmをそれぞれ測る。

d.その他の遺構出土遺物

111SX023出土遺物（Fig.30）

瓦質土器

こね鉢×摺鉢（１）　器表面摩耗および剥離のため調整痕跡の詳細は観察できないが、外面に指頭圧痕と考えられる凹凸が観察できる。口縁端部の拡張性は認められない。

青磁

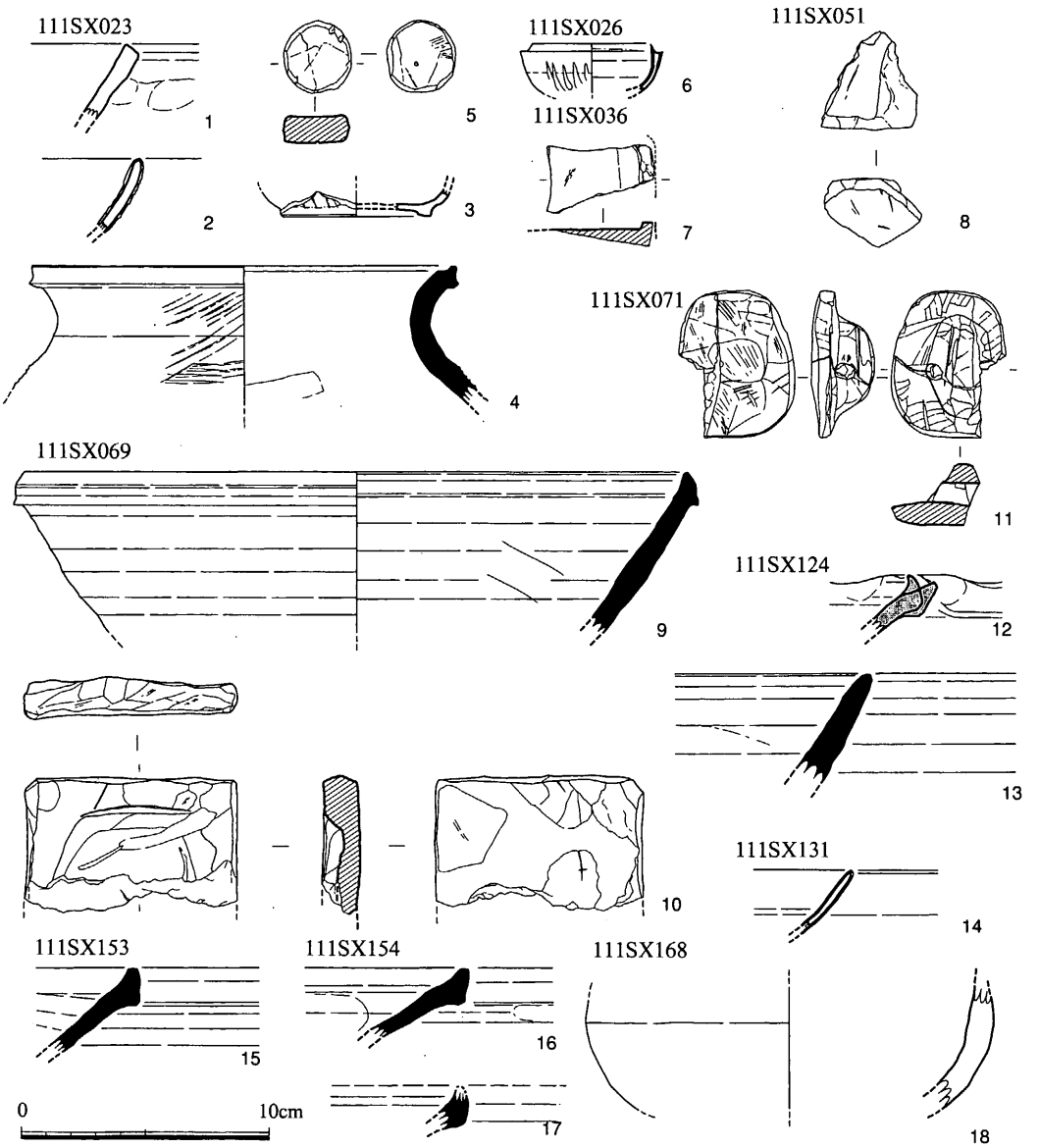


Fig.30　その他の遺構（III面）出土遺物実測図（S=1/3）

椀（2）　淡青緑色の釉が掛けられているが、二次焼成を受けているためか、表面に気泡が多く観察され、荒れた印象を受ける。素地には気泡がわずかに含まれているが全体に緻密な印象を受け、内面側が青灰色、外面側が淡灰色を呈している。焼成・還元ともに当初の状況は判断できない。

青白磁

合子（3）　合子の身と考えられるが、小椀の可能性も残されている。高台脇から底部全面にかけては露体で煤が付着している。高台脇から体部外面、さらに内面にかけては施釉され、内面は淡青白色のガラス質釉、外面は明青白色のガラス質釉で大きな貫入が多く生じている。

素地には黒色粒子が極少量混入し、白色を呈している。

須恵質土器

甕（4） 口縁端部をナデによって窪ませるもので、外面には平行叩き痕跡が後処理のナデの下位に残存している。焼成・還元ともに良好。

石製品

用途不明製品（5） 円形を呈するもので、用途については不明。器表面は丁寧に仕上げられているため、削り痕跡が顕著ではない。淡青白色の滑石を使用している。

111SX026出土遺物（Fig.30）

白磁

合子（6） 青白色の釉を体部外面および体部内面以下に施釉している。他の部分については露体。体部外面には浮文を形づくっている。素地には白色砂粒を極少量含み、灰色味のある白色を呈している。

111SX036出土遺物（Fig.30）

石製品

硯（7） 風字硯と考えられ、暗赤茶色の凝灰岩製と考えられる。陸部分のみ残存していた。

111SX051（Fig.30）

石製品

砥石（8） 細粒砂岩製の砥石で、2面の使用面が観察できる。

111SX069出土遺物（Fig.30）

須恵質土器

こね鉢（9） 口縁端部外面を下方に拡張するもので、口縁端部外面のみ黒灰色に変色させている。全体的には灰色を呈しており、白色微粒子を多量に含む胎土である。焼成および還元良好。

石製品

硯（10） 風字硯と考えられ、海の部分が残存していた。白灰色系の色調を有する滑石製。

111SX071出土遺物（Fig.30）

石製品

用途不明製品（11） 楕円形の全体形状を有し、把手状を作り出し、部分に穿孔している。全体的に丁寧に削り出されている。石鍋補修具の用途が推定される。

111SX124出土遺物（Fig.30）

須恵質土器

こね鉢（12・13） 12は注ぎ口部分の破片で、白灰色を呈しており、焼成良好だが、還元は

不良な製品である。13は口縁端部を丸く仕上げるもので、暗灰色を呈することから還元良好な製品であるが、産地については不明である。

111SX131出土遺物（Fig.30）

青磁

皿（14）　口縁部のみの破片で全形については不明。内外面ともに茶色味を帯びた淡灰青色を呈しており、極少量の気泡が観察できる。素地には白色砂粒および気泡が極少量含まれており、全体に淡灰色を呈している。

111SX153出土遺物（Fig.30）

須恵質土器

こね鉢（15）　口縁端部外面を下方に拡張するもので、この部分のみ黒灰色に変色させている。全体的に青灰色系の色調を呈していることから、還元良好な製品である。荻野VI群に該当するものと考えられる。

111SX154出土遺物（Fig.30）

須恵質土器

鉢（16・17）　いずれも口縁部の破片で口縁端部外面を下方に拡張するものである。口縁端部外面のみ黒茶色に変色させるもので、胎土に白色および黒色微粒子を若干混入する。荻野VI群に該当するものと考えられる。

111SX168出土遺物（Fig.30）

土師質土器

壷（18）　体部のみの破片で全形については不明。胎土には白色砂粒を多量に混入している。

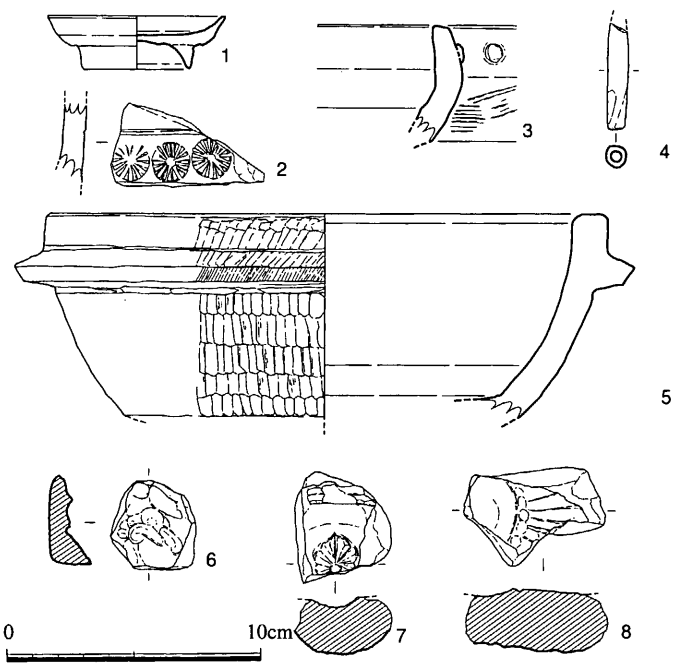


Fig.31　111黄色土出土遺物実測図（1）（S=1/3）

e.黄色土出土遺物（Fig.31・32）

この土層はIII面遺構検出時の遺物にあたる。

土師器

小皿（1）　高台を貼付する小皿cで、皿中央部に一カ所穿孔されている。推定口径7.1cm、器高2.1cm、推定高台径4.2cmを測る。

瓦質土器

火鉢（2）　体部の破片で全形については、判断できない。体部外面に二条の沈線を巡らせ、その間にスタンプによる菊文を施文するものと考えられる。

土師質土器

火鉢（3）　やや内湾する口縁部形態を有し、口縁部外面に円形の粘土を貼付して文様としている。体部外面下位には刷毛痕跡が観察できる。

土製品

土錘（4）　円筒状のもので、器面摩耗のため調整痕跡は判然としない。なお残存部分での重量は2.8gを量る。

鋳型（6～8）　いずれも製品の特定には至らないが、7は華文が認められ飾り金具、8については、鐘の撞き座部分の可能性がある。いずれも白色砂粒を多く混入し、全体的に均質な胎土特徴を有している。(Pla.23)

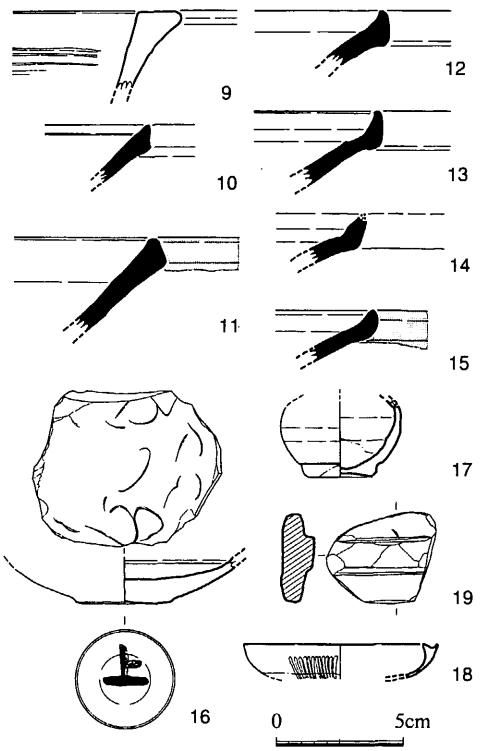


Fig.32　111黄色土出土遺物実測図（2）(S=1/3)

石製品

鍋（5）　口縁部外面に鍔を巡らせるもので、森田分類のB群に該当する。外面は丹念に削りによって器面調整がなされ、内面に至っては磨きともとれる細かい調整によって器面を整えている。鍔上面に煤が付着している。脈のない青灰色の滑石を使用している。推定口径22.2cmを測る。

土師質土器

鍋（9）　口縁端部を平坦に作り出すもので、平坦面は無文。内面に粗い刷毛痕跡が観察できる。胎土には白色粒子を多く含んでおり、外面は黒茶色、内面は明黄褐色を呈している。

須恵質土器

鉢（10～15）　口縁端部を上下に拡張しないもの（10・11・15）、上部に拡張するもの（12・13・14）の二者がある。なお胎土に白色微粒子を含むもの（11・12）、黒色微粒子を含むもの（10・13・14・15）があり、形態と胎土とに相関性は認められない。13については、内面に煤状のものが付着している。

白磁

皿（16）　内外面ともに灰白色の濁った釉を掛け、貫入は認められない。素地は黒色微粒子を極少量混入する灰白色を呈するもので、見込み部分に判然としないがヘラによる文様が描かれている。また底部外面には「上」と判読できる墨書がある。白磁皿VI-bに該当するものと考えられる。(Pla.24)

合子（18）　口縁部ならびに底部外面に施釉しないもので、青味がかった白濁釉が掛けられている。釉に貫入は認められない。体部外面にはヘラによる縦方向の文様が描かれている。

青磁

小壺（17）　体部内面および体部外面において淡青緑色の濁った釉が掛かり、やや大きめの貫入が内外に多く入る。素地は混入物も無く精選されている。底部外面はナデによって仕上げられている。

石製品

用途不明製品（19）　鍔の巡る石鍋の破片を再利用したもので、鍔の前後には煤が付着している。内外面ともに褐灰色を呈する滑石を使用。

5）小結

a.各遺構面形成時期

今次調査では、調査運営上詳細な調査を実施することができず、都合三面の生活面を確認したにすぎなかった。基本土層図に表記したように、遺構形成面の下位には基盤層近似層による整地層が確認でき、新たな生活面形成時に整地行為が実施されていたことがわかる。この遺構形成面間の堆積土、つまり遺構形成面下の整地層と考えられる土層から、下位にある遺構形成面間に確認できる土層をいつの時期のものとして認定するのか。上位遺構形成時期に一度期に整地がなされたと考えると、この層から出土する遺物が、上位遺構形成時期に近い存在となる。さらに上位遺構内から出土する遺物の中で最も新規型式の遺物が、上位遺構の廃絶時期に近い存在である可能性が高い。しかし出土した遺構の性格、出土した状況、調査時の混入など様々な要素を複合的に捉え解釈していく必要がある。

したがってここでは、あくまでも作業仮説として、整地層（下位遺構上面から上位遺構形成時の整地層までの堆積土）内の遺物は、下位遺構廃絶時期および上位遺構の形成時期に近い存在として捉え、堆積時間の長短を無視して考える。

基盤層に直接形成された遺

層位	形式	計測点数	口径【平均値】	東播系製品				備考
				III群	V群	VI群	VII群	
I面	坏a	21	11.348		2	4	4	←点数
	小皿a	42	7.917		20	80	80	←割合（%）
II面	坏a	4	12.267		1	12	10	
	小皿a	6	7.4		4	52	44	
III面	坏a	42	12.255	1	2	15	9	
	小皿a	48	8.16	4	7	56	33	

遺構出土遺物から算出。

Tab.3　土師器法量表【層位別】

構

基盤層に直接形成された遺構としては、111SD122、111SX099があり、遺構内から出土した遺物から奈良前期中頃に埋没したことがわかる。今次調査区内において検出した遺構で、遺構形成時期が明らかな最古のものにあたる。遺構性格が不明瞭なため、具体的な機能については言及できない。

III面検出遺構

III面検出遺構の代表的なものは、111SB060、111SB065がある。III面遺構の形成時期は、先述した基盤層に直接形成された遺構上面に堆積する灰色砂質土が出土遺物から平安後期頃に推定でき、この灰色砂質土を直接切り込むIII面遺構が検出できなかったため、根拠薄弱ではあるが平安後期頃まで遡る可能性はある。では廃絶時期はいつ頃なのかというと、111SB060の壁溝内（S-42）に一括廃棄された多量の土師器坏aおよび小皿aから導き出すことが可能である。本文にて報告したとおり、多量出土の土器群を除去した段階で壁に用いたと考えられる多数の小穴を検出したことから、建物壁として機能していた時期ないしは建物建造のための祭祀行為というのではなく、建物廃絶後に壁除去溝内に廃棄されたものの可能性が極めて高い。したがって、この多量に出土した土師器坏aおよび小皿aの時間軸上での位置を与えてやることで、建物（111SB060）の廃絶時期が推定できる。

では土師器坏aおよび小皿aの時間軸上での位置はどこであろうか。坏aの平均口径は、11.806cm、小皿aの平均口径は8.014cmを測る。では今一つの一括廃棄遺構である111SX036出土土器群の傾向はどうであろうか。一括廃棄状態で出土した土師器坏aの平均口径は11.758cm、小皿aの平均口径は7.98cmを測り、先の111SB060（S-42）出土土器群と黄色土の傾向の逆を示している。つまり坏aが縮小化し、小皿aが拡大化傾向を示している。さらに他のIII面遺構出土土師器坏a、小皿aの法量平均値はどうであろうか。平均口径を求めた表がTab.3である。結果として先の111SB060（S-42）および111SX036出土土器群の法量よりやや大きめの平均値が求められている。これは111SB060（S-42）および111SX036が出土状況から一括廃棄状態が想定できるのに対して、他の遺構は周辺のゴミの混入が十分想定できることから過去の遺物の混入も考えておく必要がある。以上の諸点を総合すると土師器坏aでは11.3cm～12.3cmの口径を有し、小皿aでは7.9～8.2cm前後の法量を有していることがわかった。国産の搬入品では東播磨系こね鉢がIII群からVII群までの製品が出土しており、VI群が56％と卓越して出土している。国外産陶磁器では大宰府F期のものが卓越しており、時間軸上で大宰府XIX期を想定し、実年代観では14世紀初めごろ廃絶したものと考えられる。

黒茶色土

II面遺構形成時の整地層と考えられ、II面遺構自体も調査区南東部分にのみ検出しており、

生活面として安定的に営まれたかどうかは不明確である。部分的な整地層を一括して黒茶色土として取り上げた可能性もある。

この土層から出土した土師器坏aおよび小皿aの平均口径は、坏aが12.24cm、小皿aが7.81cmを測る。先述してきた黄色土、III面遺構の土師器坏a・小皿aの法量とあまり差を見いだせない。出土したものでは、東播磨系こね鉢、常滑系大甕などの国産陶器の他に国外産陶磁器は、大宰府C期からF期にかけての製品が出土している。いまだ大宰府G期のものが出土していないことから、大宰府XIX期の範囲内で収めることができ、さきのIII面遺構廃絶後まもなく造成されたものと考えることができる。実年代観では14世紀初めごろ整地されたものと考えられる。

II面検出遺構

II面遺構自体は調査区南東部にて検出したもので、遺構性格を特定できるものもなく、広範囲に展開していたのか定かではない。この面を覆う黄色土の分布状況も調査区南部にのみ偏って検出できたことから、I面生活時の部分的な整地である可能性が高い。したがって、上位の黄色土の堆積時期およびI面遺構形成時期に含めて考えることで、II面遺構形成時期を想定する。

黄色土

I面形成遺構の基盤を形成する整地層にあたり、この層内から出土した土師器坏aの平均口径11.895cm、小皿aの平均口径7.9cmを測る。坏aについては、最大で15.0cmの口径を測るものから最小で11.0cmを測るものがあり、分布中心としては口径11.8cmを測るものが多い。小皿aについては、最大で8.6cm、最小で7.4cmを測り、7.8cmの口径を測るものに分布中心がある。搬入品には、東播磨系こね鉢のほか瀬戸おろし皿などが出土しており、国外産陶磁器では古くは大宰府C期のものもあるが、F期のものが卓越しており、わずかにG期にかかるものが出土している。

以上のことから、土師器坏a、小皿aの法量分布から考えて大宰府XIX期≫XX期にこの整地がなされたものと考えられる。実年代としては定点資料がないものの、14世紀中頃を推定している。

I面検出遺構

I面遺構形成時期は、先の黄色土の形成時期が可能性として高い。では廃絶時期はどうであろうか。廃絶時期を考える手だてとして、各遺構の埋没時の堆積土出土遺物から考えてみる。I面遺構出土土師器坏aの平均口径は11.348cm、小皿aの平均口径は7.917cmを測り、大宰府XX期以降の様相を呈している。またこれまでのIII面遺構からの食器出土傾向と異なり、瓦質製品が顕著となり、さらに備前系陶器が加わっている。国外産陶磁器では大宰府F期の陶磁器に加え、G期のものも出土しており、中世後期的様相へ変化しつつある。ではいつ頃を考えるのかという問いに対しては、現状で在地土器編年の確立がなされていないため判然としない。XX期以

降の土師器坏aおよび小皿aの法量縮小化の時間幅を今後検討してゆく必要がある。搬入品から考えると、111SX034出土の常滑系大甕が、最も新規型式にあたると考えられ、15世紀前半頃に考えられ（中野、1995）、この時期のどこかで111SX034のくぼみ内へ礫とともに投棄されたものと考えられる。さらに111SB001建造のためになされたと考えられる黄色土整地層から染付皿C群Iが小破片で1片出土している。実年代観としては15世紀後半以降が考えられており（小野、1982）、ここまで111SB001の建造を下らせて考えるには他の多くの遺物が示す時間軸上での矛盾が増大する。したがってこの染付は混入として除外する。結果として15世紀代まで確実に下がる遺構としては111SX034しか無いことになり、I面全体の廃絶時期を考えるには疑問が残る。I面全体の傾向として、備前系陶器、瀬戸系陶器、国外産陶磁器など年代を推定し得る遺物からみて、14世紀代のどこかを考える方が慨然性が高いように思える。今後の検討課題として残る。

b.周辺調査地との関係

周辺調査地との関係、いわば鋳造工房内での当該調査区の空間的位置づけであるが、周辺調査区における様々な事象を総合的に判断し検討してゆく必要がある。ここでは、今次調査で明らかになった事象を整理し、周辺調査区との関係を明らかにする手がかりとしたい。

今次調査区で明らかになった事象として、以下の点を列記する。

I・II面

・形成時期：14世紀中頃。廃絶時期：推定ながら14世紀代（一部15世紀前半の遺構あり）

・111SB001に見る石敷き遺構が形成される。

・井戸・廃棄土坑などが形成される。

・鋳造関連遺構は未検出。

・111SX008・111SX029のように鉄片を多く出土した遺構の形成。

くぼみというよりは、平面的に集中して出土しており、採集された土壌の中に鉄片・湯玉状ではなく玉状を呈する鉱滓・炭化米が含まれていた。

・多量の炉壁材の出土に対して鋳型片の微量出土

この炉壁材の出土に関して、当時の人々のどのような意識が投影されているのかを検討する手だてとして鉱滓、鋳型など鋳造関連遺物の定性分析を実施した。その結果、他調査区に比べ炉壁材が顕著に出土していることがわかる（Tab.11-1～3、12-1～3・Fig.89～97）。炉壁材の出土に対して、鋳型は全体の定量分析結果からは微量にしか出土しておらず、鋳型片を多量に出土した条204次調査地での傾向と全く反対の傾向を有している。さらに炉壁材が多量に出土しているにも関わらず炉本体の遺構は無く、炉構築時の遺物であるとは考えられない。そこで、

炉壁材の鉱滓付着炉材と酸化状態で鉱滓付着のない炉材の二者の割合を求めてみた。その結果、各面とも6割前後を酸化炉壁材である4-bが占めている。111SK015に多量に出土した他は遺構内から顕著に出土しているのではなく、遺構形成のための整地層と考えられる土層中から顕著に出土している。たとえば111SB001黒茶色土、111SB001赤褐色土など111SB001建造前の整地層と考えられる各層から顕著に出土している。したがって、この多量に出土した炉材は、施設建設に先立つ整地事業の際、周辺に散在していた産業廃棄物を用いた地上げ事業に伴う遺物であると考えられる。また金属滓付き炉壁についても同様の出土傾向にあり、さきの4-aおよび4-bの取扱い同様、地上げ事業に伴う産廃処理が行われたものと考えられる。

・調理具・貯蔵具の多量出土

具体的に定量分析を実施したわけではないが、特に目につくのが、こね鉢、摺鉢、火鉢といった調理具、さらに常滑系大甕、中国産陶器甕など大形の貯蔵具が出土している。これに対して、土師器坏a、小皿aなど他の条坊域で多量に出土する供膳具が顕著ではない。

・生活用具としての金属製品

鉄釘が多量に出土しているが、五徳など調理に必要な金属製品が出土している。

III面遺構

・形成時期：不明確（平安後期以降）、廃絶時期：14世紀初め頃を想定。

・土壁による遮蔽構造を有すると考えられる掘立柱建物をはじめとして掘立柱建物の形成。

・鋳造関連遺構は未検出。

・多量の炉壁材の出土に対して鋳型片の微量出土。

この炉壁材の用途については、I・II面にて分析し解釈した内容と同じと考えられる。

・調理具・貯蔵具の多量出土

具体的に定量分析を実施したわけではないが、特に目につくのが、こね鉢、摺鉢、火鉢といった調理具、さらに常滑系大甕、中国産陶器甕など大形の貯蔵具が出土している。これに対して、111SB060廃絶時に壁溝に多量廃棄された土師器坏a・小皿aを除くと、土師器坏a、小皿aなど他の条坊域で多量に出土する供膳具が顕著ではない。

引用文献

中野晴久（1995）「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館

小野正敏（1982）「15～16世紀の染付椀、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究　No.2』

（2）大宰府条坊跡第197次調査

1）調査に至る経過

調査地は太宰府市五条4丁目2987-1,11,12,2991-1（旧地名：字鉾ノ浦）に所在する。今回は、条47次・条111次の調査成果により判明している中世の大規模鋳造遺跡、「鉾ノ浦遺跡」の隣接地において個人住宅の建設計画が上がったため、遺跡の内容把握を目的として調査を行った。現地での調査は平成9年9月22日から平成10年3月11日にまで実施し、発掘調査面積は、93㎡を測る。発掘調査は高橋学・山村信榮が担当した。

2）層位

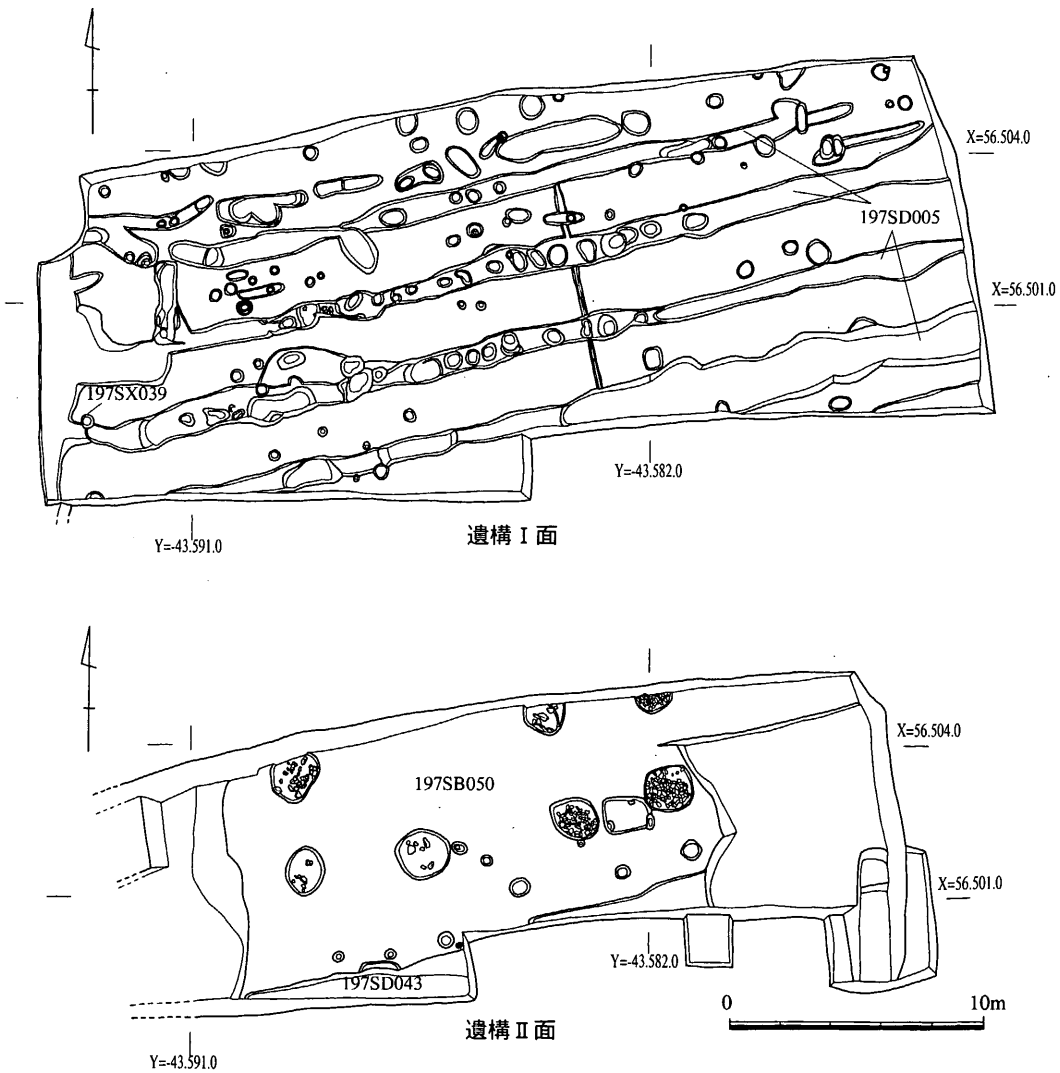


Fig.33　大宰府条坊跡第197次調査　遺構配置図（I・II面）（S=1/150）

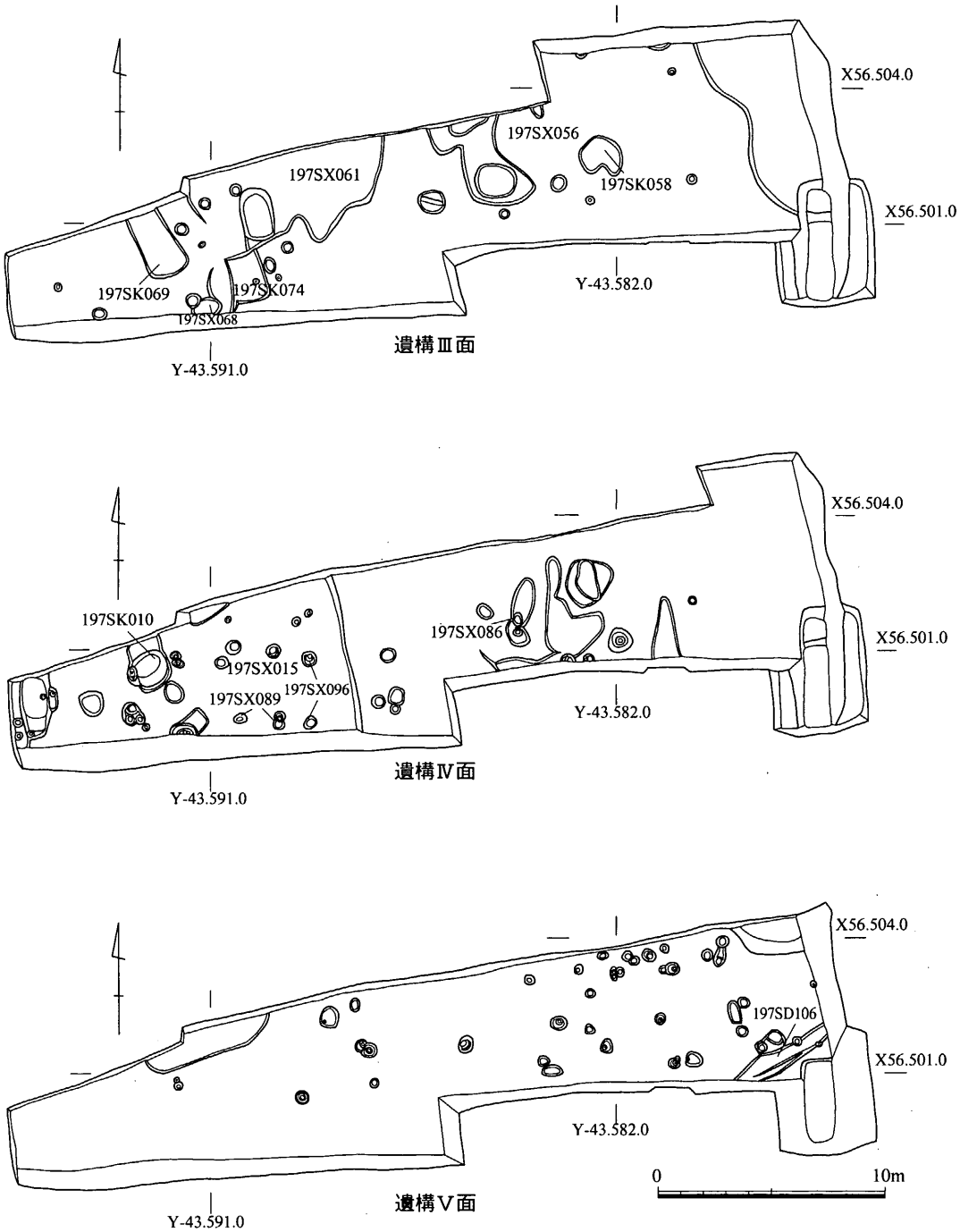


Fig.34　大宰府条坊跡第197次調査　遺構配置図（III・IV・V面）（S=1/150）

本調査区は、条47次調査地の南東部に隣接しており、現在駐車場として利用されている地表面（条47次調査地）から、約1.5m程度高く、台地状を呈している。調査前の現況土地利用状況は人家の裏庭的な場所で、小規模な畑作地として利用がなされていた。

表土（茶灰色土）、包含層（灰褐色土）を除去すると、明茶色土が検出される。この面に遺

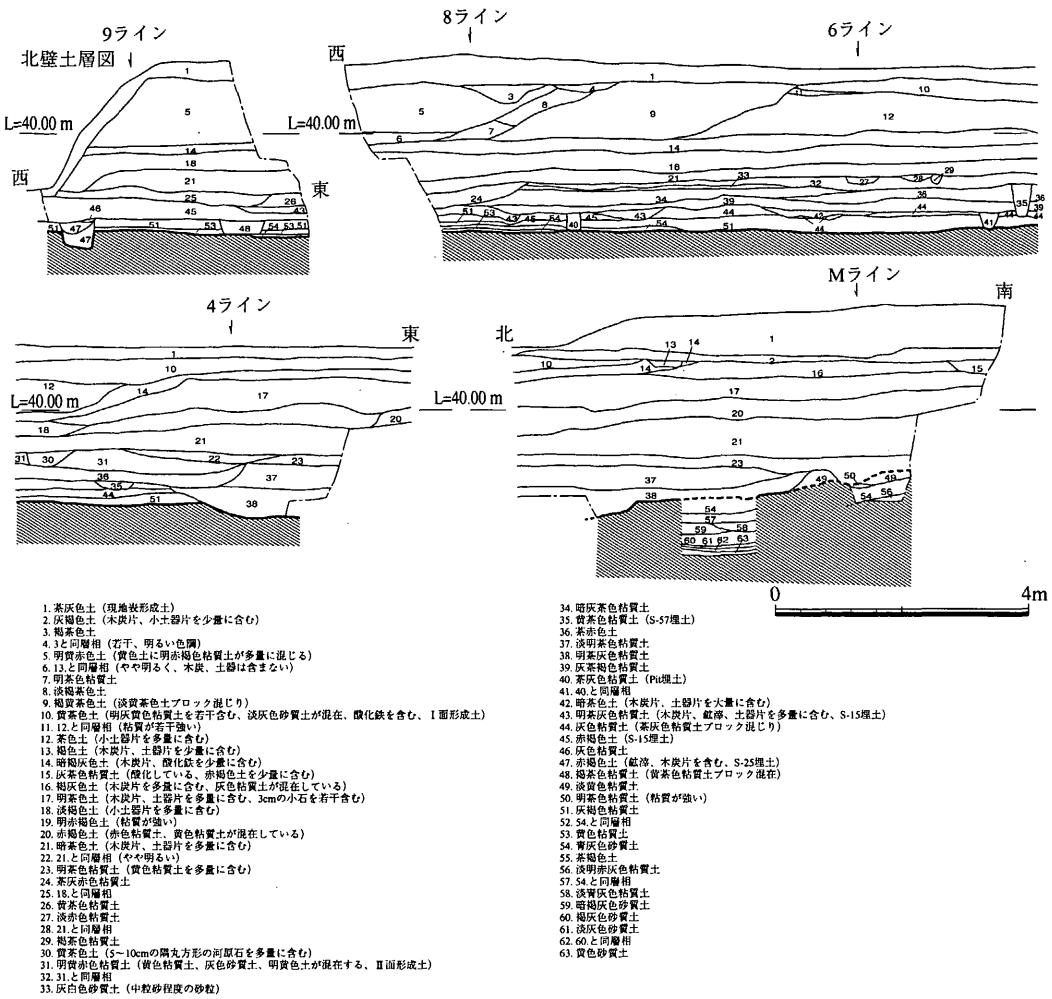


Fig.35　大宰府条坊跡第197次調査　調査区北面・東面土層図（S=1/120）

構が切れ込む。（遺構I面）。遺構I面は大規模な整地により造成されており、明茶色土、茶色土、暗茶色土などの土が、約1.5mほど堆積している。調査区北面の土層観察では、これらの土の堆積パターンは、南から北へ、東から西へという方向性が見て取れる。この整地土を除去すると、明茶赤色土が検出される（遺構II面）。この土層は、0.2～0.4mの厚みを持ち、南北4.3m、東西9.5m以上の範囲を人為的に造成している。これに大規模な建物遺構が切り込んでおり、整地土と考えられる。この土を除去すると、淡黄褐色粘土、茶赤色土、茶赤色粘土、赤褐色土などの層が堆積しており、それを除去すると、遺構が確認される（遺構III面）。この遺構面は明茶灰色土で形成されており、それに遺構は切り込んでいる。遺構III面を形成している暗茶色粘質土層を除去すると、広範囲に真土を含む層が検出される（遺構IV面）。さらに明茶灰色土を除去すると、青灰色砂質土に切り込む遺構が確認される（遺構V面）。以上のように、5面からなる

生活面を確認することができた。(fig.35)

3) 遺構

検出された遺構は、前述の層位の項で明らかにしたように、5面の生活面からなる。以下、それぞれの生活面について記述していく。

遺構I面

a.溝

197SD005 (Fig.33、Pla.25)

調査区全域に展開する溝群で、4条確認できる。検出長17.8m、最大幅1.2mで平均幅は0.6m程度、深さ0.07mで、底には凹凸があり、部分的に、直形0.4m程度の楕円形状のピットが連続で穿っている。遺構の振れは、N-74°48′-E内外である。

b.その他の遺構

197SX039 (Fig33)

調査区南西に位置するピットで、197SD005を切る。径0.25m、深さ0.31mを測る。

遺構II面

a.掘立柱建物

197SB050 (Fig36、Pla.25・26・27)

調査区の中央部に位置する南北1間以上、東西3間の掘立柱建物で、調査区の北側へのびている。建物規模は、推定南北2.1m以上、東西7.3mで、推定柱心心間は2.1mである。東側の一間は庇と考えている。桁行の中央だけが他に比べて広く、3.1mを測る。掘り方は不整形に近い隅丸方形で、0.8～1.0m程度である。掘り方内には0.1～0.15m程度の礫岩が断面レンズ状に堆積しており、表面にあたる上部は比較的石の水平が合っている。これらのことから礎石の下部施設である根石と考えられる。掘り方の残存は0.2m程度である。

また、掘り方a.fからそれぞれ3枚の銭が出土している。a出土の銭は、掘り方内の2ヶ所から出土している。銭1・2は掘り方の西側の北寄りで出土している。2枚とも直立状態で、南北へ並列しており、銭1が北側、銭2が南側に位置する。もう一つは掘り方の中央部で、銭3が出土している。銭3は銭が屈曲して出土している。その理由としては根石の上に置かれた礎石の重さによるものと考えている。銭1・2は掘り方内の根石の上部とほぼ同じレベルから、銭3は、根石層の中から出土している。fは掘り方の中央部西側から出土している。銭が3枚重なっており、銭文は下に向けられている。根石の上部とほぼ同じレベルから出土している。建物の振れは梁間で、N-12°24′-Wである。

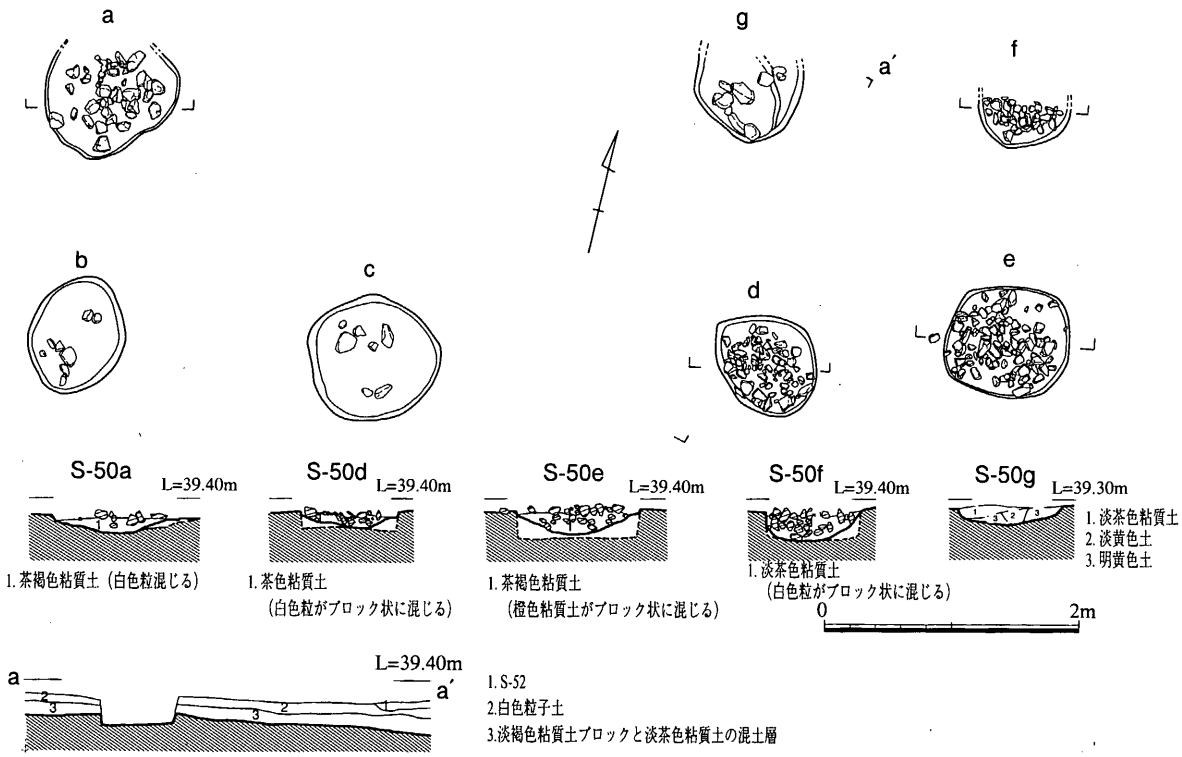


Fig.36　197SB050　遺構実測図（S=1/30）

建物が建つ地盤は明茶赤色土層で、南北4.3m、東西9.5m以上、深さは0.2m程度である。この層は土層観察によれば、白色粒子を多く含む層と淡褐色粘土ブロックと淡茶色粘土が互層状態になっており人為性が高く、整地の可能性が指摘できる。

b.溝

197SD043（Fig.33、Pla.25）

調査区の南側に位置する東西溝。調査区の南側にのびている。検出長4.4m、最大幅0.85m、深さ0.2mである。197SB050に伴う可能性がある。

遺構III面

a.土坑

197SK056（Fig.34）

調査区の北東に位置する不整形の土坑。調査区の北側にのびている。S-59に切られている。南北長2m、東西長1.5m、深さは0.14m程度である。埋土は茶赤色粘質土。掘り方は、南側の中央部で楕円形状に0.17mほど落ちる。

197SK058（Fig.34）

調査区の北東に位置する逆V型土形の土坑。東西長0.9m、南北長0.7m、深さは0.08mである。

197SK069（Fig.34）

調査区の西側に位置する長方形の土坑。調査区の北側にのびている。南北長1.5m、東西長0.9m、深さは0.01mである。しかし、北壁の土層観察からは明確な掘り方が検出できていない。下層に位置する197SK010とプランが重なるため、同遺構にともなう沈み込みを遺構と誤認して掘った可能性もある。

197SK074（Fig.34）

調査区の西側に位置する不整方形の土坑。南北長1.0m、東西長1.2m、深さは0.12mである。

b.その他の遺構

197SX061（Fig.34）

調査区の北側に位置する不整半円形のたまり状遺構。調査区の北側にのびている。南北長2.0m、東西長4.2m、深さは0.16mである。整地土の可能性がある。

197SX064（Fig.34）

調査区の東側に位置する不整半円形のたまり状遺構。調査区の南側にのびている。南北長2.7m、東西長3.5m、厚みは0.01m程度である。整地土の可能性がある。

197SX068（Fig.34）

調査区の南西側に位置する楕円形土坑状遺構。調査区の南側にのびている。南北長0.4m、東西長0.65m、厚みは0.1m程度である。

197SX077（Fig.34）

調査区の北側に位置する不整形のたまり状遺構。197SX061に切られる。南北長1.0m、東西長1.0m、深さは0.01m程度である。

遺構IV面

a.土坑

197SK010（Fig.37、Pla.25）

調査区の西側に位置する長方形の土坑。調査区の北側にのびている。南北長1.2m、東西長0.9m、深さは0.3mである。南側に南北長0.65m、東西0.7mを測る隅丸方形の落ち込みがある。その落ち込み内に粘質土が20点ほど点在しており、鋳型の廃棄の可能性を考えたが、その粘質土の残りが悪く、判断は不可能な状態であった。

b.その他の遺構

197SX015（Fig.34、Pla.29）

調査区に中央部から西へ向かって落ちこいでいるたまり状遺構。深さは0.2m。埋土は、茶褐色土、赤褐色土が堆積している。土質は真土に近い性質で細かい白色鉱物を多量に含むが精錬

されており、真土そのものが廃棄もしくは仮置きをされている可能性も高い。鋳造関係の遺物を多量に含む。

197SX086（Fig.34）

調査区の北東に位置するピット。S-83.84に切られる。東西長0.9m、南北長0.7m、深さは0.08mである。

197SX089（Fig.34）

調査区の南西に位置するピット。径0.25m、深さは0.14mである。

197SX096（Fig.34）

調査区の中央に位置するピット。径0.3m、深さは0.1mである。

遺構V面

197SD106（Fig.34）

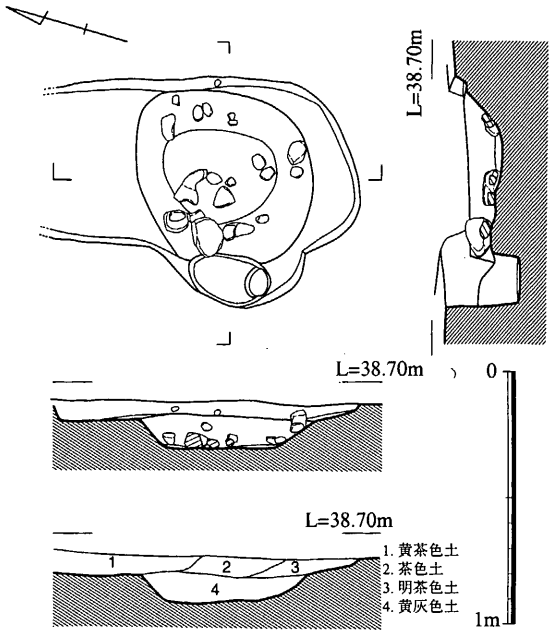


Fig.37　197SK010　遺構実測図（S=1/30）

調査区の南東側に位置する東西溝。調査区の東・南側にのびている。検出長2.6m、最大幅0.6m、深さ0.1mである。

4）遺物

遺物も遺構と同じく遺構面を基準に記述するのが適当かと思うが、各遺稿の出土遺物量が少ないため、遺構の性格別にまとめて報告をする。

a.掘立柱建物出土遺物

197SB050a出土遺物（Pla.31）

金属製品

銭（1～3）　1は熙寧元寶。銭径（縦）23.95mm、銭径（横）24.00mm、内径（縦）18.85mm、内径（横）19.20mm、銭厚1.30～1.40mm、量目2.0g。2は、咸平元寶。銭の約半分が斜めに欠損している。残存部では、銭文は○平元○と２文字しか読めないが、よく観察をしてみると、銭文の上の文字がわずかに残っているのが解る。この銭文パターンが当てはまるのは、治平元寶、咸平元寶、端平元寶の3種であるが、そのなかでこの銭と同じく右斜め下へ文字がのびて、それが留めになるのは「咸」の文字しかないため、咸平元寶と判断した。量目0.6g。3は、背文部に対して、「く」の字に折れ曲がり、半分が欠損している。表面の浸食が激しく文字の痕跡のみで判読は不能である。量目0.5g。

197SB050f出土遺物（Pla.31）

金属製品

銭（1）　3枚の銭が重なり溶着している。1枚目は銭文が上になり、2枚目は両面が塞がれているため、不明。3枚目は背文部側が見えている。背文は無文である。1枚目の銭文部はほとんどが錆などに覆われていて読めないが、繊維状の残存物が確認できるため、袋状の有機質に囲まれていた可能性がある。量目8.9g。

b.土坑出土遺物

197SK056出土遺物（Fig.38）

須恵質土器

鉢（1）　口縁部は小ぶりで、あまり肥厚しない。口縁屈曲部の外面から口縁端部にかけて、色調が暗黒色土に変化する。重ね焼き痕と思われる。小型の鉢の可能性がある。東播系。

197SK058出土遺物（Fig.38）

土師器

坏a（2）　口径12.0cm、高さ3.0cm、底径6.8cm。

197SK069出土遺物（Fig.38）

土製品

鋳型（3）　断面は台形状。残存部が少ないため復元は難しいが、方形の棒状の押し型と思われる。鋳型面は明灰赤褐色、外面は明赤褐色と暗赤褐色焼成を呈し、0.1cm以下の白色粒を多量に含む精良な真土を使用している。断面を観察すると、外面に近い0.5cmの範囲は明赤褐色で、内部は暗赤橙色を呈する。外面の先端部には鉱滓が付着している。

197SK074出土遺物（Fig.38）

土師器

小皿a（4～7）　口径7.9～8.25cm、高さ0.9～1.25cm、底径5.8～6.9cm。底部の切り離しは回転糸切り、その後、板状圧痕。

坏a（8）　口径13.65cm、高さ2.35cm、底径9.3cm。底部の切り離しは回転糸切り。

c.溝出土遺物

197SD043出土遺物（Fig.39）

瓦質土器

鉢（1）　口縁部は肥厚して直立気味に立ち上がる。内面は刷毛目調整、外面は摩滅が激しいため調整が不明確だが、叩きの後、ナデ調整を施している可能性がある。

龍泉窯系青磁

壺（2）　体部は9.4cm以上。釉調は灰色を帯びた淡緑色を呈し、釉の透明度は高い。比較的、

厚めに施釉される。内面は施釉されていないが、肩部あたりまで、口縁部から釉が垂れてきている。露胎部と施釉の境界部は、茶褐色を呈す。外面体部には牡丹を中心とした草花紋が施される。

石製品

碁石（3）　直径2.0cm、厚さ0.4cm。灰褐色を呈す。

197SD106出土遺物（Fig.39）

土師器

皿a（4）　口径17.35cm、高さ2.5cm、底径12.6cm。底部の切り離しはヘラ切りの可能性がある。

d.その他の遺構出土遺物

197SX015出土遺物（Fig.40、Pla.33）

土師器

坏a（1）　口径10.6cm、高さ2.2cm、底径6.4m。底部の切り離しは回転糸切り。全体的に表面が摩滅しており、調整は不明。

皿a（2）　口径22.7cm。胎土は金色雲母片を多量を含む。赤色粒、白色粒を少量含む。色調は暗灰褐色を呈し、褐色系。焼成は不良。

坏c（3）　口径18.0cm。胎土は赤色粒、白色粒を少量含む。色調は暗茶灰色を呈し、褐色系。

須恵質土器

こね鉢（4～6）　口縁部に重ね焼きの痕跡。黒灰色を呈す。東播系。4は口縁部が直立する。5は口縁部が肥厚する。6の口縁部はあまり肥厚しない。片口鉢。

朝鮮系無釉陶器

甕（7）　甕の底部、平底。底部ヘラ切りの後に、ナデ調整。色調は暗青灰色。

石製品

用途不明製品（8）　滑石製石鍋の転用品。タガの部分を取っ手として利用し、石鍋時の内面を、削り（あるいは均し）用に使用したと考えられる。推定の使用例としては、鋳型の内型成型時に、鋳型面の真土を均一に挽くことなどに使用した可能性がある。

土製品

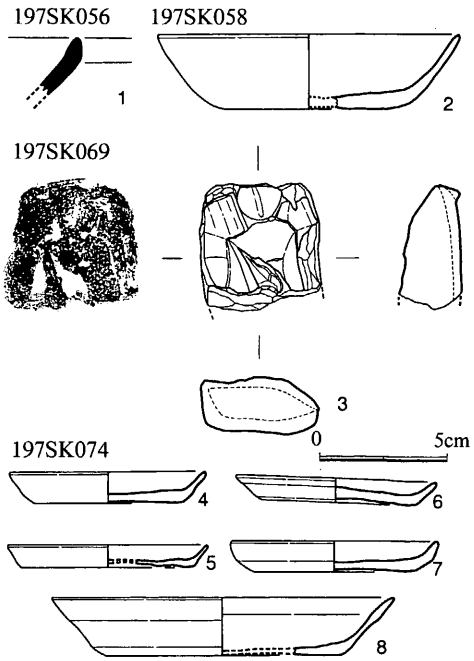


Fig.38　197SK056.058.069.074
出土遺物実測図（S=1/3）

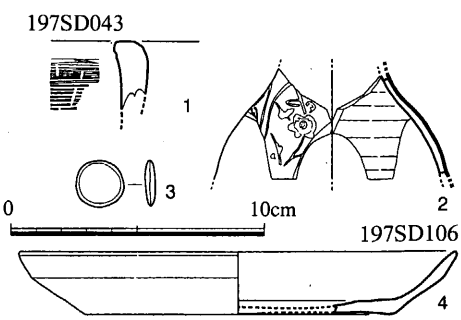


Fig.39　197SD043.106出土遺物
実測図（S=1/3）

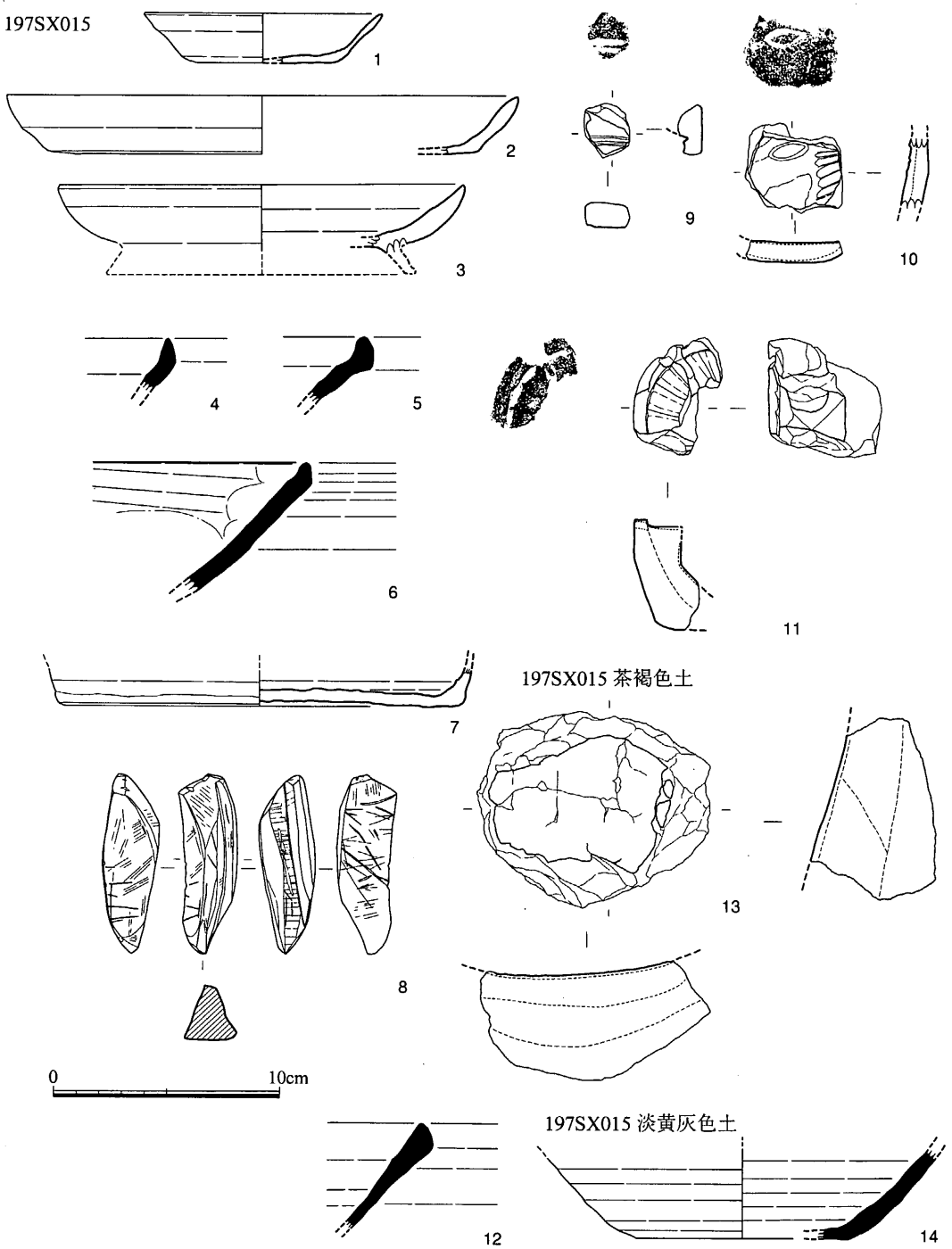


Fig. 40　197SX015.015茶褐色土.015淡黄灰色土出土遺物実測図（S=1/3）

鋳型（9～11）　9は鋳型面の端部にあたる。内外面ともに赤褐色を呈す。鋳造面は一部、暗赤褐色を呈し、0.1cm以下の白色粒を多量に含む精良な真土を使用している。一条の沈線が確認できる。10は平坦な鋳造面である。鋳型面は暗青灰色を呈すが、銀化したように一部明灰色

に変化している部位がある。胎土は0.1cm以下の白色粒を多量に含む精良な真土を使用している。断面を観察すると、鋳型面から数mmの幅で暗青灰色、中心部は暗茶褐色、外側に近い部分は淡赤黄色、外面は淡茶灰色～明赤色～暗赤褐色土を呈す。鋳型面は楕円状の沈線と幅0.2mm、長さ1.0cmのえぐりが連続して5条並んでいる。焼成はやや硬質。11は釣灯籠の上部中央吊り手部分の鋳型である。切り子形の頭を呈す。鋳造面は青灰色を呈す。胎土は0.1cm以下の白色粒を多量に、0.1cm以下の黒色粒を少量含む。断面を観察すると、鋳造面から数mmは青灰色、内部は暗褐茶色から暗青灰色、外面近くは赤褐色を呈する。鋳型の巾木にあたる部分は幅0.6cm、高さ0.3cm。

197SX015茶褐色土出土遺物（Fig40、Pla.33）

須恵質土器

こね鉢（12）　片口鉢。焼成不良で、軟質な焼き上がり。還元も不良で、淡黄灰色の色調を呈す。口縁部をあまり肥厚させず、器壁に対して垂直につまみ上げる。

土製品

鋳型（13）　鍋の鋳型で体部付近の可能性あり。鋳型面は褐灰色～青灰色を呈す。細かい砂粒を少量含む。鋳型面の表面の残存状態は悪く、ひび割れが走り、剥離が始まっている。鋳型面には横方向の挽き目が観察できる。断面を観察すると、鋳型面から外側に向かって、灰赤褐色で0.1cm以下の白色鉱物を少量含む、淡赤褐色～灰褐色で0.2cmの白色鉱物を多量に含む、外面は暗赤褐色～明赤褐色を呈し、0.5mmまでの白色鉱物を多量に含み、スサなども含む荒い土を使っている。焼成はやや軟質。

197SX015淡黄灰色土出土遺物（Fig.40）

須恵質土器

こね鉢（14）　こね鉢の底部。底部糸切りの後に荒いナデが施される。籾痕が認められる。

197SX039出土遺物（Fig.41）

土師質土器

火鉢（1）　焼成は不良。色調は暗灰褐色を呈す。円柱状の脚部がつく。

197SX061出土遺物（Fig41、Pla.32）

瓦器

椀（2）　口縁部から体部にかけての破片。体部外面の口縁端部まで回転ヘラケズリを施す。内面の最終調整は丁寧なヨコナデだが、こて当て調整をしている可能性が高い。口縁端部内面に0.5cm、外面は2.3cmほど灰黒色に変化しており、重ね焼きの痕跡と思われる。焼成は良く、胎土も精良。

瓦質土器

鉢（3）　口径18.2cm。やや小振りな鉢である。焼成は不良。口縁部が広い範囲、茶黒色に変化している。

須恵質土器

こね鉢（4）　底部の破片。内面は使用痕で摩滅している。底部は糸切り。

197SX064出土遺物（Fig.41）

土師器

坏a（5）　口径14.2cm、高さ2.5cm、底径9.6cm。底部は糸切り。焼成は不良。色調は淡茶白色。

197SX068出土遺物（Fig.41）

土師器

小皿a（6）　口径7.6cm、高さ1.2m、底径5.8cm。底部は糸切り。胎土は0.1cm以下の白色鉱物を少量、赤色粒を多量に含む。色調は茶褐色。

197SX072出土遺物（Fig.41、Pla.33）

土師器

小皿a（7・8）　7は体部がやや丸みを持って立ち上がるのに比べて、8は直線的で鋭角に立ち上がる。両方とも底部切り離しは糸切り。

土製品

鋳型（9）　2条の沈線状の窪みがある。小型製品用の鋳型か。焼成はやや良好。鋳型面に近いところが淡赤灰色、外面は明赤黄色を呈す。胎土は0.1cm以下の白色粒を多く含む真土である。

197SX073出土遺物（Fig.41）

土師器

小皿a（10）　口径8.6cm、高さ1.3cm、底径7.0cm。器壁が薄い。

坏a（11）　色調は淡灰黄色。底部切り離しは糸切り。

瓦質土器

鍋（12）　口縁部は受け口状になっており、「L」字形を呈する。焼成は不良。外面は淡黒灰色。

須恵質土器

こね鉢（13）　焼成、還元は共に良好。口縁部外面は灰黒色化。東播系。

土製品

土玉（14）　最大直径2.7cm。色調は灰茶色。

石製品

石鍋（15）　口径21.6cm。口縁直下に削りだしの鍔が巡る。鍔は断面台形で小さい。

197SX077出土遺物（Fig.41）

土師器

小皿a（16）　口径8.4cm、高さ1.05cm、底径6.7cm。底部切り離しは回転糸切り。胎土は金色雲母片を大量に含む。色調は茶褐色を呈す。

須恵質土器

こね鉢（17）　口径31.0cm。口縁部をつまみ肥厚させている。口縁部外面は灰褐色を呈す。

197SX086出土遺物（Fig41）

瓦器

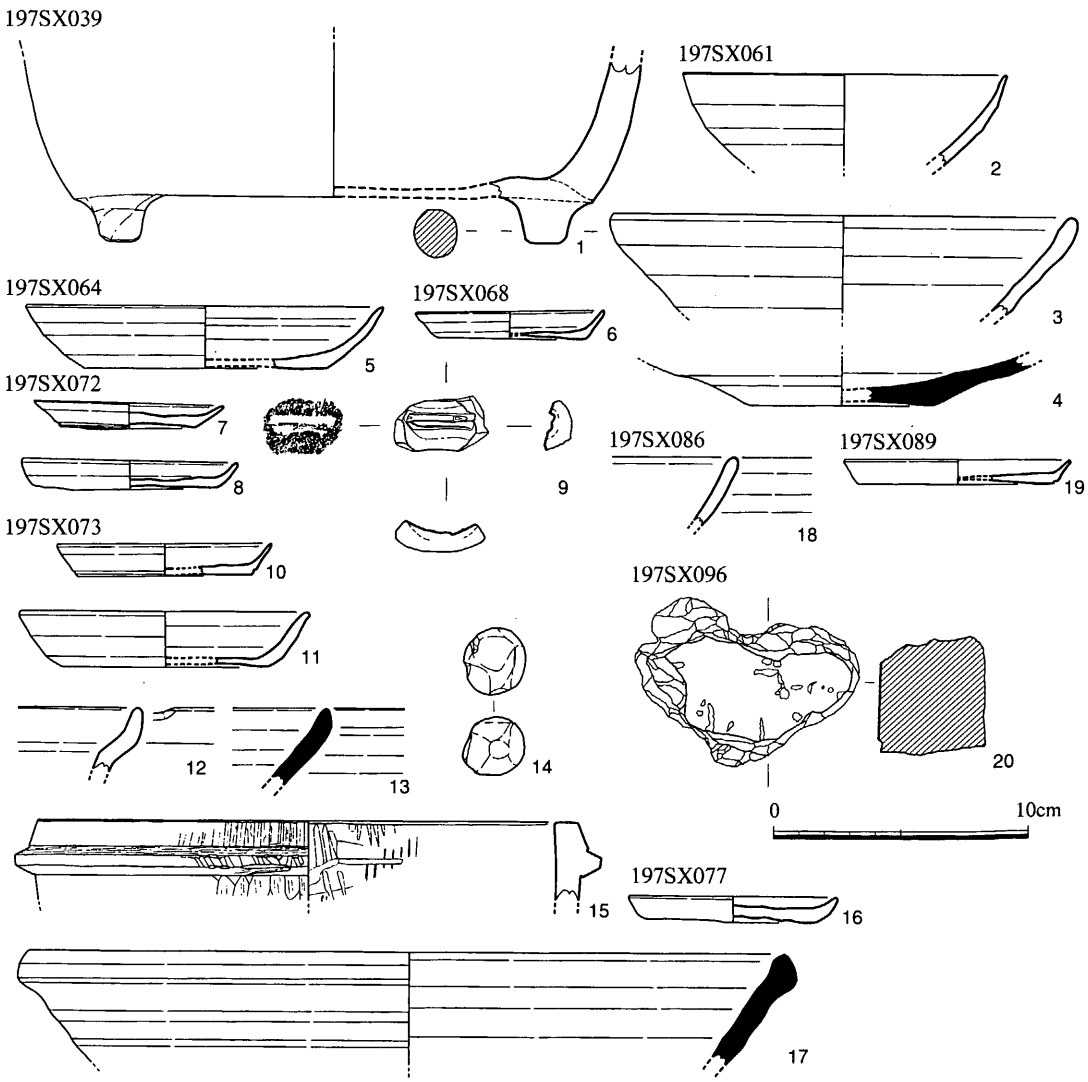


Fig.41　197その他の遺構出土遺物実測図（S=1/3）

椀（18）　口縁部の破片。内面はミガキcを施す。胎土は0.3cm以下の白色鉱物を多量に含む。

197SX089出土遺物（Fig.41）

土師器

小皿a（19）　口径9.0cm、高さ1.0cm、底径7.0cm。色調は淡茶白色。底部切り離しは回転糸切り。

197SX096出土遺物（Fig.41）

瓦

無文塼（20）　現存厚さは4.4cm。

a.土層出土遺物

茶灰色土層出土遺物（Fig.42、Pla.34）

土製品

鋳型（1）　円形製品の鋳型か。鋳型面は上部に一段落ちがあり、その下面に3条の線刻が沈線状に巡る。鋳型面は灰青色、それから外面に向かって赤褐色、暗青灰色、外面は明茶色を呈す。外面に近い部分は0.1～0.2cmの白色鉱物を多く含み、内側は0.1cm以下の白色粒を多く含む。焼成はやや硬質。

明茶色土層出土遺物（Fig42）

国産磁器

椀（2）　広東椀。

暗茶色土層出土遺物（Fig.42、Pla.35）

土師器

小皿a（3）　口径8.6cm、高さ1.2cm、底径7.0cm。底部切り離しは回転糸切り。

擂鉢（4・5）　4は底部に近い破片。摺り目は6条。色調は淡茶白色。5は内面を刷毛目調整した後に、摺り目を施す。外面は刷毛目調整を不定方向のナデによりナデ消している。

火鉢（6）　外面にミガキの痕跡がわずかに残る。色調は明赤橙色。

土師質土器

用途不明製品（7）　焼成は不良。外表面は剥離しているが、黒灰色に燻しが施されている。突帯により区分された内側に、乳状突起が3つ以上存在することが確認できる。体部の屈曲部の上部と思われる破片。器形としては風炉に復元が可能と思われる。

山茶碗

鉢（8）　口径29cm。色調は淡灰茶色。

龍泉窯系青磁

稜椀（9）　素地は灰白色を呈し、肌理細かく粘質。釉調はやや灰色味を帯びた淡緑色を呈す透明釉で光沢あり。大きく貫入がはいり、ガラス質。厚めに施釉される。

陶器

椀（10）　口縁部内外に草花状紋様の鉄絵を施す。表面には細かい貫入が認められる。素地は乳白色を呈し、肌理は細かいが砂質。ヴェトナム産陶器と考えられる。

土製品

鋳型（11）　鍋の鋳型。製品の口縁部の屈曲までの鋳型面が残存している。巾木部は4.3cm。鋳型面の剥離がはげしく、挽き目などの調整は不明。鋳型面は淡青灰色～灰褐色、それから巾木部にかけて淡赤褐色、内側は赤褐色、外面は暗灰赤茶色。胎土は外形部が荒く、0.2cm程度の白色鉱物とスサを多量に含む。内部から鋳型面に関しては、0.1cm以下の白色粒を多く含む。

石製品

紡錘（12）　縦（最大）4.2cm、横（最大）4.25cm、高さ1.7cm。底面に花紋を線刻し、周辺に沈線を巡らせる。側面は粗い削りが施される。重さは52.1g。

明茶赤色土層出土遺物（Fig.42、Pla.32、34）

土師器

坏a（13）　口径12.0cm、高さ2.7cm、底径7.2m。底部切り離しは回転糸切り。

瓦器

椀c（14）　口径14.4cm、高さ6.3cm、底径5.0cm。体部は大きく丸みを帯びて内湾する。外面は高台張り付け部から口縁端部まで回転ヘラケズリを行う。内面にわずかだが、こて当ての痕跡が残ること、外面の中央付近に外形線の変化する綾線が観察できることから、体部の成形に押し出し技法が使用されていると考える。高台部は粘土板を張り付けており、その後にナデ成形している。そのため、外見は円盤高台状を呈している。胎土は精良で、焼成は良好。全体に淡黒灰色を呈すが、口縁部内側と、口縁部外面のやや下半に灰白色化している部位が認められる。

須恵質土器

こね鉢（15）　口縁部を垂直につまみあげ肥厚させる。口縁部外面は灰黒色を呈する。東播系。

瓦質土器

鉢（16）　内面を刷毛目調整。外面の調整は不明。焼成は不良。色調は灰白色を呈する。

土製品

鋳型（17・18）　17の焼成は良好で、硬質。断面に鉱滓が付着する。押型か。色調は鋳型面に近い部位が淡赤褐色、鋳型面は暗黒褐色、外面は赤褐色。胎土は0.1cm以下の白色粒を大量

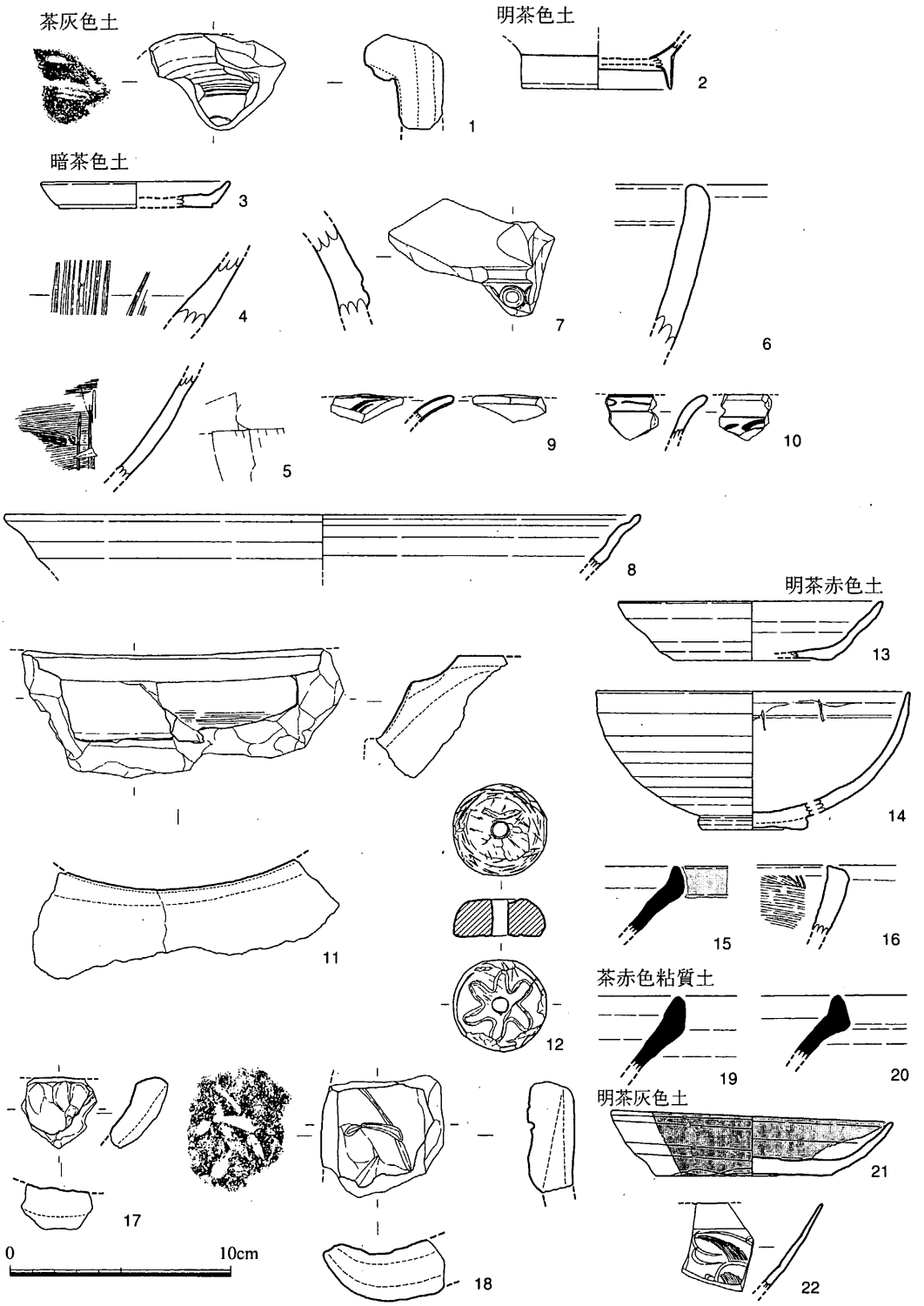


Fig.42　197各土層出土遺物実測図（S=1/3）

に含む精良なもの。18は沈線が2条確認できる。焼成は良好でやや硬質。鋳型面は赤褐色で、内部が暗茶黒色、外面は茶褐色。胎土は精良で、0.1cm以下の白色粒を多く含む。

茶赤色粘質土層出土遺物（Fig.42）

須恵質土器

こね鉢（19・20）　19は口縁部をあまり肥厚させず垂直につまみ上げている。20は口縁部を肥厚させる。

明茶灰色土層出土遺物（Fig.42、Pla.35）

土師器

坏a（21）　口径12.9cm、高さ2.7cm、底径8.0cm。底部切り離しは回転糸切り。

龍泉窯系青磁

椀（22）　素地は明灰色を呈し、緻密。釉調は青色味が強い灰緑色を呈する透明釉。光沢がありガラス質。内面にヘラと櫛による細かく鋭い施文が施される。また器壁が大変薄い。体部が直線的に立ち上がるなどの特徴から初期龍泉・同安窯系青磁0類と考えられる。

5）小結

各生活面の形成時期

遺構I面は、その基盤形成層である明茶色土から、19世紀末の陶磁器が多く出土していることから、近世末から現代にかけての畑と考えられる。197SD005は畑の畝を造る際の畝溝と考えられる。

遺構II面は、大型礎石建物197SB050の整地土である明茶赤色土より出土している遺物で定点を詰められる。明茶赤色土からは、龍泉窯系青磁III類を中心としたF期の貿易陶磁器が出土していること、土師器坏aがXIX期以降の特徴を持つこと等から、13世紀後半から14世紀前半を整地年代の上限とできる。建物が廃絶した後に堆積した暗茶色土から近世段階まで下がる遺物が出土していることから、この間の時期が建物の存続時期幅と考えられる。しかし、整地年代と大きく建築年代がひらくとは考えられないことと、暗茶色土からG期の貿易陶磁器が多くでていることからも、14世紀前半を中心とした時期、おおよそXIX期に比定できると考える。

遺構面III面は、土師器小皿aの法量を見ると、XIX期にあたる。整地やたまり状の遺構が多く、遺構の展開はよく解らない。

遺構面IV面は、197SK010、197SX015のように鋳造生産に関係する遺構が多い。条47次調査と同じく、XIX期（13世紀末～14世紀前半）を考えている。

遺構面V面は、遺構も少なく閑散としており、性格もよく解らない。年代は、197SD106出土の土師器坏aの底部切り離しがヘラ切りの可能性が高いため、12世紀代までさかのぼると考え

ている。

これらの変遷をみると、この土地は12世紀代より利用され始め、14世紀代になると隣接する鉾ノ浦遺跡の南東部の一角として機能していた。主に、廃棄もしくは仮置きの空間として利用されていたと考えられる。その後、鉾ノ浦遺跡の生産が終了すると時期を同じくして鋳造関係の施設は廃絶してしまう。小規模な整地が行われた後、広く大規模な整地が行われてその上に礎石建物が建てられた。近世段階では、大量の土砂により整地して、畑として利用され、現在に至ったものと考えられる。

遺構

・地鎮め遺構

今回、197SB050の2つの掘方から合計6枚の銭が出土した。これは建物を建てる際に、行われる地鎮めに伴うものと考えられる。今回は残念ながら建物全体のプラン確認が出来ないため、どのような祭りが行われたのか今ひとつはっきりとしないが、今後の出土例の増加に伴って明らかになってくると思われる。類例として大宰府条坊跡第140次調査SB010、博多遺跡群第42次調査1139号遺構、第74次調査第3面礎石建物跡などが上げられる。

遺物

・外面ヘラ削りの瓦器椀について

197SX061（Fig41-2）、197明茶赤色土（Fig42-14）から出土した2点の瓦器椀は、いわゆる「筑紫型瓦器椀」の範疇には入らない異質な瓦器椀である。特徴的な外面のヘラケズリ調整は、「肥後型瓦器椀」の特色であることから、現状ではこの瓦器椀は肥後産である可能性が高い。しかし、極めて少量ながら太宰府市内の他の遺跡から出土していることから、分布範囲、製作技法、生産遺構など今後も注目していくべき中世土器だろう。他の共出遺物の年代は、貿易陶磁器F期（13世紀後半～14世紀前半）を中心とする。

（髙橋学）

引用・参考文献

森隆 1992「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の系譜について- 西日本の土器椀生産を中心とした-」『中近世土器の基礎研究』VIII 日本中世土器研究会

中島恒次郎 1992「大宰府における椀形態の変遷」『中近世土器の基礎研究』VIII 日本中世土器研究会

徳永貞紹 1996「佐賀平野の瓦器椀にみる中世土器生産の一様相」『中近世土器の基礎研究』XI 日本中世土器研究会

降矢哲男 2000「博多遺跡群における地鎮め遺構について」『博多研究会誌』第8号 博多研究会

(3) 大宰府条坊跡第204次調査

1) 調査に至る経過

調査地は大宰府政庁跡の南東、太宰府市五条4丁目2987-1に位置し、鋳造遺跡である通称鉾ノ浦遺跡の南側の広がりを確認するため、1998(平成10)年11月16日から1999(平成11)年3月30日にかけて発掘調査を実施した。調査面積109m²を測る。調査は宮崎亮一が担当した。

2) 層位

a.現況

現況は一部畑地として利用されているほかは空地になっている。南側に丘陵が迫り、東側の地形はやや高く、大宰府条坊跡第197次調査を行った小高い段丘があり、南側は太宰府中学校が所在する比高差約11mの高い丘陵がある。調査地周辺では現在でも鉱滓や土器片が採集できる。

b.遺構I面

耕作土を除去した面を遺構I面とした。耕作土と包含層は明瞭に区別できるものの、遺構と言うべきものはなく、耕作時に切り込んだ穴や整地の切り合いが確認できるだけである。北側ほど包含層の色調が茶色味を帯び、鉱滓や鋳型片が混じる。しかし、その殆どは残りが悪く、形をとどめていない。I面目の表面は黒色の粒子が多く見られ、非常に固い。これは田畑からの鉄分沈着と包含層からの鉄分が固まったためにできた層と考えられ、厚さは2cm程である。時期は14世紀中頃以降であろう。

c.遺構II面

遺構II面は、遺構I面に見られる鉄分沈着面を取り除いた段階で遺構が確認された面で、厳密にいうと遺構I・II面は同一層と見られる。土坑3基とピットが確認されたが、全体構成は不明。

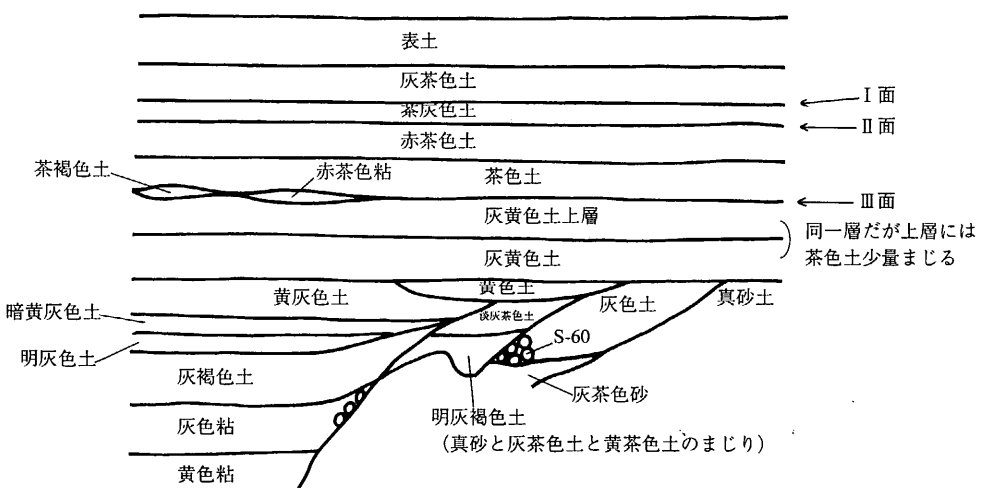
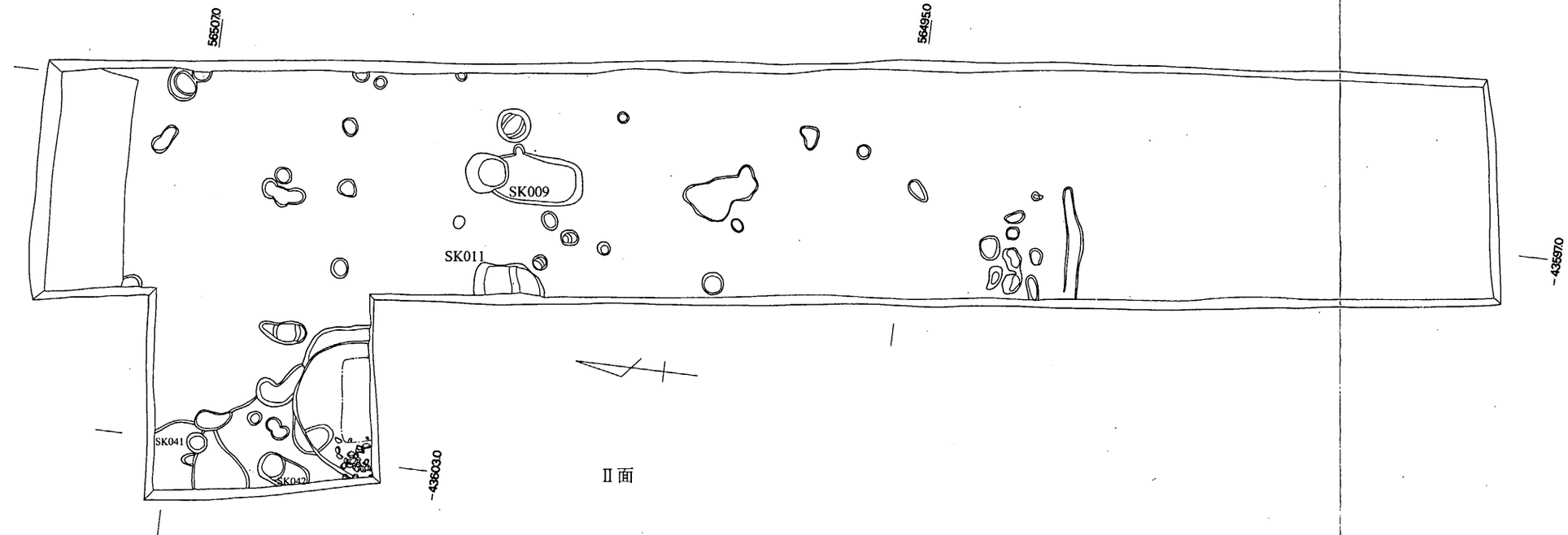


Fig.42 大宰府条坊跡第204次調査 土層模式図



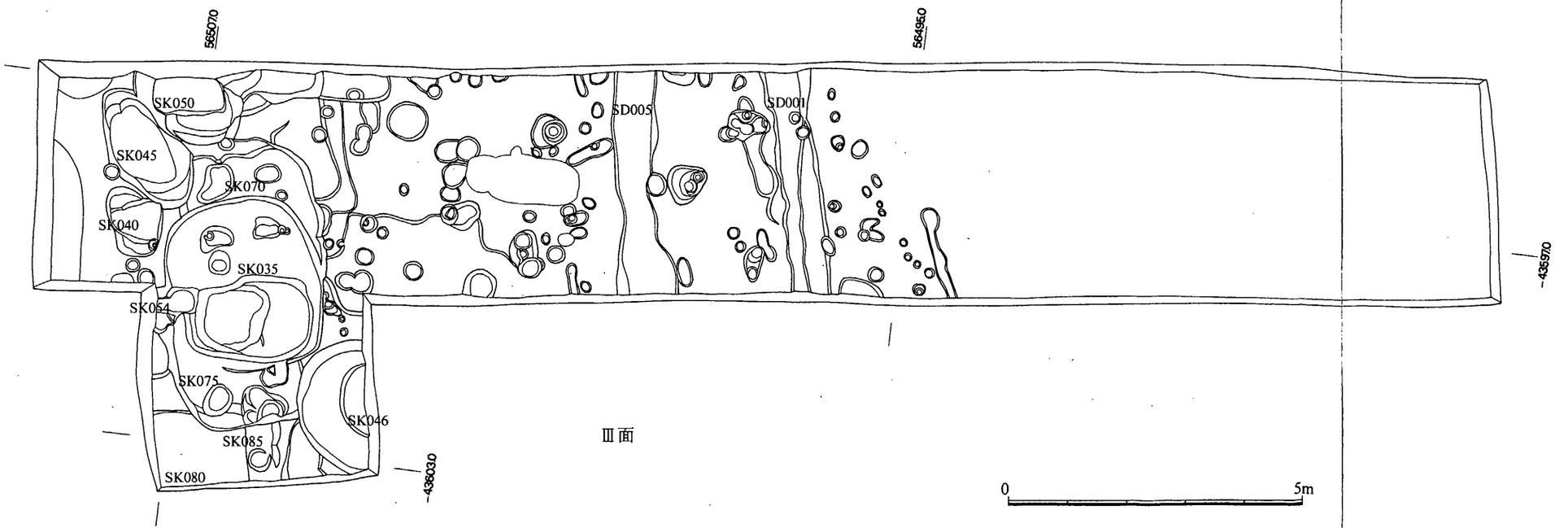


Fig.43　大宰府条坊跡第204次調査遺構配置図（II・III面）（S=1/100）

遺構の埋土は茶灰色土に黄灰色土を含んだもので一部灰色土の埋土が見られる。遺構は北側半分に見られる茶色土堆積部分のみに確認できる。茶色土の堆積以後に掘り込まれた遺構と考えられる。よって、それより南側は丘陵に向かって高くなっていたと推定され、その後削平されたと考えられる。整地層（遺構III面目を覆う堆積層）には鉱滓や鋳型を多量に含み、堆積層全体が赤茶色を呈している。その茶色土の埋土中には径0.5～1m、厚さ1～5cm程の土色の異なる不定形な堆積があり、鋳型や鉱滓を人為的にまとめて廃棄した跡と推測される。また、N10杭付近に厚さ3～4cm程の白色粘土塊がみられ、M9ｆ杭付近とM10杭付近には赤色粘土塊が確認され、鋳造に関連する材料であった可能性が考えられる。鋳型が集中する部分には細かい砂も多く検出されることから、使用済みの鋳型から真土を削り、再利用する目的があったと推測される。

遺構III面目を覆っている茶色土中には、鉱滓や鋳型等を廃棄した時の土饅頭のような0.5～1m程の土色の異なる部分が数ヶ所みられた。また、全面に鉱滓や鋳型が確認でき、特に形状が確認できるような鋳型や大形の鉱滓が集中して検出される。遺構II面の遺構形成時期は14世紀中頃くらいであろう。

d.遺構III面

遺構面は灰白色土で、調査区の北側半分程が僅かに低くなり、主要遺構が展開し、Mラインよりさらに一段低く下がり、地山に達している。遺構の埋土はII面目の遺構面を形成している鉱滓や鋳型を含む茶色土である。

遺構III面の遺構面を形成している灰黄色土（灰白色土）はほぼ一様に整地されているが、それを除去した面には部分的に黄色土と黄灰色土混じりの整地層があり、その下に黄灰色土が全体的に確認できる。南側では各層の立ち上がりが平面的に確認でき、黄灰色土の下に淡灰茶色土、灰色土の順で堆積し、真砂土の地山に達する。淡灰茶色土は南側付近のみの堆積とみられる。各層とも土師器片等を僅かに含んでいるが、遺構は確認できない。

拡張した部分のM12杭付近の茶色土中に鋳型が集中して検出された。今回の調査の中で最も密度が高い。鋳型が集中する部分には細かい砂が多く検出される。また、茶灰色土や茶色土は厚さ1～5cm程の不定形な堆積がぼんやりと確認でき、その境が明瞭に剥がれるところもある。廃棄の単位の可能性も考えられる。遺構III面の遺構形成時期は14世紀前半以前であろう。

3）遺構

遺構II面

a.土坑

204SK009

南北約1.5m、東西0.86m、深さ0.43mの長楕円形で、北端はピットによって切られている。

204SK011

花崗岩が検出された。II面目で確認したが、他と異なり下位で鋳型が多く検出された。層位では上下分かれる感じを受けたため、III面目の遺構が同位置にあった可能性も考えられる。

b.廃棄土坑

204SK041（Pla.45）

鋳型を多く含む茶色土に掘り込み、土師器を一括廃棄しているピットである。土師器は重なった状態で出土している。鉱滓や鋳型は含んでいない。

204SK042

SX041に比べ破片になっている土師器が多いが、一括廃棄と考えられるピットである。土坑状に検出されたというより、廃棄場所に投げ捨てられたような広がりを示しているように感じられる。土師器は重なっていたり一方向から投げ込まれたような出土状態は示していない。鉱滓や鋳型は殆ど含んでいない。

204SK065（Fig.45、Pla.44）

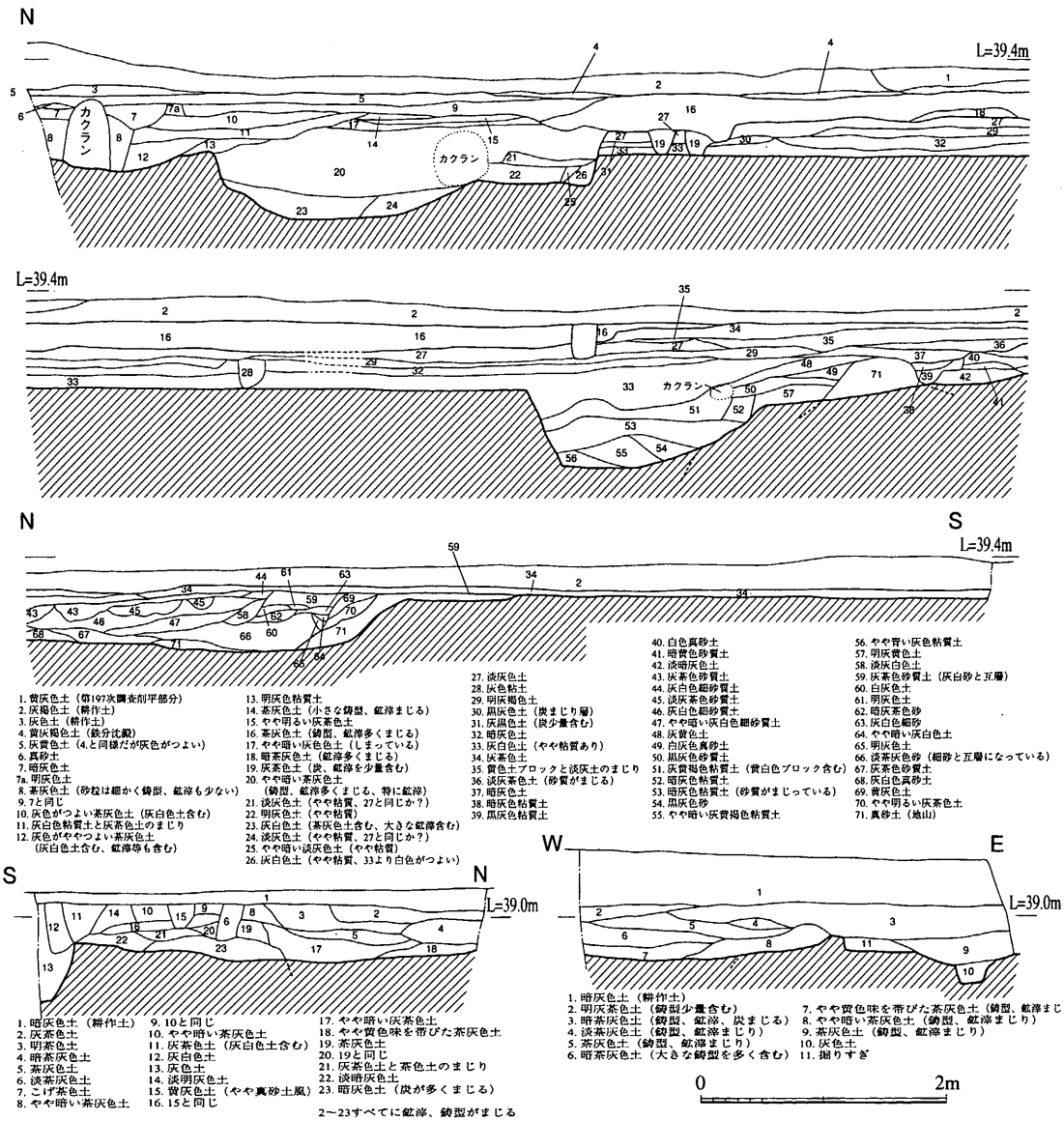


Fig.44　大宰府条坊跡第204次調査　東壁・北壁土層観察図（S=1/60）

南北0.65m、東西0.6m、深さ約0.65mのピットである。SE046の北西付近で、ウラゴメ土と井戸枠内の埋土に掘り込み、土師器を一括廃棄している。

c.井戸

204SE046（Fig.45、Pla.43）

径約2.3m、深さ1m以上の円形掘り方である。北側半分だけ検出。底面まで完掘していない。遺構検出時では不定形なプランであったため溜まり状の堆積に思えたが、一段下げると円形プランが確認でき、中央付近に井戸枠痕跡を窺わせる南北0.6m以上、東西1.25mの円形プランが検出されたため井戸と考えた。埋土は灰白色土で鋳型や鉱滓の堆積層に掘り込む形で検出された。埋土には小石も目立つが、鋳型や鉱滓は少ない。出土土器は細片が多く時期決定が難しいが、鋳型が殆ど混入していないことや14世紀中頃の土師器を多量に廃棄したピットが、井戸の北西付近の埋土に掘り込んでいることから、14世紀中頃の埋没と推測される。

d.その他の遺構

204SX049

SK035・070の鋳造土坑を覆っている灰茶色土の堆積である。鋳型を多く含む。

遺構III面

a.鋳造土坑

204SK035（Fig.47、Pla.38）

南北2.7m、東西3.05m、深さ0.2mの隅丸方形で、底面西側にはさらに南北2.3m、東西1.52m、深さ0.25mの方形状の土坑が掘り込まれている。SK035の底面より下位で鉱滓が多く検出された。層位では土坑の上面、つまり、SK035の底面で分層できるが別遺構か同一遺構なのかは明確でない。ただし、SK035の埋土から切り込んで掘られていないことから、SK035の廃棄時に掘り込まれたもの、もしくはSK075の廃棄時に周囲も含めて掘ったものと考えられる。底面の東側に浅いピットがあり、掛け木に紐を掛けるための穴と推測される。

底面よりやや浮いた位置から鋳型がまとまって出土した。土坑西側は鋳型と鉱滓の出土が比較的少ない。

204SK070（Fig.47、Pla.39）

南北2.45m、東西2.8m、深さ0.25mのやや不定形な楕円形を呈し、当初はSK035と同一遺構と考え、全く精査せずに掘り下げてしまった。完掘のプランと土層観察からSK035とは別遺構であることがわかった。西側の拡張部分で一部そのプランが確認できた。北東付近からは多くの鋳型が検出された。南東底面からは浅いピットが確認できたが、北東底面はその上位に鋳型が多量にあったため確認することが出来なかった。その浅いピットは掛け木に紐を掛けるための穴と推測される。

204SK075（Fig.48、Pla.39）

南北2.2m、東西2.6m、深さ0.2mの隅丸方形で、底面近くに薄く炭層がみられる。鋳型が西端のSK035の境付近にまとまって検出された。床面からは浅いピットが2つと深いピットが1つ検

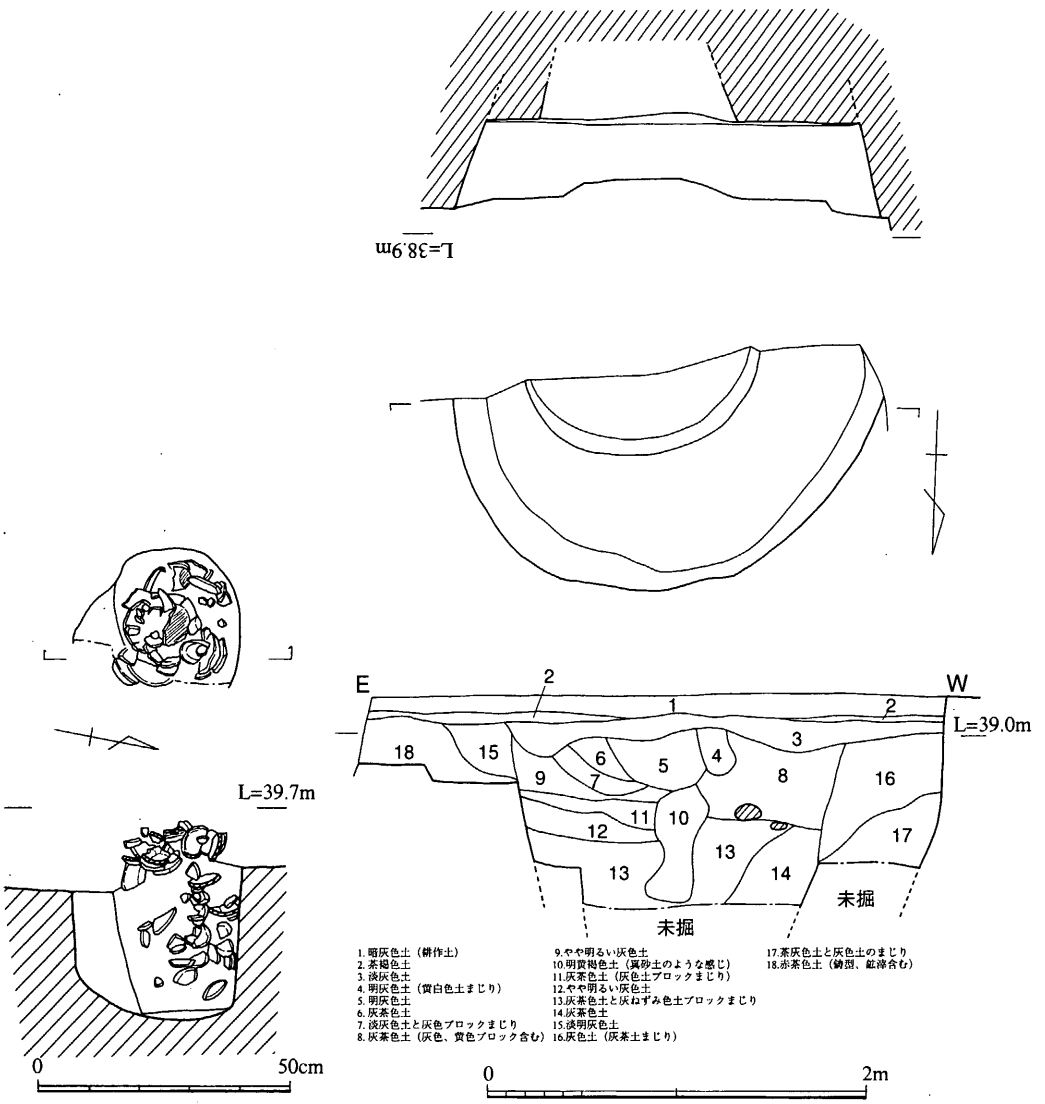


Fig.45　204SK065・SE046遺構実測図（S=1/15・S=1/40）

出され、浅いピットは掛木に縄を掛けるために掘られた穴と推測される。

底面のレベルはSK035とほぼ同じであるためそれと同一遺構ではないかと考えたが、南側でSK080とSK075が切り合う部分には明瞭な屈曲が見られるため、別遺構と考えた。

204SK080（Pla.38）

土坑の南東隅付近が確認され、その隅丸方形の形状から鋳造土坑ではないかと推測される。調査区外に遺構が広がるため今回は完掘していない。

b.廃棄土坑

204SK040（Fig.49、Pla.41）

長辺1.3m、短辺0.9m、深さ0.2mで、第47次調査で一部調査されている。遺構上面には鋳型や鉱滓が塊状に集中してみられ、2～3cmの赤色土層を挟み、鉱滓と5cm前後の小石が底面に散ら

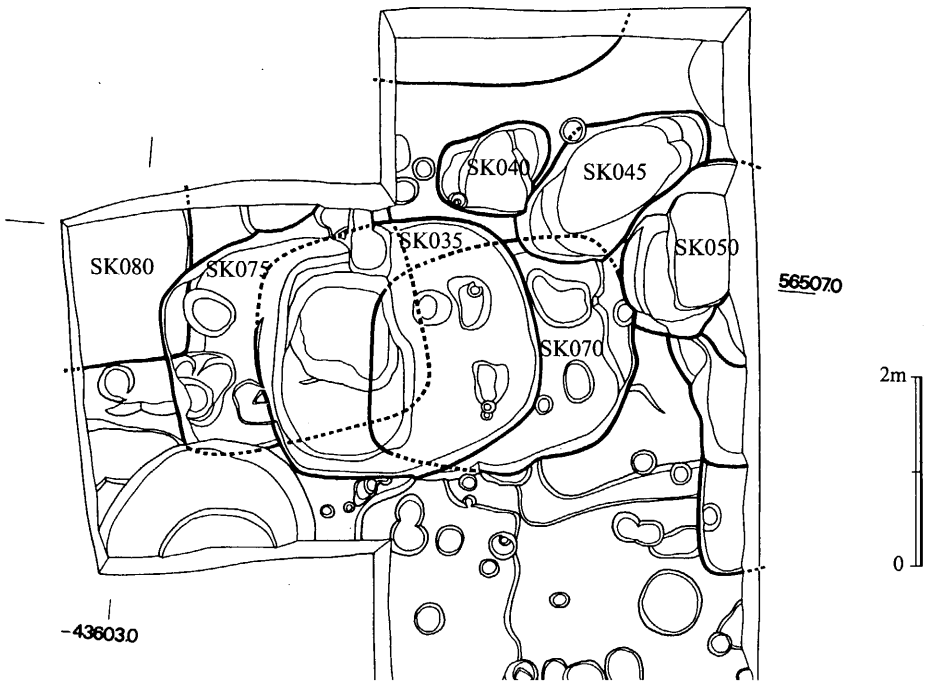


Fig.46　204鋳造土坑・廃棄土坑遺構配置図（S=1/80）

ばっていた。また、中央付近の底面では、鉱滓に混じって風化の著しい22×16cmの花崗岩が検出された。この土坑は他の廃棄土坑と異なり、堀り方が浅く小石の出土が目立つことなどから溶解炉や小物類の鋳造土坑などの遺構である可能性も考えられる。

204SK045（Fig.49、Pla.42）

長辺2.3m、短辺1.2m、深さ0.5mの長楕円形で、第47次調査でS-290として一部調査されている。上層の西側端では炭片が顕著に見られた。底面近くには鉱滓が顕著にみられたが、鋳型の出土は鉱滓に比べて少ない。

204SK050（Fig.49、Pla.42）

全体で南北4.3m、東西1.3m以上、深さ0.77mの長楕円形を成している。しかし、平面プランから廃棄土坑が3基重複している可能性も考えられ、一定の場所に連続して廃棄土坑を設けたものと考えられる。埋土の一部とN10杭付近の底面にまとまって鋳型や鉱滓が検出された。N10杭付近の遺構検出面では南北約1m、幅0.5m、厚さ3～4cm程の不定形をした白色粘土が検出された。

c.溝

204SD001

調査区を東西に横切る幅0.65～0.9m、深さ0.14mの浅い溝で、第47次調査で確認された東西の区画溝とほぼ同じ方位（約N-75°-E）を示している。この溝付近を境に北側は南側より0.1m程低くなり茶色土の堆積が見られ、溝を挟んだ南側には茶色土の堆積は殆ど見られない。埋土は小さな鉱滓・鋳型混じりの茶色土である。

南側では茶色土の堆積は見られなかったものの、若干検出されたピットの埋土が茶色土であることから、茶色土の堆積が全体に広がっていたとみられ、当初溝より南側の土地は僅かに高く、その後削平を受けたものと推測される。この溝は第47次調査の南側に東西に確認された区

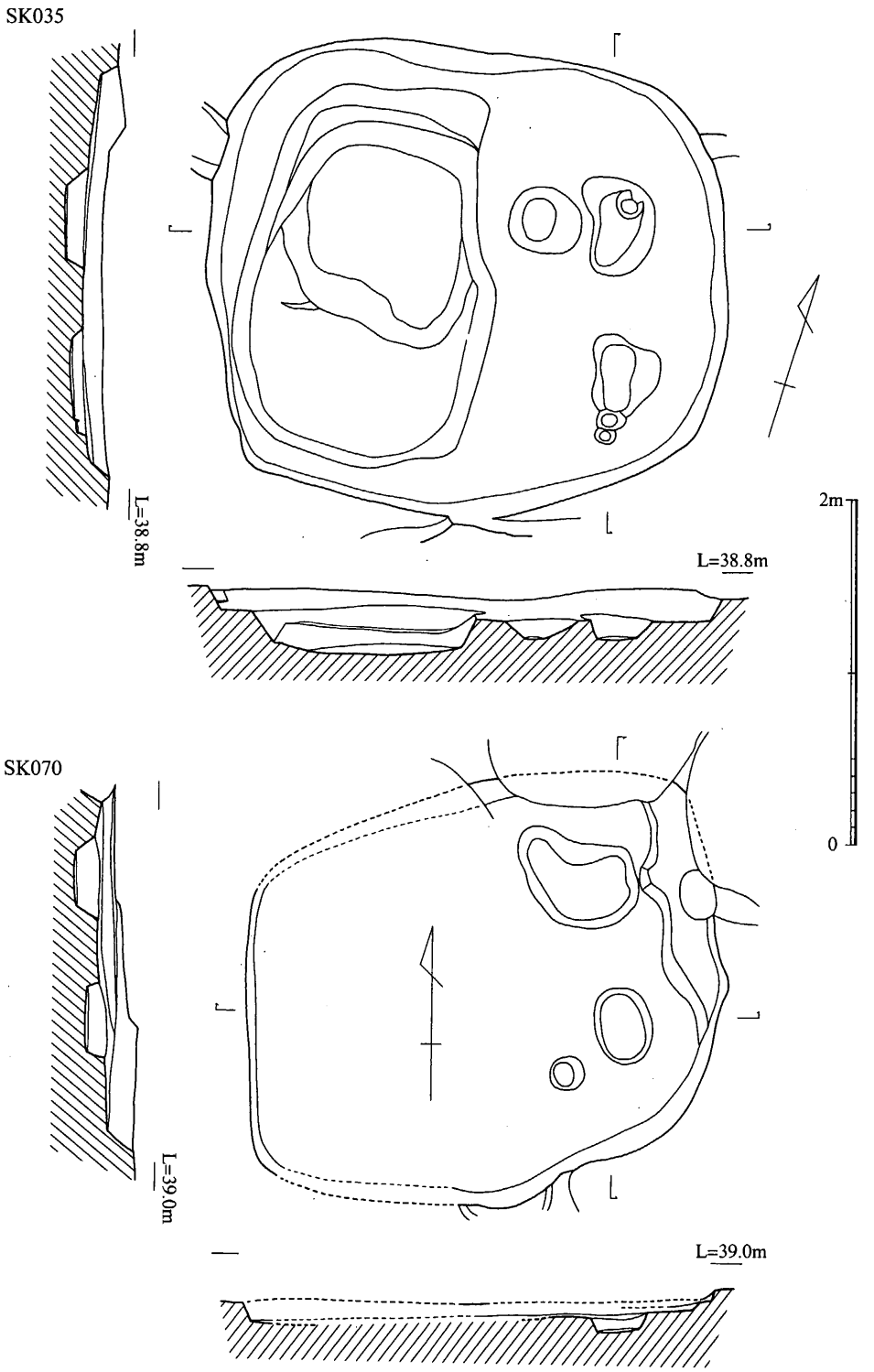


Fig.47　204SK035・070遺構実測図（S=1/40）

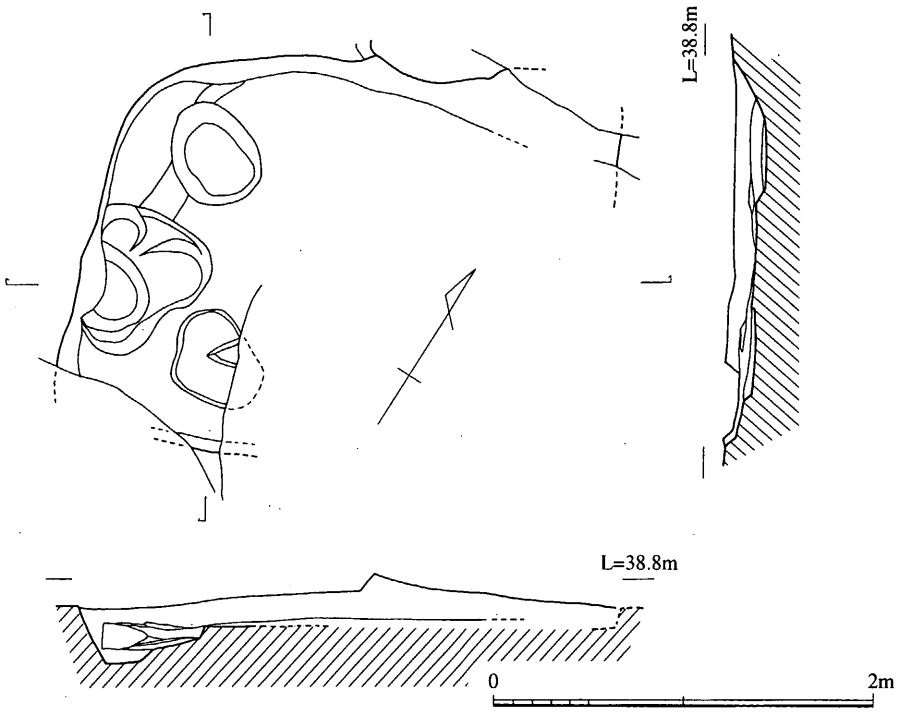


Fig.48　204SK075遺構実測図（S=1/40）

画溝と同じ方位を示していることや遺構の密度が溝を境に異なることから、平地に営まれた鋳物工房の南辺を区画する溝と考えられる。

204SD005

調査区を東西に横切る幅0.5～1.05m、深さ0.12mの浅い溝で、SD001と約2mの間隔を開けて平行して検出され、SD001と同様に鋳造遺構の南辺を区画する溝と考えられる。方位は約 N-82°-E を示している。埋土は小さな鉱滓・鋳型混じりの茶色土である。

204SD054

鋳造土坑等の保存のため一部確認しただけで、全容は全くわからないが、溝として報告する。SK035の南北両端に黒灰色土の埋土が確認され、北側では土師器の甑片が出土した。

d.その他の遺構

204SX060（Fig.50、Pla.45）

III面遺構面の下層状況を確認するため、トレンチを設け確認した砂礫の堆積である。灰色土を除去した底面付近に15cm程の石が検出されるが、石は敷き詰めたという感じではない。石群は中央付近が高く南北両端に低い。砂礫と灰色土に混じって遺物が出土する。また、灰色土はやや砂質系で、それに混じってやや茶色がかった粗い砂が混じっている。出土遺物は須恵器中心の安定したものである。石は明らかに他からの混入であるが、砂の混ざり方などから南側丘陵から土石流のような状態で流れ込んだことが想定される。

204SX085

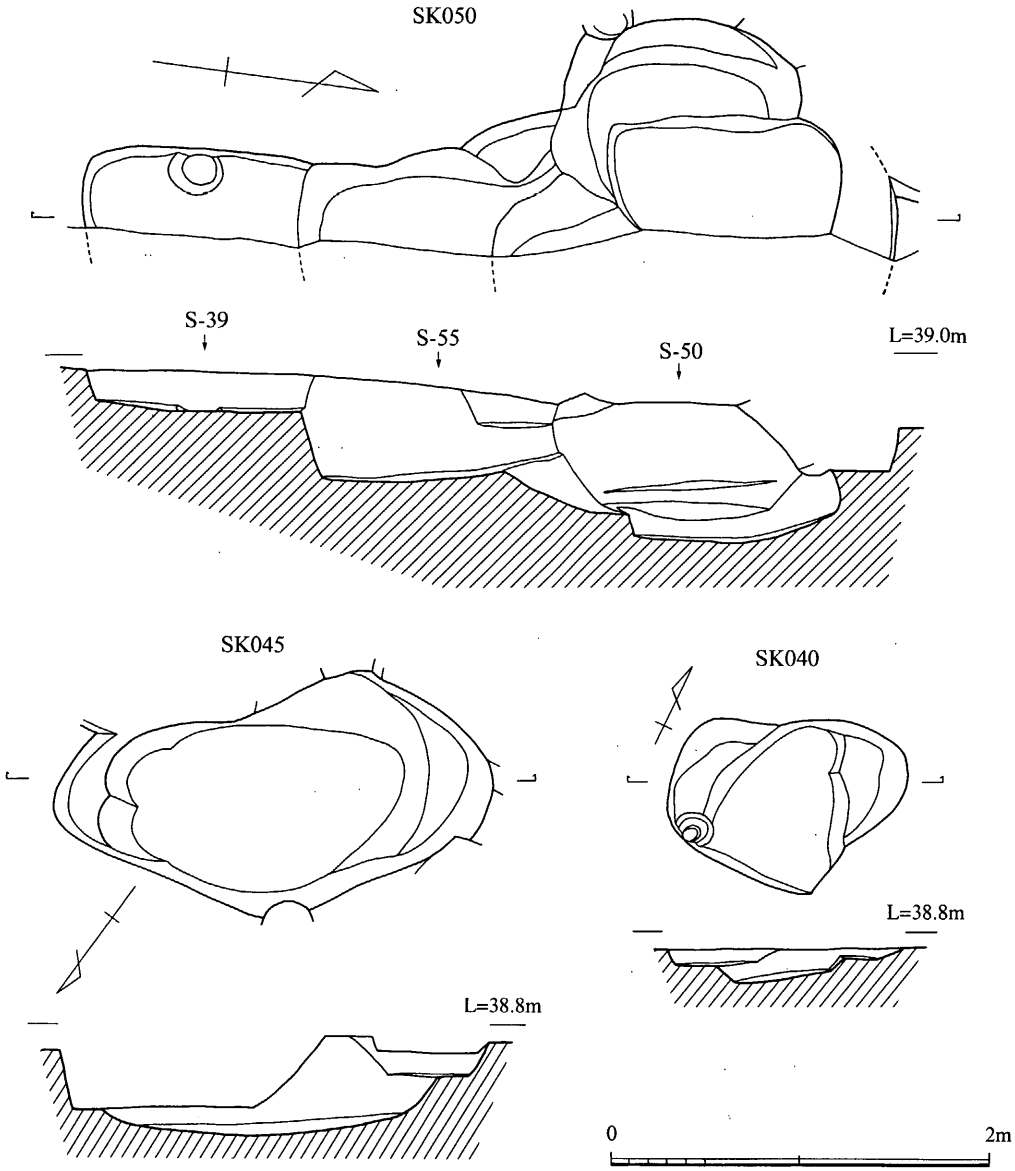


Fig.49　204SK040・045・050遺構実測図（S=1/40）

若干窪み状になり、その部分に鍋の鋳型などが堆積していた。浅い土坑もしくは堆積。

4）遺物

遺構II面

a.土坑出土遺物

204SK011出土遺物（Fig.51、Pla.48）

金属生産関係遺物

鋳型（1）　真土は1.5～2.5cmの厚さで、鋳型面は暗灰色に変色する。真土の外側は0.2～0.3cmの砂粒を含む粗い真土である。鋳型面には挽き目と平行に2条の沈線を作り、下方でほぼ

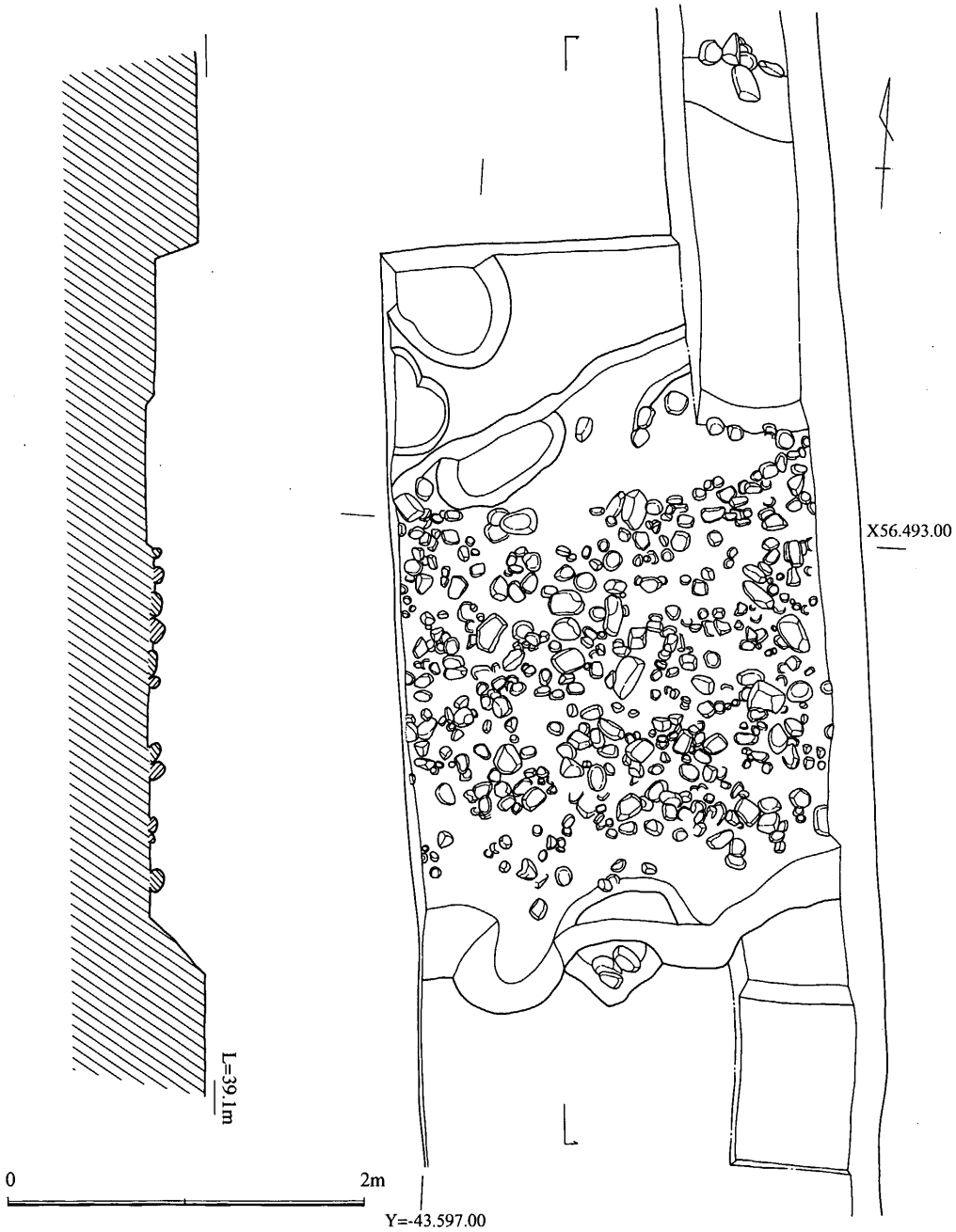


Fig.50　204SX060遺構実測図（S=1/40）

90度に屈曲している。屈曲下面も同様に熱を受けていることや形状などから羽釜の鋳型の可能性も考えられる。

b.廃棄土坑出土遺物

204SK041出土遺物（Fig.52、Pla.48）

土師器

一括廃棄されたものと考えられ、残りの良い数点の実測図を掲載し、その他は計測表を参考にして頂きたい。

小皿a（1・2）　計測可能なものは総数10点である。胎土は全体的に淡茶灰色や橙茶色を呈し、細砂粒と微細な雲母片を多く含んでいる。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。

小皿b（3・4）　計測可能なものは総数9点である。胎土は全体的に淡茶色を呈し、細砂粒と微細な雲母片を含んでいる。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。3・4は口縁部に煤が付いているため、灯明皿の可能性も考えられる。

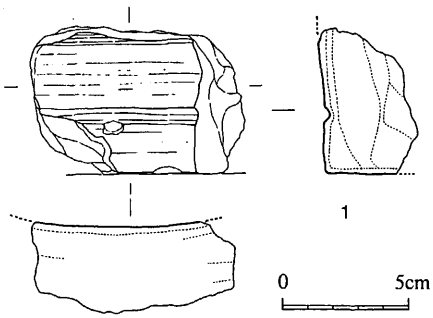


Fig.51 204SK011
出土遺物実測図（S=1/3）

坏a（5・6）　計測可能なものは総数20点である。胎土は全体的に淡茶色や淡茶灰色を呈し、砂粒と微細な雲母片をやや多く含んでいる。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。5の口縁部を中心に煤が付着し、灯明皿の可能性も考えられる。

204SK042出土遺物（Fig.52、Pla.48）

土師器

一括廃棄されたものと考えられ、残りの良い数点の実測図を掲載し、その他は計測表を参考にして頂きたい。

小皿a（7）　胎土は全体的に淡茶色や茶褐色を呈し、僅かに細砂粒と微細な雲母片を含んでいるが、精製されている。

小皿b（8・9）　計測可能なものは総数11点である。胎土は全体的に淡茶灰色や淡褐色を呈し、胎土は微細な雲母片を少量含んでいるが精製されている。

坏a（10・11）　一括廃棄されていたもので、計測可能なものは総数12点である。胎土は全体的に淡茶色や淡茶灰色を呈し、細砂粒と微細な雲母片を多く含んでいるが、精製されている。

204SK065出土遺物（Fig.53、Pla.49）

土師器

一括廃棄されたものと考えられ、残りの良い数点の実測図を掲載し、その他は計測表を参考にして頂きたい。

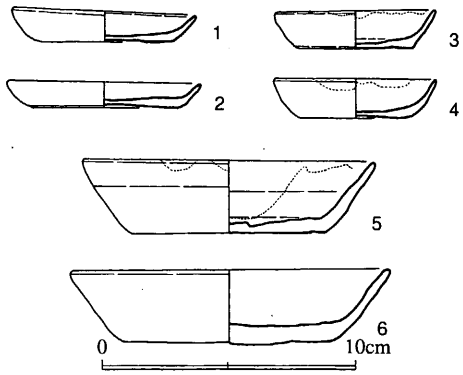
小皿a（1・2）　計測可能なものは総数11点である。胎土は全体的に茶白色を呈し、僅かに細砂粒と微細な雲母片を含むが精製されている。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。

小皿b（3～5）　計測可能なものは総数9点である。胎土は全体的に茶白色や淡茶色を呈し、僅かに細砂粒と微細な雲母片を含むが精製されている。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。3・4は口縁部に煤が付いているため、灯明皿の可能性も考えられる。

坏a（6・7）　一括廃棄されていたもので、計測可能なものは総数18点である。胎土は全体的に淡茶白色を呈し、細砂粒をやや多く含むが精製されている。底部切り離しは全て糸切りで、板状圧痕を残す。

c.その他の遺構出土遺物

SK041

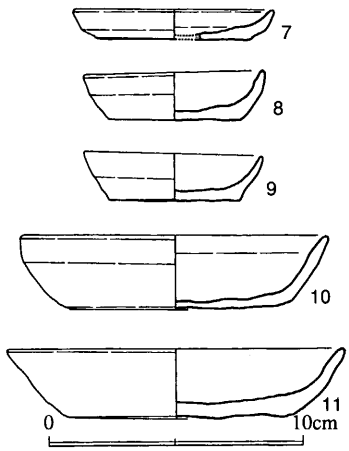


Tab.4　SK041土器法量表

種別	器種	図版番号	R-a-	口径	器高	底径	A.内底ナデの有無 A	B.板状圧痕の有無 B
土	小皿b（イト）	Fig52-3	R-001	6.4	1.5	4.7	○	○
	〃　〃	Fig52-4	R-002	6.5	1.55	4.55	－	○
	小皿a　〃	Fig52-1	R-003	7.4	1.2	5.5	○	○
	〃　〃	Fig52-2	R-004	7.8	1.05	6.0	○	○
	坏a　〃	Fig52-5	R-005	11.7	2.9	7.7	○	×
	〃　〃	Fig52-6	R-006	12.8	2.95	8.2	○	○

種別	器種	図版番号	R-a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	－	a-001	(11.6)	2.75	(7.4)	○	○
	〃　〃	－	a-002	(12.2)	2.5	7.4	○	○
	〃　〃	－	a-003	12.3	2.6	8.0	－	○
	〃　〃	－	a-004	(11.8)	3.05	7.4	○	○
	〃　〃	－	a-005	(12.4)	3.1	(9.0)	－	○
	〃　〃	－	a-006	11.8	2.75	7.0	○	○
	〃　〃	－	a-007	12.4	2.8	8.2	○	○
	小皿a（イト）	－	a-008	8.2	1.1	6.2	○	○
	坏a（イト）	－	a-009	(12.5)	2.5	(8.0)	○	○
	小皿a（イト）	－	a-010	(7.8)	1.0	(6.4)	○	○
	坏a	－	a-011	(14.8)	3.0	－	－	－
	小皿b（イト）	－	b-012	(6.8)	1.55	4.5	○	○
	〃　〃	－	b-013	－	1.3	(4.2)	○	○
	〃　〃	－	b-014	6.6	1.6	4.4	－	○
	〃　〃	－	b-015	6.4	1.65	4.4	○	○
	小皿a（イト）	－	a-016	7.8	1.2	6.2	○	○
	〃　〃	－	a-017	(8.6)	1.45	(6.4)	○	○
	〃　〃	－	a-018	(7.4)	1.1	(5.8)	－	○
	坏a	－	a-019	(11.8)	2.8	(7.0)	－	○
	坏a（イト）	－	a-020	(12.0)	3.2	(8.4)	○	○
	〃　〃	－	a-021	12.5	2.83	(7.8)	○	○
	〃	－	a-022	(11.3)	2.9	(6.8)	○	○
	〃　〃	－	a-023	(12.2)	2.9	(8.0)	○	○
	小皿b（イト）	－	b-024	6.5	1.5	4.5	○	○
	小皿a	－	a-025	(8.8)	1.2	6.5	○	－
	小皿b（イト）	－	b-026	(6.6)	1.7	(4.0)	○	○
	小皿a	－	a-027	(7.2)	1.4	(5.4)	○	－
	坏a（イト）	－	a-028	(12.0)	3.0	(7.0)	○	○
	坏a	－	a-029	(9.4)	2.6	(6.5)	－	－
	小皿b（イト）	－	b-030	(7.2)	1.6	5.1	○	○
	坏a（イト）	－	a-031	－	1.4+α	(7.8)	○	○
	〃　〃	－	a-032	－	1.85+α	(7.6)	○	－
	小皿a（イト）	－	a-033	－	1.0+α	(6.0)	○	－

SK042



Tab.5　SK042土器法量表

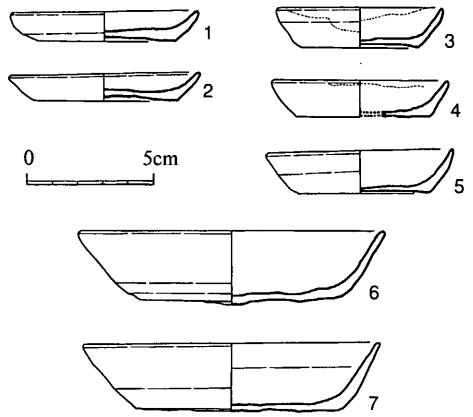
種別	器種	図版番号	R-a-	口径	器高	底径	A.内底ナデの有無 A	B.板状圧痕の有無 B
土	小皿a　(?)	Fig52-7	R-001	(8.0)	1.2	(6.2)	○	－
	小皿b（イト）	Fig52-9	R-002	7.1	1.9	5.2	○	○
	小皿b（〃）	Fig52-8	R-003	7.2	1.9	5.3	○	○
	坏a　（〃）	Fig52-10	R-004	12.2	2.95	9.0	○	○
	〃　〃	Fig52-11	R-005	13.5	2.7	9.0	○	○

種別	器種	図版番号	R-a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	－	a-001	(12.4)	3.0	(8.7)	○	○
	〃　〃	－	a-002	(13.6)	2.85	8.8	－	－
	〃　〃	－	a-003	(13.0)	3.1	8.4	○	○
	〃　〃	－	a-004	(11.0)	2.95	(7.0)	○	○
	〃　〃	－	a-005	(13.0)	3.2	(9.0)	○	－
	〃　〃	－	a-006	－	2.1+α	(8.6)	－	○
	〃　〃	－	a-007	－	1.4+α	(8.6)	－	○
	〃　〃	－	a-008	(13.8)	3.0	(8.4)	○	－
	〃	－	a-009	－	2.1+α	(8.0)	－	－
	〃　〃	－	a-010	(13.6)	2.9	(7.0)	○	－
	小皿b	－	b-011	7.25	1.65	5.5	－	○
	小皿b（イト）	－	b-012	6.4	1.65	5.0	○	○
	〃	－	b-013	(6.4)	1.8	(4.6)	－	－
	〃	－	b-014	(7.3)	1.75	5.6	○	－
	〃	－	b-015	(7.8)	2.0	5.4	○	○
	〃　〃	－	b-016	－	1.5+α	5.3	○	○
	〃　〃	－	b-017	(7.4)	2.25	4.9	○	○
	〃　〃	－	b-018	7.4	1.65	5.1	○	○
	〃	－	b-019	7.4	1.7	(5.0)	○	○

SK042下層土器法量表

種別	器種	図版番号	R-a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	－	a-001	－	1.5+α	8.0	○	○
	小皿a（イト）	－	a-002	7.8	1.2	6.0	○	○
	〃	－	a-003	(7.6)	1.15	5.5	○	○
	〃　〃	－	a-004	(7.8)	1.3	(6.2)	○	－
	坏a（イト）	－	a-005	－	1.35+α	(8.6)	－	○
	〃	－	a-006	－	1.9+α	(7.4)	－	－
	〃　〃	－	a-007	－	2.0+α	(7.8)	－	－

Fig.52　204SK041・042出土土器実測図（S=1/3）



Tab.6　SK065土器法量表

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A.内底ナデの有無 A	B.板状圧痕の有無 B
土	小皿b（イト）	Fig53-3	R-001	6.6	1.6	4.55	○	○
	〃　〃	Fig53-4	R-002	(7.0)	1.45	5.35	○	○
	〃　〃	Fig53-5	R-003	7.4	1.7	5.3	○	○
	小皿a（〃）	Fig53-1	R-004	7.5	1.15	5.4	○	○
	〃　〃	Fig53-2	R-005	7.6	1.1	5.7	○	○
	坏a　（〃）	Fig53-6	R-006	12.1	2.9	8.4	○	○
	〃　〃	Fig53-7	R-007	11.8	2.65	8.2	○	○

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	－	a-001	(11.8)	3.15	(8.0)	○	－
	〃　〃	－	a-002	(12.2)	2.85	8.0	○	○
	〃　〃	－	a-003	(12.6)	2.7	(7.9)	○	○
	〃　〃	－	a-004	(10.3)	3.0	(7.2)	○	－
	〃　〃	－	a-005	(12.6)	2.95	8.3	○	○
	〃　〃	－	a-006	(12.2)	2.8	7.0	○	○
	〃　〃	－	a-007	(12.3)	2.5	7.6	○	○
	〃　〃	－	a-008	(12.2)	2.55	(7.4)	○	○
	〃　〃	－	a-009	(12.2)	2.8	(7.2)	○	○
	〃	－	a-010	(11.6)	2.8	(8.0)	－	－
	〃　〃	－	a-011	(14.0)	2.8	(9.4)	○	○
	〃　〃	－	a-012	(11.1)	2.7	(7.2)	○	－
	〃　〃	－	a-013	(12.9)	3.0	(8.4)	－	－
	〃　〃	－	a-014	(12.2)	2.65	(8.0)	－	○
	〃	－	a-015	(11.6)	2.4	(7.2)	－	○
	〃　〃	－	a-016	(10.8)	2.9	7.0	○	○
	小皿b（イト）	－	b-017	(8.0)	1.9	(5.3)	○	○
	〃　〃	－	b-018	(6.2)	1.55	4.2	○	○
	〃　〃	－	b-019	(6.0)	1.7	(4.0)	○	○
	〃	－	b-020	(6.6)	1.55	(4.6)	－	－
	小皿a（イト）	－	a-021	8.0	1.1	5.8	○	○
	〃	－	a-022	7.1	1.25	5.1	－	○
	〃　〃	－	a-023	(7.8)	1.45	(6.1)	○	○
	〃　〃	－	a-024	(6.8)	1.05	(5.4)	○	○
	〃　〃	－	a-025	(7.6)	1.1	(6.2)	－	－
	〃　〃	－	a-026	(7.4)	1.3	(5.8)	－	－
	〃	－	a-027	(7.2)	1.7	(5.2)	○	－
	〃　〃	－	a-028	(7.4)	1.2	(5.3)	○	－
	小皿b（イト）	－	b-029	(6.4)	1.5	(4.0)	○	－
	〃　〃	－	b-030	(5.6)	1.8	(4.0)	○	－
	小皿a（イト）	－	a-031	(8.0)	1.25	(6.5)	－	－

Fig.53　204SK065出土土器実測図（S=1/3）

204SX049出土遺物（Fig.54）

土師器

小皿a（1・2）　胎土は1は灰褐色、2は淡橙茶色で砂粒を少量含んでいる。

坏a（3）　全体的に摩滅が著しく調整不明。

須恵質土器

鉢（4・5）　4は口縁端部で、屈曲は見られない。東播系。5は口縁部が内湾する。2点とも体部は回転ナデで調整し、口縁部の色調は黒灰色を呈している。

204SX049灰茶色土出土遺物（Fig.54、Pla.49）

土師器

小皿a（6）　底部切り離しは糸切り。調整は体部がヨコナデ。内面底部はナデ。

坏a（7・8）　底部切り離しは糸切り。7の調整は体部がヨコナデ。内面底部は不定方向のナデ。8は磨滅で調整不明瞭。

金属生産関係遺物

鋳型（9～12）　9は鋳型面の磨滅が目立つが、平坦面から角を付けて屈曲している。真土の外側の胎土は0.1～0.2cmの白色砂粒を含み、外面がナデ整形している。10は径7.7cm、幅0.9cm、厚さ0.3cmの輪形を作り出した鋳型と考えられる。径は小さいが、五徳の一部か。真土の断面に被熱で変色した鋳型面が2層見られるため、2度の塗り直しが行われたと考えられる。11は残存する真土表面の約8cmが淡茶色のいわゆる巾木の部分で、僅かな膨らみを挟んで、残りの1cmが

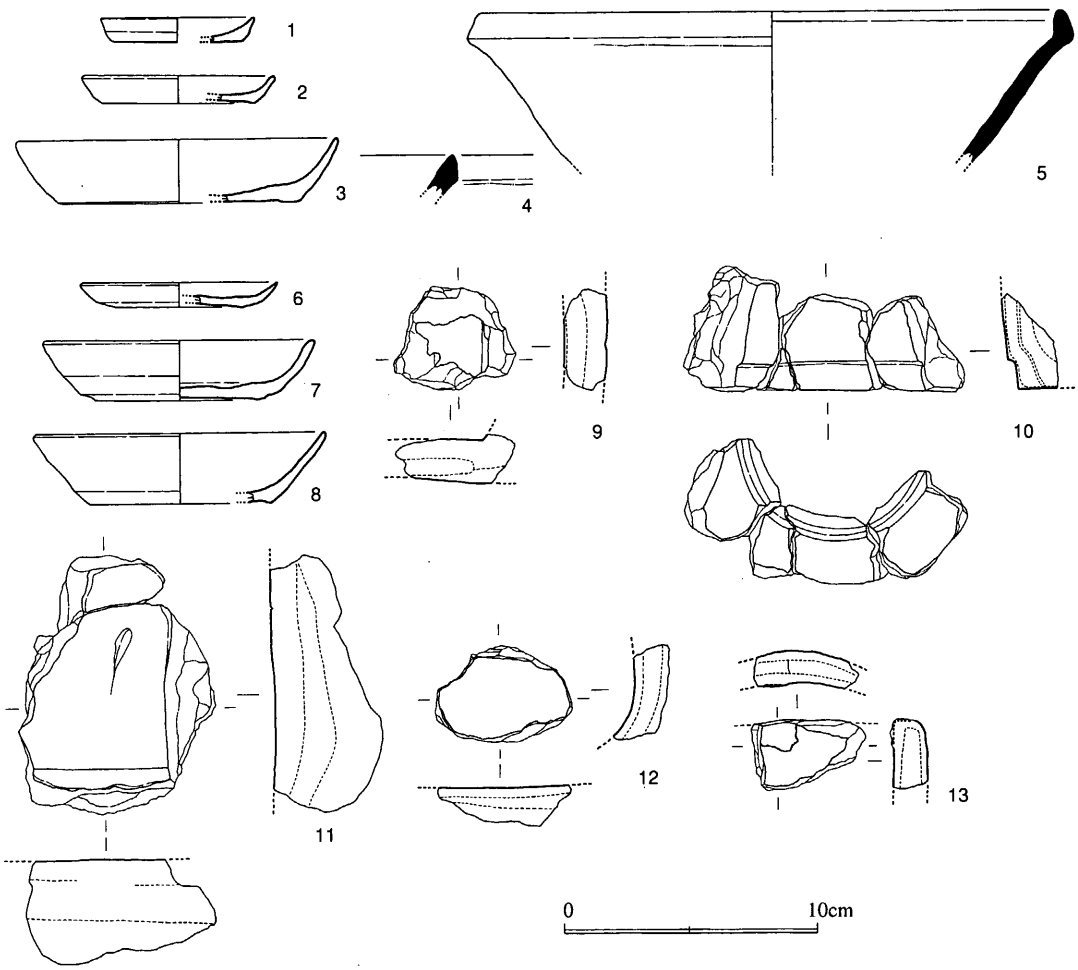


Fig.54　204SX049・049灰茶色土出土土器実測図（S=1/3）

暗灰色を呈する鋳型面である。全体は湾曲もなく平坦である。真土の厚さは約1cmである。12は鋳型面が挽き目方向と異なる方向に大きく湾曲している。

用途不明品（13）　胎土は0.1cm未満の白色細砂粒を含むが、精製されている。内面上端部に厚さ0.1cmの暗赤黒色の付着物がみられる。外面の上端部の径は13.4cmに復原できる。

遺構III面

a.鋳造土坑出土遺物

204SK035茶色土出土遺物（Fig.55～57、Pla.49・50）

金属生産関係遺物

鋳型（1～20）　1～13は鍋の鋳型と推測される。共通点として真土は精製された胎土を用い、鋳型面は熱によって暗灰色に変色し、挽き目が確認できる。真土の外側は0.1～0.5cmの砂粒とスサを多く含む粗い胎土を用い、熱によっておよそ淡茶土、暗褐色の順に変色している。焼成は軟質である。1は鋳型面が鈍角に丸味を持って屈曲する。0.1～0.5cmの砂粒とスサを多く含む

胎土の表面に真土を0.5cmの厚さで仕上げている。鋳型面と屈曲部を挟んだ上面も表面がやや粗れ、黒灰色に変色している。巾木が熱を受けた結果と考えられる。2は鋳型面が緩く屈曲する。粗い胎土の表面を精製された真土で0.8cmの厚さで仕上げている。3は屈曲する口縁部を持つ鍋の鋳型で、上部にはさらに屈曲して巾木が残り、熱によってやや明るい黒灰色に変色している。20は僅かに湾曲する鋳型である。精製された真土の鋳型面には亀甲状に亀裂が見られ、横方向の挽き目が確認できる。4～12は鋳型面と巾木の屈曲部分である。5・6は巾木の2段部分まで残る。巾木には薄い茶黒色の付着物が見られる。真土の厚さが1cm前後だが、11は薄く厚さ0.3cmである。12は鍋口縁部の段と巾木部分が断片的に残存する。13は鍋の2段の口縁部分で、稜線と挽き目を明瞭に残している。18～20は明確ではないが、鋳型面の湾曲状態や焼成状況から鍋の鋳型の可能性が考えられる。19は径53.0cmに復原できる。鋳型面には挽き目が残る。

14～17は製品が不明のもの。14・15やや丸味を持って屈曲するもの。屈曲部に浅い沈線があり、屈曲部を挟んだ両面とも鋳型面である。鋳型面は挽き目が確認できる。16は僅かに屈曲を持つ鋳型。17は小片だが丸味を持たず平坦な鋳型で、真土の厚さが1.6cmである。

図示していないが、その他に真土の厚さが2.5cm程の真土だけの鋳型片が出土している。鋳型面は平坦で、磨滅が著しく僅かに淡灰色に変色した真土が鋳型面と確認できる。焼成は軟質。

炉壁（21～24）　炉壁の一部で、内面には白色の鉱滓が付着している。外面は磨滅して調整不明。胎土は0.5cm前後の砂粒とスサを多く含み、熱によって内面から明灰色、暗紫色、暗茶褐色に変色し、当初の胎土と思われる外面は淡茶色を呈している。炉壁の厚さは5.5cm前後で、そのうち鉱滓部分と炉壁の融解部分の厚さは約1.5cm。21の外面はナデ整形され、内面は剥落が著しいが、外面に対し内面が斜め方向に残存する。22は内面に白色滓が付着する。外面は粗くナデ整形する。炉壁の厚さは6.0cm。24は修復された炉壁で、鉱滓面が断面に2層見られるため、2回の修復があったことが窺える。

鞴羽口（25～27）　25は鞴羽口の先端付近と考えられ、鞴羽口部分は剥落し、それに付着していた周囲の鉱滓部分が残っている。約6cm前後の径が復原できる。26の外面は鉱滓で覆われ、内面は若干磨滅するが、面を良好に残す。鉱滓を除いた部分の厚さは2.0cmを測る。27も同様に先端に近い部分と考えられる。鞴羽口部分は剥落し、僅かにスサ混じりの胎土が鉱滓と共に残っている。約10cm前後の径が復原できる。

石製品（28）　片面は突帯状にケズリ出され、中央付近に円孔を穿っている。周囲は煤が覆っている。その反対面はやや湾曲するように削られている。円孔が半分に欠損しているため、この製品は約13.2cmだったと考えられる。滑石製。

204SK035出土遺物（Fig.58）

金属生産関係遺物

鋳型（1・2）　2点とも鍋の鋳型面と巾木の屈曲部の鋳型である。鋳型面は淡灰黒色で、表面は亀甲状に亀裂が見られる。1は鍋の口縁付近まで残り、2段の口縁であることがわかる。真土の厚さは0.8cm前後。2は真土の厚さは0.2cm前後と薄い。

不明品（3）　全体が淡茶褐色を呈し、胎土は目立った砂粒もなく、精製されている。焼成は

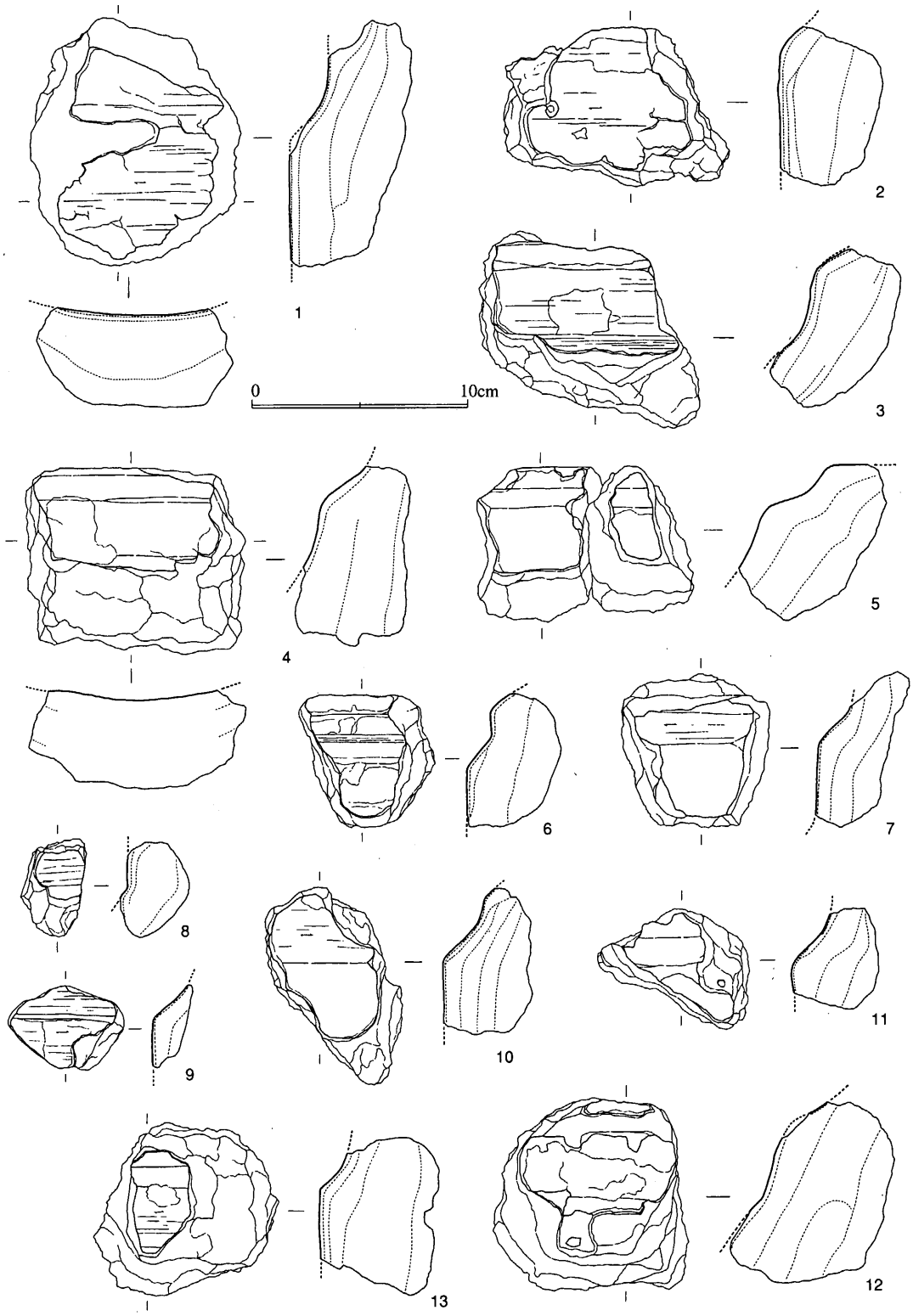


Fig.55　204SK035茶色土出土遺物実測図1（S=1/3）

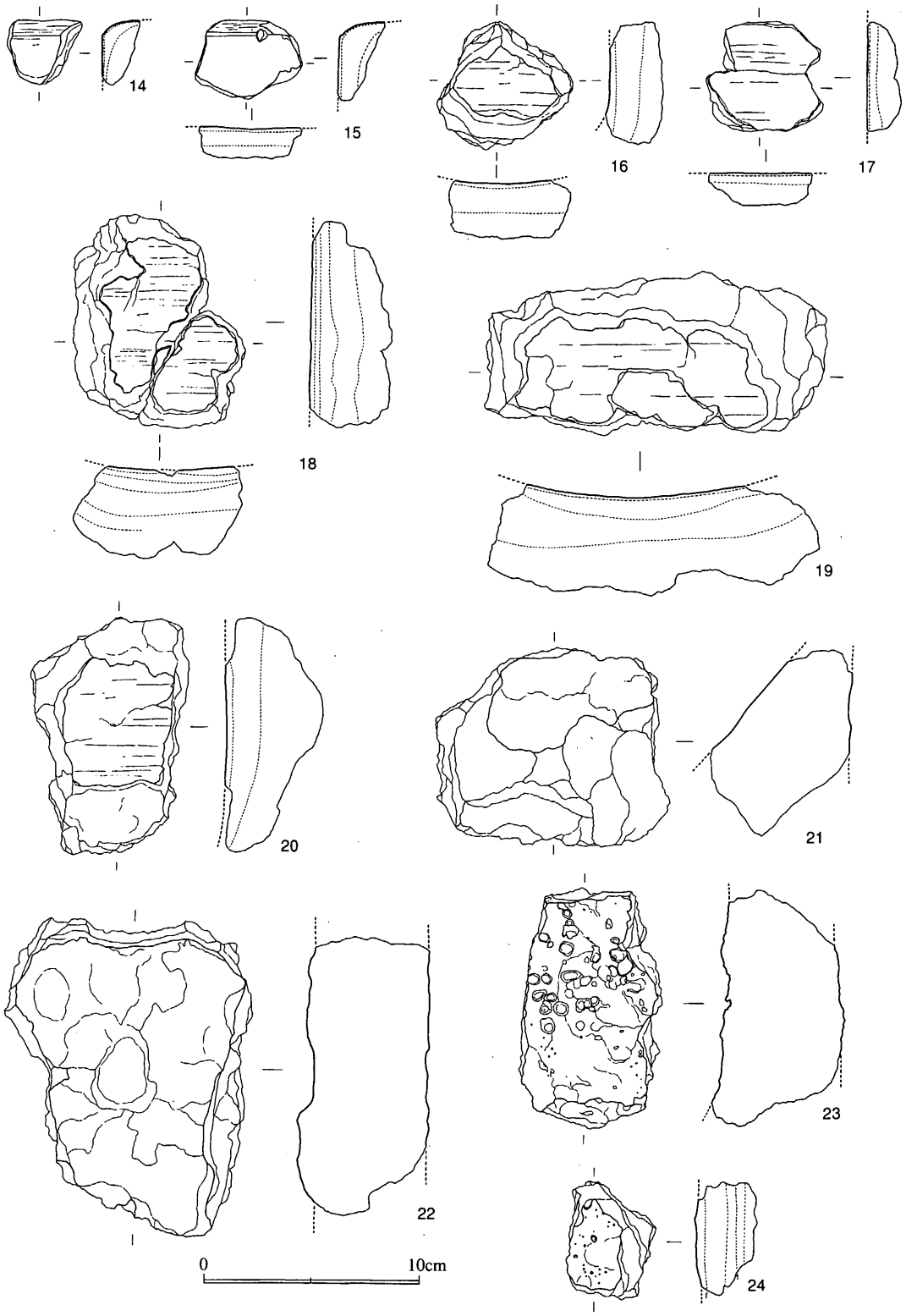


Fig.56　204SK035茶色土出土遺物実測図2（S=1/3）

硬質である。表面はナデもしくはケズリによって面取りされている。

204SK035下層出土遺物

(Fig.58)

金属生産関係遺物

鋳型

図示していないが、真土の厚さが2cm程の真土だけの鋳型が出土している。鋳型面は平坦で、磨滅が著しく僅かに淡灰色に変色した真土が鋳型面と確認できる。焼成は極めて軟質。

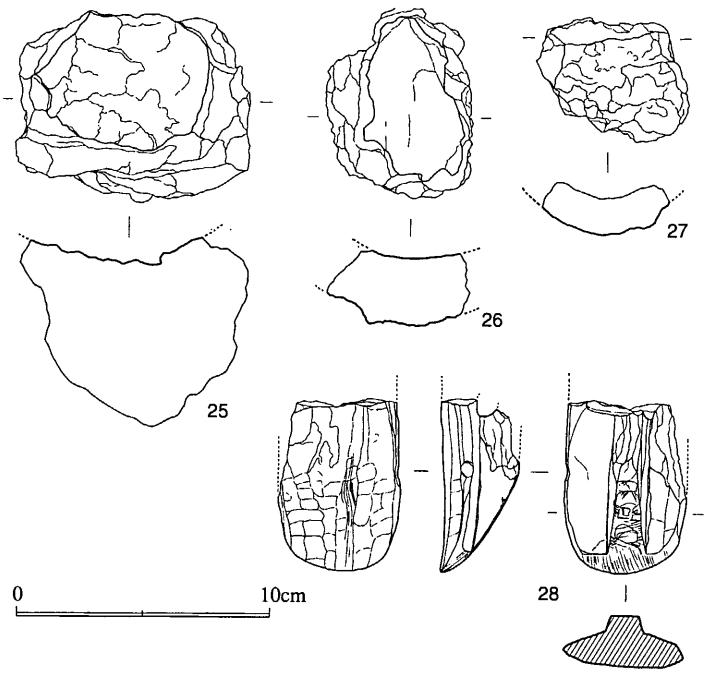


Fig.57　204SK035茶色土出土遺物実測図3（S=1/3）

用途不明品（4）　小片のため全体の形状がつかめないが、湾曲状況から椀型になるように思われる。内面の一部が黒色に変色している。胎土は茶褐色で、目立った砂粒がなく精製されている。焼成は硬質である。

204SK075出土遺物（Fig.59）

金属生産関係遺物

鋳型（1～6）　この遺構の鋳型の胎土は、他の遺構から出土する鍋の鋳型と全く異なり、精製された真土を厚く塗っている。1は2cm程の厚い真土の外側に砂粒とスサを若干含む粗い真土を残す。2は破片全てが真土で、鋳型面に僅かに凹む沈線状の段を付ける。3は鋳型面と巾木の屈曲部であるが、鍋と異なり、鋳型面が直線的である。表面は磨滅して挽き目等は確認できない。また、側面にも面があり、被熱具合から巾木と考えられる。真土や胎土は他と同様である。4は破片の殆どが真土で、真土の厚さ3.3cmを測る。その外側の胎土は粗い真土のような砂質で、0.1～0.2cmの砂粒や焼土塊を含む。鋳型面は平坦で、磨滅が

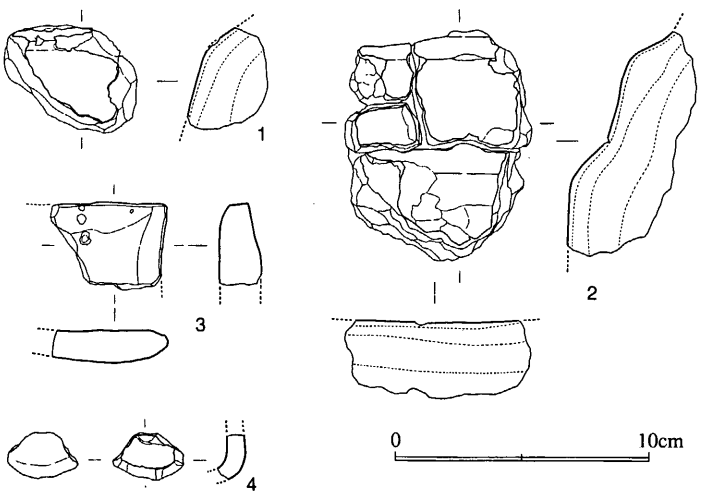


Fig.58　204SK035・035下層出土遺物実測図（S=1/3）

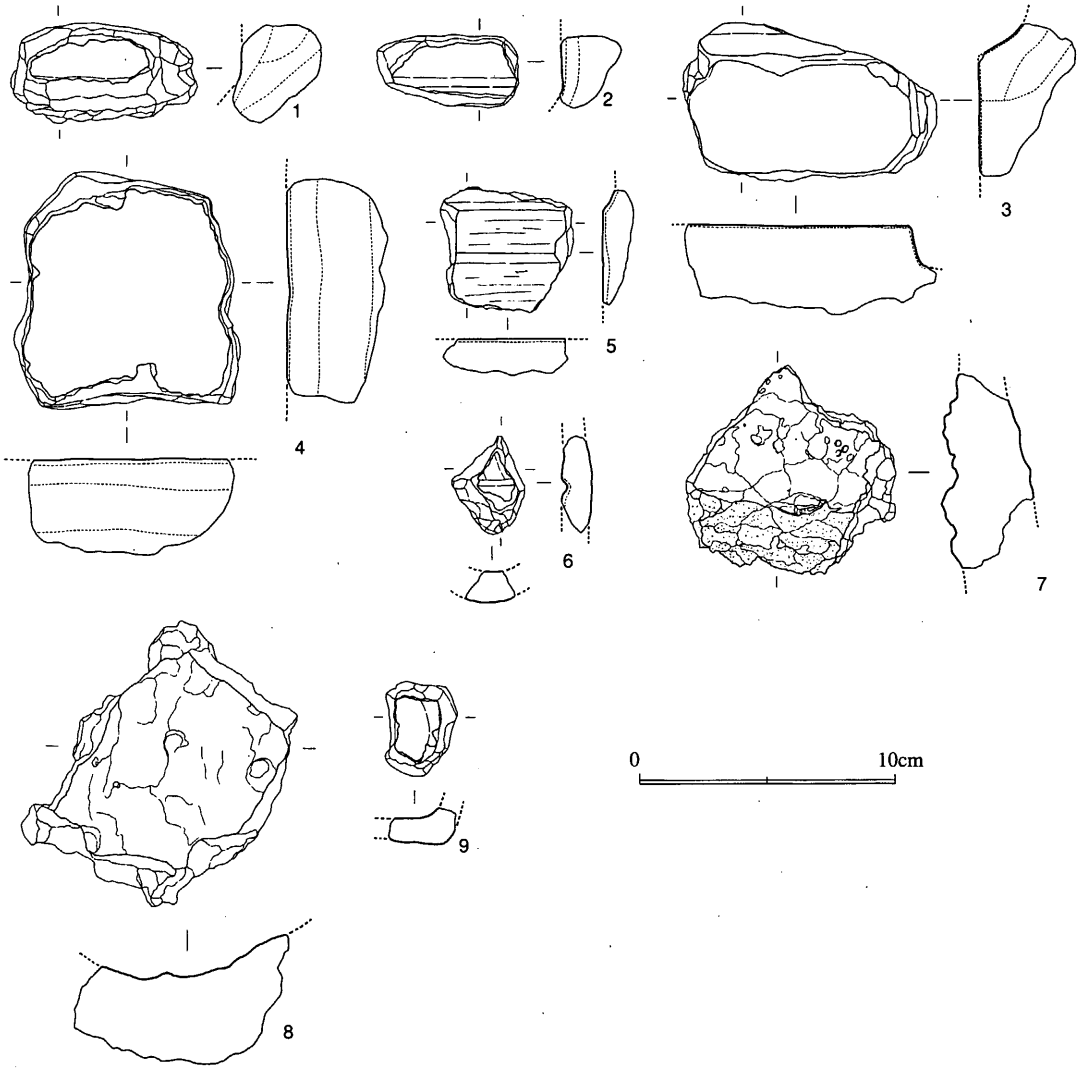


Fig.59　204SK075・080出土遺物実測図（S=1/3）

著しく僅かに淡灰色に変色した真土によって鋳型面と確認できる。焼成は軟質。図化していないが、この遺構からは同様のものが多く見られる。5は鋳型面が直線的で、僅かに稜線を付け屈曲する。鋳型面はやや硬質。6は小片で全体が掴めにくいが、鋳型面は棒状の曲線を持ち、途中で大きく屈曲している。図の屈曲した所から下半が淡灰黒色に変色している。胎土は白色の細砂粒を僅かに含むが精製されていて、硬質に焼成されている。

炉壁（7）　鉱滓が付着する炉壁で、鉱滓面は表面の状態が途中で分かれ、図の下半は鉱滓面に気泡が多く、上部より熱を受けていたと考えられる。また、外面は横方向の強いナデが施されている。

204SK080出土遺物（Fig.59、Pla.50）

金属生産関係遺物

鞴羽口（8）　胎土の内側が約1.7cmほど融解していている。外面は剥落しているが、一部熱を受けた痕跡が確認できる。湾曲する形状から鞴羽口と推測される。

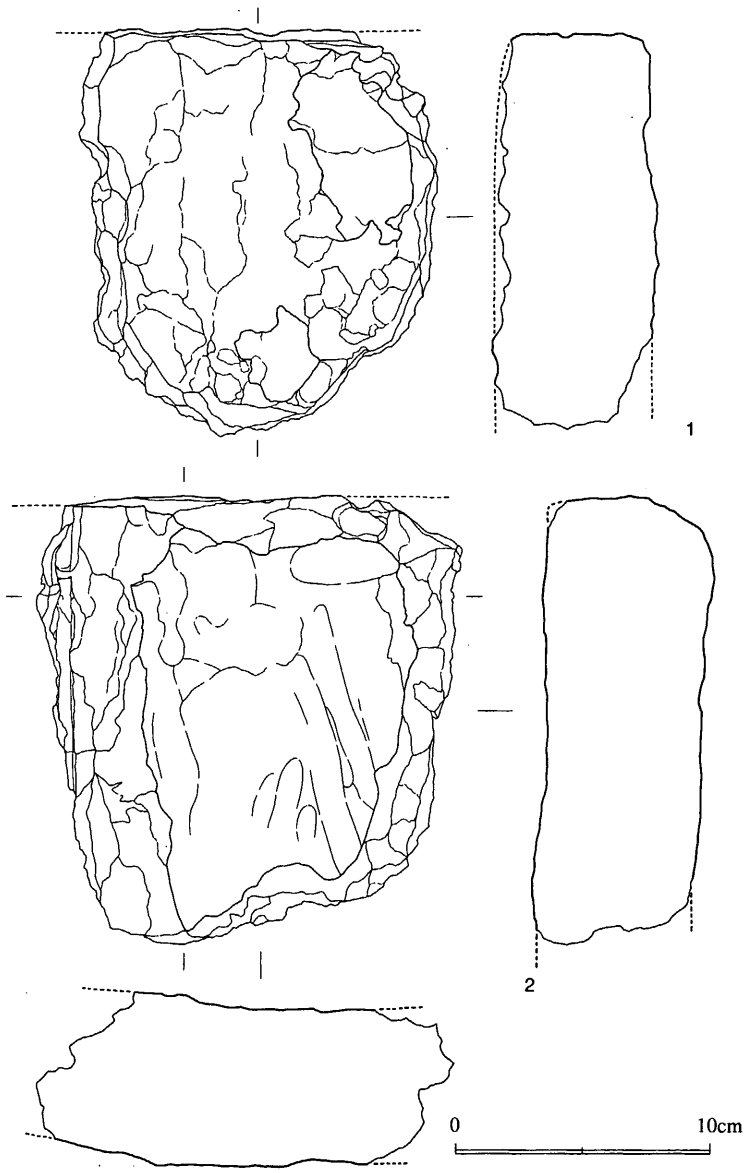


Fig.60　204SK045出土遺物実測図1（S=1/3）

用途不明品（9）　胎土の内面は厚さ0.1cm程が熱によって暗茶灰色に融解している。胎土は0.1cm未満の白色砂粒を含むが、精製されている。焼成はやや硬質である。形状から椀型の底部分と考えられるが、用途は不明。

b.廃棄土坑出土遺物

204SK045出土遺物（Fig.60・61、Pla.50）

金属生産関係遺物

炉壁（1～6）　これらの炉壁は甑炉の上部（もしくは上甑）付近で、内面に鉱滓は付着せず、淡橙褐色の付着物は薄く覆っている。それに隠れるようにナデ痕跡が見られる。胎土は0.2～0.3cmの砂粒とスサを多く含み、被熱で内面からおよそ黒茶色、淡灰白色、茶褐色に変色し、か

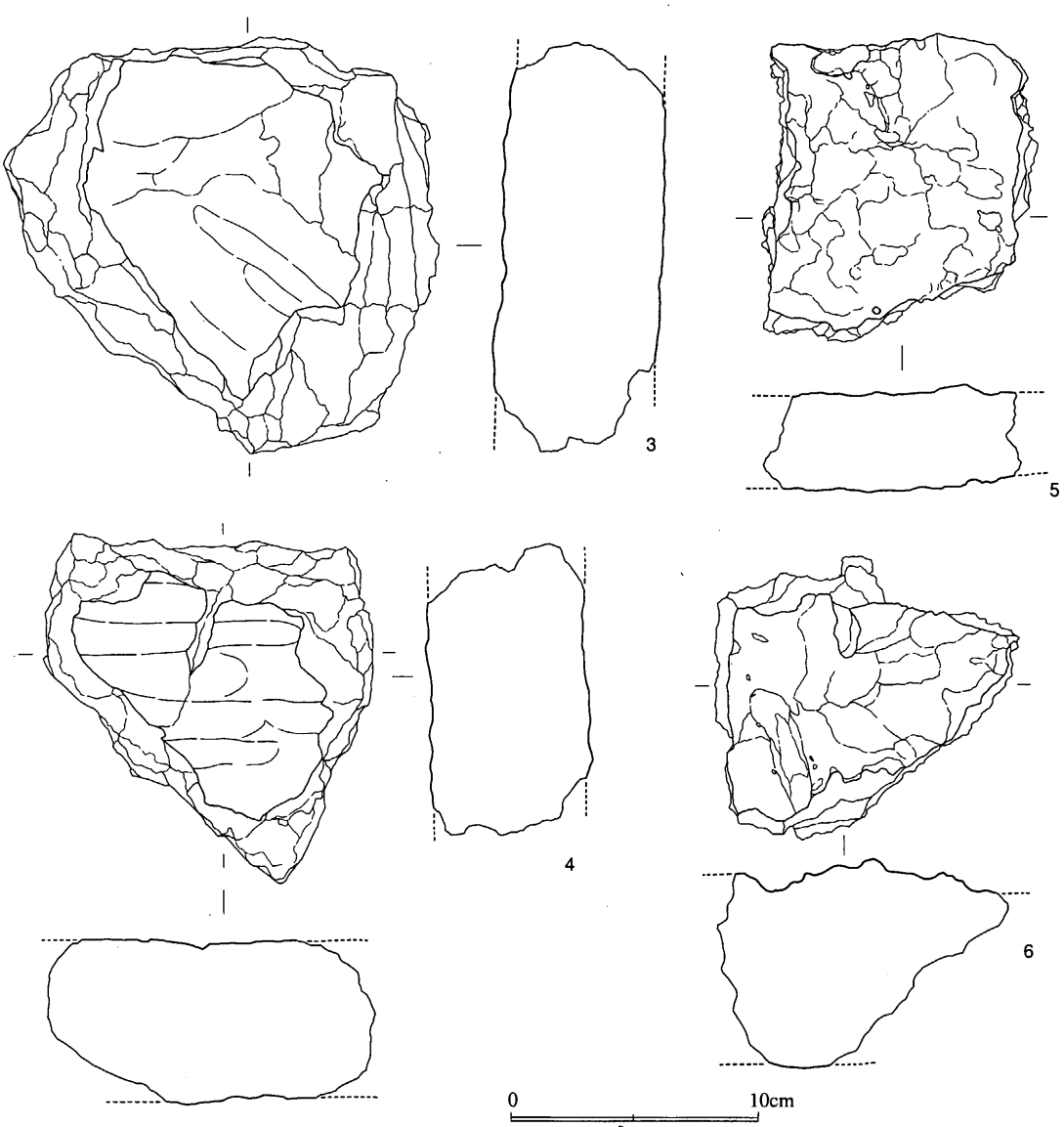


Fig.61　204SK045出土遺物実測図2（S=1/3）

なり脆くなっている。炉壁の厚さは6.3～6.8cm。1・2は口縁部である。1は内外面とも剥落が著しい。2は縦の断面に幅約0.6cmの骨組みの痕跡が残る。3の内面には不定方向の粗いナデが残る。4は最も外側の胎土が厚さ約0.5cmほどで、他の胎土に比べ砂粒が少ないため、仕上げの整形を行ったものと考えられる。また、断面には2と同様に幅約0.6cmの骨組みの痕跡が残る。5は炉壁の厚さが他より薄く約4cmで、熱によって2/3の厚さまで胎土が融解している。6は胎土の重ね塗りを1回行っている炉壁だが、全体ではなく一部だけ行っている。

204SK050出土遺物（Fig.62～64、Pla.51・52）

土師器

小皿a（1）　体部中央付近がやや厚い。底部切り離しは糸切りである。S-39出土。

坏a（2・3）　2は内面が二次焼成で一部黒灰色を呈している。3は小片のためやや不正確だが、復原口径8.4cmを測る。底部切り離しは糸切りである。S-39出土。

把手（4）　甕の把手と考えられる。内面はナデ痕跡が明瞭に残る。把手の下半は火を受けていたようで、淡灰色に変色している。

金属生産関係遺物

鋳型（5～9）　5は鍋の鋳型で、口縁部を2段に作り、熱を受け黒灰色に変色した巾木を残す。真土は0.5cm未満と薄く、その外側の胎土は0.1～0.4cm程の砂粒とスサを多く含み、熱によって淡褐色、明茶褐色に変色している。鍋の口径は55.0cmに復原できる。6は屈曲する鋳型。目立った砂粒を含まない精製された胎土で、硬質に焼成されている。7は釣燈籠の吊り手部分で、切子

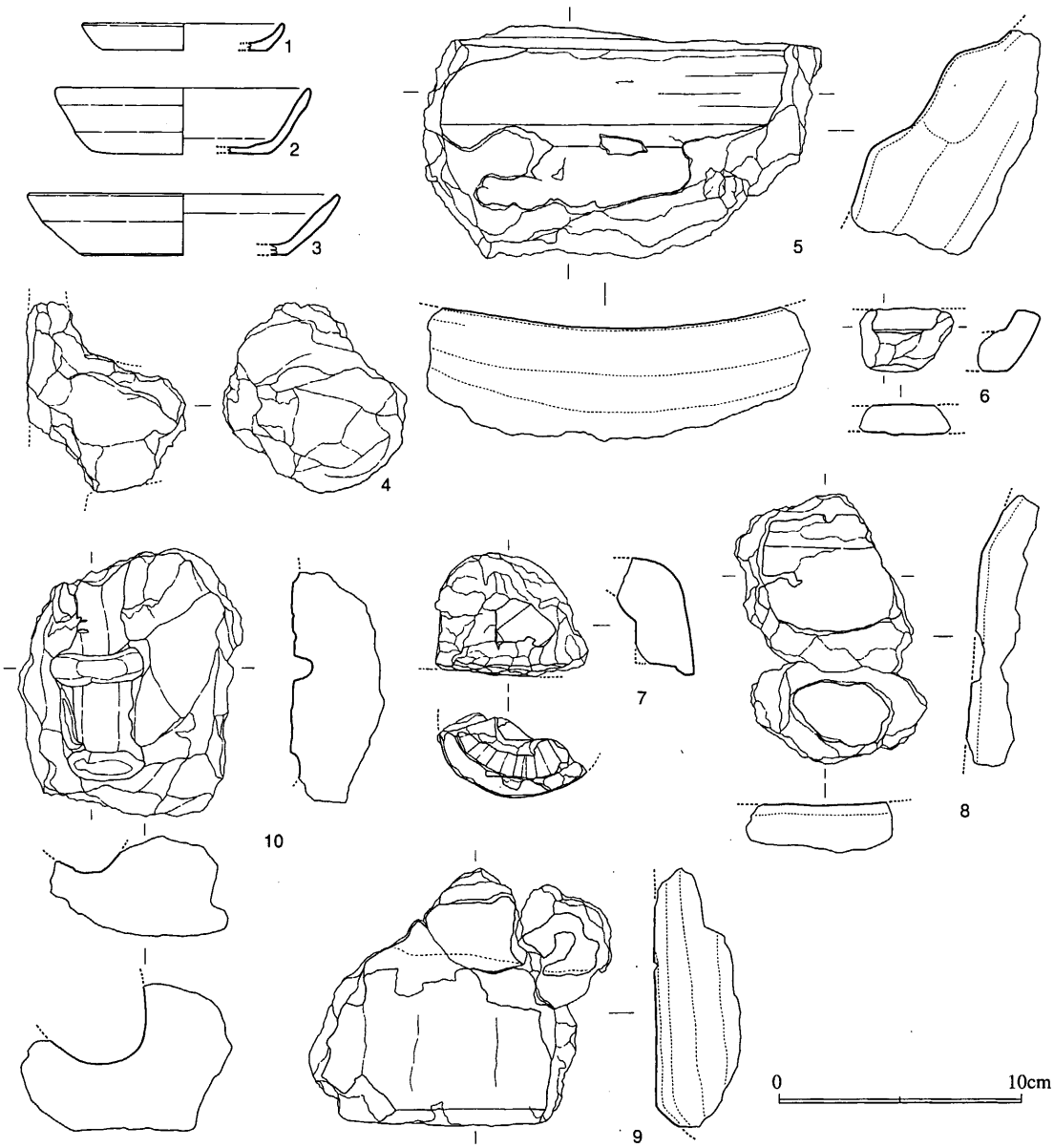


Fig.62　204SK050出土遺物実測図1（S=1/3）

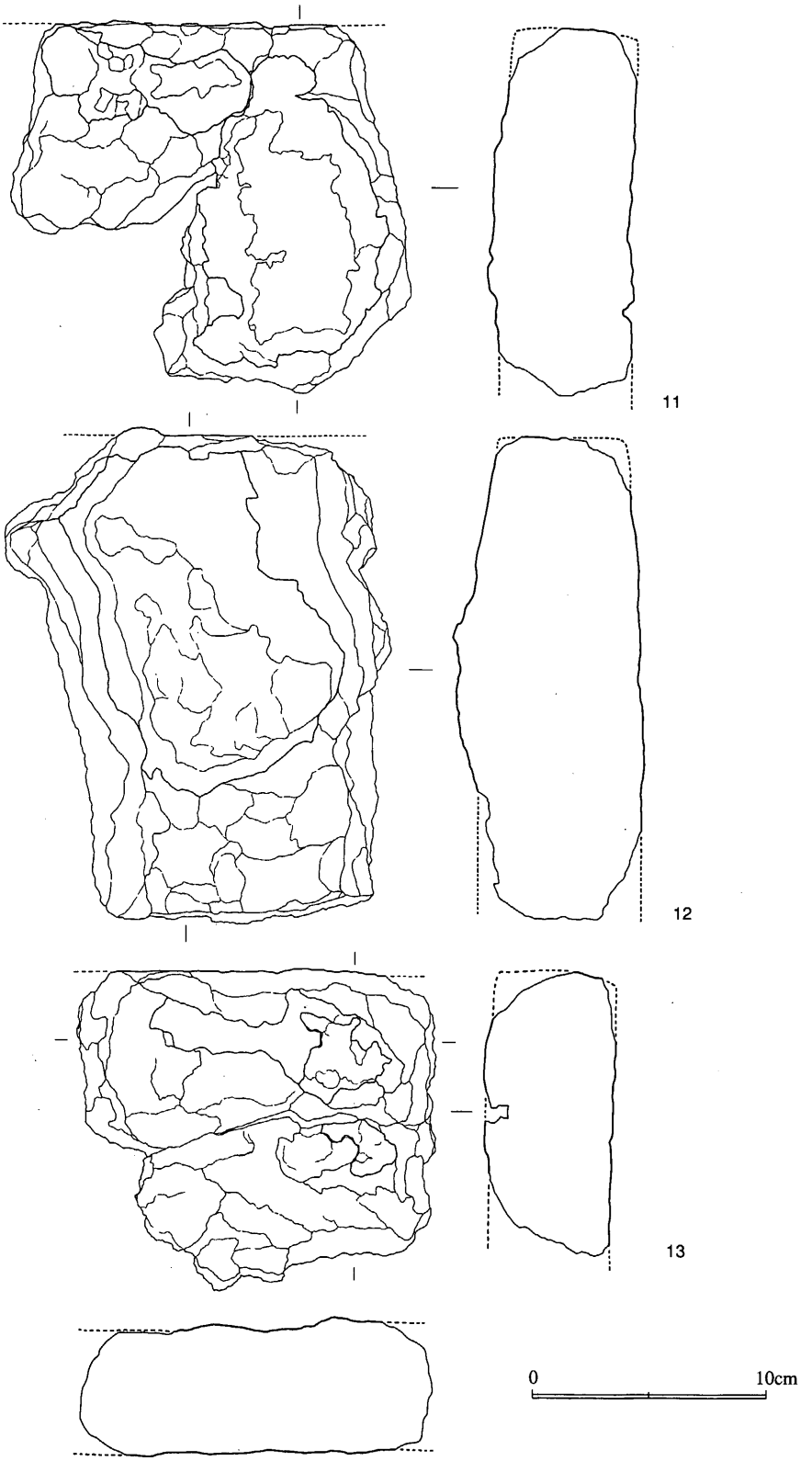


Fig.63　204SK050出土遺物実測図2（S=1/3）

形の頭の型が一部残存し、吊り手部分の下に連弁のような文様を作り出している。胎土は微細な白色砂粒を含むが、精製されている。焼成は硬質。色調は全体的に暗茶褐色を呈している。8は精製された真土の厚さは約0.6cmで、その外側は0.2～0.5cmの砂粒とスサを多く含む胎土を用いている。鍋の鋳型と考えられるが、鋳型面に挽き目は確認できず、湾曲状態は極めて緩やかである。9は湾曲しない平坦な鋳型で、下部に屈曲が見られる。鋳型面は下部が暗灰色、上部1/3が茶褐色で、上部は熱をさほど受けていなく、巾木のような焼成状態である。精製された真土の厚さは約0.6cmで、その外側は0.2～0.5cmの砂粒とスサを多く含む明茶色の胎土を用いている。

炉壁（11～18）　11～15は甑炉の口縁部である。全体共通して内面は熱を受け暗茶色に変色し、非常に脆くなっている。鉱滓の付着はなく、暗茶褐色の薄いスス状の付着物が見られる。胎土は0.1～0.5cmの砂粒とスサを多く含み、内面から暗灰色、黄灰色、明茶褐色に変色し、最も外側の明茶褐色の胎土は他に比べ砂粒が少なく、外面整形のための胎土と考えられる。口縁端部上面と外面は不明確であるが、粗いナデで整形を残している。11の炉壁の厚さは6.0cm。12は端部は6.0cmほどで、下方では厚さ8.0cmを測るため、口縁部ほど薄く作られている。13の内面は熱による剥落が目立つ。外面は明瞭にナデ整形している。14の炉壁の厚さは6.0cm。15は口縁端部がやや丸味を帯びている。炉壁の厚さは5.0cm。16・17は他の比べやや薄い炉壁で、内面はやや剥落が目立つが、外面はナデ整形されている。16は厚さ4.3cm。17は3.8cm。18は内面に明瞭にナデ痕跡が残っている。熱を受けた痕跡があまり見られないことから、建物の壁材の可能性も考えられる。

鞴羽口（19）　内面は僅かに残る程度だが、外面や断面から鞴羽口と推測される。内面には鉱滓はなく、外側は熱によって1cm程融解している。外面の径は13.0cmに復原できる。

不明品（10）　10は全体が淡橙茶色でスサと0.4cm程の砂粒も若干含むが、炉壁のような粗い胎土ではない。細長い棒状の彫り込みで、3cm間隔で深く彫り込んでいる。表面は真土や熱を受けた痕跡は確認できない。鋳型の一部もしくは建物の土壁の一部で骨組み部分の可能性も考えられる。

204SK050最下層出土遺物（Fig.65、Pla.52）

金属生産関係遺物

炉壁（1～3）　これらの炉壁は甑炉の口縁部で、内面に鉱滓は付着せず、淡橙褐色の付着物が薄く覆っている。胎土は0.2～0.5cmの砂粒とスサを多く含み、被熱で内面からおよそ青灰色、黒茶色、淡明灰色、茶褐色に変色し、かなり脆くなっている。1は外面が淡明白土で、他に比べ極めて砂粒が少ない。外面整形のための胎土と考えられる。2の炉壁の厚さは6.2cm。3は内外面とも剥落が目立ち正確な数値ではないが、湾曲具合から目安としておよそ内面径約65cm前後の甑炉ではなかったかと考えられる。また、口縁部付近は僅かに外反するものと考えられる。炉壁の厚さは5.4cm。

鞴羽口（4～5）　鞴羽口の先端部と考えられる。外面には鉱滓が付着し、内面は剥落しているが、端部に湾曲した面が残存する。5は鞴羽口から剥離した鉱滓と鞴羽口の融解部分である。

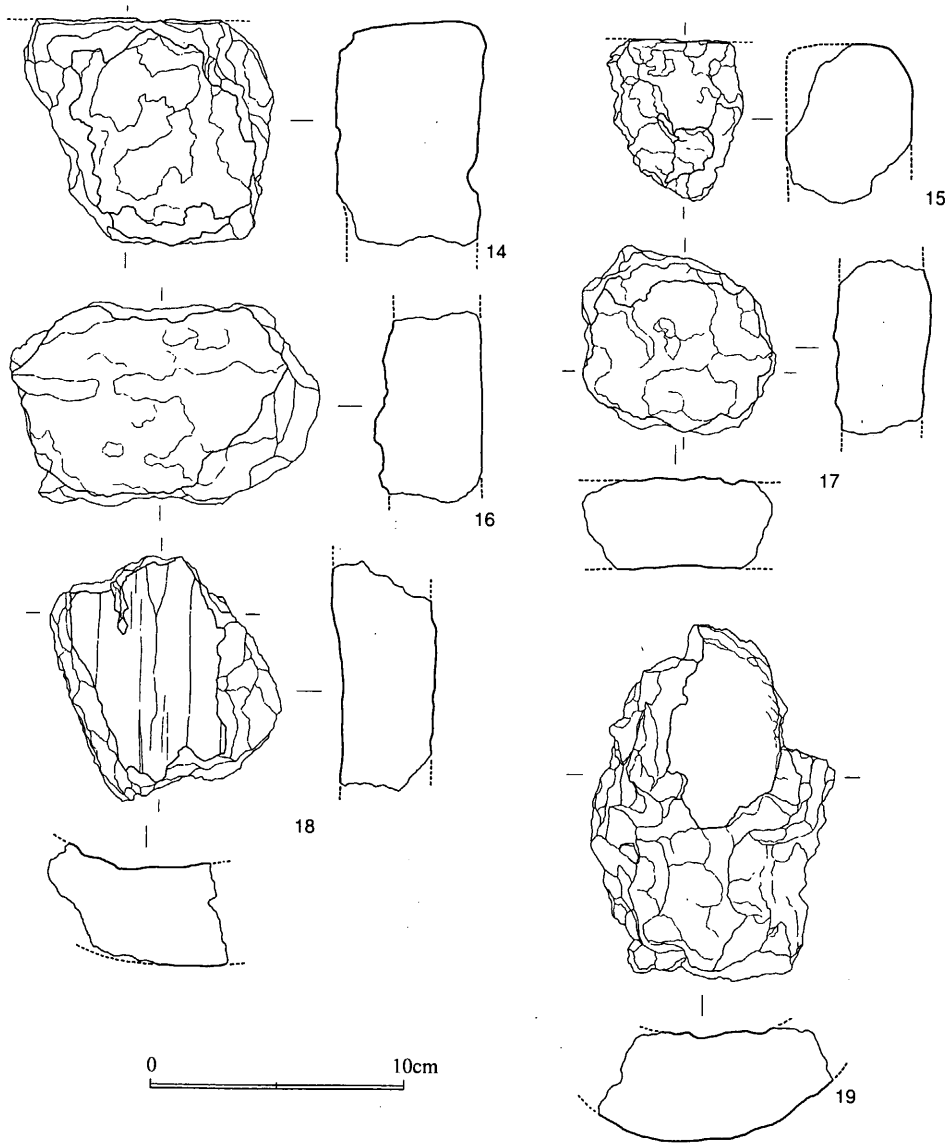


Fig.64　204SK050出土遺物実測図3（S=1/3）

c.溝出土遺物

204SD054出土遺物（Fig.66、Pla.53）

土師器

小皿a（1・2）　小片で磨滅も目立つ。

把手（3）　粗くナデられている。胎土は0.1～0.4cmほどの砂粒を多く含む。4の把手の可能性が高い。

甑（4）　甑の下半部である。径29.1cmに復原できる。内面には高さ約2.7cmの突起が作られている。調整は外面がハケ調整のあとナデている。内面も粗くナデている。煤が上方に向かって扇形に広がっている。突起下面も煤で黒灰色になっている。胎土は0.2～0.7cmの白色砂粒を多く含む。

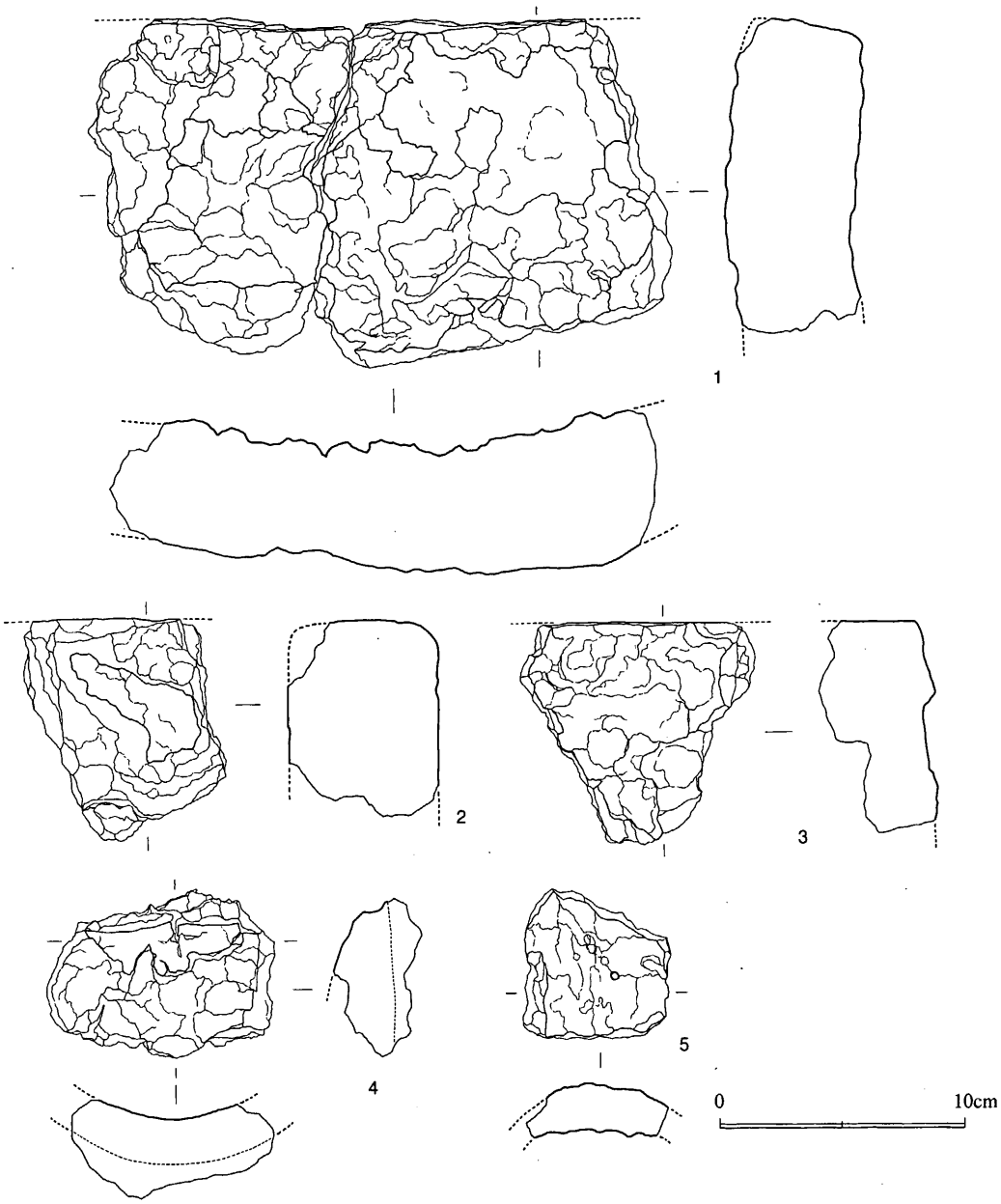


Fig.65　204SK050最下層出土遺物実測図（S=1/3）

d.その他の遺構・土層出土遺物

204SX085出土遺物（Fig.67、Pla.53）

金属生産関係遺物

鋳型（1）　良好に残る鍋の鋳型で、鋳型面は灰色と灰白色を呈し、挽き目が明瞭に残る。巾木は殆ど熱を受けてなく真土の色調をそのまま残す。真土は0.5～1.5cmで、外側の胎土は0.1～0.5cmの白色砂粒とスサを多く含む。残存する鋳型の厚さは5.5cmで、外面は剥落しているが、熱による胎土の変色具合から、さほど剥落していないものと考えられ、原型に近いものと推測

される。この鋳型から口縁に段を付ける口径33.4cm、器高約14cmの鍋が復原できる。

図示していないが、真土が全く付いていない鋳型も出土し、その形状が鍋型をしていることから鍋の鋳型と考えられ、真土を削り落としたか、真土を付ける前の状態と推測される。

204SX060出土遺物（Fig.68）

須恵器

蓋3（1）　復原口径13.6cm。

坏c（2）　復原高台径8.8cmの低い高台が付いている。

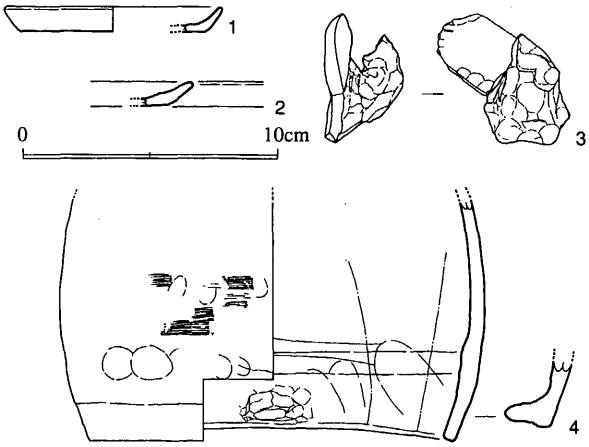


Fig.66　204SD054出土遺物実測図（S=1/3）

204灰色土出土遺物（Fig.68）

灰色土はSX060の砂礫群と共に流れ込んできたものと考えられるため、同一遺構と考え、ここに掲載する。

須恵器

蓋c（3・4）　2点とも内面は不定方向のナデ調整している。3の外面はヘラ切り調整。4の外面調整は摩滅のため不明。

蓋3（6～8）　6の端部は他の比べ潰れている。外面中央寄りにヘラ切り痕跡が見られる。7は復原口径24.2cmのやや大きな蓋であるが、小片のためやや不正確である。調整は内外面とも回転ナデ。8の調整は内外面端部は回転ナデで、内外面の中央寄りはナデ調整している。

蓋4（5）　調整は内外面とも回転ナデで、外面天井付近に僅かにヘラ切り痕跡を残す。

坏c（9～11）　9は底部端部につぶれた低い高台を貼付している。底部はヘラ切り後に粗いナデで仕上げて

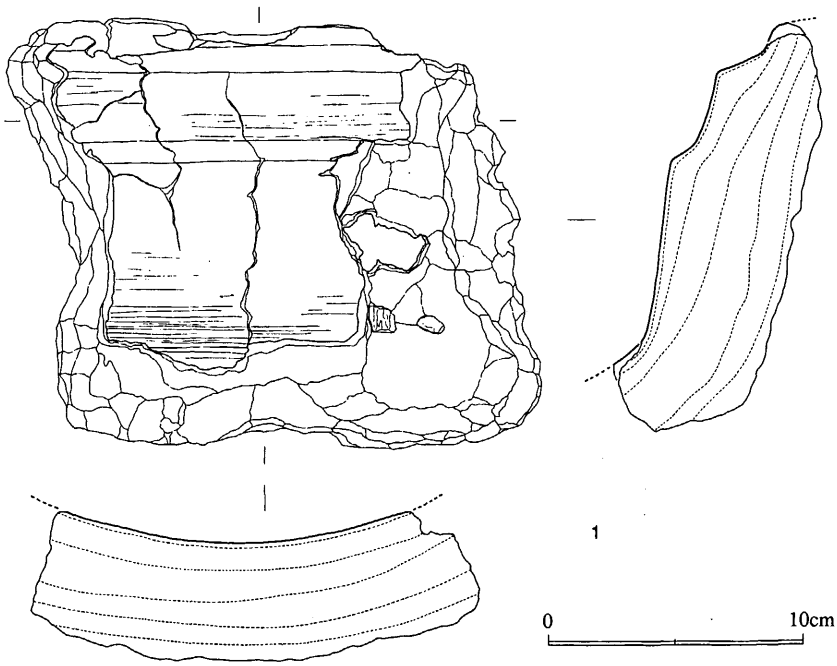


Fig.67　204SX085出土遺物実測図（S=1/3）

いる。10は底部と体部の境に高い高台を貼付している。底部外面調整はナデ。11は底部端部より若干内側にやや外側に跳ねた方形の高台を貼付している。

皿（12）　小片で形状が明確ではないが、皿と考えられる。調整は内外面とも回転ナデ。

高坏（13）　調整は内外面を回転ナデで、口縁部を外方に明瞭に屈曲させる。

高坏b（14）　調整は内外面とも回転ナデで、口縁端部を内湾させる。

壷b（15）　調整は回転ナデで、口縁部を平坦にし、端部を僅かに跳ね上げている。

土師器

高坏（16）　高坏の脚部で、色調は内外面とも明茶色を呈している。

甕（17）　体部内面はヘラ削りを行い、頸部内面に稜線が付いている。口縁部内面は横方向のハケ目が僅かに残る。体部外面は縦方向のハケで、煤が付着している。口縁部外面は指頭圧痕が残り、その下に粘土紐痕跡を残す。胎土は粗く砂粒が目立ち、雲母も多く含む。

204灰茶色土出土遺物（Fig.69）

金属製品

銭（1）　表面がかなり痛んでいるため、文字は読みとれない。直径2.1cm。

204茶灰色土出土遺物（Fig.69、Pla.53、巻頭図版4）

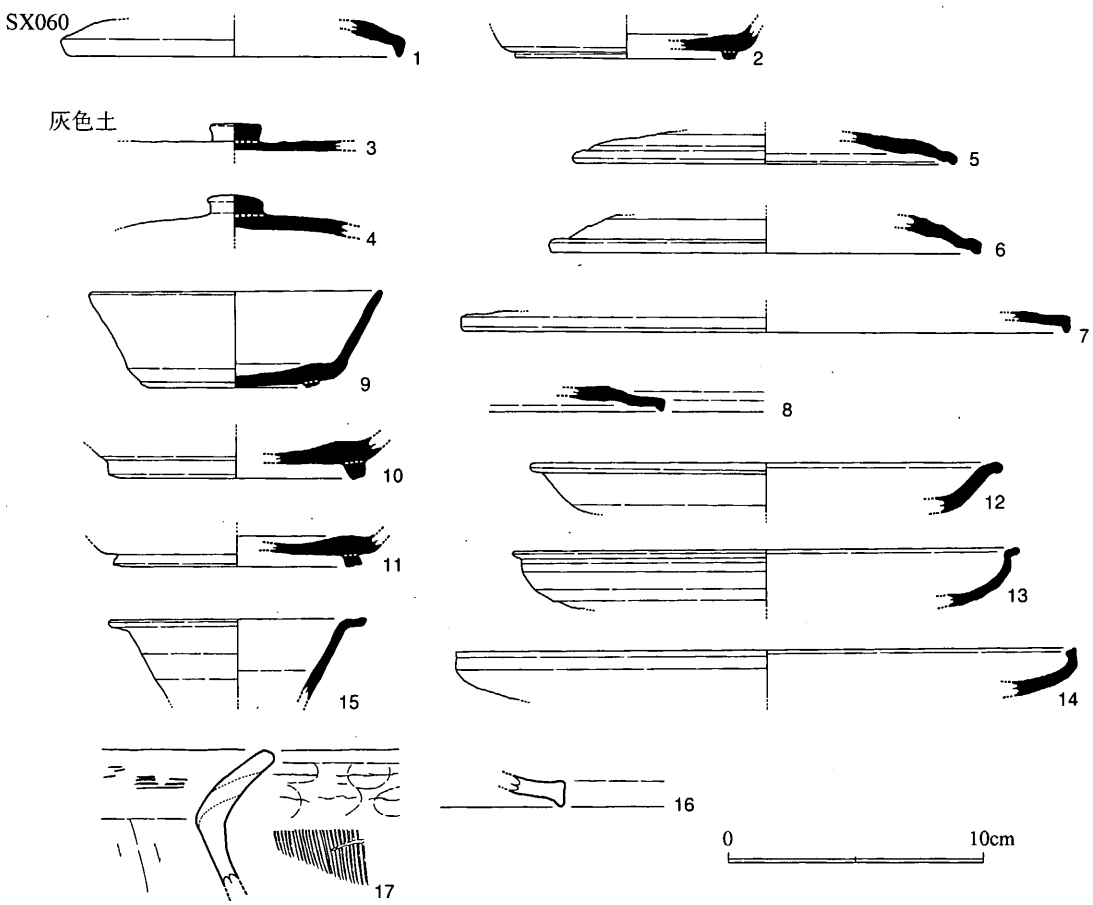


Fig.68　204SX060・灰色土出土土器実測図（S=1/3）

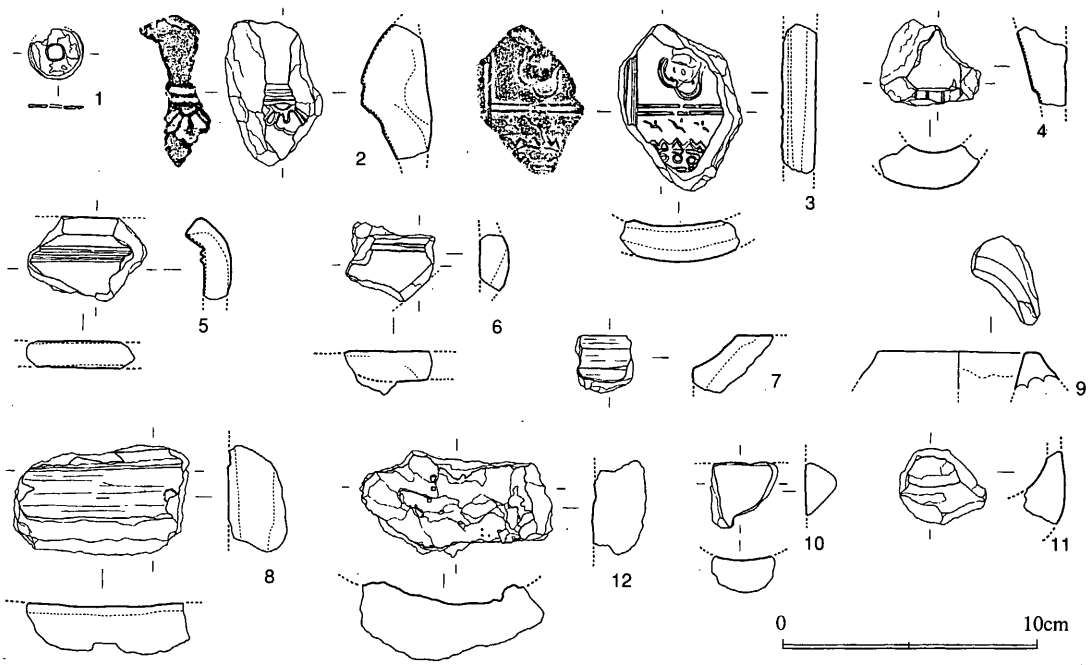


Fig.69　204灰茶色土・茶灰色土出土遺物実測図（S=1/3）

金属生産関係遺物

鋳型（2～8）　2は緩やかに湾曲しながら、2条の凹凸を境に屈曲し、蓮華の文様を施している。胎土は目立った砂粒を含まず、硬質に焼成されている。金剛杵や金剛鈴などの仏具の一部の可能性が考えられる。3は僅かに湾曲する内面を2条の凸線で区画しその中に文様を作り出している。実測図の上面の文様は一部欠損しているため形状はよくわからない。下面の文様は小文字の「r」を広げたような文様を配し、その下に鋸歯文を作り、その下に凸線を2条作り出し、円文を並べる。胎土はやや砂粒を多く含み、硬質に焼成されている。4は径4.8cmに復原できる曲線を持ち、円錐状になるものと推測される。その下に段をつけ、幅0.1cm程の凸線を規則的に配している。胎土は目立った砂粒を含まず、硬質に焼成されている。製品は不明。5は緩やかに内側に屈曲し、屈曲部付近に2条に凸線を作り出している。胎土は目立った砂粒を含まず、硬質に焼成されている。内面は全体が熱を受け灰白色に変色している。焼成は硬質である。6は2条の凸線を僅かに残す。焼成は硬質で、5と同様のものと考えられる。鋳型面の反対側には鉱滓が付着しているが、堆積時のものだろう。7は鋳型面に僅かな波状の凸面があり、大きく屈曲する。鋳型面は熱で黒灰色に変色している。上面は茶灰色を呈しているため巾木と考えられる。やや硬質に焼成されている。8は鋳型面に横方向の挽き目が確認でき、0.15cm程の段を作り出している。また、表面は熱によって淡灰色に変色している。胎土はやや粗くスサも含んでいる。

用途不明品（9～11）　9は小片だが口径6.4cmの円形状になるものと推測され、内面が熱を受け紫赤色に変色している。胎土は目立った砂粒を含まず精製され、硬質に焼成されている。10は僅かに湾曲するもの。胎土は目立った砂粒が少ない真土のようなもので、焼成はやや軟質。11は緩く湾曲したもので、小片で用途は明確でない。内面は熱によって黒灰色に変色している。

胎土は目立った砂粒を含まず精製され、硬質に焼成されている。

炉壁（12）　やや内湾したもので内面に鉱滓が付着し、外面は炉壁から剥離した状態である。胎土は0.3cm前後の白色砂粒とスサを多く含んでいる。湾曲の度合いから径約11cmほどになることから鞴羽口の一部の可能性も考えられる。

204赤茶色土出土遺物（Fig.70、Pla.54）

土師器

小皿a（1）　全体的に摩滅が著しく調整不明。

小皿b（2）　体部内面が黒褐色に変色し、灯明皿として使用された可能性が考えられる。

小坏a（3）　焼成は須恵器のように良好で、色調は茶灰色をしている。口縁部がやや肥厚している。

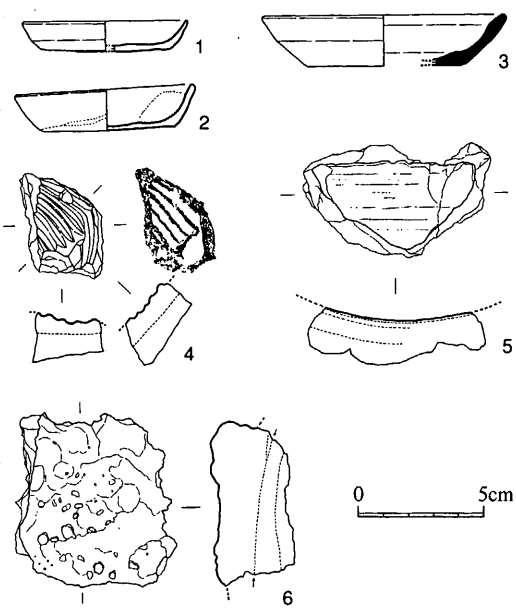


Fig.70　204赤茶色土出土遺物実測図（S=1/3）

金属生産関係遺物

鋳型（4・5）　4は龍頭の巻き毛部分と推測される。胎土は0.1cm未満の砂粒を若干含んでいるが、精製されていて、硬質に焼成されている。色調は鋳型面が淡赤茶色で、その外側は灰茶色を呈している。5は復原径18.4cmの筒型をした製品の鋳型と思われる。

炉壁（6）　鉱滓が付着する炉壁で、断面に0.2cm前後の砂粒を含む粗い胎土に挟まれるように、鉱滓面が1面確認できることから、炉壁内面を塗り直した様子が窺え、最低2回使用されたことがわかる。

204茶色土出土遺物（Fig.71～78、Pla.54～57、巻頭図版4）

土師器

小皿a（1）　体部の調整は摩滅が著しく不明。底部は糸切りによる切り離し。

小坏a（2）　口縁端部に煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性が考えられる。

坏a（3・4）　3はヨコナデ調整中に力が強く入ったのか、体部中位で屈曲している。4は口縁部がやや肥厚している。

瓦質土器

こね鉢×擂り鉢（5）　口縁端部内面に僅かに段差を付ける。全体的に磨滅している。

石製品

石鍋（6）　復原口径15.6cmの小型品である。外面は全体的に煤が覆い調整等は不明。内面は調整時か使用時のものは明確でないが、細かいキズが多く付いている。滑石製。

土製品

小玉（7）　径2.3cm程の玉状のもので、意図的に一部凹ませている。色調は淡茶褐色を呈する。

金属生産関係遺物

鋳型（8～65）　8～18は鋳型面に文様が作り出され、硬質に焼成された鋳型である。8は梵鐘の撞座の鋳型である。約1/3が残存し、復原径9cmを測る。文様は中心に珠文を置き、その周囲に8個の珠文があったことがわかる。その外側の文様帯には弁の中心で区切る隆線があり、その外側には約0.4cmごとに区切った文様帯を巡らし、その周りに復原すると八弁の複弁蓮華文を施している。胎土は目立った砂粒もなく均一に精製されている。焼成は硬質で、はめ込みの鋳型であることがわかる。9は硬質に焼成された鋳型で、内面に円形状の浅い窪みから放射状に刷毛目状の溝が施され、その先に鋸歯状の段差を作り出している。また、細かい隙間に緑青が残っている。10は内側に屈曲し、鋳型面に縦2条、横1条の凸線が作り出され、その凸線に囲まれた中に子葉のような文様を作り出している。11の形状と胎土は10と同様であるが、屈曲部付近に2条に凸線を作り出している。内面は全体に熱を受け淡灰褐色に変色している。焼成は硬質である。12は硬質に焼成された鋳型で、屈曲部に平行するように2条の凸線を作り、それと約45度の角度で側面が面取りされている。その間には文様はないが僅かに内湾している。胎土は砂粒は少なく精製されている。13・14は2条の凸線が屈曲部に平行に作られている。鋳型外面は丸味を帯びている。硬質に焼成されている。15は内面の一部は欠損しているものの、屈曲し面が続く痕跡を残す。側面も面を残しているため小物類の鋳型の可能性が考えられる。硬質に焼成されている。16は円弧を描くもので、内面端部は、径6.4cmに復原できる。内面から端部にかけて真土が熱で淡灰黒色に変色している。その外側は若干段を付けて終わりそうである。内面の平坦面に文様が施されていたようだが、磨滅によって僅かにキズ状に確認できるだけである。17は目立った砂粒を含まない精製された胎土を用い、硬質に焼成された鋳型。内面は淡褐灰色、外面は淡褐橙色を呈している。文様はないが小物類の鋳型の可能性が考えられる。18は鋳型外面径17.4cmの円形をしていて、約2cmの巾木から緩い段を付けて淡褐灰色の鋳型面を作っている。鋳型面も同様に弧を描き、径20.2cmに復原できる。鋳型は厚さ1.5cmの精製された真土の外側に0.2～0.3cmの砂粒を多く含む淡褐色の胎土を用いている。

19～30は鍋の口縁部付近の鋳型である。鋳型面を形づくる真土は、すべて0.1cm未満の精製された砂粒を用いている。19は暗灰色に変色した鋳型面と淡橙黄色の真土の原色を残した巾木が二段に作られている。鋳型と巾木面に挽き目が残る。鍋口縁付近の復原口径32.2cm。21は暗灰色に変色した鋳型面と屈曲を挟んで暗茶灰色の巾木部分が残る。真土の外側はスサ混じりの胎土が見られる。22は真土の厚さが0.1cmほどで、鋳型面の真土は暗灰色、巾木の真土は黒灰色に変色している。真土の外側の胎土は0.2cm程の砂粒を含み、さらに外側は茶褐色や暗灰色のスサや砂粒を含む胎土を用いている。24は鋳型から鍋の口縁部付近に段差があったことがわかる。26は0.4cmの真土の外側の胎土は0.2cm程の砂粒とスサを多く含み、熱によって橙褐色、淡橙黄色、淡褐黄色、淡茶褐色、茶褐色の順で変色している。27は稜線を付けて屈曲する。真土は薄く0.3cm前後でその外側の胎土は炉壁のような0.1～0.3cmの砂粒を含んでいる。28は鋳型面の磨滅が著しい。29は明瞭な稜線をつけて屈曲する。屈曲部を挟んで両面とも暗灰色をしているが、図の上面側はムラがあるため巾木の可能性がある。

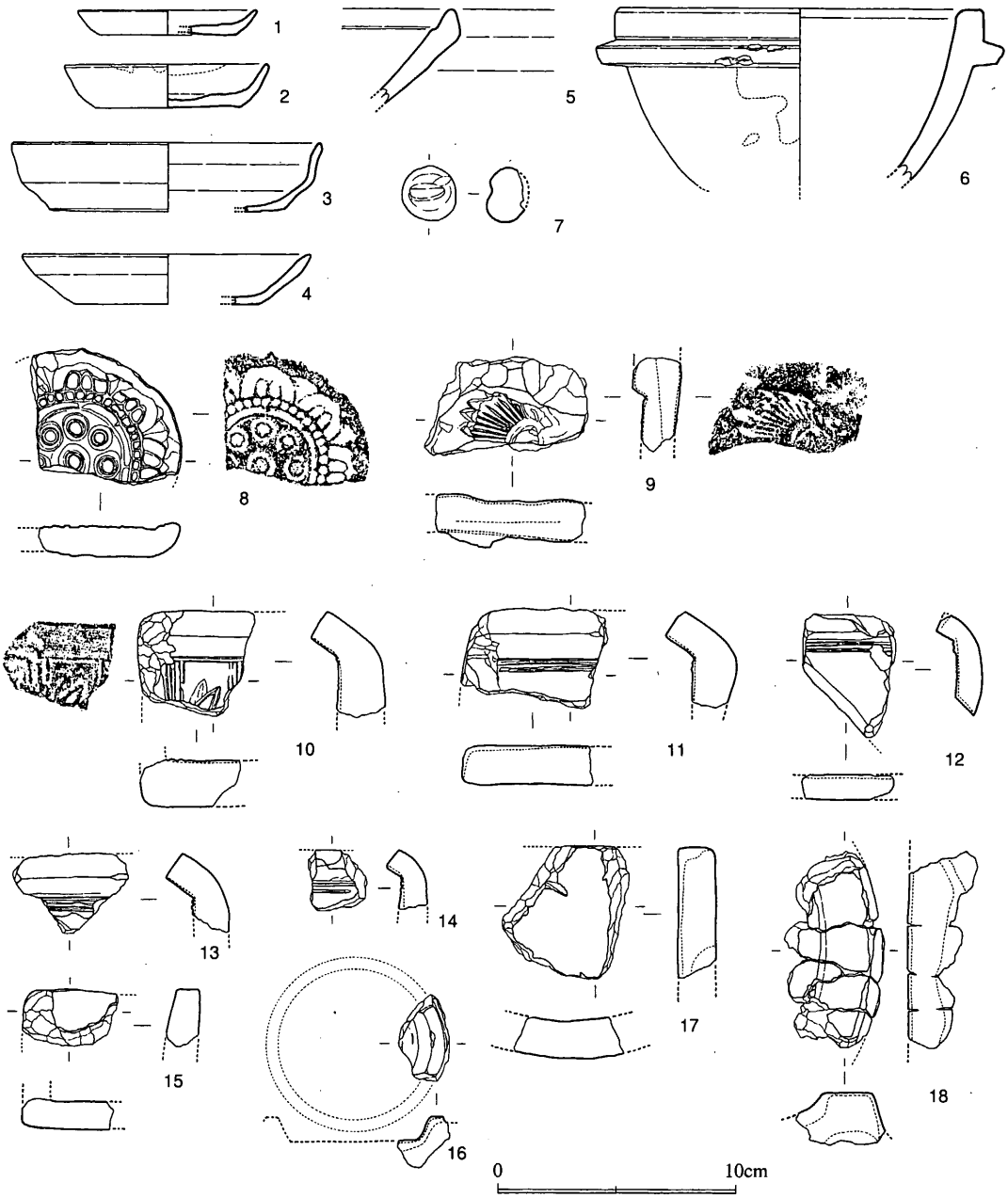


Fig.71　204茶色土出土遺物実測図1（S=1/3）

31～65は鋳造される製品が不明の鋳型。31・32は剥落が著しいが、屈曲部分を挟んだ両面とも鋳型面が観察できる。この個体すべて真土である。33は鋳型面と巾木の屈曲部分で、すべて真土である。巾木は6.6cm以上あり、部分的に被熱で灰色に変色する。精製された真土が厚さ約1.5cmあり、その外側に0.1cmの砂粒を若干含む淡褐黒色の真土、さらに外側にスサや砂粒を多く含む胎土を用いている。34は鋳型面からほぼ90度に屈曲し、巾木の面を作る。挽き目が残っている。35は鋳型面と巾木の屈曲部分で、すべて真土である。36は鋳型面と巾木の屈曲部の小

片だが、熱を受けてない巾木の面が湾曲している。37は屈曲部分を挟んだ両面とも鋳型面があり、不明瞭だが挽き目が観察できる。38は鋳型面と巾木面の屈曲部付近の鋳型。39は鋳型面からほぼ90度に屈曲し、巾木の面を作る。挽き目が残っている。40は平坦に近い鋳型。41は鋳型面と巾木の間に幅0.5cmの浅い沈線が見られる。42は鋳型面と巾木の屈曲部分。43はやや硬質に焼成されたもので、小片のため詳細は不明だが、浅い段と溝が不規則な方向に作られている。44は真土のみで、鋳型面に薄く淡赤褐色の付着物が残る。46は真土の剥落が著しいが、沈線と方形の幾何学文様を作り出している。文様面から鈍角に屈曲し真土が続いているが、表面が剥落しているため鋳型面が存在したかは不明。49は屈曲部分で、鋳型面は淡褐灰色で、磨滅が著しいが、図の上面は巾木と考えられる。また、不明瞭だが、背面にナデ整形したような痕跡がみられるため、スサを含む粗い胎土を殆ど使用せず、精製された真土と0.1cm前後の砂粒を含む粗い真土で構成されていた考えられる。45・47・48・50～52は胎土や鋳型面の焼成状況から同一個体もしくは同一製品を作る鋳型と考えられる。これらの鋳型面は淡灰白色を呈し、精製された真土の厚さは0.5～1.0cm前後で、熱によって淡灰色と淡橙黄色の順に変色している。その外側も真土だが、0.5cm程の砂粒やスサを含むやや粗い真土を用いている。表面は磨滅している。45は僅かに屈曲している。48・50・52は鋳型面と巾木の屈曲部分で、鋳型面は僅かに湾曲している。47は図の半分から下が鋳型面で、上半部は淡黄褐色を呈し、巾木と考えられる。鋳型面は1.5cm程の段を付けているが、全形が不明。48は径73.6cmに復原できる。50は明確ではないが鋳型面に挽き目が確認できる。51は鋳型面と巾木の屈曲部分であるが、その屈曲部の鋳型面が2段になっている。復原径は49.4cm。53は鋳型面と巾木の屈曲部分であるが、その屈曲部に沈線が作られている。54・56は残存する鋳型全体が真土である。図示していない鋳型も真土が同様に2cm前後と厚く、その外側に粗い真土が続いている。僅かに弧を描くが、直径の復原は困難である。鋳型面は淡灰褐色で、黒色味を帯びる鍋の鋳型と若干異なっている。破片も大きいことから、何らかの大型製品を窺わせる。55は僅かな湾曲が見られる鋳型。57は厚さ1.5cm程の比較的薄い鋳型である。精製された真土の厚さは0.2cmで、その外側に砂粒を含むやや粗い茶褐色の真土を使い、その外面はナデ整形されている。58は僅かに湾曲する鋳型。59は緩やかな曲線を持つもの。鋳型面に挽き目が残る。真土は厚さ1.0cmで、鋳型面は0.2cmほど暗灰色に変色している。真土の外側は0.5～1cmの砂粒を含む粗い真土である。60は幅0.6cmの沈線を2条作っている。61は小片で、62や63と同様の沈線が作られている。62・63の真土の外側は0.1～0.5cmの砂粒とスサを含む胎土を用いている。羽釜の鋳型の可能性もある。62は鋳型面に幅0.8cm、深さ0.15cm程の沈線を作っている。63は鋳型面に幅0.8cm、深さ0.15cm程の沈線を作り、鋳型面は僅かに内湾する。64は径16.6cmの筒形に復原できる。鋳型面に文様はなく、挽き目が観察できる。また、断面に真土が2層確認でき、この鋳型だけで最低3回の鋳造が行われたことが窺える。65は復原径22.8cmの筒形製品の鋳型と推測され、挽き目が明瞭に残っている。胎土中に鋳型と鉱滓の小片が見られる。

炉壁（66～80）　炉壁は全体的に0.2～0.5cm白色砂粒を含む粗い胎土が用いられ、色調は被熱によって変色している。66～72は甑炉の口縁部である。内面は熱を受け淡明茶色に変色して

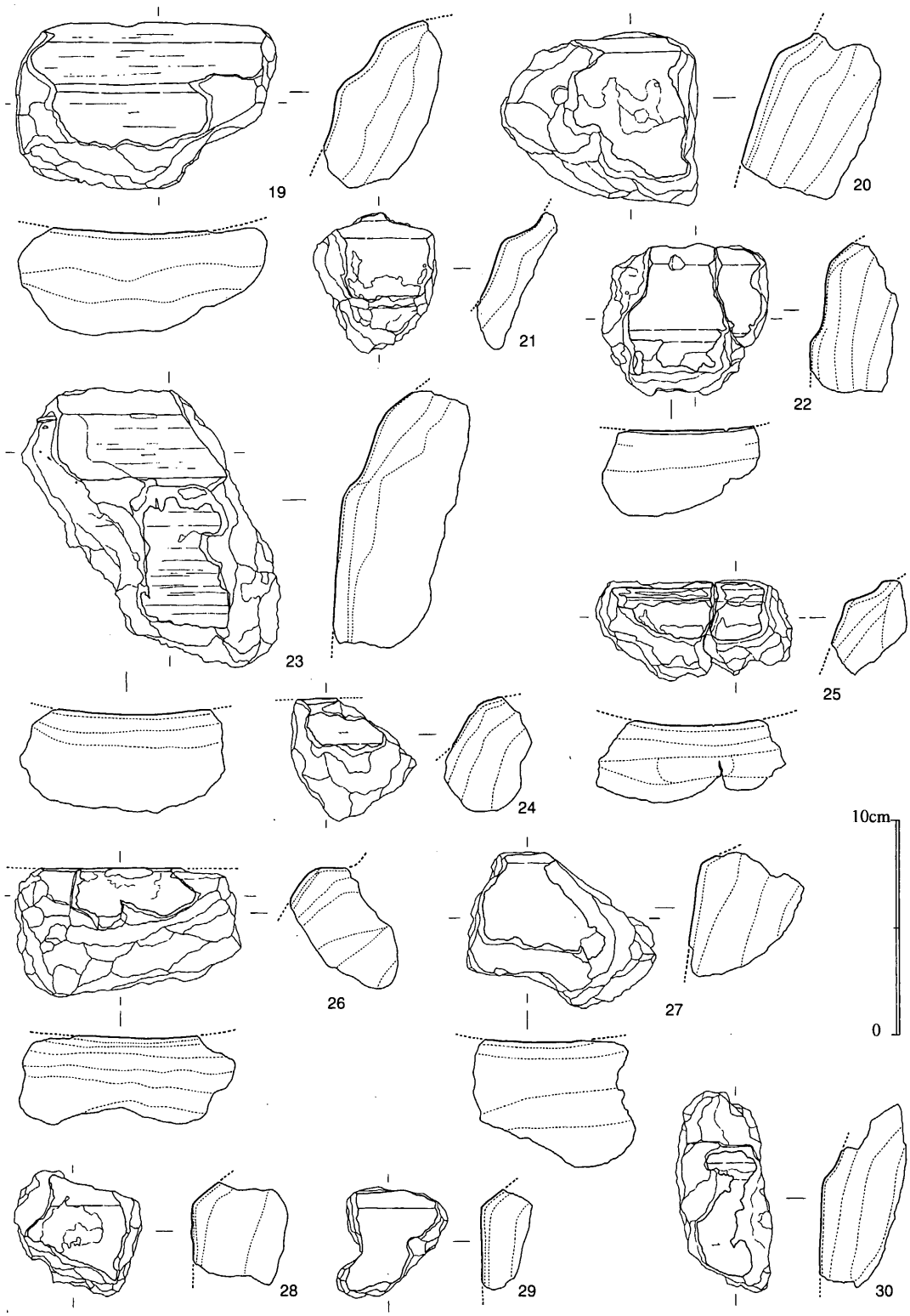


Fig.72　204茶色土出土遺物実測図2（S=1/3）



Fig.73　204茶色土出土遺物実測図3（S=1/3）

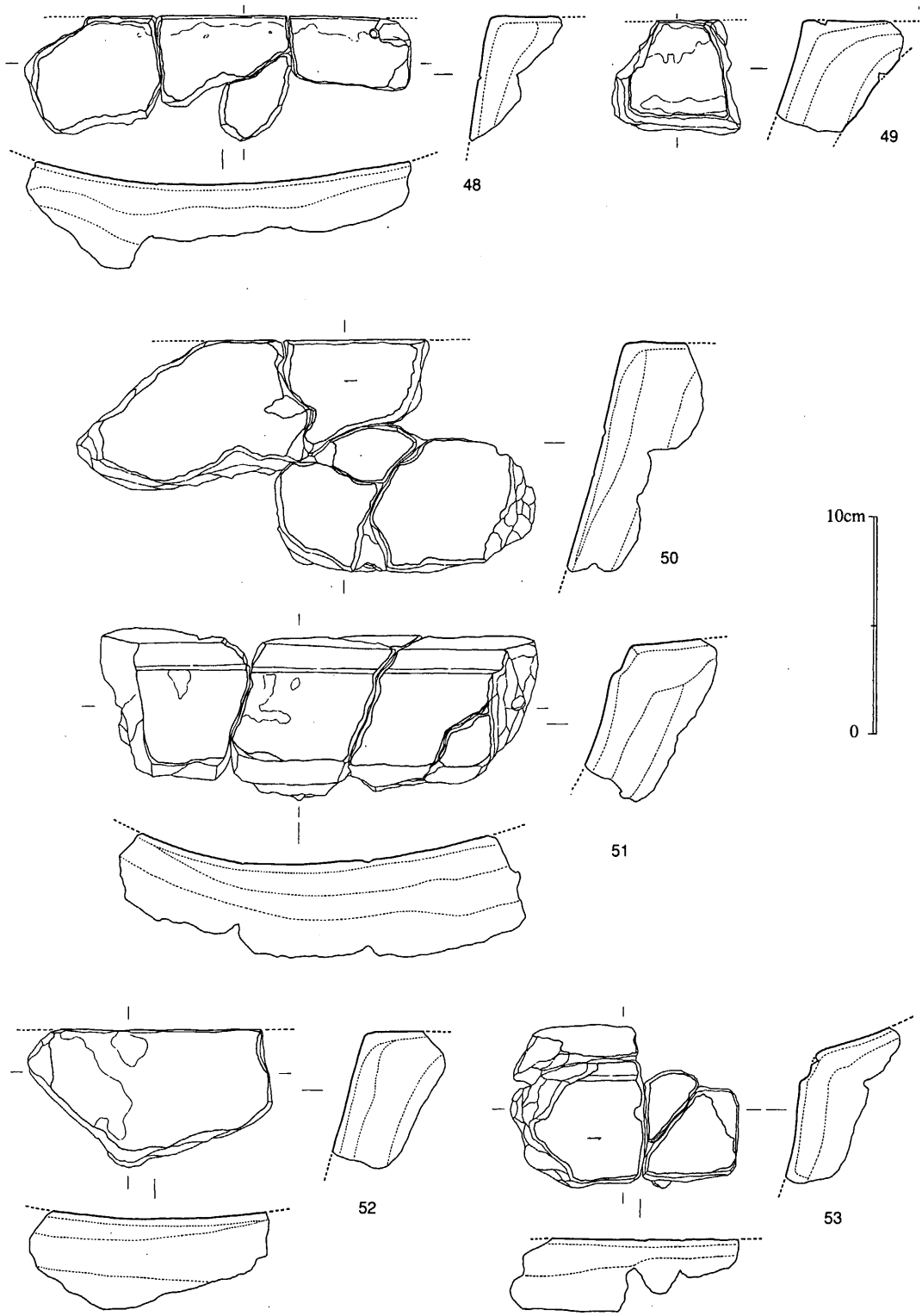


Fig.74　204茶色土出土遺物実測図4（S=1/3）

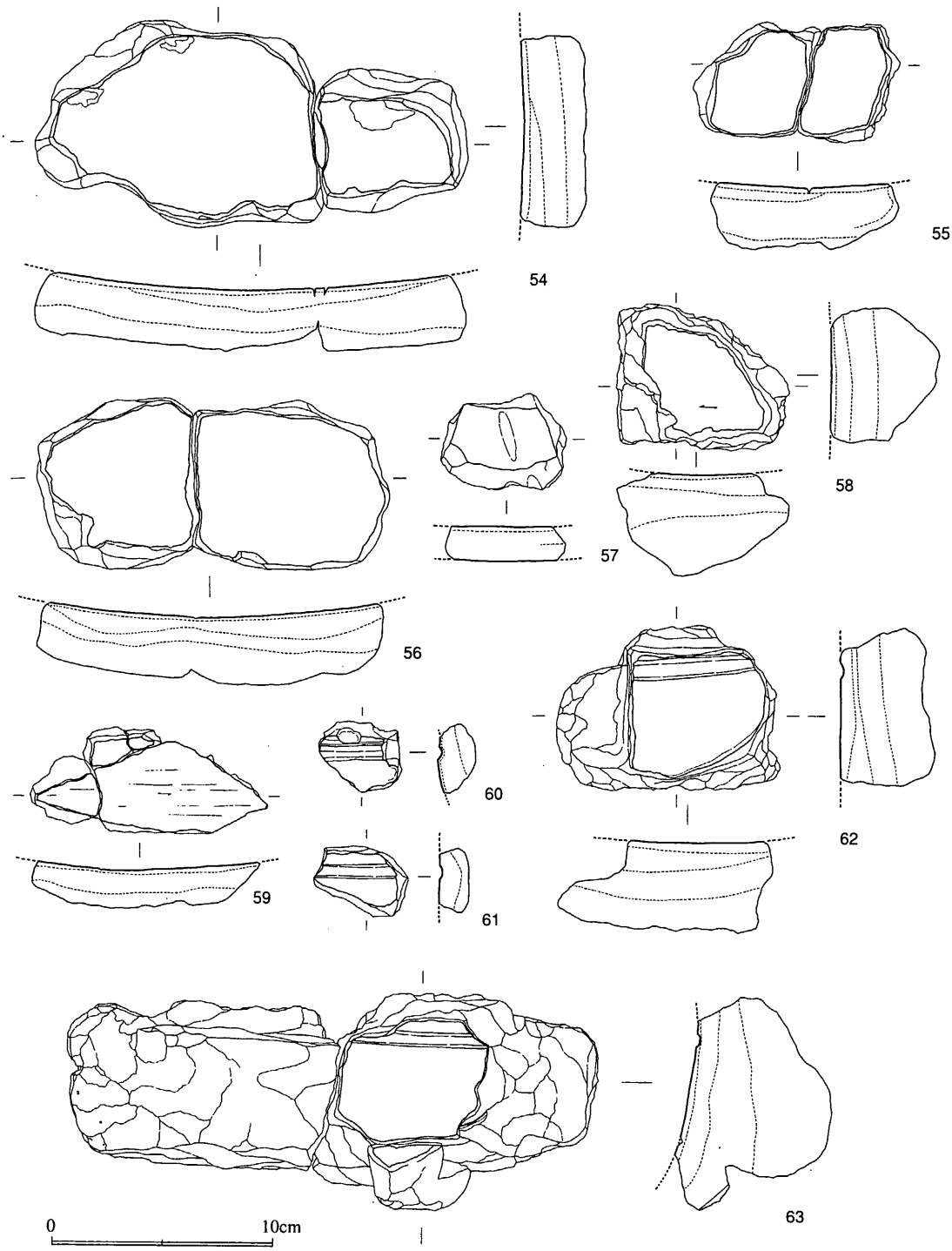


Fig.75　204茶色土出土遺物実測図5（S=1/3）

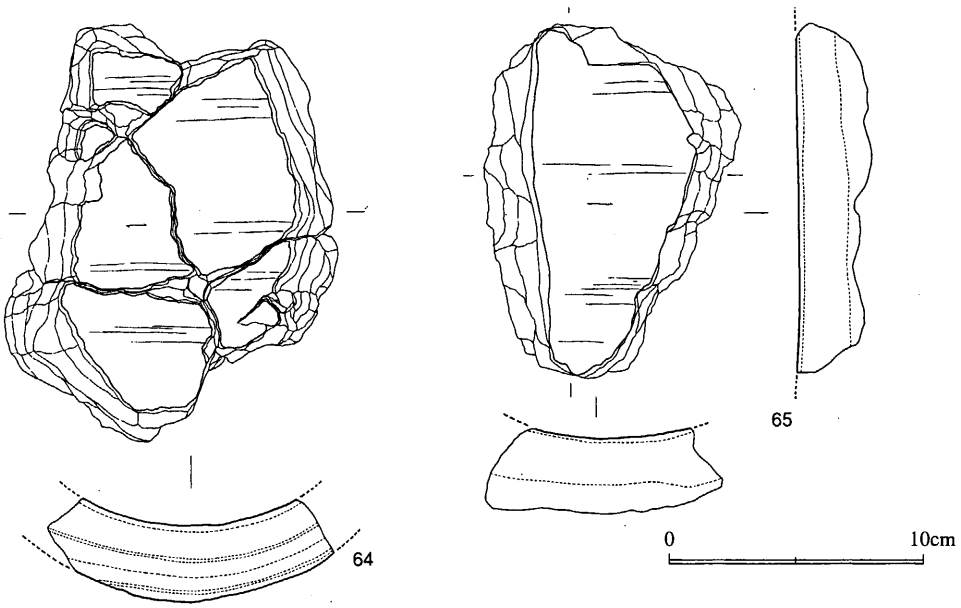


Fig.76　204茶色土出土遺物実測図6（S=1/3）

いるが、鉱滓の付着はなく、暗茶褐色の薄いスス状の付着物が見られる。66は炉壁の厚さ6.8cm以上。68は破片であるが僅かに弧を描いている。炉壁の厚さは6.0cmである。69は炉壁の厚さが7.3cmで、口縁端部は丸く整形されている。70の外面は粗いナデによって整形している。炉壁の厚さは約6.4cm。71は炉壁の厚さは7.8cmである。上面は強くナデ整形している。

73～82は炉壁体部である。73は胎土は0.1～0.5cmの砂粒とスサを含み、熱で内面から淡灰黒色、茶白色、灰白色、褐色に変色している。外面は砂粒をあまり含まない胎土で整形している。炉壁の厚さは7.2cmである。74は鉱滓が付着する炉壁で、炉壁幅5.4cmを測り、内面から1.5cm程まで被熱によって胎土が融解している。75は内面に厚さ1～2cm程の鉱滓および炉壁融解部がある。76は炉壁の厚さ4.9cm。76は内外面とも剥落しているが、炉壁内に組まれていたと考えられる幅0.8cm程のタガ痕が観察できる。77の胎土中にみられる横方向の溝は、炉壁外面のタガの痕跡か。78～80は鉱滓が付着する炉壁の中でも、断面観察から炉壁の重ね塗りが確認できるもので、鉱滓と炉壁面が重なり具合から、これら炉壁は最低3回修復を行ったことが窺える。各層の厚さは約1～2cmである。

用途不明品（81～88）　81は目立った砂粒を含まない精製された茶褐色の胎土を用い、硬質に焼成されている。小片だが、口径5.7cmの椀形の形状に復原できる。内面に鉱滓は見られないが、熱によって黒茶色に変色している。82は目立った砂粒を含まない精製された茶褐色の胎土を用い、硬質に焼成されている。内面全体が被熱によって暗茶黒色に変色している。鉱滓が付着しているが、これは堆積中のものと思われる。83も81と同様のものと考えられる。84は小片だが、内湾した内面に鉱滓が厚さ0.2cm程付着している。胎土は明茶色を呈し、微細な白色砂粒が見られるが、精製されている。85は内面が椀状に湾曲し、熱で淡灰色に変色している。胎土は僅かに微細な砂粒を含み、やや硬質に焼成されている。86はやや軟質で、外形が円弧を描く。

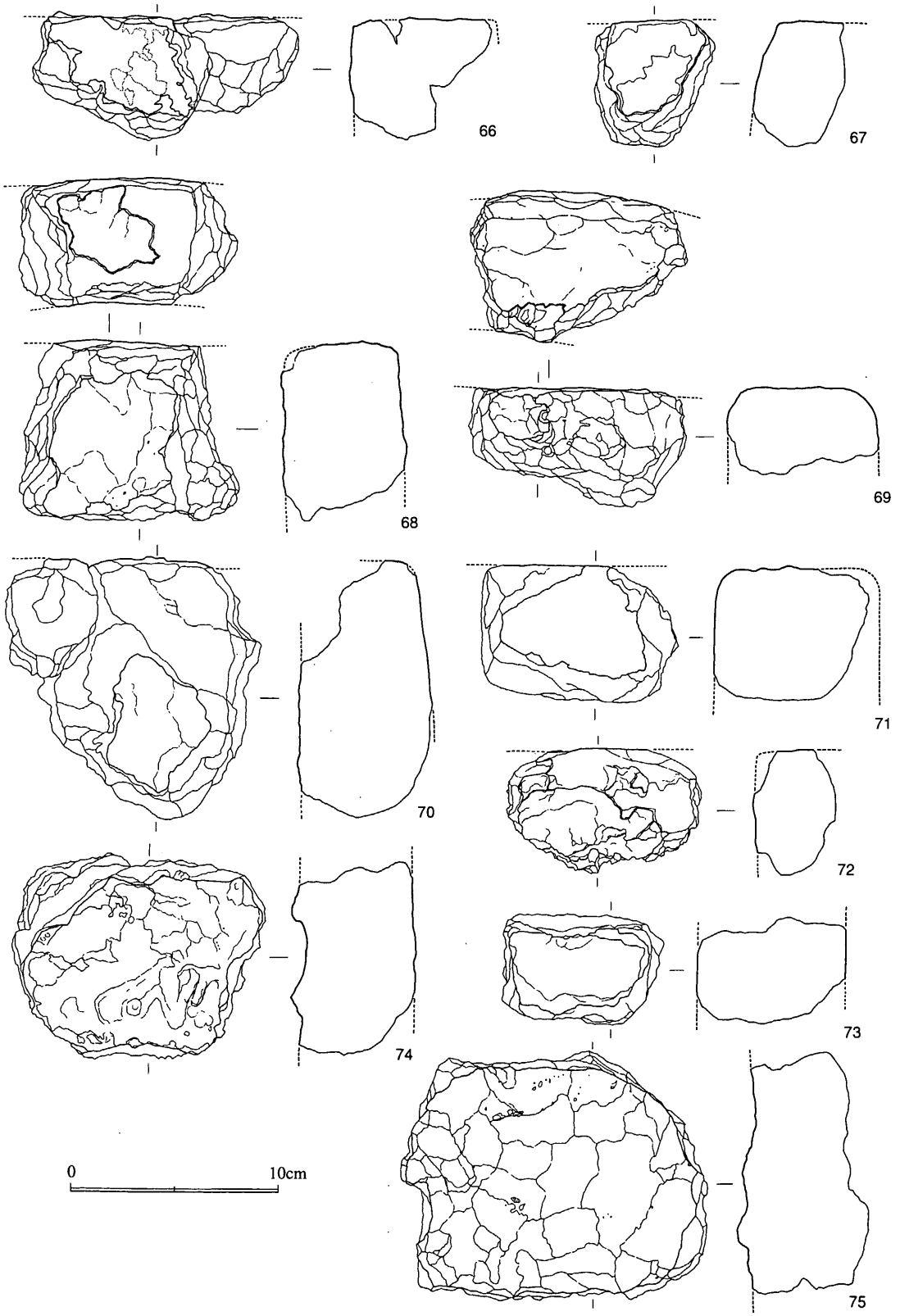


Fig.77　204茶色土出土遺物実測図7（S=1/3）

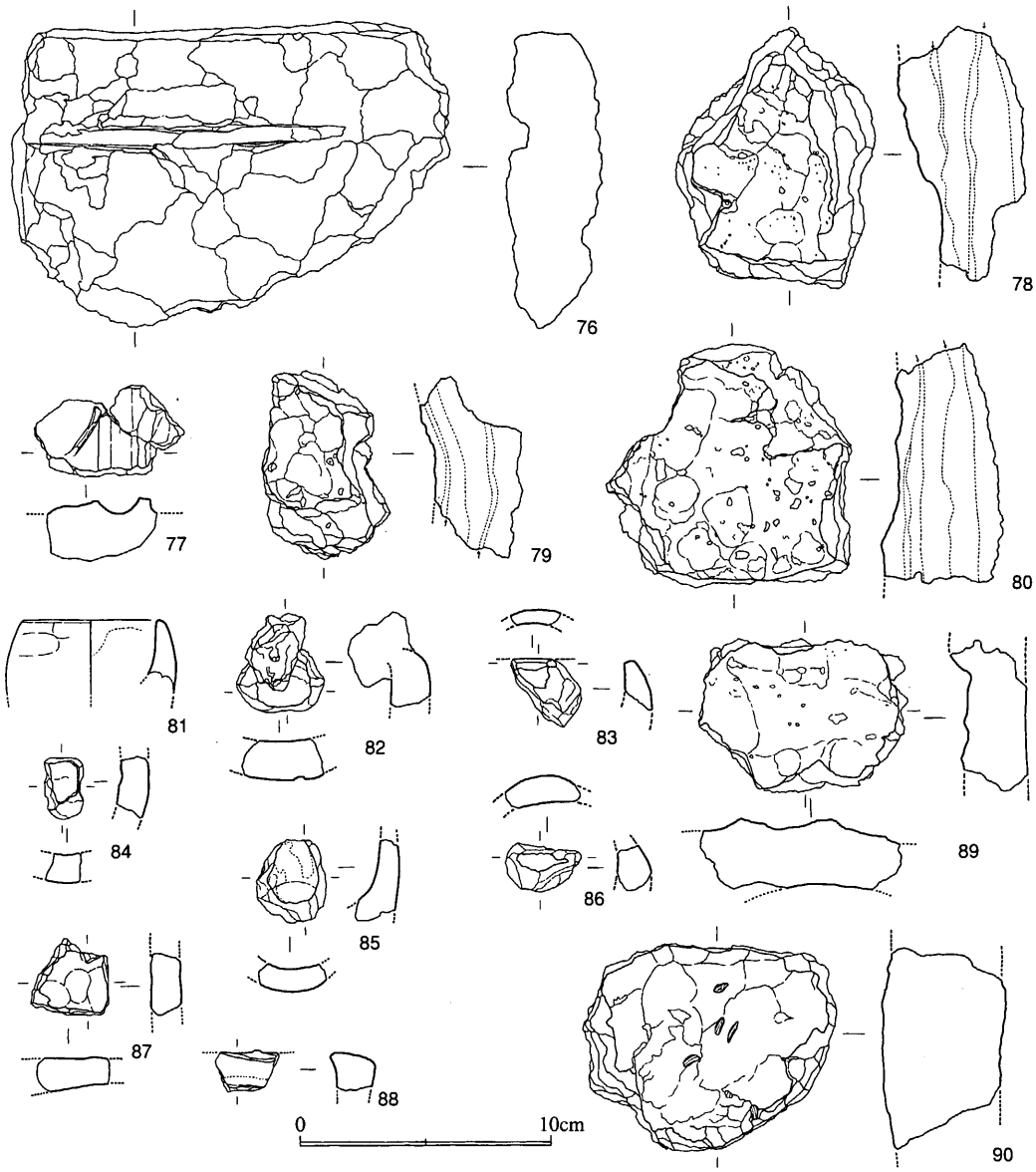


Fig.78　204茶色土出土遺物実測図8（S=1/3）

87は小片のため全体は不明だが、目立った砂粒を含まない精製された淡褐灰色の胎土を用い、硬質に焼成されている。はめ込みの鋳型の可能性が考えられる。88は目立った砂粒を含まない精製された胎土を用い、硬質に焼成された鋳型。内面下方が一部暗灰色に変色し、熱を受けたと考えられる。

鞴羽口（89）　外面に鉱滓が厚さ約1cmほど付着し、平坦になっているが、内面は弧を描いている。胎土は明茶色を呈し、0.1～0.3cmの白色砂粒を含んでいる。融解した胎土の形状も弧を描いているため、やや大きめの鞴羽口と考えられる。

焼土塊（90）　炉壁と全く同じ胎土のため、炉壁とも考えられるが、粗くナデ整形された明茶褐色土で、胎土は炉壁にみるような熱による変化が見られないため、建築材の一部の可能性

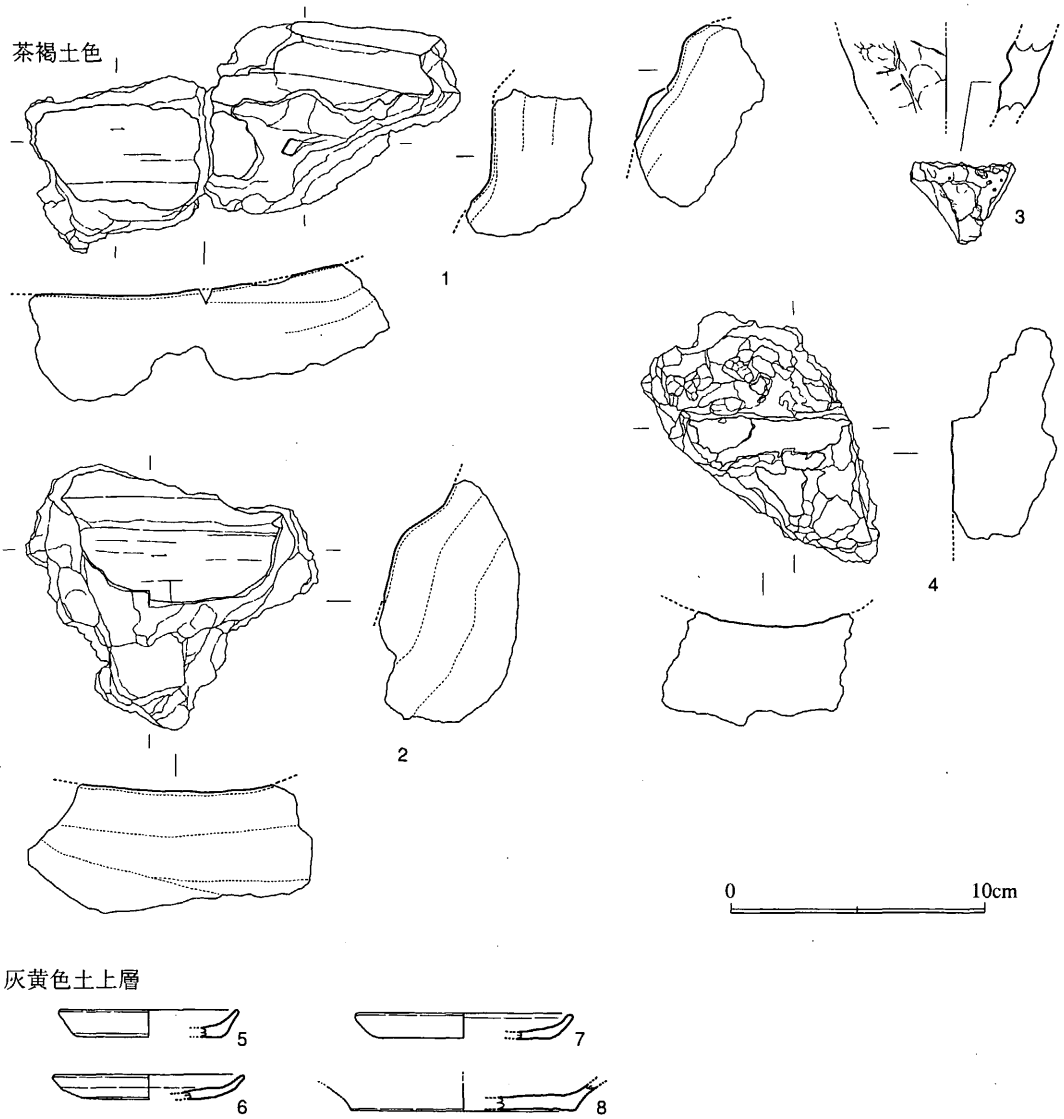


Fig.79　204茶褐色土・灰黄色土上層出土遺物実測図（S=1/3）

もあるため、焼土塊として報告する。

204茶褐色土出土遺物（Fig.79、Pla.58）

金属生産関係遺物

鋳型（1・2）　2点とも鍋の鋳型である。上方に2段になる巾木が残存しているが、熱を受け黒灰色に変色している。精製された明灰色の真土の鋳型面は薄く暗灰色に変色し、挽き目が残存している。真土外側の胎土は暗茶褐色の0.1～0.3cmの砂粒とスサを多く含む。1は鋳型面の磨滅が目立つ。下方の一部に鍋口縁部の屈曲が残存する。真土の厚さは0.3～0.8cm。鍋の口縁径は62.4cmに復原できる。2の鍋の口縁径は39.4cmに復原できる。真土は1.8cmと厚い。

鞴羽口（3・4）　3は小片のため明確ではないが、鞴羽口の先端に近い部分と推測される。胎土は硬質で、大きな砂粒は見当たらない。内面に鉱滓が付着し、外面は布目もしくはナデのよ

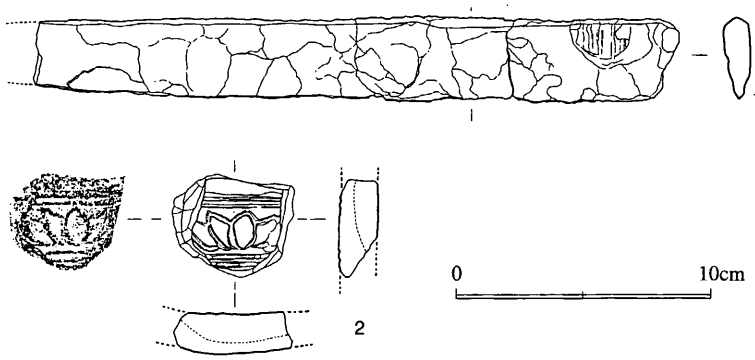


Fig.80　204暗黄灰色土・表土出土遺物実測図（S=1/3）

うな痕跡を残す。小片だが現存最大径8.4cmに復原できる。4は何かが剥がれたような明瞭な曲線が残り、その径は14.4cmに復原できる。周囲には鉱滓が付着しているため、炉壁にはめ込まれた先端部付近と推測される。

204灰黄色土上層出土遺物（Fig.79）

土師器

小皿a（5～7）　全て小片である。

坏（8）　体部は底部付近しか残っていないが、僅かに外反している。調整は体部内外面がヨコナデ。内面底部はナデ。坏bか。

204暗黄灰色土出土遺物（Fig.80、Pla.58）

金属製品

鉄刀（1）　全面サビに覆われている。両端は欠損する。現存長25.6cm、幅3.45cm、厚さ1.0cmを測る。図の右側のサビ上に縦方向に筋目が僅かに見られることから、この部分に何か巻かれていた可能性が考えられる。

204表土出土遺物（Fig.80、Pla.58）

金属生産関係遺物

鋳型（2）　鋳型面は2条の凸線の間に蓮華文を作り出している。表面は淡灰色に変色し、その背面は淡褐橙色を呈する。胎土は目立った砂粒もなく精製されている。焼成は硬質。

6）小結

今回の調査で得られた新たな所見について簡単に記しておきたい。大宰府条坊跡第47次調査で検出された南端区画溝が、遺跡全体の南限を示すのか、あるいはさらに南側に鋳造施設が存在するのか、また、丘陵を利用した何らかの施設が存在するのかという疑問点があったが、今回の調査によって、南側にも区画を設けて鋳造工房があったことが明らかになり、鋳物工房の規模がさらに拡張していることが確認できた。しかし、撞座や竜頭など梵鐘の鋳型も若干出土するが、鍋の鋳型が圧倒的に多く、この一画は鍋の製造を中心に行った区画と推測され、第204次調査で検出した鋳造土坑は鍋の製造に使用されたものと考えられる。しかし、鋳造土坑の形状は梵鐘鋳造土坑と同様であることから、鋳型と鋳造土坑が一致するものかは、今回の狭い調

査範囲では言い切れないものがあり、今後の課題と言える。また、切り合いから鋳造土坑はSK080→SK075→SK035→SK070とほぼ同一場所に順次が造られたことがわかる。

そして、南辺溝より南側は削平されているが、僅かに残るピットから、土地が高くなりながらも人の手が加えられ、利用されていたことが窺える。

（宮崎亮一）

（4）大宰府条坊跡第208次調査

1）調査に至る経過

当該調査地は、太宰府市五条４丁目2987-1他に所在し、中世における大規模な鋳物工房跡として全国的に周知された大宰府条坊跡第47次調査（鉾ノ浦遺跡）の南側に隣接している。この中世における鋳物工房の広がりおよび配置など、当時の生産工房のありかたを解明する上で重要な地点にあたり、史跡指定へむけた規模確認を目的として開始した。範囲確認調査の最終年度にあたっており、調査によって遺構が破壊され、将来調査を実施する際の整合性に支障をきたす可能性もあったため、調査方針としては、最上位に形成された遺構面を検出するにとどめ、下位の遺構面については、将来の詳細な調査に委ねることにした。調査面積は280㎡。調査期間は、平成12年2月10日から平成12年３月30日。調査は中島恒次郎が担当した。

2）層位

現況が畑であり、表層より約0.2mは耕作土および床土によって構成されており、その下位に0.3mの暗茶色土が堆積し、この層に鉱滓、土器などが少量含まれている。この層を除去すると、下位より今回検出した遺構面が展開する。さらに下位には黄白色土が、約0.1mほど堆積しており、調査区全体に展開していることから、この土層が今回検出した遺構面の形成土層と考えられる。その下位には茶黒色土が部分的に確認できているが、今回の調査では最上層の遺構のみの確認でとどめる調査方針であったことから、遺構I面以下については未調査。なお調査区南から北方へむかうにつれ、自然地形の標高差を物語るように次第に低くなってきている。遺構についても南では、後述する各種遺構を確認しているが、北方へうつるにつれて遺構密度が低下する傾向にある。ただし、耕作面までの層厚が南へ移行するにつれて0.3mと薄層となることから、削平によって欠失している可

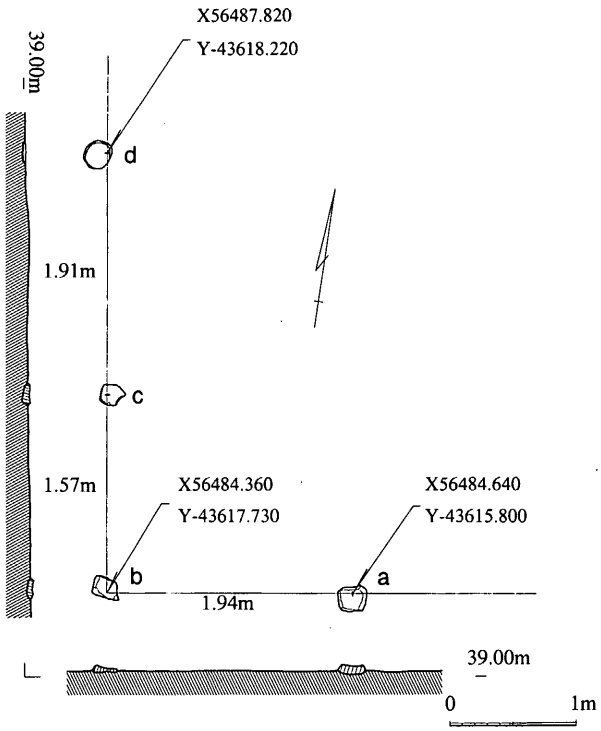


Fig.81　208SB015遺構実測図（S=1/60）

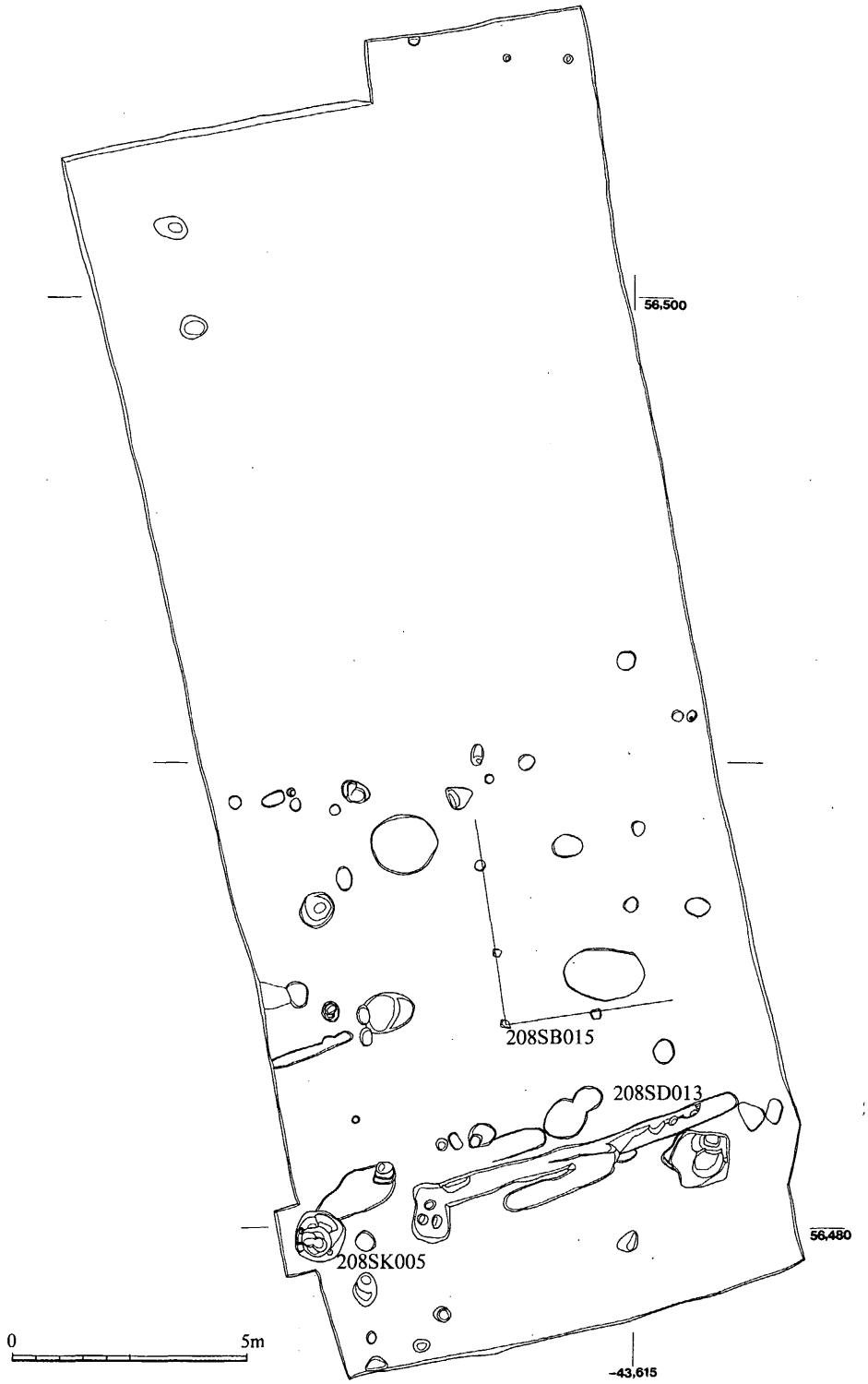


Fig.82　大宰府条坊跡第208次調査　遺構配置図（S=1/150）

能性もある。

3）遺構

a.建物跡

208SB015（Fig.81、Pla.60）

全体規模が不明ながら、３基の礎石および礎石抜き取り痕跡と考えられる小穴を１基検出した。耕土下約0.3mでの検出であったことから、耕作に伴って多くの礎石が除去された可能性が高い。残存していた礎石は、aおよびbは花崗岩角礫を、cは緑色片岩角礫を用いている。また各柱間は、Fig.82に記載したようにb-c間のみが1.57mと狭く、庇が南辺に取り付く建物の可能性がある。ただし検出した柱数が少ないことから、梁桁方向については判断し難い。南北の柱方向は、N-8° 3′ 38″ -Wの方向を測る。東西方向ではN-81° 44′ 43″ -Eを測り、後述する溝208SD013の有するN-71° 35′ 38″ -Eの値とは約10° ほど振れが大きく、同一時期における構築物の許容範囲に収まるものかどうか判断し難い。

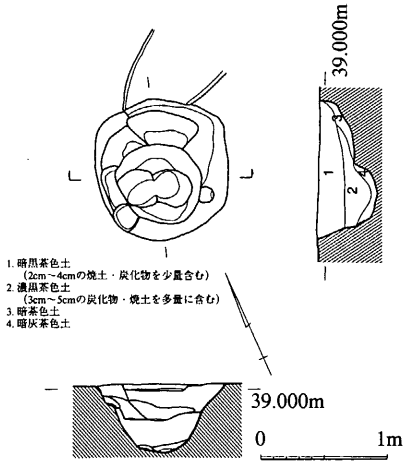


Fig.83　208SK005遺構実測図（S=1/60）

b.土坑

208SK001（Fig.82）

208SD013を切る状況で検出した土坑で、溝208SD013の西端部に形成されている。長軸長1.28m、短軸長0.83mを測り、残存する深さは、0.24mを測る。遺構床部には径0.2m程度、深さ0.05m程の小穴が数基検出できた。遺構内には黄白色土ブロックを多く混入する茶色土が堆積している。ブロック土は不規則に堆積しており、人為的に埋められた可能性が高い。

208SK005（Fig.83、Pla.61）

調査区南西部にて検出した略方形の遺構で、長軸長1.12m、短軸長1.02m、残存する深さは0.54mを測る。堆積土は４層に分かれるが、２層中からは0.3m～0.5m大の炭化物塊を多量に含み、合わせて0.1m～0.3m大の焼土塊も多く含まれている。さらに食器類の遺物も多く出土しており、遺物残存状況からみて

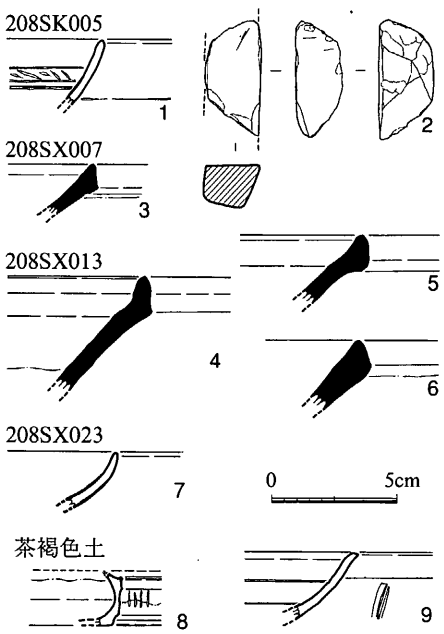


Fig.84　条208次出土遺物実測図（S=1/3）

破片化したものが多いため、食器廃棄のための土坑ではなく、遺構周辺に散在するゴミの廃棄土坑の可能性が高い。したがってこの遺構から出土した遺物群は、廃棄の同時性は高いが、使用の共時性は低いことになる。

c.溝

208SD013（Fig.82）

調査区南部において検出した遺構で、調査区内で完結する長土坑状の遺構である。この遺構から南には近接して基盤層および丘陵端部が存在しており、空間を画する遺構ないしは、丘陵からの湧水等を排水する機能が想定できるものの、調査区外へ連続する状況で検出できていないことから、性格については判断し難い。遺構内には亜円礫～円礫の形状を有する礫が多量に堆積しており、これら礫を包含するように褐茶色土が堆積している。堆積構造としては、礫と基質である褐茶色土に粒度差が大きいため、人為性がうかがえる。溝の規模は、検出長6.62m、最大幅0.56m、残存する深さ0.29m、溝方向は、N-71° 35′ 38″ -Eを測る。

4.遺物

今次調査で出土した遺物は、調査計画によって設定されたI面のみの調査であることから、他の調査箇所の最上層面と一致することになる。ただし一部土坑などの調査で下位の遺物が混入している可能性もある。出土した全ての遺物は、遺物一覧において記載している（Tab.25-1～4)。ここでは、既存分類の無いものについてのみ記載する。

a.土坑

208SK005（Fig.84）

象嵌青磁

椀（1） 口縁部のみの破片資料で、内外面ともに青緑色のガラス質釉が掛けられ、細かい貫入が内外面ともに生じている。素地特徴は、黒色微粒子が極少量入るが全体に灰色を呈している。口縁部内面に白色土を用いた象嵌がなされており、唐草文と解されるが形骸化した状況が受け取れ、西谷氏設定によるIV期の製品と考えられる（西谷、1983)。残存高2.6cmを測る。

石製品

砥石（2） 赤白色を呈する細粒砂岩を用いたもので、3面に使用痕跡が観察できる。なお部分的に焼けた面がある。

b.その他の遺構

208SX007（Fig.84）

須恵質土器

こね鉢（3） 口縁部のみの破片で、摺鉢の可能性もあるが、東播系製品と考えられることか

らこね鉢とした。内外面ともに明青灰色を呈しており、還元良好な製品である。ただし口縁端部外面については黒灰色を呈している。口縁部形状があまり上方へ発達しない段階のものと考えられ荻野氏分類のV群に相当するものと考えられる。

208SD013（Fig.84）

須恵質土器

こね鉢（4～6）　いづれも口縁部のみの破片であり、摺鉢の可能性も残されているが4および5については東播系製品と考えられることからこね鉢とした。6については産地不明なため、摺鉢の可能性も残されている。4・5は灰色系の色調を呈し、還元良好な製品である。4の体部内面下位には使用に伴う器面のあれが観察できる。6は、口縁端部外面が黒灰色に変色している他は、内外面ともに赤橙色を呈し、還元不良な製品である。焼成も不良なため調整痕跡は不明。

208SX023（Fig.84）

陶器

椀（7）　内外面に黒色釉をかけるもので、口縁部付近は茶色に変色している。断面観察による限りガラス質であると考えられる。素地特徴は、白色微粒子を極少量含むが全体に黒灰色を呈している。

c.土層

茶褐色土（Fig.84）

遺構検出時の遺物であるが、遺跡埋没後に堆積した遺物全てを取り上げている。したがって現代に至るまでの遺物包含層として理解される。

陶器

合子（8）　合子の身の破片で、体部内外面のみに暗緑色の釉を掛け、細かい貫入が生じている。素地特徴は、白色のビスケット状の素地だが、混入物は認められない。体部外面には縦方向の隆起文様を形成している。

青磁

椀（9）　口縁部のみの破片で、内外面に淡青緑色のガラス質釉を掛ける。貫入は生じていない。素地は混入物のない白色を呈している。内面には二条の圏線、外面にはヘラ描きによる二条の文様が描かれている。特徴からして同安窯系青磁椀III-1aの可能性がある。

5）小結

今次調査では、調査計画上I面のみの調査であったことから、周辺調査区のどの面と整合するのかを検討する材料を整理しておく必要がある。したがって今次調査にて明らかとなった成

果について整理し、周辺調査区との関係を考える際の手だてとする。

・遺構の形成時期と廃絶時期

遺構形成時期については、下位の整地層を除去していないため判然としない。廃絶時期については、208SK005より龍泉窯系青磁椀IV類、象嵌青磁椀（西谷画期IV期に該当）が出土していることから、14世紀代に求めることができる。ただし他の遺構については、大宰府陶磁器F期に該当するものばかりであること、後述するように土師器供膳具の出土が顕著でないことから、検出された全ての遺構が当該時期に廃絶したかどうかは不明である。

・礎石建物の検出。

西に隣接する111次調査区で、石敷きの建物遺構が検出されており、当該調査で検出した遺構の廃絶時期の一致から、同一生活面として考えてよい。したがって、この面での遺構構造としては掘立柱建物から礎石など石を基礎とする構造の建物へと転換したことがわかる。

・鋳造関係遺構の未検出。

・西に隣接する111次調査区ほどではないが、こね鉢などの調理具が顕著に見られる。

・炉壁材の多量出土に対して、鋳型の微量出土。

当該調査区で出土した炉壁材および鋳型など鋳造関連遺物の多くは、下位の整地層を誤って掘削した際に取り上げたもので、生活面として見た場合、これら炉壁材ならびに鋳型が、検出面に伴うものであるのかは疑問が残る。

・金属遺物の出土が顕著では無い。

（中島恒次郎）

(5) 大宰府条坊跡第213次調査

1) 調査に至る経過

調査地は大宰府政庁跡の南東、太宰府市五条4丁目2987-12に位置する。2000（平成12）年5月15日に共同住宅建設の計画の話が持ち上がり、鋳造遺跡である鉾ノ浦遺跡の一角に位置することから、基礎の掘削等が遺構面に達しないように協力してもらうと共に、遺構の広がりと遺構面の深さを確認するため、2000（平成12）年8月17日から9月30日にかけて発掘調査及び立会調査を実施した。調査対象面積268m²、調査面積29m²を測る。調査は宮崎亮一が担当した。

2) 層位

現況は一部畑地として利用されている。耕作土を除去した面をI面目とし、この面で調査を行った。黒灰色の耕作土を除去すると床土と思われる赤茶色土が全面に広がっている。赤茶色土の下には鉄分が沈着したような暗灰色土が広がり、その下に遺構が確認される。遺構面を形成している堆積は3層確認できた。第1層目は灰茶色土混じりの赤茶色土で、南側の床土がやや厚く堆積しているものと考えられる。第2層目は赤茶色土と灰茶色土の混合層で、その下に灰茶色土で黒茶色土の鉄分沈着が目立ち、赤茶色土も少量混じっている。これらのことからこの調査区に関しては南側の土地が緩やかに下がっていることがわかる。

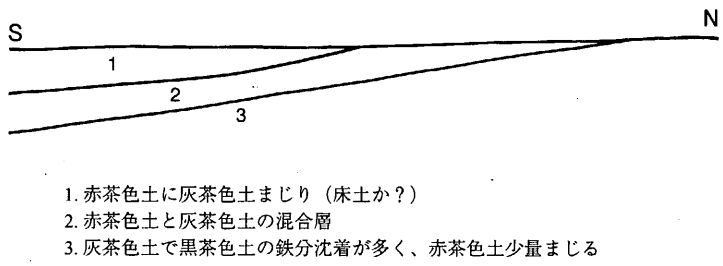


Fig.85　大宰府条坊跡第213次調査土層模式図

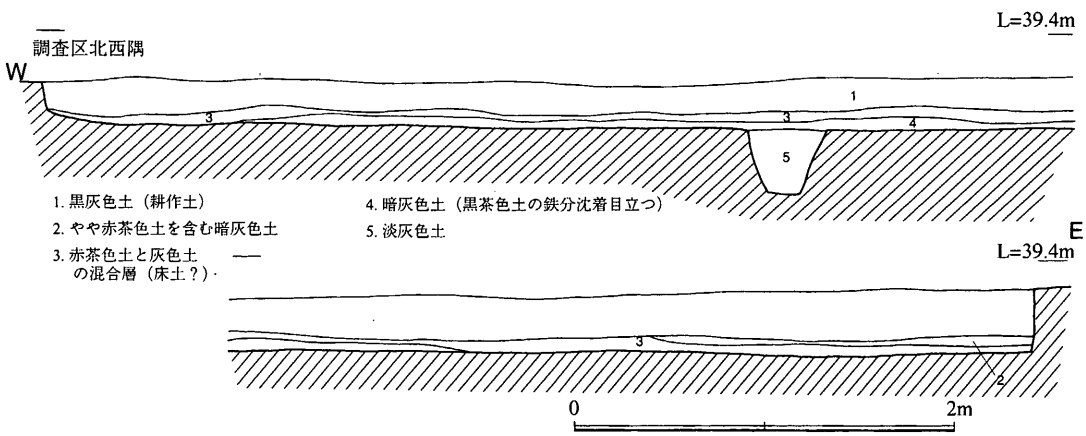


Fig.86　大宰府条坊跡第213次調査北壁土層実測図（1/40）

3）遺構

a.土坑

204SK005

東西0.6m、南北0.5mの円形の小さな土坑。時期は不明。

b.溝

204SD001

東西に続く溝で埋土はSK005と同様、淡灰色土の単層である。時期については遺物が小片のため不明。しかし、遺構の状況から14世紀以降の畑等の耕作に伴う溝の可能性が考えられる。

4）出土遺物

調査はI面目で止めたため、目立った遺物は出土していない。鋳型と鉱滓もごく僅かである。

5）小結

今回は、遺跡が保存されるため、I面目までの調査であったため、目立った遺構は確認されていないが、I面目を形成している堆積の状況が第204次調査や第208次調査に比べ、鉱滓や鋳型の包含量がやや少ないように思える。しかし、赤茶色の鉱滓や鋳型混じり土の堆積がみられることから鋳造関連遺構の広がりは薄いながらも、この調査区まで続いているものと考えられる。

（宮崎亮一）

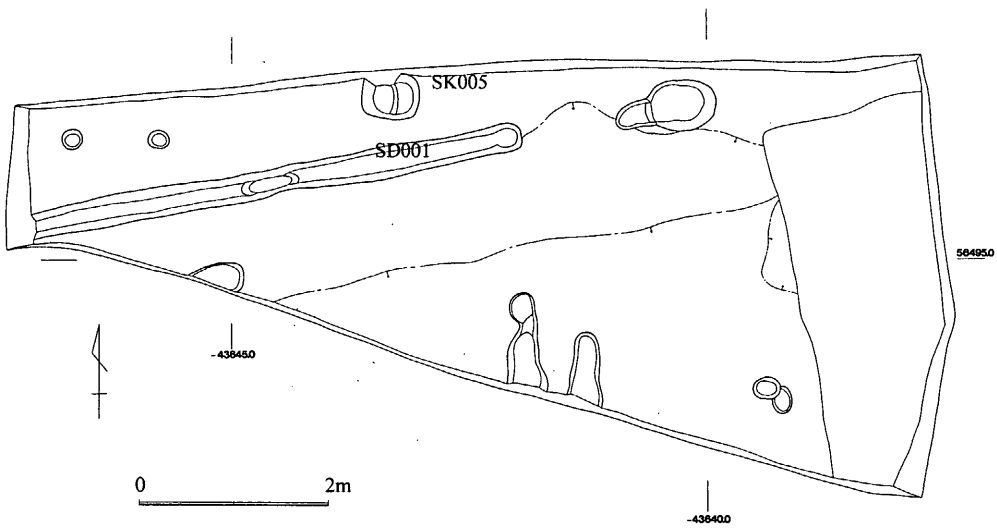


Fig.87　大宰府条坊跡第213次調査　遺構配置図（S=1/80）

IV.金属製品の保存処理

鉾ノ浦および関連遺跡から出土した主な金属製品について今後の調査・保管・展示に適した状態にするために保存処理を実施したので報告する。今回出土した金属製品は鉄製品約190点、銅製品約30点である。以下に鉄製品、銅製品について処理の概要をそれぞれ記述する。

(鉄製品)

今回処理を実施したのは、鉄滓や分析用の鉄塊など以外の鉄製遺物である。処理前の状態は多くの遺物が内部まで完全に錆化あるいは粉化していた。X線観察では錆層と本体との境界が明瞭でないものが多く見られ、表面上は折れてなくても軸に対して垂直方向の亀裂が生じており錆層によって形状を保持している状態であった。(Fig. 88) 錆の状態はほとんどが木炭、灰、砂礫などを多く含んで硬く、瘤状を呈する部分がみられた。また、錆の生成による変形のため接合面が合わないものがあった。その他、鉄釘などで断面が観察できる部分では年輪状に錆が進行していった様子が認められ釘製作過程の様子が窺えるものもあった。

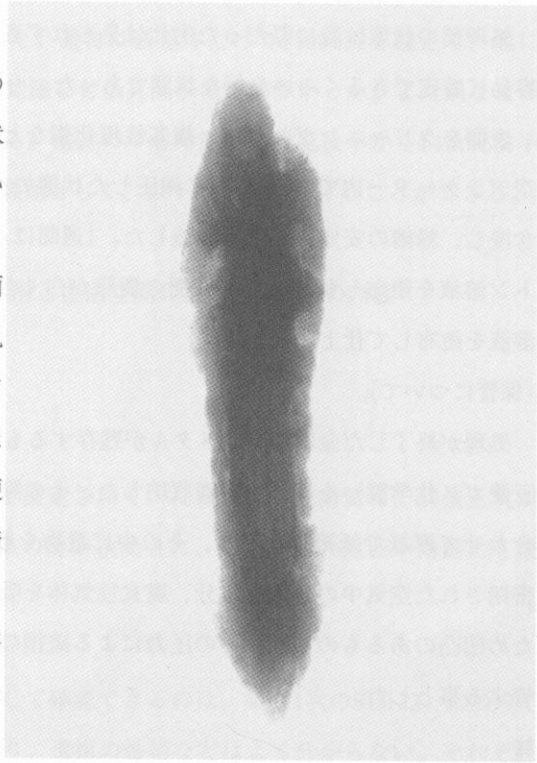


Fig.88　金属製品のX線写真

錆取りはニッパー、カッター、絵筆、針などで行い、微細な部分などはエアーブレイシブを使用してできるだけ元の形状を表出させることを目的として作業した。脆弱なものはアクリル樹脂（商品名　パラロイドB-72）の5%アセトン溶液を適宜塗布し充分に乾燥固化してから必要最小限の錆取りをした。

基本的にメタルの残存している遺物に関してはオートクレーブ法による脱塩処理（今津・肥塚、1994他）をおこなったが、大きくひび割れているものや層状に細かく剥離しているものなど高温高圧下の条件に耐えがたいと考えられるものは除外した。処理条件は121℃、180分の設定で5回行った。最初の1・2回は処理液が遺物表面の錆粉により黄褐色にかなり濁った。特に2回目は色変化が大きく、その後の処理では徐々に減少し、5回目には限りなく透明に近い状態となり、とりあえずこの段階で処理を終了した。(1)

樹脂による強化処理は30mmHgに減圧した状態でアクリルエマルジョン（商品名　パラロイ

ドNAD-10）の30％ソルベントナフサ溶液を含浸させた。含浸後、1日自然乾燥させてから恒温乾燥器に入れて60～80℃で2～4日間乾燥させた。この後遺存状態が脆弱なために作業できなかった錆取りや破片の接合などおこなった。含浸は特に強度が必要なものは3回、それ以外は2回おこなった。

（銅製品）

処理前の状態は特に際だった劣化は見られず表面に薄く土が付いた状態で、銭などは銭種が容易に特定できるくらい良好な状態であった。

表面をクリーニングした後、塩基性塩化銅などの錆はその時点では認められなかったが、真空デシケーター内で400mmHgに減圧した状態でベンゾトリアゾールの1.5％エタノール溶液を含浸し、緑錆の安定化処理を実施した。1週間ほど乾燥させたあとでパラロイドB-72の5％アセトン溶液を塗布し強化したが表面の樹脂が白く目立ったため、パラロイドB-72の3％キシレン溶液を塗布して仕上げとした。

（保管について）

処理が終了した金属製品はメタルが残存するものについては脱酸素剤（商品名　RPシステム三菱ガス化学製）を用いて個別収納した。その際、あまり適切とは言えないが遺物の大きさに合わせて厚紙で紙箱を作製し、その中に遺物を収納した上でRP剤とともに封入した。RP剤は密閉された空気中の酸素や水分、腐食性気体を吸着するため、内部がかなり減圧される。そのため凹凸のあるものなどはその圧力による破損の危険が考えられたため、このような方法で保管する事とした。

註

（1）オートクレーブによる脱塩処理の作業終了の判断材料の一つとして、静岡県埋蔵文化財研究所の青木修氏は経験的知識とした上で処理液中に抽出される塩化物イオンの量が少ないと処理液の色調は無色透明のままであるとし、処理液の色調が橙色の濁った状態から無色透明になるまで作業をされている。（青木、1999）当市では以前溶出塩化物イオンの濃度測定を簡易なイオン試験紙で試みた事があるが思うような結果が得られなかったため他の方法を検討している状況であり、実際の作業でイオン濃度測定の器具や材料も無く“大体これくらい”といった極めて曖昧な判断をしている現状においてはこの視覚的な判断を一つの参考にした。

参考・引用文献

今津節生・肥塚隆保 1994 「高温高圧脱酸素水による金属製遺物の脱塩と安定化」『日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集』pp.27-28.　日本文化財科学会

今津節生・肥塚隆保 1996 「金属遺物の脱塩処理-高温高圧脱酸素水による脱塩効果の実例-」『保存科学研究集会1996』pp.28-32.　奈良国立文化財研究所

青木　修 1999 「第2部　出土遺物の保存処理　第4章　出土金属製品の脱塩処理」『五ヶ山B2号墳』pp.132-150.　浅羽町教育委員会

VI.調査の成果と課題

・調査前の課題点

昭和59（1984）年に行われた大宰府条坊跡第47次調査の調査成果は以下のようにまとめられている。調査の範囲内では工房は溝によって区割りされ、その区画内に鋳造土坑や廃棄物処理土坑、建物、炉、井戸がまとまって検出された。遺物は鋳型片だけで14000点を越えて、他には鞴羽口や鉱滓なども多く出土した。鋳型は梵鐘など仏具関係の物が多かった。また鍋などの生活用具もつくっていたことが確認されている。遺跡の中心時期は13世紀後半から14世紀前半である。これらの調査成果より導き出される課題として、以下のものがあげることができる。

a.鋳造工房の範囲　b.時間的推移　c.鋳造工房と生活空間の把握　d.製品の内容

・今回の成果を元にした課題点の検討

a.鋳造工房の範囲

条204次において、条47次で南限の区割りと推定されていた東西溝より南側に、鋳造土坑が確認された。この鋳造土坑のさらに南から2条の溝が検出され、鋳造工房の区画が南側にも続いていることが確認できた。(1)

b.時間的推移

今回報告した調査地内で、一番古い遺構として確認できるのは、条111次のSD122、SX099である。ともに奈良時代前期中頃に埋没しており、遺構の性格などはよく分からない。それぞれの調査区の土層出土遺物からも、古い段階の須恵器が少量ながら確認できることから、奈良時代にこの付近で小規模な土地利用があったと思われる。次の段階は、条111次の建物SB060、065の掘立柱建物群で、同一面で井戸、溝なども検出されている。時期幅は平安時代末（12世紀後半）からXIX期の古い段階（13世紀末ごろ）に収まる。同時期の遺構としては条197次の遺構V面で検出された197SD106がある。XIX期（13世紀末から14世紀前半）になると、条204次において鋳造土坑が造られる。ここではほぼ同位置で、SK080→SK075→SK035→SK070と順次造られたことが、切り合い関係から解っている。この鋳造土坑からは、梵鐘の鋳型はほとんど出土しておらず、大多数が鍋類の鋳型であった。条204次の鋳造土坑が整地された後に、周辺ではさらに整地を行い、111SB001、197SB050、208SB015などの建物が建てられている。それぞれの建物の梁行の軸方向は、すべて西偏しているが、111SB001は、N-2° 8′ 38″ -W、197SB050はN-12° 12′ 27″ -W、208SB015はN-8° 3′ 38″ -Wとそれぞれ一律ではない。遺構の切り合い関係などによる下限時期についての証左がないため、明確な終焉時期は解らない。た

だ、整地土である赤茶色土の堆積状況をみると、それぞれ時期差がある可能性が高い。時期の下限としては、条204次の遺構II面で土師器小皿bが出土する遺構があるため、赤茶色土の整地は14世紀中頃には終了していたと考えられる。そうすると、11SB001、204SB015は14世紀中頃以降、197SB050も14世紀中頃からだが、整地が再度、施されるので、より後出するものと考えられる。条197SB050の下限の時期としては、この建物群の掘り方や、廃絶後の包含層に15世紀まで建物が存続してことを積極的に示す資料がなかったことから14世紀代に収まると考えている。そう考えると、梁行きの主軸方向についても、時期が下るにしたがって西へ傾くという傾向が見て取れる。

これらの建物群の性格及び利用目的は今回の調査範囲では不明だが、築造方法がそれぞれ異なるため、建物の使用目的に合わせて建築方法を採用していると考えられる。

その後、条111次では15世紀前半まで下がる遺構が確認されており、小規模な利用があったと思われるが、全体としては農地もしくは閑地として利用されたと思われる。条197次では近世末に大規模な整地を行われ、畑作地として利用して現在に至る。

c.鋳造工房と生活空間の把握。

生活空間の把握についての検討材料に土層の堆積がある。条197、204、208次で鉱滓、炉壁、鋳型（特に鍋類）を大量に含む土層（赤茶色土）が確認されているが、この土層の内容物は、真土に近い精良な土と炉壁材など熱を受けた土が混じり合って構成されている。条197、204次の範囲内の埋土から主として鍋類の鋳型が多かった。その範囲は東は条197次の遺構IV面で確認された197SX015、南は条204次の遺構II面での茶色土の検出範囲、西は条208次の遺構II面全域まで確認されている。このことから赤茶色土層は、条47次の南側に広く展開しており、東西50m以上、南北は26～30m、深さは0.4m程度を測ることが解る。条47、条111次でも検出されているが、遺構面としては認識されていない。この堆積土は、鋳造に関係する生産活動の廃棄物と考えられる。現状では、隣接している条47次の工房から排出された廃棄物群と考えられるのが妥当だが、周辺の調査例が増加した後に検討したい。条204次の成果から考えると、鋳造などの生産活動が終焉した後に堆積しており、またその間の時間差が少ないため、鋳造工房が機能停止後、時期を置かずに産廃である赤茶色土を使用して整地したと考えられる。(2)

d.製品の内容

今回の調査範囲からは、梵鐘鋳造に関係する鋳型の出土は少なく、大多数が鍋類などの生活用具であった。鍋などの生活用具類、梵鐘、仏具関係の鋳造がどのような割合で、生産されていたのかが、条47次の調査成果で明らかになると、それを踏まえて条204次の鋳造土坑を再度検討していくことが出来ると考えられる。(3)

・新たな課題

1）今回の成果と条47次の成果を踏まえての鉾ノ浦遺跡の全体的な遺構変遷の解明。(4)

2）今回報告した調査地の南側の丘陵を中心として、生産関係の遺物を出土する遺跡が分布している。これらの遺跡の調査成果をもって再度検討するべき点として、a.遺物の内容、特に鋳型。b.遺構の内容、鋳造土坑の有無。c.遺跡の時期差の3点が上げられる。その検討を踏まえて鉾ノ浦地区の実態を明らかにしたい。

3）鋳造土坑の機能解明。条204次の鋳造土坑は、条47次で検出した梵鐘鋳造土坑と同じ形態だが、鍋類を鋳造している可能性が高いことが判明した。今後は鋳造土坑の形態、出土した鋳型から総合的な分類を進めていく必要がある。

以上の点を中心として、観世音寺地区、観世音寺前面地区、御所の内地区、南条坊地区、五条地区、五条北地区などの他の中世遺跡との遺構及び遺物の比較検討をしていくことが必要である。

（髙橋学）

註

（1）今回の報告では、今時報告地と大宰府条坊跡第47次調査出土の鋳造関係遺構の共時性は検討できていないため、厳密な意味での鋳造工房の南側の広がりが条204次の東西溝と限定は出来ない。しかし、同一規模で同一方向に振れていることから関連性が高いと現段階ではしておきたい。よって、条47次調査の報告をまって再度検討したい。

（2）生産関係の廃棄物と思われる赤茶色土だが、鋳造工房が機能していた期間は常時、排出されていたと考えられるため、これをどの様に処理していたのが、工房の機能を考えられる上で重要な問題である。しかし、現状では整地された後の状況しか解らないため、今後同一の土を調査した際には慎重に検討していくことが必要だろう。

（3）大宰府条坊跡第47次調査については、「大宰府条坊跡XVII」として報告予定である。

（4）周辺地の調査地点の中では、遺構の規模、出土遺物量から判断しても条47次調査地周辺が鋳造の中心地であると考えられるが、周辺に点在している小規模な生産地の意味を考えていく上でも報告を進めていきたい。

引用・参考文献

山本信夫 1990「大宰府における鋳物生産遺跡 -鉾ノ浦遺跡を中心に-」『梵鐘の音は時を超えて』美原町教育委員会

山本信夫 1992「生産の町・大宰府」『大宰府市史-考古資料編-』太宰府市

狭川真一 1994「大宰府の鋳造生産」『考古学ジャーナル』372

狭川真一 1995「大宰府の変容」『中世都市研究2』新人物往来社

山村信榮 1997「中世太宰府の展開」『中世都市研究4』新人物往来社

付表

1.遺構番号台帳一覧
2.出土遺物一覧表
3.遺物計測表
4.鉱滓分析表
5.鉱滓分布表（定性・定量）
6.遺構略測図

Tab.7　鉱滓関係遺物分類凡例（詳細は「I章2.報告にあたって」を参照のこと）

種別	1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f		
記号	○	◇	□	△	♡	☆		
種別	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f		
記号	●	◆	■	▲	❤	★		
種別	3	4-a	4-b	5	6	7	8	9
記号	♠	▽	▼	◎	＋	♤	―	♣

Tab.8-1　大宰府条坊跡第111次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	層位	地区
1	111SB001	石敷遺構			1	C・B3～5
2		ピット群	茶色土		1	C2
3		ピット	灰色土		1	C2
4		包含層	黄茶色土	S-14→S-4	1	D7
5		土坑		遺物が上面に集中。	1	C5
6		凹み	黒茶色土		1	D3
7		凹み	黒茶色土	111SX006と同様の状況	1	D3
8		凹み	黒茶色土	111SX006と同様の状況	1	D5
9		ピット群	黄色土		1	D5
10		井戸	茶黄色土→黄色土【裏込め土】 青灰色砂→黄茶色土→黒茶色土→茶色土【井戸枠内堆積土】		1	G7
11		凹み	黒茶色土		1	B5
12		ピット群	淡灰茶色土		1	D5
13		ピット群	黄茶色土		1	E9
14		ピット群	焼土混入土		1	D7
15	111SK015	土坑		111SB001の付帯遺構。111SB001赤褐色土と同一。	1	C4
16		ピット群	黄色土		1	C・D6
17		ピット群	黄茶色土		1	C6
18		ピット群	茶色土		1	H8
19		ピット群	茶色土		3	I5
20	111SK020	土坑	茶灰色土	111SB060の付帯遺構	3	D3
21		ピット群	茶色土		3	I7
22		土坑	白色土ブロックを混入。	調査区東方へ展開する井戸の可能性あり。	3	I7
23		ピット			3	J5
24		土坑	黄茶色土		3	I6
25		土坑	焼土混入土		3	B3
26		ピット群	茶色土		3	H5
27		土坑	黄灰色土	111SE010→111SK027→111SX018	1	G7
28		溝	黄茶色土	111SD028→111SX013・111SX032	1	E9
29		土坑	白黄色土→茶色土→黒茶色土	111SX004→111SK029	1	E7
30	111SB060	建物		111SX162・111SX157→111S-030 111S-30・35→111S-20。111SB060の付帯遺構	3	D3
31		凹み			1	D8
32		ピット群	茶色土		1	E9
33		凹み	茶灰色土		1	C8
34		凹み			1	D6
35	111SB060	建物		下位よりピット多数。111SB060の付帯遺構。	3	D2
36	111SX036	凹み	黒茶色土	S-36→S-23	3	I5
37	欠番					
38		ピット群	黒茶色土		1	E5
39		ピット群	黒茶色土		3	E2
40	111SB060	建物		111S-45と同一遺構。下位よりピット多数。111SB060の付帯遺構。	3	D4
41		ピット		111SK024の掘り残しの可能性あり。	3	J6
42	111SB060	建物		下位よりピット多数。111SB060の付帯遺構。	3	E2
43		凹み	灰茶色土		3	I6
44		ピット群	茶黒色土		3	H6
45	111SB060	建物		111S-45と同一遺構。下位よりピット多数。111SB060の付帯遺構。	3	E4
46		ピット群	茶色土		1	G6
47		ピット	茶色土		3	E3
48		土坑	黒茶色土	調査区北方へ展開。	3	E3
49		ピット群	黒茶色土		3	E3
50	111SB060	建物		下位よりピット多数。111SB060の付帯遺構。	3	E4
51		ピット群	黒茶色土		3	E3
52		ピット群	黒茶色土	S-52→S-42	3	E3
53		ピット群	黒茶色土		3	E3
54		凹み	黒茶色土		1	E4
55		壁溝か？			3	D4
56		溝もしくは凹み		下部に鉄の沈殿層あり	1	E4
57		ピット	茶色土		3	E3
58		溝	灰茶色砂（黒灰色砂）		1	E4
59		溝	黒茶色土		1	E4
60	111SB060	建物			3	D3
61		ピット		S-61→S-58（ほぼ同一埋土）	1	E4
62		ピット		S-62→S-59	1	E4
63		凹み	灰茶色土		1	E4

Tab.8-2　大宰府条坊跡第111次調査　遺構番号台帳

64		土坑		水平状況で層の堆積あり（埋められた）	1	E5
65						
66		石積み遺構	茶黒色土		1	D2
67		ピット群		S-67→S-4	1	D7
68		ピット群			1	B1
69		凹み			3	G6
70						
71		凹み	茶黒色土		3	G6
72		ピット		S-72→S-71	3	G5
73		ピット		S-1→S-73	1	B3
74		土坑			1	B6
75						
76		凹み		S-69→S-76	3	G5
77		凹み			3	G5
78		ピット群	茶黄色土		2	D6
79		凹み	茶黄色土		2	C6
80						
81		ピット群	茶黄色土		2	C6
82		凹み	黒色土・黄色土		2	D3
83		ピット	黄色土		2	B2
84		凹み	黒色土　S-82黒色土と同様の状況にある		2	C2
85						
86		土坑			2	D7
87		凹み			2	C6
88		ピット	黄色土		2	C7
89		ピット	黄色土		2	E6
90						
91		ピット	黄色土		2	C8
92		ピット	黄色土		2	E8
93		凹み	橙茶色土		2	E5
94		凹み	黒色土		2	D5
95						
96		ピット群	黒茶色土		3	D2
97		ピット群	黒茶色土		3	D2
98		ピット群	黒茶色土		3	E7
99		土坑	黒茶色土		3	D7
100						
101		ピット群・凹み		S-137→S-101	3	D7
102		溝	黄色土		3	B2他
103		凹み	黒茶色土		3	E7
104		ピット群			3	D7
105						
106		ピット	黒茶色土		3	C7
107		ピット	黒茶色土		3	E7
108		土坑			3	D1
109		ピット群	黒茶色土		3	C2
110						
111		凹み			3	D2
112		凹み	茶黒色土		3	C3
113		凹み	茶黒色土		3	C3
114		凹み	茶黒色土【焼土片混入土】		3	B3
115						
116		ピット群	茶黒色土		3	D3
117		ピット		基底に炉壁をしく	3	D3
118		ピット群			3	E6
119		ピット群			3	C6
120						
121		凹み	茶黒色土		3	C6
122		溝	茶灰色砂質土		3	C6
123		土坑		I面からの継続遺構	3	E6
124		整地層か？			3	E6
125						
126		ピット		掘立建物柱穴か？	3	D6
127		土坑		111SK123遺構拡大に伴って改称.II面遺構として掘り下げる。	3	E7
128		ピット			3	C3
129		ピット群			3	D6
130						

Tab.8-3　大宰府条坊跡第111次調査　遺構番号台帳

131		凹み			3	C7
132		土坑		自然堆積	3	C5
133		ピット群			3	B4
134		ピット群			3	C4
135						
136		凹み	黄色土ブロック混入黒茶色土	S-136→S-40	3	D5
137		ピット群	黒茶色土	S-137→S-101	3	D6
138	111SB060	ピット		111SB060の柱穴、銭出土	3	E4
139	111SB060	ピット			3	E4
140						
141	111SB060	ピット群	茶色土		3	E4
142	111SB060	ピット	茶色土		3	E4
143	111SB060	ピット	茶色土		3	E4
144	111SB060	壁溝か？	S-35・30・40と同様の埋土		3	E4
145						
146	111SB060	ピット	黒茶色土		3	E3
147		ピット群			3	E5
148		ピット群	黒茶色土		3	E3
149		ピット群			3	E4
150						
151	111SB060	ピット群		111SB060の柱穴	3	D4
152		ピット群			3	D4
153		ピット群			3	F6
154		凹み	茶黒色土		3	F5
155						
156		土坑			3	G6
157	111SB060	ピット群		S-157（小ピット）→S-30	3	D4
158		土坑		S-158→S-156→S-10	3	G6他
159	111SB060	ピット群			3	E2
160						
161		ピット			3	E3
162	111SB060	主柱穴か？		S-162・S-157→S-30	3	D4
163	111SB060	ピット		S-163→S-40・45→S-139	3	E4
164		凹み	黒茶色土		3	E4
165						
166		土坑	黒茶色土		3	F6
167		ピット群	黒茶色土		3	F6
168		凹み	黄茶色土		3	F6
169		凹み	黒茶色土		3	F6
170						
171		ピット			3	E5
172		ピット群			3	E5
173		ピット群	焼土混入土		3	F7
174		溝	灰茶色土		3	F7
175						
176		ピット			3	F8
177		土坑	黒茶色土		3	H6

Tab.9-1　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-1

須恵器	蓋1、甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀;I-2（1）、III-1（1）、II-b（1）、I-1a（1）、IV(1)
	他器種；把手
須恵質土器	こね鉢×摺鉢
瓦質土器	火鉢、こね鉢、鍋
国産陶器	大甕［常滑］
中国陶器	鉢；II（1）
輸入須恵器	甕
金属製品	鉱滓、鉄釘
瓦類	破片
その他	焼土

S-1 茶色土

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
黒色土器B	椀
龍泉窯系青磁	椀；II-b（3）、III-2c（1）、IV（2）
土師質土器	盤
須恵質土器	こね鉢（東播系）、甕
瓦質土器	摺鉢、こね鉢
国産陶器	大甕［常滑］
白磁	椀；IV-1a（1）、IV-1（1）
	皿；VI-1（2）、IX（1）
青白磁	小椀（1）、破片（1）
中国陶器	他器種；盤 II（2）、F（2）
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋
瓦類	破片（格子）
その他	炭化物、焼土塊

S-1 赤褐色土

土師器	大坏a（イト）、坏a（イト）、小皿a×小皿b（イト）
国産陶器	甕
土製品	炉壁

S-1 黒茶色土

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿b（イト）
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）、II-b（2）、III（1）
	皿；I（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	こね鉢、摺鉢
国産陶器	大甕［常滑、備前］、摺鉢
白磁	椀；IV（2）、V（1）
	皿；IX-b（4）、VI-1（1）
	壷；破片
金属製品	鉄釘、五徳
石製品	滑石製品、砥石
瓦類	平瓦（格子）
その他	焼土塊、炭化物

S-1 石列

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a×b（イト）、小皿a
龍泉窯系青磁	香炉（1）
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	こね鉢、火鉢
瀬戸	天目茶碗、おろし皿
国産陶器	大甕［常滑］、摺鉢［備前III期］
白磁	椀；V-4b×c（1）
中国陶器	他器種；破片
金属製品	鉱滓、金具、鉄釘
瓦類	丸瓦
その他	焼土塊

S-1 石壁

土師器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；I-1（1）、III-2（1）
	皿；I（1）
高麗青磁	椀；III-1（1）
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	火鉢、こね鉢
国産陶器	甕［常滑］
青白磁	合子蓋（1）
金属製品	鉄釘

S-2

土師器	小皿a（イト）、小皿a×b
須恵質土器	破片
土製品	鋳型
石製品	黒曜石
その他	炭化物

S-3

土師器	小皿a、坏a（イト）
その他	鉱滓

S-4

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；II-b（2）、III-2c（1）
土師質土器	鍋？
須恵質土器	こね鉢（東播系）
白磁	椀；V-4b（1）
中国陶器	壷；VI
金属製品	鉄釘
石製品	破片（滑石）
瓦類	破片
その他	焼土塊

S-5

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	大甕
中国陶器	他器種；F（1）
金属製品	鉱滓、鉄釘
石製品	石鍋C群

S-6

土師器	供膳具
瓦質土器	破片
白磁	皿；IX（1）
金属製品	鉄釘

S-7

土師器	坏a（イト）
瓦質土器	こね鉢
金属製品	鉄塊
瓦類	破片（格子）

S-8

土師器	坏a（イト）
その他	鉄片、米、玉状鉱滓

S-9

土師器	坏a
瓦質土器	鍋
金属製品	鉄釘

S-10

土師器	坏a（イト）、小皿a×b
龍泉窯系青磁	椀；III-2c（1）
金属製品	鉄釘
その他	焼土塊

Tab.9-2　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-10 黒茶色土

土　師　器	坏a（イト）、小皿a×b
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
須恵質土器	こね鉢
中国陶器	盤II
金属製品	鉄釘
石　製　品	石鍋破片
瓦　　類	破片
そ　の　他	炭化物

S-10 黄色土

須　恵　器	坏c、高坏、蓋、甕
土　師　器	小皿a（イト）、坏a（イト）、甕
龍泉窯系青磁	椀；小椀（1）
同安窯系青磁	皿；I-1b（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	摺鉢、こね鉢
国産陶器	甕
白　　磁	皿；破片（1）、IX（2）
中国陶器	壷；把手（1）
	他器種；盤II、E（1）
金属製品	焼土塊、鉄釘
石　製　品	石鍋
瓦　　類	平瓦
そ　の　他	炭化物

S-10 灰色土

土　師　器	小皿a、坏a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	甕
土　製　品	炉壁
そ　の　他	炭化物

S-10 茶色土

土　師　器	坏a（イト）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢、甕
白　　磁	水注（1）
金属製品	鉱滓、鉄釘
土　製　品	鋳型？

S-10 青灰色砂

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）、I-1a（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
中国陶器	盤II
そ　の　他	焼土塊

S-11

土　師　器	小皿a
国産陶器	甕［常滑］
そ　の　他	焼土塊

S-12

須　恵　器	坏c
土　師　器	坏a（イト）、小皿
国産陶器	甕
中国陶器	他器種；F（1）
金属製品	鉱滓、鉄釘
そ　の　他	焼土塊、炭化物

S-13

土　師　器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；小椀（1）
瀬　　戸	おろし皿
白　　磁	椀；破片（1）

S-14

土　師　器	坏a（イト）

S-15

須　恵　器	蓋、甕
土　師　器	坏a（イト）、甑、小皿b（イト）、小皿a
黒色土器B	皿
龍泉窯系青磁	椀；IV（3）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢、火鉢
国産陶器	甕
白　　磁	椀；（枢府）（1）
	壷他；壷（1）
金属製品	鉄釘
土　製　品	瓦玉
石　製　品	石鍋B群
そ　の　他	焼土塊、炭化物

S-16

土　師　器	坏a
中国陶器	壷；破片（1）
金属製品	鉄釘
石　製　品	石鍋B群

S-17

須　恵　器	甕
土　師　器	小皿a、坏a（イト）
中国陶器	壷；破片（1）
金属製品	鉄釘
土　製　品	炉壁

S-18

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）、破片（1）
須恵質土器	こね鉢
そ　の　他	焼土塊

S-19

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）

S-20

土　師　器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-c（1）、II-b（S-15と接合）
金属製品	鉄破片
そ　の　他	焼土

S-21

土　師　器	小皿c、坏a（イト）、小皿a

S-22

土　師　器	小皿a、坏a（イト）
瓦質土器	こね鉢×摺鉢、甕
土　製　品	瓦玉

S-23

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿b（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）、II-b（1）
須恵質土器	甕（東播系）、こね鉢（東播系）
瓦質土器	こね鉢
白　　磁	椀；破片（1）
	皿；IX（1）
中国陶器	鉢；I-2b（1）
	他器種；D（2）、A（1）、盤II（1）
輸入須恵器	甕
金属製品	鉄釘
土　製　品	炉壁
石　製　品	円盤状石製品
そ　の　他	焼土塊

Tab.9-3　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-24

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
瓦器	破片
越州窯系青磁	椀；II-2（1）
龍泉窯系青磁	椀；小椀(1)、I-4(1)、I-4b(1)、II-b(1)、II-a(1)、破片(1)
	他器種；合子（1）
同安窯系青磁	椀；破片（1）
高麗青磁	椀；IV
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢（東播系）
国産陶器	甕
白磁	皿；IX-2b（1）、VI-1a（1）
中国陶器	鉢；I-2b（1）、I-2（5）
	他器種；E（5）
金属製品	鉱滓、鉄釘
石製品	砥石、滑石製品

S-25

金属製品	鉄釘

S-26

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；小椀×皿（1）
瓦質土器	こね鉢
白磁	合子身（1）
金属製品	鉱滓
その他	焼土塊

S-27

土師器	坏
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
瓦質土器	破片
金属製品	鉱滓
瓦類	破片

S-28

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
中国陶器	壷；破片（1）
土製品	鋳型破片
その他	焼土塊

S-29

土師器	小皿b（イト）、坏a（イト）
瓦質土器	火鉢、摺鉢
国産陶器	大甕［常滑］、摺鉢
中国陶器	他器種；E（1）、F（2）
金属製品	鉄釘
瓦類	平瓦（格子）、丸瓦（格子）

S-29 茶色土

土師器	坏a、小皿
瓦質土器	火鉢（脚付）、こね鉢
国産陶器	大甕
金属製品	板状金具

S-29 茶白色粘

土師器	坏a（イト）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢
金属製品	くさび、鉄釘
その他	焼土塊、鉄片、米、玉状鉱滓

S-29 黒茶色土

土師器	坏、煮沸具
瓦質土器	火鉢
瀬戸	天目茶碗
国産陶器	大甕
黒釉陶器	天目椀（1）
土製品	鋳型破片

S-30

須恵器	供膳具
土師器	小皿a（イト）、坏a、小皿c、煮沸具
黒色土器B	破片
金属製品	板状金具
土製品	鋳型破片
その他	焼土塊

S-31

須恵器	高坏（7c前半）

S-33

土師器	供膳具破片
瓦質土器	破片

S-34

土師器	坏a（イト）、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
須恵質土器	破片
国産陶器	大甕［常滑］
中国陶器	他器種；F（1）
金属製品	鉱滓
その他	焼土塊、炭化物

S-35

須恵器	甕×壺
土師器	小皿a、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）

S-36

須恵器	破片
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
須恵質土器	甕
国産陶器	甕
白磁	皿；IX-1b（1）
中国陶器	他器種；破片（1）、E（1）
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	鋳型破片
石製品	硯
瓦類	破片
その他	焼土塊

S-38

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	皿；I（1）
	他器種；壷（1）
白磁	壷他；破片（1）
金属製品	湯玉、鉄釘

S-39

須恵器	破片
土師器	坏、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（2）
	他器種；破片（1）
瓦質土器	破片
中国陶器	他器種；E（1）
その他	焼土塊、炭化物

S-41

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
瓦質土器	甕
国産陶器	甕
その他	焼土塊

S-42

土師器	小皿
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿；IX（1）
金属製品	板状金具、鉄塊

Tab.9-4　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-43

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
土師質土器	煮沸具
金属製品	鉱滓

S-44

土　師　器	坏、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	他器種；破片（1）
中国陶器	他器種；破片（1）
瓦　　類	破片（格子）

S-45

須　恵　器	甕
土　師　器	小皿a（イト）、坏a（イト）、煮沸具
龍泉窯系青磁	坏III-1（1）
土師質土器	火鉢？
白　　磁	壷他；壷（1）、破片（1）
金属製品	鉱滓

S-46

須　恵　器	甕×壷
土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
中国陶器	他器種；破片（1）
金属製品	鉱滓
土　製　品	土製玉？

S-48

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
黒釉陶器	天目椀（1）
金属製品	鉄塊

S-49

土　師　器	坏a
金属製品	鉄釘

S-51

須　恵　器	破片
土　師　器	小皿a×b（イト）、小皿a
金属製品	鉄塊
石　製　品	砥石

S-52

土　師　器	甕、坏a（イト）、小皿a（イト）
金属製品	銭貨

S-53

須　恵　器	坏
土　師　器	小皿
瓦　　類	破片

S-54

須　恵　器	甕
土　師　器	小皿a（イト）、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	甕
中国陶器	他器種；破片（2）、E（1）
石　製　品	砥石
瓦　　類	丸瓦（格子）

S-55

土　師　器	小皿a（イト）、坏a（イト）

S-56

土　師　器	小皿a（イト）、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（2）
白　　磁	椀；破片（1）
	皿；IX-c（1）
	壷他；破片（1）
金属製品	鉱滓

S-57

土　師　器	坏
瓦質土器	破片

S-58

土　師　器	坏a（イト）、小皿a
白　　磁	皿；IX-a（1）
金属製品	鉱滓

S-59

土　師　器	坏a（イト）、小皿a
瓦質土器	鉢
金属製品	鉄釘

S-61

土　師　器	坏a（イト）

S-62

土　師　器	供膳具

S-63

土　師　器	坏a
白　　磁	皿；破片（1）
金属製品	鉄釘

S-64

須　恵　器	坏c、壷、甕
土　師　器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	他器種；破片（2）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
国産陶器	甕
中国陶器	他器種；F（1）
黒釉陶器	天目椀（2）
金属製品	鉱滓、鉄釘
土　製　品	鋳型
石　製　品	滑石破片
そ　の　他	焼土塊

S-66 灰色土

須　恵　器	甕
土　師　器	小皿a、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；IV-ヵ（1）、破片（1）
青　　磁	皿（1）
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	甕
白　　磁	皿；IX-1（1）
	壷他；壷（1）
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
金属製品	鉱滓
石　製　品	滑石製石鍋破片
瓦　　類	平瓦

S-66 茶黒色土

須　恵　器	甕
土　師　器	手づくね土器、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）、破片（1）
青　　磁	小椀（3）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
国産陶器	大甕［常滑］
白　　磁	椀；V（1）
	皿；破片（1）
金属製品	鉱滓
瓦　　類	平瓦（格子）

S-67

土　師　器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
金属製品	鉱滓、鉄塊
石　製　品	滑石加工品

Tab.9-5　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-68

須恵器	高坏脚、坏蓋
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、椀c×皿c
龍泉窯系青磁	椀;II-a(1)、I-6c(1)、III-2c(1)、小椀III-2b(1)、II-b(1)
	皿；I(1)
	他器種；坏III-4b(1)
青磁	破片（1）
国産陶器	大甕
白磁	椀；IV-1a（1）、IV（1）、V（1）
	皿；IX-c（1）
青白磁	合子蓋（1）
輸入須恵器	甕
金属製品	湯玉、鉄塊、鉄釘
土製品	瓦玉
石製品	砥石

S-69

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
土師質土器	煮沸具
須恵質土器	こね鉢（東播系）
国産陶器	甕
金属製品	鉱滓
石製品	風字硯（滑石製）

S-71

土師器	小皿a（イト）
白磁	皿；IX（1）
石製品	鏡形加工品（滑石製）

S-72

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）

S-73

土師器	坏a（イト）、小皿a
須恵質土器	こね鉢（東播系）
中国陶器	盤II

S-74

土師器	坏a（イト）、小皿a
土師質土器	煮沸具
瓦質土器	こね鉢
白磁	皿；破片（1）
弥生土器	壺
金属製品	鉱滓

S-76

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
須恵質土器	こね鉢

S-77

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
金属製品	鉱滓
その他	焼土塊

S-78

土師器	供膳具
国産陶器	大甕
中国陶器	他器種；F（1）
金属製品	鉱滓
瓦類	軒丸瓦

S-79

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）

S-81

土師器	坏a、小皿a
土師質土器	煮沸具
石製品	滑石製石鍋
その他	炭化物

S-82 黄色土

土師器	坏a、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；I（1）
金属製品	鉱滓、鉄釘、板状金具
石製品	焼石

S-82 黒土

土師器	坏
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-83

土師器	坏a（イト）、小皿a

S-84

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	甕
白磁	椀；V-4b（1）
中国陶器	他器種；破片（1）、F（1）
金属製品	鉄釘

S-86

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	甕
中国陶器	他器種；破片（1）
金属製品	鉄塊
瓦類	平瓦（縄目）

S-87

土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
白磁	椀；VIII（1）
	壺他；小壺（1）
中国陶器	壺；IV-3b（1）
	他器種；盤II（2）
石製品	焼石、滑石破片
瓦類	軒丸瓦（巴文）

S-88

土師器	小皿a（イト）

S-89

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）

S-91

土師器	供膳具
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁

S-92

土師器	供膳具、煮沸具
その他	焼土、炭化物

S-93

土師器	小皿a（イト）、坏
金属製品	鉱滓

S-94

土師器	坏a（イト）
須恵質土器	破片

S-96

土師器	坏a（イト）、小皿b（油煙付着）

S-97

土師器	小皿a（イト）
その他	焼土塊

Tab.9-6　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

S-98

土　師　器	坏a、小皿a（イト）
石　製　品	滑石破片

S-99

土　師　器	小皿a（イト）、蓋（角閃石混入）
瓦 質 土 器	甕
金 属 製 品	鉱滓
そ　の　他	煤付着石

S-101

須　恵　器	壷a×c
土　師　器	供膳具

S-102

須　恵　器	皿×坏、壷×甕
土　師　器	坏a（イト）、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；I（1）、II-b（3）、I-4（1）
同安窯系青磁	椀；I-a（1）
高 麗 青 磁	象嵌；椀（西谷 III）（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
金 属 製 品	鉱滓
土　製　品	鋳型

S-103

須　恵　器	蓋、甕
土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	皿；I-1a（1）
同安窯系青磁	椀；I-b（1）
中 国 陶 器	甕；破片（1）
	他器種；盤 II（1）
土　製　品	鋳型
石　製　品	石鍋破片（煤付着）

S-104

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）
黒色土器B	破片
瓦　　器	供膳具
金 属 製 品	鉱滓
そ　の　他	焼土塊

S-106

須　恵　器	甕
土　師　器	甕

S-107

土　師　器	坏×小皿
瓦 質 土 器	甕
中 国 陶 器	他器種；E（1）
金 属 製 品	鉱滓

S-108

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿b
瓦　　器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
	他器種；壷（2）
瓦 質 土 器	こね鉢
国 産 陶 器	甕
白　　磁	皿；IX（1）
中 国 陶 器	甕；I（1）
	他器種；破片（1）、F（3）
金 属 製 品	鉱滓、鉄釘
石　製　品	破片（滑石）

S-109

土　師　器	坏×皿
金 属 製 品	鉱滓

S-111

土　師　器	坏a（イト）、小皿a（イト）

S-112

土　師　器	丸底坏（イト）、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
そ　の　他	焼土塊

S-113

須　恵　器	坏×皿
土　師　器	小皿a
金 属 製 品	鉄塊
そ　の　他	焼土塊

S-114

土　師　器	坏a（イト）
金 属 製 品	鉱滓
土　製　品	鋳型
そ　の　他	焼土塊

S-116

土　師　器	高坏脚、煮沸具、小皿a
龍泉窯系青磁	他器種；破片（1）
金 属 製 品	鉱滓

S-118

須　恵　器	甕
土　師　器	高台破片、小皿a（イト）、坏
龍泉窯系青磁	他器種；破片（1）
金 属 製 品	鉄釘
そ　の　他	焼土塊

S-119

土　師　器	高台破片、小皿a、坏a（イト）
瓦 質 土 器	こね鉢
中 国 陶 器	他器種；破片（1）
金 属 製 品	鉱滓
土　製　品	鋳型
石　製　品	石鍋破片

S-121

土　師　器	小皿a（イト）、坏a
金 属 製 品	金属破片、鉄釘

S-122

須　恵　器	甕、坏c、蓋3、坏a、蓋c
土　師　器	椀、甕a、坏a（イト）

S-123

土　師　器	坏a（イト）、煮沸具
青　　磁	破片（1）
瓦 質 土 器	破片、火鉢
中 国 陶 器	壷；VI
	他器種；破片（3）、A（1）
国 産 陶 器	甕
金 属 製 品	鉱滓、鉄塊
そ　の　他	焼土塊、炭化物

S-124

須　恵　器	鉢
土　師　器	供膳具
同安窯系青磁	椀；破片（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）

S-126

土　師　器	小皿
国 産 陶 器	甕

S-127

須　恵　器	蓋3、坏
土　師　器	坏a（イト）、小皿
瓦 質 土 器	摺鉢、甕
国 産 陶 器	甕
白　　磁	皿；IX-2（1）

Tab.9-7　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

中国陶器	他器種；破片（5）
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋
その他	炭化物

S-127 黄茶色土

土師器	小皿
瓦質土器	火鉢
金属製品	銭貨
その他	炭化物

S-127 黄色土

土師器	坏a（イト）、小皿a
土師質土器	鍋
中国陶器	他器種；破片（1）
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁
石製品	石鍋破片
その他	焼土塊

S-127 灰色砂質土

土師器	坏a（イト）
同安窯系青磁	椀；I-b（1）
瓦質土器	火鉢
中国陶器	他器種；破片（1）、F（1）

S-128

土師器	小皿a（イト）

S-129

土師器	煮沸具、坏
中国陶器	他器種；破片（1）

S-131

須恵器	蓋3、蓋c、高坏、甕a、坏c、壺
土師器	甕a、坏
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
金属製品	鉱滓（混入）

S-132

須恵器	高坏、甕
土師器	坏、小皿a（イト）
瓦器	椀
土製品	鋳型
石製品	砥石

S-133

須恵器	坏a
土師器	坏a（イト）、小皿a
瓦器	椀c
同安窯系青磁	椀；破片（1）
青磁	破片（1）
瓦質土器	破片
金属製品	鉱滓
石製品	滑石破片
その他	焼土塊

S-134

土師器	煮沸具、供膳具
瓦質土器	甕

S-136

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
黒色土器B	椀
土師質土器	こね鉢、煮沸具
白磁	壺他；破片（1）
中国陶器	他器種；破片（1）、E（1）
石製品	黒曜石

S-137

土師器	坏a、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；I（1）
中国陶器	他器種；A（1）
金属製品	鉱滓

S-138

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	破片
国産陶器	甕
中国陶器	鉢；I-2（1）
	他器種；破片（1）
金属製品	銭貨

S-139

土師器	小皿、坏

S-141

土師器	坏
金属製品	鉱滓

S-142

土師器	坏a

S-143

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
金属製品	鉱滓

S-144

須恵器	破片
土師器	坏
金属製品	鉄塊

S-146

土師器	甕、小皿a（イト）
金属製品	鉄塊

S-147

土師器	坏a（イト）、小皿a
金属製品	鉄塊、鉄釘

S-148

土師器	小皿a（イト）、坏
金属製品	鉱滓
その他	焼土塊

S-149

土師器	坏a（イト）
金属製品	鉄釘
土製品	鋳型

S-151

土師器	小皿a（イト）、坏

S-152

土師器	坏×皿
黒色土器B	破片

S-153

須恵器	小皿
土師器	坏×皿、小皿
須恵質土器	こね鉢（東播系）

S-154

須恵器	甕、蓋
土師器	坏a（イト）、坏c×皿c、小皿a（イト）
瓦器	破片
青磁	破片（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）
瓦質土器	破片

Tab.9-8　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

国産陶器	壺（1）、甕
白磁	碗他；破片（2）
中国陶器	他器種；破片（2）、E（1）
土製品	鋳型
瓦類	破片
その他	焼土塊、炭化物

S-156

須恵器	坏c、甕、壺、高坏
土師器	小皿a（イト）、皿a、坏a（イト）
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；II-b（2）、III（1）
	皿；I-3b（1）
須恵質土器	こね鉢（東播VI）
瓦質土器	火鉢
国産陶器	甕
白磁	椀；V-4×VIII（3）、破片（1）
	皿；IX（2）、IX-a（1）
	壺他；壺（1）、破片（3）
中国陶器	鉢；VI-2（1）
	他器種；A（1）、E（7）、F（1）、破片（4）
金属製品	鉱滓、鉄釘、刀子
土製品	鋳型
石製品	滑石破片
瓦類	平瓦
その他	焼土塊

S-157

土師器	坏a（イト）、鉢、小皿
黒色土器B	破片

S-158

須恵器	坏c、甕
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
同安窯系青磁	椀；II-b（2）、III-b（1）、破片（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系）、甕
瓦質土器	破片、甕
国産陶器	甕
白磁	皿；IX-b（1）
中国陶器	他器種；E（3）
黒釉陶器	壺（1）
金属製品	鉱滓、鉄塊、鉄釘
土製品	鋳型
石製品	滑石破片

S-159

須恵器	蓋c
土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
国産陶器	甕
中国陶器	他器種；E（1）
瓦類	平瓦（格子）

S-161

土師器	坏、小皿a
白磁	皿；IX（1）
金属製品	鉱滓

S-162

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）、I（1）
金属製品	鉱滓
その他	焼土塊

S-163

土師器	坏a（イト）

S-164

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）、鉢？
白磁	皿；破片（1）
金属製品	鉱滓

S-166

土師器	小皿a（イト）、坏
瓦器	椀
金属製品	鉱滓

S-167

須恵器	甕
土師器	坏a、小皿a（イト）、小皿b（イト）
土師質土器	煮沸具

S-168

須恵器	蓋、坏c、甕
土師器	鉢、椀
中国陶器	他器種；破片（1）
金属製品	鉄釘
その他	焼土塊

S-169

須恵器	坏
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
瓦質土器	甕

S-171

土師器	小皿a、坏

S-172

土師器	坏a
金属製品	鉱滓

S-173

土師器	供膳具
白磁	椀；IV-1a（1）

S-174

須恵器	坏c

S-176

須恵器	甕×壺
土師器	坏a

S-177

須恵器	甕、壺
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
青磁	破片（1）
須恵質土器	こね鉢（東播系？）
国産陶器	甕
白磁	椀；破片（2）
	壺他；壺（1）
中国陶器	他器種；E（3）
輸入須恵器	甕
金属製品	銭貨
その他	焼土塊

Z

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）、小皿b（イト）
黒色土器B	椀c2
龍泉窯系青磁	椀；小椀（1）、IV（2）
	他器種；破片（1）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢×摺鉢、火鉢
国産陶器	甕
中国陶器	他器種；C（1）、破片（1）
金属製品	鉄塊、鉄釘
土製品	炉壁？、鋳型
石製品	鏡形加工品（滑石製）
瓦類	平瓦（格子）、丸瓦（格子）
その他	焼土塊、炭化物

Tab.9-9　大宰府条坊跡第111次調査　遺物一覧表

黒茶色土

須恵器	甕a、高坏、蓋（7c代）、坏c（8c前半）、鉢a、蓋3
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、小皿b(イト)、椀c、甕a
黒色土器B	椀
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀;II (11)、破片 (11)、III (6)、I (4)、I-4 (3)、小椀I (2)
	III-2 (1)、II-b (29)、I-3 (4)、I-2 (3)
	皿；I (1)
	他器種;坏III (1)、壺 (11)、壷 (連弁あり、1)、壷 (8)
同安窯系青磁	椀；破片 (14)、I (4)
	皿；I-b (1)、I-1b (1)
青磁	破片 (6)
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢 (東播V、VI、VII、V×VI)
瓦質土器	こね鉢、甕、摺鉢、鍋
国産陶器	大甕［常滑］、甕 (1)
白磁	椀;IV-1b(1)、IV(6)、V(3)、II (1)、VIII (3)、VIII-2(1)
	V-4×VIII-1(2)、IX (1)、V-4 (2)、IV-1 (3)、破片 (24)
	皿;IX-b (2)、IX (14)、IX-1 (2)、VIII-2b (2)、IX-1c (1)
	II-1a (1)、IX-2b (3)、IV-2 (1)、破片(1)
	壷他；壷把手 (1)、破片 (7)、壷 (3)
青白磁	合子 (3)
中国陶器	壷；末分類壷 (1)
	鉢;I-1b (2)、IV-3 (1)、I-2a (1)、VI (1)、破片 (1)
	他器種;A (7)、A'(3)、盤II-b (1)、B(1)、F (15)、E (23)
	盤 I-2 (2)、D (2)、破片 (37)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
黒釉陶器	破片 (6)
金属製品	銭貨、鉱滓、鉄釘、くさび
土製品	鋳型、瓦玉、紡錘車、炉壁
石製品	石鍋B群、砥石
瓦類	丸瓦 (縄目)、平瓦 (縄目、格子)
その他	炭化物、焼土塊

黄色土

須恵器	壷、甕、蓋c、坏c、供膳具、蓋（7c代）、坏身、鉢a3
	坏、高坏、蓋3
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿b（イト）、器台
	蓋c、煮沸具、甕、小皿c（穿孔あり）
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c2
瓦器	椀
越州窯系青磁	椀；II-2 (1)
龍泉窯系青磁	椀;I×II (1)、I (9)、I-2 (1)、III-2c (5)、II (5)、II-b (17)
	小椀III (1)、I-1b (1)、III (2)、I-1a (1)、IV-5 (4)、IV-
	破片(6)
	皿；破片 (2)
	他器種；小壷 (1)、坏III-1a (1)、破片 (12)
同安窯系青磁	椀；I-a (1)、I-b (1)、破片 (6)
	皿；I (1)
青磁	破片 (1)
土師質土器	こね鉢、火鉢、鍋
須恵質土器	こね鉢 (東播V、V×VI、VI、VII)、甕 (東播系)
瓦質土器	火鉢、こね鉢、摺鉢、甕 (東播模倣)
瀬戸	おろし皿 (1)
国産陶器	大甕［常滑］
白磁	椀;V (4)、II (1)、V-4b (2)、V-4b×c (1)、VIII (1)
	IV (6)、IV-1a (1)、IV-1 (1)、IV-a (1)、破片(15)
	皿;IX-c (2)、IX-a (1)、IX-1 (3)、IX (3)、VI-1 (1)
	VI-2 (1)、IX-2 (4)、IX-b (2)、破片(3)
	壷他；四耳壷 III-2 (1)、破片 (7)
青白磁	合子 (2)、壷 (2)、破片 (1)
染付（輸入）	皿C群I (1)
中国陶器	壷；IV-3 (1)、耳壷、II (1)
	鉢；II (1)、I-1a (1)、IV-3 (1)、I-2 (7)
	甕；III (3)、I (2)
	他器種;A (5)、A' (4)、E (19)、小盤II-1a (1)、F (11)
	破片 (50)
輸入須恵器	甕
黒釉陶器	破片 (3)、天目椀 (1)
金属製品	鉱滓、金具、鉄釘、銭貨
土製品	鋳型、瓦玉、炉壁、土錘
石製品	砥石、石鍋B群、滑石製加工品、黒曜石
瓦類	丸瓦（格子）、平瓦（縄目）
その他	焼土塊、炭化物

茶色土

須恵器	壷3、甕
土師器	坏a（イト）、小皿a、坏c×皿c（XII期以降）
龍泉窯系青磁	椀；III (1)、破片 (4)
土師質土器	鉢、鍋
須恵質土器	こね鉢（東播VI）
瓦質土器	火鉢
白磁	椀；破片 (2)
	皿；X-1 (1)
中国陶器	壷；耳壷 (1)
	他器種；A' (2)、E (4)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器 (1)
土製品	鋳型
石製品	滑石破片、石鍋
瓦類	破片
その他	焼土塊

灰色砂土

須恵器	甕、坏、壷f
土師器	小壷、小皿a、甕、椀c
黒色土器B	椀c
瓦質土器	鉢
国産陶器	甕
白磁	椀；II-5 (1)、破片 (1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器 (1)
瓦類	丸瓦（格子）

茶褐色土

須恵器	甕、蓋、坏c
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿b（イト）、小皿c
	甕a、椀c、蓋3（丹塗り）
龍泉窯系青磁	椀;I-1b (1)、I-2 (1)、I-6c (1)、東口椀II-b (1)、II-b (11)
	III (2)、I×II (3)、IV-1 (1)、IV-2 (1)、I-6a (1)、I (3)
	III-2c (1)、IV (3)、破片 (18)
	皿；I (3)、破片(1)
	他器種；坏III-1 (1)、盤 (1)、破片 (3)、壷破片 (1)
同安窯系青磁	椀；I-b (2)
	皿；II-b (1)
	他器種；破片 (1)
青磁	椀 (1)
須恵質土器	こね鉢（東播V、VI、VII）
瓦質土器	甕、火鉢、こね鉢、摺鉢
瀬戸	おろし皿 (4)
国産陶器	摺鉢［備前］III、大甕［常滑］、摺鉢、近世陶器
国産磁器	近世磁器
白磁	椀;VIII (2)、V-4×VIII-1 (1)、IV-1a (1)、小椀 (1)
	IV (3)、II (1)、破片 (18)
	皿；IX-1 (2)、IX (4)、IX-c (2)、III (2)、VI (1)
	IX-2a (1)、IX-2 (1)、破片 (3)
	壷他；小壷 (1)、壷 (1)、破片 (10)
青白磁	小椀 (1)、壷 (1)、森田B椀 (1)
中国陶器	壷；IV-3 (1)、破片 (6)
	甕；I (3)、破片 (1)
	他器種；F (17)、E (4)、A (1)、破片 (23)
黒釉陶器	天目椀 (4)、壷 (1)、破片 (9)
金属製品	刀子、紡錘車、鉱滓、鋳型、鉄釘、銭貨、鉄塊
土製品	瓦玉
石製品	石鍋B群、黒曜石、棒状石製品（滑石製）、硯、砥石
瓦類	破片（縄目、格子）
その他	焼土塊

Tab.10-1　大宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

S-1

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		11.2	2.4	7.4		
		イト	2	a-002		11.6	2.4	7.8		
	小皿a	イト	1	a-001		7.8	1.1	7.2		
		イト	2	a-002		7.8	0.9	7.2		
		イト	3	a-003		8.0	1.4	6.0		

S-1 石列

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.8	1.5	6.0		

S-1 赤褐土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		13.2	2.8	8.8		

S-1 黒茶土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		7.4	1.2	6.2		
	小皿b	イト	1	b-001		7.4	1.9	4.8		
		イト	2	b-002		7.2	1.9	4.8		
		イト	3	b-003		7.4	2.1	5.1		
		イト	4	b-004		7.4	1.8	4.8		
		イト	5	b-005		7.2	1.7	4.2		

S-1 茶色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a		1	a-001		12.0	2.7	7.6		
			2	a-002		12.0	2.4	8.0		
	小皿a	イト	1	a-001		8.6	1.15	6.2		
		イト	2	a-002		7.8	1.1	6.0		
			3	a-003		8.0	1.1	6.2		

S-2

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		11.6	2.7	6.2		
	小皿a	イト	1	a-001		8.4	1.35	6.2		

S-3

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	1	a-001		8.0	1.1	6.6		

S-4

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	1	a-001		10.4	2.35	7.0		
	小皿a	1	a-001		8.0	1.1	6.4		

S-5

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		7.4	1.1	5.8		

S-10 青色砂

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	—	1	a-001		12.4	2.3	8.0		
	小皿a	イト	1	a-001		7.2	1.2	4.8		
		イト	2	a-002		7.2	1.5	5.2		
		イト	3	a-003		8.0	0.9	6.0		

S-10 灰土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.0	1.2	5.6		

S-10 黒茶色土

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	1	a-001		11.6	2.9	6.4		
		2	a-002		12.4	3.0	8.2		

S-10 黄色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a		1	a-001		12.0	2.6	7.4		
			2	a-002		12.6	2.8	7.0		
	小皿a	イト	1	a-001		7.3	1.1	5.2		
		イト	2	a-002		7.3	1.4	6.0		
		イト	3	a-003		7.3	1.1	5.7		
		イト	4	a-004		7.5	1.4	5.0		
		イト	5	a-005		8.1	1.6	5.2		
		イト	6	a-006		7.6	1.5	5.9		
		イト	7	a-007		7.5	1.3	5.4		
		イト	8	a-008		7.2	1.4	5.0		
		イト	9	a-009		7.8	1.1	5.8		
		イト	10	a-010		7.5	1.1	6.0		
		イト	11	a-011		7.5	1.0	5.0		
		イト	12	a-012		7.4	1.0	5.3		
		イト	13	a-013		7.6	0.8	5.8		
		イト	14	a-014		8.4	1.3	6.2		
		イト	15	a-015		7.8	1.1	6.1		
		イト	16	a-016		7.4	1.4	5.2		
		イト	17	a-017		7.7	1.2	6.0		
		イト	18	a-018		7.8	1.0	6.4		
			19	a-019		7.4	1.0	5.4		
			20	a-020		9.6	1.3	7.6		

S-10 茶色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		11.8	2.5	7.5		○
		イト	2	a-002		11.6	3.1	7.3		○

S-10

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	2.7	7.2		○

S-11

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.4	1.4	6.2		

S-15

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a		1	a-001		11.9	2.5	7.4		
	小皿a	イト	1	a-001		7.0	1.3	4.6		
	小皿b		1	b-001		7.6	1.4	5.0		

S-18

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.0	1.3	6.4		

S-20

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	1	a-001		12.0	2.5	8.0		
		2	a-002		12.0	3.3	7.6		

S-21

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.4	3.2	7.2		
	小皿a		1	a-001		7.8	1.1	6.2		
	皿c	—	1	c-001		11.8	2.3	7.2		

Tab.10-2　大宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

S-22

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.6	3.1	8.2		
	小皿a	イト	1	a-001		7.8	1.3	5.2		

S-23

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	3.1	7.0		
		イト	2	a-002		13.0	2.0	10.8		
		イト	3	a-003		12.0	2.6	8.0		
		イト	4	a-004		11.4	3.1	8.6		○
		イト	5	a-005		12.2	2.8	8.0		○
		イト	6	a-006		12.6	2.6	9.0		—
		イト	7	a-007		12.0	2.1	8.0		
	小皿a	イト	1	a-001		7.4	0.8	5.6		○
		イト	2	a-002		8.0	0.8	5.8		
		イト	3	a-003		8.2	1.5	6.8		
	小皿b		1	b-001		7.8	1.7	5.5	—	○

S-24

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.8	3.0	9.0		
		イト	2	a-002		12.4	2.9	7.2		○
		イト	3	a-003		10.0	2.7	6.5		
		イト	4	a-004		12.3	2.7	8.0		○
		イト	5	a-005		11.3	2.1	8.0		○
	小皿a	イト	1	a-001		9.2	1.1	7.4		
		イト	2	a-002		8.2	1.0	6.0		
		イト	3	a-003		7.6	1.1	4.4		
		イト	4	a-004		8.2	1.2	6.2		
		イト	5	a-005		8.0	1.2	6.4		
		イト	6	a-006		8.0	1.5	5.8		
		イト	7	a-007		8.0	1.0	6.4		

S-26

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b	イト	1	b-001		6.1	1.5	4.4		○

S-29

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b		1	b-001		7.8	1.9	4.9		

S-30

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.6	1.5	6.0		

S-38

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		10.2	2.6	6.4	—	—
	小皿a	—	1	a-001		9.0	1.3	7.0	—	—
		—	2	a-002		8.8	1.4	6.6	—	—

S-41

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	2.4	7.0	—	○
		イト	2	a-002		11.8	2.0	8.0	—	—
	小皿a	イト	1	a-001		8.2	1.4	6.0	○	—
		イト	2	a-002		8.0	1.0	6.2	—	—
		—	3	a-003		8.4	0.9	6.8	—	—
		イト	4	a-004		8.4	1.0	6.7	○	○
		イト	5	a-005		8.3	1.1	6.8	○	—
		—	6	a-006		8.1	1.0	6.5	—	○

S-43

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		11.6	2.4	8.0	○	—
	小皿a	イト	1	a-001		9.6	1.0	8.0	—	—
		イト	2	a-002		8.0	0.8	7.0	—	—
		イト	3	a-003		7.6	1.0	6.2	○	—
		イト	4	a-004		7.8	1.3	5.6	○	○
		イト	5	a-005		8.1	1.2	6.3	—	—
		—	6	a-006		7.8	1.1	6.6	—	○

S-45

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.4	1.2	6.0		○

S-48

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	—	1	a-001		12.4	2.3	8.8	—	—
		イト	2	a-002		12.2	2.8	8.0	—	○
		イト	3	a-003		11.6	2.7	8.0	—	○
	小皿a	イト	1	a-001		8.8	1.2	7.4	—	—
		イト	2	a-002		8.5	1.2	6.0	—	—

S-52

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		11.6	2.2	7.8		

S-54

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a		1	a-001		7.6	1.1	5.7		

S-58

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	2.4	8.0	—	—
		—	2	a-002		13.2	3.0	8.4	—	—

S-59

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	—	1	a-001		7.8	1.3	6.6	—	—

S-66 灰色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	2.4	8.4	—	—

S-68

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		10.8	2.2	6.2	—	○
	小皿a	イト	1	a-001		7.0	1.1	5.4	—	×
		イト	2	a-002		8.8	1.4	6.1	—	○

S-69

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	3.1	7.0	—	—
		イト	2	a-002		12.8	2.5	8.5	—	×
		イト	3	a-003		12.9	2.4	9.0	—	×

S-71

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	イト	1	a-001		8.4	1.1	6.0	—	—
		イト	2	a-002		8.6	1.0	6.8	—	—

S-72

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.6	2.5	7.7	○	○
		イト	2	a-002		12.0	2.6	8.2	—	—
	小皿a	イト	1	a-001		8.2	1.2	6.0	—	—

Tab.10-3　大宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

S-73

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a —	1	a-001		7.4	1.2	5.0	—	○

S-74

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		12.2	2.5	8.0	—	—
	—	2	a-002		11.2	2.9	7.0	—	—

S-76

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		13.4	2.7	9.8	—	○
	小皿a イト	1	a-001		7.5	1.3	5.1	○	○

S-77

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.8	0.9	6.0	—	—
	イト	2	a-002		7.8	1.0	5.8	—	—
	イト	3	a-003		8.0	1.2	6.0	—	—

S-79

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		12.0	2.9	7.5	—	—
	小皿a イト	1	a-001		7.0	1.4	5.4	—	—

S-82 黄色土

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.6	1.2	5.0	—	○

S-84

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.6	1.2	5.3	○	○
	イト	2	a-002		7.3	1.4	5.1	—	—
	イト	3	a-003		6.7	1.6	5.3	—	○

S-86

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		13.0	2.5	8.5	—	○
	イト	2	a-002		11.8	2.4	8.3	—	—
	小皿a イト	1	a-001		8.2	1.1	7.2	—	—

S-94

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		10.2	2.4	6.0	○	○

S-96

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b —	1	b-001		8.4	2.4	5.6	—	—

S-98

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		8.0	1.3	6.3	○	○

S-102

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a —	1	a-001		8.8	1.2	6.6	—	○

S-103

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		12.0	1.9	9.0	—	○

S-108

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		11.8	2.2	7.8	—	—
	小皿a イト	1	a-001		8.2	1.3	6.0	—	×
	—	2	a-002		8.2	1.2	6.4	—	○

S-111

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		8.2	1.7	5.3	—	○

S-127

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		12.0	3.3	7.2	—	—

S-127 灰色砂土

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		11.8	2.7	7.4	—	—

S-128

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.9	1.2	6.0	—	—

S-136

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		11.8	2.5	7.4	—	○
	イト	2	a-002		12.6	2.5	8.4	—	—
	小皿a イト	1	a-001		7.6	1.1	6.0	—	—

S-142

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		11.4	2.8	7.4	—	—

S-154

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		11.8	2.5	9.4	—	○
	小皿a イト	1	a-001		8.0	0.9	6.0	—	—

S-158

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		13.6	2.7	8.0	—	—

S-164

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.7	1.2	5.0	—	—

S-166

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a イト	1	a-001		7.8	0.9	6.4	—	—

S-167

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		10.2	2.5	6.4	—	—
	小皿a イト	1	a-001		8.0	1.2	6.0	—	—

S-169

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		11.2	2.8	6.0	—	—

S-171

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a —	1	a-001		8.2	1.3	6.0	—	○

Tab.10-4　大宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

S-177

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.0	2.5	7.6	○	
		イト	2	a-002		12.2	2.4	8.4	○	○
	小皿a	—	1	a-001		9.8	1.0	7.8	—	—

黒茶色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	—	1	a-001		11.2	2.8	6.0	—	—
		イト	2	a-002		12.2	2.9	7.8	○	—
		イト	3	a-003		12.0	2.9	8.0	—	—
		—	4	a-004		12.6	2.7	7.8	—	○
		イト	5	a-005		12.2	3.0	9.0	—	○
		—	6	a-006		12.4	3.0	7.9	—	○
		イト	7	a-007		13.6	3.2	8.3	—	○
		—	8	a-008		12.4	2.7	8.0	—	—
		—	9	a-009		12.0	2.5	7.6	—	—
		イト	10	a-010		11.8	2.3	8.0	—	—
	小皿a	イト	1	a-001		7.6	1.0	5.8	○	—
		イト	2	a-002		8.8	1.3	7.0	—	—
		イト	3	a-003		8.0	1.4	5.6	—	—
		イト	4	a-004		8.0	1.2	6.0	—	—
		イト	5	a-005		8.2	1.1	6.2	○	○
		イト	6	a-006		8.0	1.4	5.9	○	○
		イト	7	a-007		8.2	1.1	7.4	—	○
		イト	8	a-008		8.0	1.0	6.2	—	○
		イト	9	a-009		7.5	1.3	5.0	—	○
		イト	10	a-010		7.5	1.2	5.5	—	○
		イト	11	a-011		7.4	1.2	5.4	—	—
		イト	12	a-012		7.8	1.1	6.2	—	—
		イト	13	a-013		7.4	1.0	6.0	○	○
		イト	14	a-014		8.1	1.6	5.9	—	—
		イト	15	a-015		7.8	1.0	6.2	○	—
		イト	16	a-016		9.0	1.3	7.8	—	—
		イト	17	a-017		7.8	1.4	5.4	—	○
		イト	18	a-018		7.8	1.2	5.6	—	—
		イト	19	a-019		7.8	1.0	6.0	—	○
		イト	20	a-020		7.4	1.2	5.8	—	—
		イト	21	a-021		7.7	1.4	5.4	—	○
		イト	22	a-022		7.8	1.4	5.7	○	×
		—	23	a-023		6.4	1.5	5.2	—	—
		—	24	a-024		8.4	1.1	6.6	—	—
		—	25	a-025		7.4	0.9	5.2	—	○
		—	26	a-026		8.2	1.0	5.4	—	—
		イト	27	a-027		7.0	1.2	5.0	○	×
	小皿b	イト	1	b-001		7.4	1.6	5.0	—	—
		—	2	b-002		7.4	1.8	4.5	—	○
		—	3	b-003		8.0	2.0	5.0	—	○
		イト	4	b-004		7.4	1.75	5.4	○	—

黄色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イト	1	a-001		12.2	3.2	7.5	—	—
		イト	2	a-002		11.2	2.0	6.8	—	○
		イト	3	a-003		12.0	2.7	8.2	○	○
		イト	4	a-004		12.4	2.9	8.2	—	—
		イト	5	a-005		11.6	2.9	8.6	—	○
		イト	6	a-006		12.8	3.0	7.5	—	○
		イト	7	a-007		12.2	3.0	7.5	—	○
		イト	8	a-008		11.6	3.0	7.0	—	○
		イト	9	a-009		12.2	3.0	7.1	—	○
		—	10	a-010		15.0	2.3	10.4	—	○
		イト	11	a-011		11.8	2.8	7.6	—	—
		イト	12	a-012		11.4	2.4	7.0	—	○
		イト	13	a-013		11.8	2.4	8.9	—	—
土	坏a	イト	14	a-014		11.8	2.6	7.8	—	×
		イト	15	a-015		11.4	3.1	8.1	○	—
		イト	16	a-016		11.4	3.4	6.4	—	×
		イト	17	a-017		11.0	2.2	7.0	○	—
		イト	18	a-018		11.8	2.4	9.0	—	○
		イト	19	a-019		12.1	2.8	8.0	—	×
		イト	20	a-020		11.8	2.5	7.0	—	×
		イト	21	a-021		13.4	2.5	10.0	○	—
	小皿a	イト	1	a-001		8.0	1.2	6.8	—	—
		—	2	a-002		7.8	1.1	6.3	—	—
		イト	3	a-003		7.8	1.5	5.4	—	—
		イト	4	a-004		8.0	1.2	6.4	—	×
		イト	5	a-005		7.8	1.2	4.8	—	×
		イト	6	a-006		8.0	0.7	6.0	—	—
		イト	7	a-007		8.6	1.1	6.6	—	—
		イト	8	a-008		7.0	1.3	4.6	—	—
		イト	9	a-009		8.4	1.1	7.2	—	—
		イト	10	a-010		7.6	1.1	5.1	—	○
		イト	11	a-011		8.1	1.4	6.6	—	○
		イト	12	a-012		9.0	0.8	6.9	○	○
		イト	13	a-013		7.2	0.9	6.4	—	○
		イト	14	a-014		7.8	1.0	5.3	—	○
		イト	15	a-015		7.8	1.2	6.0	○	—
		イト	16	a-016		7.8	0.8	6.4	○	○
		イト	17	a-017		8.0	1.2	7.0	—	×
		イト	18	a-018		7.7	1.2	5.3	—	○
		イト	19	a-019		8.4	1.1	7.0	○	○
		イト	20	a-020		8.2	1.0	6.4	○	○
		イト	21	a-021		6.7	1.4	4.6	—	○
		—	22	a-022		8.2	1.1	6.2	—	○
		イト	23	a-023		8.4	1.3	6.0	—	—
		イト	24	a-024		7.2	0.9	5.2	○	○
	小皿b	イト	1	b-001		6.4	2.0	4.0	○	○
		イト	2	b-002		6.4	1.8	4.0	—	○
		—	3	b-003		7.2	2.0	4.6	—	○
		イト	4	b-004		8.0	1.8	4.8	—	—

茶色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	—	1	a-001		12.0	2.4	8.2	—	—
	小皿a	—	1	a-001		8.0	1.2	6.4	—	—

茶褐色土

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	—	1	a-001		13.0	2.8	9.2	○	—
		イト	2	a-002		13.4	2.9	8.4	○	—
		イト	3	a-003		12.8	2.6	9.0	○	○
		—	4	a-004		12.2	3.1	7.2	—	—
		イト	5	a-005		12.4	3.1	15.0	—	○
		—	6	a-006		12.8	3.4	8.2	○	—
		—	7	a-007		11.0	2.5	7.0	—	—
		イト	8	a-008		12.0	3.0	8.2	—	—
		イト	9	a-009		14.6	2.9	10.6	—	—
		—	10	a-010		11.8	2.6	7.4	—	○
		イト	11	a-011		12.6	2.5	7.7	○	—
		イト	12	a-012		12.6	2.6	8.4	—	—
		イト	13	a-013		13.4	2.6	8.6	—	—
		イト	14	a-014		11.2	3.0	8.8	—	○
		イト	15	a-015		13.4	2.5	10.2	—	○
		—	16	a-016		12.2	3.6	8.0	—	—
		—	17	a-017		12.8	2.4	8.2	—	—
		イト	18	a-018		12.0	2.5	8.4	○	—
		—	19	a-019		13.4	2.6	8.6	—	—
	小皿a	—	1	a-001		7.4	1.1	5.2	—	○
		イト	2	a-002		7.8	1.5	5.2	—	○

Tab.10-5　大宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

土	小皿a	イト	3	a-003		8.4	1.4	5.7	○	—
		イト	4	a-004		7.8	1.1	5.8	—	—
		イト	5	a-005		8.6	1.5	6.2	○	○
		—	6	a-006		8.2	1.2	6.2	—	—
		—	7	a-007		7.8	1.3	5.6	—	—
		イト	8	a-008		8.0	1.2	6.0	○	—
		イト	9	a-009		8.0	1.0	6.2	○	○
		イト	10	a-010		8.0	1.3	5.2	○	○
		イト	11	a-011		8.0	1.2	6.2	—	○
		イト	12	a-012		7.7	1.4	6.0	○	—
		イト	13	a-013		8.4	1.3	6.0	—	—
	小皿b	—	1	b-001		6.8	1.6	4.6	—	—
		—	2	b-002		7.6	1.8	4.8	—	—
		イト	3	b-003		7.0	1.8	4.6	○	—
		イト	4	b-004		7.7	1.7	5.1	—	○
		—	5	b-005		7.6	1.6	4.5	—	—
		—	6	b-006		7.6	1.7	5.1	—	—

		イト	16	a-016		7.8	0.8	6.4	○	○
		イト	17	a-017		8.0	1.2	7.0	—	×
		イト	18	a-018		7.7	1.2	5.3	—	○
		イト	19	a-019		8.4	1.1	7.0	○	○
		イト	20	a-020		8.2	1.0	6.4	○	○
		イト	21	a-021		6.7	1.4	4.6	—	○
		—	22	a-022		8.2	1.1	6.2	—	○
		イト	23	a-023		8.4	1.3	6.0	—	—
		イト	24	a-024		7.2	0.9	5.2	○	○
	小皿b	イト	1	b-001		6.4	2.0	4.0	○	○
		イト	2	b-002		6.4	1.8	4.0	—	○
		—	3	b-003		7.2	2.0	4.6	—	○
		イト	4	b-004		8.0	1.8	4.8	—	—

Tab.10-6　太宰府条坊跡第111次調査　遺物計測表

111SB060 (S-36)

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イ-ト	1	a-001		11.7	2.9	7.4	—	○
		イ-ト	2	a-002		10.4	2.5	6.4	—	○
		イ-ト	3	a-003		11.8	3.0	7.4	—	×
		イ-ト	4	a-004		12.2	3.25	7.6	—	○
		イ-ト	5	a-005		12.7	3.2	8.6	○	○
		イ-ト	6	a-006		11.4	2.7	9.0	○	○
		イ-ト	7	a-007		12.0	2.7	8.6	○	—
		イ-ト	8	a-008		11.6	2.9	7.5	○	○
		イ-ト	9	a-009		12.2	2.3	8.0	○	○
		イ-ト	10	a-010		12.0	2.6	8.1	○	○
		イ-ト	11	a-011		11.6	3.0	6.3	○	—
		イ-ト	12	a-012		11.5	2.9	7.3	○	○
	小皿a	—	1	a-001		8.6	1.3	7.0	—	—
		イ-ト	2	a-002		9.2	1.2	7.0	—	—
		イ-ト	3	a-003		7.4	1.3	5.7	—	○
		イ-ト	4	a-004		8.0	1.2	5.4	○	○
		イ-ト	5	a-005		7.8	1.2	5.8	○	○
		イ-ト	6	a-006		7.6	1.1	6.0	○	—
		イ-ト	7	a-007		8.1	1.0	6.6	—	—
		イ-ト	8	a-008		7.5	1.1	5.5	—	○
		イ-ト	9	a-009		7.5	1.2	6.0	○	○
		イ-ト	10	a-010		8.1	1.3	6.5	○	○
	小皿b	イ-ト	1	b-001		6.8	1.7	4.4	○	○
		イ-ト	2	b-002		6.8	1.6	4.8	—	○

111SX036 (S-42)

種別	器種		番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	イ-ト	1	a-001		12.1	2.4	8.5	—	○
		—	2	a-002		12.3	3.0	8.0	—	—
		イ-ト	3	a-003		12.0	2.7	8.4	○	—
		イ-ト	4	a-004		12.5	2.6	8.7	—	○
		イ-ト	5	a-005		12.0	2.4	8.5	○	○
		イ-ト	6	a-006		12.4	2.5	8.8	○	○
		イ-ト	7	a-007		12.2	2.0	8.8	○	○
		イ-ト	8	a-008		11.8	2.3	8.0	—	○
		イ-ト	9	a-009		12.8	2.7	8.0	○	×
		イ-ト	10	a-010		11.8	2.6	7.6	—	×
		イ-ト	11	a-011		11.6	2.5	8.3	○	—
		イ-ト	12	a-012		12.4	2.0	8.4	○	×
		イ-ト	13	a-013		12.1	2.6	7.8	—	×
		イ-ト	14	a-014		12.2	2.4	8.0	○	○
		イ-ト	15	a-015		12.7	2.8	9.0	—	○
		イ-ト	16	a-016		12.0	2.4	8.4	—	○
		イ-ト	17	a-017		12.2	2.6	7.8	—	○
		イ-ト	18	a-018		12.2	2.1	7.8	—	○
		イ-ト	19	a-019		11.8	2.8	8.0	○	○
		イ-ト	20	a-020		12.0	2.7	8.0	○	○
		イ-ト	21	a-021		13.4	2.6	9.0	○	○
		イ-ト	22	a-022		12.2	2.3	8.3	○	—
		イ-ト	23	a-023		12.2	2.8	8.8	○	○
		イ-ト	24	a-024		15.3	3.4	11.0	—	×
		イ-ト	25	a-025		12.5	2.0	7.5	○	○
		イ-ト	26	a-026		11.8	2.1	8.6	○	×
		イ-ト	27	a-027		12.6	2.6	7.7	○	×
		イ-ト	28	a-028		11.6	2.5	8.0	—	○
		イ-ト	29	a-029		11.6	2.5	7.4	—	—
		イ-ト	30	a-030		12.0	3.1	8.2	○	○
		イ-ト	31	a-031		12.1	2.4	8.1	○	○
		イ-ト	32	a-032		12.2	2.5	8.8	—	—
		イ-ト	33	a-033		11.8	2.5	8.5	○	○
		イ-ト	34	a-034		12.1	2.4	8.4	○	×
		イ-ト	35	a-035		12.0	2.6	8.1	○	—
		イ-ト	36	a-036		11.2	2.3	7.6	○	○
		イ-ト	37	a-037		12.2	2.4	8.7	○	○
		イ-ト	38	a-038		11.9	2.3	8.4	—	○
		イ-ト	39	a-039		12.2	2.9	8.7	○	○
		イ-ト	40	a-040		12.2	2.6	8.0	—	×
		イ-ト	41	a-041		11.1	2.5	7.6	—	—
		イ-ト	42	a-042		12.0	2.2	7.9	○	○
		イ-ト	43	a-043		11.9	2.4	8.4	○	×
		イ-ト	44	a-044		12.1	2.6	8.5	○	○
		イ-ト	45	a-045		11.1	2.5	7.2	○	○
		イ-ト	46	a-046		12.0	2.8	7.9	—	—
		イ-ト	47	a-047		12.6	2.8	8.3	○	—
		イ-ト	48	a-048		11.6	2.8	7.8	○	○
		イ-ト	49	a-049		12.0	2.5	8.0	—	○
		イ-ト	50	a-050		11.8	2.2	8.1	○	—
		イ-ト	51	a-051		12.2	2.7	7.7	○	○
		イ-ト	52	a-052		11.4	2.9	7.7	—	○
		イ-ト	53	a-053		11.2	2.3	8.5	○	—
		イ-ト	54	a-054		12.2	2.6	8.6	○	○
		イ-ト	55	a-055		12.2	2.5	8.5	○	○
		イ-ト	56	a-056		12.4	2.4	8.0	○	—
		イ-ト	57	a-057		12.1	2.3	8.2	○	○
		イ-ト	58	a-058		12.3	2.3	9.0	—	○
		イ-ト	59	a-059		11.8	2.6	7.6	○	○
		イ-ト	60	a-060		12.0	2.7	7.5	○	○
土	坏a	イ-ト	61	a-061		11.6	3.0	8.6	—	—
		イ-ト	62	a-062		12.2	2.5	8.0	○	○
		イ-ト	63	a-063		12.2	2.7	7.6	—	○
		イ-ト	64	a-064		11.8	2.6	7.5	○	○
		イ-ト	65	a-065		12.1	2.3	7.6	—	○
		イ-ト	66	a-066		11.8	2.8	7.6	○	○
		イ-ト	67	a-067		10.8	2.3	7.7	○	×
		イ-ト	68	a-068		11.8	2.3	8.0	—	○
		イ-ト	69	a-069		12.0	2.5	7.8	—	○
		イ-ト	70	a-070		11.8	2.2	7.8	—	○
		イ-ト	71	a-071		11.0	2.7	7.7	—	○
		イ-ト	72	a-072		12.5	2.2	9.1	○	○
		イ-ト	73	a-073		12.6	2.4	8.3	—	×
		イ-ト	74	a-074		12.2	2.7	8.0	—	○
		イ-ト	75	a-075		12.0	2.2	9.4	—	—
		イ-ト	76	a-076		11.8	2.1	7.6	○	—
		イ-ト	77	a-077		12.0	2.4	8.0	○	○
		イ-ト	78	a-078		10.4	2.8	7.5	○	○
		イ-ト	79	a-079		11.9	2.7	7.7	○	○
		イ-ト	80	a-080		11.8	2.3	7.7	○	○
		イ-ト	81	a-081		11.6	2.4	8.0	○	○
		イ-ト	82	a-082		12.4	2.1	8.5	—	○
		イ-ト	83	a-083		12.3	2.3	8.3	○	○
		イ-ト	84	a-084		11.5	2.6	7.5	—	—
		イ-ト	85	a-085		12.2	2.5	9.0	—	○
		イ-ト	86	a-086		12.3	2.5	9.0	—	○
		イ-ト	87	a-087		12.5	2.4	8.4	○	×
		イ-ト	88	a-088		12.1	2.7	8.3	—	×
		イ-ト	89	a-089		12.4	2.5	8.7	○	○
		イ-ト	90	a-090		13.0	2.5	8.8	—	—
		イ-ト	91	a-091		11.2	2.1	8.4	—	○
		イ-ト	92	a-092		12.1	2.6	7.6	○	○
		イ-ト	93	a-093		12.4	3.0	8.5	—	○
		イ-ト	94	a-094		12.4	2.4	8.0	—	—
		イ-ト	95	a-095		12.5	2.5	9.2	—	×
		イ-ト	96	a-096		12.0	2.3	7.2	○	○
		イ-ト	97	a-097		13.4	2.1	8.0	—	—
		イ-ト	98	a-098		12.6	3.1	8.7	○	○
		イ-ト	99	a-099		12.5	2.6	8.1	○	×
		イ-ト	100	a-100		11.4	2.1	8.4	—	—
	小皿a	イ-ト	1	a-001		8.1	1.0	6.0	○	×
		イ-ト	2	a-002		8.6	1.1	6.4	—	×
		イ-ト	3	a-003		7.6	1.0	6.0	○	—
		イ-ト	4	a-004		8.0	1.2	6.4	○	○
		イ-ト	5	a-005		8.1	1.1	6.0	—	○
		イ-ト	6	a-006		7.8	1.1	5.5	○	×
		イ-ト	7	a-007		8.3	1.2	6.9	○	×
		イ-ト	8	a-008		8.3	1.2	6.8	○	—
		イ-ト	9	a-009		7.7	1.1	5.7	—	×
		イ-ト	10	a-010		7.7	1.1	6.0	—	○
		イ-ト	11	a-011		8.0	1.1	6.0	○	○
		イ-ト	12	a-012		8.0	1.4	5.6	—	—
		イ-ト	13	a-013		8.0	1.1	6.0	○	—
		イ-ト	14	a-014		7.4	1.2	5.6	○	×
		イ-ト	15	a-015		7.9	1.0	5.6	—	○
		イ-ト	16	a-016		7.6	1.1	5.5	○	×
		イ-ト	17	a-017		8.4	1.2	6.2	—	×
		イ-ト	18	a-018		8.4	1.1	6.2	○	○
		イ-ト	19	a-019		8.6	1.1	6.6	○	—
		イ-ト	20	a-020		7.5	1.2	5.4	○	○
		イ-ト	21	a-021		8.1	1.4	6.0	—	×
		イ-ト	22	a-022		7.7	1.1	5.7	—	×
		イ-ト	23	a-023		7.3	1.1	6.0	○	×
		—	24	a-024		7.8	1.3	6.0	—	—
		イ-ト	25	a-025		8.2	1.2	6.8	—	×
		—	26	a-026		8.6	1.2	7.0	—	—
		イ-ト	27	a-027		8.0	1.1	6.4	—	×
土	小皿a	イ-ト	28	a-028		7.6	1.2	6.0	—	○
		イ-ト	29	a-029		8.4	0.9	6.6	—	○
		イ-ト	30	a-030		7.7	1.0	5.9	—	○
		イ-ト	31	a-031		8.2	1.1	7.0	—	×
		イ-ト	32	a-032		8.6	1.2	6.4	—	○
		イ-ト	33	a-033		8.0	1.3	6.0	○	○
		イ-ト	34	a-034		7.4	1.2	6.1	○	×
		イ-ト	35	a-035		8.1	1.4	6.5	—	○
		イ-ト	36	a-036		8.9	1.1	7.0	○	○
		イ-ト	37	a-037		8.2	1.2	6.4	—	×
		イ-ト	38	a-038		7.4	1.3	5.5	—	×
		イ-ト	39	a-039		7.7	1.5	5.7	○	○
		イ-ト	40	a-040		7.8	1.4	5.6	—	○
		イ-ト	41	a-041		7.4	0.8	5.5	—	×
		イ-ト	42	a-042		8.6	1.3	6.5	○	○
		イ-ト	43	a-043		8.3	1.0	5.7	○	×
		イ-ト	44	a-044		8.4	1.2	6.2	○	○
		イ-ト	45	a-045		8.6	1.3	6.4	—	×
		イ-ト	46	a-046		8.1	1.1	6.3	○	○
		イ-ト	47	a-047		8.0	1.2	5.9	○	×
		イ-ト	48	a-048		7.8	1.0	6.0	○	×
		イ-ト	49	a-049		7.8	1.1	6.2	—	×
	小皿b	イ-ト	1	b-001		6.6	1.6	4.8	×	×

Tab.11-1　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♤
S-001	C3	I						83.9				105.8		165.9	189.4			
S-001黒茶色土	C3	I	106.6					266.5		226.4	2.3	270.1		1203.8	6208.8		183.2	
S-001黒茶色土	C4	I	76.6		0.9	225.1	181	1147.5		661.4	417.1	7682.2	4.1	4632.8	19988.6		3471.2	
S-001石塵	B5	I									128	1178.4						
S-001石列	B4	I										41.4						
S-001石列	B5	I	78.8					410.7				2657.6			37.6		67.6	
S-001赤褐色土	C4	I						2457.3		109.4	314.1	594		993	3708.7		89.3	
S-001茶土	C4	I	24.5	63.7			127.3	233.2	13.2	2923	1965.9	10699.2	18.1	2948.8	1261		1438.2	2.1
S-002	C2	I										33.8						
S-004	D7	I						30.2			25	251.7			56.1			
S-004	E7	I					53.8	53.8		252.1		187.7						
S-005	C5	I						83.9				9621.7	74.4	235.8				
S-006	D3	I	5.4			1.3		67.5		32.2	22.2	48.3	9.7		2.1			
S-007	D3	I					16.7	45		6.4	27.2	55.6						
S-008	D5	I						7.2			30.1			12.3	4			
S-009	D5	I										3						
S-010黄茶色土	G7	I	0.6					6.1		10.5		480.6					327.5	
S-010黄色土	G7	I	4.6			228.9	8.9	800.6		738.2	2063.3	13830.4		972.5	444.7	216.7	520.7	
S-010灰色土	G7	I						5.5				2040.1	9.1				596.7	
S-010黒茶色土	G7	I					29.1	99				842.7		111.9	166.8		31.8	
S-010青灰色砂	G7	I						6.3									265.1	
S-010茶色土	G7	I						188.9		3.3		368.6		93	2.9			
S-012	D5	I						55.5				3.4						
S-014	D7	I													93.3			
S-015	C4	I					7.9	45.3			5965.9	19314.9		5785.9	6188.8		6871.8	
S-017	C6	I												186.5			13.4	
S-018	H8	I						17.5				98.9						
S-019	I5	3						3.9			0.4	58.4		36.4	8.7			
S-020	D3	3				2.5												
S-021	I7	3										103.9						
S-022	I7	3						2						55.2	308.1			
S-023	I7	3				153.9	112.5	97.7				881.5					92.6	
S-023	I5	3						51.6			9.6	1065.8		68.1	15.5			
S-024	I6	3						31.7				58.5		28.4	6.4		9.8	
S-024	J6	3				23.1		343.7		28.5	17.3	730.5	3.4		12.9			
S-025	B3	3						86.1						2167.8	3904.8		43.1	
S-026	H5	3						24.6				0.4			1.2		13.2	
S-027	H7	I						101.7				180.5						
S-028	E9	I						16.5				58.4				5.1		
S-029	E6	I					11.3	307.8		398.1	166.5	15470.4		228.8	181.8		16.3	
S-029黒茶色土	E7	I						9.4				40.9				4.3		
S-029茶色土	E7	I	3.5					614.3			454.1	2767.6	0.1	28.4	11.8			
S-029茶白色粘	E7	I										11.8			5.8			
S-030	D4	3										5.9			7.9			
S-031	D8	I										18.5		157.1	18			
S-032	E9	I															2481.2	
S-033	C8	I						12.6				24.4			0.7			
S-034	D6	I										32.7						
S-036	I5	3									7.4	531.2						
S-036	J5	3						16				204.1		12.5	186.6			
S-038	E5	I	230.5		3.9			1044.6				27.7		56.5			3.6	
S-039	E2	3						3.2										
S-041	J6	3						21.8		8.4		27.5			0.8			
S-043	I6	3						21.1				23.1						
S-045	E4	3			3.5			2.8				14.1						
S-046	G6	1						160.4			230.2	48.7						
S-049	E3	3										15.8						
S-051	E3	3										10						
S-052	E3	3						4.8										
S-053	E3	3						23.2				84.1			4.2			

Tab.11-2　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♣	▽	▼	◎	＋	◇
S-054	E4	1						213.1		108.5	11.3							
S-056	E4	3						280.8			12.4	13		38.1				
S-058	E4	1						14.2			9.7	134.7		32.3	73.7			
S-059	E4	1						36.7				117.8			32			
S-061	E4	1						6.3		8.5								
S-062	E4	1					1.9	5.3			4.8				11.1		10.7	
S-064	E5	1	10.3					1200.5				6.4		1.9	20	197.9		
S-064	E6	1					34.6	500				143.3			30.8	92.7	3.8	
S-066灰色土	D3	1						50.6			3.4	851.8		80.5				
S-066茶黒色土	B2	1						15.8				2360.9			24.4		1904.3	
S-067	D7	1						61.7				18						
S-067	E7	1										97.8			2.1	1.7		
S-068	B1	1						83.9		17.9	3.5	471.2		17.3	302.4	5		
S-069	G6	3						19				662.6		32.8	4.3		189	
S-071	G6	3	8.5															
S-072	G5	3													11.2			
S-074	B6	1						492.7		5.7		179.4		65.4	12.7		21.3	
S-077	G5	3						1.4				13.5		522.8	4			
S-078	D6	2						5.3										
S-079	C6	2						66.9				52						
S-081	C6	2						0.1				11.1						
S-082黄色土	D3	2									5.9		0.6	68.7				
S-082黒色土	D3	2						5.8				4				10		
S-084	C2	2						46.1				167.1	1.1					
S-086	D7	2								40.1		775.1		61.7	4.5		29.6	
S-089	E6	2										75.7			1.8			
S-091	C8	2						41		134.8								
S-092	E8	2										313					20.7	
S-093	E5	2						3.6				20.5						
S-094	D5	2												43.1				
S-096	B2	3						4.4				3.5	13.9					
S-097	B2	3										44.1						
S-098	E7	3						3.4				30.6			120		2	
S-099	D7	3					9.6	9.5									31.6	
S-102	B2	3						11.5		26.6		14.4		10.6		12.5		
S-103	E7	3						409.6				83		14.8		16.6		
S-104	D7	3										56.8						
S-107	E7	3										16.9						
S-108	D1	3	0.7	0.6			6.8	154.4				40.1		325.6	30.6	14.6		
S-109	C2	3										2.9						
S-113	C3	3						122.2										
S-114	B3	3					8.3							1047.3	490.4	17.8		
S-115	C4	3	4															
S-116	D3	3						1			931.3	15.5						
S-117	D3	3	5					128			29.6	32.9			5.4			
S-118	E6	3						3.3			4.5	27.6			149.6			
S-119	C6	3						43.7				6.2				0.6		
S-122	C6	3					18.1	30.8										
S-123	E6	3	125.5					731		16.3	808.2	5632.3	2.7	503	36.1		194.6	
S-124	E6	3	3.2									30.2						
S-126	D6	3												76.3	111.3			
S-127	E4	3						154.8										
S-127	E6	3						9.4		34.6		11.8	0.2					
S-127	E7	3					2.5	52.2	25.3	80.9	83.9	1040.3		241.1	1.5		27.6	
S-127黄色土	E6	3						29.1			12.1	142.8						
S-127灰色砂土	E6	3										369					20.3	
S-131	C7	3					26.7			11.6								
S-132	C5	3						117.6				79.6			1.3	81.3		
S-133	B4	3										2.9						

Tab.11-3　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量 (g)															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♣	▽	▼	◎	＋	♤
S-136	D5	3						3.1										
S-137	D6	3						8.3				3						
S-138	E4	3					12.5	14.4										
S-139	E4	3					1.4					9.1	1.4					
S-141	E4	3						14.2										
S-143	E4	3										9					19.5	
S-144	E4	3						3.7										
S-146	E3	3						2.8							1.1			
S-147	E5	3											13.3					
S-148	E3	3						5.2				8.6						
S-149	E4	3						174.5				12.3			3.3	1.7		
S-154	F5	3						93.5				16.9		10.1		14.3		
S-154	F6	3										20.4					6.4	
S-156	G6	3	24.1		11.3			67		189.5	16.5	1797.7		20.6	187.8	12.3	18.3	
S-158	G6	3						12.7		78.5		653.8		53.9	3.7	2.6	8.3	
S-158	G7	3										37.7						
S-162	D4	3										0.7						
S-164	E4	3										44.1						
S-166	F6	3						21				7.6		53.2				
S-167	F6	3						3.2										
S-168	F6	3						1.5			7.3							
S-172	E5	3						0.9				37.8			35.4			
S-173	F7	3						2.9							247.2			
S-177	H6	3										172.2		30.9			57.9	
黄色土	B4	2	108.7				13.5	189.5				509.3	0.3	0.1	345.5	4.9	39.7	
黄色土	B5	2	2.4									55.5						
黄色土	C4	2						15.5										
黄色土	C5	2	21.6				10					159.1		14.8	74.3		109.7	
黄色土	C8	2						3				13.1			9.2	3.8		
黄色土	D7	2														27.5		
黄色土	E4	2	1.3				13.9	1.1				16.8			15.1			
黄色土	E6	2						32.8				52.2						
黄色土	G6	2					32.8	73.7			11.2	1279.9	5.4	232.8	107		899.2	
黒茶色土	B2	3										751.9			0.7			
黒茶色土	C4	3	49.5					168.4		36.8		50.3						
黒茶色土	G5	3						1.7				3.6						
黒茶色土	G6	3					6	6.8				189				5.5		
茶褐色土	B4	1										37.4						
茶褐色土	B5	1	59.5					124.6				242.4		41.4	90.5	21.6		
茶褐色土	B7	1										12.1						
茶褐色土	C2	1	26.5				101.3	151.5				928.7		209.2	2117.8	13.7	386.5	
茶褐色土	C5	1						60		71.6	8.5	203.3		31.2				
茶褐色土	C7	1	75.2					83.8				211.2						
茶褐色土	D2	1	6.7					162.8		795.5		180.5		225.9	359.7	24.4		
茶褐色土	D3	1										0.7						
茶褐色土	E3	1						14.1										
茶褐色土	F6	1						20.5		285.7		51.3			54.5		7.5	
茶褐色土	F7	1						79.9										
茶褐色土	F9	1														96.6		
茶褐色土	F9	1	21.2		9.6			171				1867.8		3.8	123.6		31.5	
茶褐色土	G5	1	0.6			7.7		203.1						7.9	202.8			
茶褐色土	G7	1						18.5		25.1		413.2		0.4	4.8			

Tab.12-1　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♤
S-001	C3	1						4				11		4	5			
S-001黒茶色土	C3	1	1					4		3	1	10		26	165		2	
S-001黒茶色土	C4	1	5		1	7	22	115		11	2	120	7	189	994		35	
S-001石壁	B5	1									1	6						
S-001石列	B4	1										2						
S-001石列	B5	1	7					31				86			5		2	
S-001赤褐色土	C4	1						5		2	1	4		39	192		4	
S-001茶色土	C4	1	2	1			6	10	1	3	3	43	2	34	44		4	1
S-002	C2	1										1						
S-004	D7	1						1			1	14			13			
S-004	E7	1					1	1		3		5						
S-005	C5	1						2				24	1	2				
S-006	D3	1	3			1		25		1	9	7	8		1			
S-007	D3	1					1	5		1	7	7						
S-008	D5	1						1			3			1	2			
S-009	D5	1										1						
S-010黄茶色土	G7	1	1					3		1		3					1	
S-010黄色土	G7	1	1			1	8	87		12	4	195		82	22	2	11	
S-010灰色土	G7	1						1				29	1				2	
S-010黒茶色土	G7	1					6	40				20		6	5		1	
S-010青灰色砂	G7	1						4									9	
S-010茶色土	G7	1						13		1		16		8	1			
S-012	D5	1						9				1						
S-014	D7	1													10			
S-015	C4	1					2	16			3	54		90	171		12	
S-017	C6	1												3			1	
S-018	H8	1						3				2						
S-019	I5	3						4			1	2		4	2			
S-020	D3	3				1												
S-021	I7	3										3						
S-022	I7	3						1						1	7			
S-023	I7	3				3	1	3				9					1	
S-023	I5	3						7			2	21		2	2			
S-024	I6	3						3				6		4	5		2	
S-024	J6	3				4		19		1	1	21	3		5			
S-025	B3	3						3						43	129		1	
S-026	H5	3						6				1			1		1	
S-027	H7	1						9				15						
S-028	E9	1						4				2				1		
S-029	E6	1					2	3		6	2	130		5	18		2	
S-029黒茶色土	E7	1						1				6				2		
S-029茶色土	E7	1	4					45			1	159	1	2	2			
S-029茶白粘	E7	1										1			7			
S-030	D4	3										1			1			
S-031	D8	1										1		3	1			
S-032	E9	1															5	
S-033	C8	1						5				1			1			
S-034	D6	1										2						
S-036	I5	3									1	1						
S-036	J5	3						2				4		1	14			
S-038	E5	1	34		1			127				7		2			1	
S-039	E2	3						1										
S-041	J6	3						4		1		2			2			
S-043	I6	3						1				1						
S-045	E4	3			1			1				1						
S-046	G6	1						7			1	8						
S-049	E3	3										1						
S-051	E3	3										1						
S-052	E3	3						1										
S-053	E3	3						4				1			4			

Tab.12-2　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♤
S-054	E4	1						4		1	1							
S-056	E4	3						36			5	3		5				
S-058	E4	1						2			2	4		2	3			
S-059	E4	1						4				3			3			
S-061	E4	1						3		2								
S-062	E4	1					1	2			1				3		1	
S-064	E5	1	2					81				2		1	4	5		
S-064	E6	1					1	32				5			5	3	1	
S-066灰色土	D3	1						1			1	7		5				
S-066茶黒色土	B2	1						1				55			3		1	
S-067	D7	1						3				3						
S-067	E7	1										1			1	2		
S-068	B1	1						13		1	1	9		1	25	1		
S-069	G6	3						4				10		1	1		3	
S-071	G6	3	1															
S-072	G5	3													4			
S-074	B6	1						4		1		20		12	2		1	
S-077	G5	3						1				1		5	2			
S-078	D6	2						2										
S-079	C6	2						1				2						
S-081	C6	2						1				1						
S-082黄色土	D3	2									1		1	1				
S-082黒色土	D3	2						1				1				1		
S-084	C2	2						1				3	1					
S-086	D7	2								1		15		1	1		2	
S-089	E6	2										2			1			
S-091	C8	2						4		2								
S-092	E8	2										2					1	
S-093	E5	2						1				1						
S-094	D5	2												2				
S-096	B2	3						3				2	1					
S-097	B2	3										1						
S-098	E7	3						1				1			4		1	
S-099	D7	3					1	2									3	
S-102	B2	3						1		1		1		1		1		
S-103	E7	3						3				3		1		1		
S-104	D7	3										2						
S-107	E7	3										1						
S-108	D1	3	1	1			1	8				4		2	2	1		
S-109	C2	3										1						
S-113	C3	3						1										
S-114	B3	3					1							35	20	1		
S-115	C4	3	1															
S-116	D3	3						1			1	1						
S-117	D3	3	1					2			1	5			1			
S-118	E6	3						6			1	1			6			
S-119	C6	3						8				5				1		
S-122	C6	3					1	3										
S-123	E6	3	20					51		2	4	188	3	39	56		2	
S-124	E6	3	1									1						
S-126	D6	3												6	8			
S-127	E4	3						2										
S-127	E6	3						7		1		1	2					
S-127	E7	3					1	14	1	1	2	2		7	2		1	
S-127黄色土	E6	3						2			1	3						
S-127灰色砂土	E6	3										4					1	
S-131	C7	3					3			1								
S-132	C5	3						51				5			5	5		
S-133	B4	3										1						
S-136	D5	3						1										

Tab.12-3　大宰府条坊跡第111次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♤
S-137	D6	3						1				1						
S-138	E4	3					1	1										
S-139	E4	3					1					1	1					
S-141	E4	3						8										
S-143	E4	3										1					1	
S-144	E4	3						3										
S-146	E3	3						1							1			
S-147	E5	3											1					
S-148	E3	3						2				1						
S-149	E4	3						3				4			2	1		
S-154	F5	3						43				1		1		2		
S-154	F6	3										1					1	
S-156	G6	3	4		2			32		11	5	58		1	8	2	2	
S-158	G6	3						5		3		18		4	3	1	1	
S-158	G7	3										1						
S-162	D4	3										1						
S-164	E4	3										2						
S-166	F6	3						2				1		1				
S-167	F6	3						1										
S-168	F6	3						1			1							
S-172	E5	3						1				1			1			
S-173	F7	3						4							6			
S-177	H6	3										20		3			1	
黄色土	B4	2	16				6	3				11	1	1	10	1	1	
黄色土	B5	2	1									4						
黄色土	C4	2						1										
黄色土	C5	2	11				1					3		11	2		2	
黄色土	C8	2						1				1			1	1		
黄色土	D7	2														1		
黄色土	E4	2	1				1	1				2			1			
黄色土	E6	2						6				2						
黄色土	G6	2					16	5			1	16	1	6	7		2	
黒茶色土	B2	3										3			1			
黒茶色土	C4	3	2					1		1		3						
黒茶色土	G5	3						2				1						
黒茶色土	G6	3					1	1				3				1		
茶褐色土	B4	1										3						
茶褐色土	B5	1	5					8				3		7	11	1		
茶褐色土	B7	1										1						
茶褐色土	C2	1	2				1	4				8		7	44	1	4	
茶褐色土	C5	1						8		2	3	6		1				
茶褐色土	C7	1	2					2				2						
茶褐色土	D2	1	1					2		1		3		6	27	1		
茶褐色土	D3	1										1						
茶褐色土	E3	1						7										
茶褐色土	F6	1						3		2		3			1		1	
茶褐色土	F7	1						1										
茶褐色土	F9	1														1		
茶褐色土	F9	1	1		1			8				36		2	12		2	
茶褐色土	G5	1	2			1		4						1	15			
茶褐色土	G7	1						5		1		14		1	6			

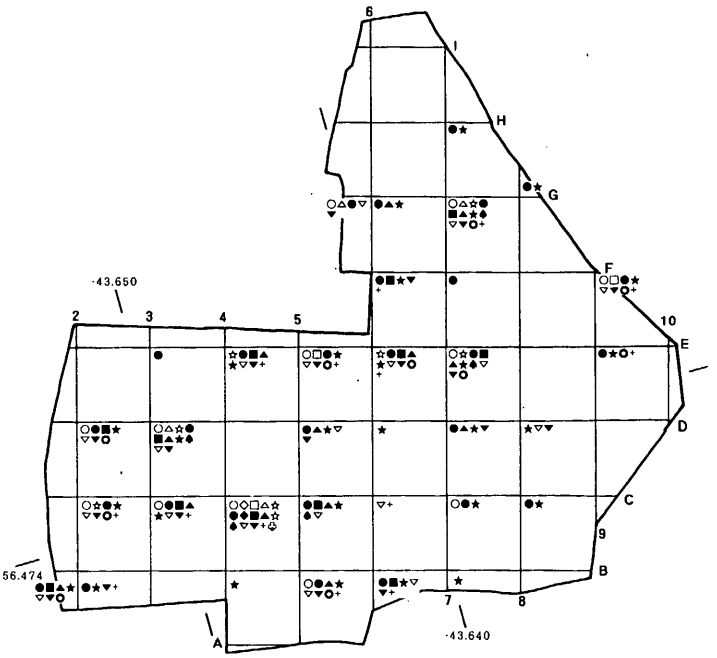


Fig.89　大宰府条坊跡第111次調査　遺構I面鉱滓分布図【定性】

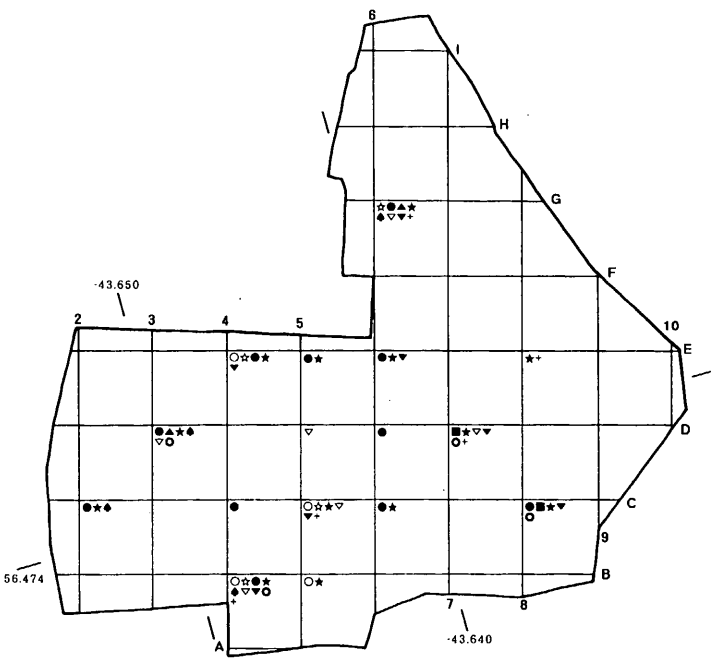


Fig.90　大宰府条坊跡第111次調査　遺構II面鉱滓分布図【定性】

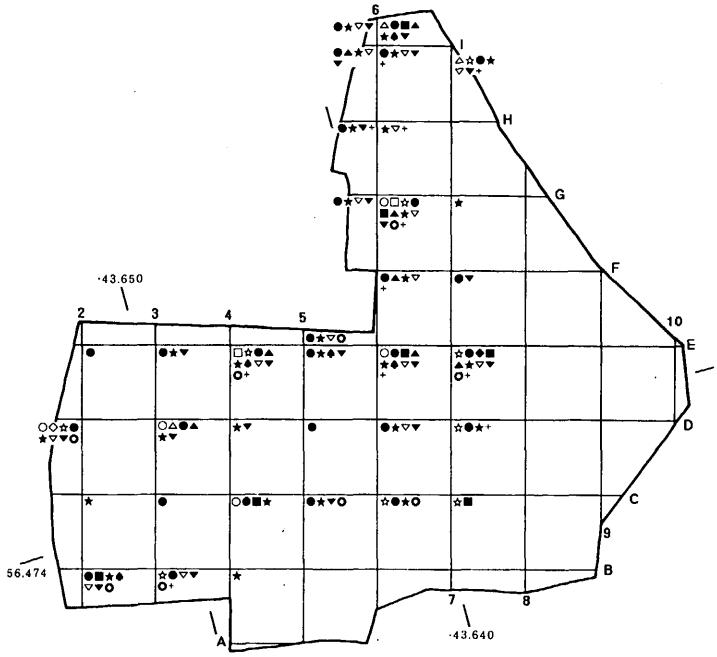


Fig.91　大宰府条坊跡第111次調査　遺構III面鉱滓分布図【定性】

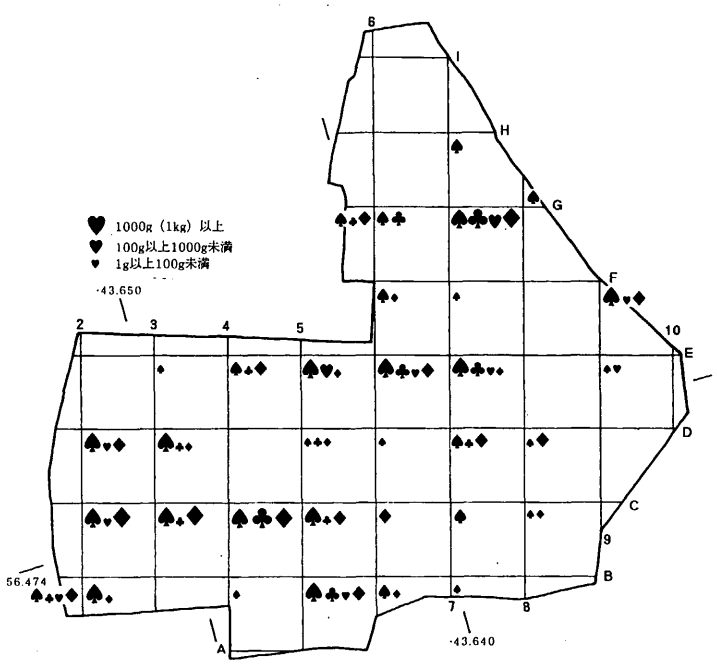


Fig.92　大宰府条坊跡第111次調査　遺構I面鉱滓分布図【定量・重量】

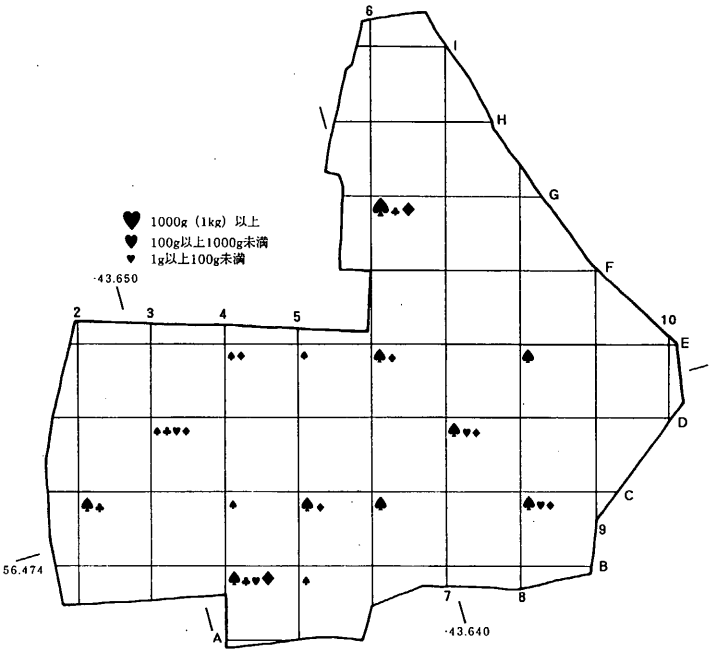


Fig.93　大宰府条坊跡第111次調査　遺構II面鉱滓分布図【定量・重量】

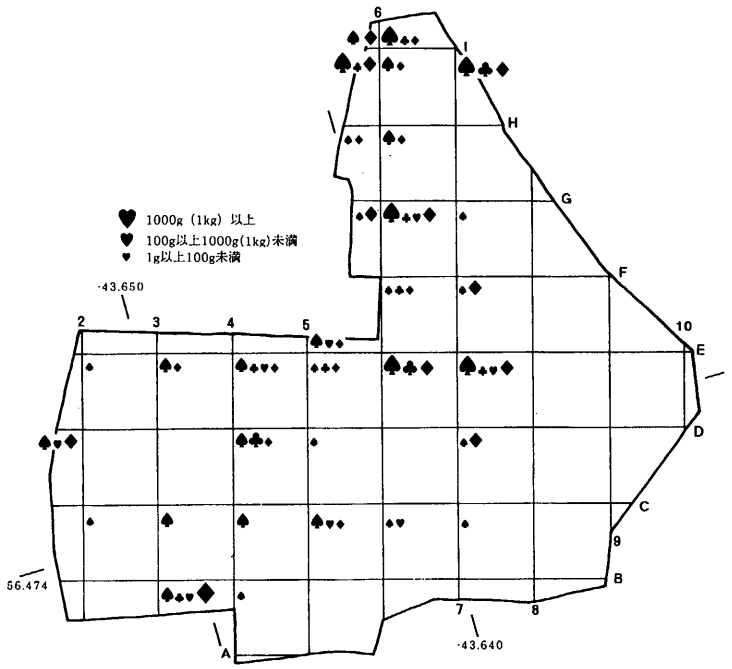


Fig.94　大宰府条坊跡第111次調査　遺構III面鉱滓分布図【定量・重量】

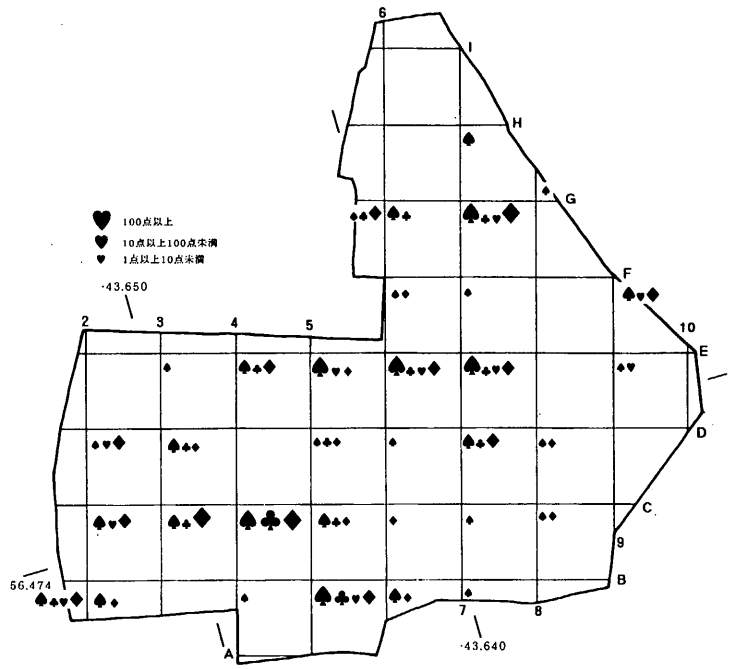


Fig.95　大宰府条坊跡第111次調査　遺構I面鉱滓分布図【定量・破片】

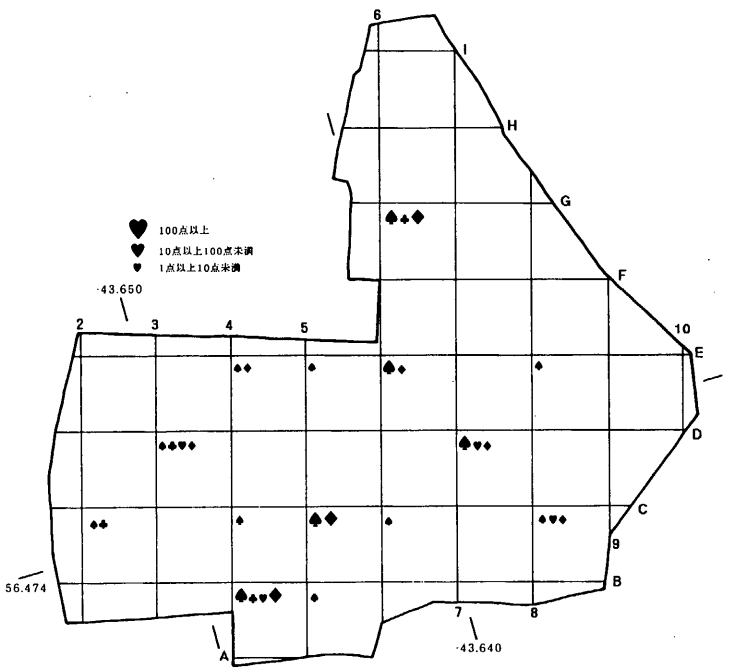


Fig.96　大宰府条坊跡第111次調査　遺構II面鉱滓分布図【定量・破片】

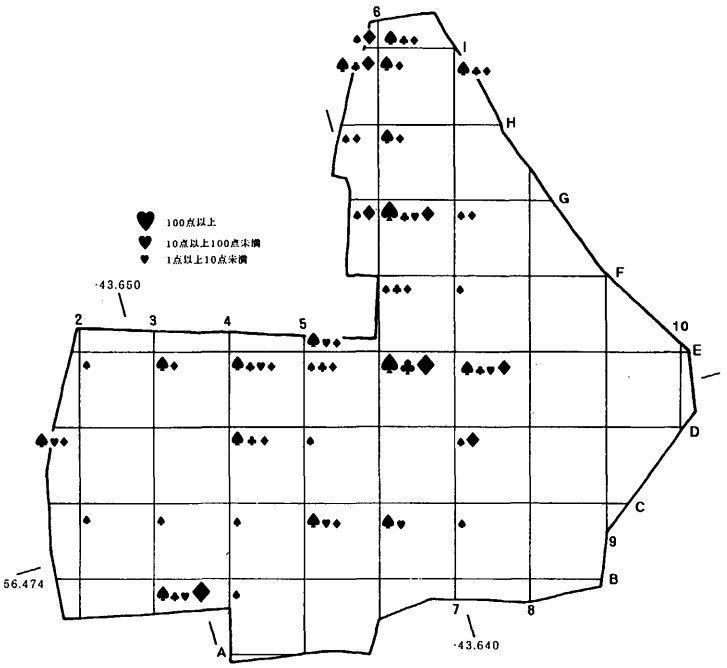


Fig.97　大宰府条坊跡第111次調査　遺構III面鉱滓分布図【定量・破片】

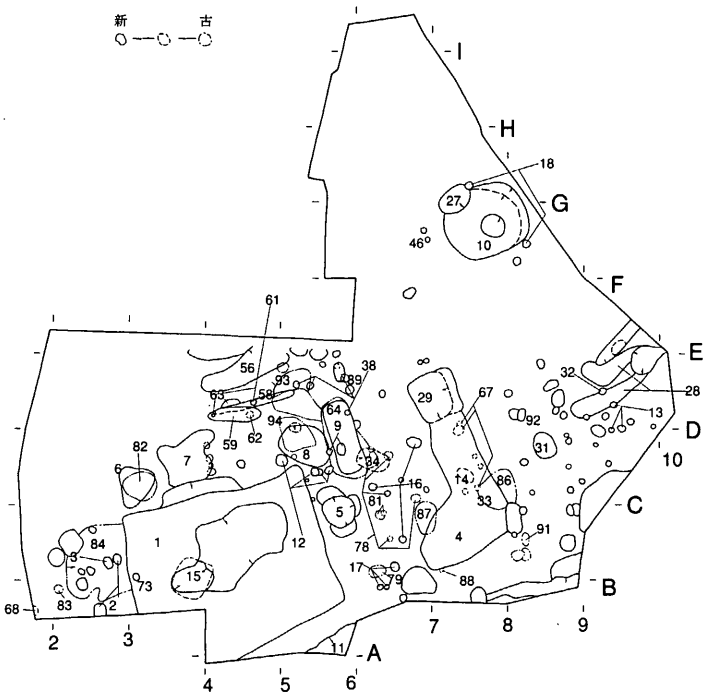


Fig.98　大宰府条坊跡第111次調査　遺構配置略測図（遺構I・II面）

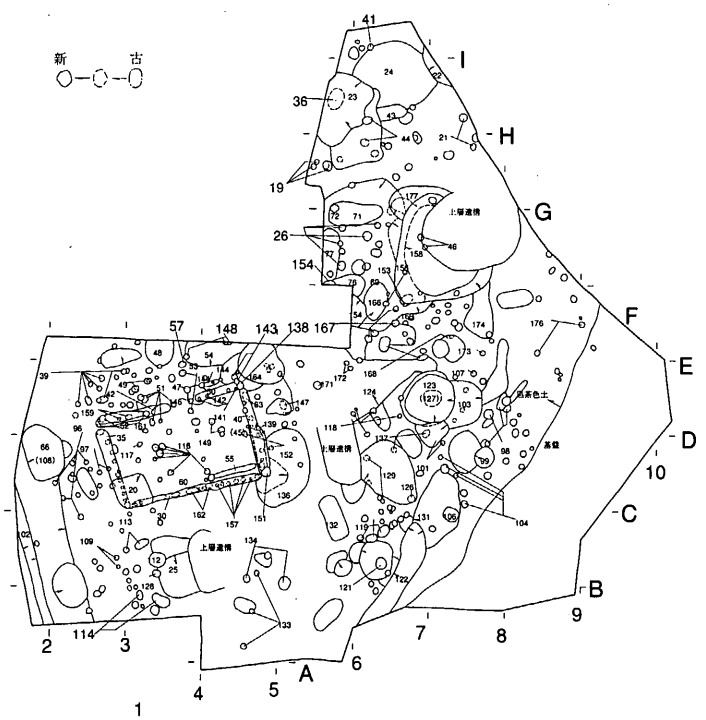


Fig.99　大宰府条坊跡第111次調査　遺構配置略測図（遺構III面）

Tab.13-1　大宰府条坊跡第197次調査　遺構番号台帳

S-番	遺構番号		種別			地区
1		ピット		江戸末～明治		N3
2		ピット群	7→6→2	明治		N4
3		溝		江戸後期		M3～
4		溝		江戸後～末		M3～
5		溝		江戸後～末		L2～
6		土坑	9→6→2	明治		N4
7		土坑	4→7			M4
8		溝				N3
9		溝	9→6→2	江戸後～末		N3～
10		土坑		中世		L8
11		溝×たまり		明治		N5～
12		ピット		江戸末～明治		N5
13		溝				L3・4
14		たまり		～現代		L6
15		堆積層				L7以西
16		ピット		江戸後～末？		L3
17		ピット	17→5	江戸末～明治		L4
18		ピット群	連続する溝でｓ－11と関連するものか			M6・N6
19		ピット群				N6
20			欠番			
21		たまり				M6
22		溝	4→22→14			L7
23		溝	S－32と同一遺構か			L7～
24		ピット				L6
25		溝？				L9
26		ピット				L7
27		ピット	27→4			L7
28		ピット群				M6
29		たまり状				L7
30			欠番			
31		たまり状溝	32→31	明治～現代		M7
32		たまり状溝	32→31	江戸末～明治		M7
33		たまり状溝				M7
34		ピット群		現代？		M7
35			欠番			
36		たまり状溝				M8
37		たまり		近世～		L8
38		ピット				K8
39		ピット		江戸～		L8
40			欠番			
41		たまり×整地土				M4
42		ピット群		中世		M4・5
43		たまり×整地土				L6～

Tab.13-2　大宰府条坊跡第197次調査　遺構番号台帳

44		たまり状溝				L4～M4
45			欠番			
46		土坑状ピット		中世		M7
47		土坑状ピット				M6
48		ピット根石？				M5
49		ピット根石？				M4
50		S-46～53ピット群	掘立柱建物			
51		ピット群				N5
52		ピット群				N5
53		ピット群				M7
54		たまり状整地		8C～		M3
55			欠番			
56		たまり状土坑		中世		M5・6
57		ピット群		中世		M4・5
58		たまり状土坑				M5
59		たまり状土坑				M5・6
60			欠番			
61		整地				M6～
62		土坑	62→61	13C～		L7・M7
63		ピット群				L7
64		たまり状	略図不記載	13C後半		M4
65			欠番			
66		ピット				M7
67		ピット群				L8
68		ピット		13C中～14C初		L8
69		土坑				L8
70			欠番			
71		ピット	71→61	13C後半		L7
72		たまり状×整地				L6～
73		たまり状×整地				M5～
74		土坑				L7
75			欠番			
76		ピット	76→72→61			M7
77		たまり	77→72→61	13C後半		M6
78		土坑				M5
79		ピット群				L6
80			欠番			
81		たまり				M5
82		ピット				L5
83		ピット				M5
84		ピット				M5
85			欠番			
86		ピット				M5
87		ピット				M7
88		ピット群				L7・M7

Tab.13-3　大宰府条坊跡第197次調査　遺構番号台帳

89		ピット	89→15			L7
90			欠番			
91		たまり				M7・8
92		ピット		8C（IX）～		M7
93		ピット				L8
94		ピット				L8
95			欠番			
96		ピット群		8C～		L8
97		ピット				L8
98		ピット	99→98			L8
99		ピット	99→98			L8
100			欠番			
101		ピット				L8
102		ピット	25→102,土層よりS-15上からの切り込み			L9
103		ピット				M3
104		ピット群				M5
105			欠番			
106		みぞ		13C後半		M3
107		ピット群	S-89の掘りのこし			N7
108		ピット				M6

Tab.14-1　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

S-1

瓦質土器	擂鉢
国産陶器	破片
肥前系陶磁器	椀

S-2

土師器	破片
白磁	椀；破片
肥前系陶磁器	破片

S-3

土師器	破片
白磁	皿；破片(1)
	壺；破片(1)
肥前系陶磁器	広東椀
金属製品	鉱滓
石製品	剥片(黒曜石)
瓦類	瓦、瓦(近世)
その他	木炭

S-3 暗灰色粘質土

須恵器	破片
土師器	破片
白磁	他器種；破片(1)
黒釉陶器	破片(1)
肥前系陶磁器	染付
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋

S-4

須恵器	破片
土師器	小皿a、破片
龍泉窯系青磁	他器種；破片(1)
国産陶器	陶器(近世)
白磁	他器種；破片(2)
中国陶器	他器種；破片(1)
国産磁器	破片(1)
金属製品	鉱滓
瓦類	瓦(近世)

S-5

越州窯系青磁	他器種；破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；I-2～4(1)
	皿；破片(1)
国産陶器	破片(1)
白磁	椀；VIII(2)、V-4×VIII-3(1)
	他器種；破片(1)
肥前系陶磁器	大皿(1)
国産磁器	丸椀、破片(1)
金属製品	鉱滓
瓦類	破片

S-6

肥前系陶磁器	角皿(～明治)

S-7

土師器	破片

S-8

土師器	破片
国産陶器	破片
国産磁器	破片

S-9

須恵器	破片
土師器	破片
国産陶器	壷
肥前系陶磁器	丸椀
国産磁器	破片
金属製品	鉄釘、鉱滓
瓦類	破片

S-9 褐灰色土

須恵器	破片
土師器	破片
瓦質土器	鉢？
金属製品	鉱滓

S-10黄茶色土

金属製品	鉱滓

S-10 淡黄茶色土

須恵器	破片
土師器	小皿、底部
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-10 暗茶色土

土師器	破片
須恵質土器	こね鉢
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-10茶色土

金属製品	鉱滓

S-11

土師器	破片
国産陶器	破片
肥前系陶磁器	色絵皿(近代)、染付(近世末)
国産磁器	白磁(近代)

S-12

土師器	破片
国産陶器	甕？
肥前系陶磁器	染付
国産磁器	破片

S-13

土師器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
国産陶器	椀(1)

S-14

同安窯系青磁	椀；I-1b(1)
白磁	他器種；破片(1)

Tab.14-2　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

S-15

土　師　器	坏a、大坏c、皿a、小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
須恵質土器	こね鉢
白　　磁	椀；V(1)、VIII？
	他器種；破片(2)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
金属製品	鉄釘、鉱滓
土　製　品	鋳型、炉壁、焼土塊
石　製　品	石鍋、転用品？

S-15 明赤褐色土

土　師　器	大坏c

S-15 赤褐色土

須　恵　器	破片
土　師　器	小皿a(イト)、破片
白　　磁	皿；VIII？
	他器種；破片(2)
中国陶器	他器種；破片
金属製品	鉱滓
土　製　品	鋳型、炉壁

S-15 淡黄灰色土

須恵質土器	こね鉢
金属製品	鉱滓
土　製　品	鋳型、炉壁

S-15 茶褐色土

土　師　器	小皿a(イト)、破片
須恵質土器	こね鉢
金属製品	鉱滓
土　製　品	鋳型、炉壁、焼土塊
石　製　品	石鍋、砥石
瓦　　類	丸瓦(格子叩)

S-15 褐灰色土

金属製品	鉱滓

S-16

瓦質土器	破片

S-17

国産磁器	破片(2)

S-18

土　師　器	坏a？、破片
中国陶器	鉢；III(1)
金属製品	鉱滓
瓦　　類	いぶし瓦(近世)

S-19

須　恵　器	甕
土　師　器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
国産陶器	甕
金属製品	鉱滓

S-21

金属製品	鉱滓

S-22

土　師　器	破片
金属製品	鉱滓

S-23

土　師　器	破片
瓦　　器	破片

S-24

国産陶器	土鍋

S-25

土　師　器	破片
金属製品	鉱滓
土　製　品	鋳型、炉壁
そ　の　他	木炭

S-26

土　師　器	破片
白　　磁	他器種；破片(1)
瓦　　類	破片

S-27

土　師　器	破片
須恵質土器	甕

S-28

土　師　器	破片

S-31

肥前系陶磁器	椀？

S-32

土　師　器	破片
同安窯系青磁	椀；I(1)

S-33

土　師　器	鍋

S-34

土　師　器	破片
金属製品	鉱滓

S-36

土　師　器	破片
瓦　　類	破片

S-37 茶色土

国産陶器	破片

S-37 暗灰色土

金属製品	鉱滓
瓦　　類	破片

Tab.14-3　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

S-38

土師器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
国産陶器	擂鉢
白磁	皿；IX(1)
中国陶器	鉢；VI(1)
	他器種；褐釉陶器
金属製品	鉱滓

S-39

土師質土器	火鉢

S-41

土師器	坏a、破片
白磁	椀；V-1(1)
中国陶器	盤(1)
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	鋳型
石製品	滑石

S-42

土師器	坏？、破片
金属製品	鉱滓

S-43

土師器	鍋？、破片
龍泉窯系青磁	壷；ボタン文様(暗茶土)
瓦質土器	火鉢？
国産陶器	壺×(碁笥底)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
石製品	碁石？
その他	黒鉛化木炭

S-44

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	羽口片、鋳型
その他	木炭

S-46

土師器	坏a？
金属製品	鉱滓

S-47

土師器	破片

S-48

須恵器	破片
土師器	破片
白磁	他器種；破片(1)
金属製品	鉱滓

S-49

土師器	坏a(？)、破片(イト)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
瓦類	平瓦

S-51

銭貨	不明3枚

S-52

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-53

土師器	鍋、破片(灯明皿)
白磁	他器種；破片(1)
中国陶器	他器種；黄釉盤 I(1)
銭貨	「咸平元寶」、「熙寧元寶」、不明1枚
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
瓦類	破片

S-54

須恵器	坏c、壷？
白磁	椀；V×VIII(1)
	皿；III(1)
	他器種；破片(1)
金属製品	鉱滓

S-56

土師器	坏a、小皿(イト)、破片
須恵質土器	こね鉢(東播系)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
その他	黒鉛化木炭

S-57

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
その他	黒鉛化木炭

S-58

土師器	坏a、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
須恵質土器	こね鉢
金属製品	鉱滓

S-59

土師器	坏？
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁
その他	黒鉛化木炭

Tab.14-4　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

S-61

土師器	坏a、破片
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	坏；III-5a(見込みスタンプ)
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	鉢
白磁	椀；V-1×VIII-2(2)
中国陶器	壺；IV(1)
金属製品	刀子、鉱滓
土製品	鋳型、炉壁
瓦類	破片
その他	黒鉛化木炭

S-62

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-63

金属製品	鉱滓

S-64

土師器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；I破片(1)
白磁	皿；IX(2)
金属製品	鉄釘、鉱滓

S-66

土師器	坏a
金属製品	鉱滓
その他	黒鉛化木炭

S-67

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-68

土師器	小皿a、破片
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿；IX-1(1)
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁
その他	黒鉛化木炭

S-69

須恵器	破片
土師器	坏a、破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁
瓦類	瓦(細目叩)
その他	黒鉛化木炭

S-71

白磁	皿；IX(1)
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁

S-72

須恵器	破片
土師器	坏a、小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁、焼土塊
石製品	滑石
瓦類	瓦玉
その他	黒鉛化木炭

S-73

須恵器	坏c、蓋3、破片
土師器	坏a(イト)、小皿a、大皿c
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；1(2)、I-4(2)、II-b(2)
須恵質土器	甕、鉢
瓦質土器	鍋
白磁	椀；V-4×VIII-3(1)
	他器種；合子？(1)、破片(2)
中国陶器	鉢；II-1(1)
金属製品	鉱滓
土製品	土玉、鋳型、炉壁
石製品	石鍋、焼け石

S-74

土師器	坏a(イト)、小皿(イト)
国産陶器	甕
白磁	壺；(1)
中国陶器	盤 I(1)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁
石製品	滑石

S-76

土師器	坏a(イト)
金属製品	鉱滓

S-77

土師器	小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	坏；III-3a(1)(明茶灰色土と接合)
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿；IX(1)
金属製品	刀子、鉱滓
土製品	炉壁

S-78 淡黒色土

須恵器	甕
土師器	破片

S-78 淡赤灰色粘質土

土師器	坏×皿、小皿a
金属製品	鉱滓

S-79

土師器	坏a
金属製品	金属器、鉱滓
土製品	鋳型、炉壁

Tab.14-5　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

S-81

須恵器	破片
土師器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)

S-82

須恵器	坏c、破片
土師器	破片

S-83

須恵器	甕

S-84

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁、焼土塊

S-86

須恵器	破片
瓦器	椀

S-87

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-88

土師器	坏？、小皿a(イト)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁

S-89

土師器	坏、皿a、小皿a
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁

S-91

土師器	破片
土製品	焼土塊

S-92

須恵器	坏c
金属製品	鉱滓

S-93

須恵器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁

S-93明茶色土

金属製品	鉱滓

S-94

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-96

須恵器	破片
土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁
瓦類	無文磚

S-97

須恵器	破片
土師器	破片
須恵質土器	甕
白磁	皿；V～VII(1)
	他器種；破片(1)
金属製品	鉱滓
その他	黒鉛化木炭

S-98

土師器	破片
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	炉壁

S-99

金属製品	鉱滓

S-101

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-102

金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-103

土師器	小皿a(イト)
金属製品	鉱滓
土製品	炉壁

S-104

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-106

土師器	坏a、破片
金属製品	鉱滓

S-107

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-108

土師器	破片
石製品	石鍋

Z

土師器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
その他	黒鉛化木炭

Tab.14-6　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

茶灰色土(包含層)

須恵器	蓋3
土師器	坏(イト)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(2)
	他器種；I(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)
須恵質土器	こね鉢(東播系)、甕
瀬戸	瀬戸・美濃(1)
国産陶器	坏(1)(唐津系)、甕
白磁	椀；V(1)、破片(1)
	皿；IX(1)、IX-2(1)
	他器種；破片(3)
肥前系陶磁器	椀(染付)
青磁	壷(1)
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型
石製品	滑石石鍋
その他	植木鉢

灰褐色土(I面包含層)

須恵器	椀c？
土師器	柿釉かわらけ、破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、II-b(1)
	他器種；不明(1)
同安窯系青磁	皿；I-2b(1)
	他器種；破片(1)
須恵質土器	こね鉢
瀬戸	古瀬戸菊皿
国産陶器	鉢、擂鉢、甕、壺、壷(明治～)(志野)
白磁	椀；IV(2)
	皿；IX(2)
	他器種；破片(2)
肥前系陶磁器	染付椀(～江戸末)、くらわんか茶椀、大皿、紅皿
	向付？、染付(現代)
国産磁器	白磁？
黒釉陶器	水注(1)、壷(1)
銭貨	一銭（明治十年）
金属製品	鉄釘、鉱滓
瓦類	瓦玉(2)、瓦(近世)、破片
その他	黒鉛化木炭

明茶色土

須恵器	坏IV、蓋1、破片
土師器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I-6a(1)、II-b(2)、II(2)、III-2(1)
	他器種；III(1)、坏III(1)
同安窯系青磁	皿；破片(1)
土師質土器	七輪(近世)、擂鉢
瓦質土器	破片？
国産陶器	雑釉、無釉鉢(近世)、鉄釉土瓶
白磁	椀；V(1)
	皿；V×VI(1)、IX(2)、破片(1)、
	他器種；合子(2)、破片(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器
肥前系陶磁器	丸椀、壷蓋、紅皿、刷毛手椀、タコ唐大皿、広東椀
	蓋茶碗
金属製品	鉄釘、鉱滓
瓦類	瓦玉、破片(近世)、破片
その他	黒鉛化木炭、木炭

茶色土

須恵器	蓋、甕
土師器	破片
須恵質土器	甕
国産陶器	小皿、椀、鉢、甕、壷、すり鉢、羽釜
肥前系陶磁器	染付(江戸末)、皿、椀
金属製品	鉱滓
土製品	土錘？
石製品	滑石再利用製品
瓦類	丸瓦、いぶし瓦

褐茶色土

須恵器	蓋1、破片
土師器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；小椀 I(1)、I(4)、I-2～4(1)、II-a(1)、II-b(2)
	III(1)、III-2(1)、IV(1)
	他器種；III盤(1)、坏(1)、III坏(1)
同安窯系青磁	椀；破片(1)
	皿；I(1)
土師質土器	脚
須恵質土器	こね鉢(東播系)
国産陶器	甕
白磁	椀；II、IV-1a(1)、VIII(1)
	他器種；壷(1)、破片(4)
青白磁	椀(1)
肥前系陶磁器	染付 (江戸後期？)、皿(末～明治)、赤絵皿？
	湯呑み椀(18世紀末～)
金属製品	鉱滓、鉄釘、リベット、不明製品
土製品	鋳型、人形(面？)、土玉、炉壁
石製品	滑石
瓦類	瓦(格子叩)、平瓦、いぶし瓦

赤茶色土

金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

淡灰褐色粘質土

須恵器	蓋3、甕、破片
土師器	坏a(イト)、小皿a、椀、鉢、破片
龍泉窯系青磁	椀；I-2(1)、II-a(1)、II-b(2)、III-3b(1)
須恵質土器	こね鉢(東播系)、椀
白磁	椀；IV(1)、V(1)、IX-1(1)
	皿；IX(2)
	他器種;合子(1)、破片(櫛目)(1)、四耳壷(1)、破片(1)
中国陶器	他器種；A'-a(1)
銭貨	銭
金属製品	脚、鉱滓、刀子、銅釘？
土製品	鋳型、炉壁

赤茶色粘質土

須恵器	蓋
土師器	小皿a(イト)、破片
須恵質土器	こね鉢(東播系)
土製品	鋳型
瓦類	瓦

Tab.14-7　大宰府条坊跡第197次調査　遺物一覧表

暗茶色土

須恵器	坏、皿、椀、鉢、甕？
土師器	小皿a(イト)、破片
瓦器	椀c
越州窯系青磁	椀；II-(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(20)、I-4、II-b(8)、III(5)、IV(4)、破片(5)
	小椀III-2c(1)、上田B-III(1)
	皿;I-2～4(2)、I-ba(1)、I-スタンプ(1), II-a(1)、II(1)、
	III～(1), III-3b(1), IV～(2)
	他器種;坏III-4b(1)、坏III-1(輪花)(1)、III(3)、破片(1)
	壷(牡丹文)
同安窯系青磁	椀；I-1b(2)
高麗青磁	他器種；(1)
土師質土器	火鉢
輸入陶磁器	粉青細器
須恵質土器	甕(格子叩)
瓦質土器	鉢(A)、すり鉢、火鉢、風炉、火舎？、羽釜、破片
瀬戸	山茶椀、鉢
黒釉陶器	天目椀(2)
国産陶器	椀(唐津系)(3),坏(1),甕(備前)(1),すり鉢(1),常滑(2)
	すり鉢II-2（近世）、破片
白磁	椀；II(1)、IV(4)、破片(2)、V～VIII(1)、V(3)
	V×VIII(1)、VIII(1)、IX(1)、
	皿；III、VI(1)、IX-1b、IX-(4)、破片(2)
	他器種；坏(板府系)(1)、鉢III(1)、壷(2)、破片(14)
	不明(1)
青白磁	破片(2)
中国陶器	壷；B"-b、破片(4)
	鉢；I-(1)、I-2b(1)、II-1、IV(2)
	他器種；盤(1)、盤I(1)、A'-b(1)、B-a、不明(4)
肥前系陶磁器	丸椀、皿、紅皿、染付
国産磁器	破片(6)
ベトナム	陶器
山茶碗	鉢
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	土鈴？、柱状土製品、鋳型、炉壁
石製品	滑石再利用品、台石×砥石、石鍋
瓦類	破片
その他	黒鉛化木炭、木炭

明茶赤色土

須恵器	椀
土師器	坏a、坏a(イト)、小皿a、椀c、把手、破片
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、II-b(2)、III(1)、III-2(1)
	皿；I(1)
	坏；III-1(1)、III-2(1)、破片
須恵質土器	甕、鉢
瓦質土器	鉢
白磁	椀；II-5(1)、IV(1)、VIII(1)、IX(1)
	皿；II×III(1)、IX(1)
	他器種；破片(2)
青白磁	合子(2)
中国陶器	盤；II
弥生土器	破片
金属製品	刀子、鉱滓
石製品	擂石？、石錘、石鍋、紡錘車
土製品	鋳型、炉壁、焼土塊
その他	炭、黒鉛化木炭

茶赤色粘質土

須恵器	脚部
土師器	坏a(イト)、小皿a、小皿a(灯明皿)、破片
龍泉窯系青磁	椀；I(1)
須恵質土器	こね鉢(東播系)、甕
白磁	皿；VIII(1)、IX(2)
	壷；四耳壷(1)
青白磁	合子
中国陶器	壷；A'-b
	盤；II(1)、II-1(1)
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	炉壁
瓦類	破片
その他	黒鉛化木炭

明茶灰色土

須恵器	坏c、高坏、蓋3、甕、壷c
土師器	坏a、坏a(イト)、小皿a、椀c、鍋、壷、破片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I-4(2)、I(1)、II-b(5)、VI
	他器種；破片(2)
同安窯系青磁	椀；I-1-b(1)、破片(1)
初期龍泉・同安窯系青磁	椀；0類
高麗青磁	椀；破片(1)
須恵質土器	こね鉢(東播系)
国産陶器	壷
白磁	椀；IV(2)、V(1)、V-VIII(1)、VI(1)、IX(1)
	皿；V～VII(2)、IX(2)、XI(1)、
	他器種；壷(1)、破片(1)
青白磁	合子(3)、破片(1)
中国陶器	壷；C'-b(1)、不明(1)
	鉢；I-2(1)
金属製品	鉄釘、鉱滓
土製品	鋳型、炉壁
瓦類	瓦(格子叩)

茶灰色土

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	椀；I-4b(1)、II-a(1)
同安窯系青磁	椀；II
国産陶器	小椀
瓦類	瓦(格子叩)

茶褐灰色土

土師器	小皿a(イト)XX～、破片(1)
輸入須恵器	甕、朝鮮系無釉陶器
弥生土器	破片
金属製品	鉱滓
土製品	鋳型、炉壁

Tab.15　大宰府条坊跡第197次調査　遺物計測表

S-15

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト	1	R-001	40-1	(10.6)	2.2	(6.4)	○	×
	坏c	1	R-002	40-3	(18.0)	(3.1+α)		○	○
	皿a	1	R-005	40-2	(22.7)	(2.6+α)	19.0	—	—

S-58

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	1	R-001	38-2	(12.0)	3.0	(6.8)	—	—

S-64

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト	1	R-001	41-5	(14.2)	2.5	(9.6)	—	○

S-68

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a　イト	1	R-001	41-6	7.6	1.2	5.8	○	○

S-72

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a　イト	1	R-001	41-8	8.6	1.1	7.4	—	○
	イト	2	R-002	41-7	7.6	1.05	5.7	—	○

S-73

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト	1	R-001	41-11	11.6	2.2	8.0	×	×
	小皿a	1	R-004	41-10	(8.6)	1.3	7.0	×	—

S-74

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト	1	R-005	38-8	(13.65)	2.35	(9.3)	—	—
	小皿a　イト	1	R-001	38-7	(8.25)	1.25	(6.5)	○	○
	イト	2	R-002	38-5	(8.0)	0.9	(6.9)	○	○
	イト	3	R-003	38-4	(7.9)	1.25	(5.8)	—	×
	イト	4	R-004	38-6	8.0	1.0	6.0	—	○

S-77

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a　イト	1	R-002	41-16	8.4	1.05	6.7	—	○

S-89

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a　イト	1	R-001	41-19	(9.0)	1.0	(7.8)	—	○

S-106

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	1	R-001	39-4	(17.35)	2.5+α	(12.6)	○	○

暗茶色土

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a　イト	1	R-007	42-3	(8.6)	1.2	7.0	○	○

明茶赤色土

種別	器種	番号	R・a番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト?	1	R-001	42-13	(12.0)	2.7	7.2	○	○
		2	a-001		(13.2)	(2.9)	7.5	—	○
		3	a-002		12.2	2.8	8.3	—	—
	イト	4	a-003		12.5	2.4	8.3	—	—
	イト	5	a-004		12.3	2.6	8.3	—	—
		6	a-005		12.0	2.6	9.4	—	—

明茶灰色土

種別	器種	番号	R番号	Fig番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a　イト	1	R-001	41-21	12.9	2.7	8.0	○	×

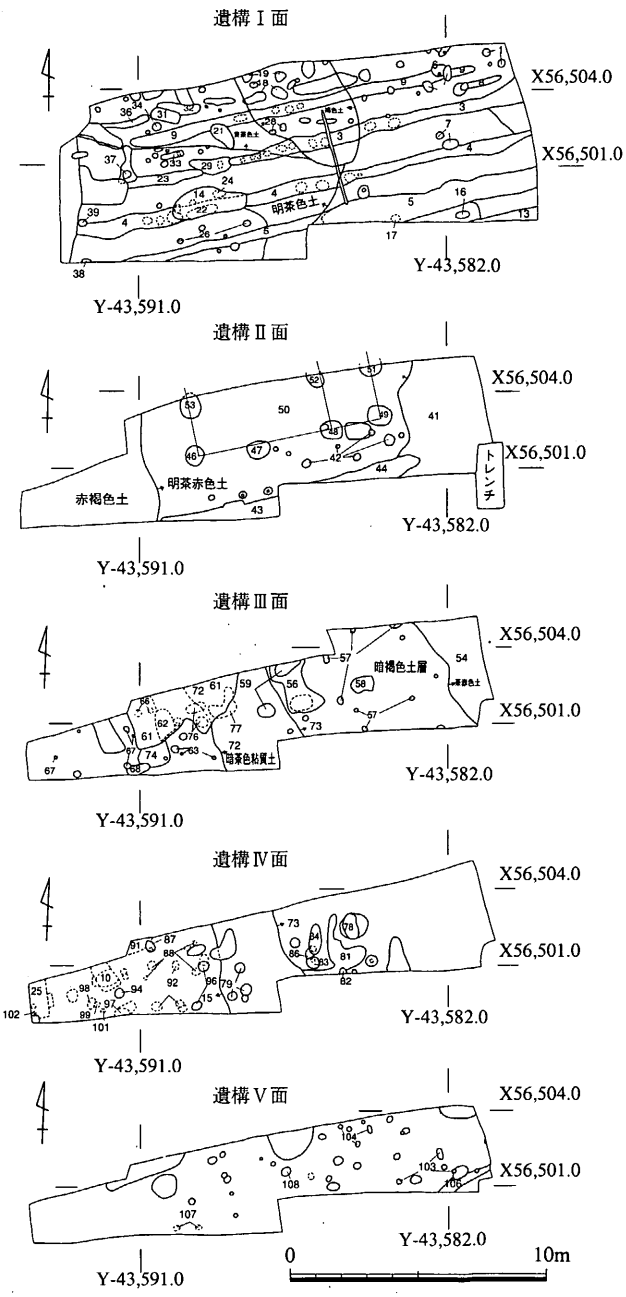


Fig.100　大宰府条坊跡第197次
遺構配置略図（S=1/300）

Tab.16-1　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♣
S-003	M3	I											26.4					21.6	9.5
S-003 暗灰色粘質土	M5	I						7.6											
S-004	M4	I						1.4					26.5						
S-004	L7	I						47.9											
S-005	L5	I	14.4					5.6											
S-009	M5	I											24.6						
S-009	M6	I						2.3					36.6						
S-009	M7	I									10.9		27.3						
S-009	N4	I							20.1										
S-009 褐灰色土	M6	I									40.3								
S-010 淡黄茶色土	L8	4	61.8		13.1	20.7		41.3			44.2		176.8	4.2			13.8		
S-010 暗茶色土	L8	4	18.2					67.2			20.5		75.2			8.8	16.8	4.5	
S-010 黄茶色土	L8	4	47.1			3.5													
S-010 茶色土	L8	4				6.1		5.3										52	
S-015	M7	4	714.3		150.7	424.9	12.2	1173	87.9		879.9	29.7	390	9.8	12.1	185.1	120.9	1222	0.3
S-015	L7	4	2742		844	1213	13.6	1802	200.6		1689	131.8	4801		80.7	836.6	201.8	1061	
S-015	L8	4	783.1		97.2	339.4	4.9	483.9	419		843.5	156.8	1289		8.5	104.8	34.4	465.5	
S-015	L9	4	321.6	55.4	70.3	8.1		815.1			355.9		1288	19.8	7.6	191.8	29.6	251.3	
S-015 茶褐色土	L7	4	226.1		30.2	23	109.5	241.9	7.8		207.9		665.5	4.6	385.8	200.7	385.8	917.7	
S-015 茶褐色土	L8	4	76.7			43.1		39.6					12.6		24	67.3	687.1	10.7	
S-015 赤褐色土	L7	4	244.8		39.9	40.2		94.6			112.6		446.9	3.1		231.6	126.5	691.3	
S-015 赤褐色土	L8	4	120.7		62.9			168.2					179.4	3.3	2.6	29	103.6	243.8	
S-015 明赤褐色土	L7	4												7.4					
S-015 褐灰色土	M7	4	44.1		24.4			15.2					80.8						
S-015 淡黄灰色土	L7	4	111.7		44.1	4.2		140.7					206.5		3.5	40.4	26.4	149.4	
S-018	M6	1											39.1					4.4	
S-019	N6	1											5.5						
S-021	M6	1											10.8						
S-022	L7	1	14.2																
S-025	L9	1	111.8		6.5	102.8		191.3			349.5		1041		1.6	14.5	13.2	25.1	5.7
S-034	M7	1	4.8										42.4						
S-037 暗灰色土	L8	1						16.8											
S-037 暗灰色土	M8	1	74																
S-038	K8	1	3.2																
S-041	M3	2	37.3		4.6			41.3			36.4		49.1						
S-041	M4	2						31.3					295.5				6.1		
S-042	M4	2									48.5								
S-043	L6	2	91.4					35.5			4		122.8	2.1			1		
S-044	L4	2						10.5					26				4.2		0.3
S-046	M7	2	9.6					7.9											
S-048	M5	2						9.3											
S-049	M4	2						6.4					6.8				1.7		
S-049	M4	2						11.1											
S-052	N5	2						18.3											
S-053	M7	2						2.1									5.5		
S-054	M3	3						31.6			45.5		26.3						
S-056	M5	3	44.5		18.9			164.2			101.3	20.2	430.2	0.2			18		
S-057	M4	3	5.2					11.6	46.6		46.6		60.2	4.2			1.8	4.7	
S-058	M5	3	1.2		5.3			2.3			14.1		56.7						
S-059	M6	3	38.6			7.4		64.7					49.9			4.8		8.5	
S-061	M6	3	239.1	11.1	30.8	107.3		492.7	57.6		249.4		1029			50.6	67.3	301.5	
S-062	M7	3	112		2.1	94.4		38.4			51.4		124.3					24.8	
S-063	L7	3	23.2	19.6									49.4					170.2	
S-064	M4	3	78.5								15.2		113.4						
S-066	M7	3	21.6			21.6		6.4	14.1		14.1								
S-067	L7	3	13.9		6			36.7			58.7		68.3			7.4			
S-067	L9	3	36.8					2.9										10.7	
S-068	L8	3	30.5	16.5	42			17.7			23.1		78.6	9		3.5	9.2	16	
S-069	L8	3	376.7	4.1	80.1	126.8		425.2	26.1		225.2		317.9		28.6	43	82.3	40.5	
S-071	L7	3	37.2		11.6		32.9				12.9		37.1			0.9			
S-072	M6	3	125.9	53	8.7	7.5		76.3		205	57.1		379.2				8.1	220.6	
S-072	L6	3	44.4		101.2			240.8			139.1		622.8	0.2		147.3	22.1	103.1	
S-072	M7	3	125.7		49.3	20.8	7	246.6	44.6		233		396.1			47.1	9.7	173.6	
S-073	M4	3						52.4								2.6			
S-073	M5	3	309		84.6	38.4		298.7			235.3		1036	1	73.3	196.7	41.6	401.2	
S-074	L7	3	121.3		27.7			166			9.9		329.5	2.3	135.2	293.6	29.6	49.4	
S-076	M7	3	111.1					1.9											
S-077	M6	3	50.5		9.5			23.3		2.3			117.7		90.3	62.3		66.7	
S-078 淡赤灰粘	M5	4	7.1																
S-079	L6	4	28.8		12.1			46.6			17.9		10.4		10.5	20.8	8.5		

Tab.16-2　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♣
S-081	M5	4																37.8	
S-084	M5	4											68.2		2.4				
S-087	M7	4	45.4		4.3		0.9	17.7										9.3	
S-088	L7	4	17.5		33.2			50.3			184.2		10.7		6.2		5.3	17	
S-088	M7	4	29.5		11.3			38.7			14.5		55			21	10	15.2	
S-089	L7	4	10.8					17					11.3			16.8	3.3	4	
S-089	L9	4											2						
S-092	M7	4						5.4	57.9		57.9		9.1						
S-093	L8	4					0.8						92		35.4	8.9			
S-093明茶色土	L8	4			4.6								40.9						
S-094	L8	4	6.4					6.8									0.3		
S-096	L8	4	3.1					6.3					30.1			10.3			
S-097	L8	4	4.5		8.2			9					19.6	8.2				18.3	
S-098	L8	4	15.4					44.3			27.1		124.2		73.4			289.1	
S-099	L8	4	15.6								43.3							33.8	
S-101	L8	4	21.8		5.2								25.8						
S-102	L9	4						16.1					43.1				1.5		
S-103	M3	5						8.6							60.7				
S-104	M5	5	4.1										8.2				2.6		
S-106	M3	5											7.3						
S-107	L7	5	3.3										6.9						
Z			26.9		6.2			33.6	70.8		138.2	17	260.5				8	69	
茶灰色土	L8	表土	7.9					9.1					95					14.4	
茶灰色土	N3	表土											37.2						
灰褐色土	K8	I面包含層	1.8					6.7											
灰褐色土	L3	I面包含層						11					21.7					48.9	
灰褐色土	L6	I面包含層			6.7									0.7					
灰褐色土	L8	I面包含層			2.5			87.7					47.9					4.5	
灰褐色土	M3	I面包含層						100.9						8.4					
灰褐色土	M4	I面包含層						17										2.8	
灰褐色土	M6	I面包含層						11.7						18					
灰褐色土	M7	I面包含層			7.4						20.2		83.5	8.9					
灰褐色土	M8	I面包含層	1.9																
灰褐色土	N4	I面包含層						4.7											
灰褐色土	N5	I面包含層						11.7						3.8					
茶色土	L3	I面形成土	77.5		0.5								25.1					9	
茶色土	M3	I面形成土	27										7.4					33.4	4.5
明茶色土	N4	I面形成土						65.4					30.6					14	
明茶色土	M3	I面形成土						9.7					10.9					4.8	
明茶色土	M4	I面形成土	1.6					9											
明茶色土	L3	I面形成土											21	7.7				21.5	
明茶色土	L4	I面形成土						14.3											
赤茶色土	N4	I面形成土	2						46.8		88.8		224.5				1.9		
褐茶色土	M5	I面形成土	230.5		122.5	34.9		125.1					303.2			44.8	23.8	1.4	
褐茶色土	M8	I面形成土	134.9		10.9	4		286.3			70.8		206			96.7	27.1	31.3	
暗茶色土	L3	I面形成土				10		27.7											7.5
暗茶色土	L4	I面形成土	201.6					158			33.9		51.5						
暗茶色土	L6	I面形成土	7.9																
暗茶色土	L7	I面形成土	1			188.3		34.3										79.9	
暗茶色土	L9	I面形成土	340.2		57.1	72.3		672.5			485.2		1778	6.4	3.4	102.5	482.1	326.8	
暗茶色土	M3	I面形成土	29.8					46.4					49.6					3.5	
暗茶色土	M4	I面形成土	16			43		20.9					74.3	3.2					
暗茶色土	M5	I面形成土	117			49.8		316.7					27.1	4.2	1.7			11.6	
暗茶色土	M6	I面形成土	203.3					182.3					16		7			13.9	
暗茶色土	M7	I面形成土	32.3		5.6	19.6		137.5					92.1					1.6	1.3
暗茶色土	M8	I面形成土						232.1			51.7		324.2						
暗茶色土	M9	I面形成土	24.8	0.7				32.9		32			92.6						
暗茶色土	N4	I面形成土	51.3					275.3					141			65.9		6.9	
暗茶色土	N5	I面形成土	208.5					1461			58		101.2						0.5
明茶赤色土	L7	SB050整地土	30.5		29.9			308.9			136.5		492.4	18.5		37.1	32.6	5.3	
明茶赤色土	L6	SB050整地土	24.6		24			80.7			48.5		312.2		16.5	4.5	3.6	24.7	
明茶赤色土	M3	SB050整地土	125.9		38.5	20.7	0.6	281.6	272.5		442		792.9	12.1		12.8	77	176	
明茶赤色土	M4	SB050整地土	56					83.3					207.2				2.7		
明茶赤色土	M5	SB050整地土	224.8		5.9			344	7.8		227.3		580.8	4.5	1.1	4	89	111.6	
明茶赤色土	M6	SB050整地土	596		15	39.6		801.4			357.7		1398	3		60	56	906.5	
明茶赤色土	M7	SB050整地土	38.9			33.5		126.6			14.5		46.2				47.4	12.1	
明茶赤色土	N5	SB050整地土	16.7		18.1			360.9			157.1	23.4	708.9		47.7	85.9	35.9	572.3	
淡灰褐色粘	M5	SB050整地土	382.6		170.2	19.5		96			47.1		975.8			15.8	9.2	405.8	0.8
淡灰褐色粘	M6	SB050整地土	423.8		94.8	180.1		394.7			140		1324			26.6	31	336.7	
淡灰褐色粘	L7	SB050整地土	0.3					12.1			192.7		459		2.9	11.6			

Tab.16-3　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♣
茶赤色粘	L6	III面 包含層	143.1		5.2			153.4			21.4		265.4		6.1	10.2		39.7	
茶赤色粘	M4	III面 包含層	785.8	6.2	243	111.3	21.4	1283		17.1	489.7		2145	17		101.1	58.5	678.1	
茶赤色粘	M7	III面 包含層	16.3	11.7	19	3.8		133.8					194.9					5.1	
茶赤色粘	M8	III面 包含層	105.1		21.4	24.9		32.8			55.7		207.8	11.9					
明茶灰色土	L7	IV面 形成土	25		16.3			5.6					83.1						22.1
明茶灰色土	L6	IV面 形成土															3.5		
明茶灰色土	L8	IV面 形成土	77.8			48.8		28.8			18.2		176.6			13.1		72.8	
明茶灰色土	M3	IV面 形成土						45			39.7	39.7	30.1					29.1	
明茶灰色土	M4	IV面 形成土	20.2		17.1			37.4					4.5					78.8	
明茶灰色土	M6	IV面 形成土	32.3		75	54.4		93.4					181.7			0.7	40.2	196.4	196.4
明茶灰色土	M7	IV面 形成土	23.6		1.9			41.5			31.5		117.3					25.4	
明茶灰色土	M8	IV面 形成土	6.5		2.8			16.5					73.6					3.5	
茶褐灰色土	L7	IV面 形成土	48.6		11.8	12.2		47.2					49.6	2.9	348.9	90.4	186.7	0.9	
茶褐灰色土	L8	IV面 形成土	38.6					42.9		11			320.7			29.7		66.5	

Tab.17-1　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♣	▽	▼	◎	＋	♣
S-003	M3	1											1					1	3
S-003 暗灰色粘質土	M5	1						1											
S-004	M4	1						1					1						
S-004	L7	1						1											
S-005	L5	1	2					1											
S-009	M5	1											2						
S-009	M6	1						1					2						
S-009	M7	1									1		3						
S-009	N4	1							1										
S-009 褐灰色土	M6	1									1								
S-010 淡黄茶色土	L8	4	4		1	1		3			1		8	1			3		
S-010 黄茶色土	L8	4	2			1													
S-010 暗茶色土	L8	4	1					10			1		4			4	3	1	
S-010 茶色土	L8	4				1		1										1	
S-015	M7	4	58		12	23	4	131	2		25	1	58	1	2	39	22	44	1
S-015	L7	4	222		57	84	2	223	9		66	2	178		11	80	14	26	
S-015	L8	4	35		5	15	2	60	7		16	6	53		2	9	10	5	
S-015	L9	4	25	1	15	5		86			23		67	3	2	51	7	10	
S-015 茶褐色土	L7	4	18		3	4	8	38	1		4		20	3	2	15	10	21	
S-015 茶褐色土	L8	4	4			2		2					1		15	6	17	1	
S-015 赤褐色土	L7	4	17		3	3		20			3		5	2		21	13	8	
S-015 赤褐色土	L8	4	6		5			15					6	1	1	3	13	3	
S-015 明赤褐色土	L7	4												1					
S-015 褐灰色土	M7	4	2		1			10					3						
S-015 淡黄灰色土	L7	4	10		3	1		13					6		1	6	3	3	
S-018	M6	1											2					1	
S-019	N6	1											1						
S-021	M6	1											1						
S-022	L7	1	1																
S-025	L9	1	9		3	8		25			10		30		1	5	2	1	30
S-034	M7	1	1										4						
S-037 暗灰色土	L8							2											
S-037 暗灰色土	M8	1	1																
S-038	K8	1	1																
S-041	M3	2	2		1			1			1		1						
S-041	M4	2						5					13				1		
S-042	M4	2									2								
S-043	L6	2	31					4			1		6	1			1		
S-044	L4	2						2					3				1		1
S-046	M7	2	1					1											
S-048	M5	2						2											
S-049	M4	2						1					1				1		
S-049	M4	2						2											
S-052	N5	2						1											
S-053	M7	2						1									2		
S-054	M3	3						1			3		2						
S-056	M5	3	4		5			16			9	1	13	2			2		
S-057	M4	3	1					2	1		1		4	1			1	1	
S-058	M5	3	1		3			1			2		7						
S-059	M6	3	13			1		6					6			2		2	
S-061	M6	3	11	1	2	7		50	1		11		44			6	6	9	
S-062	M7	3	12		3	4		8			6		10					1	
S-063	L7	3	7	1									2					1	
S-064	M4	3	1								1		6						
S-066	M7	3	2			2		7	1		1								
S-067	L7	3	9		2			9			2		6			2			
S-067	L9	3	2					1										2	
S-068	L8	3	3	1	5			6			1		8	2		1	1	1	
S-069	L8	3	30	1	13	4		50	1		13		46		1	9	5	3	
S-071	L7	3	1		2		3				1		3			1			
S-072	M6	3	4	1	1	1		11		8	2		7				2	6	
S-072	L6	3	6		7			19			5		25	2		2	3	3	
S-072	M7	3	7		7	1	1	15	1		4		16			1	1	2	
S-073	M4	3						2								1			
S-073	M5	3	24		10	1		16			12		52	1	5	12	1	14	
S-074	L7	3	7		4			24			2		17	1	4	6	4	1	
S-076	M7	3	1					1											
S-077	M6	3	20		1			2		3			2		2	20		1	
S-078 淡赤灰色粘	M5	4	1																
S-079	L6	4	5		3			9			2		1		1	3	2		
S-081	M5	4																1	
S-084	M5	4											1		1				
S-087	M7	4	8		1		3	3										1	

Tab.17-2　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♣	▽	▼	◎	＋	♣
S-088	L7	4	4		5			2			4		2		1		1	1	
S-088	M7	4	4		4			2			1		4			1	1	1	
S-089	L7	4	2					5					1			4	1	1	
S-089	L9	4											1						
S-092	M7	4						1	1		1		1						
S-093	L8	4					1						2		1	5			
S-093明茶色土	L8	4			4								2						
S-094	L8	4	1					1									1		
S-096	L8	4	1					1					4			2			
S-097	L8	4	1		1			2					1	1				4	
S-098	L8	4	3					4			1		7		2			1	
S-099	L8	4	1								1							1	
S-101	L8	4	1		1								2						
S-102	L9	4						1					1				1		
S-103	M3	5						1							1				
S-104	M5	5	1										1				1		
S-106	M3	5											1						
S-107	L7	5	1										1						
Z			9		1			6	1		4	1	12				1	3	
茶灰色土	L8	裏土	2					1					5					2	
茶灰色土	N3	裏土											1						
灰褐色土	K8	I面 包含層	1					3											
灰褐色土	L3	I面 包含層						1					1					1	
灰褐色土	L6	I面 包含層			1									1					
灰褐色土	L8	I面 包含層			1			1					2					1	
灰褐色土	M3	I面 包含層						1						4					
灰褐色土	M4	I面 包含層						1										1	
灰褐色土	M6	I面 包含層						1						1					
灰褐色土	M7	I面 包含層			1						1		2	2					
灰褐色土	M8	I面 包含層	1																
灰褐色土	N4	I面 包含層						1											
灰褐色土	N5	I面 包含層						3						1					
茶色土	L3	I面 形成土	8		1								3					2	
茶色土	M3	I面 形成土	7										1					2	1
明茶色土	N4	I面 形成土						5					1					2	
明茶色土	M3	I面 形成土						1					1					1	
明茶色土	M4	I面 形成土	1					1											
明茶色土	L3	I面 形成土											2	6				1	
明茶色土	L4	I面 形成土						1											
赤茶色土	N4	I面 形成土	1						1		2		8				2		
褐茶色土	M5	I面 形成土	12		10	5		21					21			8	2	2	
褐茶色土	M8	I面 形成土	20		1	1		10			1		6			2	7	1	
暗茶色土	L3	I面 形成土				1		1											6
暗茶色土	L4	I面 形成土	8					6			1		1						
暗茶色土	L6	I面 形成土	3																
暗茶色土	L7	I面 形成土	1			2		1										1	
暗茶色土	L9	I面 形成土	40		14	3		77			15		64	1	1	4	9	10	
暗茶色土	M3	I面 形成土	1					9					4					1	
暗茶色土	M4	I面 形成土	3			2		5					4	1					
暗茶色土	M5	I面 形成土	30			3		23					4	1	1			2	
暗茶色土	M6	I面 形成土	10					23					2		2			1	
暗茶色土	M7	I面 形成土	6		3	2		17					7					1	4
暗茶色土	M8	I面 形成土						14			2		10						
暗茶色土	M9	I面 形成土	4	2				2		1			2						
暗茶色土	N4	I面 形成土	3					22					10			2		2	
暗茶色土	N5	I面 形成土	9					7			1		8						1
明茶赤色土	L7	SB050整地土	3		7			26			6		24	2		2	3	1	
明茶赤色土	L6	SB050整地土	5		2			12			5		16		3	2	1	2	
明茶赤色土	M3	SB050整地土	6		6	4	1	36	2		10		32	6		3	2	3	
明茶赤色土	M4	SB050整地土	10					4					6				2		
明茶赤色土	M5	SB050整地土	31		5			23	1		10		31	1	1	6	6	5	
明茶赤色土	M6	SB050整地土	43		4	7		107			31		99	2		6	9	29	
明茶赤色土	M7	SB050整地土	5			4		10			2		5				3	2	
明茶赤色土	N5	SB050整地土	4		5			47			9	1	27		1	2	5	20	
淡灰褐色粘	M5	SB050整地土	13		7	5		14			4		71			8	4	14	2
淡灰褐色粘	M6	SB050整地土	28		8	5		40			7		67			9	6	11	
淡灰褐色粘	L7	SB050整地土	1					2			6		23		1	1			
茶赤色粘	L6	III面 包含層	3		1			13			1		20		1	2		2	
茶赤色粘	M4	III面 包含層	35	1	15	3	2	107		1	26		118	1		14	6	11	

Tab.17-3　大宰府条坊跡第197次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	9
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	★	♣	▽	▼	◎	＋	♣
茶赤色粘	M7	III面 包含層	3	1	3	1		13					9					1	
茶赤色粘	M8	III面 包含層	5		5	2		8			5		13	1					
明茶灰色土	L7	IV面 形成土	3		2			1					3						1
明茶灰色土	L6	IV面 形成土															1		
明茶灰色土	L8	IV面 形成土	8			2		8			3		6			4		6	
明茶灰色土	M3	IV面 形成土						5			1	1	3					2	
明茶灰色土	M4	IV面 形成土	1		1			3					3					2	
明茶灰色土	M6	IV面 形成土	8		4	1		12					12			1	2	4	4
明茶灰色土	M7	IV面 形成土	3		1			3			1		2					2	
明茶灰色土	M8	IV面 形成土	1		1			3					3					1	
茶褐灰色土	L7	IV面 形成土	13		4	2		11					4	1	1	7	17	1	
茶褐灰色土	L8	IV面 形成土	6					5		1			9			2		1	

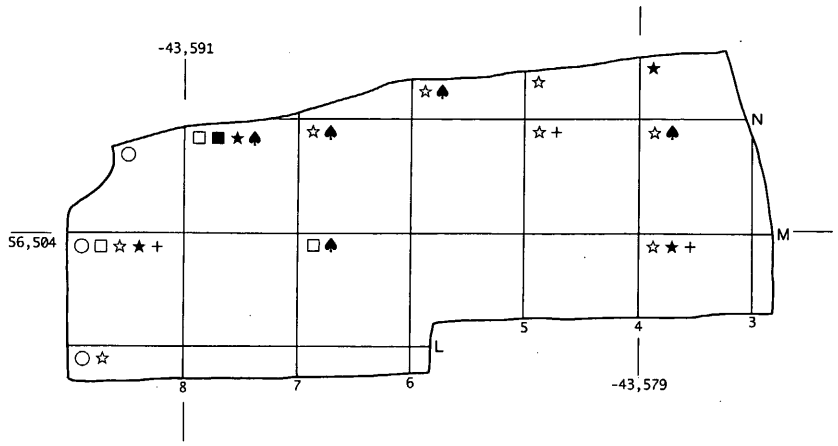


Fig.101　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面覆土鉱滓分布図【定性】

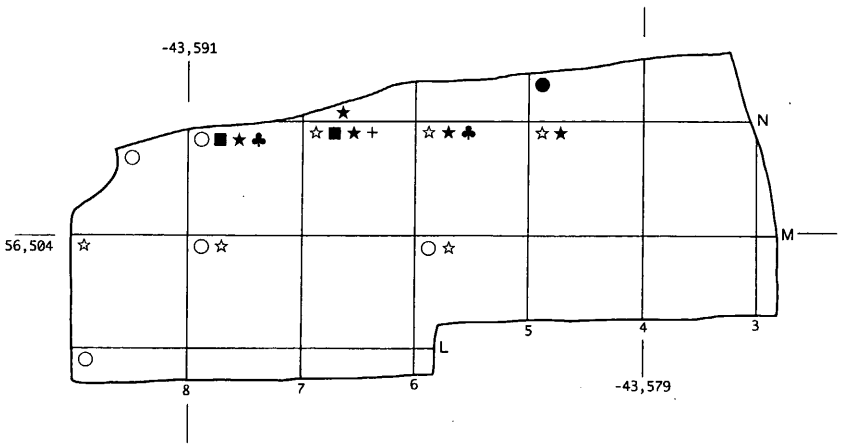


Fig.102　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面鉱滓分布図【定性】

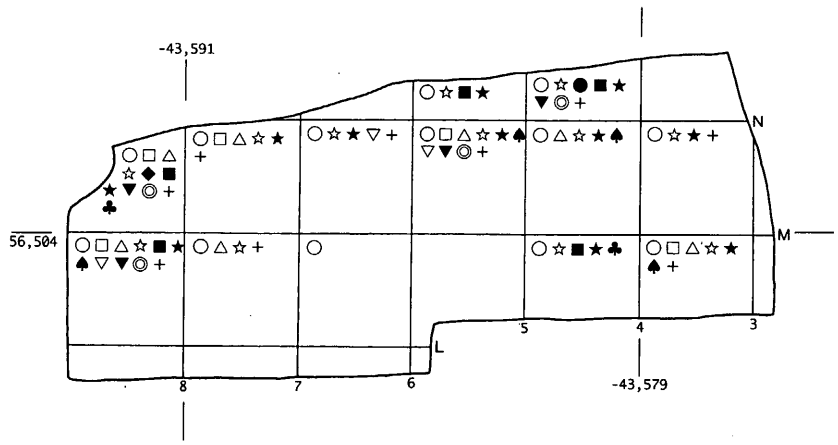


Fig.103　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面形成土鉱滓分布図【定性】

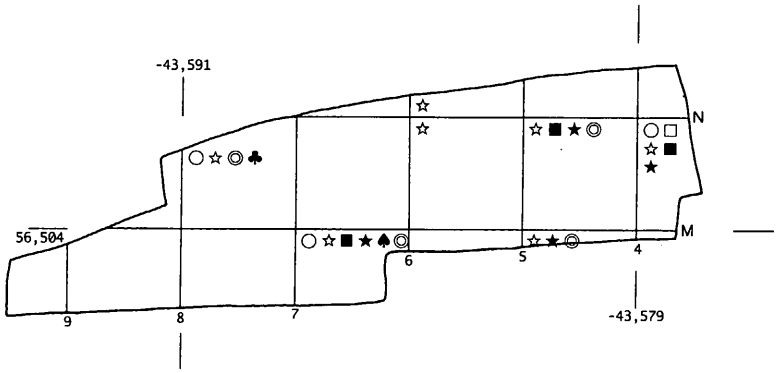


Fig.104　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面鉱滓分布図【定性】

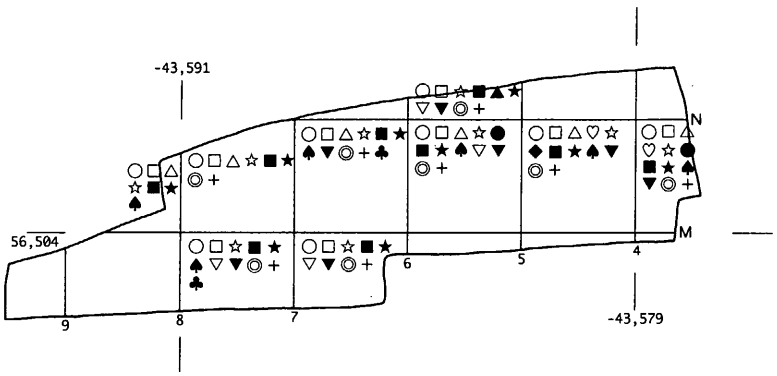


Fig.105　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面形成土鉱滓分布図【定性】

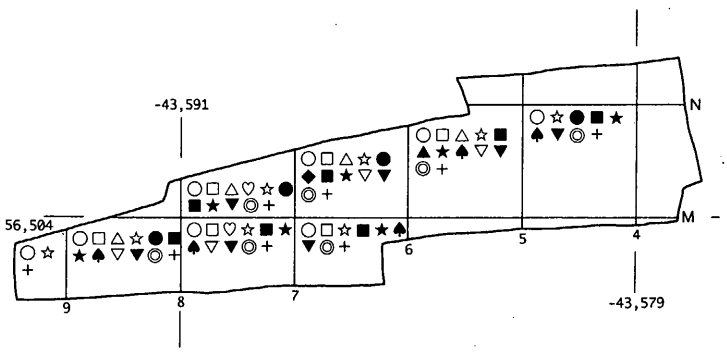


Fig.106　大宰府条坊跡第197次調査　遺構III面鉱滓分布図【定性】

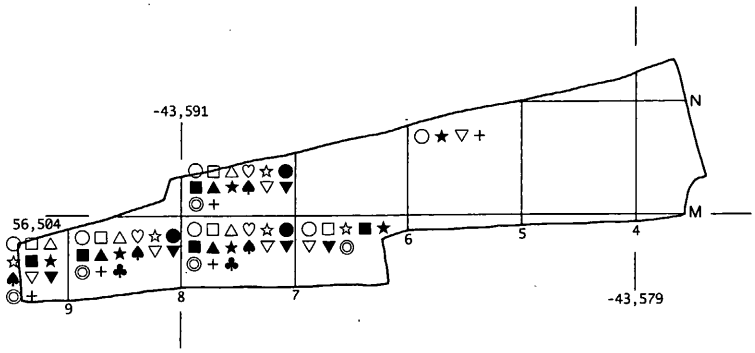


Fig.107　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面鉱滓分布図【定性】

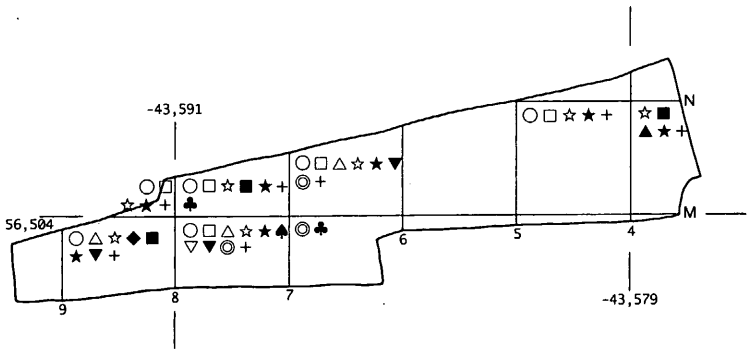


Fig.108　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面形成土鉱滓分布図【定性】

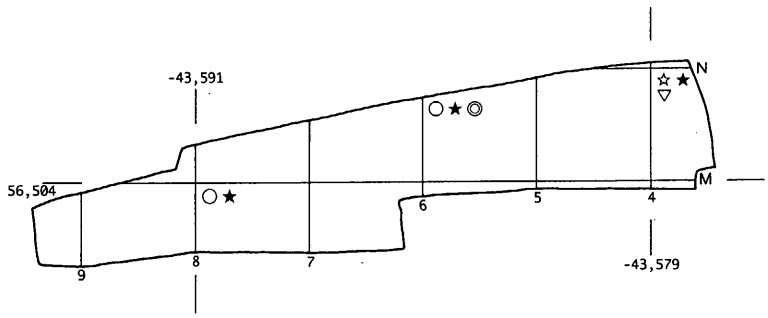


Fig.109　大宰府条坊跡第197次調査　遺構V面形成土鉱滓分布図【定性】

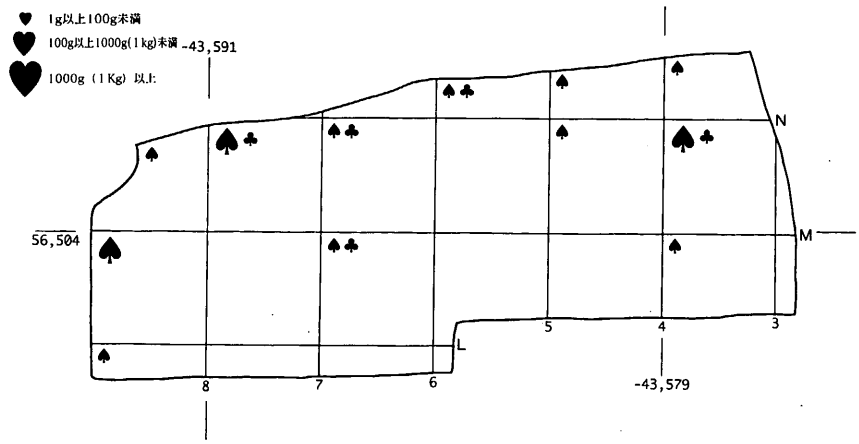


Fig.110　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面覆土鉱滓分布図【定量・重量】

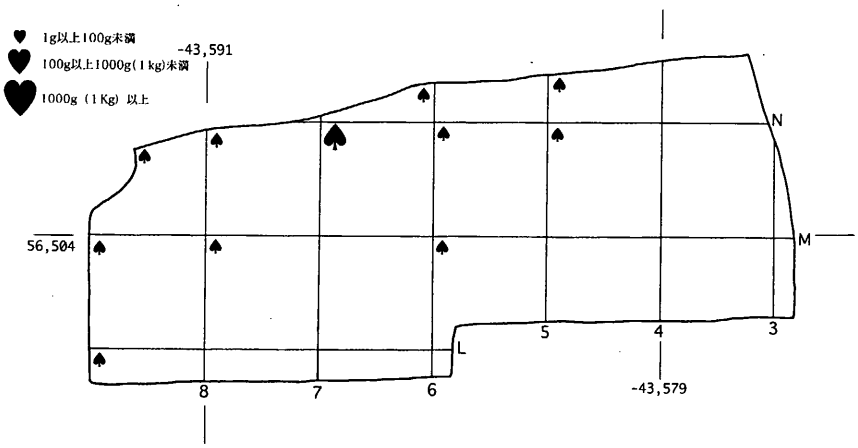


Fig.111　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面鉱滓分布図【定量・重量】

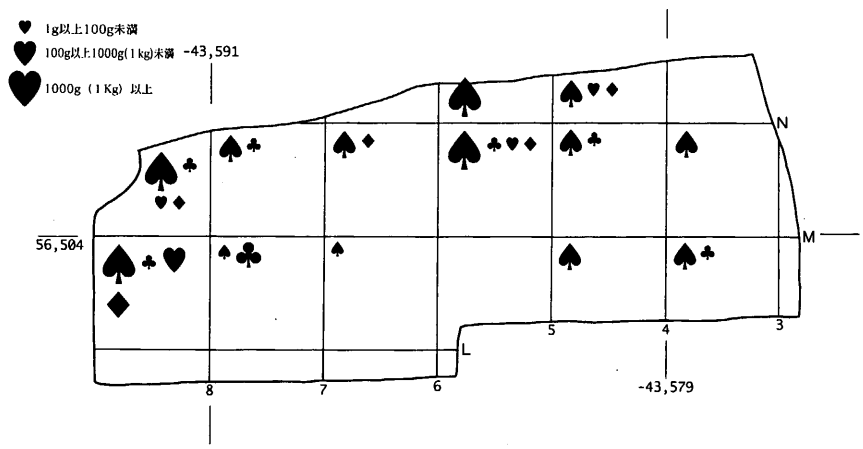


Fig.112　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面形成土鉱滓分布図【定量・重量】

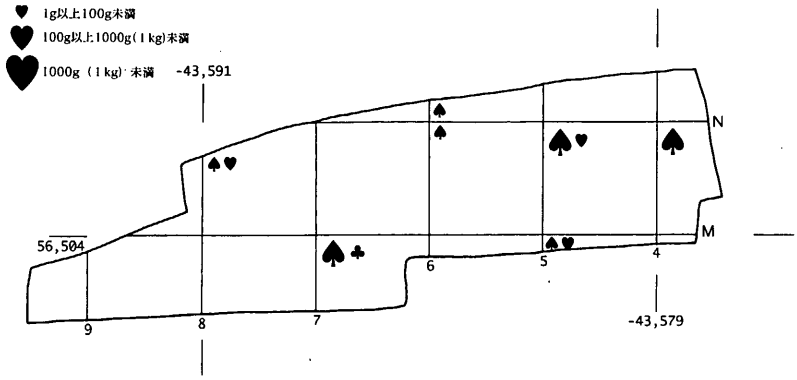


Fig.113　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面鉱滓分布図【定量・重量】

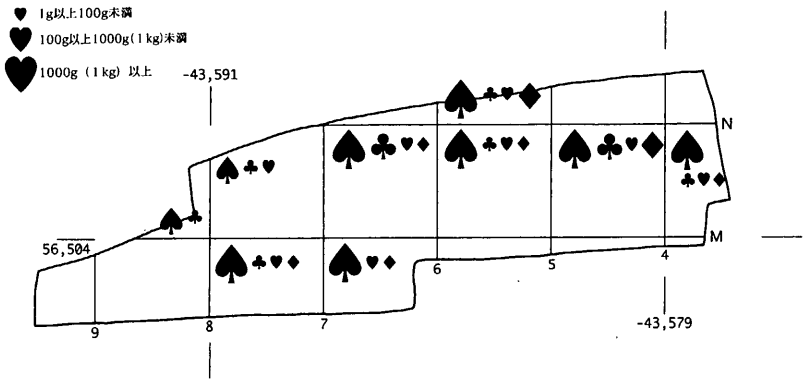


Fig.114　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面形成土鉱滓分布図【定量・重量】

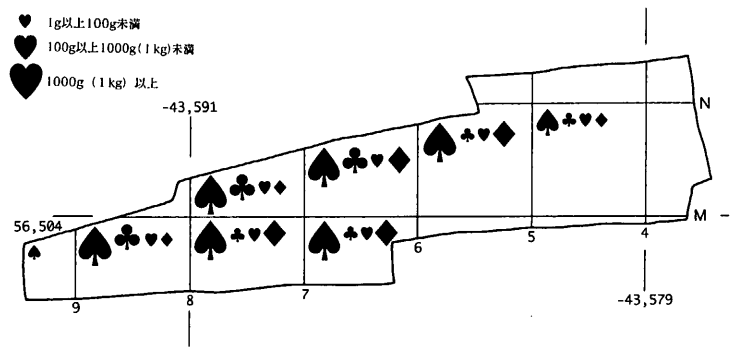


Fig.115　大宰府条坊跡第197次調査　遺構III面鉱滓分布図【定量・重量】

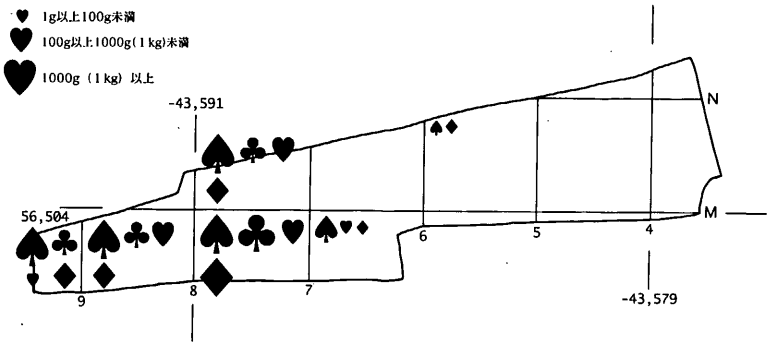


Fig.116　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面鉱滓分布図【定量・重量】

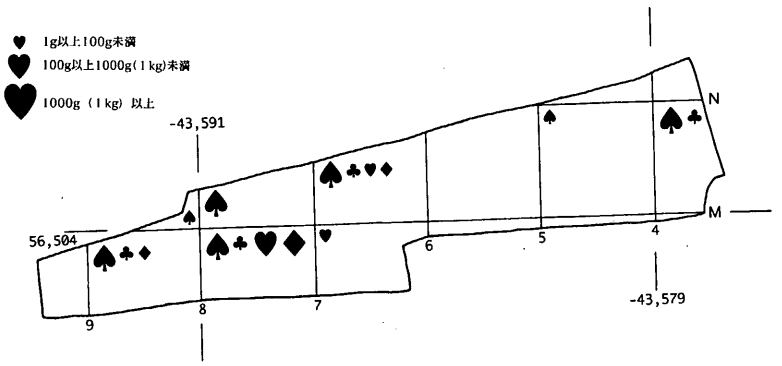


Fig.117　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面形成土鉱滓分布図【定量・重量】

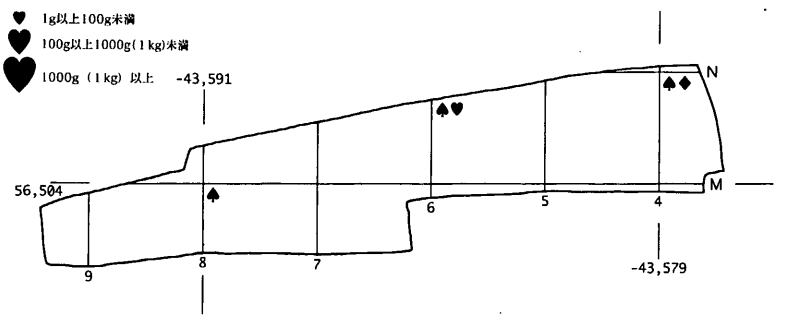


Fig.118　大宰府条坊跡第197次調査　遺構V面形成土鉱滓分布図【定量・重量】

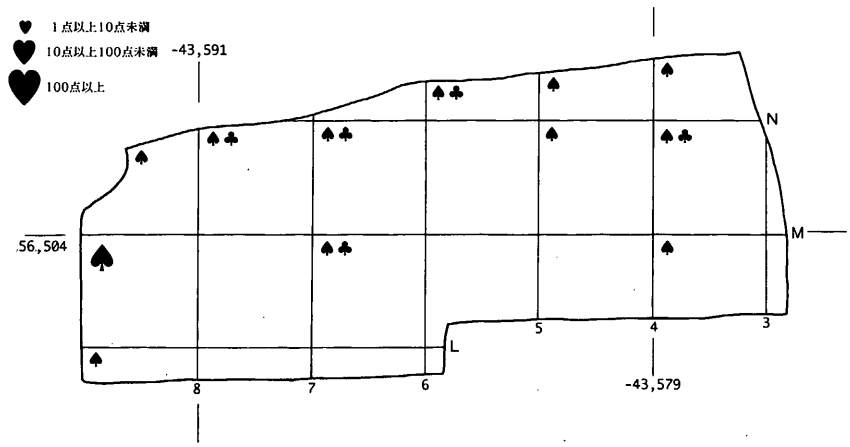


Fig.119　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面覆土鉱滓分布図【定量・破片】

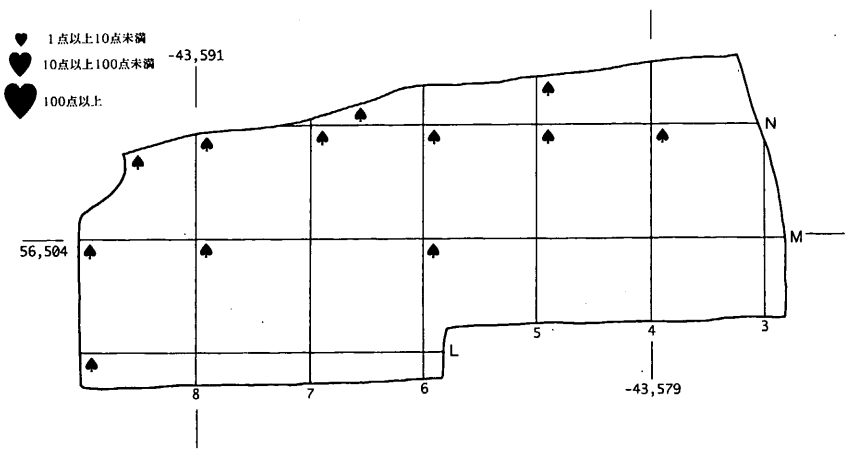


Fig.120　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面鉱滓分布図【定量・破片】

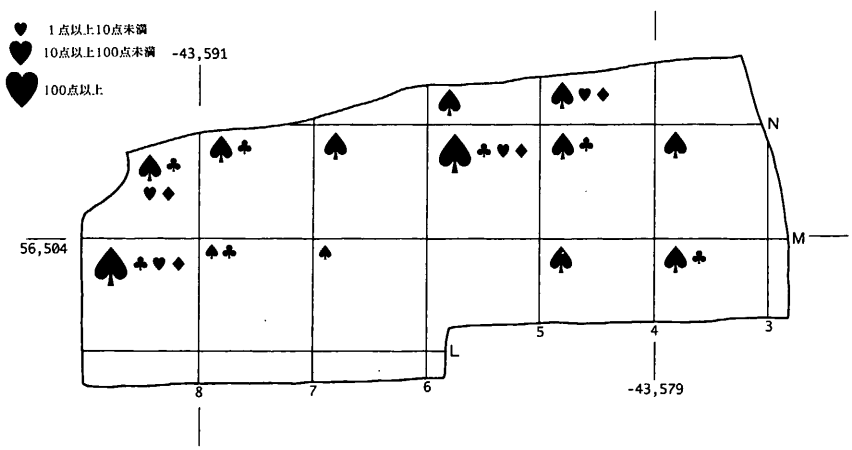


Fig.121　大宰府条坊跡第197次調査　遺構I面形成土鉱滓分布図【定量・破片】

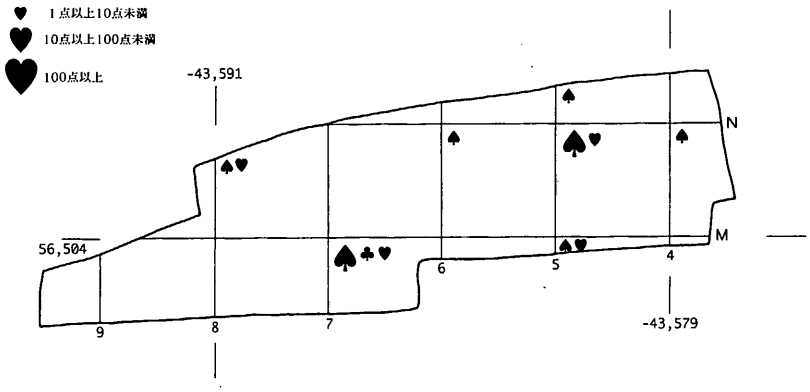


Fig.122　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面鉱滓分布図【定量・破片】

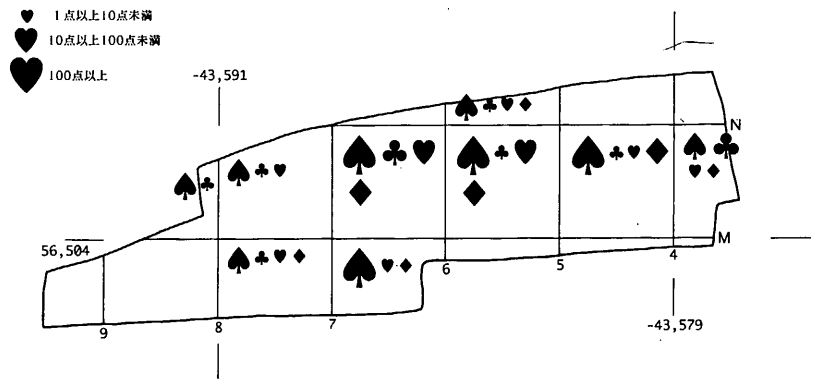


Fig.123　大宰府条坊跡第197次調査　遺構II面形成土鉱滓分布図【定量・破片】

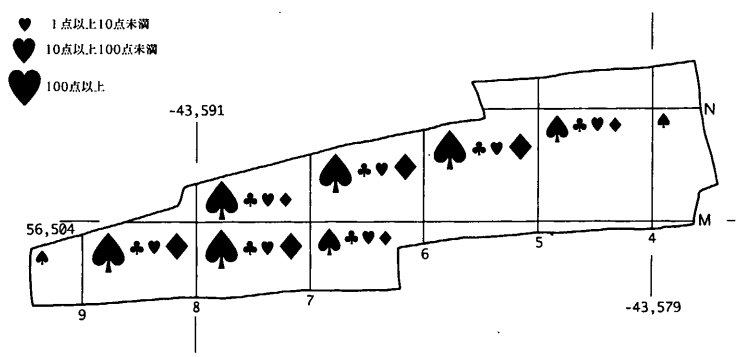


Fig.124　大宰府条坊跡第197次調査　遺構III面鉱滓分布図【定量・破片】

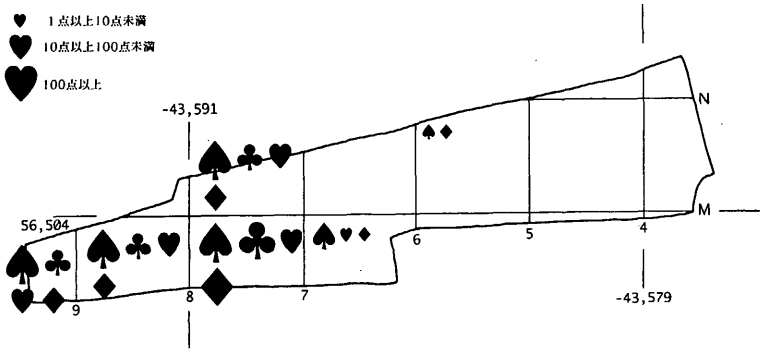


Fig.125　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面鉱滓分布図【定量・破片】

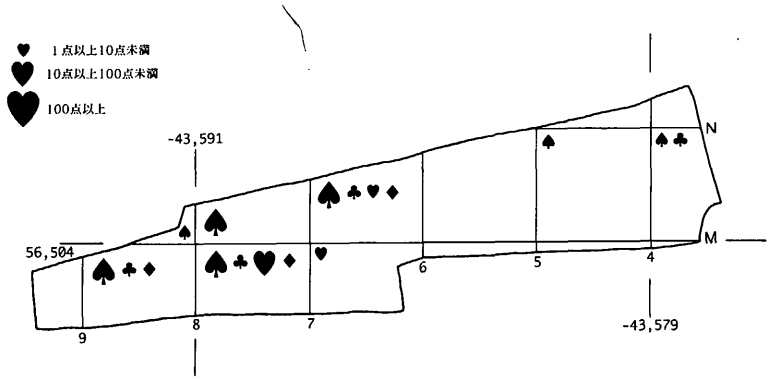


Fig.126　大宰府条坊跡第197次調査　遺構IV面形成土鉱滓分布図【定量・破片】

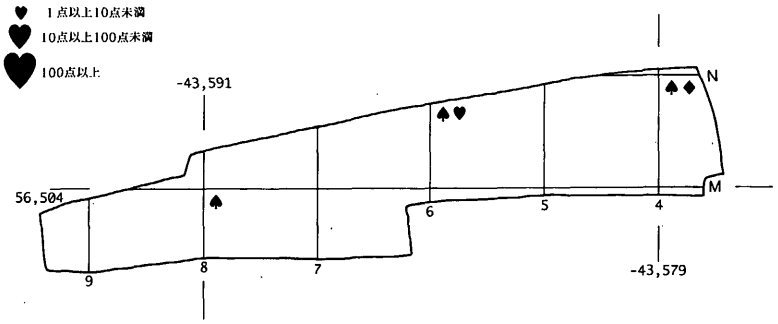


Fig.127　大宰府条坊跡第197次調査　遺構V面鉱滓分布図【定量・破片】

Tab.18　大宰府条坊跡第204次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	種別	時期	地区
1	SD001	溝（南辺溝）	III面	J10
2		畝状痕跡？	I面	H9
3		ピット群	I面	M10
4		カクラン　底付近で鋳型が多く見られる	I面	M10
5	SD005	溝（南辺溝）	III面	K10
6		畝状痕跡？	I面	L10
7		畝状痕跡？　明灰色土	I面	L10
8		堆積	I面	N10
9	SK009	土坑	II面	L10
10		ピット（柱穴？）	III面	L10
11	SK011	土坑　茶灰色土に黄灰色土含む	II面	L10
12		ピット群　茶灰色土に黄灰色土含む	II面	M10
13		ピット群　茶灰色土に黄灰色土含む　S-9←S-13	II面	L10
14		ピット群　茶灰色土に黄灰色土含む	II面	L10
15		ピット（柱穴？）	III面	L10
16		ピットと土坑　茶灰色土と黄灰色土の混じり	II面	J10
17		ピット群　茶灰色土と黄灰色土の混じり	II面	L9
18		ピット群　茶灰色土と黄灰色土の混じり	II面	M10
19		ピット群　茶灰色土と黄灰色土の混じり	II面	N10
20		ピット（柱穴？）	III面	J9
21		ピット群　灰茶色土	II面	M9
22		ピット群　灰茶色土	II面	N9
23		ピット	II面	L10
24		ピット　茶色土	III面	J10
25		ピット（柱穴？）	III面	J10
26		土坑　茶色土	III面	J10
27		ピット群　茶色土	III面	K10
28		ピット群　たまり状　茶色土	III面	L10
29		溝　S-20→S-29	III面	J9
30		ピット（柱穴？）	III面	K10
31		ピット群	III面	J10
32		ピット群	III面	K9
33		ピット（柱穴？）	III面	M10
34		ピット群　薄い堆積の下	III面	L10
35	SK035	鋳造土坑　S-80→S-75→S-35→S-70	III面	M10
36		赤色土と砂の堆積　鋳型も集中	III面	L10
37		ピット	III面	M11
38		ピット	III面	N11
39	SK050	廃棄土坑	III面	M9
40	SK040	土坑　鋳造土坑か？　小石・鉱滓多い。	III面	N10
41	SK041	廃棄土坑（一括）	II面　13c末～14c中頃	M12
42	SK042	廃棄土坑（一括）	II面　13c末～14c前半	M12
43		凹み　灰色土	II面	M11
44	SX044	凹み　茶灰色土	II面	M11
45	SK045	廃棄土坑　S-50→S-45	III面	N10
46	SE046	井戸　灰白色土　石含む　S-75→S-46	II面　14世紀中頃	M11
47		ピット群	II面	M11
48		たまり　明茶色土	II面	M12
49	SX049	堆積	II面	M11
50	SK050	廃棄土坑	III面	N10
51		ピット	II面	M11
52		ピット　灰白色土	II面	N11
53		ピット　S-49の下	III面	M11
54	SD054	溝　土器・石がたまる。	平安	N12
55	SK050	廃棄土坑	III面	M9
56		溝　S-56←S-75　炭が多い。	III面	M12
57		ピット　S-75の底部。掛け木のピットか？	III面	M11
60	SX060	石群	8世紀後半	I9・10
65	SK065	廃棄土坑（一括）　S-46埋土中。	II面　14世紀中頃	M11
70	SK070	鋳造土坑　S-35で掘っていたが完掘後に別遺構と考えた。	II面	M10
75	SK075	鋳造土坑　S-80→S-75　切り合いは不明瞭	III面	M11
80	SK080	鋳造土坑？　未掘　SK080→SK075	III面	M12
85	SX085	堆積	III面	M12

Tab.19-1　大宰府条坊跡第204次調査　遺物一覧表

S-1

須恵器	甕片
土師器	破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-2

須恵器	甕片
土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀片
同安窯系青磁	皿；I
瓦質土器	鉢片？
土製品	焼土塊？

S-3

土師器	破片
国産磁器	椀片
土製品	鉱滓

S-4

土師器	坏a(イト)、坏a、破片
肥前系陶磁器	椀
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-5

土師器	小皿a(イト)、破片
瓦類	破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-6

須恵器	壷×鉢
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-7

須恵器	蓋3、甕片、破片
土師器	坏、甕片
肥前系陶磁器	染付椀片
龍泉窯系青磁	椀；IV？
白磁	椀；IV×V、V、V-1×VIII-2、破片
	皿；VI-1？
瓦類	平瓦、破片
石製品	丸石
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-8

土師器	坏a(イト)、坏a、破片
金属製品	鉄釘
石製品	滑石片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-9

土師器	坏a(イト)、坏、小皿a
白磁	皿；IX-1c
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-10

土師器	坏
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-11

土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)、坏a、小皿a、坏c、破片
中国陶器	破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-12

土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-13

土師器	坏a×小皿a(イト)、破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-14

土師器	坏a(イト)、破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-15

須恵器	破片
土師器	破片
黒色土器A	破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-16

土師器	破片
白磁	椀；IV
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-17

土師器	坏a(イト)、坏片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-17下層

土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、鋳型

S-18

瓦類	坏a、破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-19

土師器	坏、小皿
白磁	皿；III-1？
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-20

土師器	小皿a(イト)
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-21

土師器	坏片、破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

Tab.19-2　大宰府条坊跡第204次調査　遺物一覧表

S-22

土　師　器	小皿a 、坏片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-23

土　師　器	坏a×小皿a(イト)、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-24

土　師　器	破片
中国陶器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-25

須　恵　器	蓋3、破片
土　師　器	坏片、破片
白　　磁	椀；V-1×VIII-2
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-26

土　師　器	破片
白　　磁	皿；IX
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-27

土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、焼土塊

S-28

土　師　器	坏a
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-29

土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

S-30

土　師　器	坏片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-31

土　師　器	坏a、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-32

土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-33

土　師　器	坏×小皿
龍泉窯系青磁	椀；II-b
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-34

土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型、焼土塊

S-35

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a、小皿a(イト)、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-35茶色土

須　恵　器	蓋3、甕片
土　師　器	坏(イト)、小皿a(イト)、甕？、丸底坏？
須恵質土器	鉢？
石　製　品	滑石製品
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-35下層

須　恵　器	破片
土　師　器	坏片、鍋片？、破片
龍泉窯系青磁	椀；I-2b
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-37

須　恵　器	坏c
土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-38

須　恵　器	蓋3
土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-39

須　恵　器	甕片
土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)、坏d

S-40

須　恵　器	破片
土　師　器	坏片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-41

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)、小皿b(イト)
中国陶器	壷片
国産磁器	染付椀(現代)
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-42

土　師　器	坏a(イト)、坏d(イト)、小皿b(イト)
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-42下層

土　師　器	坏a(イト)、小皿a(イト)
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-43

土　師　器	小皿a(イト)、小皿、坏片、坏？
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

Tab.19-3　大宰府条坊跡第204次調査　遺物一覧表

S-44

土　師　器	坏a(イト)、小皿b(イト)、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-45

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a(イト)、小皿a
瓦　　類	平瓦(格子)
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-46

土　師　器	坏a(イト)、坏a(イト)、坏片
龍泉窯系青磁	椀；II、I-4、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-46灰色土

土　師　器	小皿a(イト?)、坏a(イト)、坏片
龍泉窯系青磁	椀；II、I-4、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-46淡灰土

土　師　器	小皿a、坏a、小皿b(イト)
白　　磁	皿；IX-1c
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型、焼土塊
瓦　　類	平瓦片

S-47

土　師　器	坏a、小皿a、小皿b
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-48

土　師　器	坏a、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-49

土　師　器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏a
須恵質土器	鉢
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-49灰茶土

須　恵　器	坏c、破片
土　師　器	小皿a(イト)、坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀；II-b
須恵質土器	鉢？
石　製　品	砥石、丸石
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-50

土　師　器	小皿a(イト)、小皿a、皿c、坏a、坏片、鉢片
龍泉窯系青磁	椀；II-b
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-50最下層

土　師　器	坏片
中国陶器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-51

土　師　器	坏a(イト)、小皿
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁

S-52

土　師　器	破片
白　　磁	皿；IX-1c

S-53

土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-54

土　師　器	小皿a、坏a、坏片、丸底坏？、甑？
瓦　　類	平瓦(格子)
木　製　品	炭

S-55

土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-56

土　師　器	坏a(イト)、小皿
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-57

須　恵　器	壷×鉢片
土　師　器	破片(イト)
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-60

須　恵　器	坏c、坏片、蓋3、甕片、壷片
土　師　器	甕片、破片
国産陶器	破片(近世)、土瓶蓋
白　　磁	椀；IV～VIII、段2
	皿；I、II、IX
肥前系陶磁器	染付椀
国産磁器	破片(近世)
石　製　品	焼け石
瓦　　類	平瓦

S-65

土　師　器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏b
土　製　品	鉱滓付き炉壁

S-70

土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-75

土　師　器	坏a、坏片
白　　磁	椀；破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、鋳型

S-80

土　師　器	破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

S-85

土　師　器	丸底坏、破片
土　製　品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

Tab.19-4　大宰府条坊跡第204次調査　遺物一覧表

灰茶色土

須恵器	坏c、蓋3、甕片、破片
土師器	小皿a、小皿b、坏a(イト)、坏a、鉢、破片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I、I-2×3、I×II、II、II-b、IV
	小椀III-1、東口椀II-b
	皿；I
	坏；III、IV
同安窯系青磁	椀；I-1b
	皿；I、I-1、I-1b、I-2b
土師質土器	七輪
須恵質土器	擂鉢
瓦質土器	鉢
緑釉陶器	破片
国産陶器	擂鉢片、破片
白磁	椀；IV、IV～VIII、V-1×VIII-2、破片
	皿；VIII-2？、IX、IX-1、皿×椀IX
	その他；四耳壺、水注×壺、破片
中国陶器	鉢；I-1b　盤；I-2
肥前系陶磁器	染付椀
金属製品	古銭
石製品	チャート、珪化木（石炭）
瓦類	平瓦、平瓦（新）
その他	ビー玉
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、鋳型

茶灰色土

須恵器	坏c、蓋1、壺d×f、破片
土師器	小皿、小皿a(イト)、坏a、坏a(イト)、坏、甕
黒色土器B	破片
龍泉窯系青磁	椀；II-b
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	鉢（東播系）
白磁	椀；IV　皿×椀IX　その他；破片
中国陶器	鉢；擂鉢
肥前系陶磁器	染付
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型、粘土塊
石製品	滑石製石鍋、碁石
瓦類	平瓦(格子叩)、平瓦（無文）
その他	炭

赤茶色土

須恵器	甕片
土師器	小皿a(イト)、小皿a、坏a、坏片、鍋片、甕片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；II-b
同安窯系青磁	椀；I-1b
白磁	皿；II-1
石製品	滑石製品
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

赤茶粘土

土師器	小皿a(イト)、破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

茶色土

須恵器	坏c、破片
土師器	小皿a(イト)、小皿a、坏a(イト)、坏片、大坏c、破片
龍泉窯系青磁	椀；I、I-1、I-4，I-4c、II、II-a、II-b
同安窯系青磁	椀；I-1b、破片
白磁	椀；V～VIII、破片
	皿；IX、IX-c、IX-1c
青白磁	合子蓋？
中国陶器	壷；IV-1×2、破片、甕；I
須恵質土器	鉢（東播系）
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器甕片
瀬戸	おろし皿
石製品	石鍋、チャート片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型
瓦類	平瓦

茶褐色土

土師器	破片
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

灰黄色土上層（トレンチ）

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a(イト)、坏b(イト)、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；I×II
同安窯系青磁	椀；III

灰黄色土

須恵器	坏片、破片
土師器	坏、坏a(イト)、坏a、坏c
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	坏；III
同安窯系青磁	皿；I
	他器種；破片
白磁	椀；V～VIII
石製品	丸石（碁石）

黄灰色土

須恵器	蓋3、破片
土師器	坏a(イト)、坏c、坏片
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；I-1、I-2～4
同安窯系青磁	椀；I-1b
瓦類	瓦玉

暗黄灰色土

須恵器	甕片、坏c
土師器	坏c、坏片、小皿片、甕片
黒色土器A	破片
白磁	破片
金属製品	鉄刀
土製品	土製品

明灰色土

須恵器	甕片、壷片？、破片
土師器	坏片、小皿片

Tab.19-5　大宰府条坊跡第204次調査　遺物一覧表

淡灰茶土

須恵器	坏片、甕片、壷b
土師器	小皿a、坏片、甕片
白磁	椀；破片

明灰褐土

須恵器	壷×鉢片、破片
土師器	小皿a、甕片
白磁	椀；IV-1×2b
肥前系陶磁器	破片

灰色土

須恵器	坏a、坏c、大坏c、蓋ｃ、蓋3、皿？、壷b、高坏、甕片
	蓋4、つまみ
土師器	蓋3、坏片、甕片
白磁	椀；V-1
石製品	黒曜石剥片、剥片
瓦類	平瓦片

黄茶色土

土師器	坏a、小皿

灰褐色土（トレンチ）

須恵器	甕片、破片
土師器	坏片、甕片

黄色土

須恵器	蓋4、破片
土師器	坏c、坏、小皿a(イト?)、把手
龍泉窯系青磁	椀；I

淡灰色土

須恵器	甕片
土師器	坏片、小皿片
黒色土器B	破片
龍泉窯系青磁	椀；I
白磁	皿；II×III
瓦類	瓦玉、破片(格子叩)

暗灰茶色土

須恵器	高坏b
土師器	坏a、小皿a、甕片、破片
同安窯系青磁	椀；I-1b
白磁	椀；IV-1b
肥前系陶磁器	破片
土製品	鉱滓

表土

須恵器	坏c、破片
土師器	坏a、坏c、坏片
龍泉窯系青磁	椀；II-b
	皿；I
須恵質土器	鉢
瓦質土器	破片
白磁	椀；IV、破片
肥前系陶磁器	染付椀
国産磁器	破片
石製品	石炭
瓦類	丸瓦、平瓦(格子叩)、平瓦（無文）
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁、炉壁、鋳型

表採

土師器	小皿a、破片
白磁	椀；IV
	皿；V×VI
石製品	黒曜石
土製品	鉱滓、鉱滓付き炉壁

Tab.20-1　大宰府条坊跡第204次調査　遺物計測表

S-5

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	—	a-001	—	—	(6.8)	○	—

S-8

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	—	a-001	(11.0)	2.2	(7.6)	○	—

S-9

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	—	a-001	—	—	(13.4)	—	—

S-11

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	—	a-001	—	—	(8.0)	○	○
	〃	—	a-002	—	—	(8.0)	—	—

S-20

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿（イト）	—	a-001	—	—	(6.4)	○	○

S-22

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	—	a-001	(8.0)	1.2	(6.0)	—	—

S-35

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	—	a-001	—	—	(6.8)	○	○
	坏a	—	a-002	—	—	(7.8)	○	○

S-35茶色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿	—	a-001	—	0.9+α	(5.2)	○	○

S-39

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	Fig21-3	R-001	(12.9)	2.55	(8.7)	○	—
	小皿a 〃	Fig21-1	R-002	(8.4)	1.15	(6.8)	—	—
	坏a（イト）	—	a-001	—	1.75+α	(9.2)	○	○
	〃 〃	—	a-002	—	1.1+α	(11.2)	○	—

S-43

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	—	a-001	—	1.2+α	(6.3)	○	○

S-44

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b（イト）	—	R-001	(6.8)	1.8	4.5	○	○
	坏a （〃）	—	a-001	(14.6)	2.6	(11.4)	○	○

S-45

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿（イト）	—	a-001	—	—	(7.6)	—	—

S-46

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	—	a-001	(8.8)	1.2	(7.2)	○	—
	坏a（イト）	—	a-002	—	1.2+α	(8.0)	○	—
	〃	—	a-003	(15.2)	2.6	(13.4)	○	—

S-46淡灰色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b（イト）	—	b-001	—	0.9+α	(4.5)	○	○
	〃 〃	—	b-002	(6.4)	1.5	(4.0)	○	—
	小皿a（イト）	—	a-003	(6.2)	1.05	(5.3)	—	○
	〃 〃	—	a-004	(7.1)	1.0	(5.6)	—	—
	〃 〃	—	a-005	(7.0)	1.2	(5.2)	—	—

S-49

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト？）	Fig13-3	R-001	(12.7)	2.55	(9.6)	—	—
	小皿a	Fig13-1	R-002	(6.2)	1.0	(5.2)	○	—
	〃（イト）	Fig13-2	R-004	(7.7)	1.1	(6.0)	—	—
	坏a	—	a-001	(11.0)	2.7	(7.5)	—	—
	小皿a	—	a-002	(8.2)	1.1	(7.2)	○	○

S-49灰茶色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	Fig13-8	R-001	(11.6)	2.8	(7.2)	—	—
	〃（〃）	Fig13-7	R-002	(10.4)	2.4	(6.7)	○	○
	小皿a（イト）	Fig13-6	R-003	(7.8)	1.0	(5.0)	○	○
	小皿a	—	a-001	(8.8)	0.9	(7.7)	○	○
	坏a（イト）	—	a-002	(13.2)	2.7	(10.1)	○	○
	〃 〃	—	a-003	—	1.4+α	(8.6)	○	○
	〃 〃	—	a-004	(10.0)	2.0	(6.8)	○	—

S-50

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a	Fig21-2	R-013	(10.6)	2.7	(7.4)	○	
	小皿a（イト）	—	a-001	(7.8)	1.0	(6.6)	○	—

S-54

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	Fig25-1	R-001	(8.8)	1.0	(7.7)		
	〃	Fig25-2	R-002	—	1.0	—		

S-60

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
須	坏c	Fig27-2	R-001	—	1.4+α	(8.8)	○	
	蓋3	Fig27-1	R-002	(13.6)	1.5+α	—		

灰茶色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	—	a-001	—	1.4+α	(8.0)	○	○

茶灰色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏a（イト）	—	a-001	—	—	(11.0)	—	○
	〃 〃	—	a-002	(11.6)	2.2	(7.4)	○	○
	小皿a（イト）	—	a-003	(8.6)	1.3	(6.6)	○	○
	〃 〃	—	a-004	(8.6)	0.9	(7.4)	○	—
	坏a（イト）	—	a-005	(13.1)	2.65	(8.6)	○	—

赤茶色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
須	小坏a（イト）	Fig29-3	R-001	(9.7)	2.0	(6.0)	○	—
土	小皿b（イト）	Fig29-2	R-002	7.2	1.65	5.2	○	○
	小皿a（？）	Fig29-1	R-003	(6.6)	1.2	(4.7)	—	—
	小皿a	—	a-001	(8.4)	0.9	(7.0)	○	—
	〃（イト）	—	a-002	(7.5)	1.2	(5.4)	○	—
	小皿b	—	b-003	(6.4)	1.5	(4.8)	—	—

茶色土

種別	器種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a（イト）	Fig30-1	R-001	(7.5)	1.05	(5.8)	○	○
	小坏a 〃	Fig30-2	R-002	(8.6)	1.85	(6.0)	○	○
	坏a 〃	Fig30-3	R-003	(13.0)	2.9	(9.9)	—	○
	〃 〃	Fig30-4	R-004	(12.2)	2.1	(7.8)	—	○？
	小皿a（イト）	—	a-001	(8.4)	1.0	(6.8)	○	○
	坏a	—	a-002	(13.6)	2.85	(8.6)	○	○
	小皿a（イト）	—	a-003	(8.7)	1.0	(7.0)	○	○
	坏a （イト）	—	a-004	—	—	(9.0)	○	○
	〃 〃	—	a-005	(12.9)	2.55	(9.2)	○	—
	小皿a	—	a-006	(10.8)	1.05	(9.4)	—	—

Tab.20-2　大宰府条坊跡第204次調査　遺物計測表

S-47

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	－	a-001	(7.4)	1.3	(6.0)	－	－
	小皿b（イト）	－	a-002	(7.6)	1.7	(5.0)	－	－

暗灰茶色土

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	－	a-001	(9.6)	1.05	(8.4)	－	○

淡灰茶色土

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	－	a-001	(9.3)	0.95	(8.0)	○	－
	〃	－	a-002	(10.4)	1.05	(9.0)	○	－

黄茶色土

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	－	a-001	(8.0)	0.75	(6.8)	○	○

灰黄色土上層

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
土	坏b？（イト）	Fig38-8	R-001	－	1.2	(9.0)	○	○
	小皿a（〃）	Fig38-7	R-002	(8.6)	1.0	(7.0)	－	○
	〃　（〃）	Fig38-6	R-003	(7.6)	1.0	(5.1)	○	－
	〃　（？）	Fig38-5	R-004	(7.1)	1.1	(6.1)	○	－

灰色土

種別	器　種	図版番号	R.a-	口径	器高	底径	A	B
須	坏c	Fig27-10	R-001	－	1.7+α	(10.2)	－	－
	蓋3	Fig27-7	R-003	(24.2)	0.8+α	－		
	皿	Fig27-12	R-004	(18.8)	2.0+α	－		
	蓋b	Fig27-15	R-005	(10.2)	3.2+α	－		
	高坏b	Fig27-14	R-006	(24.6)	1.9+α	－		
	蓋c	Fig27-4	R-007	－	1.75	－		
	蓋3	Fig27-8	R-008	－	1.0	－		
	坏c（ヘラ）	Fig27-9	R-009	(11.7)	3.8	7.15	○	
	高坏	Fig27-13	R-010	(20.1)	2.3+α	－		
	蓋4（ヘラ）	Fig27-5	R-011	(15.4)	1.3+α	－	○	－
	蓋c（ヘラ）	Fig27-3	R-012	－	1.1	－	○	－
	坏c（ヘラ）	Fig27-11	R-013	－	1.3+α	(9.8)	○	
	蓋3（ヘラ）	Fig27-6	R-014	(17.1)	1.5+α	－		

Tab.21-1　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	▼	★	◆	▽	▼	○	＋	♤
S-003	N10	I						24.4												
S-004	M10	I	15					64.6			11			65.6						
S-006	L10	I	104.1					4.4						112.5						
S-007	L10	I	41.6		34.7			53.4			16.2			253.7	8.8					
S-007	J10	I	105.7		28			85.2	12.4		46.1			224.4		21.1	11	10.3	25.7	
S-008	N10	I	11.2					123			46.7			117					9.5	
灰茶色土	H9	I	2.9					3.1						8.8						
灰茶色土	なし	I	156.5	16.5	7.5			99.8			113.8			589	1.4	132.6	7.8		62.7	
灰茶色土	K9	I	56.2					121			32.9			277.8					37.1	
灰茶色土	G9	I	3.4					11									40.2			
灰茶色土	J10	I	35.3					78.8												
灰茶色土	I9	I												45.1						
灰茶色土	N10	I						79.4						9.8						
灰茶色土	K10	I	30.4					48.6						8.2	6.7		13.8			
灰茶色土	M11	I	167.7			27.3		90.1						350.2		28.3			23.5	
灰茶色土	M10	I	87.7					27.3						59.6						
灰茶色土	L10	I	184.7					44.8						96.4		8.2		87.6	10.3	
暗灰茶色土	H9	I 層土	25.5		1.4														11.8	
暗灰茶色土	なし	I 層土	5.6													0.2				
表採			59.5					14				47.2	4.1	47.5						
表土			317.2					195.1		52.5	64.3			172.1		1092.2	7.3	230.5	3	
茶灰色土	I10	II 層土	52.7		11.5			17.7			7.2			81.7		8.6	2		3.5	
茶灰色土	I10a	II 層土	63.8		4.6			21						22.5						
茶灰色土	I10b	II 層土	128.3		8.9	40.1		65.6	16.4		8.7			66.1		1.9	5.8			
茶灰色土	I10d	II 層土						5.1												
茶灰色土	I10h	II 層土												10.9						
茶灰色土	I9b	II 層土	5		7.2			2.7												
茶灰色土	I9c	II 層土	15.1					21.9						51.1		8		2		
茶灰色土	I9e	II 層土						5.7						32.2						
茶灰色土	I9f	II 層土												26.9						
茶灰色土	I9i	II 層土												22.9						
茶灰色土	J10a	II 層土	2.9		15.7	2.9		18.2						23.5			3.8			
茶灰色土	J10b	II 層土	162					195.4			9			96.8			0.4			
茶灰色土	J10c	II 層土	106.1		10.2			2.3												
茶灰色土	J10d	II 層土	245.7		9.2	188.2		101.1			45.2			131.5		4.8	19.7			
茶灰色土	J10e	II 層土	15.1		7.4			84.7			9.5			31.3		8.8				
茶灰色土	J10g	II 層土	226.8		1.3	22.1		77.9			132.1			63.9		4.9	18.7		18.4	
茶灰色土	J10h	II 層土	127.3		3.4	46.4		40						147.2					10.4	
茶灰色土	J9b	II 層土	96		26.5			64.2						172.7		20.8				
茶灰色土	J9c	II 層土	625		53.2	73.2		226.4			9.1			207.6		7	39.1	1.2	38.6	
茶灰色土	J9e	II 層土	103.5		3.7			24.6						78.2						
茶灰色土	J9f	II 層土	57		4.9			80.4			8.7			90.1					1.4	
茶灰色土	J9h	II 層土			2.6			20.2						58.7						
茶灰色土	K10	II 層土	701.3		72.2	72.1		359.3	5.1		61.4			692.8		52.1	21.9	12.9	20	
茶灰色土	K10b	II 層土	162.7		55.1	10.7		181.1						232.9	2.1		275.6	6.6	25.8	
茶灰色土	K10c	II 層土			4.7			0.9								7.1	19.7	32		
茶灰色土	K10d	II 層土	39.3		26.5	2.2		132.7			13			211.4		4.7	29.4		19.5	
茶灰色土	K10e	II 層土	5.3					59.2						5.6				154.5		
茶灰色土	K10f	II 層土	93.8			8.3		84.2						65.4		99.4	27.7	14	4.4	
茶灰色土	K10g	II 層土	56.3		12			5.1						80.6						
茶灰色土	K10h	II 層土	138.9		17.1	4.4		93.1			42.8			193.2		29.1	22.6	15.7		
茶灰色土	K10i	II 層土	81.8		20.4			36.8						125.9		69.7	82.3	345.7		
茶灰色土	K9e	II 層土	211.6		15.6			137.3			65.1			179.1		13.6	1.2	375	35.1	
茶灰色土	K9g	II 層土	130.7		9.5	22.4		200			95.9			504		20.1	20.9	18		
茶灰色土	K9i	II 層土	349.8		61.6	32.3		165.4			66.4			313.8		15.8	1.2	19.7		
茶灰色土	L10a	II 層土	192.2		26.9	56.5		154.2			66.6			283.8	11.6	23.4	11.1	77.1	92.1	
茶灰色土	L10b	II 層土	236.8		49.6	36		212.3	4.3		80.7			432.5		42.4	24.8	7	39.2	
茶灰色土	L10c	II 層土	77.7					41.3			51.1			171.5		31.3	10.2	60		
茶灰色土	L10e	II 層土	201.5		54			67.4						110.2		37.2	12.4	2.5	3	
茶灰色土	L10g	II 層土	90.9		60.9	6.3		101.5						87		4.1	40.1	71.9	3	
茶灰色土	L10i	II 層土	14.8		17.6			13.3			52.7			142.1	5.3		16.2	28	16.1	
茶灰色土	L10h	II 層土	104.6		14			123.8			28.5			356.3		65.9	28	54.1	88.3	
茶灰色土	L10f	II 層土	65.9					100.6			18.6			120.6		15.5			12	
茶灰色土	L10	II 層土	259.5		23.3	102.1		101.1			67.7			377.8	51.1	95.1	21.8	10.3	48.6	
茶灰色土	L9e	II 層土	381.7		76.1	30.3		320.4	124.3		104.1			601.3		10.1	12	12.1	99.3	
茶灰色土	L9f	II 層土	12.3												9.3	19.3	12.1			
茶灰色土	L9i	II 層土	337.3		77.5	17.9		432.8			72.4			825.5	5.2	49.3	24.1	0.1	1	
茶灰色土	M10a	II 層土	475.6		128.8	25		577.9			109.9			1525.5	17.3	30.2	4.5		2	
茶灰色土	M10b	II 層土	108.2					178.8			47.6			289		8.9	10.1	8.6	4.7	
茶灰色土	M10c	II 層土			0.5	0.3		8.3								37	46.1	336.5	15.1	
茶灰色土	M10d	II 層土	158		114.5			539.8			59.4			542.4	9.7	72.7	47.3		53.6	
茶灰色土	M10e	II 層土	266		127.6			618.9			47.6			510.4	11.4	77.1	36.9	18.6	18.8	
茶灰色土	M10f	II 層土	445.5		208.5	53.6		1263.9			60.7			1196.5	27.4	94.7	45.9	24	49.1	
茶灰色土	M10g	II 層土	277.4		162.2	17.3		548.7			2.4			542.5	20.7	17.9	46.2	0.9	33.3	0.2
茶灰色土	M10h	II 層土	601.3		162.7	9.6		272.9						415	16.1	158.8	52	45.7	61.8	
茶灰色土	M10i	II 層土	319.3		204.1			667			37.2			620.2	21	97.6	53.9	40	7.6	
茶灰色土	M11d	II 層土																19.7		
茶灰色土	M11g	II 層土	104.8		9.6			141.5			13.6			144		31.5	2.2	0.1	27.3	

Tab.21-2　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	✪	＋	♤
茶灰色土	M11a	II覆土	295.3	0.6	77			671.6			288			524.5	21.9	127.9	24.5	47.5	109.3	
茶灰色土	M9c	II覆土	36.2		6.3			137.6			54.6			202.7		4.4	4.7	8.6	68.7	
茶灰色土	M9d	II覆土	269.5		57.5			306.7			100.7			426.5	3.2	49.4	0.4	17.6	27.9	
茶灰色土	M9f	II覆土	493.6		54.7			0.9			73.2			342.4	8.3	17.6	8.5	16.1	17.3	0.4
茶灰色土	M9i	II覆土	119.9		74.4			184			52.3			204.7		6.6	6	48.7	24.5	
茶灰色土	N9i	II覆土	45.2		19.6			185			13.7			147	1		16.3	50.6	14.2	
茶灰色土	N10g	II覆土	216.1		147.1	6		530.5			183.3			842.4	15.8	97.1	14.8	43.5	49.5	1.2
茶灰色土	N10h	II覆土	335.5		120.7			716.4			221.4			976.8	22.6	63.9	12.7	97.2	93.8	
茶灰色土	N10i	II覆土	302.8		139.8	44.6		619.3	94.7		121.9			1246.7	16.9	0.5	7.2		10.8	
茶灰色土	N11g	II覆土	103.1		69.7	49.5		170.8	22.5		157.5			593.4	6.2	72.7	53.8	55.7	51.3	
茶灰色土	なし	II覆土	70.6		17.8	13.8		82.2			43.1			45.7		28.8	7.9	24.6	70.4	
茶灰色土	KL10	II覆土	213.1		23.6	2		60.3	51.7		22.4			183.3	10.5		3	42.4	83.7	
茶灰色土	U10	II覆土	35.8		2.2			40.4						106.6			9.6			
S-11	L10	II	108.5		91.6	15.8		247.5	7.8					700.2		21.6	2.1	364.4	9.7	
S-12	M10	II	78.8		65	3.1		78.2						41.4					123.5	
S-13	L10	II	23.5					7.3						75.5	3.2	55.6	1.2	18.8	50.3	
S-14	L10	II	129.1		20.8	18.6		341.4			91.7			327.4		13.9	6.1	11	19.7	
S-16	J10	II	140.6		20.1			78.4			102.2			231.7		17	12.5		7.1	
S-17	L9	II	80.8		33			104.4	19		26			391.5	1		7.1	13.4	34	
S-17下層	L10	II	29.1		11.9			158.2						9.5				6.8		
S-18	M10	II	33.6		8.4			21.1			22.1			322.8		5.8			14.6	
S-19	N10	II	90		16.8			41.4			29.7			87.7	0.9	20.5	2.1			
S-21	M9	II	12		15	101.9	4.1	17.3			16			3.2		45			13.4	
S-22	N9	II	83.7			24.9		5.7			62.9			104.6						
S-23	L10	II						3.7						26.9						
S-41	M12	II			5.4	2.8		1.4						9.3	3.9	4.5	1.8	20.7		
S-42	M12	II	27.5					90.8						125.9		144		9.7	4.6	
S-42下層	M12	II						10						128.5		10.8		22.1		
S-43	M11	II	64.4		18.7			106.2			133.2			396.4		38		6.4	38.2	
S-44	M11	II	371.7		96.7	121.9		212.3			88.3			934.9	5.4	284.3	28.1	483.7	98.5	
S-47	M11	II	94.1		31.6			51.4	7.1					107.9	0.6	70.5	2.6	21.9	18	
S-48	M12	II	152.9		8.6			71.7			8.1			271.6	24.3	12.9	19.5	7.7	16.2	
S-49	M11a	II	215		4	121		172.1			165			816.9		64.4		31.1	95.8	
S-49	M11d	II	35.3		9.6	19.9		118.1	113.5		76.9			283.8		22.7		27.4		
S-49灰茶色土	M11	II	140.6		40.7	16.4		374			185.2	13		838.7	35.5	322.3	9.2	278.9	48.7	
S-49灰茶色土	M11a	II	187.5		24.1	9.8		113.7			101.2			446.2		82.1	0.1	107.2	230.9	
S-49灰茶色土	M11b	II	209.1		48.6			90.2			278			705.5	20.3	167.3		410.3	20.9	
S-49灰茶色土	M11d	II	431.1		45.4	12		219.5			142.9			809.3		339.8	41.9	221	31.2	
S-49灰茶色土	M11e	II	311.6		24.7	109.4		187.7			157.2			593.9		176.4	0.7	696.3	276	
S-51	M11	II	30		6.9			27						162.8		20.2			12.7	
S-65	M11	II												165.2					4.8	
S-9	L10	II	151.9		26.8			229			14.4			326.5			0.3		155.8	
赤茶色土	M10	III覆土	12.3		3.7			17.2						58.9			1.1		15.1	
赤茶色土	M10a	III覆土	36		21.2			52.9						86			47.4		34.2	
赤茶色土	M10b	III覆土	148.4		105.1			50.1			23.8			126.3		208.8	16	4.4		
赤茶色土	M10c	III覆土	46.3		4			11.3			28.8			233.6		103.7			132	
赤茶色土	M10d	III覆土	71.4		1.8			103.9						110.8			1			
赤茶色土	M10e	III覆土	54.1		26.8			100.5						231.1	2.5	13	19.4	37.7	37.7	
赤茶色土	M10f	III覆土	84.1		5.5			35.6						86				3.1		98.4
赤茶色土	M10i	III覆土	105.4		13.4			105.4			31			112		115.9		1.3	13.9	
赤茶色土	M10h	III覆土	117.6		16			103.4						100.4		6.7	2.7	1.9	36.5	
赤茶色土	M11	III覆土	214.4		6.5	8.8		30.2			69.3			251.2	4.5	51.5	10.8	34		
赤茶色土	M11a	III覆土	25.8		3.4			128.7						93.6			2.2			
赤茶色土	M11b	III覆土	70.8		11			178.7			5.9			390.1			14.8	13.9	94.2	
赤茶色土	M11c	III覆土	170.7		11.7	50.5		198			57.6			131.6	3.2	207.6		104.3	20.8	
赤茶色土	M11d	III覆土	78.7		21.5			26.9						182.3	1.4	11.3	1.4	85.8		
赤茶色土	M11e	III覆土	82.7		8.5	22.6		36.4						337.3		10.9		17.5	11.4	
赤茶色土	M11f	III覆土	52.4					42.2			47.1			83.8		26.9		107	6.3	
赤茶色土	M11g	III覆土	155.1		12.2	20.8		97.4			81.6			278.8		43	7.8	94.3	7.2	
赤茶色土	M11h	III覆土	13		7.7	13		9						99.3		44	1.4	11.6	67.4	
赤茶色土	M11i	III覆土	39			16.6		86.2			12			182.7		2.5		1.3	42.6	
赤茶色土	M12a	III覆土	242.5		34.7	16.9		177.5	37.9		21.4			408		98	9.5	37.1	19.4	
赤茶色土	M12d	III覆土	28.9		8.7			48.3	62.4		63.7			129				97	13.5	
赤茶色土	M12g	III覆土	2.1		2.6			25.8						180.8						
赤茶色土	M9c	III覆土	46.2					10			5.3			44.5	2.7				2.1	
赤茶色土	N9i	III覆土	67		15.6			64.1			7.1			82.2			0.7	7.4	12.3	
赤茶色土	N11i	III覆土	50.9		6.6			53.8			9.5			87.1		43.8	17	12.8	6.1	
赤茶色土	N11h	III覆土	114.1		8.2			10.2			24.8			101.4		0.9		3.6	15.3	
赤茶色粘	M12a	III覆土	201.6			92		78.5			16.9			554.5		256.4		115.3		
茶褐土	M12g	III覆土	383.8		16.9	2.1		45.2	224.7		17.8			269.1		566.7	23.5	1217.9		
茶色土	なし	III覆土	117.2		3.7	3.4		97.2								22.6	235.6	0.8	276	
茶色土	J10a	III覆土	1100.5		437.7	351.5	10.9	940			229.9			1160	7.5	160.8	771.3	13.5	57.1	
茶色土	J10b	III覆土	930	104.6	246.8	345.8		732.5			300.9	13.1		1346.9	5.6	265	83.3	111.5	206.3	209.2
茶色土	J10c	III覆土	52.6			28.1		36.7						93.2		4.9	1.6	5.7		
茶色土	J10d	III覆土	371.9		78	64.1		217.8			42.3	2		299.6	2.3	52.6	42	1.8	66.6	
茶色土	J10e	III覆土	1040		188.4			662.3	13.7		274.1			745	0.5	23.7	261.7	24.3	76.3	
茶色土	J10g	III覆土	31.6					13.5						21.8					13.7	

Tab.21-3　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）																	
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	✪	＋	♤
茶色土	J10h	Ⅲ層土	38.6		3	25.9		21.9						208.3				60.6	12	
茶色土	J9b	Ⅲ層土	681		83.8	116.1		276.8			6.8			317.3		4.7	20.7		5.2	
茶色土	J9c	Ⅲ層土	1434.3		241.9	212.2		890.2	6		202			1090.9		216.9	86.8	27.1	256.5	
茶色土	J9d	Ⅲ層土						8.1									47.2			
茶色土	J9e	Ⅲ層土	3.3		5.2			9.3						51						
茶色土	J9f	Ⅲ層土	200		60.2			221.2	27.4		14.3			187.5		21.6	30	5.7	33.1	
茶色土	J9i	Ⅲ層土	68.3		12.8	21.2		52.7			23.3			29.3		24.6	2.5		17.7	
茶色土	K10e	Ⅲ層土	280.3		121.9			328.4	28.9		145.6			823.5		284	32.2	293.4	22.2	
茶色土	K10	Ⅲ層土	289.9		76.4	67.6		209.7			28.8			361.4		0.5	2.3		46	
茶色土	K10a	Ⅲ層土	197.4		21.9			100.6			22.3			187		2.8	11.5	7.4		
茶色土	K10c	Ⅲ層土	208.6		19.2			43.4				4.1		94.5		7.1	0.2	11.3	3.5	
茶色土	K10b	Ⅲ層土	841.1		20.1			115.3						197.6	3.5	7.2	10			
茶色土	K10d	Ⅲ層土	287.3		713.1	16.1		475.3			58.9			856.2	5.6	89.4	35.9	118.4	19.2	
茶色土	K10f	Ⅲ層土	355.4		51.2	29.4		199.7	12.6		42.7			186.9	2.9	34.9	51.8	51.7	32.9	32.9
茶色土	K10g	Ⅲ層土	709.9		109.7	172.6		485.5	28.3		43.4			674.5	7.6	72.7	19.8	24	7.8	
茶色土	K10i	Ⅲ層土	35.7		35	9.4		201.3			17.1			158.4	12.1	9.9	15.5	16.6	34.2	
茶色土	K10h	Ⅲ層土	376.4		183.5	89.4		646			346.3			844.4	17.9	113.8	44.7	188.7	61	
茶色土	K9b	Ⅲ層土	5.3		7.6			21.1						75.7				2.5	9.5	
茶色土	K9f	Ⅲ層土	327.7		133.4			339.5	6.9		74.6			1077.3		120.8	29.7	27.5	89.1	
茶色土	K9i	Ⅲ層土	747.2		167.8	258.3		621.9			285.5			1308.2	13.4	130.6	35	7.6	51.9	
茶色土	K9h	Ⅲ層土	37.1		48.1			75.8			48.3			279.4	3.8	35.8	2.2			
茶色土	K9c	Ⅲ層土	329.7		55.4	44.7		370.8			60.6			222.6		12.1		38.4	2.8	
茶色土	K9e	Ⅲ層土	60.3		13.8	18.2		69			92.9			265.9		7.4	8.9	10.7	2.1	
茶色土	L10	Ⅲ層土	286.7		73.5	20.6		192.6			51.7			486.5	4.3	15	1.2	1.9	14	
茶色土	L10a	Ⅲ層土	638.7		97.4	47.1	8.5				206.4			1582.3	7.6	93.7	69.8	57.9	98.9	
茶色土	L10b	Ⅲ層土	482.9		144.4	137.6		610.6			333.6			1822		140.2	53.3	3.9	146.7	
茶色土	L10c	Ⅲ層土	1020.4		83.1	35.9		584.8			393.9			2477.9	3.9	119.7	279.4	269.5	52.9	
茶色土	L10d	Ⅲ層土	393.4		62.9	140.5		294.6	3.4		149			420.2	3.1	21.2	11.5		15.5	
茶色土	L10e	Ⅲ層土	242		58.3	21.7	3	182.5			127.7			405.7		16.7	2.5	19.7	84	
茶色土	L10f	Ⅲ層土	1213.4		50.2			339			24.9			994.9		50.4	8.7	171.8	3.9	
茶色土	L10g	Ⅲ層土	47.1		86			114.1	8.9		10.1			146.5	1.5		3.5		9.7	
茶色土	L10h	Ⅲ層土	78.5		50.7	5.9		131.7			41.8			261.2	11.6	40.4	23.7	73.8		
茶色土	L10i	Ⅲ層土	48.5		8.4	3.4		66.2	22.5		13.2			155.4		6.4	3.7		30.6	
茶色土	L9c	Ⅲ層土	512		149.7			575.7	738.3		1076			1287.3		476.2	14	79.4	51.6	
茶色土	L9	Ⅲ層土	6.1		1.1			10.1						47	6.9				11.3	
茶色土	L9f	Ⅲ層土	227.8		58.9	100.7		279.3			226.5			42	4.3	57.2	18.9	38.5	50	
茶色土	L9i	Ⅲ層土	208.9		41.8	30.7		165.8			105.5			194.5		28			2.4	
茶色土	M10	Ⅲ層土	22.2		9.5			39.7						76.9						
茶色土	M10a	Ⅲ層土	1492.3		336.8	105.4		1496.8	140.2		136.2	41.8		2225.2	5.8	2179.4	346.6	1685	301.4	
茶色土	M10c	Ⅲ層土	696.7		150.4	144.2		602.1			339.4			1743.2	4.1	355.7	418.4	2712.3	167.1	
茶色土	M10b	Ⅲ層土	856.8		246	8.2		665.6			30.8			1558.3	65.6	867.1	23	1309.7	89.4	
茶色土	M10d	Ⅲ層土	418.4		49.8	86.3		249.1	43.7		136.1			980.9	3.1	62.7	31.4	96.4	39.9	
茶色土	M10e	Ⅲ層土	620.6		152.9	60.4		822.8	2.8		298.3			1316.8	6.8	75.8	30.8	699.6	176.1	
茶色土	M10f	Ⅲ層土	1242.5		209.9	102.5	1.9	1609.2	27.9		242.3			1708.6	50.7	429.9	151.1	2508.2	421.1	1.3
茶色土	M10g	Ⅲ層土	1002.2		151	212		676.9			329			1614.9		197.9	79.2	102.6	24.2	
茶色土	M10h	Ⅲ層土	748.8		110.1	314.2		549.6	9		307.5	12.6		1392.4		685.2	13.2	647.2	20.5	
茶色土	M10i	Ⅲ層土	696.2		68.2	74.3		458.7			178.3			1253.4	2	273.2	36.6	101.3	34.2	
茶色土	M11	Ⅲ層土	236.3			100.8	4.4	144.7				118		378.3		4.7	50.6	75.7	55.9	
茶色土	M11a	Ⅲ層土	686.9		150.1	70.7		777.8	71.6		272.5	43.9		1594.5	17	261.7	123.6	481.6	77.1	0.2
茶色土	M11b	Ⅲ層土	253.1		35.7	3.5		296.5	43		112.7			685.3		647.5		299.1	35.4	
茶色土	M11c	Ⅲ層土	687.2		51.7	141.9		745.9	179		295.3			1621.2	12.6	1701.5	21.5	1485.1	48.9	
茶色土	M11d	Ⅲ層土	67.3		44.6	5.5		156.7			42.9			29		4		2	1	
茶色土	M11e	Ⅲ層土	575.6		167.6	81.4		670.3	22.9		138.4			1126.8		1289.5	7.2	1713.2	31.1	
茶色土	M11g	Ⅲ層土	666		61.9			497.1			339.3			1210.9	0.1	362.5	34.4	935.5	50.9	
茶色土	M11f	Ⅲ層土	1104.1		161.2	232.8		760.5	367.4					3394.3	2.8	4896	426.9	3460.3	194.7	
茶色土	M11h	Ⅲ層土	67.8		29.1	20.8		15.4						96.8			9.1	77.8	14	
茶色土	M11i	Ⅲ層土	218.9			64.5		33.8	58.6		3.9			243.8		370.6	5.8	237.3	19.6	
茶色土	M12a	Ⅲ層土	2358.5		94.3	1354.1	1	636.5	26.7		257.2			2121.7	5.6	3818.3	391.6	14906.3	214.2	
茶色土	M12d	Ⅲ層土	360.2		22	116.7		348.7			51.2			590.5	9.3	551.2	44	328.7	82.3	
茶色土	M12g	Ⅲ層土	217.3		32.3	76.2		85.3	9.1			10.4		268	0.9	308.5	261	461.6	48.8	
茶色土	M9i	Ⅲ層土	683.7		125.1	61.9		826			314	167.5		1919.6		104.5	71.2	105.7	75.5	
茶色土	M9c	Ⅲ層土	469.3		101.8	62.3		249.8			65.8			838.5		142.5	27.4	1.2	16	
茶色土	M9d	Ⅲ層土															2.4	35.1		
茶色土	M9f	Ⅲ層土	432.7		92	192.5		447.4			145	205.9		1061.4	2.7	100.9	18.5	12.8	34.7	
茶色土	N10i	Ⅲ層土	1745.6		304.6	201.3	6.6	1405.9	254		303.9			3242	42.3	368.1	74.3	3027	1476.9	
茶色土	N10c	Ⅲ層土	778.5		85.9	84.4		563			145.8			644.4		135.7	9	29.7	87.5	
茶色土	N10g	Ⅲ層土	1318.6		272.9	339.7	15.1	1925.5	382.5		315.9			2079.1	5.5	1356.3	153.5	59.6	212.9	
茶色土	N10h	Ⅲ層土	1253.8		150.8	295.9		1326.5			319.2			1974.3	30.1	395.5	39.4	127.2	193.5	9
茶色土	N9i	Ⅲ層土	135.9		15.6	4.1		249.2			104.9			587.5		186.9	553	40.1	25.8	
茶色土	N9f	Ⅲ層土	3.9		2.3			7.8			11.1			91.7			1.6			
S-15	L10	Ⅲ	135.4		23.6			112.9			124.1			558.1		182.6	0.2	58.3	177	
S-26	J10	Ⅲ	65.5		9.5			50.2			41.6			72.4		1.5	11.2		2.9	
S-5	K10	Ⅲ	53.1		13.8	22.7		29.5			21.8			155			0.3	5.4	53.3	
S-1	J10	Ⅲ														60.9				
S-1	J9	Ⅲ	59.3		21.3	14.1		110.4	59.9		59.9			66.4	1.7	25.4				
S-10	L10	Ⅲ	41.8		92.5			54.1			67.4			111.4		37.6			2.9	
S-20	J9	Ⅲ	89.4		42.9	12.3		205.1			84			538.8		44.6	41.9	30.4	35.9	

Tab.21-4　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土重量一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	重量（g）																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	⭘	＋	♤
S-24	J10	III	183.2		6.5	54.3	1	94			28	0.9		183.6		7.3	5.4	0.9	2.3	
S-25	J10	III	8.7	7.3	40			114			59			258.5		2.7	21.2	26.8	5.7	
S-27	K10	III	728.2			27.7													57.6	
S-28	L10	III			2.7			10.3			43.2			18.4		30.2		89.1		
S-29	J9	III	48.7		18.7			121.8			40.6			146.2	13.4				77	
S-30	K10	III	706.7		29.2			77.7			146.4			149.3		17.6			15.2	
S-31	J10	III	0.5		7.7			14.8			19			19.2		2	2.4	2.7	13.9	
S-32	K9	III	107.4		18.7	12.9		44.5			13.1			386.4		10.2	34	6		
S-33	M10	III	44.1		3.3			37.1						228.3		18.1			9.2	
S-34	L10	III	95.8		29.7	23.3		40.5			41.6			396.8		18		0.4	2.4	
S-35	M10b	III	66.3		26.8	35.8		100.5			24.7			434.3		71.1	14.8		1.8	
S-35	M10c	III	197.8		30.6	5		225			36.9			712.5	5.5	136.3	3.9	209.8	148.7	
S-35	M10e	III	53.1		14.6			79.9			25.5			101.8	4.1	9.5	6.4	2.7	18.9	0.5
S-35	M10f	III	348.3		36.7	17		230.1			89.3			699.5		52.9	15.4	331.5	106	
S-35	M11a	III	255.2		80.2	7.6		305.9			56.4			669.6		213.9	83.4	96.3	39.8	
S-35	M11d	III	421.6		53.3		4.8	290.7	3.8		193.2			1434.5	0.6	785.3	24.9	534.2	163.1	
S-35下層	M10f	III	336.7		59.2	146.8	11	510.1	123.2		52			696.4	2.5	328.6	56.9	1037.9	227.6	
S-35下層	M10	III	141.2		18.3	2.1		130.4	44.9		10.7			142	7.2	76.2	11.1	493.8	88.6	
S-35下層	M10c	III	211.8		37.2	45.8		211.8						346.3	5.3	288.6	73.3	495.6	25.7	
S-35下層	M10b	III	86		6.1	0.2		53		11.9				240.4		84.4		0.2		
S-35茶色土	M11a	III	417.7		181.6	69.2	33.2	939.6	456.7		1968.9			3838.2	2.3	2679	85.2	4920.5	463.8	0.7
S-35茶色土	M11d	III	935.8		136.3	250		406.9	30.6		1088.3	7		3222	2.3	3971.8	83.7	4635.5	3358.4	
S-37	M11	III	102.8					43			41.8			23.5		14.6		43.2	19.9	
S-38	N11	III	49.9		19.3			47.5			23.7			198.5		30.8	4.4	1.5	3.2	
S-40	N10	III	1197.7		102.5	675.1	3.4	439.2	6.4		13.3	186.1		1287.2	15.3	323.8	112		5736.6	1.3
S-45	N10h	III	1443.4		101.6	391.2	85.5	1663.8	446.9		247.8	4251.6		5798.9	3.9	12436.6	33.2	26.1	483.5	
S-45	N10g	III	9.5		1.1			1.6	118		383	383.9		761.2		300.1	4.7		27.7	
S-46	M11	III	119.9		3.3	3.4		153.8			83.2			498.6		135.6	40.1	107.8	81.3	
S-46灰色土	M11	III	132.1		14.6	38.5		64.3			137.5			1459.9	13.4	476.8		7.2	257.8	
S-46淡灰色土	M11	III	171.7		18.2	3.6		90.9						619.7		33.24	88.6	17.3	190.3	
S-50	M10a	III	2172.2	78.3	256.9	531	61.4	860.6	54.7		191.8			3978.8	8.6	8392.3	110.6	2334.6	452.4	
S-50	N10g	III	877.5		38.3	138.4		489.1			255.7			2711	3.5	4949	67.9	15.6		
S-50	N10a	III	159.1		46.3	32.1		169.6			4.3			172.8	0.7	24.6	6.4		31	
S-50最下層		III	26.6		21.2	16.1	16.5	66.7	45.6					891.4		39.6				
S-50最下層	M10a	III	122.4		6.1	7.9		241.6	199		1041.8	60.5		2916.4	0.4	9001.2	67	694.3	525.1	
S-53	M11	III	22			1.5		42.9						222.3		112.9		246.9	1.7	
S-55	M9	III	40.3					126.9			33.4			429.2		97.8	47.3	269.5	294.1	
S-56	M12	III	64.6		6.9	22.1		45.2						292.1		638.7	24	10.9	66	
S-57	M11	III	89.3			3.3		125.4			62.2			243.6		152.9	0.4	153.4	35.8	
S-70	M11	III	51.1		10.1			25.1			52.5			211.4		3.1		3.2		
S-75	M11f	III	397.1		36.6	23.2		201			259.4			1372.5		215.6	25.9	378.5	99.3	
S-75	M11	III	75.6		12.3	29.8		152.1						465.8	0.5	419.9	103.7	3135.6	43.2	
S-75	M11c	III												13.8		35.6	45.5	76.9		
S-75	M11d	III						7.8						132.7				6.8	28.4	
S-80	M12	III	425.5		26.3	118.5		185.7			73.7			775.3		111.1	89	210	34.3	
S-85	M12	III	50			3.8		63.6			2.4			22.5		273.1	18.1	2987.1		

Tab.22-1　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	♡	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	○	＋	♤
S-003	N10	I						1												
S-004	M10	I	2					4			1			4						
S-006	L10	I	3					1						8						
S-007	L10	I	3		1			4			1			13	1					
S-007	J10	I	5		1			10	1		5			12		3	3	1	2	
S-008	N10	I	1					11			3			9					2	
灰茶色土	H9	I	1					2						1						
灰茶色土	なし	I	18	1	3			12			4			23	1	2	3		2	
灰茶色土	K9	I	7					16			1			19					3	
灰茶色土	G9	I	1					1									1			
灰茶色土	J10	I	3					9												
灰茶色土	I9	I												3						
灰茶色土	N10	I						6						1						
灰茶色土	K10	I	3					2						1	1		1			
灰茶色土	M11	I	9			4		12						29		2			2	
灰茶色土	M10	I	5					3						4						
灰茶色土	L10	I	15					14						9		1		1	1	
暗灰茶色土	H9	I 覆土	2		1														2	
暗灰茶色土	なし	I 覆土	1													1				
表採			4					1				1	2	2						
表土			23					11		2	1			10		11	2	14	1	
茶灰色土	I10	II 覆土	14		4			8			1			5		5	1		2	
茶灰色土	I10a	II 覆土	6		3			9						1						
茶灰色土	I10b	II 覆土	16		3	1		11	1		1			14		1	1			
茶灰色土	I10d	II 覆土						2												
茶灰色土	I10h	II 覆土												1						
茶灰色土	I9b	II 覆土	4		2			2												
茶灰色土	I9c	II 覆土	5					4						8		4		1		
茶灰色土	I9e	II 覆土						2						2						
茶灰色土	I9f	II 覆土												3						
茶灰色土	I9i	II 覆土												4						
茶灰色土	J10a	II 覆土	1		3	1		4						2			1			
茶灰色土	J10b	II 覆土	10					27			1			9			1			
茶灰色土	J10c	II 覆土			1			1												
茶灰色土	J10d	II 覆土	12		3	2		13			3			11		1	2			
茶灰色土	J10e	II 覆土	3		1			13			1			4		2				
茶灰色土	J10g	II 覆土	25		1	2		29			1			7		2	6		3	
茶灰色土	J10h	II 覆土	21		3	3		10						12					1	
茶灰色土	J9b	II 覆土	14		3			8						10		1				
茶灰色土	J9c	II 覆土	53		12	5		24			1			18		2	1	1	6	
茶灰色土	J9e	II 覆土	7		1			6						5						
茶灰色土	J9f	II 覆土	8		2			13			1			9					1	
茶灰色土	J9h	II 覆土			1			1						15						
茶灰色土	K10	II 覆土	59		15	6		60	1		5			62		9	4	3	2	
茶灰色土	K10b	II 覆土	15		8	3		53						20	3		10	2	3	
茶灰色土	K10c	II 覆土			1			1								1	1	6		
茶灰色土	K10d	II 覆土	5		7	1		29			2			26		2	7		5	
茶灰色土	K10e	II 覆土	1					5						2				2		
茶灰色土	K10f	II 覆土	18			3		35						11		12	5	4	1	
茶灰色土	K10g	II 覆土	5		2			2						4						
茶灰色土	K10h	II 覆土	17		4	1		28			3			18		1	7	2		
茶灰色土	K10i	II 覆土	7		3			10						10		4	3	10		
茶灰色土	K9c	II 覆土	20		4			39			4			33		3	1	9	3	
茶灰色土	K9g	II 覆土	10		3	2		36			6			38		1	8	6	3	
茶灰色土	K9i	II 覆土	36		8	3		48			6			33		3	1	3		
茶灰色土	L10a	II 覆土	11		4	3		25			3			24	2	6	2	9	4	
茶灰色土	L10b	II 覆土	20		10	2		46	1		2			32		8	6	1	5	
茶灰色土	L10c	II 覆土	6					5			2			10		4	2	5		
茶灰色土	L10e	II 覆土	12		9			17						12		10	8	1	1	
茶灰色土	L10g	II 覆土	13		14	2		32						10		2	6	3	1	
茶灰色土	L10i	II 覆土	2		4			6			4			23	1		1	2	2	
茶灰色土	L10h	II 覆土	15		5			20			3			37		8	8	6	5	
茶灰色土	L10f	II 覆土	7					13			1			8		1			2	
茶灰色土	L10	II 覆土	27		9	4		38			5			35	4	12	8	1	4	
茶灰色土	L9e	II 覆土	42		12	3		61	1		7			60		8	3	2	10	
茶灰色土	L9f	II 覆土	1												1	1	4			
茶灰色土	L9i	II 覆土	44		24	1		145			8			91	4	12	10	1	1	
茶灰色土	M10a	II 覆土	57		104	2		407			2			143	25	11	4		1	
茶灰色土	M10b	II 覆土	6					27			4			23		26	2	3	1	
茶灰色土	M10c	II 覆土			2	1		4								24	38	15	2	
茶灰色土	M10d	II 覆土	62		113			465			2			129	22	44	55		3	
茶灰色土	M10e	II 覆土	41		107			388			1			119	23	14	8	13	3	
茶灰色土	M10f	II 覆土	110		158	10		831			7			221	45	54	32	16	8	
茶灰色土	M10g	II 覆土	89		135	3		485			1			131	40	19	37	1	7	2
茶灰色土	M10h	II 覆土	306		94	1		86						94	25	46	35	15	9	
茶灰色土	M10i	II 覆土	46		131			436			2			137	28	29	45	27	5	
茶灰色土	M11d	II 覆土																15		
茶灰色土	M11g	II 覆土	41		5			72			2			20		6	1	1	4	

Tab.22-2　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片																
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	○	＋	♤
茶灰色土	M11a	II 層土	126	1	98			698			8			113	54	61	41	17	12	
茶灰色土	M9c	II 層土	1		3			21			4			20		1	2	5	5	
茶灰色土	M9d	II 層土	33		53			216			5			72	8	5	1	6	3	
茶灰色土	M9f	II 層土	259		42			1			5			87	6	16	8	5	3	1
茶灰色土	M9i	II 層土	21		57			184			6			75		13	8	8	6	
茶灰色土	N9i	II 層土	22		16			130			1			45	1		16	8	5	
茶灰色土	N10g	II 層土	55		111	2		442			10			196	28	16	23	6	12	2
茶灰色土	N10h	II 層土	84		88			455			11			177	55	18	9	6	10	
茶灰色土	N10i	II 層土	51		92	6		383	2		8			174	24	2	12		3	
茶灰色土	N11g	II 層土	23		32	3		118	1		8			61	10	10	11	8	3	
茶灰色土	なし	II 層土	12		4	1		15			2			11		7	5	15	5	
茶灰色土	KL10	II 層土	14		5	1		10	1		2			13	2		1	1	5	
茶灰色土	IJ10	II 層土	4		1			4						9			2			
S-11	L10	II	19		19	3		41	1					86		7	1	30	2	
S-12	M10	II	7		5	1		9						4					3	
S-13	L10	II	2					2						10	1	3	1	2	1	
S-14	L10	II	13		3	2		30			3			32		4	3	2	2	
S-16	J10	II	11		6			16			5			19		5	1		1	
S-17	L9	II	10		9			21	1		3			37	1		1	1	1	
S-17下層	L10	II	3		3			11						3				1		
S-18	M10	II	3		3			3			1			18		1			3	
S-19	N10	II	9		5			8			1			8	1	5	1			
S-21	M9	II	2		2	4	1	5			2			1		2			2	
S-22	N9	II	3			1		1			1			7						
S-23	L10	II						2						4						
S-41	M12	II			1	1		1						2	3	4	1	4		
S-42	M12	II	6					18						8		6		1	3	
S-42下層	M12	II						1						7		1		1		
S-43	M11	II	12		6			27			5			35		6		5	3	
S-44	M11	II	59		22	16		49			4			86	1	25	2	33	12	
S-47	M11	II	9		2			13	1					15	2	7	2	6	3	
S-48	M12	II	21		2			21			1			31	2	4	5	6	1	
S-49	M11a	II	8		2	2		19			11			49		5		4	3	
S-49	M11d	II	9		5	2		15	1		3			28		3		10		
S-49灰茶色土	M11	II	28		11	3		60			10	1		79	3	25	2	24	5	
S-49灰茶色土	M11a	II	13		6	4		20			9			34		11	1	10	2	
S-49灰茶色土	M11b	II	14		8			19			8			42	4	13		49	3	
S-49灰茶色土	M11d	II	26		13	2		36			6			77		16	6	47	8	
S-49灰茶色土	M11e	II	38		5	11		26			7			42		23	3	80	6	
S-51	M11	II	3		2			5						5		2			1	
S-65	M11	II												4					1	
S-9	L10	II	20		5	1		41			3			34			1		4	
赤茶色土	M10	III 層土	2		1			2						10			1		1	
赤茶色土	M10a	III 層土	4		5			9						14			1		2	
赤茶色土	M10b	III 層土	10		4			11			1			17		2	2	1		
赤茶色土	M10c	III 層土	4		2			4			2			11		1			2	
赤茶色土	M10d	III 層土	4		1			7						11			1			
赤茶色土	M10e	III 層土	11		9			24						37	1	4	8	4	6	
赤茶色土	M10f	III 層土	7		1			6						5				1		2
赤茶色土	M10i	III 層土	17		2			35			3			19		3		1	2	
赤茶色土	M10h	III 層土	6		6			33						18		2	2	1	1	
赤茶色土	M11	III 層土	14		3	1		7			4			19	1	2	2	1		
赤茶色土	M11a	III 層土	4		2			10						21			1			
赤茶色土	M11b	III 層土	14		1			31			1			19			2	1	3	
赤茶色土	M11c	III 層土	21		3	7		29			3			15	1	27		30	3	
赤茶色土	M11d	III 層土	8		5			13						18	1	3	1	2		
赤茶色土	M11e	III 層土	13		3	3		15						19		4		2	5	
赤茶色土	M11f	III 層土	6					7			2			9		4		9	1	
赤茶色土	M11g	III 層土	33		8	2		22			4			30		7	2	8	1	
赤茶色土	M11h	III 層土	2		2	2		9						13		4	1	4	9	
赤茶色土	M11i	III 層土	5			1		23			1			11		1		2	9	
赤茶色土	M12a	III 層土	25		8	1		30	1		3			29		9	1	2	3	
赤茶色土	M12d	III 層土	1		2			9	3		3			7				2	3	
赤茶色土	M12g	III 層土	1		1			6						10						
赤茶色土	M9c	III 層土	5					2			1			7	1				1	
赤茶色土	N9i	III 層土	12		4			17			1			16			1	1	3	
赤茶色土	N11i	III 層土	7		3			42			1			6		15	4	4	1	
赤茶色土	N11h	III 層土	11		4			4			3			14		1		1	1	
赤茶粘色	M12a	III 層土	9			3		12			2			22		10		30		
茶褐色土	M12g	III 層土	15		5	3		15	1		1			20		24	5	9		
茶色土	なし	III 層土	19		2	1		16								5	16	1	6	
茶色土	J10a	III 層土	110		64	29	2	185			10			156	4	34	14	3	5	
茶色土	J10b	III 層土	76	1	28	25		111			13	1		100	7	18	26	26	11	15
茶色土	J10c	III 層土	3			2		7						8		1	1	1		
茶色土	J10d	III 層土	72		31	14		41			4	1		33	2	7	14	2	7	
茶色土	J10e	III 層土	84		33			119	1		9			71	1	3	11	2	6	
茶色土	J10g	III 層土	2					2						2					1	
茶色土	J10h	III 層土	9		1	3		8						14				2	2	

Tab.22-3　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片																	
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♣	▽	▼	○	＋	♤
茶色土	J9b	Ⅲ覆土	80		34	14		81			1			43		8	13		4	
茶色土	J9c	Ⅲ覆土	200		84	26		241	1		10			142		19	21	3	32	
茶色土	J9d	Ⅲ覆土						1									3			
茶色土	J9e	Ⅲ覆土	1		1			3						7						
茶色土	J9f	Ⅲ覆土	57		15			73	1		1			19		5	10	1	5	
茶色土	J9i	Ⅲ覆土	14		3	4		13			2			8		4	1		2	
茶色土	K10e	Ⅲ覆土	60		35			83	1		6			105		16	13	15	5	
茶色土	K10	Ⅲ覆土	45		24	10		53			2			38		3	2		4	
茶色土	K10a	Ⅲ覆土	20		8			34			2			19		2	2	3		
茶色土	K10c	Ⅲ覆土	33		5			12				1		15		2	1	1	1	
茶色土	K10b	Ⅲ覆土	93		10			29						29	2	5	5			
茶色土	K10d	Ⅲ覆土	47		30	3		125			6			107	1	13	6	6	4	
茶色土	K10f	Ⅲ覆土	53		16	2		37	1		2			25	2	3	7	4	4	1
茶色土	K10g	Ⅲ覆土	71		26	19		113	1		6			96	4	9	7	3	2	
茶色土	K10i	Ⅲ覆土	11		15	1		48			2			11	4	6	7	7	1	
茶色土	K10h	Ⅲ覆土	71		52	10		209			14			101	7	47	24	12	13	
茶色土	K9b	Ⅲ覆土	2		2			8						10				3	2	
茶色土	K9f	Ⅲ覆土	37		29			66	1		4			85		9	5	4	6	
茶色土	K9i	Ⅲ覆土	75		47	14		118			11			152	7	20	14	2	8	
茶色土	K9h	Ⅲ覆土	4		10			15			3			25	1	4	1			
茶色土	K9c	Ⅲ覆土	33		14	3		76			6			42		2		4	1	
茶色土	K9e	Ⅲ覆土	4		2	1		7			3			32		1	1	1	1	
茶色土	L10	Ⅲ覆土	40		10	2		49			3			41	1	4	2	1	3	
茶色土	L10a	Ⅲ覆土	54		30	8	1				21			114	4	18	20	18	9	
茶色土	L10b	Ⅲ覆土	52		20	18		85			16			81		14	4	1	7	
茶色土	L10c	Ⅲ覆土	130		17	3		109			16			122	3	23	13	126	7	
茶色土	L10d	Ⅲ覆土	44		24	13		87	2		15			41	2	10	5		3	
茶色土	L10e	Ⅲ覆土	36		17	5	1	44			10			35		1	1	7	4	
茶色土	L10f	Ⅲ覆土	121		9			77			4			59		12	5	22	1	
茶色土	L10g	Ⅲ覆土	9		3			33	1		1			15	2		2		1	
茶色土	L10h	Ⅲ覆土	27		18	1		43			6									
茶色土	L10i	Ⅲ覆土	19		2	1		13	1		1			14		1	2		2	
茶色土	L9c	Ⅲ覆土	63		4			144	1		17			124		16	8	12	10	
茶色土	L9	Ⅲ覆土	1		3			2						3	2				1	
茶色土	L9f	Ⅲ覆土	26		16	9		57			10			42	1	5	7	4	2	
茶色土	L9i	Ⅲ覆土	26		8	2		42			6			35		4		1		
茶色土	M10	Ⅲ覆土	3		1			8												
茶色土	M10a	Ⅲ覆土	292		155	12		475	109		18	2		213	3	154	66	238	24	
茶色土	M10c	Ⅲ覆土	146		65	19		172			14			297	10	82	36	159	10	
茶色土	M10b	Ⅲ覆土	136		66	1		270			1			152	16	73	19	64	15	
茶色土	M10d	Ⅲ覆土	246		35	19		499	1		6			82	11	29	26	8	11	
茶色土	M10e	Ⅲ覆土	212		47	4		352	1		20			103	20	35	20	40	17	
茶色土	M10f	Ⅲ覆土	186		87	11	1	483	1		24			170	21	65	20	86	18	1
茶色土	M10g	Ⅲ覆土	82		38	11		120			12			118		18	13	21	5	
茶色土	M10h	Ⅲ覆土	78		31	20		75	1		14	2		117		18	4	13	3	
茶色土	M10i	Ⅲ覆土	70		24	8		115			8			105	2	33	13	19	5	
茶色土	M11	Ⅲ覆土	24			9	1	10			3			23		1	8	5	7	
茶色土	M11a	Ⅲ覆土	138		43	6		351	6		16	2		164	20	70	29	74	10	1
茶色土	M11b	Ⅲ覆土	23		9	2		50	2		4			34		28		32	7	
茶色土	M11c	Ⅲ覆土	70		15	13		114	3		12			110	3	82	8	113	8	
茶色土	M11d	Ⅲ覆土	11		7	1		22						29		4		2	1	
茶色土	M11e	Ⅲ覆土	71		11	8		70	4		4			80		66	2	62	3	
茶色土	M11g	Ⅲ覆土	98		11	3		67			8			87	1	40	9	33	4	
茶色土	M11f	Ⅲ覆土	89		29	19		153	16					159	2	162	51	141	11	
茶色土	M11h	Ⅲ覆土	5		9	2		6						12			2	1	1	
茶色土	M11i	Ⅲ覆土	22			8		6	2		1			27		15	3	11	1	
茶色土	M12a	Ⅲ覆土	198		26	46	1	113	1		15			99	7	339	73	728	30	
茶色土	M12d	Ⅲ覆土	45		3	13		51			3			51	2	45	15	42	3	
茶色土	M12g	Ⅲ覆土	36		2	14		28	1			2		24	3	12	12	21	9	
茶色土	M9i	Ⅲ覆土	68		30	5		129			13	1		123		24	12	5	11	
茶色土	M9c	Ⅲ覆土	80		29	9		81			7			78		15	7	1	2	
茶色土	M9d	Ⅲ覆土															1	2		
茶色土	M9f	Ⅲ覆土	78		33	7		149			8	1		118	6	20	12	5	4	
茶色土	N10i	Ⅲ覆土	224		146	41	1	560	5		32			287	36	42	29	266	76	
茶色土	N10c	Ⅲ覆土	76		23	8		135			10			72		38	7	11	11	
茶色土	N10g	Ⅲ覆土	209		98	35	2	493	1		21			211	2	78	30	19	17	
茶色土	N10h	Ⅲ覆土	137		37	17		233			15			129	4	36	6	24	12	1
茶色土	N9i	Ⅲ覆土	27		7	3		55			8			27		11	4	5	3	
茶色土	N9f	Ⅲ覆土	1		1			2			1			3			1			
S-15	L10	Ⅲ	7		8			21			5			45		9	1	5	4	
S-26	J10	Ⅲ	8		1			13			1			17		1	1		1	
S-5	K10	Ⅲ	12		3	2		9			3			21			1	1	6	
S-1	J10	Ⅲ														4			-	
S-1	J9	Ⅲ	71		36	8		177	1		1			22	6	45				
S-10	L10	Ⅲ	6		13			12			3			7		4			3	
S-20	J9	Ⅲ	9		10	1		29			6			29		4	3	2	3	
S-24	J10	Ⅲ	34		2	8	1	33			2	1		21		6	2	1	2	

Tab.22-4　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構・土層名	地区番号	層位	破片																	
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-e	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-e	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	▽	☆	●	◆	■	▲	♥	★	♠	▽	▼	◘	＋	♤
S-25	J10	III	5	1	8			11			6			16		1	6	8	1	
S-27	K10	III	157			5													5	
S-28	L10	III			1			2			3			5		3		2		
S-29	J9	III	4		4			20			1			17	1				3	
S-30	K10	III	60		5			12			3			16		1			1	
S-31	J10	III	1		2			2			1			3		1	1	1	1	
S-32	K9	III	13		4	2		9			1			13		3	3	3		
S-33	M10	III	2		2			6						10		4			2	
S-34	L10	III	7		7	2		12			4			31		1		1	1	
S-35	M10b	III	11		13	4		35			1			21		15	7		1	
S-35	M10c	III	25		11	1		33			2			78	3	17	2	18	8	
S-35	M10e	III	33		22			98			1			34	7	9	11	1	1	2
S-35	M10f	III	56		9	6		47			7			68		16	2	37	5	
S-35	M11a	III	42		16	1		40			4			52		16	13	20	8	
S-35	M11d	III	55		14		1	39	1		11			102	1	40	6	25	7	
S-35下層	M10f	III	76		22	13	2	87	4		4			59	1	62	15	71	15	
S-35下層	M10	III	88		12	4		175	1		1			13	29	30	26	48	4	
S-35下層	M10c	III	152		20	15		146						28	70	48	41	129	6	
S-35下層	M10b	III	10		1	1		17		1				12		8		1	4	
S-35茶色土	M11a	III	109		29	11	2	204	15		33			154	10	155	42	87	16	1
S-35茶色土	M11d	III	143		26	16		90	3		18	1		83	6	166	9	125	17	
S-37	M11	III	18					6			2			2		7		5	3	
S-38	N11	III	12		5			7			1			20		2	2	1	1	
S-40	N10	III	570		87	75	1	679	2		4	3		91	66	91	77		32	8
S-45	N10h	III	194		29	32	29	279	4		16	8		318	9	359	9	5	7	
S-45	N10g	III	3		1			1	1		4	4		14		29	1		1	
S-46	M11	III	11		2	1		15			5			38		15	7	6	10	
S-46灰色土	M11	III	8		2	2		4			2			32	1	5		2	10	
S-46淡灰色土	M11	III	35		3	1		14						26		6	2	4	16	
S-50	M10a	III	222	1	46	49	1	138	3		8			152	2	184	37	22	13	
S-50	N10g	III	85		11	8		211			8			73	7	89	15	4		
S-50	N10a	III	49		15	7		64			1			28	3	8	9		7	
S-50最下層		III	2		2	1	3	6	2					48		10				
S-50最下層	M10a	III	6		3	2		8	5		11	1		41	1	108	24	5	8	
S-53	M11	III	5			2		3						42		7		5	1	
S-55	M9	III	6					15			1			10		7	9	4	2	
S-56	M12	III	8		3	3		7						12		32	3	7	7	
S-57	M11	III	6			1		57			2			46		15	1	7	3	
S-70	M11	III	2		3			4			2			17		4		2		
S-75	M11f	III	62		8	3		37			10			71		19	3	29	8	
S-75	M11	III	24		7	11		50						14	1	34	11	289	3	
S-75	M11c	III												1		2	3	4		
S-75	M11d	III						3						3				2	1	
S-80	M12	III	33		7	15		19			1			29		18	7	27	2	
S-85	M12	III	8			2		3			1			2		11	2	11		

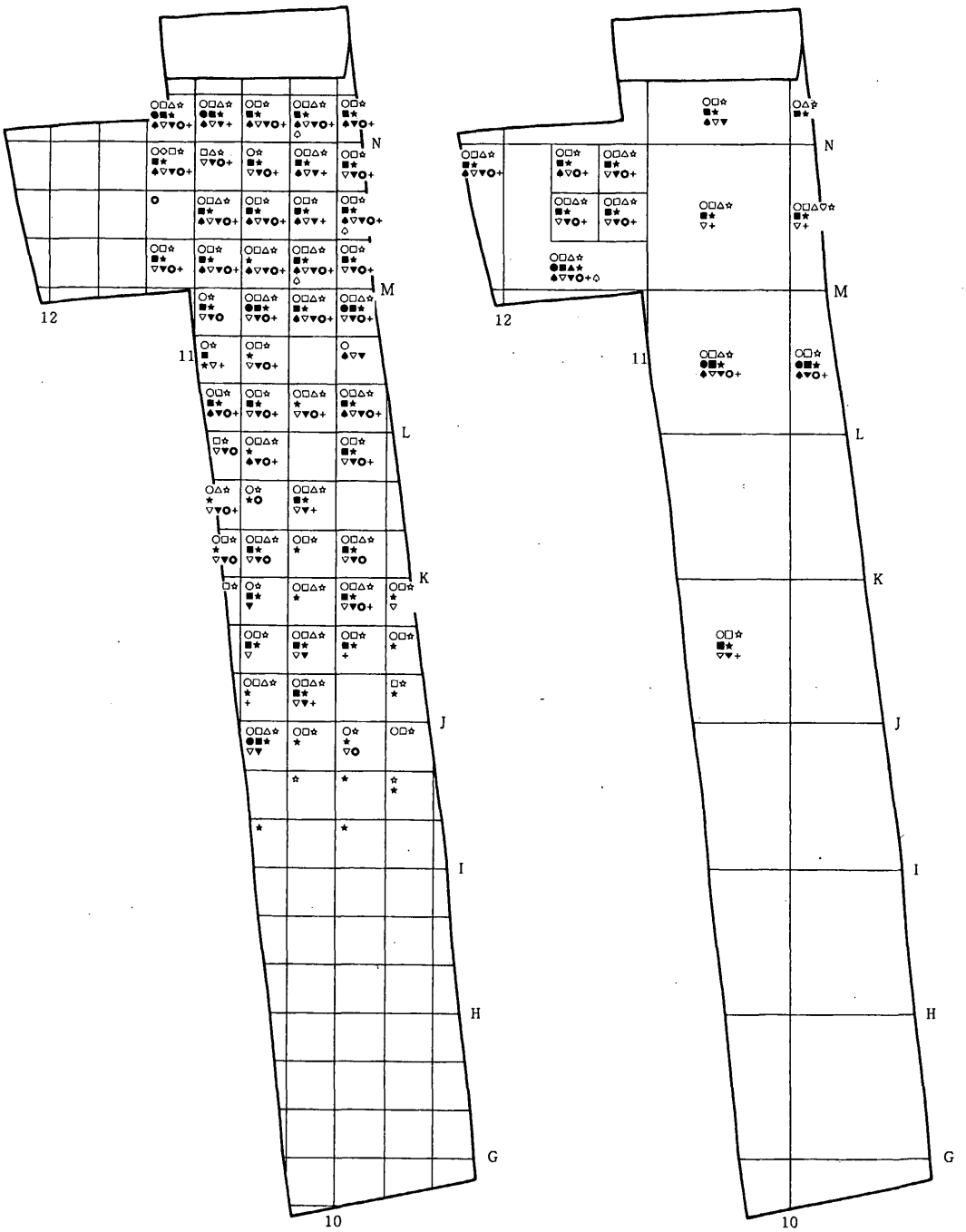


Fig.128　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図II面覆土・II面【定性】

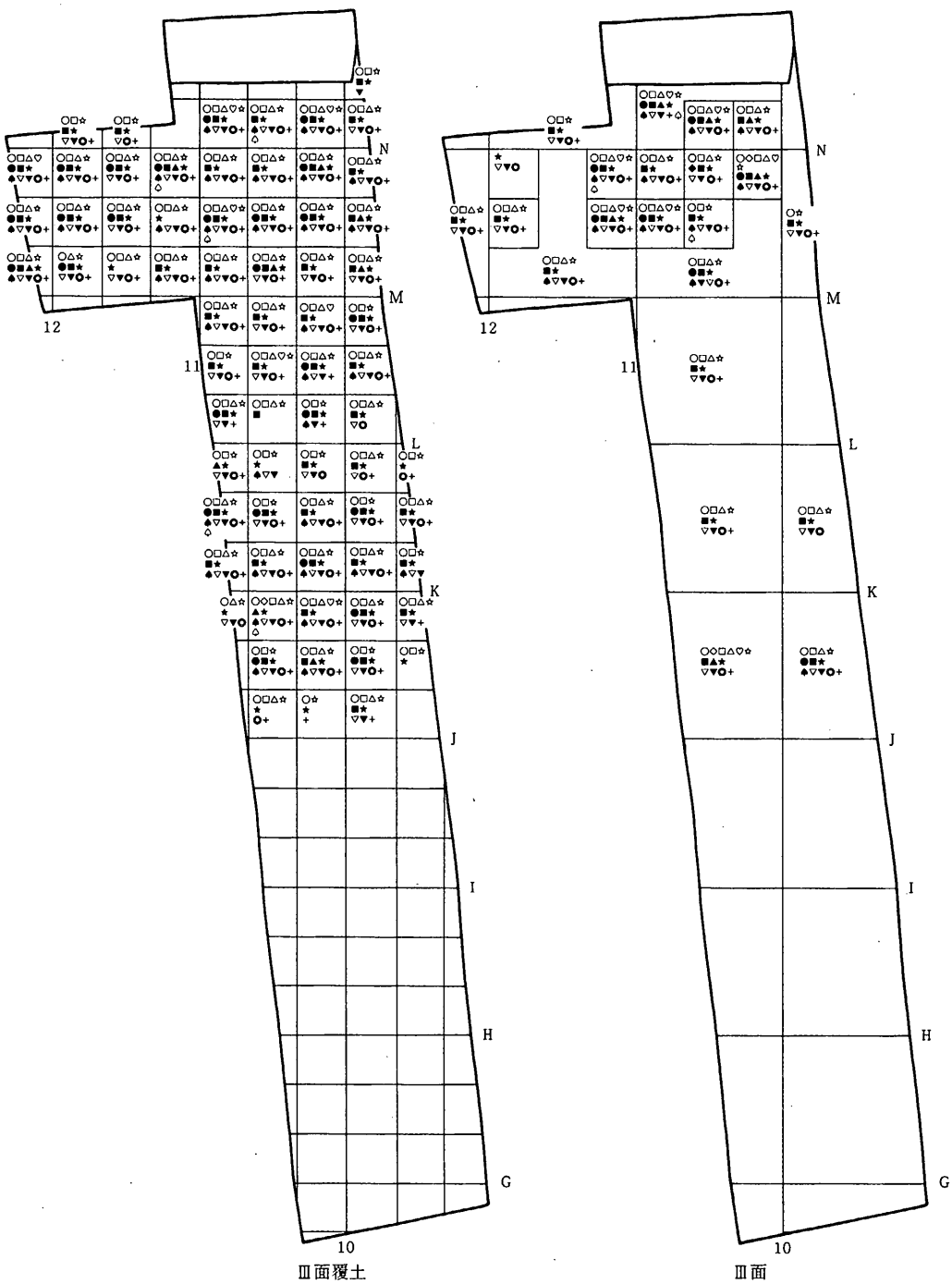


Fig.129　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図III面覆土・III面【定性】

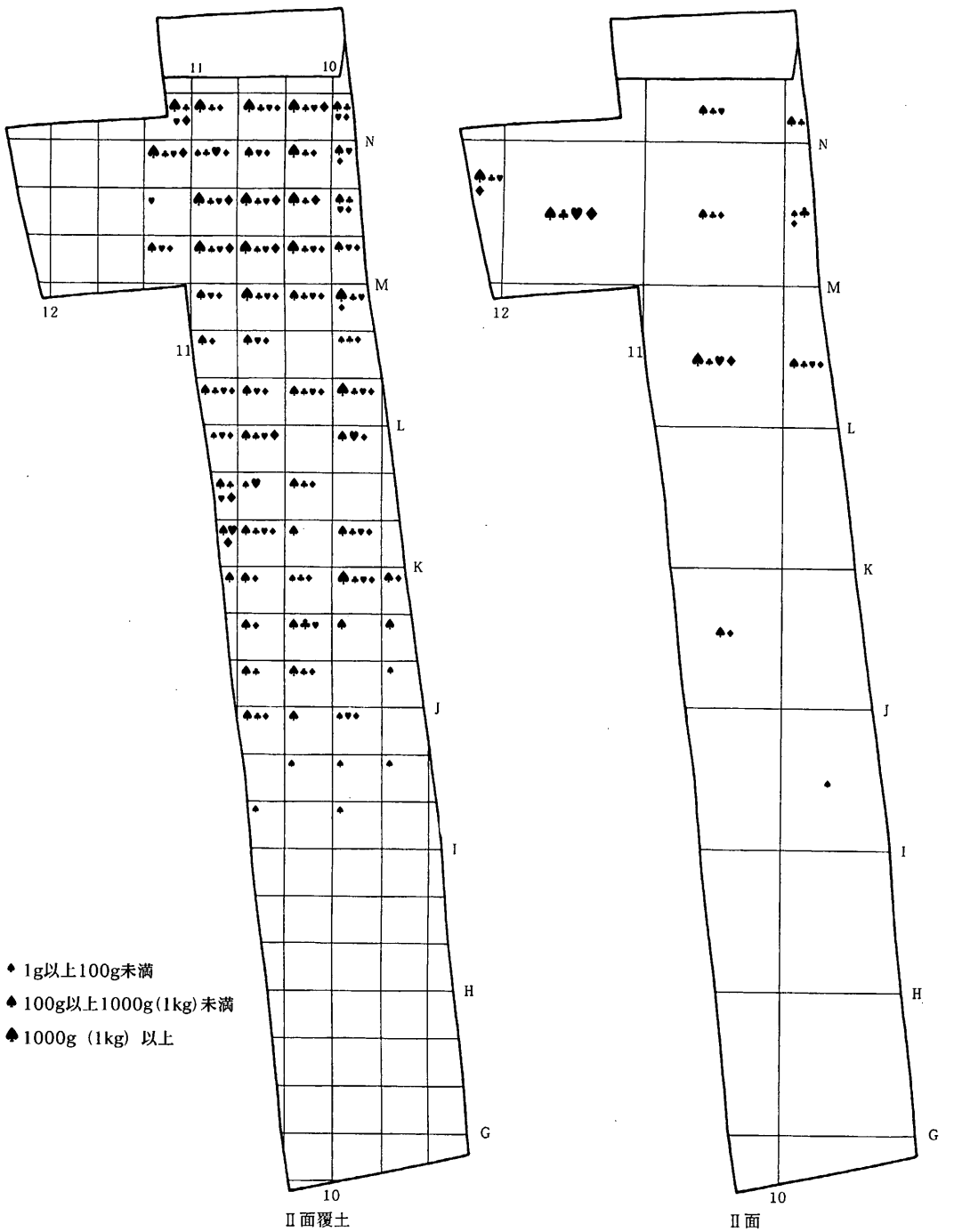


Fig.130　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図II面覆土・II面【定量・重量】

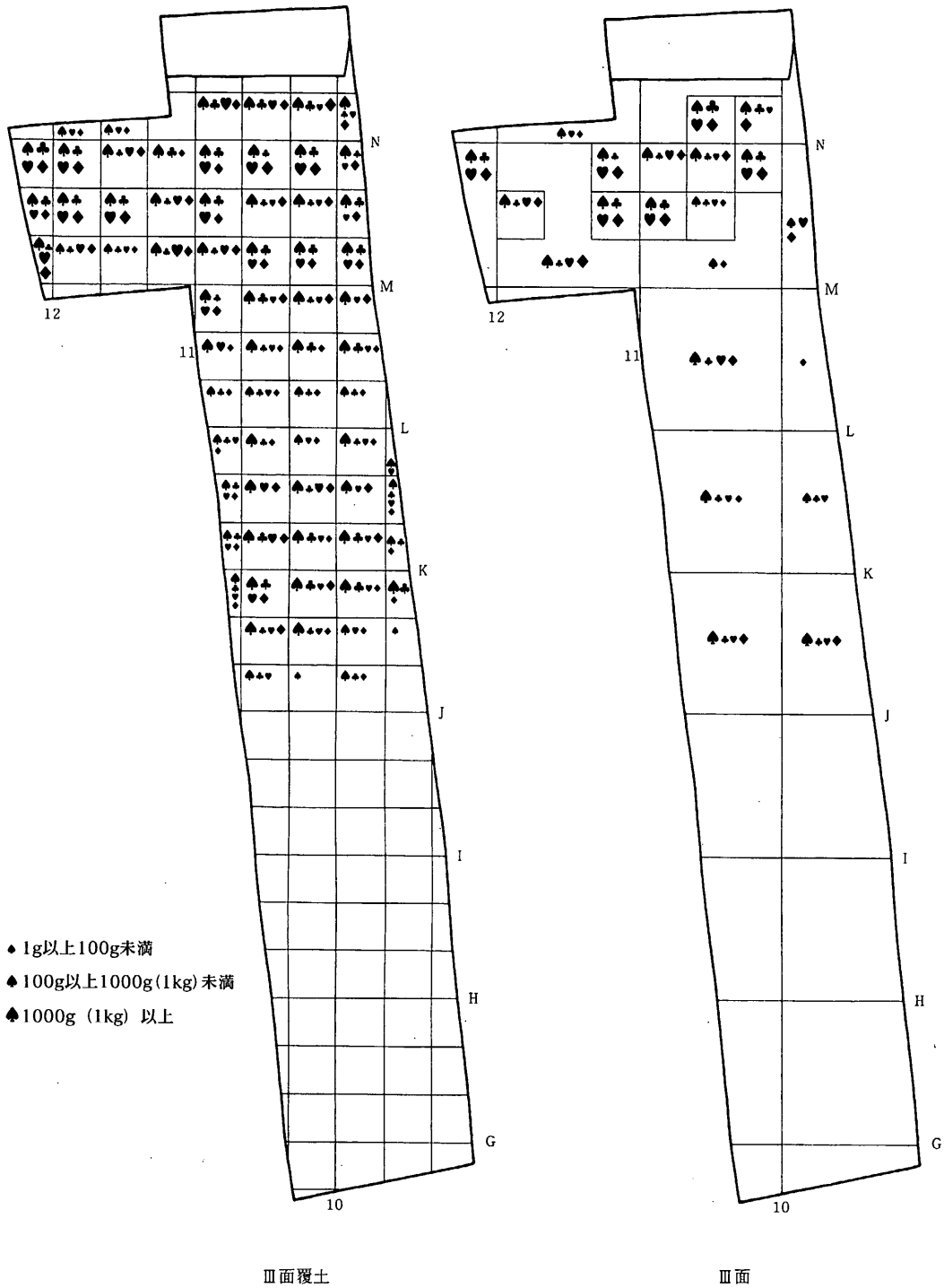


Fig.131　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図III面覆土・III面【定量・重量】

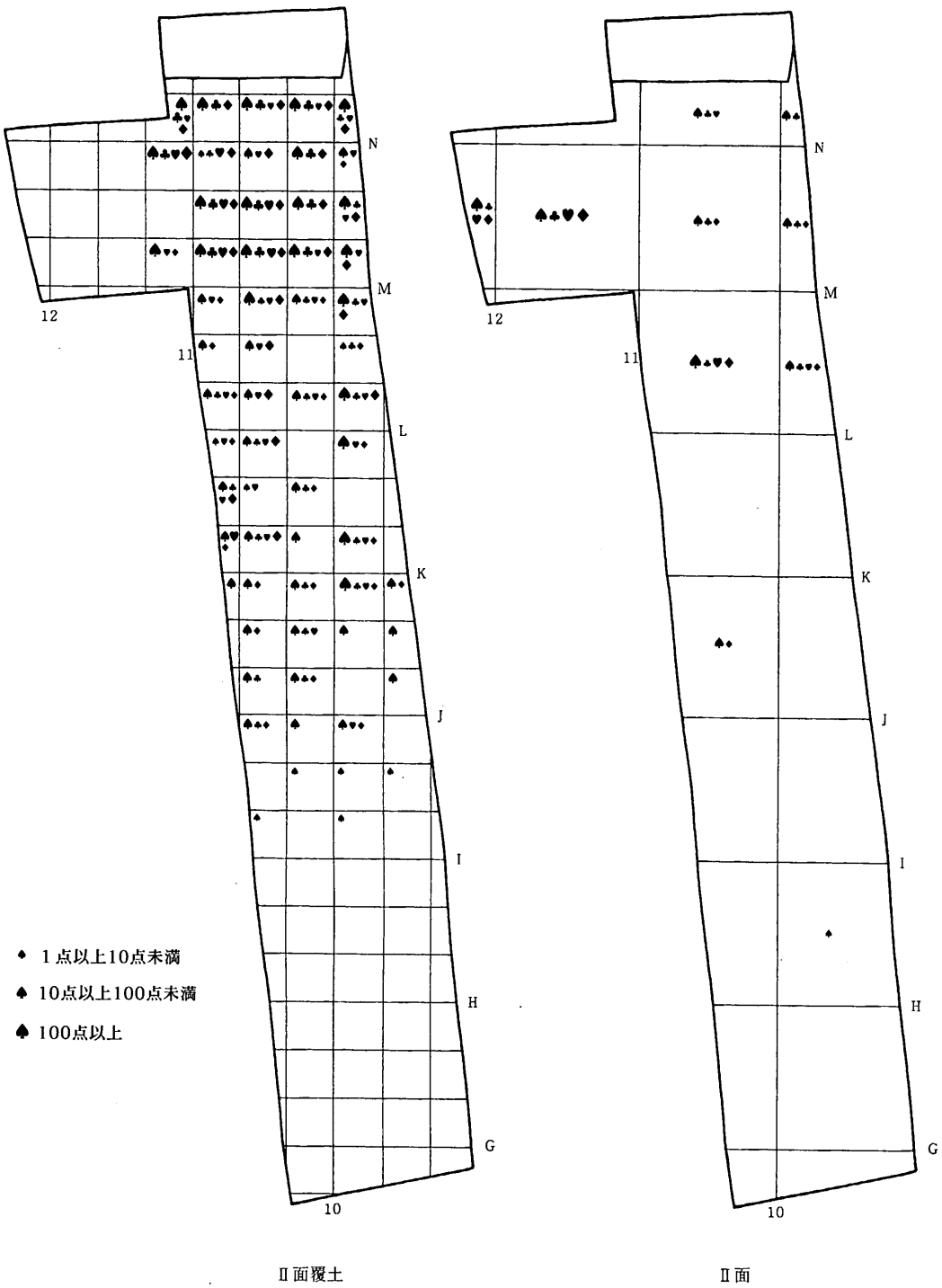


Fig.132　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図II面覆土・II面【定量・破片数】

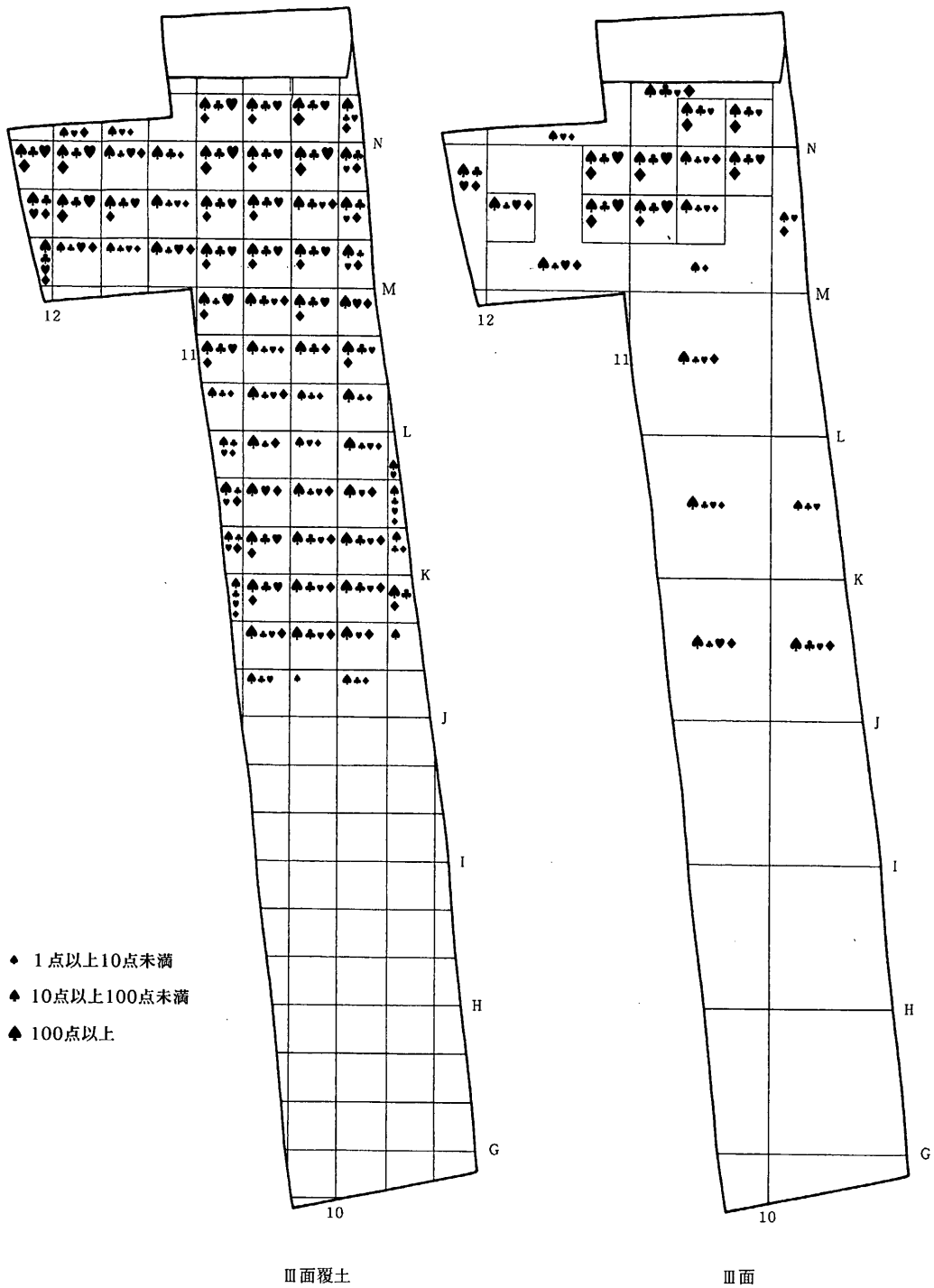


Fig.133　大宰府条坊跡第204次調査　鉱滓分布図III面覆土・III面【定量・破片数】

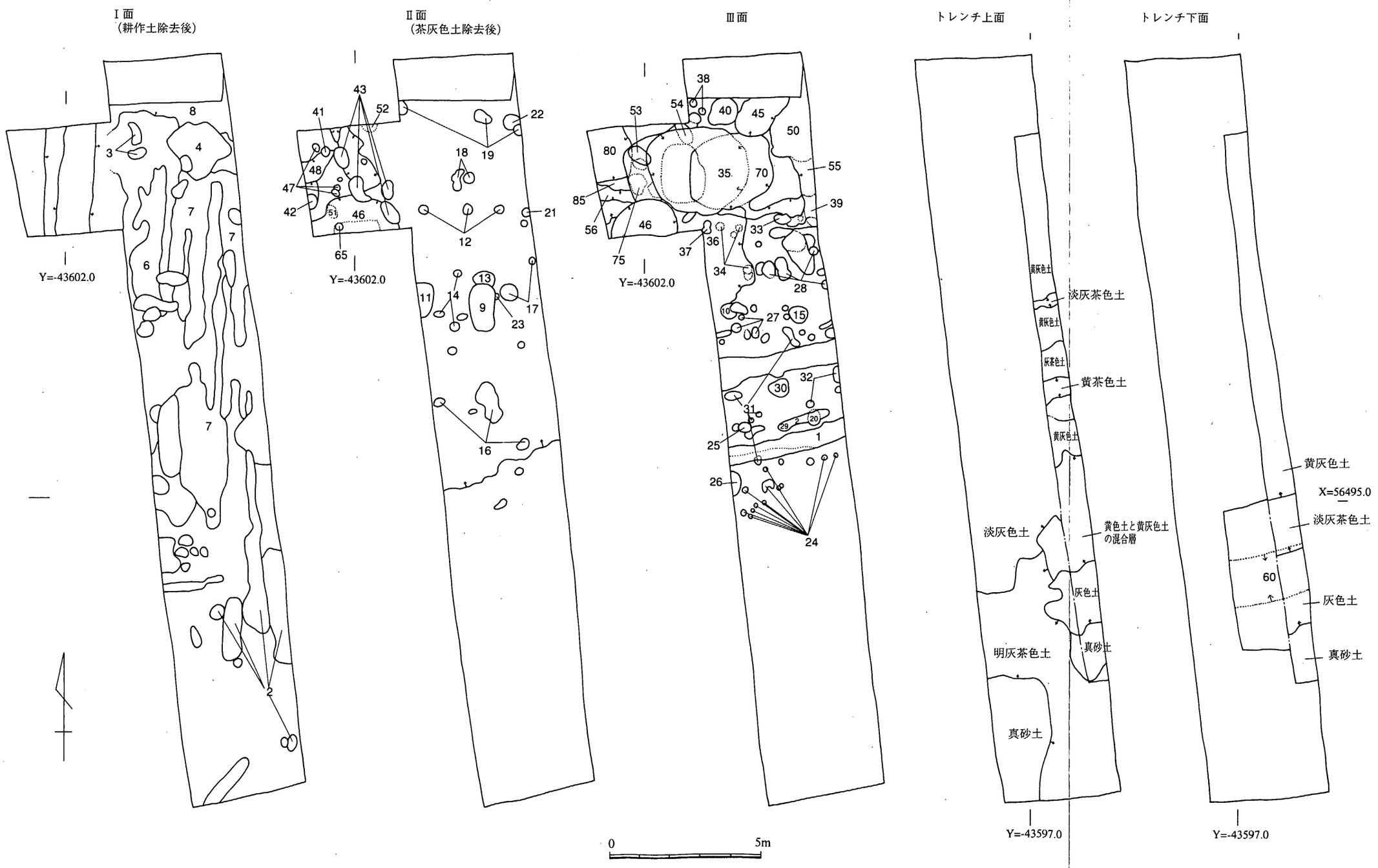


Fig.134　大宰府条坊跡第204次調査　遺構配置略測図（S=1/150）

Tab.23　大宰府条坊跡第208次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	層位	地区
1	208SK001	土坑	茶色土（黄白色ブロック混入）		1	D2
2		ピット群	暗茶色土		1	D2
3		凹み			1	B3
4		凹み	茶色土		1	D3
5	208SK005	土坑	暗茶色土	焼土を多く混入（炭化物も入る）	1	E3
6		溝か	黒茶色土	（Ⅱ面遺構）	2	C3
7		凹み	茶色土		1	C3
8		ピット	茶色土（黄色土ブロック混入）		1	B4
9		凹み	黒茶色土	（Ⅱ面遺構）	2	C4
10	208SX010	小形炉か？		整地層中の炉壁	1	E6
11		ピット	灰茶色土		1	D4
12		ピット	黄茶色土		1	D4
13	208SD013	溝	褐茶色土（礫多く混入）	S-13→S-1	1	C3
14		凹み			1	D3
15	208SB015	礎石建物			1	C4他
16		ピット群	茶灰色土		1	B5
17		溝	茶色土	S-17→S-13	1	C3
18		溝	黄色土		1	E4
19		土坑	黄茶色土		1	E5
20	欠番					
21		ピット群	灰茶色土		1	E4
22		凹み	暗茶色土		1	D5
23		ピット	茶色土		1	E5
24		ピット群	灰茶色土		1	E6
25	欠番					
26		ピット群	茶色土		1	F9

Tab.24　大宰府条坊跡第208次調査　遺物計測表

S-1

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		12.6	2.8	8.2	○	○
	小皿a イト	1	a-001		8.6	1.2	6.2	○	○

S-7

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a —	1	a-001		8.8	1.0	7.2	—	—

S-9

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a —	1	a-001		8.2	1.0	6.8	—	—

S-13

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		12.0	2.7	8.4	—	—
	イト	2	a-002		12.6	2.7	7.5	—	○

S-22

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿b —	1	b-001		7.8	1.7	5.2	—	—

茶色土

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a —	1	a-001		12.8	2.5	8.8	—	—
	イト	2	a-002		13.0	2.7	8.6	—	○
	—	3	a-003		11.6	2.2	7.8	—	—
	小皿a イト	1	a-001		7.6	1.3	5.4	○	—
	イト	2	a-002		8.0	1.0	6.2	—	○

茶褐色土

種別	器種	番号	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	坏a イト	1	a-001		12.0	2.7	7.8	○	○
	—	2	a-002		13.6	2.9	9.2	—	—
	小皿a イト	1	a-001		7.8	1.4	5.3	—	○
	小皿b —	1	b-001		7.8	2.1	5.6	—	—

Tab.25-1　大宰府条坊跡第208次調査　遺物一覧表

S-1

須恵器	破片
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
金属製品	鉄塊
石製品	滑石破片

S-2

土師器	供膳具破片
土製品	炉壁

S-3 黒灰土

土師器	供膳具破片（イト）

S-3 黄茶土

須恵器	坏c（8c末～9c初め以降）

S-4

土師器	坏a、小皿
須恵質土器	こね鉢

S-5

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）、破片（1）
高麗青磁	象嵌；椀（西谷IV、1）
瓦質土器	火鉢
中国陶器	他器種；破片
金属製品	鉄釘
土製品	焼土
石製品	砥石

S-6

土師器	坏a、小皿

S-7

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
須恵質土器	こね鉢（東播系V）

S-8

土師器	坏a（イト）

S-9

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
瓦器	椀c
中国陶器	他器種；破片

S-10

土師器	供膳具破片

S-11

土師器	坏a（イト）

S-12

土師器	小皿a（イト）
瓦質土器	こね鉢

S-13

土師器	坏a、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；I-2（1）
瓦質土器	こね鉢（東播系V、VI、VII）
国産陶器	甕破片
白磁	皿；破片（1）
土製品	炉壁、焼土
瓦類	丸瓦（格子）

S-14

土師器	供膳具破片

S-16

土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；I（1）
瓦質土器	摺鉢

S-17

須恵器	甕
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）

S-18

土師器	小皿a、坏

S-19

土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	破片
木製品	炭化物

S-21

土師器	坏、小皿a
国産陶器	破片

S-22

土師器	小皿b（イト）、坏a（イト）
石製品	焼石

S-23

土師器	供膳具
白磁	皿；VI（1）
黒釉陶器	天目茶碗（1）

S-24

土師器	供膳具破片
金属製品	鉄釘
土製品	焼土

S-26

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）
土製品	鋳型破片

茶褐色土 B3

須恵器	壷f
土師器	坏a（イト）、供膳具
国産陶器	天目椀
白磁	皿；V（1）
石製品	破片（サヌカイト×玄武岩）

茶褐色土 B4

土師器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（3）
	皿；破片（1）
須恵質土器	こね鉢、甕
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋B群

茶褐色土 B5

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、椀c
土師質土器	こね鉢
須恵質土器	こね鉢

Tab.25-2　大宰府条坊跡第208次調査　遺物一覧表

茶褐色土 B6

須恵器	破片
土師器	坏
須恵質土器	破片
瀬戸	おろし皿（1）
土製品	鋳型

茶褐色土 C3

土師器	坏a（イト）

茶褐色土 C3・4

土師器	小皿a、煮沸具
須恵質土器	甕

茶褐色土 C4

須恵器	破片
土師器	小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	破片（1）
須恵質土器	こね鉢（東播VI）、甕
白磁	壷他；破片（1）
黒釉陶器	破片（1）
石製品	石鍋A群

茶褐色土 C5

土師器	坏a（イト）、小皿
瓦器	椀c2
瓦質土器	破片
金属製品	鉱滓

茶褐色土 C6

土師器	坏a、小皿（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（2）、破片（1）
	他器種；坏III-1（1）、坏III-3b（1）
同安窯系青磁	椀；破片（1）
須恵質土器	破片
国産陶器	破片
白磁	椀；破片（1）

茶褐色土 C7

土師器	小皿a（イト）、坏a、煮沸具
龍泉窯系青磁	椀；破片（3）
同安窯系青磁	椀；破片（1）
須恵質土器	破片
瓦質土器	こね鉢、摺鉢
白磁	皿；破片（1）
木製品	炭化物
石製品	滑石破片

茶褐色土 C8

土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；破片（4）、II-b（1）
同安窯系青磁	椀；破片（1）
土師質土器	鉢
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	甕
中国陶器	他器種類；F（2）
金属製品	鉱滓
木製品	炭化物
土製品	鋳型
石製品	河原石、滑石破片
瓦類	瓦玉、破片（格子）

茶褐色土 C9

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、坏c、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（2）、破片（1）
瓦質土器	こね鉢、火鉢
白磁	椀；VI-1a（1）
中国陶器	他器種；A（1）
土製品	鋳型
石製品	石鍋B群、硯？

茶褐色土 C10

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢、摺鉢
白磁	椀；II（1）
	皿；IX-1（1）、破片（1）
	壷他；破片（1）
中国陶器	他器種；F（1）
金属製品	鉄釘
木製品	炭化物
土製品	鋳型、焼土
石製品	滑石破片

茶褐色土 C11

土師器	坏（イト）、坏a、小皿a
国産陶器	甕
土製品	焼土
石製品	石鍋
瓦類	破片

茶褐色土 D3

土師器	坏a（イト）
須恵質土器	甕

茶褐色土 D3・4

土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）

茶褐色土 D4

須恵器	破片
土師器	坏a
土製品	焼土

茶褐色土 D5

土師器	坏a（イト）
黒色土器B	破片
龍泉窯系青磁	他器種；破片（1）
白磁	椀；VI-1b（1）
中国陶器	鉢；I-2（1）
	他器種；D（1）
黒釉陶器	破片

茶褐色土 D6

須恵器	甕、壷×高坏
土師器	小皿a、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	破片
国産陶器	摺鉢、甕

茶褐色土 D7

須恵器	甕
土師器	坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；III（1）、破片（1）
瓦質土器	火鉢、こね鉢
黒釉陶器	破片（1）
瓦類	破片

Tab.25-3　大宰府条坊跡第208次調査　遺物一覧表

茶褐色土 D8

須恵器	甕、坏
土師器	供膳具、小皿a（イト）、坏a（イト）
黒色土器B	供膳具
龍泉窯系青磁	椀；破片（2）
瓦質土器	火鉢
白磁	壷他；破片（3）
中国陶器	他器種；A（1）

茶褐色土 D9

須恵器	供膳具
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）、破片（4）
	他器種；破片（1）
瓦質土器	こね鉢、甕
黒釉陶器	天目椀（1）
金属製品	湯玉
石製品	石鍋
瓦類	瓦玉

茶褐色土 D10

須恵器	甕、供膳具
土師器	坏a（イト）、小皿b（イト）、坏c、小皿a
龍泉窯系青磁	椀；III-2c（1）
	他器種；香炉
須恵質土器	こね鉢（東播系VI）
瓦質土器	火鉢、こね鉢
中国陶器	他器種；E（2）
金属製品	銭貨
石製品	滑石石鍋B群

茶褐色土 D11

土師器	坏a（イト）、小皿a
瓦器	椀
龍泉窯系青磁	椀；破片（1）
土師質土器	こね鉢
瓦質土器	摺鉢
白磁	皿；IX、破片
中国陶器	他器種；E（1）
金属製品	銭貨
瓦類	破片

茶褐色土 E3

土師器	坏a（イト）

茶褐色土 E4

土師器	坏、煮沸具
瓦質土器	甕

茶褐色土 E5

土師器	小皿a、坏a（イト）
石製品	剥片（黒曜石）、石鍋B群

茶褐色土 E6

須恵器	坏c、甕、蓋c
土師器	坏a（イト）、小皿a
同安窯系青磁	皿；I-1b（1）
瓦質土器	甕
国産磁器	破片（近世）
白磁	壷他；破片（1）
木製品	炭化物
土製品	鋳型
石製品	河原石

茶褐色土 E7

土師器	坏a（イト）、把手
龍泉窯系青磁	椀；II-b（2）、I×II（1）、IV（1）、破片（4）
同安窯系青磁	椀；I-1b（1）、破片（3）
須恵質土器	こね鉢（東播系VI）
瓦質土器	こね鉢
白磁	椀；IV（1）、II（1）、破片（3）
	皿；IX-2（1）、破片（4）
中国陶器	他器種；E（1）
黒釉陶器	壷（1）、破片（2）
石製品	五輪塔（凝灰岩片）、河原石

茶褐色土 E8

須恵器	甕
土師器	煮沸具、供膳具
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	破片

茶褐色土 E9

須恵器	甕
土師器	小皿a（イト）、煮沸具、坏a（イト）
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）、II-b（1）、III（1）、I（3）
	皿；I（1）
	他器種；破片（5）、坏III（1）、壷（2）
同安窯系青磁	他器種；破片（1）
土師質土器	火鉢
須恵質土器	火鉢
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	摺鉢［備前III］、甕
白磁	椀；IV（1）、V-4×VIII-1
	皿；IX（1）、破片（3）
	壷他；破片（3）
青白磁	椀（2）
中国陶器	他器種；E（1）
黒釉陶器	破片（4）
木製品	炭化物
土製品	紡錘車？
石製品	石鍋加工品、砥石、碁石、河原石

茶褐色土 E10

須恵器	甕
土師器	坏a
龍泉窯系青磁	椀；破片（2）、IV（3）、II-b（1）、III（1）、I×II（1）
	皿；I（1）
	他器種；破片（6）
高麗青磁	象嵌；椀（西谷IV、1）
土師質土器	鍋、破片
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢×摺鉢、摺鉢、破片
国産陶器	こね鉢
白磁	椀；破片（1）、IV（1）
	皿；IX（1）
	壷他；破片（3）
中国陶器	他器種；A'（2）
黒釉陶器	破片（1）
金属製品	鉱滓、鉄釘
石製品	砥石
瓦類	破片

茶褐色土 F8

須恵器	坏c
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、坏c
龍泉窯系青磁	他器種；破片（12）
瓦質土器	摺鉢
瀬戸	おろし皿（1）
肥前系陶磁器	壺
白磁	壷他；破片（7）
青白磁	小椀（1）
中国陶器	他器種；合子（1）
石製品	河原石

Tab.25-4　大宰府条坊跡第208次調査　遺物一覧表

茶褐色土 F9

須恵器	甕、鉢a
土師器	小皿a（イト）、坏a（イト）
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	椀；IV（1）、I-b（1）
青磁	破片
瓦質土器	こね鉢×摺鉢
国産陶器	摺鉢、甕
黒釉陶器	破片（2）
白磁	椀；I（1）、VIII（1）
	皿；破片（1）、IX（1）
	壺他；破片（5）
中国陶器	他器種；A'（1）、E（1）
国産磁器	破片
金属製品	鏡破片
土製品	鋳型
瓦類	破片

茶褐色土 F10

須恵器	坏×蓋（7c以降）、甕
土師器	坏a（イト）、小皿a（イト）、小皿a、坏c
黒色土器B	供膳具
瓦器	椀c
龍泉窯系青磁	椀；II-b（3）、I（1）、III（2）
	他器種；破片（3）
同安窯系青磁	椀；破片（1）
瓦質土器	火鉢、こね鉢×摺鉢、甕
瀬戸	天目椀（1）
白磁	椀；破片（1）
	皿；破片（1）、V（1）、II-b（1）、IX（1）
	壺他；破片（3）
中国陶器	他器種；A（1）
肥前系陶磁器	破片（1）
国産磁器	近世白磁（3）
金属製品	湯玉
石製品	石鍋、河原石
瓦類	破片（格子）、軒平瓦

茶褐色土

須恵器	甕、供膳具、小壺
土師器	坏a（イト）、煮沸具、小皿a
瓦器	椀c2
龍泉窯系青磁	椀；II-b（1）、I-1（1）、I（1）、IV（1）、I×II（1）、破片（8）
	皿；I（1）
同安窯系青磁	椀；破片（2）、I-b（2）
青磁	破片（3）
土師質土器	こね鉢×摺鉢
須恵質土器	こね鉢、（イト）
瓦質土器	こね鉢、摺鉢
国産陶器	壺、甕［常滑］
白磁	椀；IV（1）、破片（6）
	皿；IX-1（2）、IX-2（1）、IX（3）
	壺他；破片（6）
青白磁	椀×皿（1）、合子（1）
中国陶器	鉢；VI（1）
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器　甕（1）
黒釉陶器	破片（2）
肥前系陶磁器	破片（1）
国産磁器	破片（近世）
金属製品	銅破片、鉄釘
木製品	炭化物
石製品	滑石破片、河原石、砥石（粘板岩製）
瓦類	瓦玉、破片

Tab.26　大宰府条坊跡第208次調査　鉱滓分析表

遺構 土層名称	地区番号	層位	重量（g）															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
		記号	○	◇	□	△	☆	●	◆	■	▲	★	♠	▽	▼	◎	＋	♤
S-3 黄茶土	B3	1						76.2										
S-3 黒灰土	B3	1	7.2		15.3							10.9						
茶褐色土	B3	1	4.8					180.5		156.9		16.4		16.4			45.1	
茶褐色土	B4	1	5			4.8	27.7			48.9		351.8					140.8	
S-16	B5	1	34.7														116.4	
茶褐色土	B5	1				9.8	54.6					92.2				10.4	0.1	
茶褐色土	B6	1				6.1						20.8				10.5		
茶褐色土	C10	1	61.1			4.9	36.6	24.4		12.9		416.3	2	165.7	20.3	7.9	700.3	
茶褐色土	C11	1	11						3.5			6.7		13.9				
S-13	C3	1	157.8				169.6	486.6		185		374.4				106	2863.8	
S-17	C3	1						202.1										
S-7	C3	1	10									39.3		5.5		5.7		
茶褐色土	C3	1					4			9.2		28.6		132.4			246.7	
茶褐色土	C4	1					37.8	20.5				97.7		10.7				
茶褐色土	C5	1	50.6			8.2	26.3	20.5		7.8		97.5						
茶褐色土	C6	1	23.7				89.7					198.8	3.3	10.5		23.3	24.8	
茶褐色土	C7	1			10.3	6.7	21.6			44		198.5		0.5		1.8	15.4	
茶褐色土	C8	1				9.2	83			81.5		168.4		21.2	2.2	22.7	32.7	
茶褐色土	C9	1	191.6		16.6	17.3	98.6			9.4		219.6		13.2		1.6	115.4	
茶褐色土	D10	1	176				78.9			64.6	132.3	1203.4	24.7	63.1	14.6	22.4	626.7	
茶褐色土	D11	1	68.6				12.1					80			7			
S-1	D2	1					7.6	52										
S-2	D2	1	5.8									10.9						
S-1	D3	1						3.7										
S-4	D3	1				6.4		47.1				13.9		47.3			11.2	
茶褐色土	D3	1	4.2		19	19	34.7			104.5		48.7		3.5				
S-11	D4	1						14								33	51.4	
S-12	D4	1												22.2				
茶褐色土	D4	1	20.5		5	13.8						219.1		19.3	7.4			
S-22	D5	1			6.5					6.4		331.9					0.2	
茶褐色土	D5	1			2.4	5.9	17					204.7					43.3	
茶褐色土	D6	1				23						398.5			169.2			
茶褐色土	D7	1					14.4					264.3					100.6	
茶褐色土	D8	1						13.3				532.5			4.7		51.9	
茶褐色土	D9	1	37.6		8			9.9		27.1		433.4	6.5			5.9	87.2	3.5
茶褐色土	E10	1	119.1				17.8	129.1				824.3	1.5	201.3	21.4			
S-5	E3	1	71.7		6.7					24.3		59.8		1717.7	2054.4		231.1	
茶褐色土	E3	1				42.3						51.4						
S-18	E4	1					9.4											
S-21	E4	1	2.8				61.9					96.3						
茶褐色土	E4	1	5.4		6.1				41.5	52.2		77.8						
S-19	E5	1	8.1					136.5				51.8					11.8	
S-23	E5	1										18.6					3	
茶褐色土	E5	1					48.8			49.4	12.8				6.3		36.2	
S-24	E6	1										9.8					5.8	
茶褐色土	E6	1				27.3	16.9	232		13.2		822.8		57.5		67.2	107.7	
茶褐色土	E7	1	35				41.6					396					770.6	
茶褐色土	E8	1	110.6				38	152.2				101.3	11.7	5.9				
茶褐色土	E9	1	598.7				37.4	157.5		81		337.4	11.7	30			134.2	
茶褐色土	F10	1	50.4			44.1	6.2	147.1				291.7		5.6			6.1	
茶褐色土	F8	1	66.3					18.1										
S-26	F9	1	5.4		12.2		16.3					53.8			8.4		23.1	
茶褐色土	F9	1	325.2	1.9			6.1	33.8		22.1	18.2	538.9	8.8	12.8	21.1	12.6	119.7	
S-6	C3	2						30.8		68.7		10.4					11.3	

Tab.27　大宰府条坊跡第208次調査　鉱滓分析表（出土破片数一覧表）

遺構 土層名称	地区番号	層位	破片数															
			1-a	1-b	1-c	1-d	1-f	2-a	2-b	2-c	2-d	2-f	3	4-a	4-b	5	6	7
S-3 黄茶土	B3	1						5										
S-3 黄茶土	B3	1	1		3							3						
茶褐色土	B3	1	3					11		1		1		1			2	
茶褐色土	B4	1	1			1	2			1		10					5	
S-16	B5	1	2														1	
茶褐色土	B5	1				1	5					5				1	1	
茶褐色土	B6	1				1						3				1		
茶褐色土	C10	1	7			1	2	1		1		13	1	6	2	1	2	
茶褐色土	C11	1	2						1			1		1				
S-13	C3	1	6				11	7		4		11				1	39	
S-17	C3	1						12										
S-7	C3	1	2									3		1		1		
茶褐色土	C3	1					1			1		3		1			1	
茶褐色土	C4	1					4	1				6		1				
茶褐色土	C5	1	4			2	4	1		1		6						
茶褐色土	C6	1	2				4					10	1	2		3	1	
茶褐色土	C7	1			1	1	4			1		8		1		1	1	
茶褐色土	C8	1				1	6			5		13		1	5	1	2	
茶褐色土	C9	1	13		1	2	6			1		10		2		1	3	
茶褐色土	D10	1	43				14			2	3	48	3	7	4	3	8	
茶褐色土	D11	1	6				1					10			2			
S-1	D2	1					1	1										
S-2	D2	1	2									3						
S-1	D3	1						2										
S-4	D3	1				1		1				1		2			3	
茶褐色土	D3	1	1		2	2	4			2		3		1				
S-11	D4	1						1								3	1	
S-12	D4	1												1				
茶褐色土	D4	1	2		1	1						10		2	1			
S-22	D5	1			4					1		14					1	
茶褐色土	D5	1			1	1	4					8					2	
茶褐色土	D6	1				2						3			1			
茶褐色土	D7	1					1					5					1	
茶褐色土	D8	1						1				9			1		1	
茶褐色土	D9	1	2		1			1		1		25	1			1	2	1
茶褐色土	E10	1	7				2	3				23	1	3	3			
S-5	E3	1	15		1					1		4		102	151		6	
茶褐色土	E3	1				1						2						
S-18	E4	1					1											
S-21	E4	1	1				2					2						
茶褐色土	E4	1	1		1				1	3		4						
S-19	E5	1	2					5				7					1	
S-23	E5	1										1					1	
茶褐色土	E5	1					2			2	1				1		1	
S-24	E6	1										1					1	
茶褐色土	E6	1				1	3	4		1		13		2		9	2	
茶褐色土	E7	1	4				1					11					4	
茶褐色土	E8	1	5				3	3				6	1	1				
茶褐色土	E9	1	12				6	3		3		26	2	2			6	
茶褐色土	F10	1	9			4	2	11				18		1			1	
茶褐色土	F8	1	3					1										
S-26	F9	1	1		2		2					2			1		2	
茶褐色土	F9	1	15	1			4	1		2	1	11	2	4	3	2	6	
S-6	C3	2						2		2		2					1	

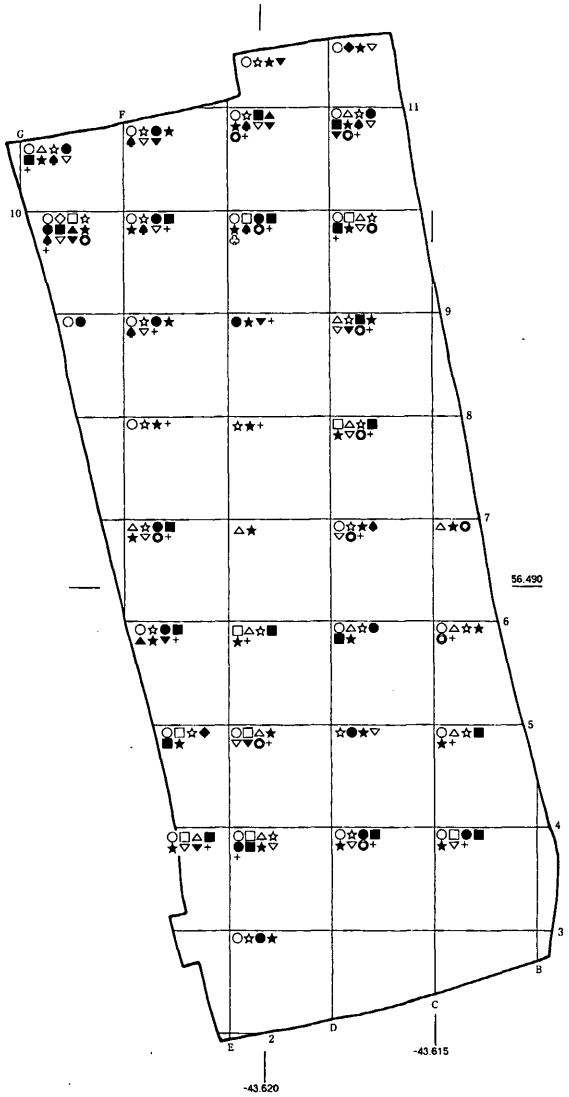


Fig.135　大宰府条坊跡第208次調査
鉱滓分布図【定性】

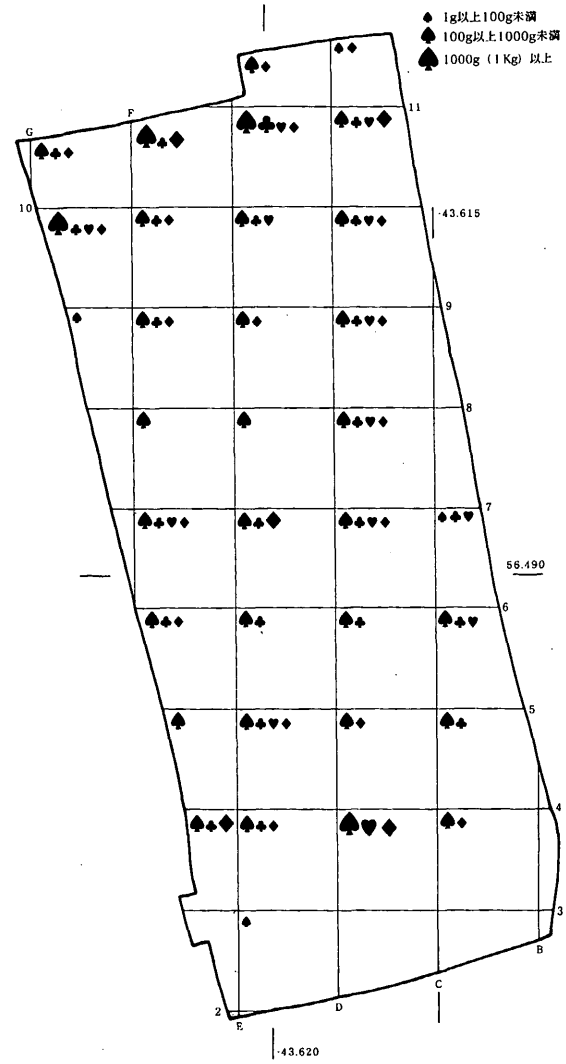


Fig.136　大宰府条坊跡第208次調査
鉱滓分布図【定量・重量】

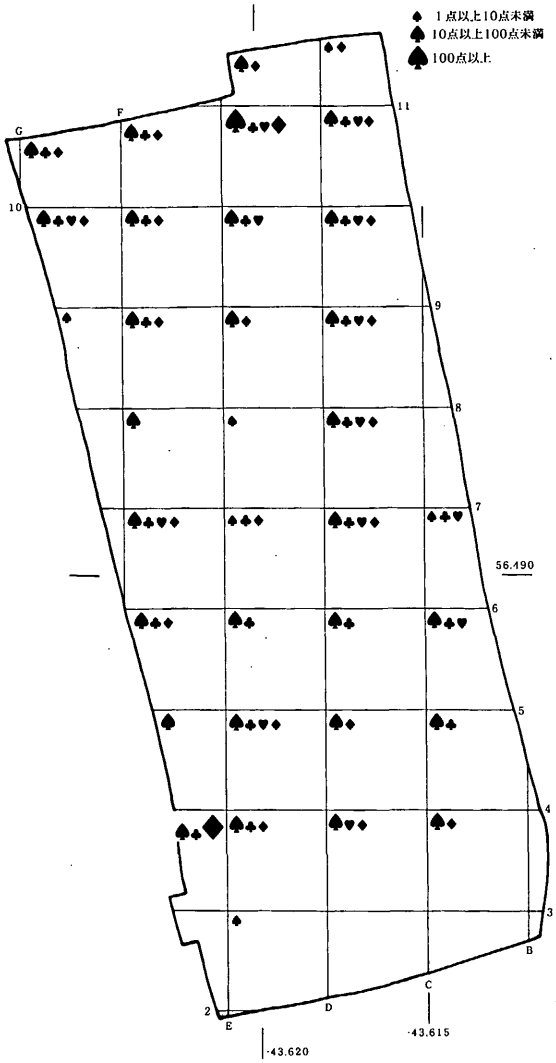


Fig.137　大宰府条坊跡第208次調査
鉱滓分布図【定量・破片数】

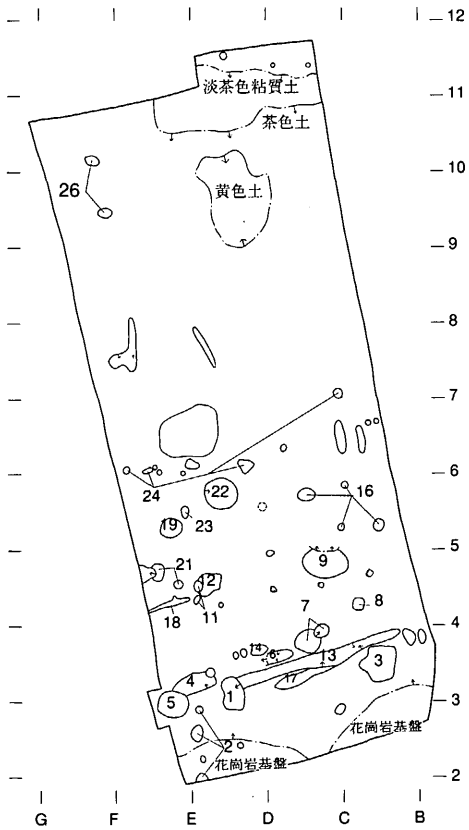


Fig.138　大宰府条坊跡第208次調査
遺構配置略測図（S=1/300）

Tab.27　大宰府条坊跡第213次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	種別	時期
1	SD001	溝	近世～
2		ピット	近世～
3		ピット	近世～
4		土坑	近世～
5	SK005	土坑	近世～

Tab.28　大宰府条坊跡第213次調査　遺物一覧表

S-1

須恵質土器	破片
土師器	坏、小皿、鉢×甕
白磁	皿；IV-2a
中国陶器	破片
黒釉陶器	天目椀片
石製品	チャート

S-2

金属製品	鉱滓
土製品	鋳型

S-3

白磁	破片

S-5

須恵質土器	破片
土師器	破片
黒色土器B	破片
中国陶器	破片

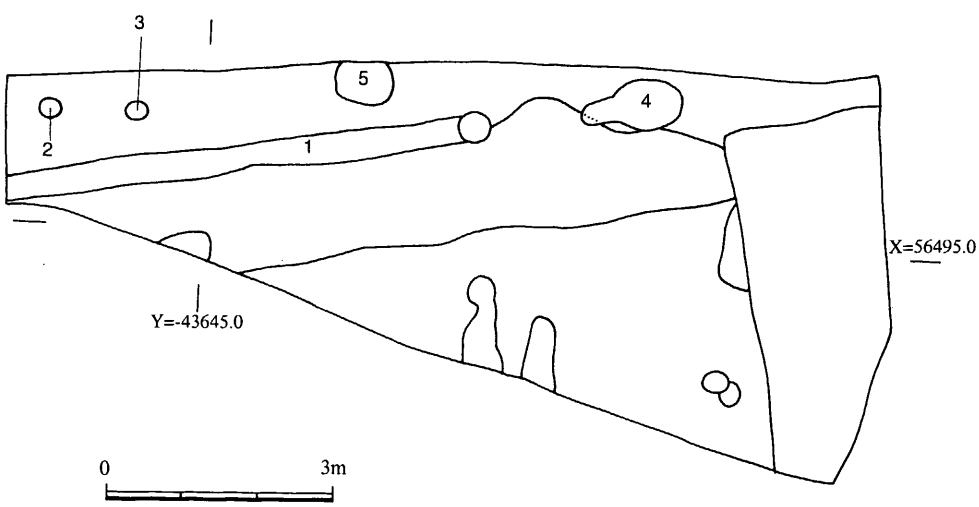


Fig.139　大宰府条坊跡第213次調査　遺構配置略測図（S=1/100）

写　真　図　版

凡例

写真中の番号は、図版番号を表す

例　28-19

Fig.番号　　挿図番号



大宰府条坊跡第111次調査I・II面遺構全景（空中写真、上が北）



大宰府条坊跡第111次調査I・II面遺構全景（南東より）

Pla.2



111SB001検出状況（東より）



111SB001石敷状況（空中写真、上が北）



111SB001石敷状況（東より）



111SB001石敷状況北東隅（北東より）

Pla.4



111SB001石敷状況（北西より）



111SB001石敷除去状況（北より）

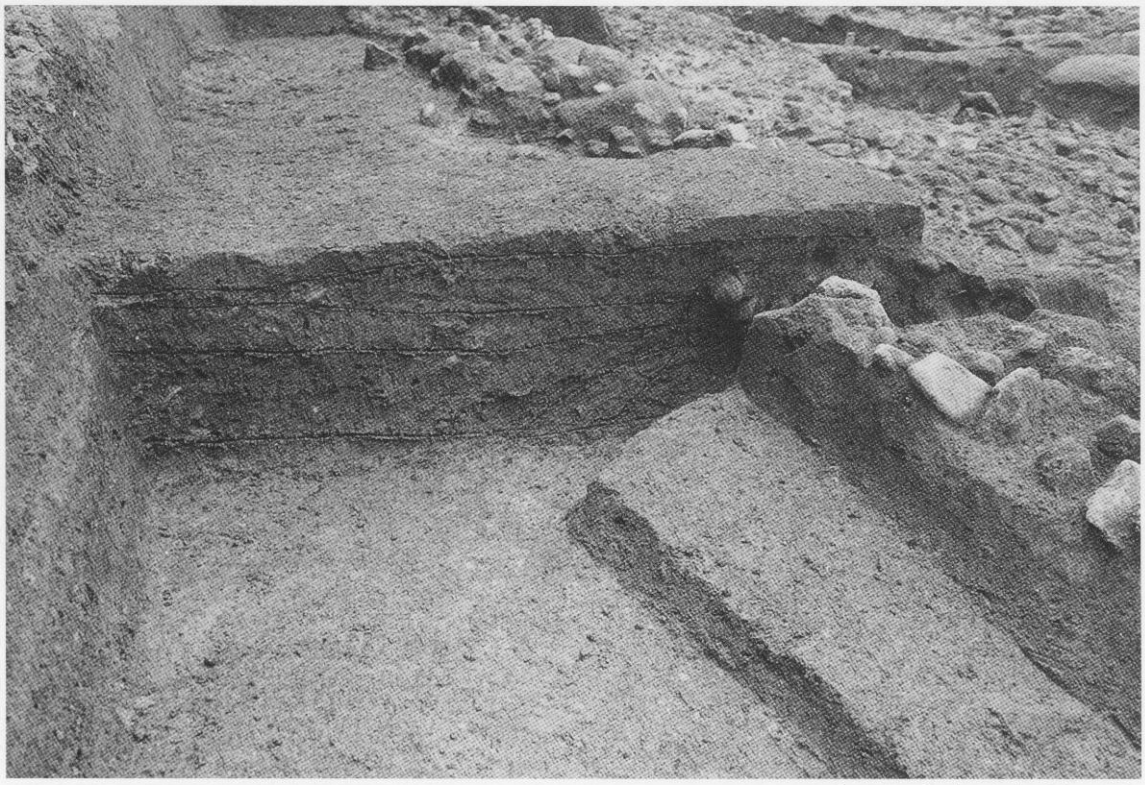


111SB001石敷除去状況北東隅詳細（北より）



111SB001石敷除去状況南東隅詳細（北西より）

Pla.6



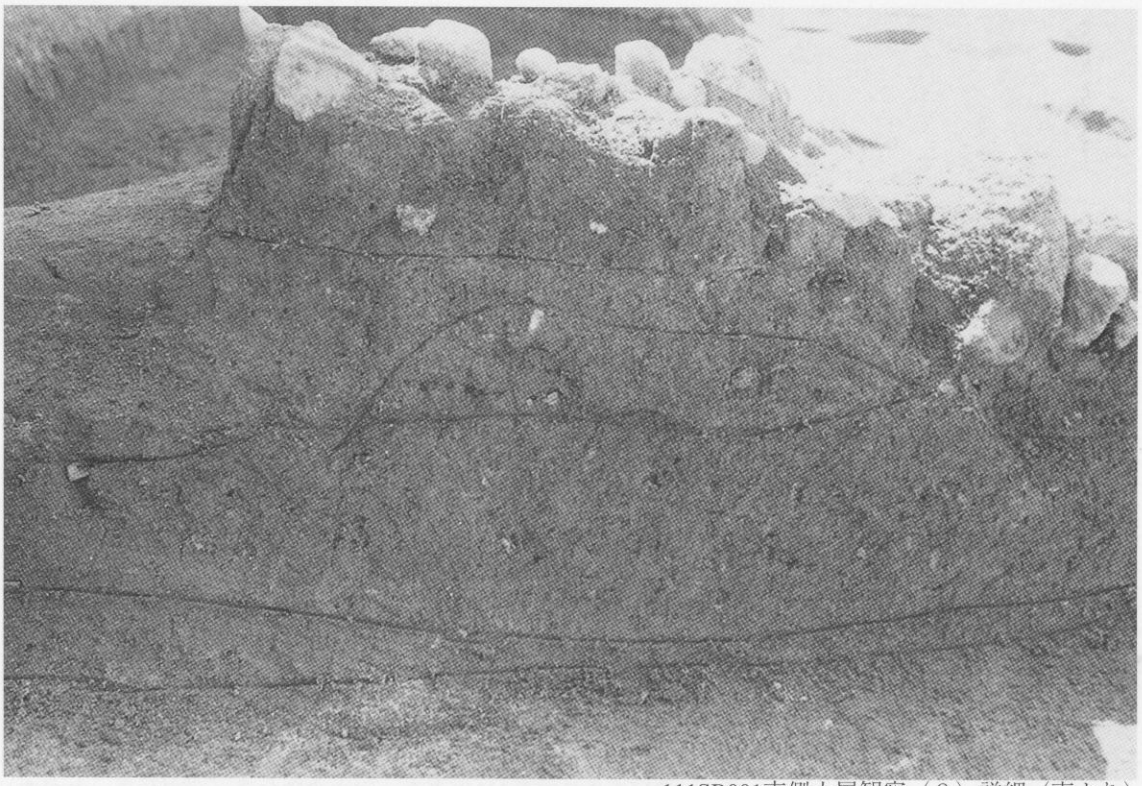
111SB001南側土層観察（1）（東より）



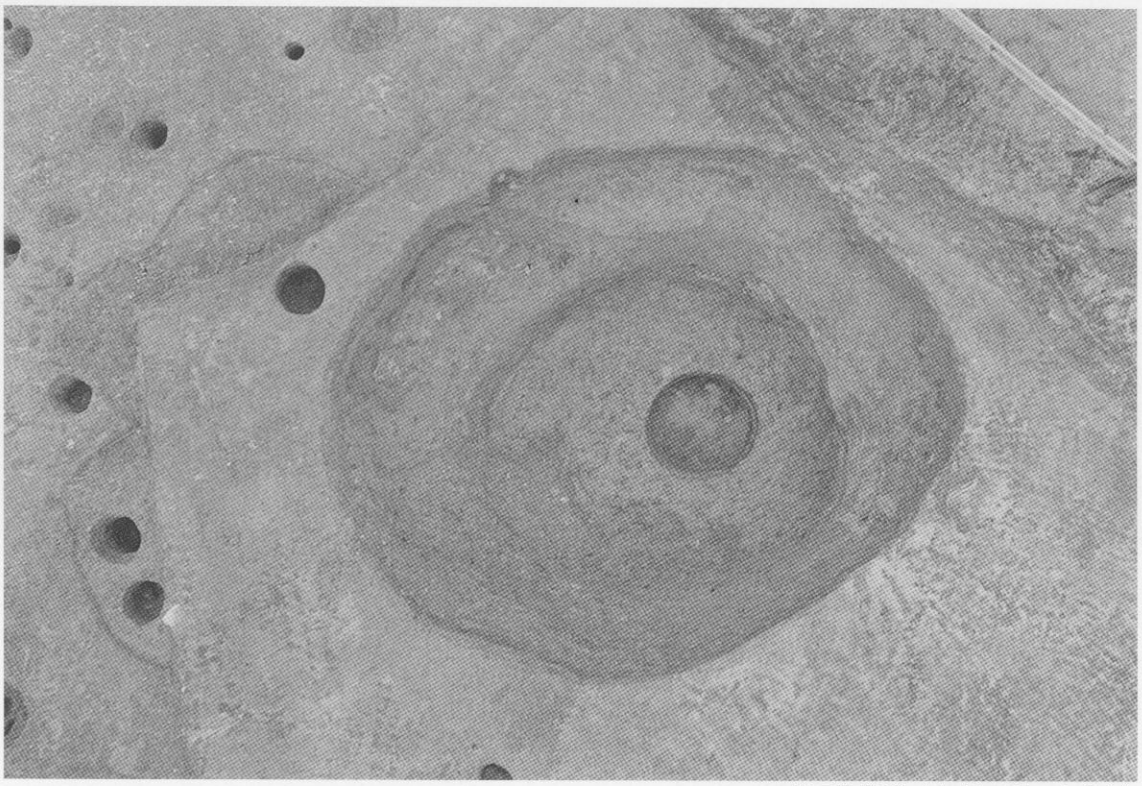
111SB001南側土層観察（1）詳細（東より）



111SB001南側土層観察（2）（東より）



111SB001南側土層観察（2）詳細（東より）



111SE010井戸枠検出（空中写真、上が北）



大宰府条坊跡第111次調査　III面遺構全景（空中写真、上が西）

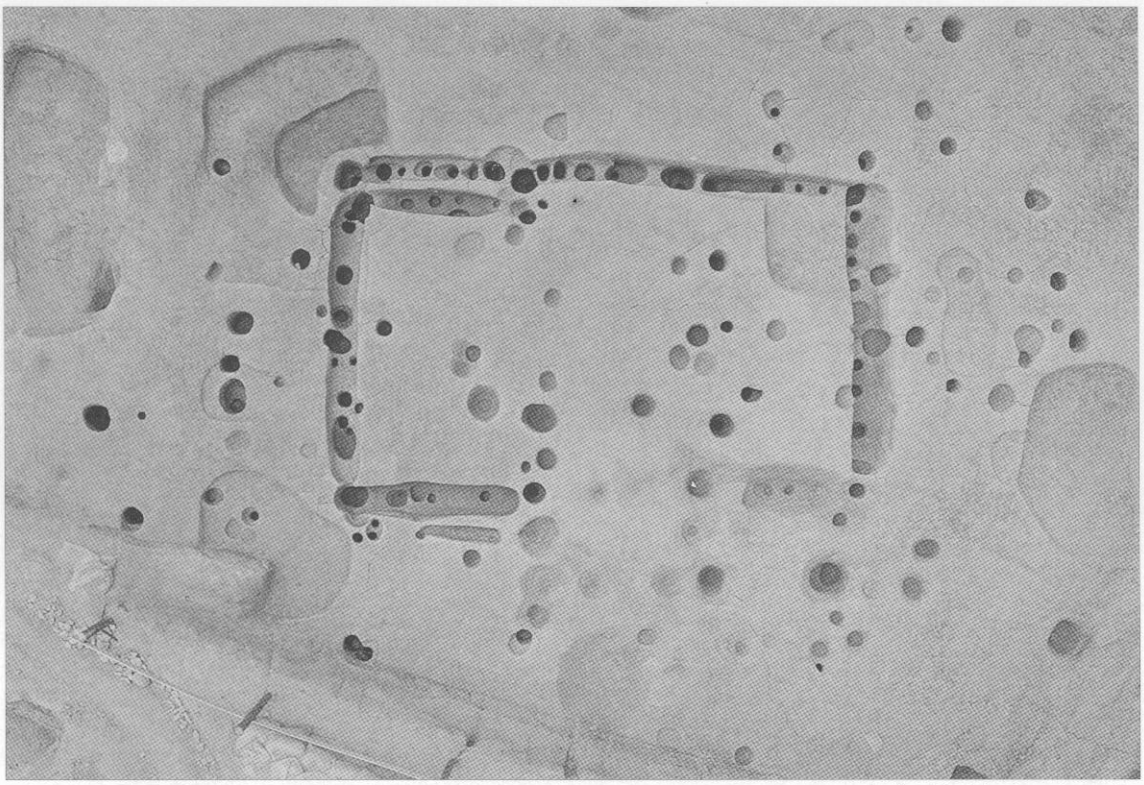


大宰府条坊跡第111次調査　III面遺構全景（東より）



大宰府条坊跡第47次調査地を望む（南西より）

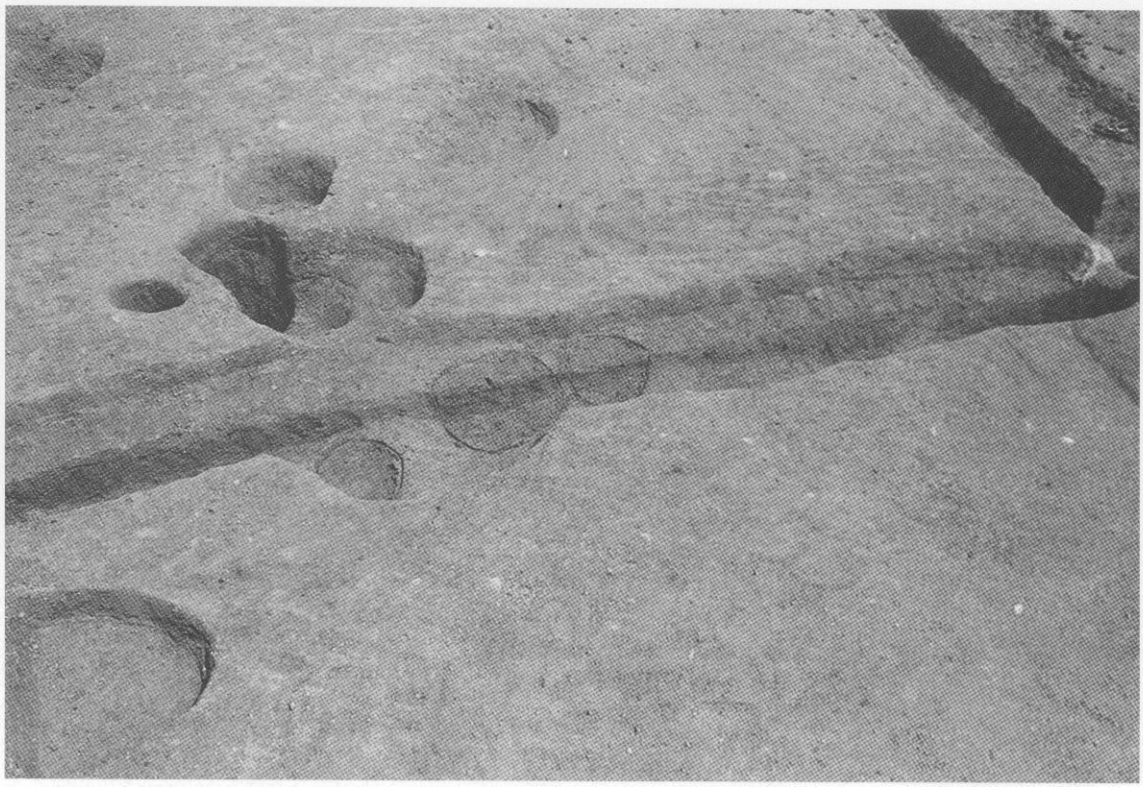
Pla.10



111SB060全景（空中写真、上が南）



111SB060全景（南より）

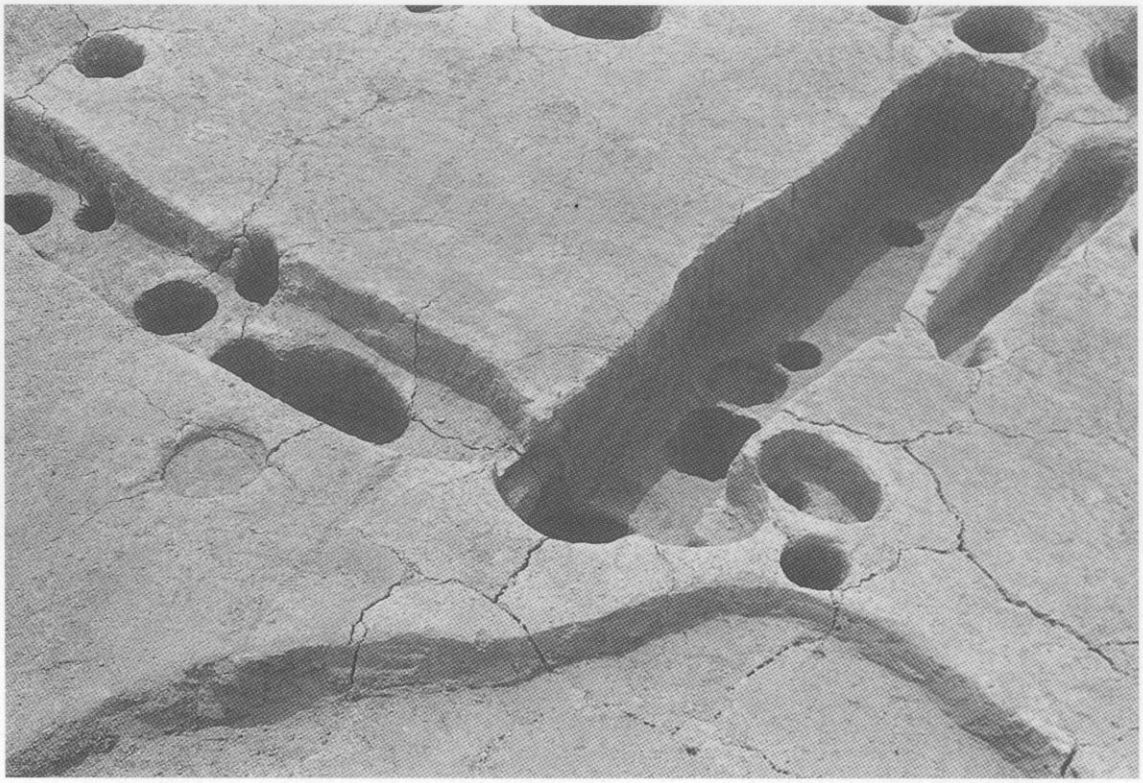


111SB060（S-30）土層観察（南より）



111SB060南東隅詳細（南東より）

Pla.12



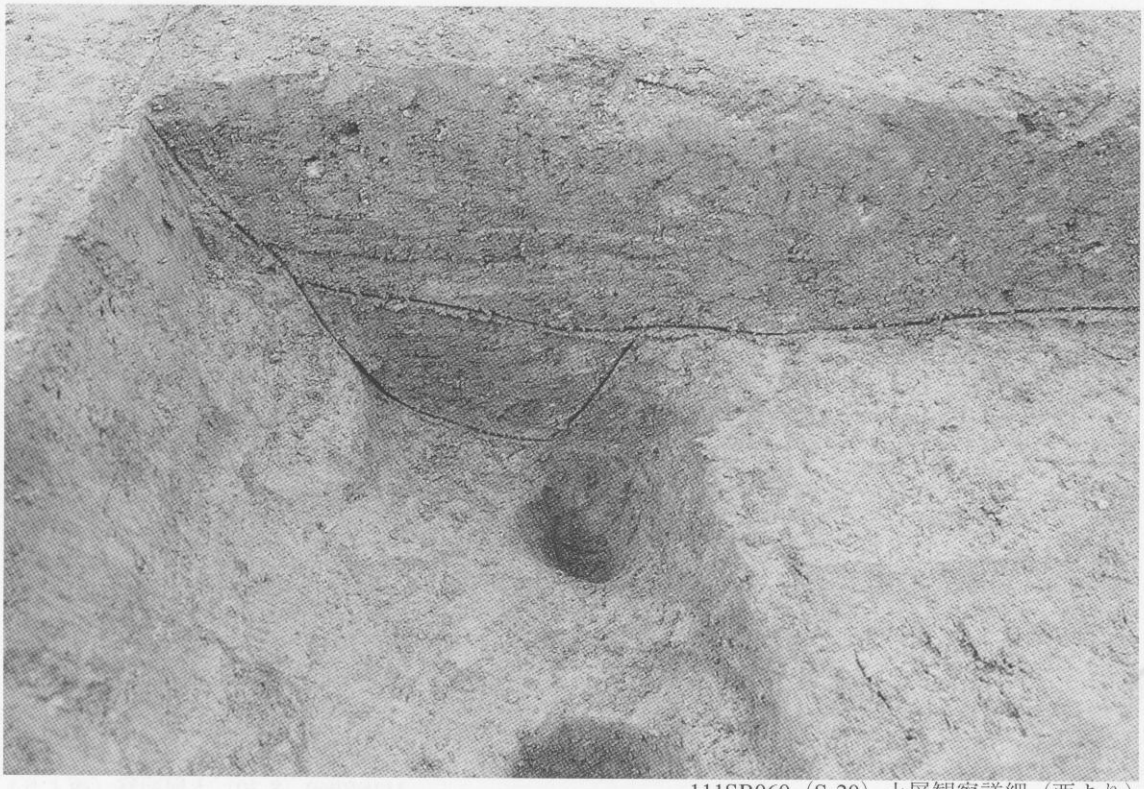
111SB060北東隅詳細（北東より）



111SB060南西隅詳細（南西より）

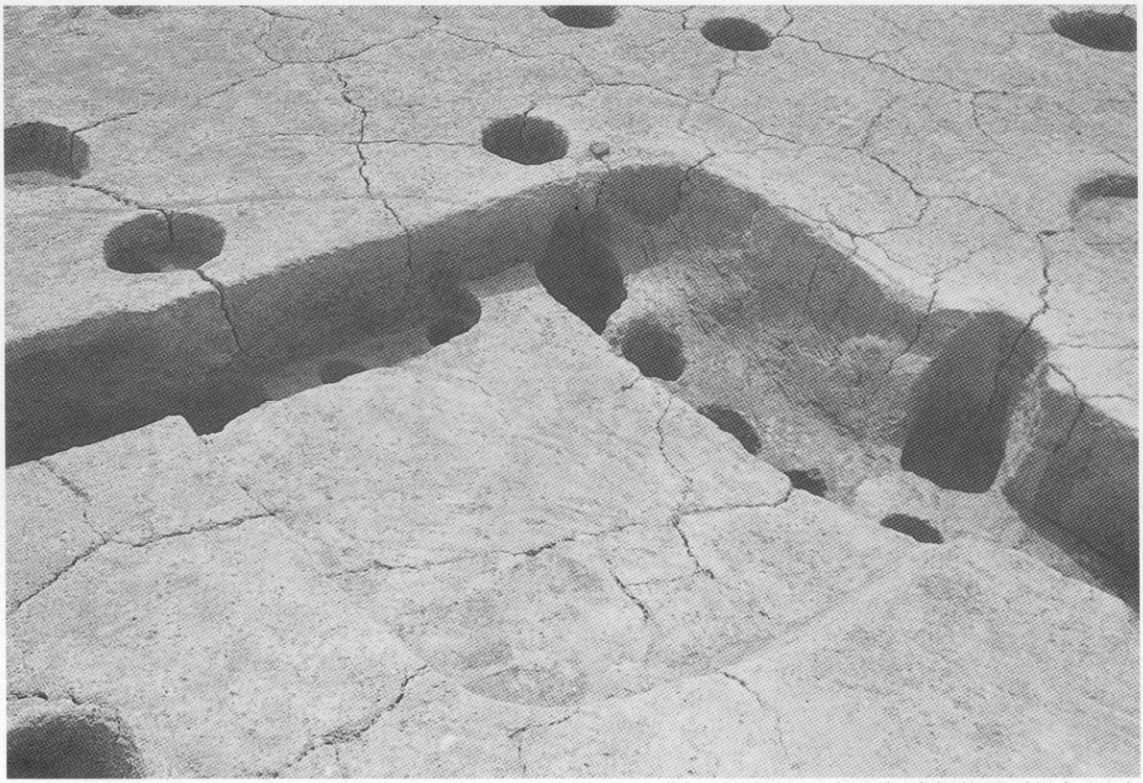


111SB060（S-20）土層観察（西より）

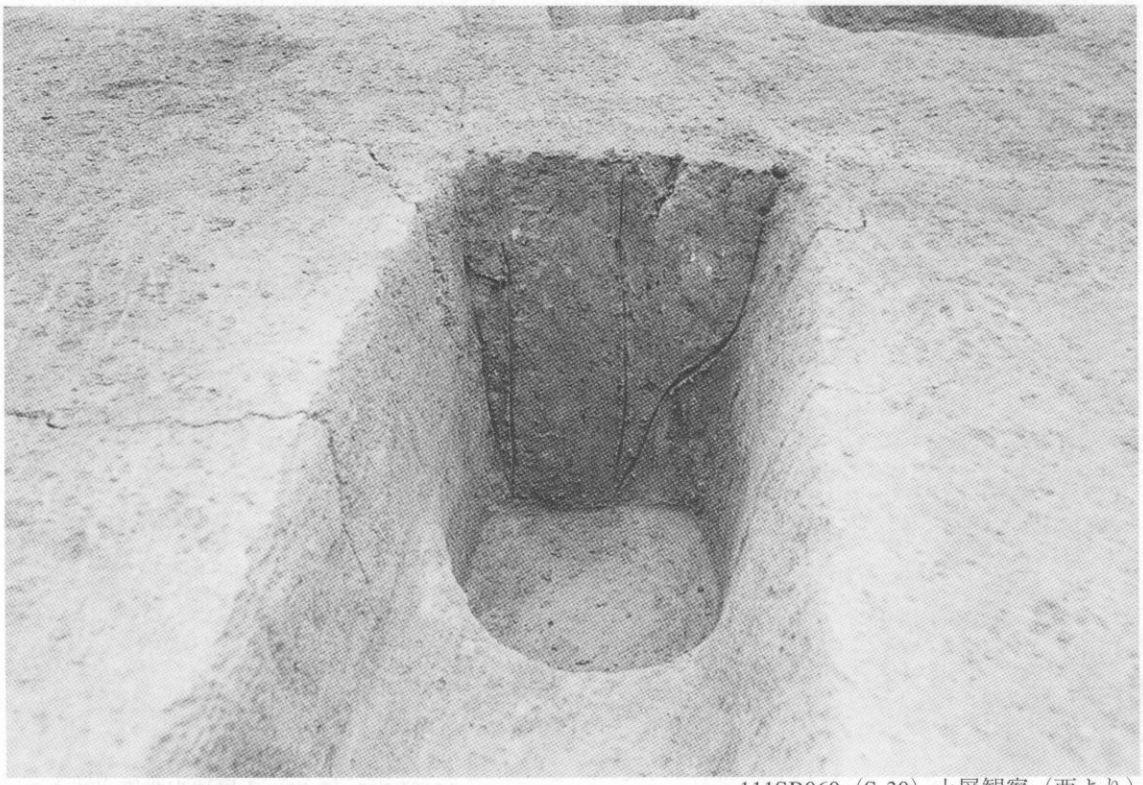


111SB060（S-20）土層観察詳細（西より）

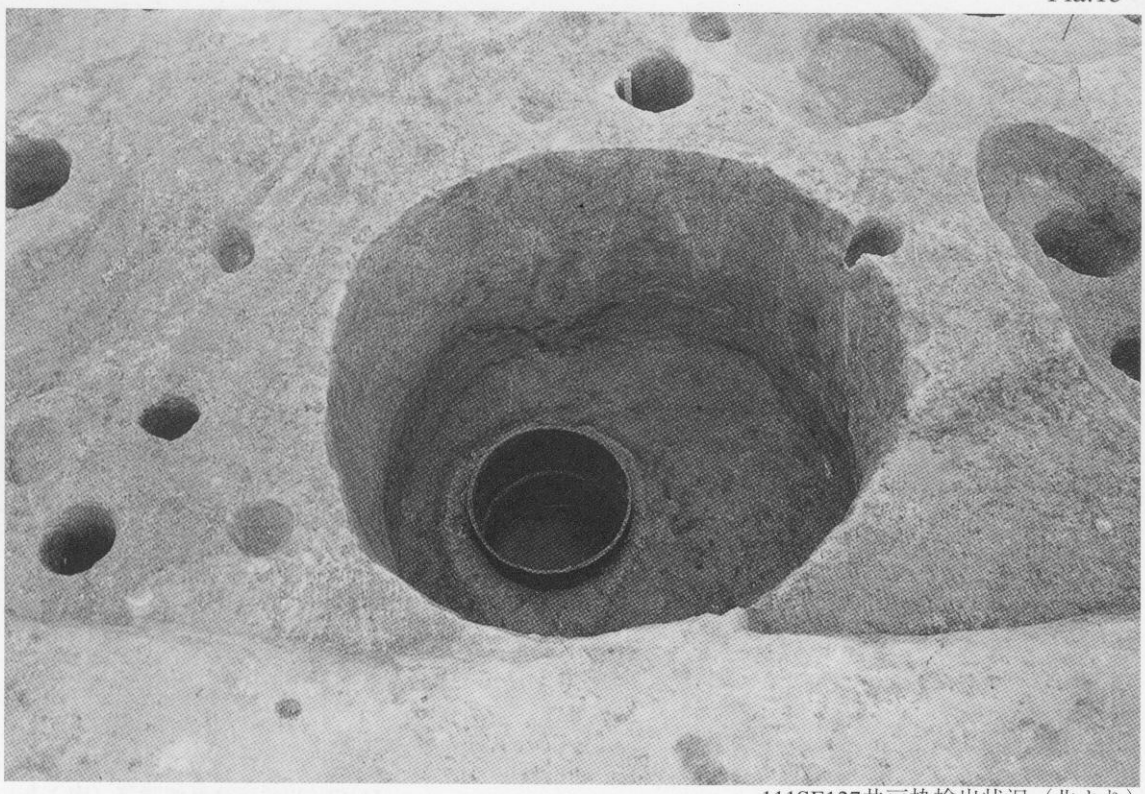
Pla.14



111SB060（S-20）完掘状況（北東より）



111SB060（S-30）土層観察（西より）



111SE127井戸枠検出状況（北より）

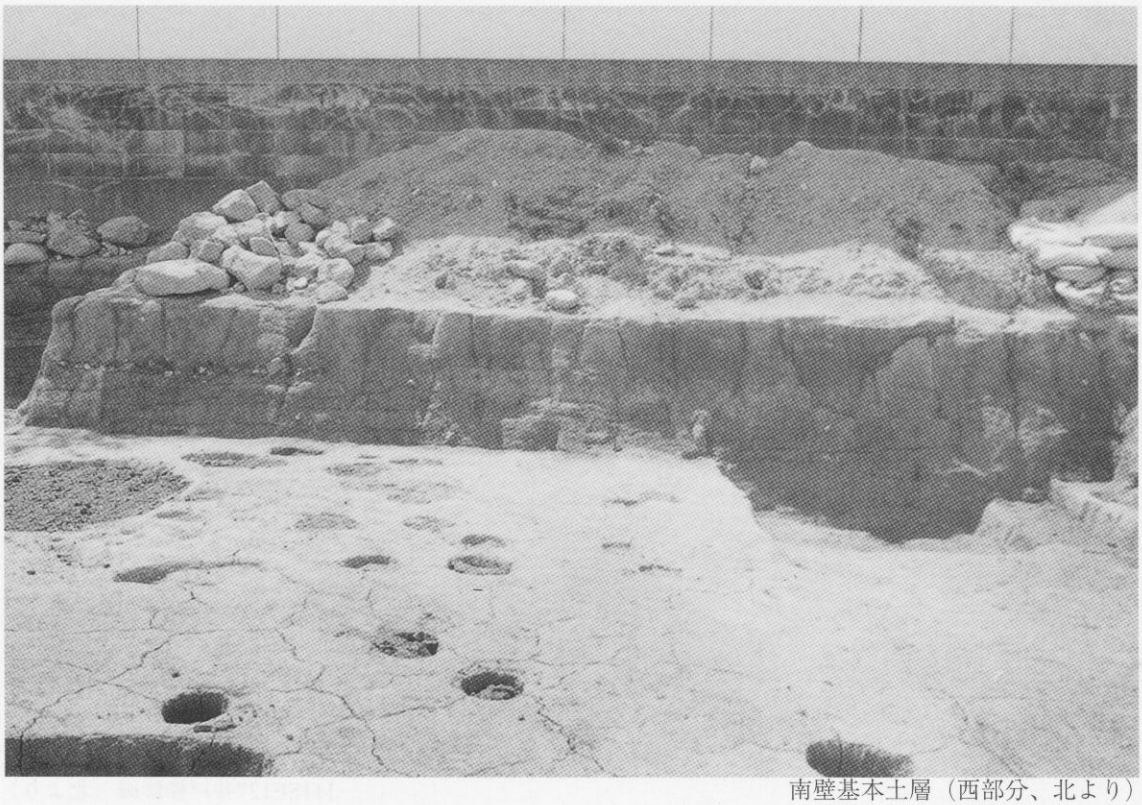


111SE127井戸枠詳細（北より）

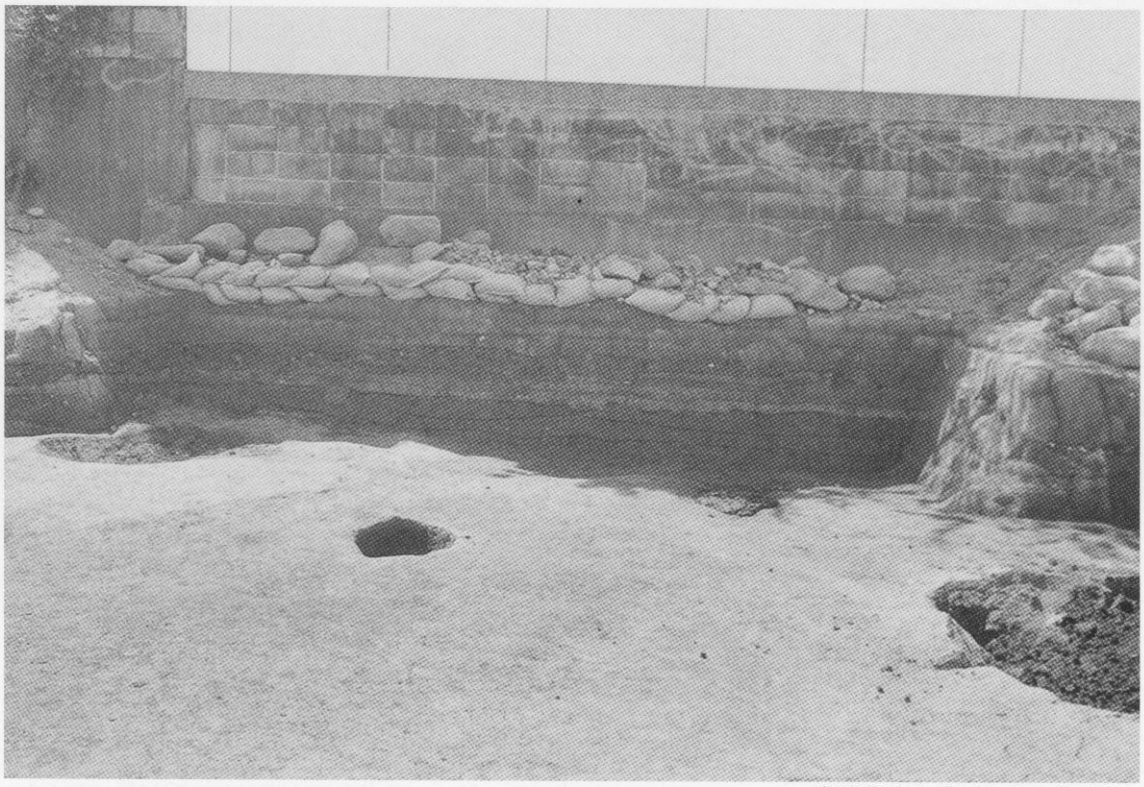
Pla.16



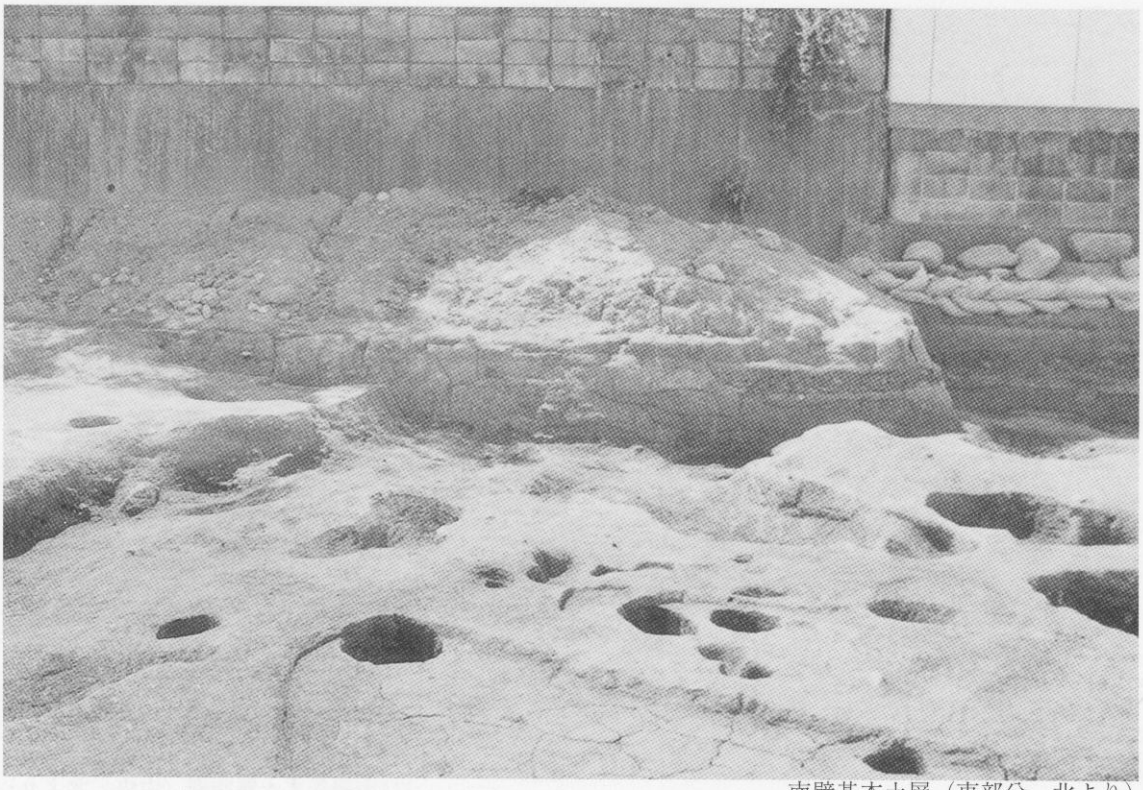
111SE127井戸枠外側詳細（南より）



南壁基本土層（西部分、北より）



南壁基本土層（中央、北より）



南壁基本土層（東部分、北より）

Pla.18

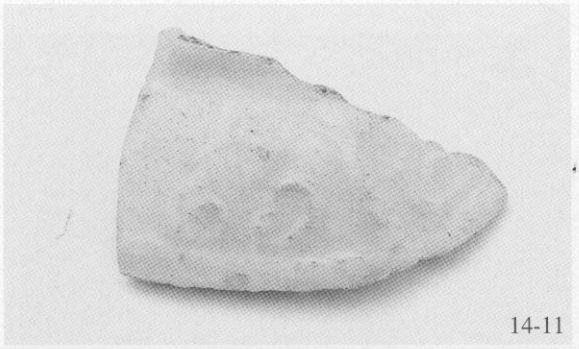


111南壁基本土層詳細（西部分、北より）

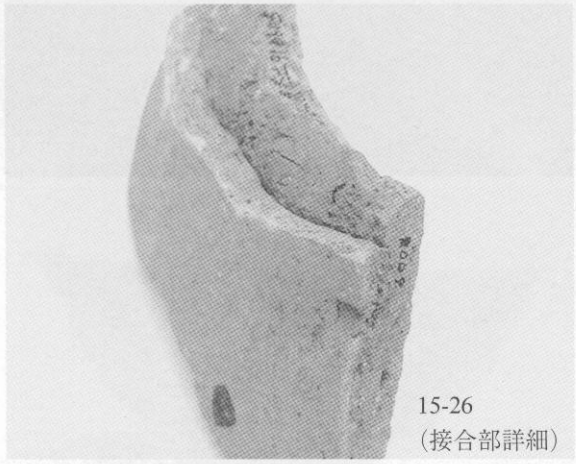


111南壁基本土層詳細（中央、北より）

111SB001出土遺物



14-11



15-26
（接合部詳細）



炉壁（スサ状況）



炉壁（土器混入状況）

111SB001黒茶色土



礫

111SB001茶色土



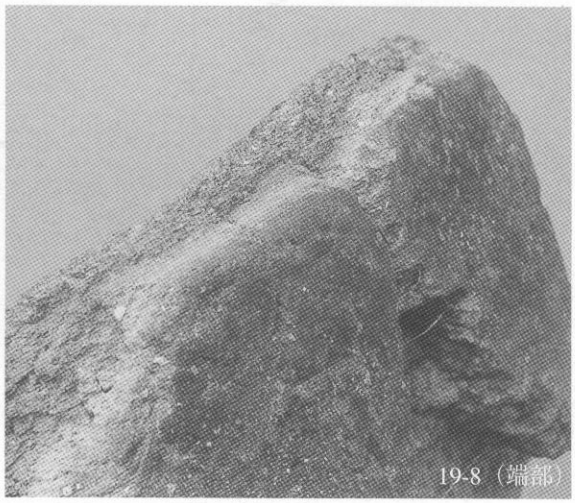
炉壁（礫混入状況）

Pla.20

111SE010黄色土出土遺物

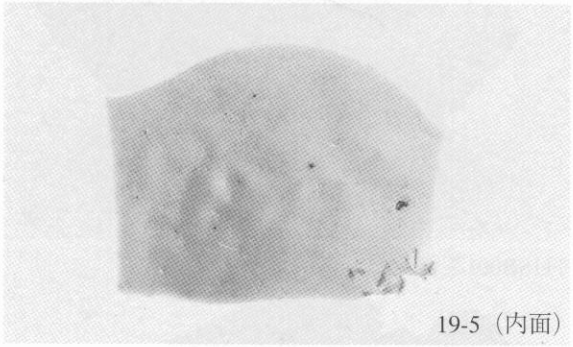


炉壁（黒鉛化木炭混入状況）



19-8（端部）

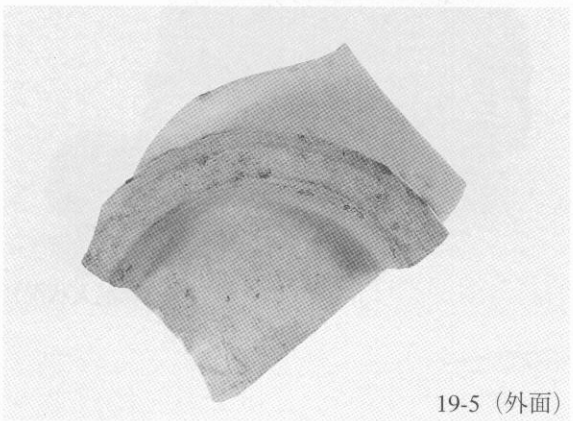
111SK015出土遺物



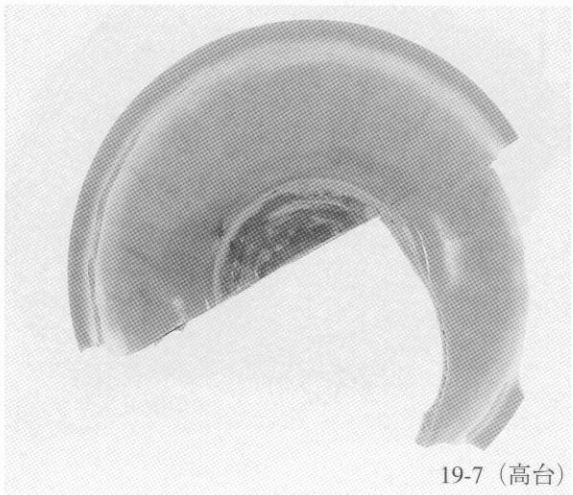
19-5（内面）



19-7

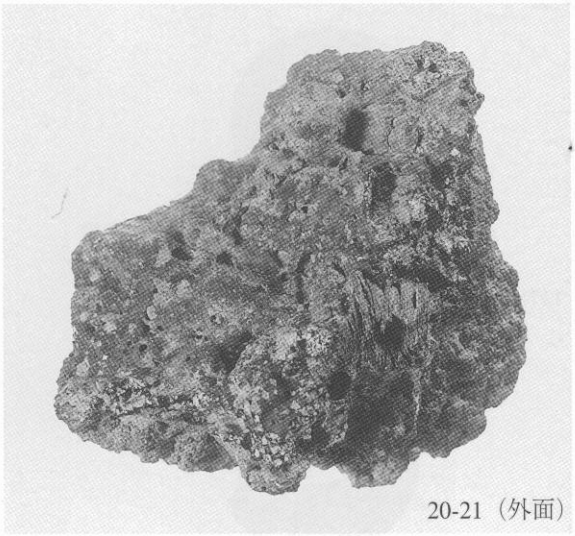


19-5（外面）

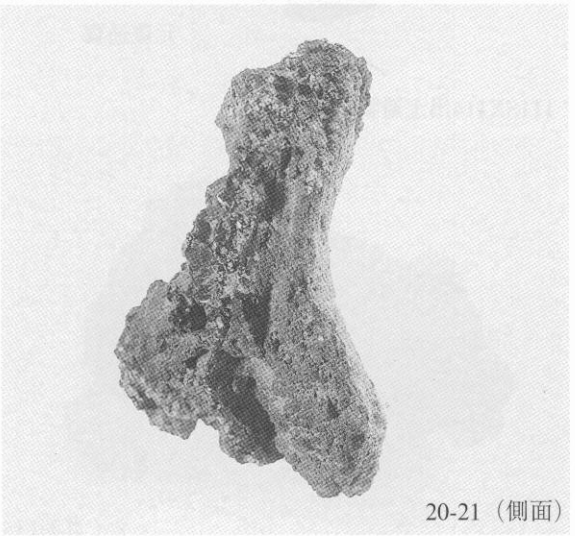


19-7（高台）

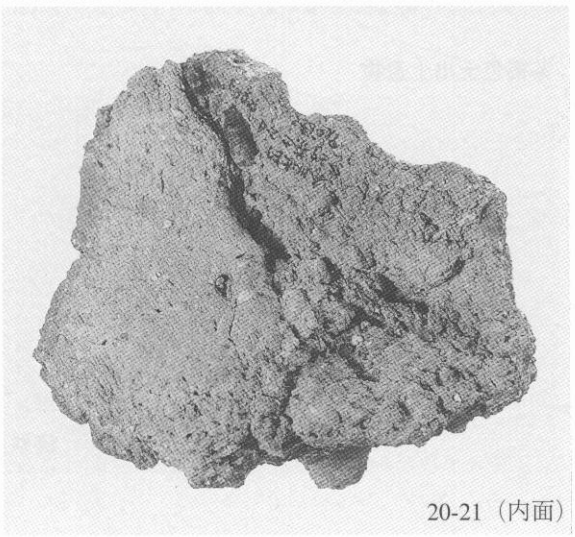
111SK029出土遺物



20-21（外面）

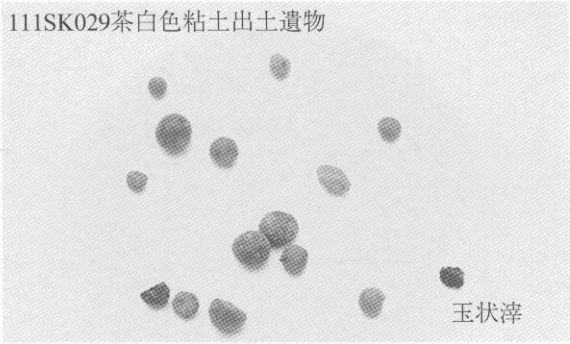


20-21（側面）



20-21（内面）

111SK029茶白色粘土出土遺物



玉状滓

111SX008出土遺物



炭化米



板状鉄片

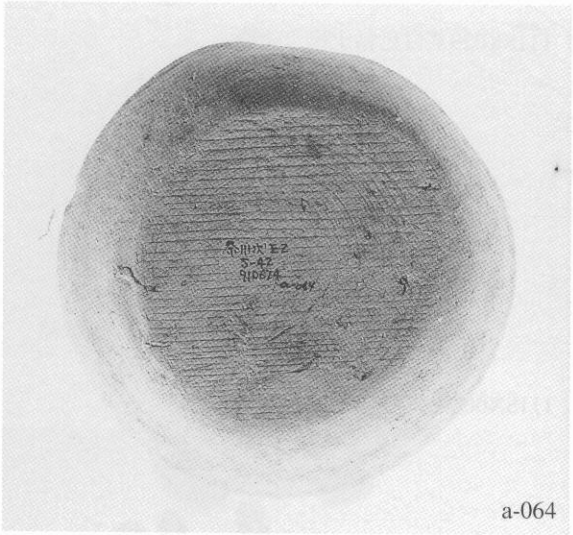
111SX052出土遺物



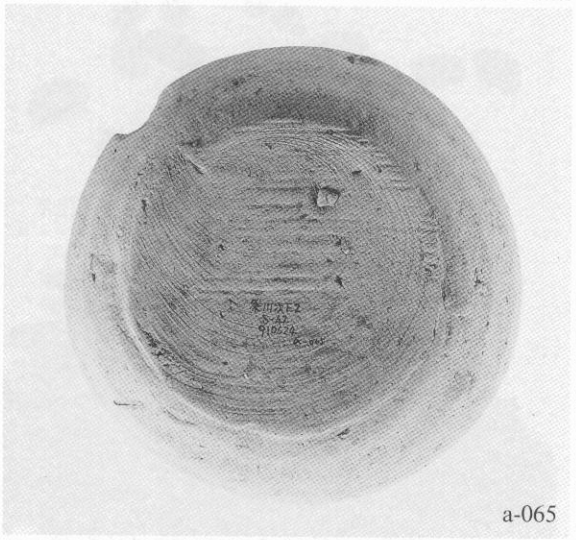
元豊通寶

Pla.22

111SB060（S-42）出土遺物



a-064



a-065



27-1

111SB060（S-138）出土遺物



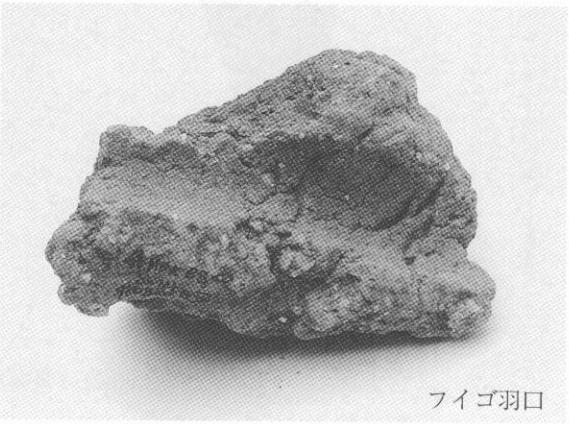
宣和通寶

111SK177出土遺物



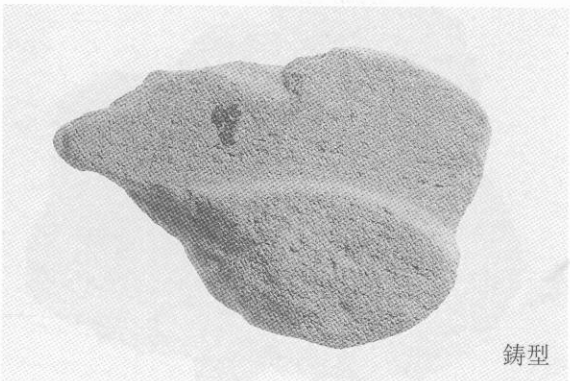
元豊通寶

111SX114出土遺物



フイゴ羽口

茶褐色土出土遺物

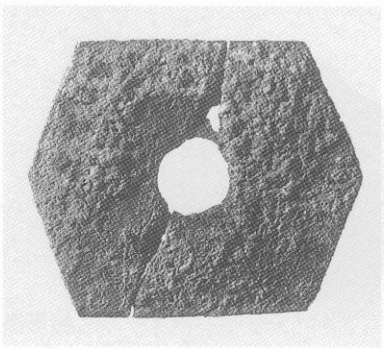


鋳型



崇寧通寶

111黒茶色土出土遺物

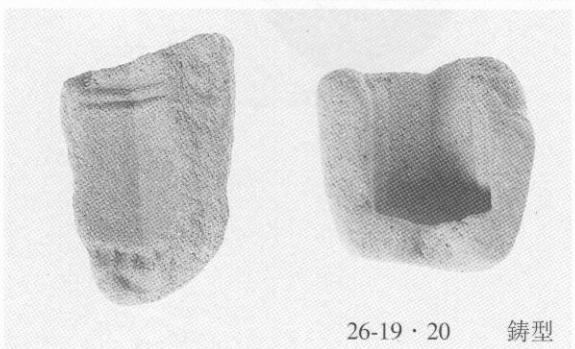


不明銅製品

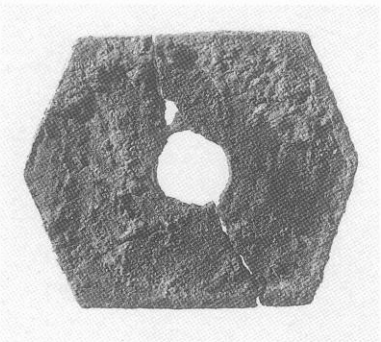
111黄色土出土遺物



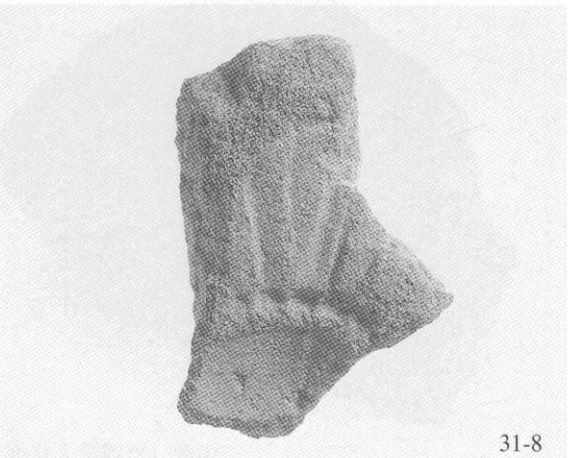
鋳型



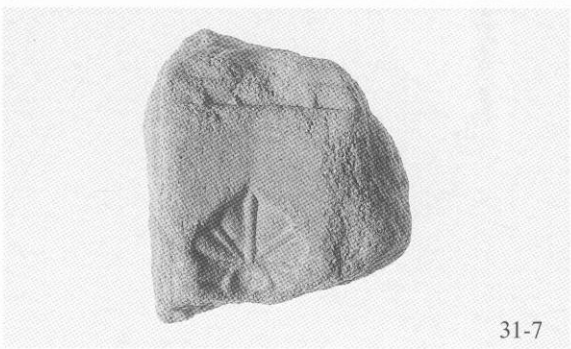
26-19・20　鋳型



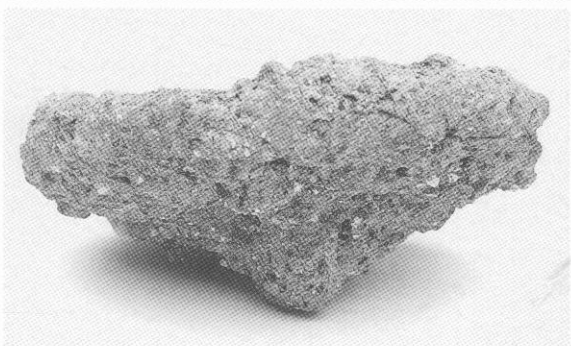
不明銅製品



31-8　鋳型

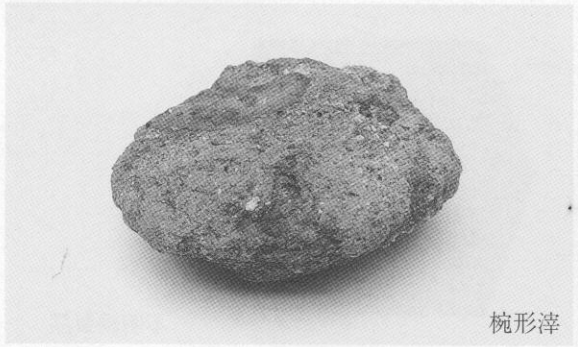


31-7　鋳型

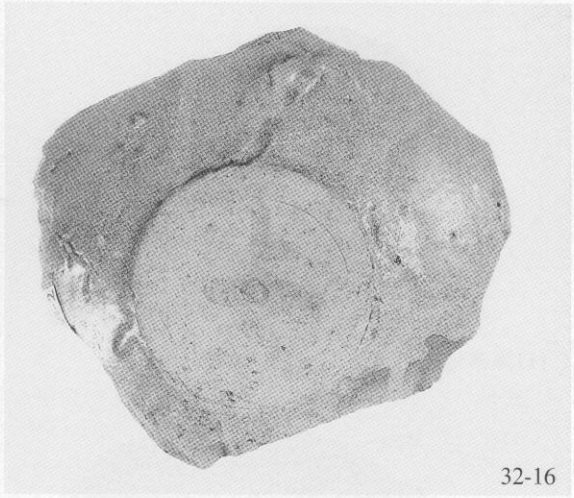


椀形滓

Pla.24



椀形滓



32-16



炉壁（土器混入状況）



宣和通寶



大宰府条坊跡第197次調査　I面遺構全景（東から）



大宰府条坊跡第197次調査　II面遺構　197SB050検出状況（西から）

Pla.26


197SB050c（北から）


197SB050a（南から）


197SB050d（北から）


197SB050d（南から）


197SB050e（北から）


197SB050e（南から）


197SB050f（南から）

197SB050掘方検出状況


197SB050f（南から）

197SB050掘方土層観察



197SB050a　銭検出状況（南から）



大宰府条坊跡第197次調査　III面遺構全景（東から）

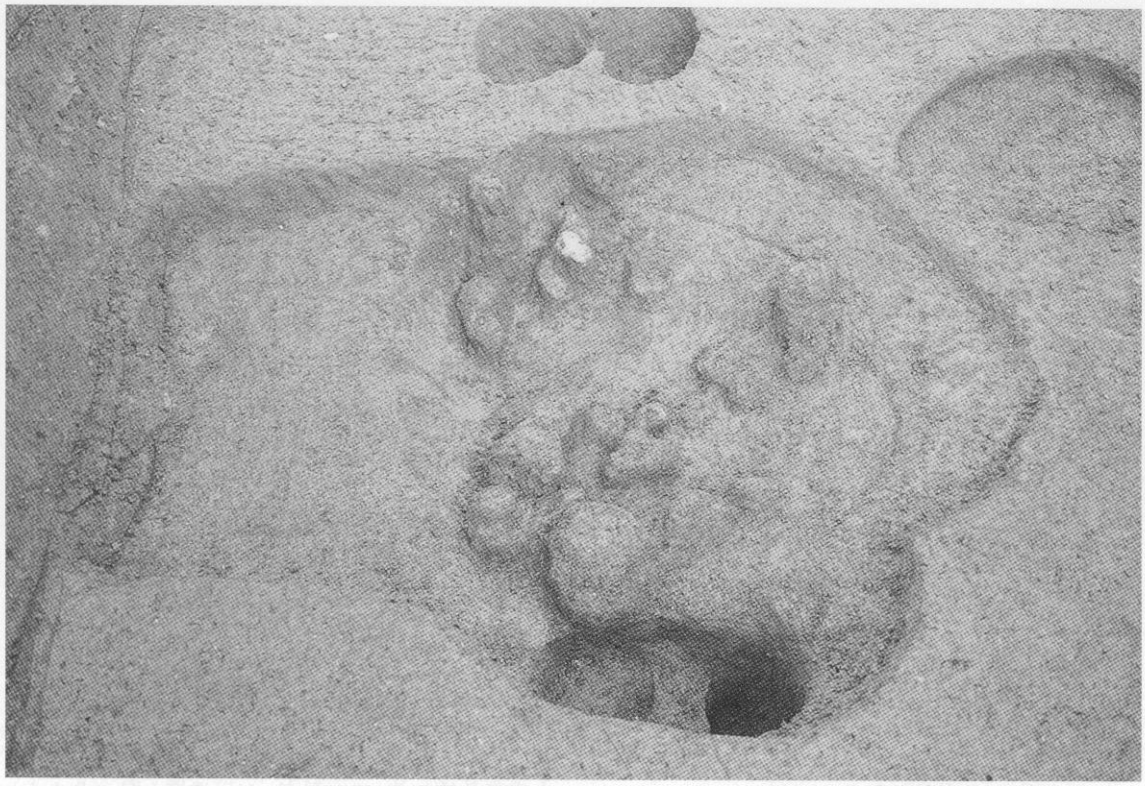
Pla.28



大宰府条坊跡第197次調査　IV面遺構全景（北から）



197SK010土層観察（西から）



197SK010遺物検出状況（西から）



197SX015検出状況（南から）

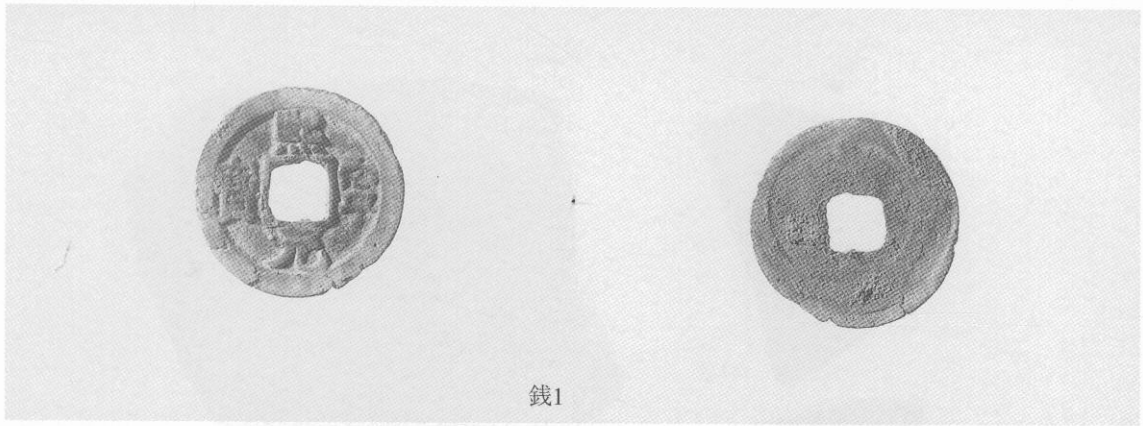
Pla.30



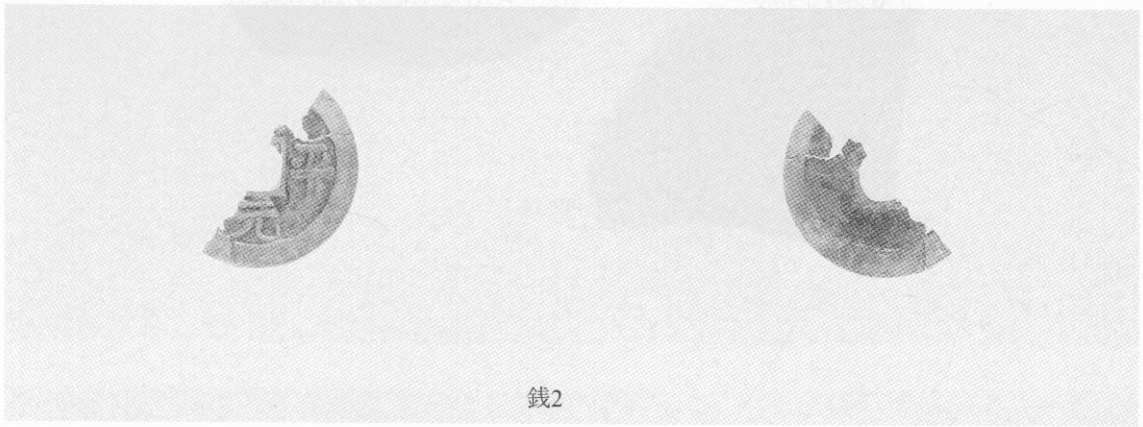
大宰府条坊跡第197次調査　V面遺構全景（北から）



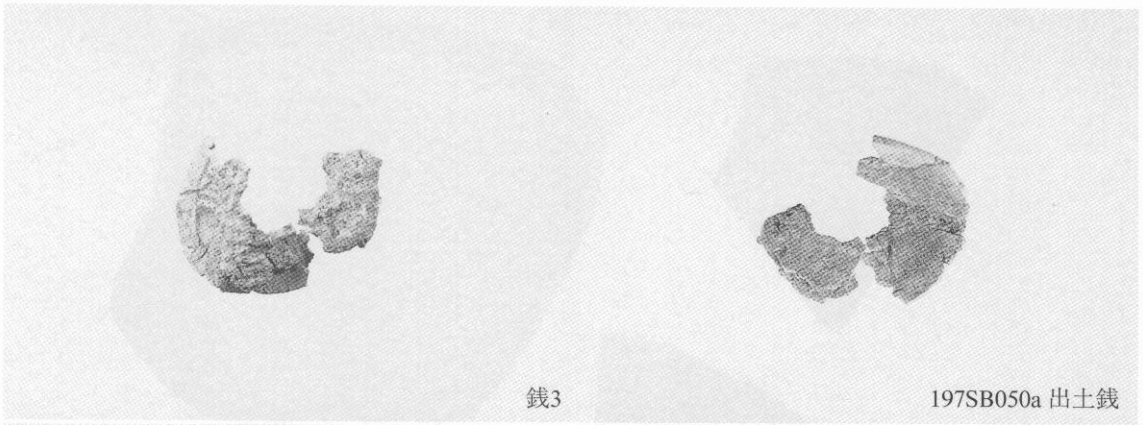
大宰府条坊跡第197次調査　北面土層観察（南から）



銭1



銭2

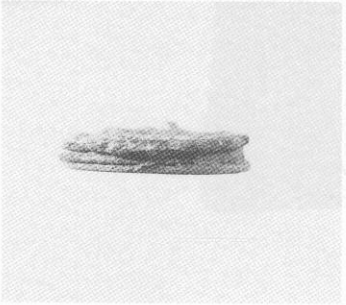


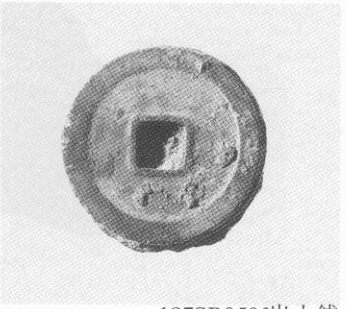
銭3

197SB050a 出土銭



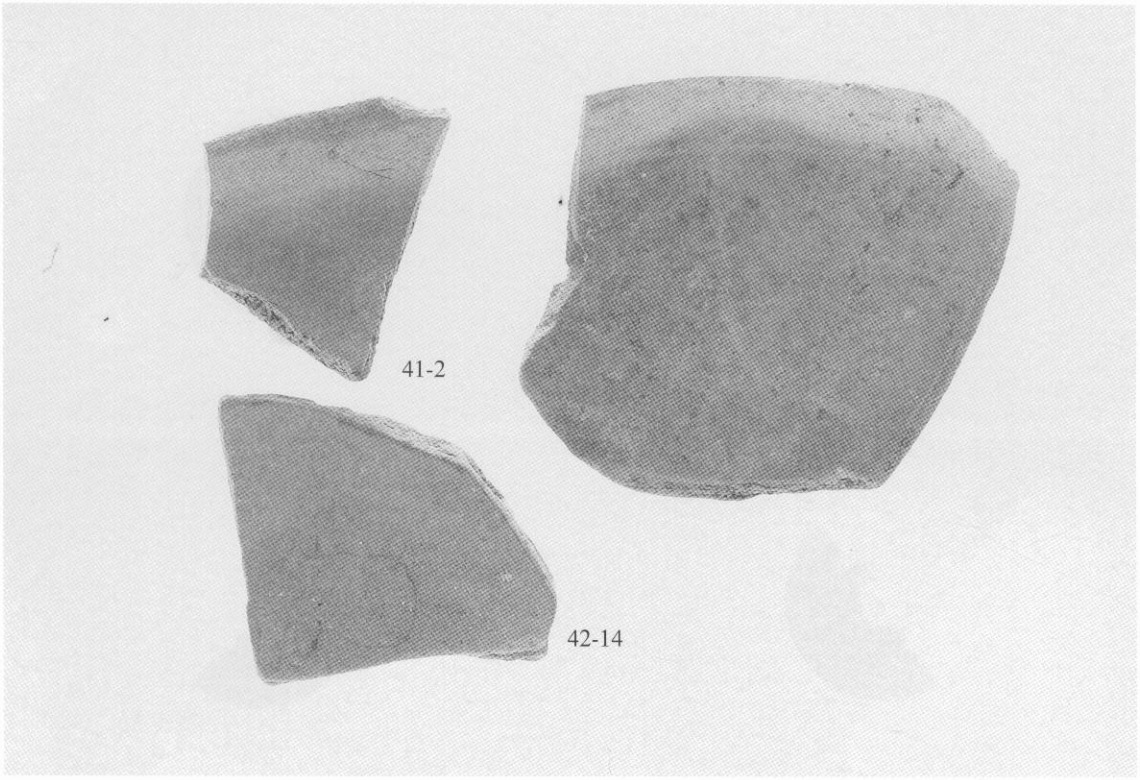
銭1

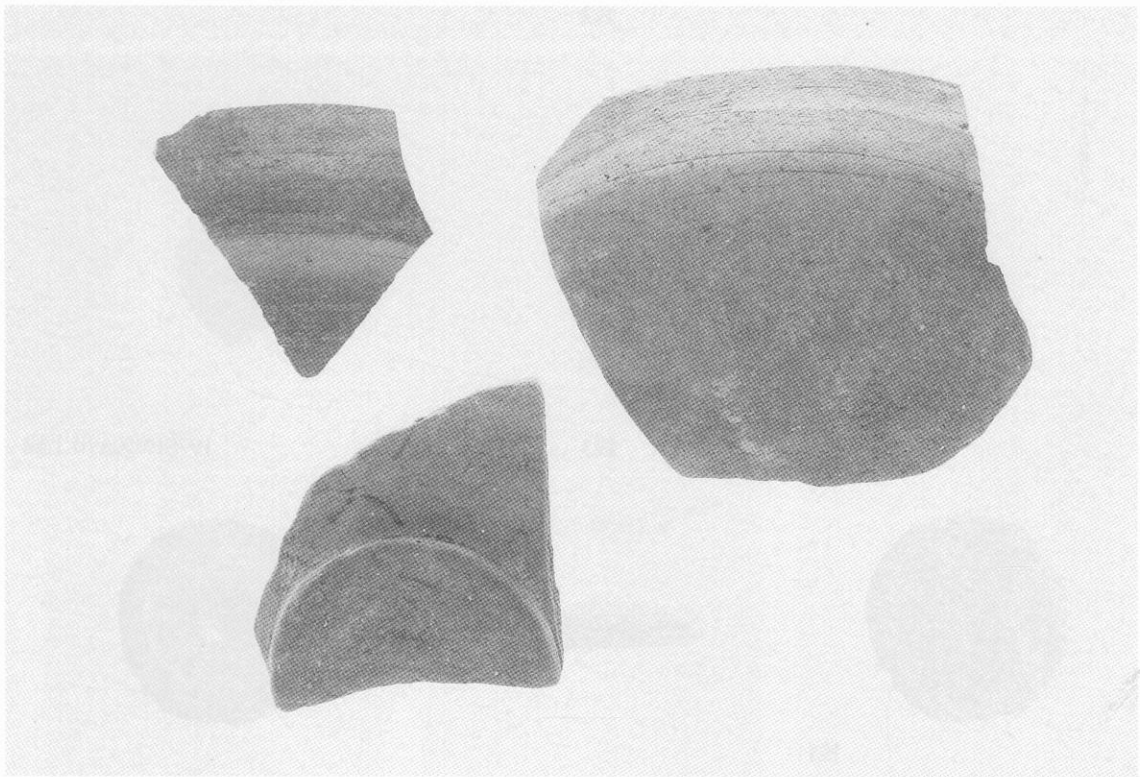




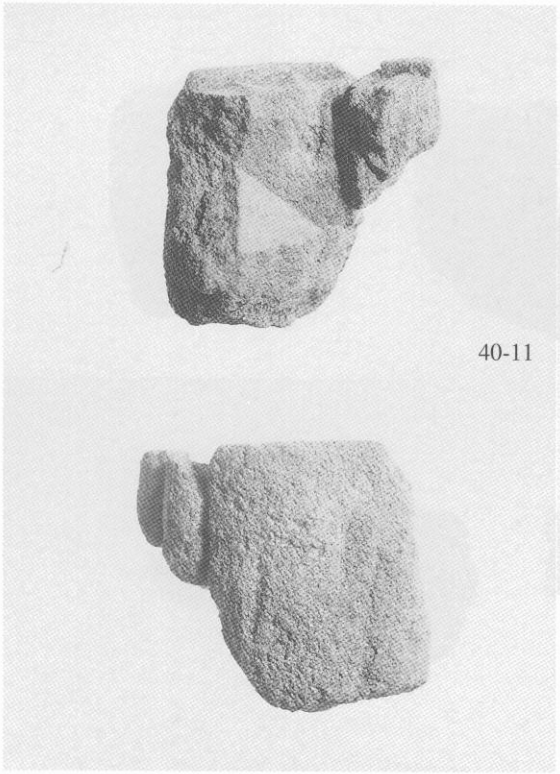
197SB050f出土銭

Pla.32

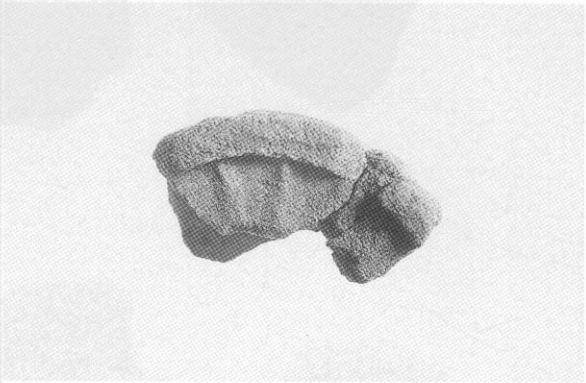




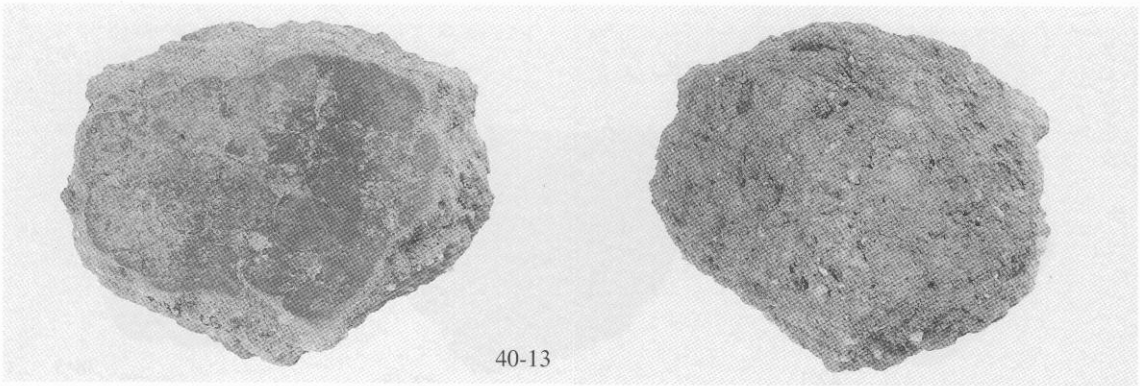
197SX061・197明茶赤色土出土遺物



40-11

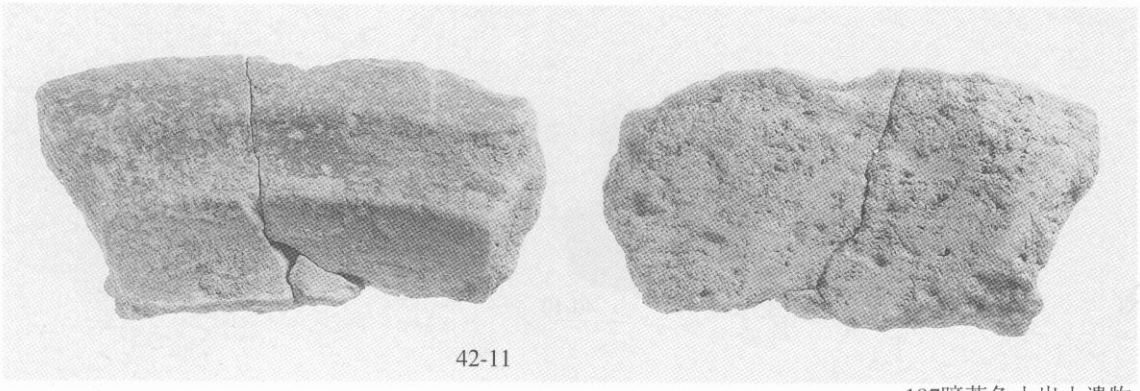


197SX015出土遺物



40-13

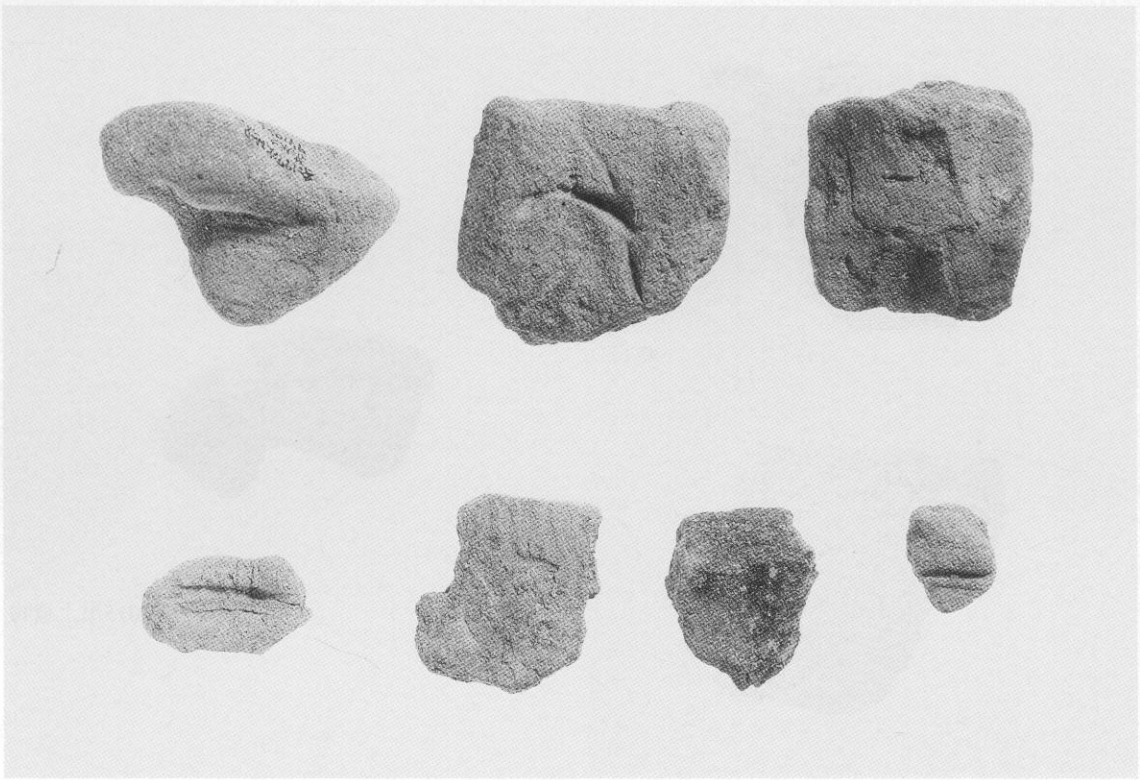
197SX015茶褐色土出土遺物

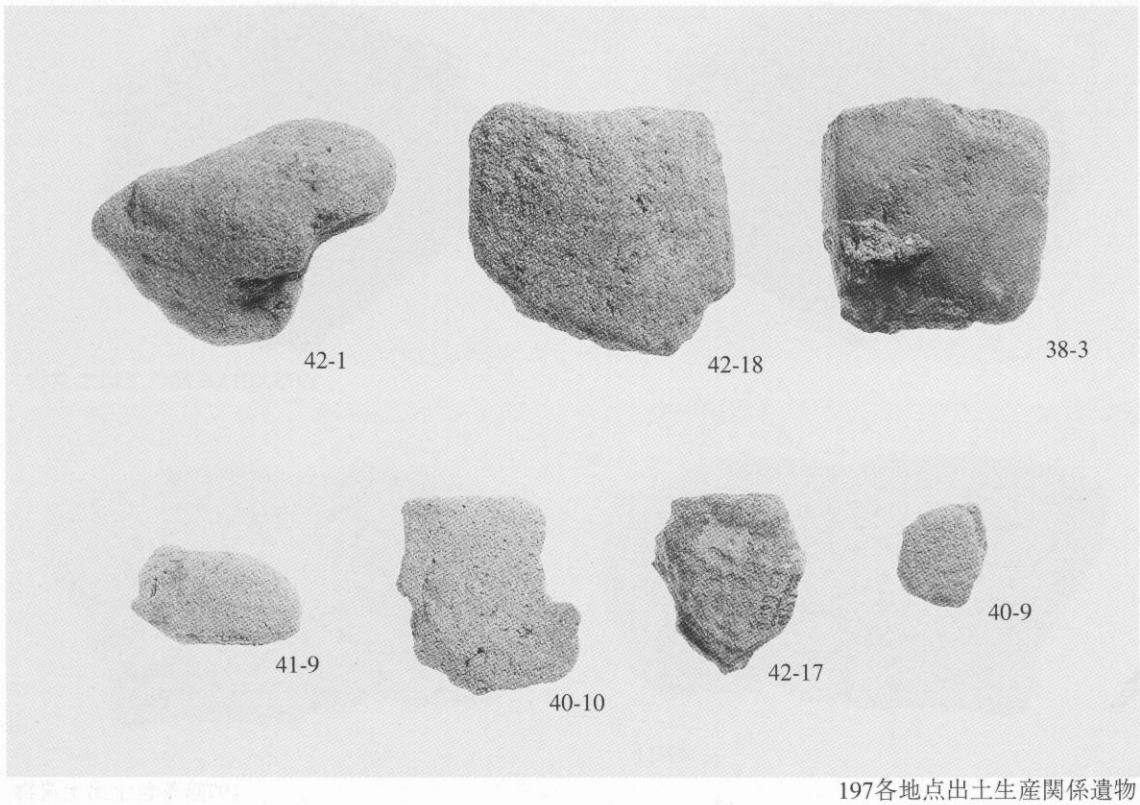


42-11

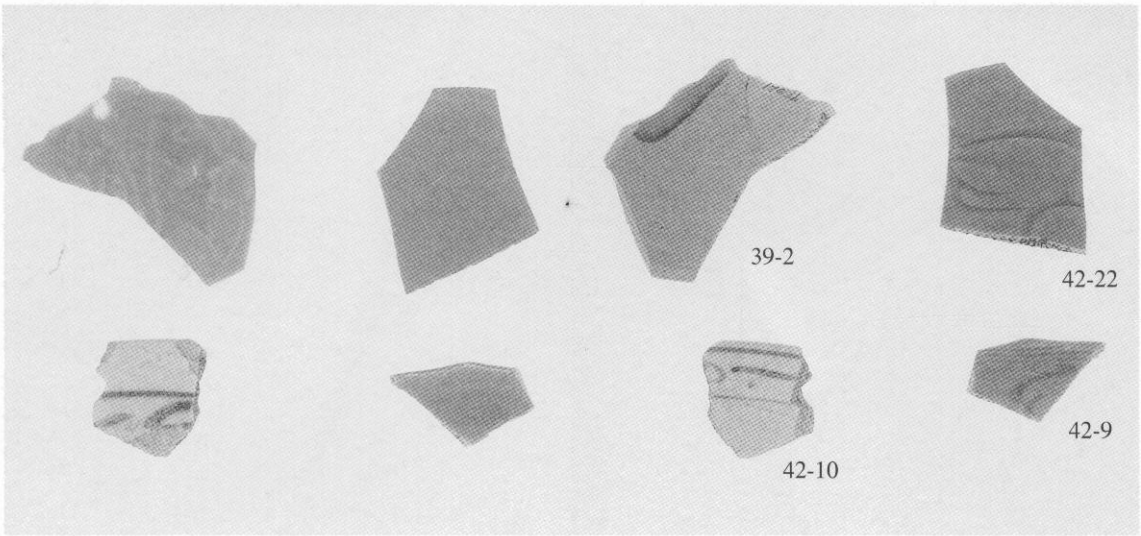
197暗茶色土出土遺物

Pla.34

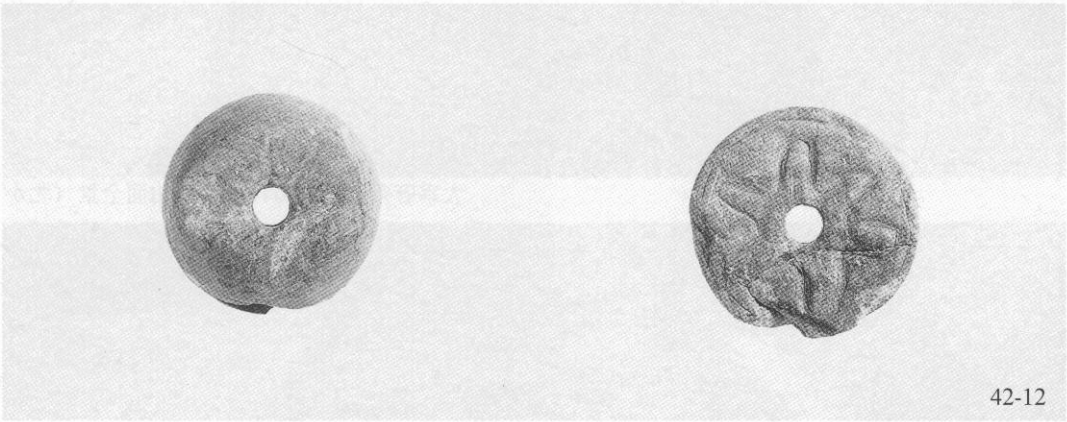




197各地点出土生産関係遺物



197各地点出土貿易陶磁器



197暗茶色土出土石製品

Pla.36



大宰府条坊跡第204次調査　II面全景（北から）



大宰府条坊跡第204次調査　III面全景（北から）



大宰府条坊跡第204次調査　III面全景（西から・空中写真）



大宰府条坊跡第204次調査　III面拡張後全景（西から）



204鋳造土坑群検出状況（西から）



204SK035完掘状況（北から）



204SK070検出状況（北から）



204SK075完掘状況（南から）

Pla.40



204茶色土鋳型検出状況（南から）



204茶色土鋳型検出状況（北から）

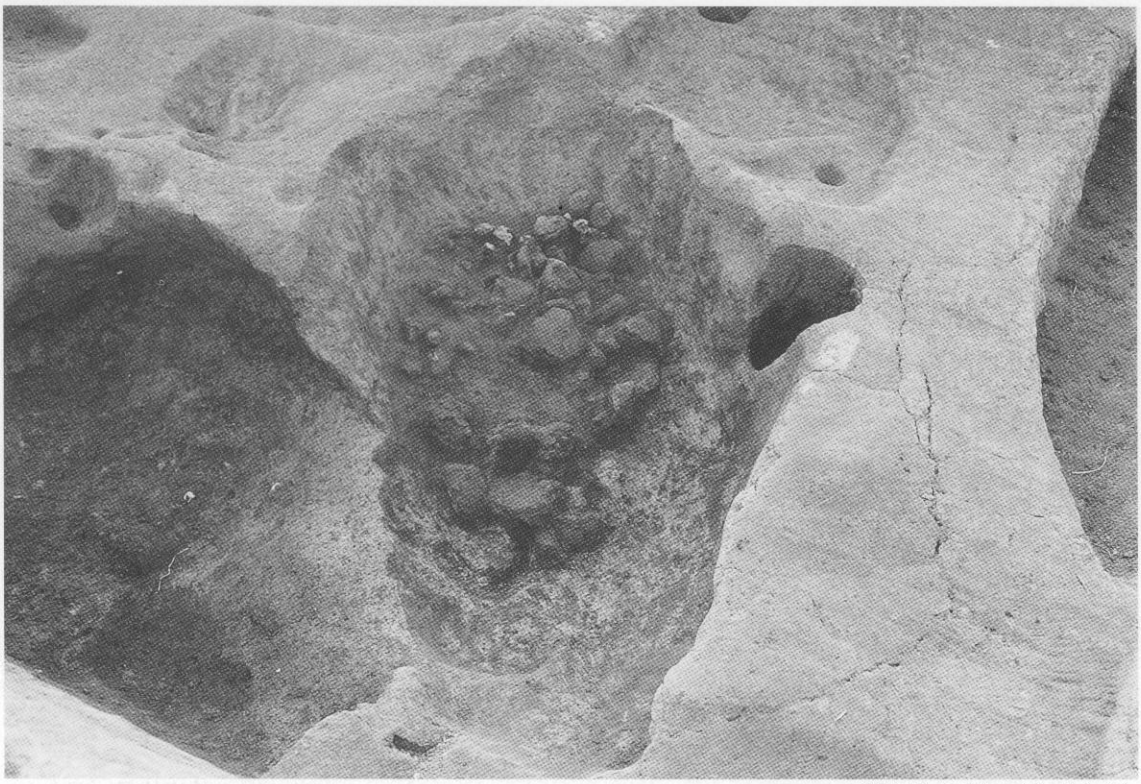


204SK040検出状況（西から）



204SK040完掘状況（西から）

Pla.42



204SK045遺物出土状況（北東から）



204SK045・050完掘状況（北から）



204SE046検出状況（西から）



204SE046土層観察状況（北から）

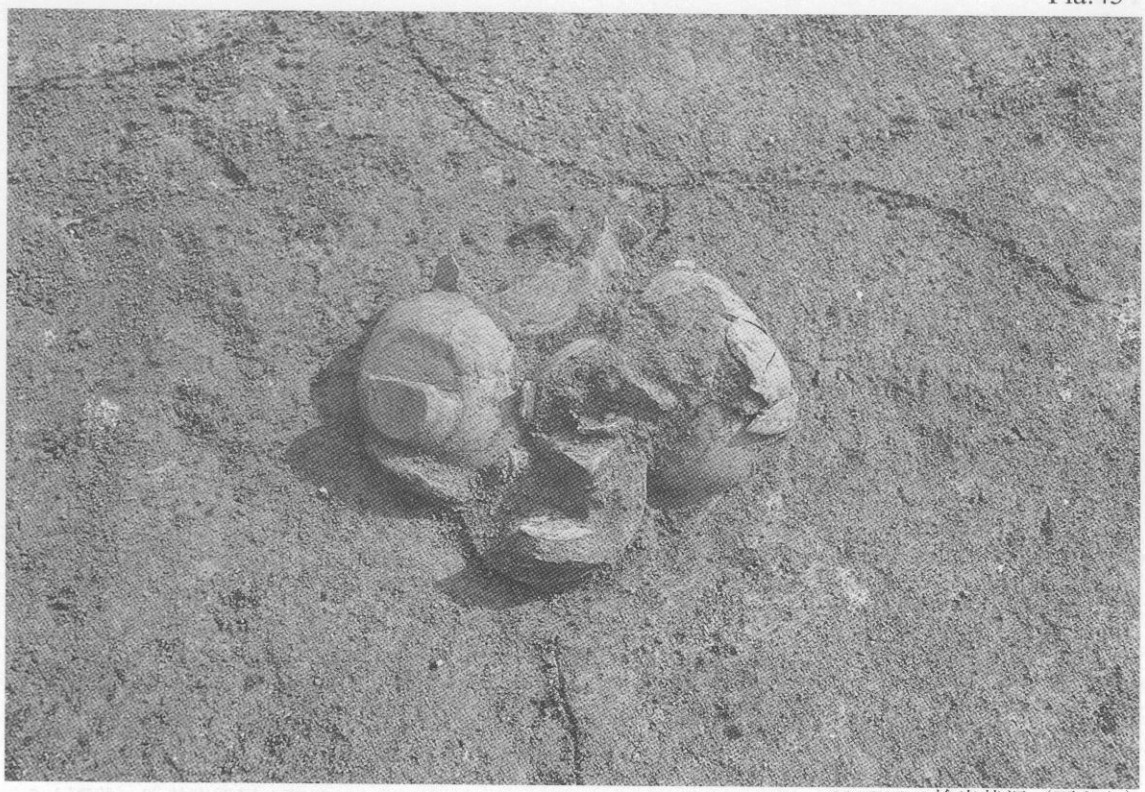
Pla.44



204SK065検出状況（南から）



204SK065土層観察状況（東から）



204SK041検出状況（西から）



204SX060検出状況（北から）

Pla.46



204東壁土層観察状況（北西から）



204拡張区西壁土層観察状況（東から）

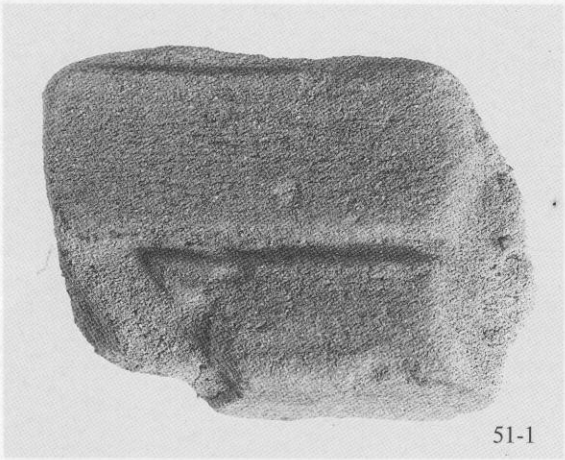


204東壁・SK050土層観察状況（西から）



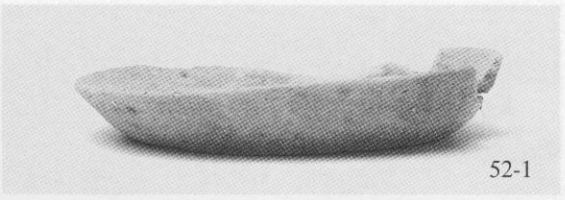
204SX060南端堆積状況（西から）

Pla.48



51-1

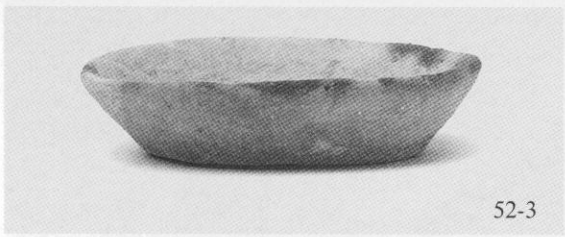
204SK011出土遺物



52-1



52-2



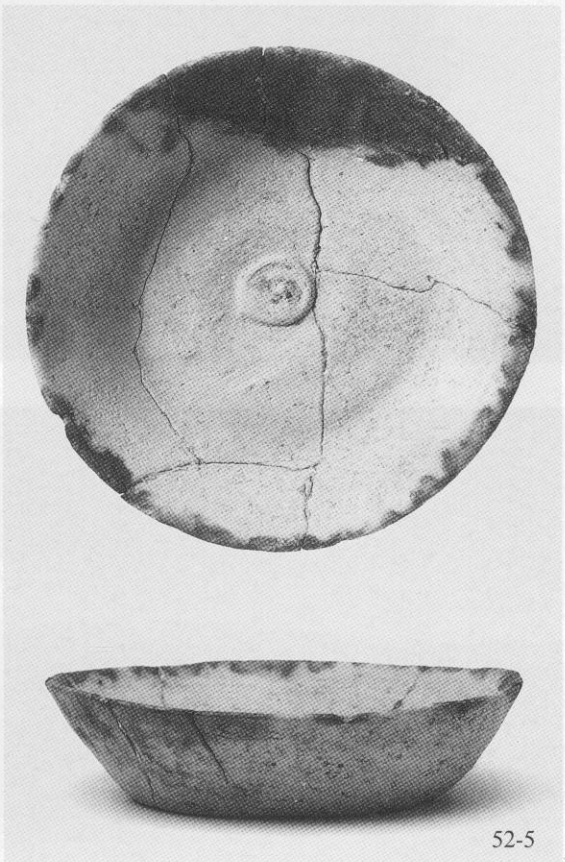
52-3



52-4



52-6

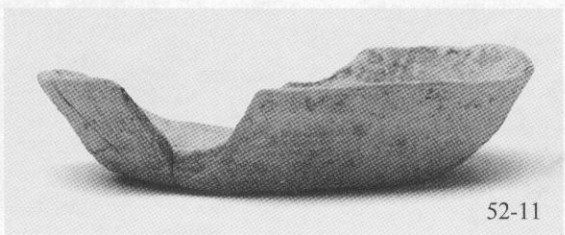


52-5

204SK041出土土器

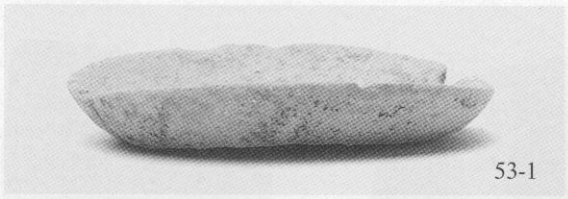


52-9

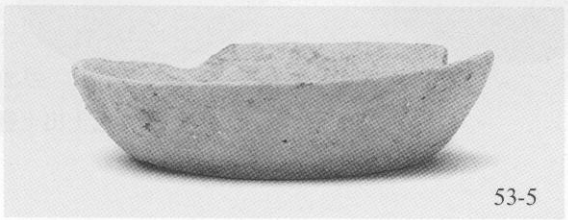


52-11

204SK042出土土器

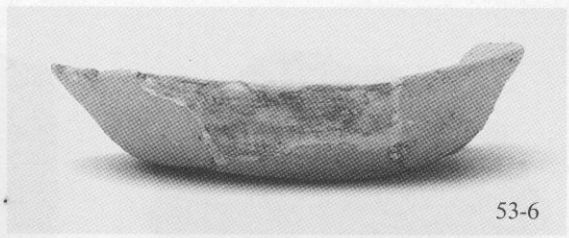

53-1

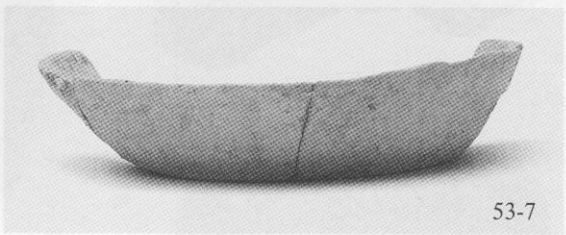

53-2


53-5

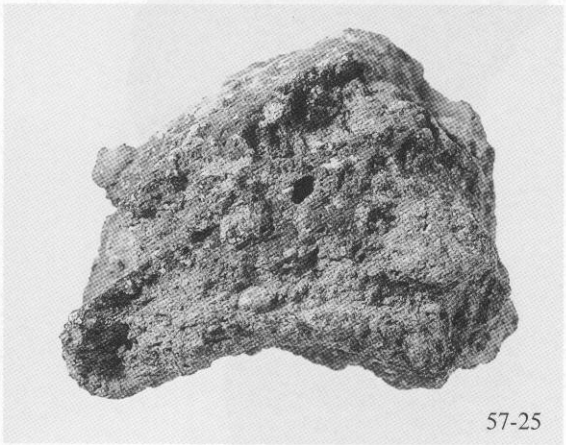

54-10

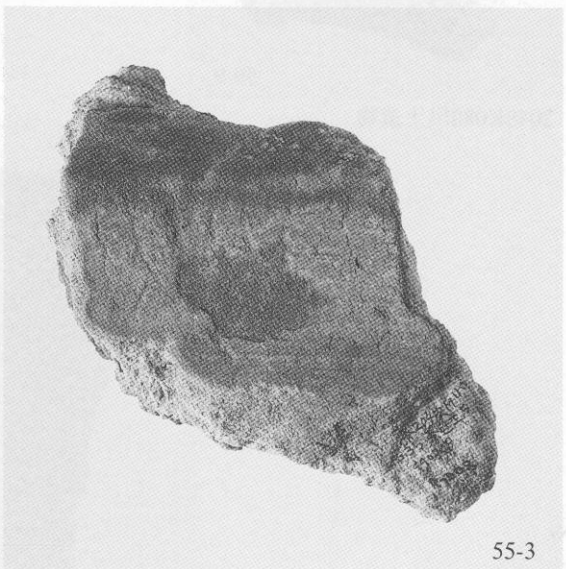
204SX049灰茶色土出土遺物


53-6


53-7

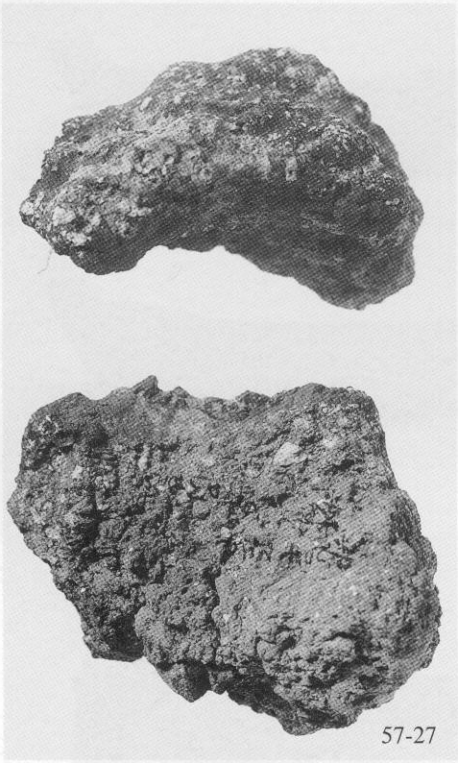
204SK065出土土器


57-25

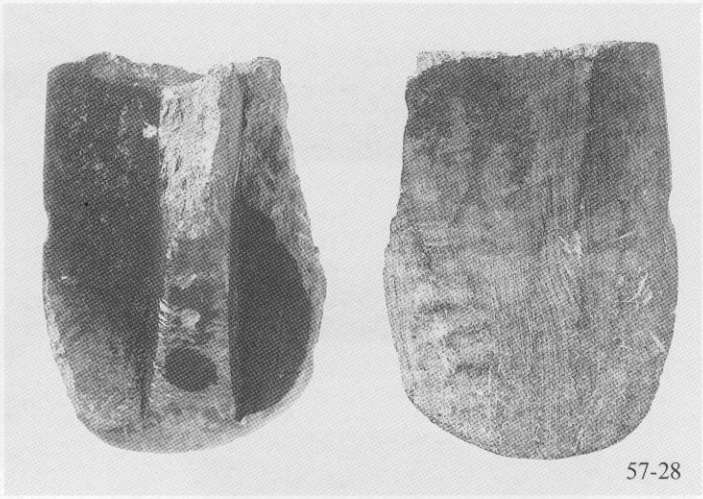

55-3

204SK035茶色土出土遺物

Pla.50

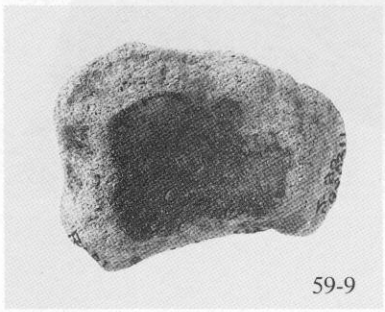


57-27



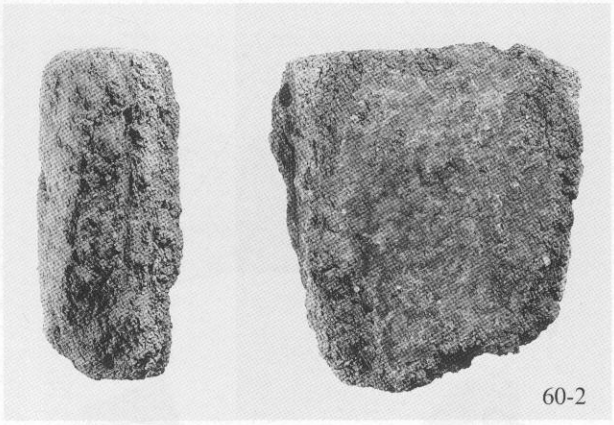
57-28

204SK035茶色土出土遺物

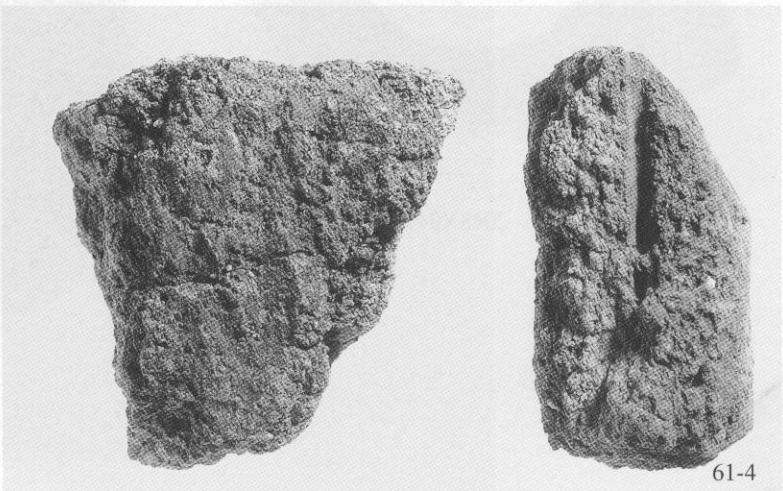


59-9

204SK080出土遺物

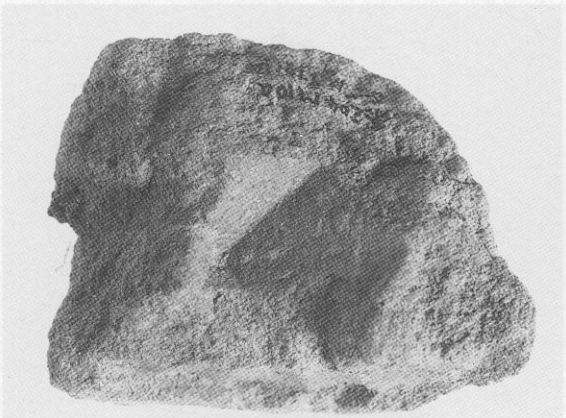


60-2



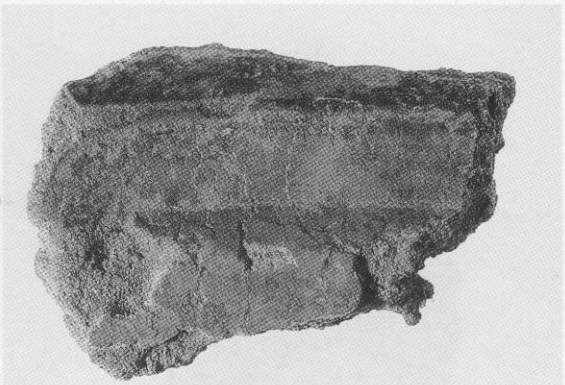
61-4

204SK045出土遺物

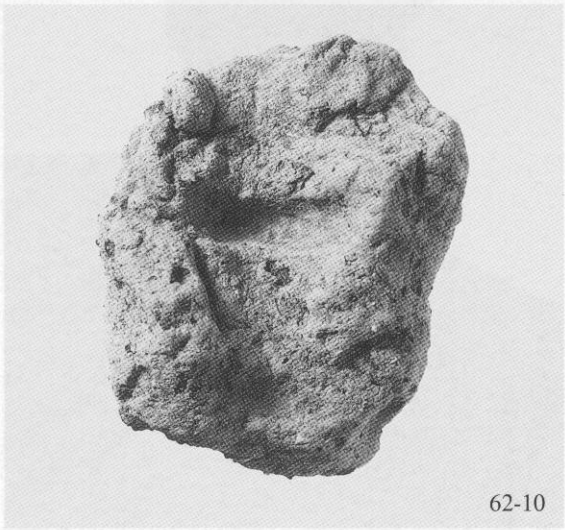




62-7

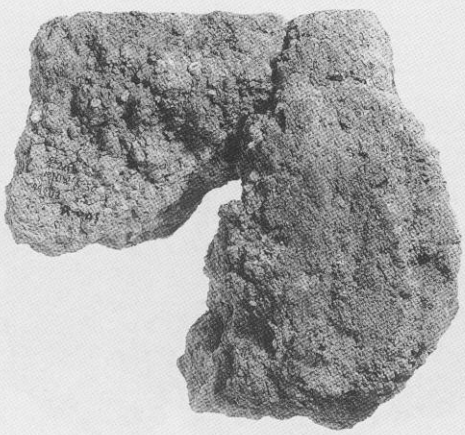


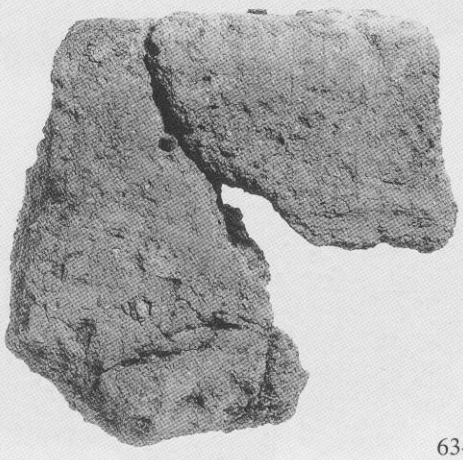
62-5



62-10



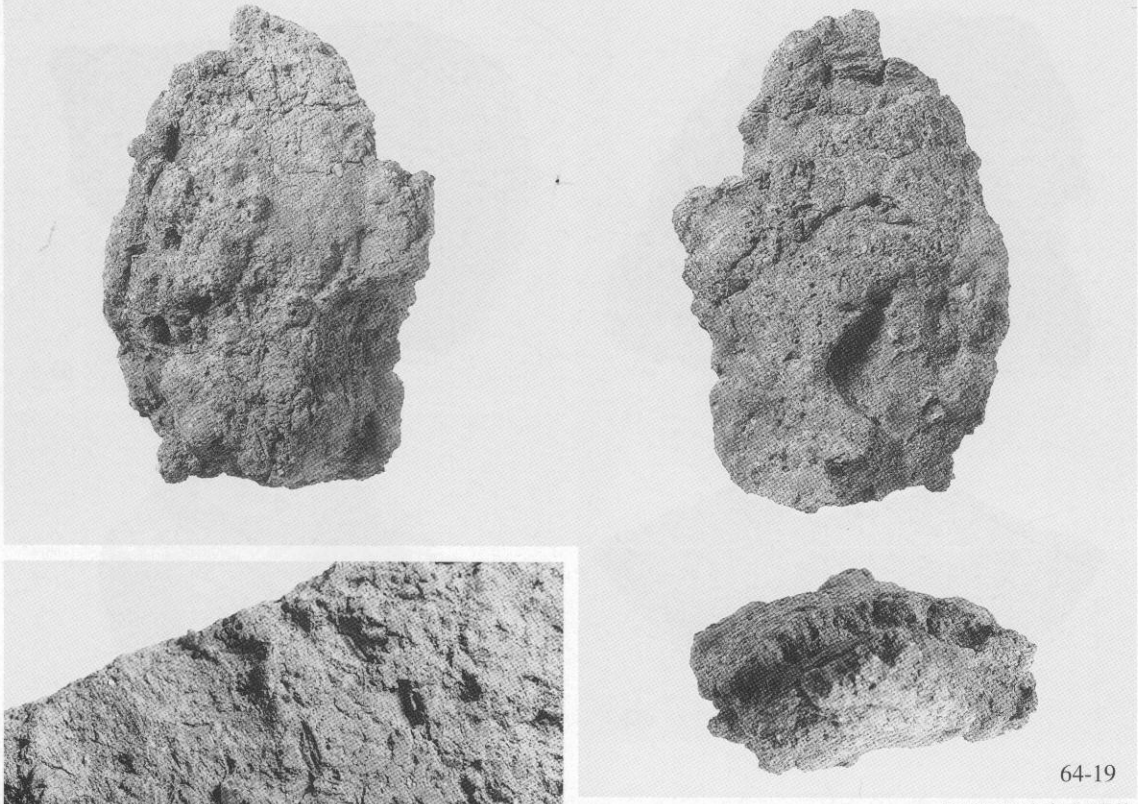




63-11

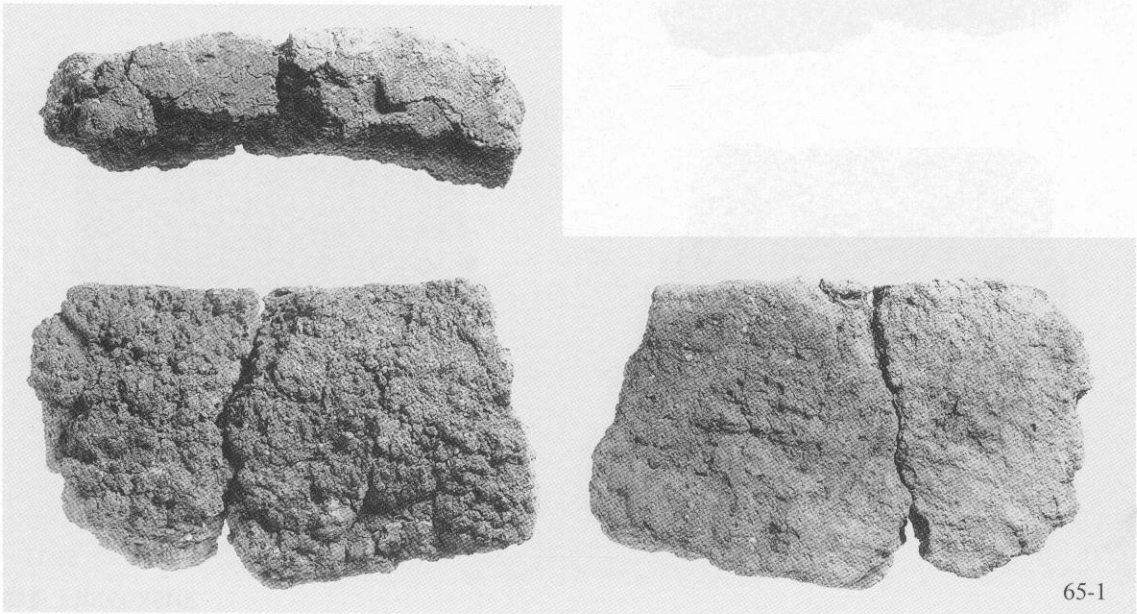
204SK050出土遺物

Pla.52



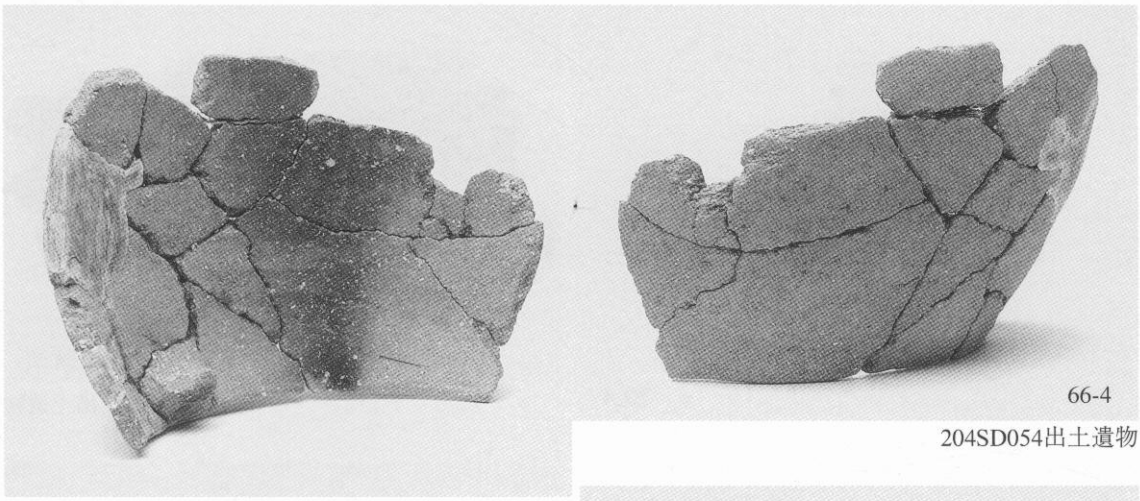
64-19

204SK050出土遺物



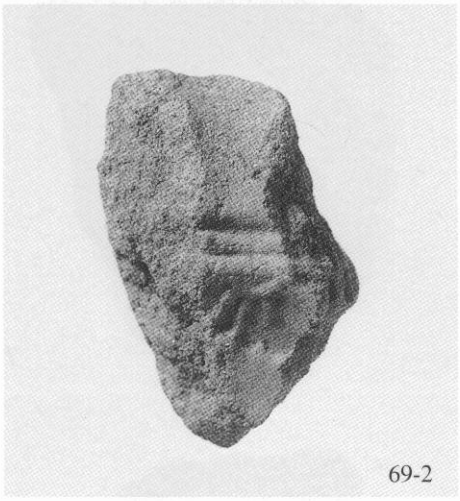
65-1

204SK050最下層出土遺物

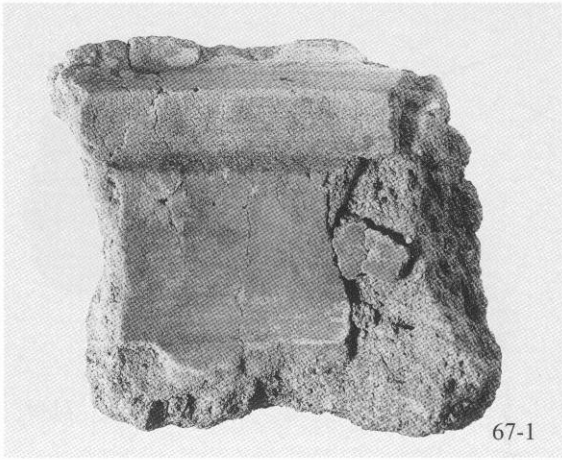


66-4

204SD054出土遺物

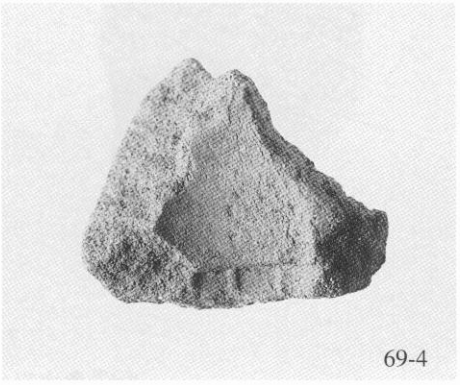


69-2

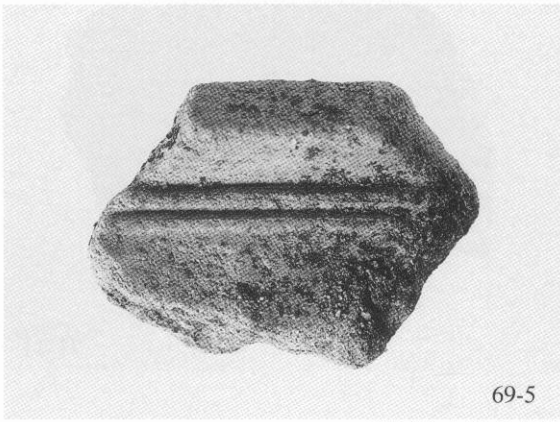


67-1

204SX085出土遺物



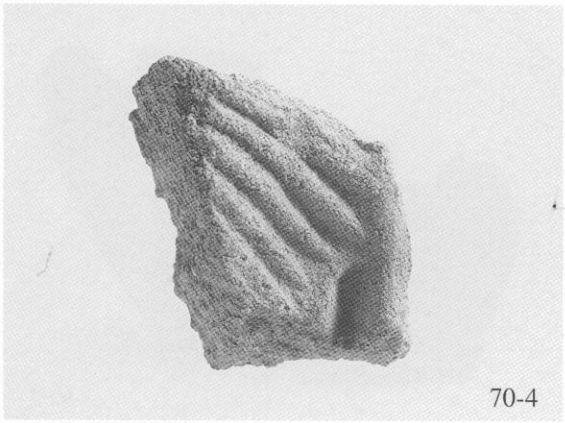
69-4



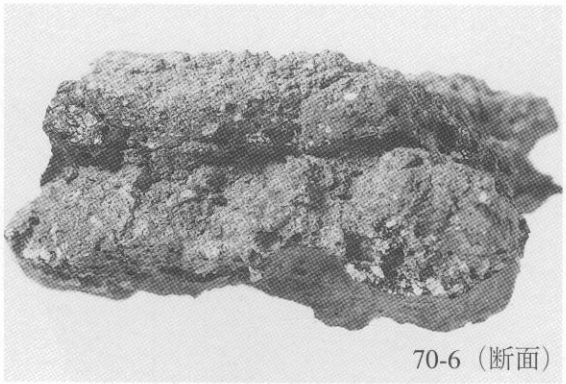
69-5

204茶灰色土出土遺物

Pla.54

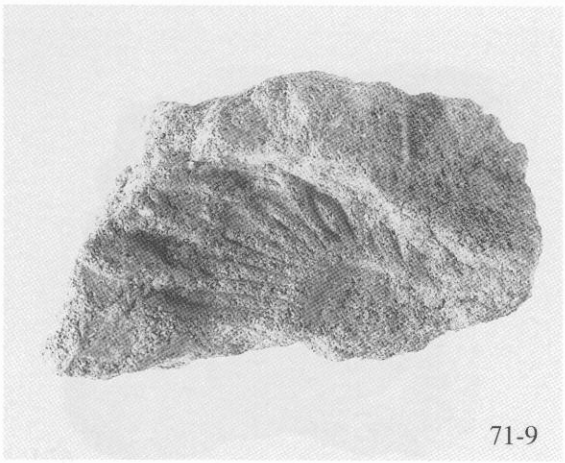


70-4

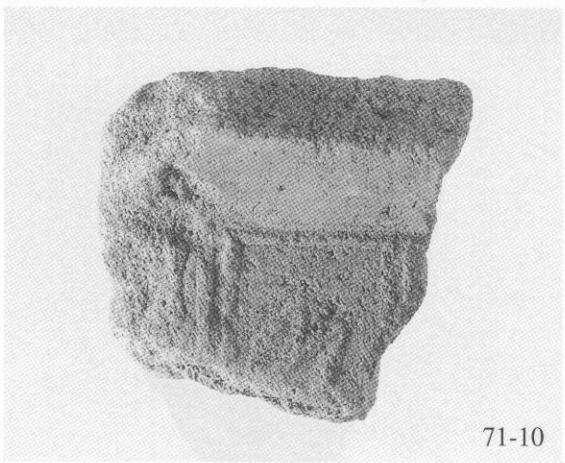


70-6（断面）

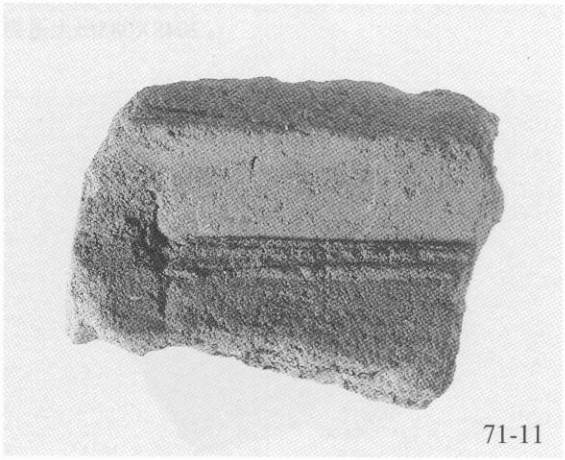
204赤茶色土出土遺物



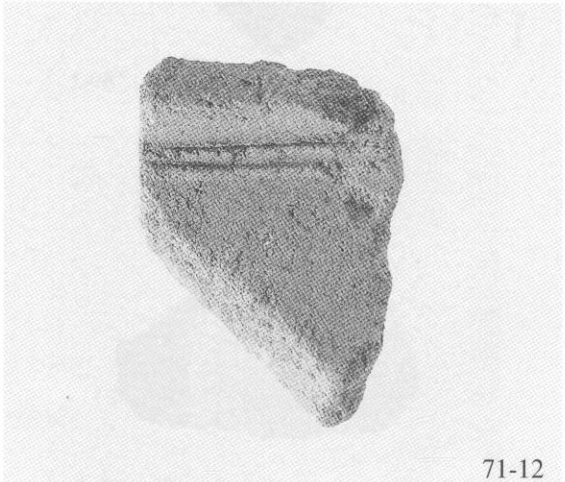
71-9



71-10

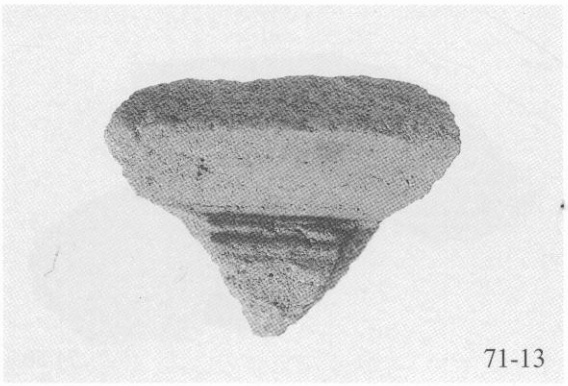


71-11

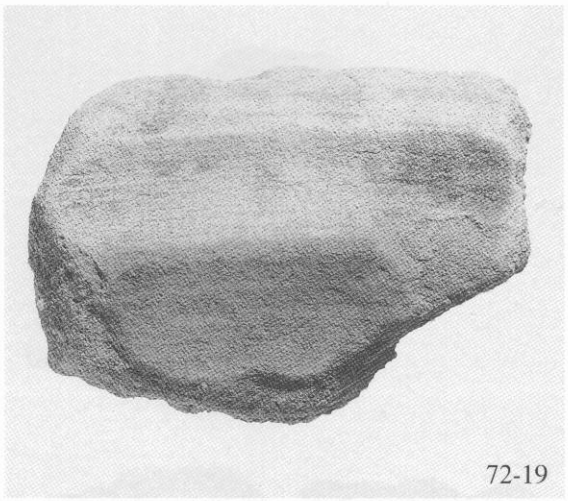


71-12

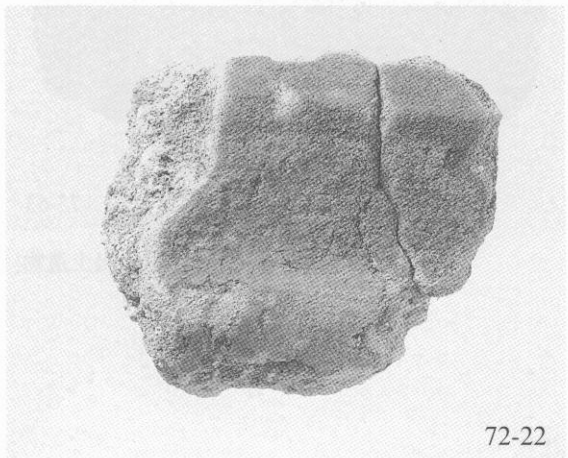
204茶色土出土遺物



71-13

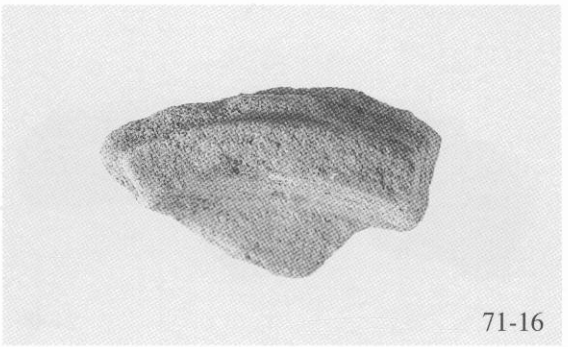


72-19

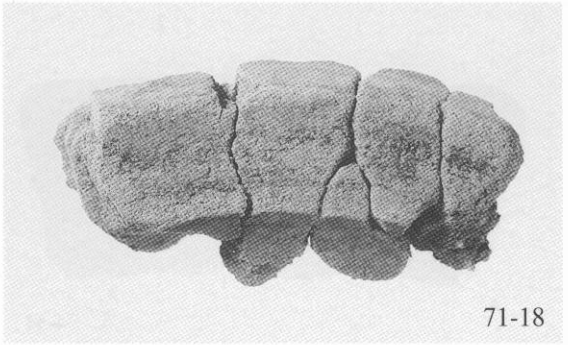


72-22

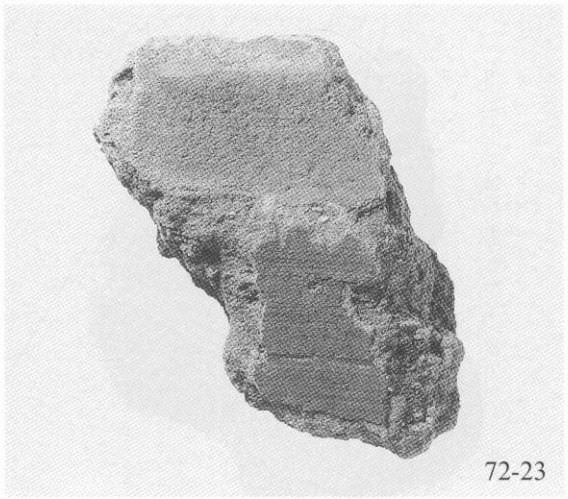
204茶色土出土遺物



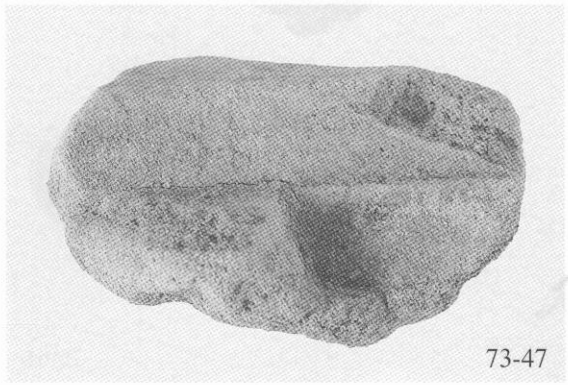
71-16



71-18

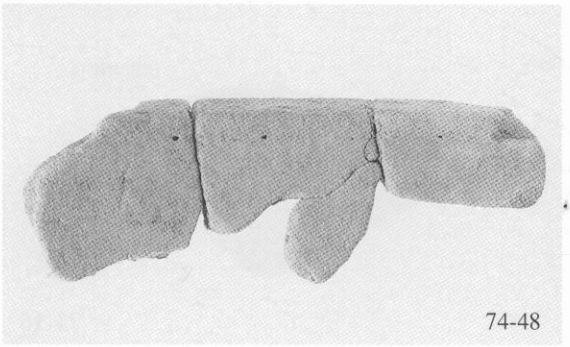


72-23

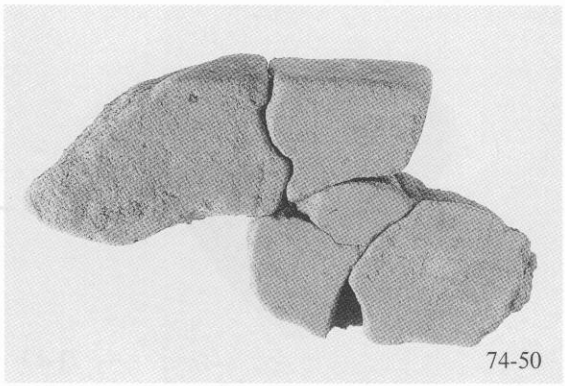


73-47

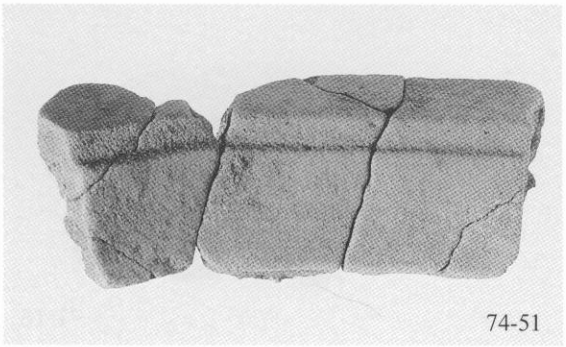
Pla.56



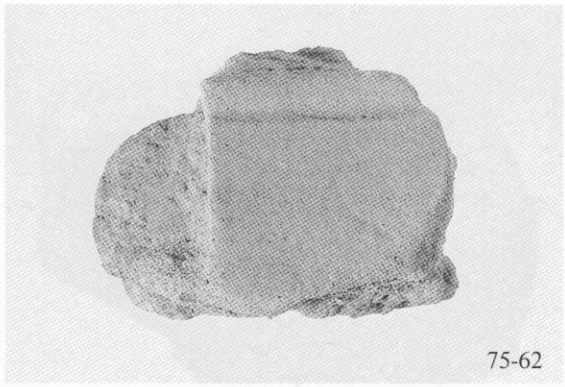
74-48



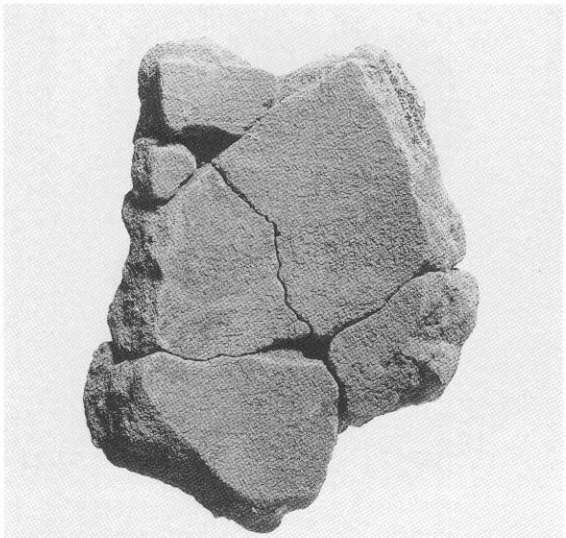
74-50



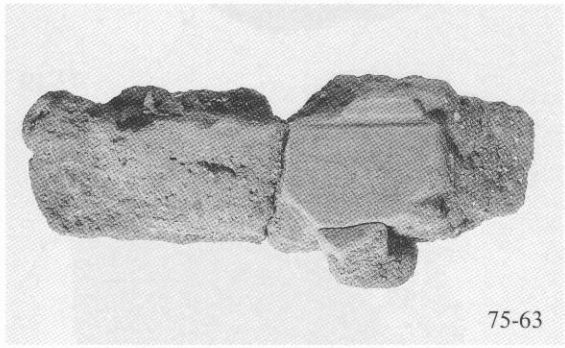
74-51



75-62

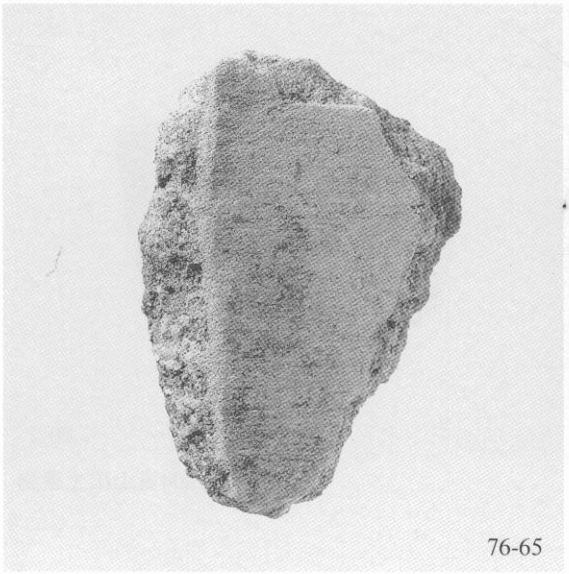


76-64



75-63

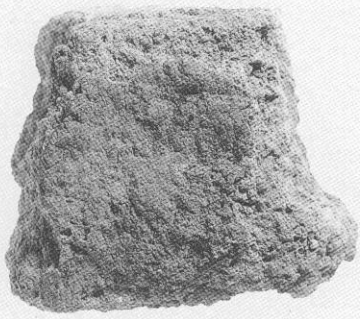
204茶色土出土遺物

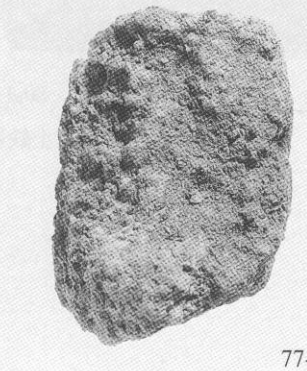


76-65



76-65（細部）





77-68



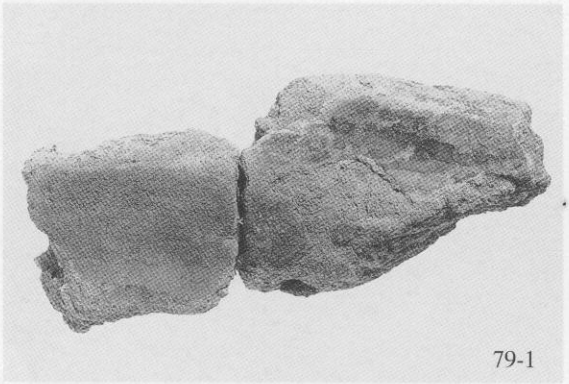
78-78（断面）



78-76

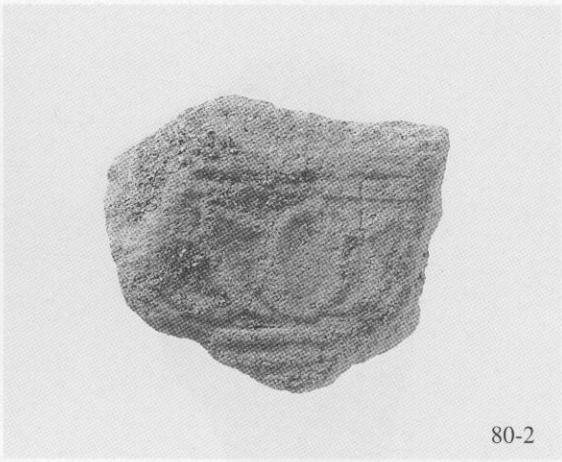
204茶色土出土遺物

Pla.58



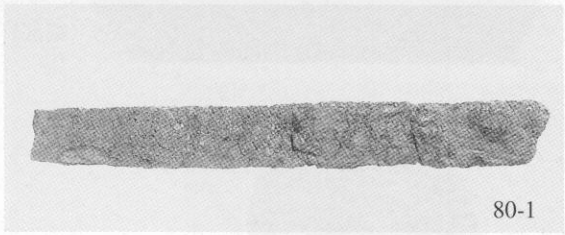
79-1

204茶褐色土出土遺物



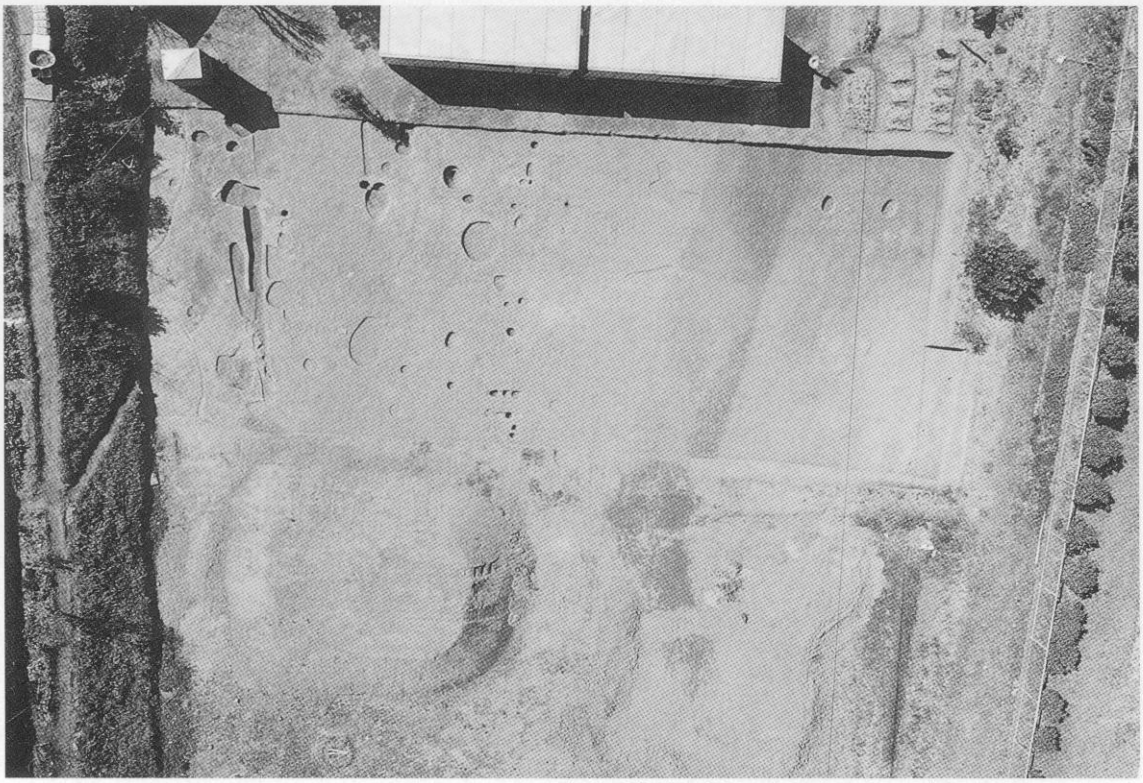
80-2

204表土出土遺物



80-1

204暗黄灰色土出土鉄器



大宰府条坊跡第208次調査　全景（空中写真、上が西）



大宰府条坊跡第208次調査　全景（南より）

Pla.60



大宰府条坊跡第208次調査　全景（上部が条47次調査地、南西より）



208SB015全景（空中写真、上が東）



208SK005土層観察（東より）

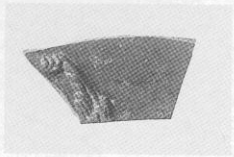
208茶褐色土出土遺物



熙寧元寶



明道元寶



鏡片？

Pla.62



大宰府条坊跡第213次調査　全景（南から）



大宰府条坊跡第213次調査　全景（東から）

太宰府市の文化財　第52集

大宰府条坊跡XVI

—「鉾ノ浦」周辺の調査—

平成１３（２００１）年３月

編集　太宰府市教育委員会

発行　〒818-0198
福岡県太宰府市観世音寺1丁目1-1

印刷　株式会社チューエツ
福岡市博多区東比恵2丁目9-1



付図　調査区全体図(S＝1/200)
『大宰府条坊跡XVI』2001 太宰府市教育委員会